2002年1月1日発行（通巻386号=毎月1日発行）昭和54年3月20日第3種郵便物認可
MFJライディング臨時増刊

MFJ
MOTORCYCLE FEDERATION OF JAPAN

http://www.mfj.or.jp

国内競技規則

2002

Motorcycle Sports Rules

ROAD RACE
MOTOCROSS
TRIAL
SNOW MOBILE
DRAG RACE

オートレース Auto Race
この国内競技規則書は、日本小型自動車振興会からオートレースの公益資金の補助を受けて制作されたものです。

さらなるスパルタンは、

スパルタンへの回帰をテーマに、ぜい肉を削ぎ落とし、鍛え上げられたニューフォルムは究極のスリムとなった。

源に求めよ。

規格は安全の目安です

Araiのスネル製品

アライ規格
＋
SNELL規格
＋
JIS規格

M2000 SNELL

RAPIDE Origin

●機種名：ラパイド-OR ●帽体：Super cLc（スーパーコンプレックス・ラミネート・コンストラクション）
●規格：スネルM2000・JIS ●内装：ハイフィッティング内装（頬パッド調節可能・特許）、フリーフロー システム（特許） ●シールド：スーパーアドシスLRS標準装備（特許） ●カラー：白、黒、アルミナシルバー、アルミナグレー、ファインレッド ●サイズ：（53-54）（55-56）（57-58）（59-60）（61-62）

¥37,000

L.R.S. ScLc

※価格に消費税は含まれていません。
※写真の商品は、印刷のため実物とは若干異なってみえる場合があります。店頭にてご確認ください。
●アライ製品については、品質管理課までお問い合わせください。直通TEL（048）645-3661
株式会社 アライヘルメット 〒330-0841 埼玉県さいたま市東町2-12 TEL(048)641-3825～7

Arai
アライヘルメットは
挑戦します。

エッジが回り込む、曲面が切れ込む——
整流効果を高めたスリムなフォルム。

■新開発、ESF（エッグシェイプド・フォルム）

空気の流れに逆らわぬようにせい肉を削ぎ落として創られたフォルムは、走行中の安定感や走行音の低減化のみならず、装着したライダーの肩から上のラインを、美しくスリムに印象づける、衝撃吸収性能、走行時の快適さ、そして着脱のしやすさなど、すべてが端正にシェイプされたエッグシェイプド・フォルム。機能を追求した結果より生まれたニューコンセプトフォルムに、Super cLc構造の剛さも加え、新しいラバイドは究極のスパルタンを手に入れた。

Super cLc躯体

デミストモード

FFSモード

■走りに合わせたモード切り替え、新設計ORスリットシャッター

アストロ系で好評を得た、選択可能なベンチレーションシステムをラバイドに搭載。シールドの曇りを防ぐ「デミストモード」と、息ごもりを解消する「FFSモード」、二つの機能を瞬時にチェンジできる。

フリーフローシステム（FFS）

WHITE　BLACK　ALUMINA SILVER　ALUMINA GRAY　FINE RED

空力特性を追求したORダクト

エアロエッジ2

躯体金型に埋め込まれたDDLダクト2

レバーリリースシステム（LRS）

SUZUKI
Power to the Future

スズキ、新バイクライフの提案

空気を切り裂くような
精緻なシリンダー・フィン。
パワーとテイストが
高次元で融合し、
乗り手の感覚は
エンジンの鼓動とシンクロする。
風のなかで研ぎ澄まされた
ライダーの五感に質実剛健な
メカニズムが語りかけてくる。

油冷という美学

油冷エンジンでしか表現できない愉悦な世界がここにある。

GSX1400

[GSX1400]●Y701・油冷・4サイクル・直列4気筒●1,401cm³●74kW〔100ps〕/6,500rpm●126N・m〔12.8kg・m〕/5,000rpm●228kg●メーカー希望小売価格¥998,000

GS1200SS

[GS1200SS]●V719・油冷・4サイクル・直列4気筒●1,156cm³●74kW〔100ps〕/8,000rpm●94N・m〔9.6kg・m〕/6,500rpm●210kg●メーカー希望小売価格¥900,000

Bandit1200S

[Bandit1200S]●V719・油冷・4サイクル・直列4気筒●1,156cm³●74kW〔100ps〕/8,500rpm●93N・m〔9.5kg・m〕/6,500rpm●218kg●メーカー希望小売価格¥848,000

Inazuma

[Inazuma]●K717・油冷・4サイクル・直列4気筒●399cm³●38kW〔52ps〕/11,000rpm●36N・m〔3.7kg・m〕/9,500rpm●187kg●メーカー希望小売価格¥619,000

●価格には、保険料・税金（消費税その他を含む）・登録などに伴う諸費用は含まれておりません。●消費税は別途計算の上、申し受けます。●価格は全て北海道・沖縄及び一部地域を除く参考価格です。詳しくは販売店にお問い合わせ下さい。※エンジン出力表示は「ps/rpm」から「kW/rpm」へ、トルク表示は「kg・m/rpm」から「N・m/rpm」へ切り替わりました。〔 〕内は、旧単位での参考値です。

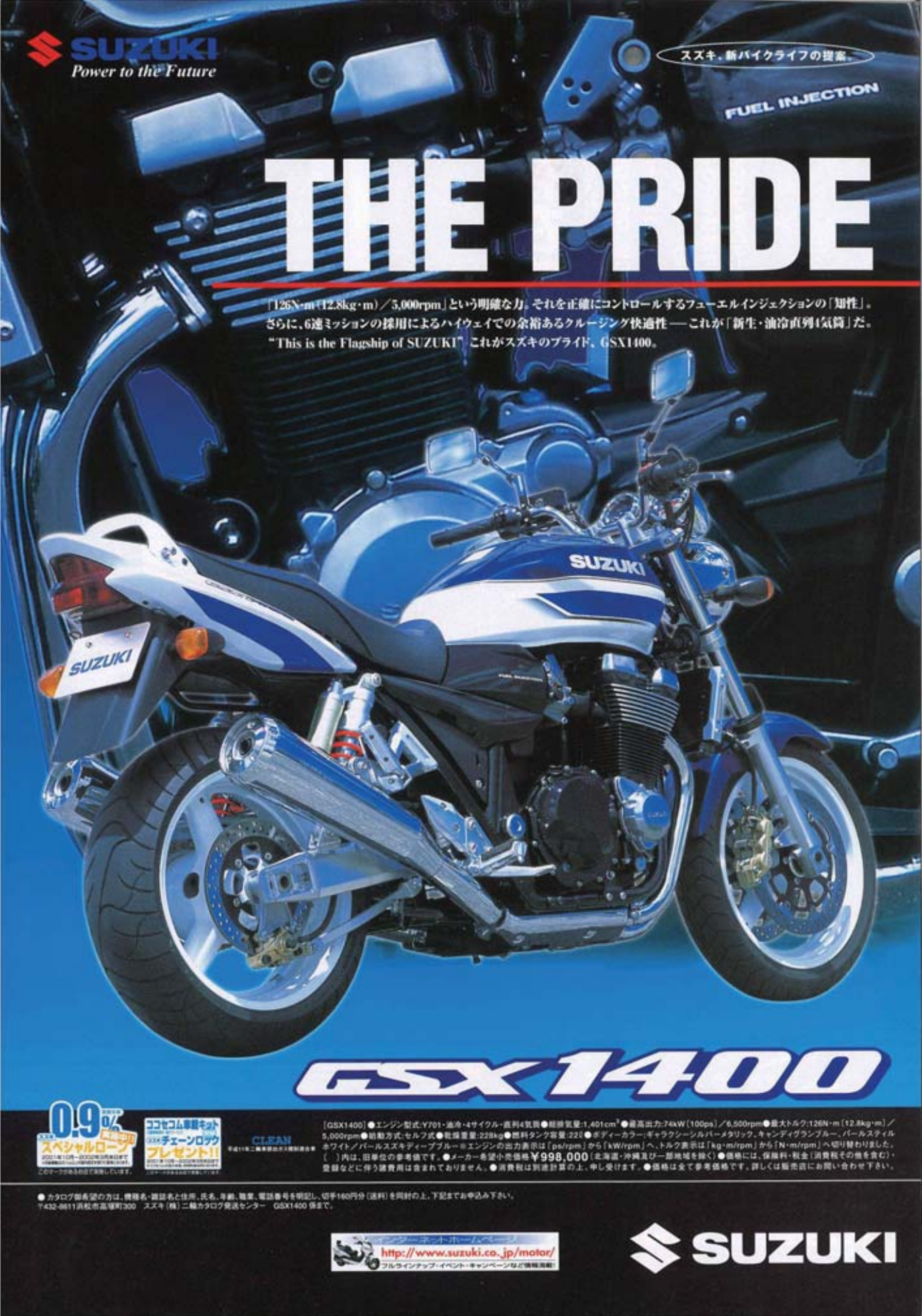
Manner UP グッドライダーは、ルールとマナーを守ります。
バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン

Good Rider 「グッドライダー・登録制」で、バイクの事故と盗難防止。

NO! やめよう、バイクの不正改造。

http://www.suzuki.co.jp/motor/

SUZUKI


SUZUKI
Power to the Future
スズキ、新バイクライフの提案。
FUEL INJECTION
THE PRIDE
「126N・m（12.8kg・m）／5,000rpm」という明確な力。それを正確にコントロールするフューエルインジェクションの「知性」。
さらに、6速ミッションの採用によるハイウェイでの余裕あるクルージング快適性 ― これが「新生・油冷直列4気筒」だ。
"This is the Flagship of SUZUKI" これがスズキのプライド、GSX1400。
SUZUKI
SUZUKI
GSX1400
0.9%
スペシャルローン
ココセコム車載キット
チェーンロック
プレゼント!!
CLEAN
[GSX1400] ●エンジン型式:Y701・油冷・4サイクル・直列4気筒●総排気量:1,401cm³●最高出力:74kW〔100ps〕／6,500rpm●最大トルク:126N・m〔12.8kg・m〕／5,000rpm●始動方式:セルフ式●乾燥重量:228kg●燃料タンク容量:22ℓ●ボディーカラー:ギャラクシーシルバーメタリック、キャンディグランブルー、パールスティルホワイト／パールスズキディープブルー※エンジンの出力表示は「ps/rpm」から「kW/rpm」へ、トルク表示は「kg・m/rpm」から「N・m/rpm」へ切り替わりました。〔 〕内は、旧単位の参考値です。●メーカー希望小売価格 ¥998,000（北海道・沖縄及び一部地域を除く）●価格には、保険料・税金（消費税その他を含む）・登録などに伴う諸費用は含まれておりません。●消費税は別途計算の上、申し受けます。●価格は全て参考価格です。詳しくは販売店にお問い合わせ下さい。
● カタログ御希望の方は、機種名・雑誌名と住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、切手160円分（送料）を同封の上、下記までお申込み下さい。
〒432-8611 浜松市高塚町300 スズキ（株）二輪カタログ発送センター GSX1400 係まで。
インターネットホームページ
http://www.suzuki.co.jp/motor/
フルラインナップ・イベント・キャンペーンなど情報満載!
SUZUKI

存在感が、違う。
ただいたずらに大きくなる必要はない。
大切なのは、扱いきれる高性能であるということ。
ビキニカウルのZRX1200R。
ハーフカウルのZRX1200S。
秘めたる情熱が、圧倒的なオーラを放つ。
2002年ニューカラー、デビュー。
ZRX1200S
ZRX1200R
ライムグリーン×ブルース
2002年ニューカラー
ZRX
1200R/1200S
バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン
Manner UP
グッドライダーは、ルールとマナーを守ります。
免許取得のお問い合わせは、このマークのある二輪販売店へおたずねください。
「グッドライダー・防犯登録」で、バイクの事故と盗難防止。
やめよう、不正改造。
正しく乗るから、バイクは楽しい。
点検・整備をしっかりしましょう。

Kawasaki
Let the good times roll.
ZRX1200R

ZRX1200R [ZRX1200S] ●水冷4ストローク並列4気筒/DOHC4バルブ・1,164cm³
●最高出力:74kW(100PS)/8,000rpm ●最大トルク:102N・m(10.4kg・m)/6,000rpm
●乾燥重量:223kg [227kg] ●カラー:キャンディサンダーブルー×パールミスティックブラック、ライムグリーン×ブルー7
[ギャラクシーシルバー×パールコスミックグレー] ●¥960,000 [¥990,000]

※[ ]内はZRX1200Sです。
※価格はメーカー希望小売価格(北海道・沖縄を除く)です。詳しくはARKにおたずねください。
※価格には保険料、税金(消費税など)、登録などに伴う諸費用は含まれません。
※KLEEN(Kawasaki Low Exhaust Emission System)とは二次エアと触媒による排出ガス浄化システムです。

KLEEN CATALYZER
二輪車排出ガス適合モデル

ARK Kawasaki
'ARK'はカワサキの正規取扱店です。
安心と信頼のお店
'ARK'でお求めください。

KAZEロードサービス開始!
KAZEに入りませんか?
Kawasaki Amusing Zone for Everybody ——— KAZE
は思う存分モータースポーツやアウトドアライフをお楽しみいただけるメンバーズクラブです。ぜひ、あなたもご入会ください。

ご入会のお申し込みはARK、またはKAZEフリーダイヤルまでお気軽に。 0120-100819

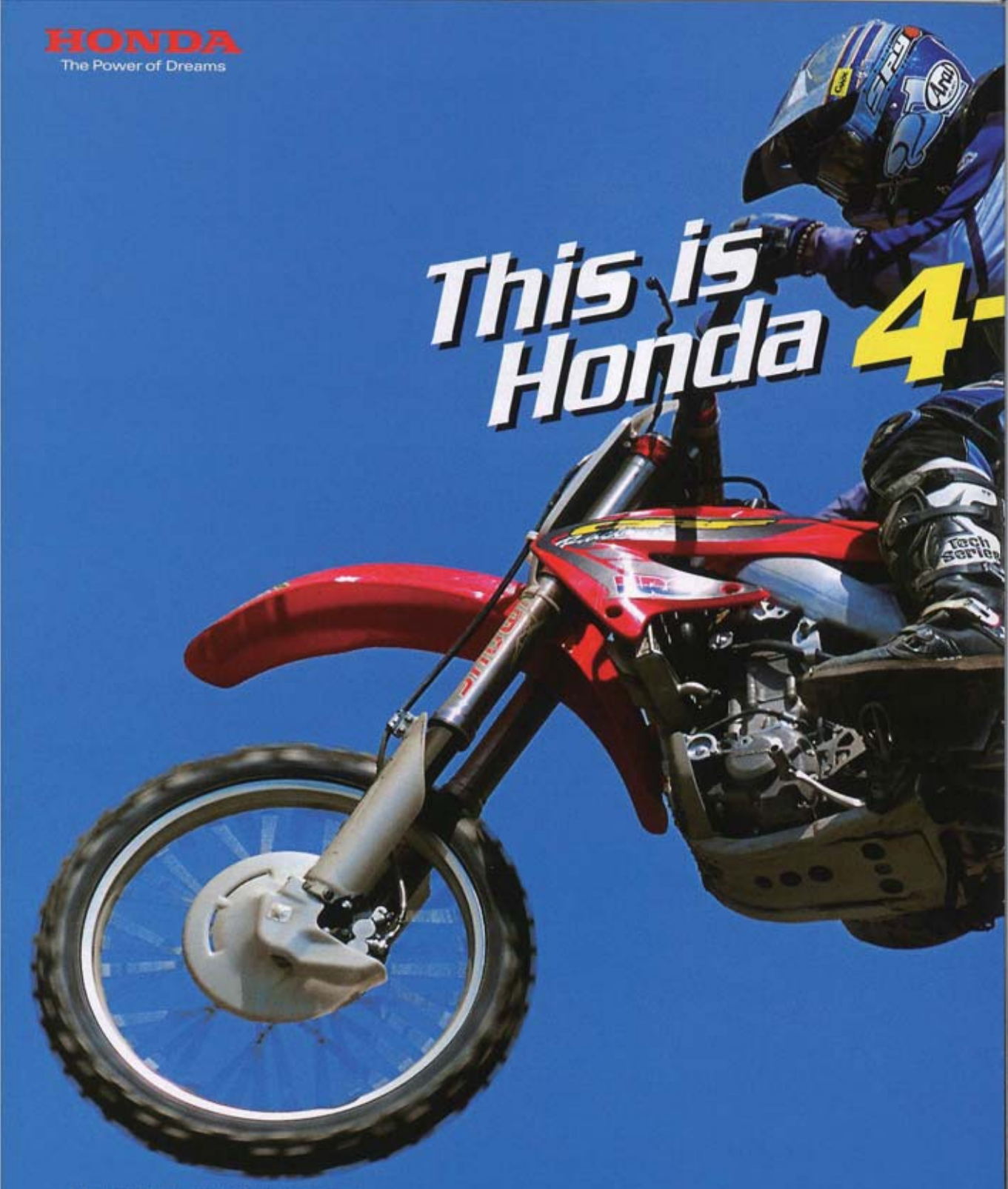
Kawasakiに関するお問い合せはお気軽に
カワサキお客様相談室 ☎078(925)2003

カタログご希望の方は機種名と住所、氏名、生年月日、職業をご記入になり、送料160円分の切手を同封して、下記までお申し込みください。
〒673-8666 明石市川崎町1-1 (株)カワサキモータース ジャパン(カタログ)係まで。

www.kawasaki-motors.com

株式会社 カワサキモータース ジャパン

HONDA
The Power of Dreams



全日本モトクロス選手権シリーズ TEAM HRC 契約ライダー 小田切 一輝

CRF 450R

CRF450R主要諸元 ●水冷4ストローク・OHC4バルブ単気筒・449cm³ ●最高出力41.0kW[55.7PS]/9,000rpm ●最大トルク49.8N·m[5.08 kg·m]/7,000rpm ●乾燥重量102kg ■車体色：エクスプロージョンレッド ■¥679,000

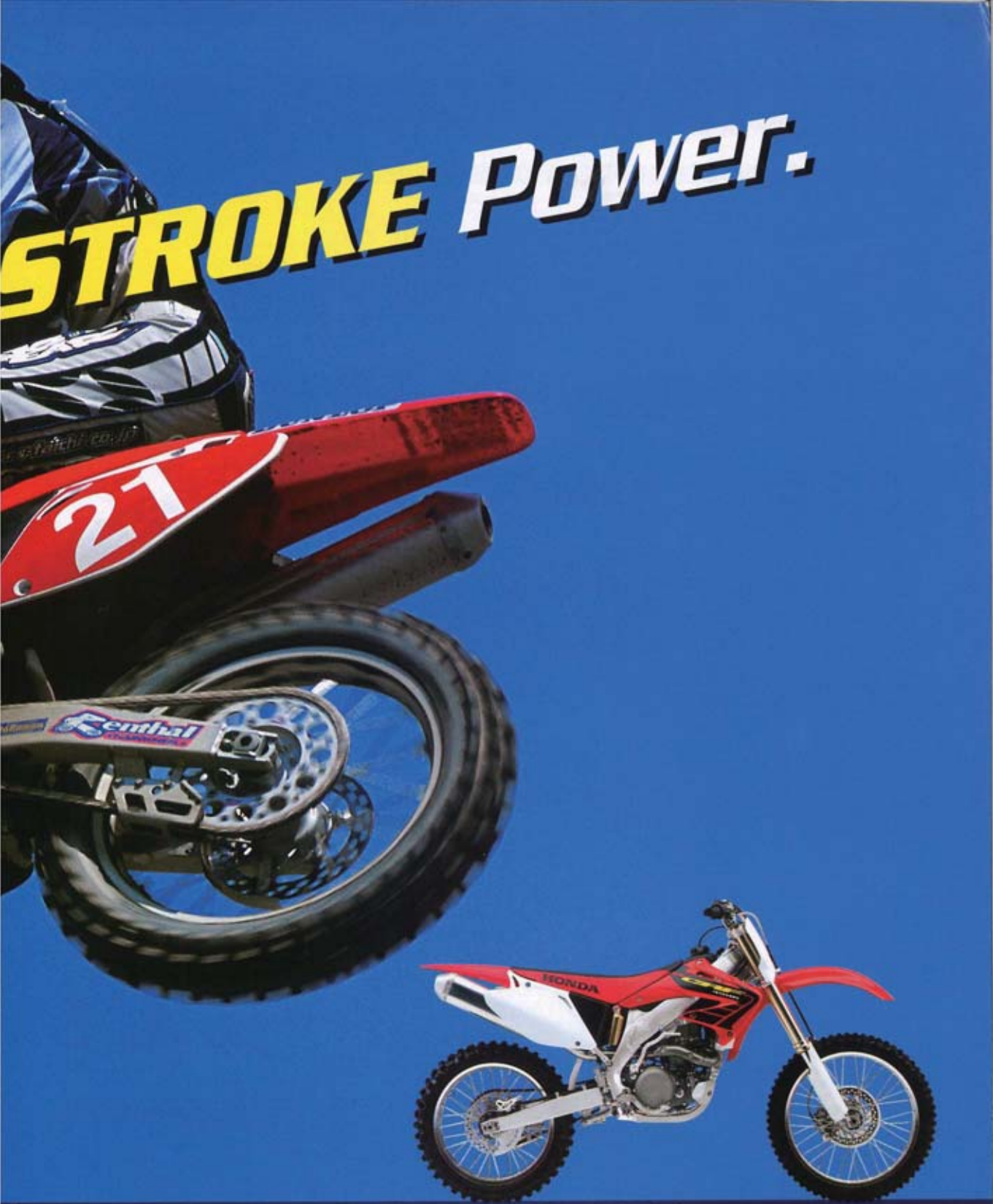
※MFJ競技規則[4ストロークモトクロッサー騒音94dB以下]をクリアする交換用マフラーと対応メインジェットを同梱しています。[出荷時は98dBのマフラーが装着されています。]※価格は、メーカー希望小売価格（北海道、沖縄および一部地域を除く）です。※価格には消費税は含まれておりません。※価格は参考価格ですので、詳しくは販売店にお尋ねください。※本仕様は予告なく変更する場合があります。※写真は印刷のため、実際の色と多少異なる場合があります。※商品写真は、輸出仕様車です。

NO! やめよう、バイクの不正改造。

BIKE NATURALIST

Good Rider 「グッドライダー・防犯登録」で、バイクの事故と盗難防止。

バイクが好きだから、
セーフティライド。



※レース仕様のため、一般交通の用に供する場所では一切走行できません。※走行場所には十分注意しましょう。公共の道路以外の場所でも、私道や林道、河原、海辺など、人や車が自由に出入りできるところは道路とみなされ、道路交通法および道路運送車両法の違反になります。※登録してナンバープレートを取得することはできません。※レース場のコンディションによって、サスペンション、キャブレターのセッティングが必要です。※ガソリンはハイオクタンガソリン、オイルはHonda純正ウルトラUを使用してください。※ピットやパドックではルールを守り、無用な空ぶかしやウォームアップ走行はやめましょう。※CRF450Rは、各地競技会の競技規則・クラス区分・車両規定によっては参加できない場合があります。競技会に参加される場合は、競技主催者に確認してからご購入、ご使用ください。※走りの写真は、プロライダーによる走行を撮影したものです。

2001 FIM ロードレース世界選手権シリーズ

ダブルチャンピオン獲得!

WGP シリーズチャンピオン 500ccクラス/ V.Rossi & NSR500
250ccクラス/ 加藤大治郎 & NSR250

WGP通算500勝達成!

第1戦日本GP初勝で3クラスを制覇し、
WGP通算500勝を達成しました。

ご声援ありがとうございました。

■お問い合わせ、ご相談はお近くのHonda二輪販売店または下記の本田技研工業(株)お客様相談センターまで。 0120-086819

二輪ホームページ www.honda.co.jp/motor/

■カタログご希望の方は、カタログ請求券と切手160円（送料）を同封し、機種名と住所・氏名・年令・職業を明記の上、〒150-8720 東京都渋谷郵便局留郵便 本田技研工業(株)カタログ係まで。また、24時間受付のFAX情報室内もご利用ください。（情報料ご無料、通話料はお客様ご負担です。）24時間 FAXインフォメーション 03-5412-2388

カタログ請求券 CRF450R/SZ

HRC商品のご予約・お問合せは下記取扱い販売店及びホンダ二輪ディストリビューター(代理店)へどうぞ。

HRCサービスショップ(2001年12月現在)

㈲クルーズ R/R
〒981-1505 宮城県角田市角田字町152
TEL.0224-62-0671

㈱ホンダスポーツ ウィリー R/R
〒982-0014 宮城県仙台市太白区大野田字下古川37-14
TEL.022-246-2619

㈲TOWNS 原町ホンダ R/R
〒981-8003 宮城県仙台市泉区南光台南2-24-3
TEL.022-251-2700

㈱ホンダウイング 荘内 T/R
〒998-0125 山形県酒田市大字広野字中通32-1
TEL.0234-92-3838

㈲ワールドツクバ R/R
〒300-3551 茨城県結城郡八千代町大字栗山字呑鯨698-3
TEL.0296-49-3136

㈲アイ.ファクトリー R/R
〒329-0202 栃木県小山市千駄塚290-6
TEL.0285-45-3373

㈱ホンダショップ 和光 R/R T/R
〒351-0101 埼玉県和光市白子2-23-11
TEL.048-461-7478

㈲エンデュランス R/R
〒350-0802 埼玉県川越市山田1726
TEL.0492-22-7770

㈱インターテック R/R T/R
〒330-0804 埼玉県大宮市堀ノ内町1-1
TEL.048-648-0244

モトライトポイント ユーギア R/R
〒271-0092 千葉県松戸市松戸1051-4
TEL.0473-61-1051

オートショップ スガハラ㈲ R/R
〒114-0002 東京都北区王子3-20-2
TEL.03-3914-7500

HONDA SPORTS MOTO BUM R/R
〒110-0061 東京都台東区谷中4-13-23
TEL.03-3831-4265

㈱桜井ホンダ R/R
〒168-0073 東京都杉並区下高井戸2-6-3
TEL.03-3325-0088

㈱城北ホンダオート R/R
〒359-0011 所沢市南永井760
TEL.0462-945-7750

㈲ハルク・プロ R/R
〒208-0003 東京都武蔵村山市中央1-36-1
TEL.0425-66-3851

㈱スーパーウイング まるやま R/R T/R
〒255-0001 神奈川県中郡大磯町高麗3-2-39
TEL.0463-34-0651

㈲ライダーズサロン 横浜 R/R
〒250-0833 神奈川県横須賀市ハイランド3-14-5
TEL.0468-48-8599

ラ・モト・KOHSAKA R/R
〒497-005 愛知県海部郡蟹江町須成1-6
TEL.05679-5-9991

ホンダワールド㈱ R/R
〒513-0825 三重県鈴鹿市住吉町6786
TEL.0593-78-1455

MITANI MOTOR SPORTS SUZUKA T/R
〒513-0824 三重県鈴鹿市道伯町2147-71
TEL.0593-70-2689

モトショップ ヨシハル R/R
〒510-0924 三重県四日市市寺方町2342-2
TEL.0593-26-7770

スーパーネッシー コタニ T/R
〒621-0826 京都府亀岡市篠町篠浅原林20-6
TEL.07712-4-6308

㈲TOM'S T/R
〒603-8163 京都府京都市北区小山南大野町3-5
TEL.075-415-1700

㈲アールエス タイチ R/R T/R
〒574-0013 大阪府大東市中垣内3-1-25
TEL.072-874-5315

㈱サイクルワールド R/R T/R
〒651-2132 兵庫県神戸市西区森友4-13
TEL.078-928-6644

ミネモーターサイクル T/R
〒654-0121 兵庫県神戸市須磨区妙法寺竹子田1039-8
TEL.078-743-5440

㈱梅木商会 T/R
〒700-0837 岡山県岡山市南中央町12-9
TEL.086-231-5031

㈲ホンダショップ ライフ R/R
〒802-0971 福岡県北九州市小倉南区守恒本町3-1-11
TEL.093-963-0800

㈱RSC R/R
〒869-1231 熊本県菊池郡大津町平川1784-1
TEL.096-293-3505

北海道

㈱オートランド 札幌 R/R T/R
〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央三条1-1-40 TEL.011-892-3323

ホンダウイング函館 R/R T/R
〒040-0015 函館市梁川町2-4 TEL.0138-56-0510

バイカーズ R/R
〒053-0005 苫小牧市元中野町4-14-12 TEL.0144-32-6310

㈲ナカガワ T/R
〒060-0806 札幌市中央区南8条西7-8 TEL.011-511-6417

ホンダ札幌販売 R/R T/R
〒064-0826 札幌市中央区北6条西26-70 TEL.011-641-5067

㈲ホンダウィング北 R/R
〒065-0026 札幌市東区北26条東21-4-1 TEL.011-784-5111

㈲オートフレンド北海道 R/R T/R
〒066-0038 千歳市信濃4-1-2 TEL.0123-22-3996

江別ホンダ㈲松村商会 R/R
〒069-0813 江別市野幌町40-9 TEL.011-383-7394

宮城

㈱ライドスポット ビバ R/R T/R
〒983-0045 宮城区宮城野2-13-32 TEL.022-256-3020

秋田

エキスパート R/R
〒013-0000 横手市石町35-1 TEL.0182-32-9911

山形

㈱ホンダウィング夢屋 R/R T/R
〒990-2481 山形市あかねヶ丘3-20-33 TEL.0236-43-3097

サイクルショップ川口 R/R T/R
〒992-0044 米沢市春日3-2-10 TEL.0238-23-6158

ホンダウィング サイトウ R/R
〒996-0091 新庄市十日町418 TEL.0233-22-1645

福島

モト・ビット・マックス R/R
〒969-1148 安達郡本宮町字荒井147-1 TEL.0243-33-3455

ホンダウィング福島 R/R T/R
〒960-0101 福島市瀬上町字[illegible]1-4 TEL.0245-53-6437

ワークスサクライ R/R
〒960-0201 福島市飯坂町[illegible]10 TEL.0245-42-3566

茨城

モトショップ ユタカ R/R T/R
〒300-4113 新治郡新治村下坂田2003-15 TEL.0298-62-4120

オートショップ大月 R/R
〒309-1453 西茨城郡友部町中央1-1-10 TEL.02967-7-6924

モトアルファ水戸 R/R T/R
〒310-0012 水戸市城東1-2-42 TEL.029-221-7270

カシマレーシング BIKE SHOP R/R
〒314-0027 鹿島郡鹿島町佐田311 TEL.0299-83-7428

栃木

宇都宮ホワイトハウス R/R T/R
〒321-0982 宇都宮市御幸ヶ原町97-3 TEL.0286-22-0921

㈲ヴァンサンク R/R
〒321-3233 宇都宮市[illegible]1314-9 TEL.0286-67-7833

モトハウス アスカ T/R
〒322-0002 鹿沼市千渡1024-18 TEL.0289-62-3838

㈲バイクショップ竹沢 R/R T/R
〒322-0026 鹿沼市茂呂923-21 TEL.0289-76-1030

㈱小林商店 T/R
〒326-0811 足利市井草町2392 TEL.0284-41-3825

大戸輪業 R/R
〒327-030317 安蘇郡田沼町大字[illegible]864 TEL.0283-62-3266

群馬

㈲モトショップ シロタ R/R
〒370-0001 高崎市中尾町456-4 TEL.0273-61-0222

㈱モトウェイ R/R
〒370-1207 高崎市綿貫町1695-4 TEL.0273-46-8440

久保田モーターサイクル R/R
〒376-0115 山田郡大間々町大字[illegible]491-1 TEL.0277-73-3427

㈱プロショップ ツツミ R/R T/R
〒370-3607 北群馬郡吉岡町小倉446-4 TEL.0279-54-5031

オートショップ金谷 T/R
〒379-2311 新田郡笠懸町阿佐美3267 TEL.0277-76-2308

埼玉

㈱サイクルロードイトー 指扇店 R/R
〒331-0077 大宮市中釘1498-3 TEL.048-622-3055

㈲金城アイビーレーシング R/R
〒341-0044 三郷市戸ヶ崎2181 TEL.0489-56-2780

オートランドTOM R/R
〒345-0043 北葛飾郡杉戸町下高野2381-1 TEL.0480-35-0819

ホンダモトロマン T/R
〒350-0133 比企郡川島町[illegible]419-3 TEL.0492-97-5959

モトショップ ノースアイランド R/R
〒350-0226 坂戸市本町11-2 TEL.0492-84-5180

モトウィング狭来 R/R
〒350-1332 狭山市下奥富613 TEL.0429-54-7467

㈲ロッカーズ R/R
〒350-1327 狭山市大字笹井432-6 TEL.042-954-6681

㈲ホワイトハウス R/R
〒351-0111 和光市下新倉1936-2 TEL.048-465-2389

㈱ゴール R/R
〒352-0003 新座市北野1-2-6 TEL.048-473-0754

メカハウス R/R T/R
〒350-1142 川越市藤間728-1 TEL.0492-43-0632

アズテック所沢 R/R
〒359-1118 所沢市けやき台1-13-12 TEL.0429-24-5211

ストラーダ R/R
〒362-0002 上尾市南89-17 TEL.0487-75-8726

AZTEC鴻巣 R/R
〒365-0062 鴻巣市箕田1872-1 TEL.0485-96-5421

㈱エヌエー埼玉営業所 R/R
〒362-0001 上尾市大字上1761-1 TEL.048-779-7979

千葉

岩内モータース T/R
〒270-0173 我孫子市青山845 TEL.0471-84-7950

㈲ホンダウィング ドリームハウス R/R
〒271-0065 松戸市南花島3-42-21 平野ビル1F TEL.0473-68-0202

越川モータース16号店 R/R
〒276-0024 八千代市勝田25-1 TEL.0474-84-2217

レーシングサプライ フクシマ R/R
〒284-0008 四街道市鹿渡[illegible]31-4-1 TEL.0434-23-1190

バイクショップスリーアングル R/R
〒264-0001 千葉市若葉区金親町1031 TEL.043-237-3637

東京

デルタオート モーティブ R/R
〒115-0052 北区赤羽北3-15-11 TEL.03-3908-8453

㈲若林製作所 T/R
〒120-0025 足立区千住東2-11-3 TEL.03-3882-7321

S.P. R/R
〒132-0014 江戸川区東瑞江2-57 TEL.03-3679-8798

㈱ヒラノモータース R/R T/R
〒133-0052 江戸川区東小岩6-34-10 TEL.03-3657-3106

㈱エイシー R/R T/R
〒152-0002 目黒区目黒本町2-4-3 TEL.03-3710-1379

レーシングサービス・カワイ R/R
〒157-0068 世田谷区宇奈根3-1-12 TEL.03-3749-4040

㈲小松屋自動輪店 R/R
〒164-0002 中野区上高田2-53-10 TEL.03-3386-1628

㈲オートショップ風 R/R
〒179-0074 練馬区春日町6-13-7 TEL.03-3998-8989

チームファニー・WINGオクムラ R/R T/R
〒179-0081 練馬区北町1-41-22 TEL.03-3932-6384

ブルーポイントワークショップ R/R
〒176-0082 練馬区錦1-34-15 TEL.03-3931-7881

㈱モトライフ R/R
〒177-0035 練馬区南田中1-22-18 TEL.03-3995-7038

モトショップユニコ R/R
〒180-0023 武蔵野市境南町2-27-5 TEL.0422-32-5900

㈱サイクルスポーツ R/R
〒180-0013 武蔵野市西久保1-3-4 TEL.0422-55-6248

プロスホンダウイングポパイ T/R
〒187-0032 小平市小川町2-1275-1 TEL.042-341-7665

ライディングハウス T/R
〒190-0021 立川市羽衣町2-27-9 TEL.0425-28-0455

テクニカルショップ ファントム R/R
〒205-0013 羽村市富士見平2-18-2 TEL.0425-54-2206

ホンダ販売寿限無 T/R
〒198-0031 青梅市師岡町4-12-18 TEL.0428-24-9032

神奈川

ホンダショップ 成田 T/R
〒211-0012 川崎市中原区中丸子776-6 TEL.044-411-4171

㈲モトガレージ・トモ R/R
〒210-0804 川崎市川崎区大島町2-7-12 TEL.044-233-2467

㈲山上輪業 R/R
〒211-0068 川崎市中原区小杉御殿町3-113 TEL.044-722-5292

㈱モトブレイク R/R
〒213-0022 川崎市高津区千年576-2 TEL.044-777-1100

石川モーターサイクル R/R
〒216-0001 川崎市宮前区野川336-5 TEL.044-754-0177

ウイングよしい R/R
〒213-0013 川崎市高津区末長12-1 TEL.044-888-9393

ホンダウイング IS(イズ) R/R
〒211-0013 川崎市中原区上平間1700 TEL.044-555-2222

㈱ビッグ・フォー R/R
〒222-0003 横浜市港北区大曽根1-25-14 TEL.045-544-4455

㈲モトワールド R/R
〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1283 TEL.045-472-6741

㈲小川プロモーション㈲モトプラザ セラヴィ R/R
〒224-0031 横浜市港北区茅ヶ崎町491 TEL.045-942-6770

㈱ホンダプラザ横浜 R/R
〒232-0053 横浜市南区井土ヶ谷下町16 TEL.045-741-3741

㈱北島商会 R/R T/R
〒228-0828 相模原市麻溝台1-2-10 TEL.0427-47-6811

モーターサイクル レミング T/R
〒228-0816 相模原市双葉2-1-1 TEL.0427-47-0882

㈲モトフット R/R
〒229-0014 相模原市若松5-20-1 TEL.0427-43-0022

㈱ワークス R/R
〒229-1122 相模原市横山4-1-1 TEL.0427-58-9190

タクミモータース橋本店 R/R T/R
〒229-1131 相模原市西橋本1-26-10 TEL.0427-72-6006

㈲エス・エム・エス北ウイング R/R T/R
〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾1-9-31 TEL.045-575-2989

㈱ウイング マサル R/R
〒237-0076 横須賀市船越5-1 TEL.0468-61-4616

ホンダウィング鎌倉 R/R
〒247-0061 鎌倉市台2-2-18 TEL.0467-46-2702

㈲エムシーライン R/R
〒250-0054 小田原市多古352-1 TEL.0465-35-0434

保田オートサービス R/R
〒252-0802 藤沢市高倉881 TEL.0466-44-2322

㈲荒木ホンダ販売 R/R
〒252-0804 藤沢市湘南台7-4-5 TEL.0466-44-6988

㈲青木輪業 R/R
〒254-0073 平塚市西八幡1-1-6 TEL.0463-21-3523

㈱杉山ホンダ F3 R/R
〒259-1332 秦野市菖蒲986-1 TEL.0463-87-5005

山梨

オートショップ シムラ R/R
〒400-0815 甲府市国玉町1058 TEL.0552-33-1754

モーターサイクル ショップいのうえ R/R T/R
〒400-0035 甲府市飯田4-11-6 TEL.0552-28-3377

ナッツカンパニー R/R
〒405-0022 山梨市上栗原914-2 TEL.05532-3-1623

OFF・ON T/R
〒407-0105 北巨摩郡双葉町下今井214-1 TEL.0551-28-4512

長野

㈲バイクボックス R/R
〒381-0045 長野市桐原1-3-34 TEL.026-243-7707

㈱ホンダショップナガノ上松店 R/R
〒380-0803 長野市三輪8-56-10 TEL.0262-35-4044

ホンダショップアサマ R/R
〒384-0000 小諸市甲字東海松1510-31 TEL.0267-23-8222

バイクショップ サイトウ R/R
〒386-0002 上田市大字住吉107-6 TEL.0268-25-3110

モータースポーツスタジオTAKA T/R
〒392-0015 諏訪市中洲5691-7 TEL.0266-58-2320

㈲原ホンダ T/R
〒395-0817 飯田市鼎東鼎94-5 TEL.0265-22-2096

モトスポット ヒラサワ R/R
〒399-4301 上伊那郡宮田村3012 TEL.0265-85-2709

新潟

長岡テクニカルレーシングクラブ R/R T/R
〒940-0064 長岡市殿町1-2-14 石田方 TEL.0258-32-3455

TDスポーツ R/R
〒943-0173 上越市富岡609 TEL.0255-24-1702

ホンダウイング高橋 T/R
〒946-0037 北魚沼郡小出町金屋113-3 TEL.02579-2-0778

モーターショップ ヤマシゲ R/R T/R
〒946-0051 北魚沼郡広神村今泉1568 TEL.02579-9-3113

モトスポーツ金沢 R/R
〒949-6424 南魚沼郡塩沢町大字[illegible] TEL.0257-83-3164

大和ホンダ R/R
〒949-7231 南魚沼郡大和町[illegible]279-8 TEL.0257-79-3021

アカミチバイクセンター R/R T/R
〒950-0872 新潟市牡丹山3-2-5 TEL.0252-75-5092

MOTO BOX R/R
〒950-0803 新潟市中興野150-2 TEL.025-273-5179

石川

グリーンサイクル T/R
〒920-0944 金沢市三口新町2-1-9 TEL.0762-22-6957

ホンダイン・金沢 R/R
〒921-8002 金沢市玉鉾2-246 TEL.0762-91-6717

富山

レッドシティー R/R
〒938-0038 黒部市新天43-1 TEL.0765-52-4886

岐阜

㈲ノースウイングJC南店 R/R
〒500-8366 岐阜市宇佐東町13-16 TEL.0582-72-8963

㈲ノースウイングJC R/R
〒502-0803 岐阜市上土居1-6-1 TEL.0582-94-4421

㈱ホンダウィングVIFO R/R
〒503-0947 大垣市浅草1-216 TEL.0584-89-5741

バイクショップTRY T/R
〒504-0941 各務原市三井町2-64 TEL.0583-83-7722

フルハウス R/R
〒507-0015 多治見市住吉町6-24-1 TEL.0572-23-8087

ホンダバイクショップ可児 R/R
〒509-0203 可児市5572 TEL.0574-62-9222

静岡

㈲エイチ・エスシー R/R
〒410-0873 沼津市大諏訪721-8 TEL.0559-24-0636

㈲ワールドカワグチ R/R
〒411-0922 駿東郡長泉町[illegible]181-4 TEL.0559-87-2460

モトハウス・スギヤマ R/R T/R
〒419-0123 田方郡函南町間宮448-4 TEL.0559-79-1426

ホンダモーター吉田販売㈱ T/R
〒420-0868 静岡市宮ヶ崎町93-6 TEL.054-255-5538

モトショップ スギウラ T/R
〒420-0934 静岡市岳美13-30 TEL.054-247-4543

㈲小泉商会 R/R
〒424-0873 清水市有東坂2-294-1 TEL.0543-45-0148

モトクラフト タカミ R/R
〒426-0061 藤枝市田沼2-19-30 TEL.0546-36-2470

マエダバイクショップ R/R
〒432-8061 浜松市入野町16101-9 TEL.053-448-2727

ホンダウイング エフロード R/R
〒434-0042 浜北市小松1006 TEL.053-586-0080

speed unlimited T/R
〒435-0051 浜松市市野町2728 TEL.053-464-5048

プロジェクトサイエンス R/R
〒433-8112 浜松市初生町269-1 TEL.053-430-0695

㈲オートランドいわた R/R
〒438-0078 磐田市中泉1618-6 TEL.0538-35-7746

㈱前島ホンダ R/R
〒418-0062 富士宮市城北町458-2 TEL.0544-26-3873

愛知

B&B 新栄舎 R/R
〒447-0057 碧南市鶴見町6-1 TEL.0566-41-2184

㈲プロト R/R
〒448-0001 刈谷市井ヶ谷町桜島5 TEL.0566-36-0405

ホンダバイクハウス オクムラ R/R
〒452-0942 西春日井郡清洲町大字清洲字中沢123 TEL.052-400-0880

モロ商会 T/R
〒453-0856 名古屋市中村区並木2-269 TEL.052-413-0022

ホンダウイング モトライヴ R/R
〒454-0927 名古屋市中川区打中1-33 TEL.052-362-1807

㈲バイクショップ ウカワ R/R T/R
〒454-0932 名古屋市中川区中島新町2-102 TEL.052-353-6664

㈱アトランタ R/R
〒455-0073 名古屋市港区川西通5-26-1 TEL.052-381-8515

スポーツプラザ イトウ T/R
〒463-0045 名古屋市守山区瀬古東町12-28 TEL.052-795-2252

㈲J.レーシングプロジェクト R/R
〒468-0058 名古屋市天白区植田西3-901 TEL.052-802-0117

●各店の主な取扱い車のカテゴリーをロードレースはR/R、トライアルはT/R記号で店名の右側に表示してあります。
●ここに掲載してある店名は2001年12月現在のものです。
●HRC市販レーサー及びパーツはレース専用ですので一般公道での使用はできません。

HRC Honda Racing

株式会社ホンダ・レーシング
〒351-0024 埼玉県朝霞市泉水3-15-1
営業ブロック直通
TEL.048-461-8781 FAX.048-469-0306

東海オートトレーディング㈱ R/R
〒470-1205 豊田市永覚町下長30 TEL.0565-21-0511

ホンダ販売はぎの R/R T/R
〒487-0013 春日井市高蔵寺町3-1-7 TEL.0568-51-0339

㈲イトーモータース R/R
〒496-0047 津島市西柳原町3-38 TEL.0567-28-5125

三重

ササキスポーツクラブ R/R
〒510-0204 鈴鹿市稲生西3-9-35 TEL.0593-86-5600

ザ・バイク・イサカ R/R T/R
〒510-0201 鈴鹿市稲生町7990-15 TEL.0593-83-3470

㈲森園エンジニアリング営業本部 R/R
〒513-0825 鈴鹿市住吉町265-17 TEL.0593-70-0090

ボデークラフト2&4 R/R
〒513-0806 鈴鹿市国府町7679-23 TEL.0593-78-1362

㈲バトルファクトリー R/R
〒513-0824 鈴鹿市道伯町2147-47 TEL.0593-70-0851

レーシングガレージ ニワ R/R T/R
〒513-0825 鈴鹿市住吉町字石薬師6722 TEL.0593-79-3343

㈲オートレク R/R T/R
〒515-0039 松阪市誠生町564 TEL.0598-51-5322

京都

バイク工房岩城 R/R
〒600-8802 京都市下京区中堂寺櫛笥町18-11 TEL.075-822-0840

オートショップサカグチ R/R
〒603-8111 京都市北区小山東元町21-14 TEL.075-492-4890

㈱ビバオート ナカムラ T/R
〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町1231 TEL.075-722-9676

㈱韋夢 R/R
〒601-1251 京都市左京区八瀬花尻町186-1 TEL.075-744-3131

モトマック R/R
〒611-0002 宇治市木幡御蔵山中26 TEL.0774-33-5454

㈱カスノモーターサイクル R/R T/R
〒612-8474 京都市伏見区下鳥羽中三町36 TEL.075-622-0225

㈱久保村モータース R/R
〒615-0807 京都市右京区西京極大丸町20-1 TEL.075-314-1501

ホンダウィング カタヤマ R/R
〒620-0061 福知山市荒河東町190-2 TEL.0773-23-7331

㈱亀岡トライアルランド T/R
〒621-0255 亀岡市本梅町西加舎大番14 TEL.07712-6-3077

石原自動車商会 R/R
〒624-0945 舞鶴市字喜多982-3 TEL.0773-76-7379

大阪

モトスポーツ グラッド T/R
〒537-0012 東成区大今里3-15-25 TEL.06-6971-6381

㈱長居モータース R/R
〒558-0002 大阪市住吉区長居西2-11-14 TEL.06-6693-5078

TECHNICAL SHOP GOLD WING R/R
〒585-0035 南河内郡河南町寛弘寺693-1 TEL.0721-93-6041

レーシングワールド R/R
〒566-0073 摂津市鳥飼和道2-8-5 TEL.0726-53-0298

㈱ニューホンダパルス R/R
〒569-0013 高槻市野田2-4-6 TEL.0726-73-2522

オーヴァーレーシングサービス R/R
〒569-0841 高槻市西面北1-1-1 TEL.0726-78-6770

御殿山二輪サービス R/R
〒573-1186 枚方市磯島北町38-6 TEL.072-840-1617

㈲ばわあくらふと R/R T/R
〒574-0025 大東市御領3-17-37 TEL.072-872-2141

ライダーズ・スクエア・ゲンズ R/R T/R
〒577-0801 東大阪市小阪2-14-13 TEL.06-6783-7250

㈱キタコ R/R
〒577-0045 東大阪市西堤本通東1-1-38 TEL.06-6783-5011

オートマック㈱ R/R
〒579-0956 東大阪市横枕西154 TEL.0729-60-0300

㈱スーパーモンキー R/R
〒579-0933 東大阪市三島元町11-64 TEL.0729-84-8995

㈱モータースポーツ ミスターヒロ R/R
〒580-0012 松原市立部2-415 TEL.0723-36-1550

ベストスポーツ R/R
〒581-0837 八尾市緑ヶ丘5-89-1 TEL.0729-96-0822

モトプレジャー R/R
〒582-0008 柏原市古町3-7-6 TEL.0729-71-8818

㈱ルーニー R/R
〒599-8251 堺市平井826-2 TEL.0722-77-1950

㈱日本ビート工業 R/R
〒591-8014 堺市八下北3-53 TEL.0722-57-7600

㈲月木レーシング R/R
〒597-0102 貝塚市木積2406-1 TEL.0724-47-1034

兵庫

㈱ホンダプラザすずらん台 R/R
〒651-1131 神戸市北区北五葉6-13-1 TEL.078-592-5388

ホンダオート・ファミリーSANDA店 R/R
〒669-1535 三田市南が丘3-23-2 TEL.0795-62-3534

スポーツコーナーマツモト R/R T/R
〒663-8013 西宮市門前町2-10 TEL.0798-63-0106

㈱ビーライン R/R
〒660-0823 尼崎市大物町1-1-15 TEL.06-6401-1011

イシイモーターサイクル R/R
〒662-0896 西宮市上ヶ原4番町2-45 TEL.0798-52-2094

㈱ユーエーエス R/R
〒663-8114 西宮市甲子園3-1-4 TEL.0798-46-1000

オートバイ屋 T/R
〒664-0001 伊丹市荒牧5-4-3 TEL.0727-83-6097

BITO R&D R/R
〒668-0822 豊岡市豊岡区之内149-1 TEL.0796-27-0429

バイクショップ エボム R/R
〒651-2412 神戸市西区竜ヶ岡3-9-8 TEL.078-967-3164

スーパープライベートR2 R/R
〒675-0000 加古川市加古川町西本町1-346-4 TEL.0794-21-0036

モトピット フジワラ R/R
〒675-0161 加古郡稲美町野寺東1-114 TEL.078-943-0119

パワーサービス イマズ R/R
〒675-0024 加古川市尾上町長田517 TEL.0794-24-2440

㈲大槻ホンダ R/R
〒678-0233 赤穂市加里屋中洲4-19 TEL.07914-2-2541

奈良

シマ エンタープライズ R/R
〒630-8452 奈良市北之庄西町1-4-6 TEL.0742-50-1077

岡山

木村商会 R/R
〒701-1351 岡山市門前350-3 TEL.08628-7-2351

㈱鶴海モーター R/R
〒704-8181 岡山市浅越757 TEL.08694-2-3617

㈱パドック R/R
〒708-0013 津山市二宮662 TEL.0868-28-3191

㈲ホンダウイング カドヤ T/R
〒708-0872 津山市平福27-6 TEL.0868-28-4600

X-LANDオガサワラ R/R
〒708-0824 津山市沼844-5 TEL.0868-23-1010

MTSS スカイピット R/R
〒709-0816 赤磐郡山陽町下市93-10 TEL.08695-5-9191

鳥取

HIRO SPORTS T/R
〒689-0325 気高郡鹿野町今市918-5 TEL.0857-84-2158

広島

ホンダオート山田 R/R
〒720-0077 福山市南本庄4-2-8 TEL.0849-22-0689

㈱バイクステーション尾道 R/R
〒729-0141 尾道市高須町5129 TEL.0848-47-0819

㈲ホンダスポット ステージワン R/R
〒730-0814 広島市中区羽衣町10-2 TEL.082-242-8191

㈲ホンダウィング ワタリ R/R
〒731-0136 広島市安佐南区長束西1-32-5 TEL.082-237-4911

㈲サガミ輪業 R/R
〒731-0137 広島市安佐南区山本1-18-17 TEL.082-874-7550

㈱ホンダクリオ広島 R/R
〒733-0053 広島市西区南観音6-15-3 TEL.082-295-1051

㈱バイクワールドエルフ R/R
〒736-0044 安芸郡海田町南堀川町1-16 TEL.082-823-3247

単車屋 T/R
〒737-0001 呉市阿賀北6-3-7 TEL.0823-72-7088

バイクハウス てらそ T/R
〒728-0006 三次市畠敷町945-1 TEL.08246-2-1715

山口

ホンダウイングR-2 T/R
〒741-0082 岩国市川西4-1-100 TEL.0827-43-5355

ケイケイ輪業 R/R
〒759-0206 宇部市大字東須恵2690-4 TEL.0836-41-8149

徳島

鳴門ホンダ二輪 T/R
〒772-0003 鳴門市撫養町南浜字東浜59-1 TEL.0886-86-3598

愛媛

松本M/Cショップ R/R
〒790-0966 松山市立花町3-1-12 TEL.0899-33-2507

福岡

㈱オートサロン永松 R/R
〒813-0004 福岡市東区松香台1-23-14 TEL.092-661-1638

ホンダショップ タジマ R/R
〒815-0073 福岡市南区大池1-9-6 TEL.092-511-3931

グランドオート ヨシムラ R/R
〒816-0844 春日市上白水150-1 TEL.092-591-2155

ホンダショップなかの屋 T/R
〒839-0841 久留米市御井旗崎1-12-6 TEL.0942-45-6650

大分

ホンダショップ大分 R/R T/R
〒870-0927 大分市北下郡字朱井1544-1 TEL.0975-69-5559

甲斐商会㈲ R/R
〒870-0025 大分市顕徳町1-13-15 TEL.097-532-0656

オートスポーツJIN R/R
〒876-0835 佐伯市鶴岡町3-1-3 TEL.0972-23-7703

宮崎

㈲モトショップウィリー R/R T/R
〒880-0043 宮崎市大字上北方24-1 TEL.0985-27-7785

鹿児島

KOレーシング T/R
〒899-1741 阿久根市大川3998 TEL.0996-74-0900

沖縄

2輪ショップ仲村 T/R
〒904-2143 沖縄市字知花1288 TEL.09893-8-8035

ホンダ二輪ディストリビューター 一覧

01年12月現在

㈱ホンダモーターサイクルジャパン	〒120-0046 東京都足立区小台1-18-3	TEL.03-3879-5261
加瀬ホンダ販売㈱	〒289-2504 千葉県旭市2-1725	TEL.0479-63-1511
茨城ホンダ販売㈱	〒306-0841 茨城県下館市二木成924	TEL.0296-24-5308
河原井ホンダ㈱	〒372-0801 群馬県伊勢崎市宮子町3034	TEL.0270-21-0211
山梨ホンダ販売㈱	〒400-0043 山梨県甲府市国母6-3-13	TEL.0552-26-3636
㈱サスナカ	〒394-0034 長野県岡谷市湖畔1-11-15	TEL.0266-22-7161
㈱ホンダ東海	〒430-0803 静岡県浜松市植松町1490-1	TEL.053-454-0111
北日本ホンダ販売㈱・本社	〒062-0051 北海道札幌市豊平区月寒東1条17-5-20	TEL.011-854-8571
㈱ホンダモーター金ヶ崎商会	〒047-0021 北海道小樽市入船1-6-19	TEL.0134-24-1376
㈱ホンダ販売旭川	〒079-8412 北海道旭川市永山2条12-1-21	TEL.0166-47-1591
帯広ホンダモーター㈱	〒080-2462 北海道帯広市西22条北1-2-13	TEL.0155-37-5211
㈱米沢ホンダ商会	〒992-0011 山形県米沢市中田町総合卸売センター内	TEL.0238-37-5055
三重スーパーカブ販売㈱	〒515-0813 三重県松阪市大塚町381-1	TEL.0598-51-5111
京都ホンダカブ販売㈱	〒602-0093 京都府京都市上京区大宮通寺之内上ル2丁目中之町406-1	TEL.075-431-2101
和歌山ホンダ㈱	〒567-0054 和歌山県和歌山市塩屋4-3-36	TEL.0734-45-5000
淡路ホンダ販売㈱	〒656-0014 兵庫県洲本市桑間534-1	TEL.0799-22-5506
播州ホンダ販売㈱	〒677-0043 兵庫県西脇市下戸田字669-7	TEL.0795-22-3376
ホンダ上田販売㈱	〒672-8071 兵庫県姫路市飾磨区構4-127	TEL.0792-31-5151
㈱山科ホンダ	〒668-0045 兵庫県豊岡市城南町20-19	TEL.0796-22-5386
泉屋商事㈱	〒780-0834 高知県高知市堺町9-19	TEL.0888-23-0111
西京ホンダ販売㈱	〒816-0097 福岡県福岡市博多区半道橋2-7-70	TEL.092-473-6811
㈱飯塚ホンダ	〒820-0067 福岡県飯塚市大字川津21-1	TEL.0948-24-1101
村上ホンダ販売㈱	〒851-0134 長崎県長崎市田中町581-3	TEL.0958-37-8421
㈲阿部輪業商会	〒882-0055 宮崎県延岡市山下町3-12-12	TEL.0982-33-4681
㈱ホンダ竜美	〒894-0036 鹿児島県名瀬市長浜町4-1松元ビル1F	TEL.0997-53-3311
㈱桑原モータース	〒745-0845 山口県徳山市河東町9-10	TEL.0834-31-5000
沖縄ホンダ㈱	〒901-2103 沖縄県浦添市字仲間1-3-1	TEL.098-878-2409

HRC情報

HRC市販レーサー
2003年モデルは2002年7月発表予定。
発表時期が来ましたら、上記販売店・ディストリビューターにお問い合せ下さい。

NSR Mini・NS50R

予約期間：平成14年3月〜4月末　販売価格：NSR Mini 265,000円
発売時期：平成14年8月　：NS50R 198,000円

レースベース車販売のご案内
・CBR600F4iレースベース車（発売中）
・CBR954RR JSBレースベース車（2002年春発売予定）
・VTR1000SP-2 JSBレースベース車（2002年春発売予定）
ご注文、お問い合せは上記販売店へ
※各レースベース車は、ホンダモーターサイクルジャパン及び各ホンダ二輪ディストリビューター取扱い商品となります。

HRC販売商品ご案内
車両：NSR500V・RS250R・RS125R・NSR Mini・NS50R・RTL250R
KIT：VTR1000SP-1/2・CBR600F/F4i・Dream50
：XR400R/650R
詳細は、HRCホームページでどうぞ アドレスhttp://www.honda.co.jp/HRC

「ライダーのポテンシャルを最大限に引き出せる、しなやかなシャーシ」をコンセプトに開発。

モトクロッサーのシャーシというのは、大ジャンプの着地の衝撃に耐える強度を持ちながら、コーナリング時のライダーの挙動に対して適度なしなりを生み、また、サスペンションでは吸収しきれないギャップのあたりを吸収するというような「万能選手」的な性格を要求される。

フレーム

～SOLID FEELING（ソリッドフィーリング）～

しっかり感はありながら硬さが無くて、いいフィーリング

縦方向にはしなるけれども、安定感はしっかり確保するというコンセプトで開発。メインパイプに従来の丸パイプに対し、02モデルでは楕円断面のパイプを採用。これによりメインパイプの断面性能を縦方向のみ30%ダウン。また、メインパイプは、ヘッドパイプとクッションブラケットの間を湾曲して繋ぎ、見た目はそれほど変わらずとも、十分に縦方向の剛性を落とすことに成功している。しかし、縦方向の剛性を落としただけでは弱いだけのフレームになってしまうので、しなった時の横方向の振られを抑える狙いで、ダウンチューブのサイズをワンサイズアップし、ガゼットヘッドパイプ幅を広げるなどして、横方向と捩じり方向の剛性をアップさせている。更にフレームをしならせる設定にするために、しなる部分の根元の曲げ応力に耐えられる「高強力材」という強度の高い材料を使用。この結果、01モデルに対し縦剛性10%ダウン、横剛性15%アップ、捩じり剛性10%アップという剛性バランスのフレームを作る事に成功した。
（YZ250・YZ125に採用）

リアアーム

～狙いの剛性確保と軽量化の両立のために～

ハイドロフォーミング工法

フレーム同様、縦方向にはしなりを持たせながらも、安定感は確保するというコンセプトにプラスして、バネ下部品の為、軽量化を行い、追従性・トラクションの向上をコンセプトに開発。ピボット部から遠くにあるエンド部を軽量化する事により慣性モーメントを減らし、且つアーム根元の剛性、強度を確保させる為にアームのテーパー率をこれまで以上に上げる必要にせまられる。そのアームテーパー率を実現する為に02YZが採用した工法が、新しい工法として話題の「ハイドロフォーム」である。この成形方法は押し出しのパイプ材を型にセットして、型締めした後、両側から材料を押し込みながら、内側から水圧をかけて材料を膨らませるため形状・肉圧をコントロールできる成形方法である。（アルミのハイドロフォームは量産例がほとんどない）これにより、これまで以上の大きいテーパー率を実現し、01モデルに対し縦方向は10%のダウン、横方向の剛性は30%アップという剛性バランスとなり、軽量化との両立を達成。安定性、トラクションの良さを高いレベルで作り込む事に成功している。
（YZ250・YZ125・YZ250F・YZ426Fに採用）

YZ

BLUE IS FAST

ライディングポジション

～ライダーのポテンシャルを最大限に引き出すために～

乗ってすぐに体感できる

「ライダーのポテンシャルを最大限に引き出す」という意味で02モデルはライディングポジションが大きく進化。シート前傾を下げて、コーナー進入時などの前への体重移動の自由度を大幅にアップし、また3次元的にも体重移動をスムーズにする形状に作り込んで、フロントの接地感を向上させている。更にライダーの重心を下げる目的でフートレスト位置を5mm下げて、ハンドル形状も125、250で仕様を分けるなど、より最適なポジションを実現させている。
（YZ250・YZ125に採用）

ヤマハオーナーのための楽しいクラブ
Club YAMAHA MOTORCYCLE
0120-319-813 入会受付0120-(通話無料)

75 mph.
BSデジタル放送でNOW ON AIR!
BS-i
放送日：毎週日曜日 後 10:55～11:00
再放送日：毎週水曜日 後 11:55～12:00

バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン
「グッドライダー・防犯登録」で、バイクの事故と盗難防止。

www.yamaha-motor.co.jp

インターネットホームページ http://www.yamaha-motor.co.jp/
YAMAHA
ヤマハ発動機販売株式会社
〒438-0016 静岡県磐田市岩井2000-1

ファクトリーマシン〈YZR〉の技術をフィードバックした2002年モデル〈TZ250〉

"ファクトリーマシン同等の戦闘力の具現化"という明確なコンセプトをもとに2002年モデルの開発が進められた〈TZ250〉は、操縦安定性の向上を通じ市販レーサーとしてのポテンシャルアップを図りながら、GPロードレースを走るファクトリーマシン〈YZR〉の技術を随所に反映。エンジン関連では、性能パーツの仕様変更に伴った加速性能向上、最高速度安定化、低速域性能向上などを達成している。その他、細部にわたる仕様変更で性能アップが図られた制動性や操縦安定性は、勝利という、そして更なる上を目指すライダーのモチベーションを高めるに違いない。

新設計軽量ピストン採用等、細部仕様変更の相乗効果による加速性能向上・最高速安定化

砂型クランクケース採用水冷2ストロークVツインエンジンは、現行モデルの構成を継承しつつ、一層の性能向上を図るため細部を変更。【新設計軽量ピストン】【左側エキパイ仕様変更】【点火特性およびソレノイドデューティ比特性変更】等を行ない、その相乗効果が加速性能および最高速安定化を達成している。

TMXχキャブレターの仕様変更による低速域性能アップ

加速性能・最高速安定化を達成した変更点との最適バランスを図るため、TMXχキャブレターは低開度域（全閉～1/8）での混合気通路となる【パイロットアウトレットの位置を変更】、加えてセッティング変更を行なうことで、低速域性能向上とセッティング容易化を図っている。

前輪ブレーキに採用されたラジアルフィキシング化設計の新キャリパー

YZRと同タイプの【ラジアルフィキシング化（ラジアル配置）設計を行なった新キャリパー】を前輪ブレーキに採用。制動時のトルク集中を分散できることから、取付け剛性アップが可能となり、ブレーキング時の安定性・コントロール性の向上を達成。また、アジャスト範囲の最適化を図るためブレーキレバーのセット範囲を変更している。（マスターシリンダーアッシー変更）

更なる性能向上を追求した仕様変更

【フロントタイヤサイズ変更（3.10/4.80-17→120/60R17）】【ステアリングダンパー前側取付け構造変更による信頼性向上（ボン&クリップ→ピロボール化）】【リヤサスペンション減衰力特性変更】【3～6速レシオ変更（4～6速はミッション新作によるバリエーション追加）】等を行なった。

TZ250

■全長×全幅×全高	1,955mm×650mm×1,083mm
■軸間距離／シート高／最低地上高	1,342mm／788mm／112 mm
■半乾燥重量	102kg
■エンジン種類	2サイクル・水冷・クランク室リードバルブ
■気筒数配列	V型2気筒
■排気量	249cm³
■最高出力	67.7kW（92ps）／12,250r/min
■最大トルク	53N・m（5.4kgf・m）／11,750r/min
■変速機形式	リターン式6段

●TZ250は、国土交通省の認定を受けていませんので、ナンバープレートを取得することはできません。●TZ250は道路を走行しますと、道路交通法及び道路運送車両法の違反となります。●私道、社寺の場合、公園、海辺、堤防上、農道、林道など、いわゆる道路の形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、道路とみなされます。走行場所には十分注意してください。

ヤマハオーナーのための楽しいクラブ
Club YAMAHA MOTORCYCLE
0120-316-819

75 mph.
BSデジタル放送でNOW ON AIR!
BSフジ
放送日 毎週日曜日 10:55～11:00
再放送日 毎週水曜日 11:55～12:00

インターネットホームページ http://www.yamaha-motor.co.jp/

バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン

「グッドライダー・防犯登録」で、バイクの事故と盗難防止。

www.yamaha-motor.co.jp

YAMAHA
ヤマハ発動機販売株式会社
〒438-0016 静岡県磐田市岩井2000-1

FUJI SPEEDWAY

あなたのトライを、待ってます。

スポーツ走行ライセンス講習会のご案内

◆講習日　土・日・祝日（レース開催の週は予選日の前日）
◆受付時間　9:00～10:00（当日コントロールタワーで受け付け）
◆講習時間　10:00～12:30（講義のみ希望者は体験走行付）
◆必要なもの　①受講料　20,000円　②運転免許証（公安委員会）③印鑑
④証明写真1枚（3×3cm）　⑤筆記用具
⑥血液型（各自受講前までに必ず調べておく）
◆注意事項　16歳未満で2輪講習会をご希望の方は、MFJ・MCFAJライセンス所持者で承認レース以上のレース経験のある方（要証明書提出）に限らせていただきます。但し、講習会に親権者の同伴を条件とさせていただきます。（親権者は、身分の証明できるものを提出していただきます。）免許証をお持ちで20歳未満の方は、所定の誓約書に親権者の署名捺印が必要となります。
◆お問合せ　FISCOライセンス事務局
電話0550-78-1233　ファックス0550-78-1900
※2002年初より、優待会員制度を設定する予定です。
詳しくは、年初より弊社ホームページに、ご注目ください。

2002 富士プロダクションバイク選手権開催要項

NPは排気量でNP-MとNP-0に分かれ、エンジン、フレーム、キャブレター、ガソリンタンク、ラジエーター、ホイールが車両出荷時の物で、タイヤはSPタイヤの車両。

MPはオープンクラスで2スト125、4スト250以上の車両でクランクケース、フレーム、ガソリンタンクが車両出荷時のものであること。
（但し、NK-4を除き、フレーム補強は可能とする。）

体験走行のご案内

◆走行日　レース/イベント開催日、定休日を除く毎日12時～
◆料　金　1回1台¥2,000（2輪、4輪）記念ステッカー付き
◆受　付　当日11:00～12:00まで。
◆内　容　ペースカー先導により、国際レーシングコースを3周まわる。
※ご自分の乗用車、オートバイで気軽にご参加下さい。

2002年 富士 サタデーロードレース開催スケジュール

日程 ＼ 開催クラス		関東チャレンジカップロードレース選手権シリーズ			FISCOロードレース選手権シリーズ						
		SR/S-NK/SS600/ST600	GP250	GP125	GP250	GP125	SP400 / SP250	N-NK / NK-4	STOCK	NP-M / NP-0	MP
3月30日（土）	Rd.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6月 8 日（土）	Rd.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7月20日（土）	Rd.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9月28日（土）	Rd.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

FUJI SPEEDWAY

富士スピードウェイ株式会社
本　社　〒102-0074　東京都千代田区九段南2-3-18　TEL.03-3556-8511　FAX.03-3556-8518
コース　〒410-1308　静岡県駿東郡小山町大御神　TEL.0550-78-1234　FAX.0550-78-0205
URL　http://www.fujispeedway.co.jp

DENSO
SPARK PLUGS

Wilco Zeelenberg :
DEECEE Schenker BLT
'99 WSS Rd.4 MONZA 優勝

0.4mm IRIDIUM
世界初 0.4mmイリジウム合金中心電極
※2001年12月現在

杉山貴英：A-Project RT
'99 ジャパンランプリ準優勝、ワールドカップ5位
現在トニーカート・ワークスに所属し、欧州で活躍中

PLATINUM
オールプラチナ接地電極

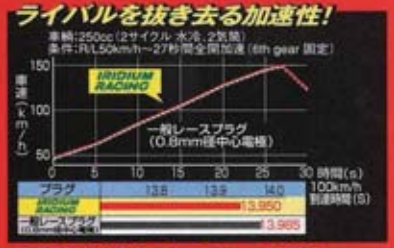
川崎哲哉：HKS
'96、'97 BERC ドラッグレース
プロストッククラスチャンピオン

勝利のプラグ!!

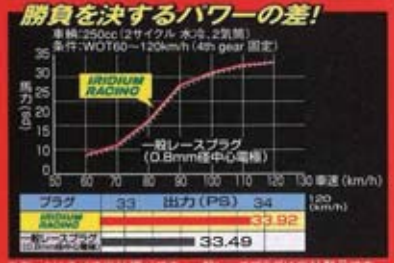
IRIDIUM RACING

チューニングプラグを変えたイリジウムパワー。
そして今、熱き要望に答えイリジウムレーシング、デビュー。
中心電極には世界初の0.4mm径イリジウム合金中心電極を、
接地電極にはオールプラチナ電極を採用し、
碍子部はシリコン塗布によりかぶりを防御。
その結果として高性能と高信頼性を実現しました。
イリジウムレーシングで GET WIN!

ライバルを抜き去る加速性!



勝負を決するパワーの差!



※データはすべて当社調べです。一般レースプラグは当社製品です。

品番一覧表

ネジ径	リーチ	六角	型式 (熱価□)	設定熱価	NGK 対照型式
10	19	16	IU01-□	24、27、31、34	R016
10	19	16	RU01-□※	27、31、34	R0045
12	19	16	IXU01-□	24、27、31、34	R216
14	19	21	IW01-□	24、27、29、31、32、34	R6385P
14	19	21	IWM01-□	29、31、32、34	R6179A-P
14	19	21	IRE01-□	27、31、32、34、35	R6725
14	19	16	IK01-□	24、27、31、35	R7117
14	19	16	IK02-□	24、27、31	R7119
14	19	16	IQ01-□	24、27、31、34	R7237
14	19	16	IQ02-□	24、27、31	R7239
14	22	16	IA01-□	31、32、34	R6120A

※RU01-□タイプはイリジウム中心電極ではありません。
※イリジウムレーシングはレース、チューンナップ用に適しており、チューニングレベルに合わせた熱価 (□) のプラグをお選びください。
※ご購入の際には販売店で製品の適応車種をご確認ください。

エンジン性能を 大きく引き出す新世代高性能プラグ
IRIDIUM POWER
好評発売中

株式会社 デンソー
お問い合わせ先 TEL (0566) 25-6724 受付時間10:00～12:00,13:00～16:00 (土、日、祝日を除く)
インターネットアドレス http://www.denso.co.jp/PLUG
カタログご希望の方は官製ハガキに、住所、氏名、年齢、職業を明記の上、カタログ請求券を貼付し下記までご送付ください。
〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1 (株) デンソー 営業2部 補修品G

MFJ規則書 02/02

●プレーンモデル:ロイヤルブルーメタリック、ミストシルバー、レドングレーメタリック、ブラック、ホワイト 各49,000円
●グラフィックモデル:CRIVILLE2、NORICK2 各59,000円

●ヘルメットの機能を最大限に生かすためにあごひもはしっかり締めましょう。

●安全確保のため改造しないでください。●総合カタログご希望の方は郵便切手120円を添えて本社までお送りください。●商品は改良のため予告なく仕様変更することがあります。●部品、修理、その他ご要望ご質問等は最寄りの支店サービス課までお問い合わせください。●SHOEI 本社・東京支店／〒110-0005 東京都台東区上野5-8-5 CP10ビル7F TEL(03)5688-5185
大阪支店 TEL(06)6387-8123 ホームページアドレス http://www.shoei.com ※Internet Explorer 5.0以上をお使いの方はshoeiを入力してenterキーでアクセスできます。

Try!
ぜひ、お店で!

BRIDGESTONE
A GRIP ON THE FUTURE
このグリップは、サーキットからの挑戦状。
NEW BATTLAX
BT-090
▶ミドルクラスSPレース専用に開発したコンパウンド。
▶バンク時のペタッと路面にはりつく接地感。
▶スリックライクなベイズリー・パタン。
RACE TYPE
BATTLAX BT090
BT-090 Front Rear Rear
SS600、ビックバイクレースで
勝つために開発した、レース専用タイヤ
Front BT-001
※BT-001はプロダクションレース等、サーキット使用に限定して販売いたします。
お買い求めの際はサーキットのブリヂストン・タイヤガレージにお問い合わせ下さい。

Kamitsue
AUTO POLIS

〒877-0312大分県日田郡上津江村上野田1110-12
TEL:(0973)55-1111 FAX:(0973)55-1113

4.674mの誘惑。

6/8(土)〜9(日) 九州初上陸!!

2002年全日本ロードレース選手権開催

2002年度ロードレースサウスエリア選手権開催日程:5/5(日)・9/8(日)
(GP125/GP250/SB・S・NK・JSB/ST600)

国際格式参加型サーキット:**オートポリス**
コースライセンス会員募集中!!
新規20,000円/更新15,000円
[写真入クレジットカードタイプのNEWライセンスカード発行]
スポーツ走行 土曜平日 2,000円/30分
日曜祭日 3,000円/30分

SIGNAL FLAGS 公式シグナル(シグナル旗およびシグナル)

旗の種類	旗の意味 ロードレース	旗の意味 モトクロス
国旗	レーススタート (通常シグナルで示す)	レーススタート (スターティングマシンで行う場合ある)
黄旗 静止	※ロードレースは全て振動	危険予告・減速
黄旗 振動	危険予告 コース上(ランオフエリア含む)に危険がある。減速・停止準備・追い越し禁止	危険予告・徐行・停止準備・安全確認・追い越し禁止
白旗 振動	この先にスロー走行する車両、救急車等の介入車両がある。追越し禁止。	
赤ストライプ付黄旗	コース表面が滑りやすい状態	
緑旗	コースはクリアである。予選などの一周目に提示される。黄旗が出されたあと次のポストで提示される。(追い越し禁止の解除)	
赤旗	レースまたはプラクティスが中断され、すべてのライダーは最大限の慎重さと注意を持ってそれぞれのピットに戻る。サーキットを閉鎖する場合にも用いる。	全ライダー停止
レッドクロス旗	ペースカー介入によるレースの非競技化(注意・減速・追い越し禁止)	

旗の種類	旗の意味 ロードレース	旗の意味 モトクロス
黒旗+白文字のサインボード I	サインボードで示された番号の競技車両は速やかにピットインする。	サインボードで示された番号の競技車両は速やかにピットインする。
黒旗+黄字にPの文字の付されたサインボード PI	サインボードで示された番号の競技車両は、速やかにピットインし一旦停止のペナルティを受ける。	
オレンジボール/黒字地にオレンジの円(直径40cm)の旗 3	提示されたゼッケンナンバーのライダーに対して彼のマシンが、彼もしくは他のライダーに危険をおよぼすような問題に見舞われており、早急にコース上から退去しなければならない事を知らせるものである。	
青旗 静止	追い越しシグナル。1台またはそれ以上のスピードの速いマシンが追い越そうとしている。	
青旗 振動	追い越される直前	警告、ラップされようとしている。
チェッカー旗	レース終了	レース終了
青旗+チェッカー	・トップライダーはゴール ・トップライダーの直前を走るライダーはゴールではない。	

レースナンバープレート (ナンバープレート色見本)

ロードレース タテ235×ヨコ285mm

- 12 GP125
- 90 SB
- 34 GP250
- 25 JSB1000
- 56 SP
- 19 ストックバイク
- 78 SB耐久

注:タテ×ヨコの数字はナンバープレートの寸法。数字の書体は、FIMの指定に基づくMFJの正規ものである。

モトクロス タテ235×ヨコ285mm

- 12 ジュニア
- 78 国際A級(125cc)
- 34 国内B級/レディス
- 90 国際A級(250cc)
- 56 国内A級
- 21 国際B級

トライアル タテ150以上×ヨコ175mm以上

- 31 ジュニア
- 64 T.NIPPON 国際B級
- 41 国内B級
- 75 T.NIPPON 国際A級
- 53 国内A級
- 8 T.NIPPON 国際A級スーパークラス

ヘルメットのMFJ公認マーク

- ロードレース・モトクロス特認
- ロードレース用・モトクロス用
- トライアル用・ツーリング用

※MFJ公認ヘルメットでMFJ公認マークが貼付されていないヘルメットは、特別検査料(1,000円)を支払い、特別検査を受けなければならない。

レーシングスーツのMFJ公認マーク

MFJ STANDARD

※使用するレーシングスーツには、MFJ公認マークが付いていなければならない。

ラジアルデルタが、走りを変える。

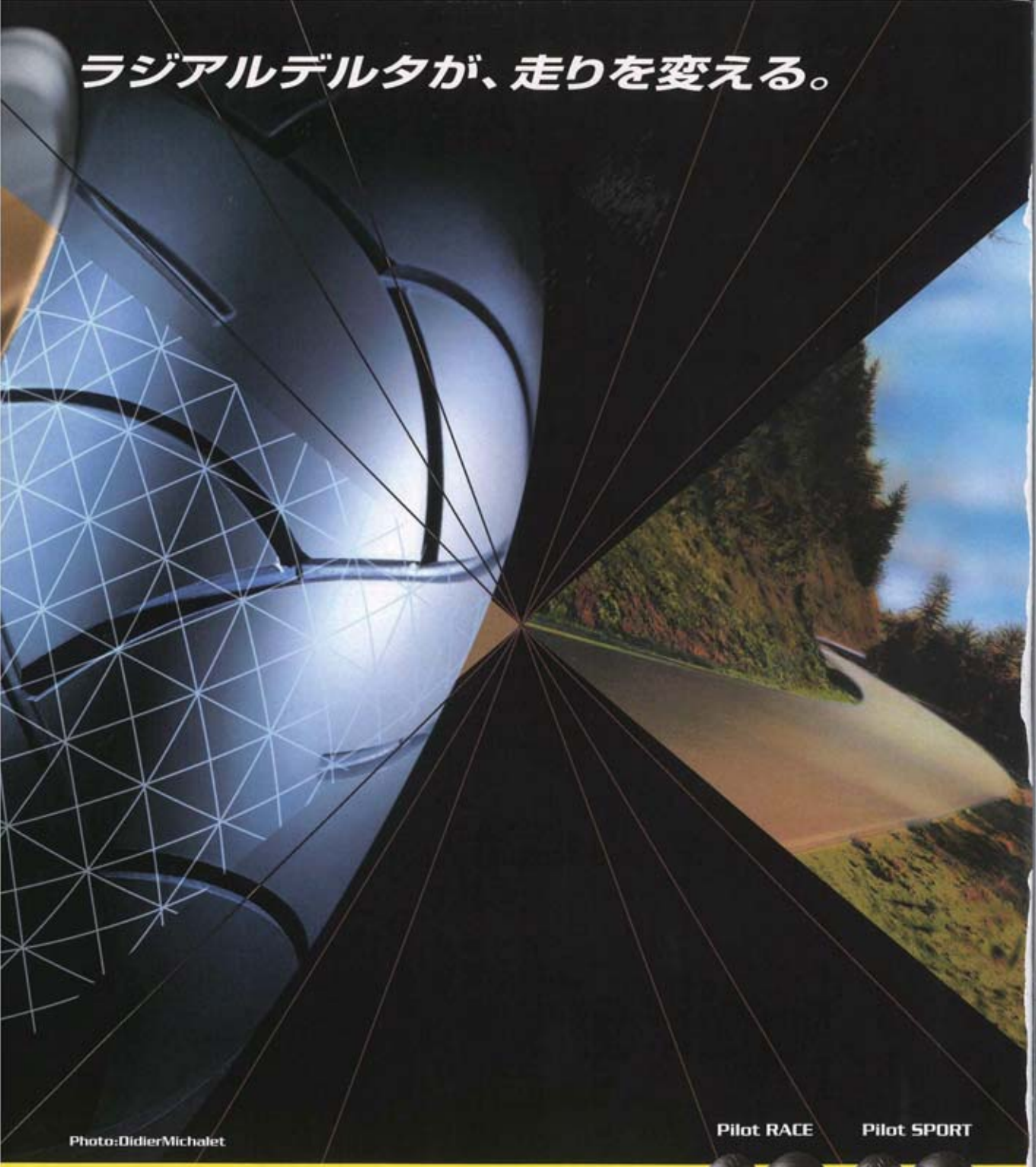


Photo:DidierMichalet

Pilot RACE　Pilot SPORT

コンペティションタイヤのテクノロジーをストリートに。

1987年、ミシュランは世界初のラジアルタイヤ市販化に成功。そして1999年、第2世代ラジアルともいえる「ラジアルデルタ」構造を発表。レーシングタイヤの技術を導入したこの革新的構造は、フランス語でライダーを表わす「パイロット」という名を冠され、ストリートにその姿を現したのである。プロダクションレース用にハイグリップコンパウンドを与えられた「パイロットレース」。そしてハイグリップでありながら卓越したウェット性能を誇る特許フルシリカコンパウンドを着られた「パイロットスポーツ」。
ラジアルデルタが、走りを変える。

RADIAL DELTA

MICHELIN

Pilot

NEW MICHELIN PILOT DELTA. ONLY MICHELIN MAKE RADIALS THIS GOOD.

◆MFJ組織について

FIM（国際モーターサイクリズム連盟）

FIMは、世界的にモーターサイクルスポーツを管理し、普及・振興を図り、これらの分野におけるユーザー支援団体と創立された国際組織。1904年国際レースで起きた論争をきっかけに国際的なモーターサイクル組織の設立が呼びかけられ、1904年12月22日にパリで創立。現在本部をスイスのMiesに置く。世界のモーターサイクルスポーツ全ての競技運営を統括しているとともにIOC（国際オリンピック委員会）から2000年に正式認可され、モーターサイクルスポーツをオリンピック競技種目とすべく、積極的な活動を行っている。

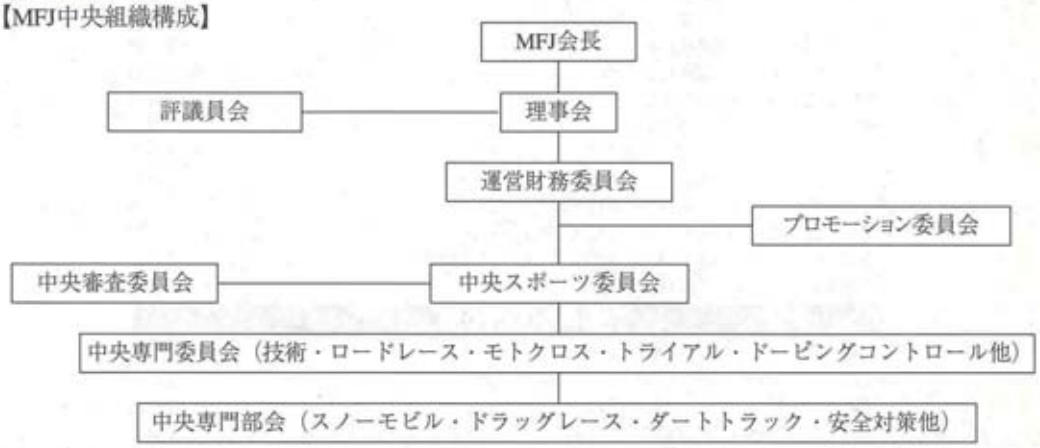
UAM（アジアモーターサイクルユニオン）

FIMが世界を6地域（ヨーロッパ・北アメリカ・ラテンアメリカ・オセアニア・アフリカ・アジア）に分けて管理する為設けた地域別協会であり、アジア圏内のFIM加盟国17カ国で構成され、積極的に相互の交流を図り、アジア圏内におけるモーターサイクルスポーツの普及・発展をテーマに活動を行っている。

MFJ（財団法人　日本モーターサイクルスポーツ協会）

日本国内のモーターサイクルスポーツを統括する機関として1961年（昭和36年）10月に創立され、FIMに連なる唯一の日本代表機関。'90年（平成2年）12月に文部省（現：文部科学省）所管の財団法人となり、モーターサイクルスポーツの普及・発展を通じ、国民の心身の健全な育成に寄与することを目的としている。

【MFJ中央組織構成】



【MFJ支部】

MFJ本部

- MFJ北海道支部…〒011-0925 北海道札幌市北区新川5条20丁目1-20 電話 011-768-3988／FAX 011-768-4113
- MFJ東北支部　…〒983-0034 宮城県仙台市宮城野区扇町3-3-10　宮城県交通会館内 電話 022-284-9484／FAX 022-239-8470
- MFJ関東支部　…〒170-0005 東京都豊島区南大塚3丁目43-5　アルス新大塚202号 電話 03-3971-0022／FAX 03-3971-9898
- MFJ中部支部　…〒466-0812 愛知県名古屋市昭和区八事富士見1603 電話 052-833-9676／FAX 052-835-0546
- MFJ近畿支部　…〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀1-7-14 電話 06-6534-6422／FAX 06-6534-4847
- MFJ中国支部　…〒733-0036 広島県広島市西区観音新町1-18-9 広島県二輪車安全普及協会内 電話 082-295-6994／FAX 082-295-2893
- MFJ四国支部　…〒790-0916 愛媛県松山市東本1丁目4-37　MCA四国内 電話 089-986-3431／FAX 089-986-3432
- MFJ九州支部　…〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-11-9 メゾンド水巻1F-B　MCA九州内 電話 092-473-2616／FAX 092-415-4559

MFJ
国内競技規則書
2002年度版

CONTENTS

信号旗／レースナンバープレート・ライセンス識別カラー …… 19
MFJ組織 …… 21
MFJ国内競技規則 …… 23
第1章　総則 …… 24
第2章　ライセンス …… 27
　　ピットクルーに関する指導要綱 …… 31
第3章　競技会 …… 33
付則1　MFJライセンス昇格・降格に関する規則 …… 41
付則2　MFJアンチドーピング規定 …… 48

ROADRACE

付則3　ロードレース競技規則 …… 62
付則4　全日本ロードレース選手権大会特別規則 …… 79
付則5　エリア選手権特別規則 …… 86
　　2次災害防止について …… 89
　　サーキット走行に関する指導要項 …… 90
　　MFJ公認サーキット …… 95
付則6　ロードレース基本仕様 …… 99
付則7　全日本・エリア選手権技術仕様 …… 108
付則8　S-NKの仕様 …… 123
付則9　JSB1000の仕様 …… 130
付則10　ST600の仕様 …… 140
付則11　SS600の仕様 …… 151
付則12　ST250/400の仕様 …… 162
付則13　SPの仕様 …… 185
付則14　耐久レースの追加仕様 …… 176
付則15　国内ロードレースの仕様 …… 178
付則16　ロードレースジュニアクラスの仕様 …… 182
付則17　ミニバイクの仕様 …… 185

MOTOCROSS

付則18　モトクロス競技規則 …… 198
付則19　全日本モトクロス大会特別規則 …… 206
付則20　モトクロス基本仕様 …… 218
付則21　国内モトクロスの仕様 …… 225

TRIAL

付則22　トライアル競技規則 …… 234
付則23　全日本トライアル選手権大会特別規則 …… 243
付則24　トライアル基本仕様 …… 249
付則25　国内トライアルの仕様 …… 256

DRAGRACE

付則26　ドラッグレース競技規則 …… 258
付則27　全日本ドラッグレース選手権大会特別規則 …… 266
付則28　ドラッグレースの仕様 …… 269
付則29　MFJ公認クラブ等の名称に関する規程 …… 278
付則30　MFJ公認制度 …… 282

SUPPLEMENT

付録　MFJ公認車両 …… 283
付録　MFJ公認部品 …… 292
付録　MFJ公認ヘルメット・スーツ・タイヤ …… 294
付録　歴代チャンピオンリスト …… 304

2002年1月1日発行
ライディング臨時増刊・通巻386号
財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会
〒104-0045 東京都中央区築地2-11-24 第29興和ビル別館7F ☎03(5565)0900 FAX03(5565)0907
■発行所：財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会　http://www.mfj.or.jp
■編集：亜玄㈱ライディング編集部　■印刷：河和田屋印刷㈱

オートレース Auto Race

この国内競技規則書は、日本小型自動車振興会からオートレースの公益資金の補助を受けて制作されたものです。

国内競技規則 2002

Motorcycle Sports Rules

▼第1章　総　則
1．モーターサイクルスポーツの国内的統括……24
2．国内競技規則の制定および施行……24
3．国内競技規則の適用……24
4．国内競技規則の解釈……24
5．大会特別規則ならびに公式通知……25
6．公認競技会・承認競技会の格式と種目……25

▼第2章　競技ライセンス
7．競技ライセンスとその種目……27
8．競技ライセンスの取得資格……28
9．競技ライセンスの有効期間……30
10．競技ライセンスの効力の失効等……30
11．競技ライセンス資格の昇格および降格……30

▼第3章　競技会
12．競技参加者……33
13．競技参加者の遵守事項……33
14．ライダーの装備(MFJ公認ヘルメット及びレーシングスーツ)…34
15．出場車両……35
16．MFJ公認車両および公認部品・用品……35
17．燃料およびオイル……35
18．競技出場の申し込み……35
19．出場料および共済会掛金(保険料)……36
20．ライダーおよび車両の変更……36
21．車両検査……36
22．競　技……36
23．優勝者等の決定……37
24．賞　典……37
25．レース後の車両検査……37
26．競技結果および記録の公表……37
27．公式得点（ポイント）……37
28．競技会の延期および中止等……38
29．損害に対する責任……39
30．抗　議……39
31．控訴権……39
32．違反行為に対する罰則……40
33．大会審査委員会の権限……40
34．本規則の施行……40

本国内競技規則は、国際モーターサイクリズム連盟（Fédération Internationale Motocyclisme：略称FIM)の国際スポーツ憲章、FIM競技規則に基づいて作成され、日本国内のモーターサイクル・スポーツ規則の一部として発行する。本国内競技規則は、総則と細則に大別され、競技種目によって内容に差異のある事項は細則に示される。

第1章 総則

1 モーターサイクルスポーツの国内的統括

財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会（以下「MFJ」という）は、文部科学省所管の公益法人としてわが国のモーターサイクルスポーツの管理、普及振興、競技の安全と公正および秩序を保持することを目的とする。

また、MFJは国際モーターサイクリズム連盟（Féderarion Internationale Motocyclisme・IOC認可団体・以下「FIM」という）により日本国の代表機関として公認された国内のモーターサイクルスポーツを管理統轄する唯一の権威であることを宣言する。

2 国内競技規則の制定および施行

MFJは前条の権限を正当かつ公正なる方法で行使するためにFIM国際競技規則に準拠して国内競技規則及びその細則を制定し、施行する。

3 国内競技規則の適用

MFJ国内競技規則の適用範囲は下記とする。

1）公認競技会

(1) 国内格式競技会

国内格式競技会にはMFJライセンス所持者のみが参加することができ、この競技会にはMFJ国内競技規則が適用される。

(2) 国際格式競技会

国際格式競技会は、各国モーターサイクル協会（以下「FMN」という）が発効するFIMインターナショナルライセンスを所持するFMNのライダーが参加することができ、FIMの公認が必要な競技会である。世界選手権・国際選手権はFIM競技規則が適用される。その他はFIM規則とMFJ国内競技規則が適用される。

2）承認競技会

MFJ国内競技規則に基づいた主催者の定める特別規則により管理される。

4 国内競技規則の解釈

個々の競技会における判定および競技規則全般の解釈は、本規則に基づいて当該大会審査委員会が行い、これを最終的なものとする。

本規則に規定されていない事項はFIM国際競技規則およびその趣旨により判定する。

5 大会特別規則ならびに公式通知

1）競技会は、本規則および各種目別付則に基づいて行われるほか、競技会の運営、競技の細部および指示は、大会ごとの特別規則、公示または公式通知によって行われる。

2）大会特別規則および公式通知は、競技会主催者（以下「主催者」という）が制定または発行する。

(1) 大会特別規則には次の各項が示される。

① 競技会の名称・格式
② 競技会の組織
③ 主催者の名称、所在地および連絡先
④ 開催日時・場所
⑤ 競技の種目および内容
⑥ 参加資格
⑦ 出場申し込み受付け場所
⑧ 出場申し込み期間
⑨ 出場料と共済会掛金（保険料）
⑩ 出走者の定員
⑪ 賞およびその詳細
⑫ その他

3）大会特別規則に規定し得なかった競技会運営の細部にわたる規則および大会特別規則発表後に生じた問題を処理するため、主催者は、参加者に対し公式通知をもって指示することができる。

ただし、その内容は大会特別規則およびMFJ 国内競技規則に反するものであってはならない。

6 公認競技会・承認競技会の格式と種目

1）格式の内訳と優先順序

国際格式競技会は国内格式競技会に優先する。

(1) 国際格式競技会の優先順序

1 世界選手権競技会（FIMカップ含む）
2 国際選手権競技会（アジア選手権等）
3 日本（MFJ）グランプリ大会
4 全日本選手権
5 国際競技会（ノンタイトル）

(2) 国内格式競技会の優先順位

1 全日本選手権競技会
2 特別競技会
3 エリア選手権競技会
4 地方選手権競技会
5 県選手権競技会
6 その他公認競技会
7 承認競技会

2）格式の内訳と優先順序

(1) 公認競技会と承認競技会の種目

種目	公認競技会	承認競技会
ロードレース	○	○
モトクロス	○	○
トライアル	○	○
スノーモビル	○	○
ドラッグレース	○	○
ダートトラック	○	○
エンデューロ	○	○
ミニバイクレース	―	○
その他MFJ中央スポーツ委員会で認める競技	○	○

MOTORCYCLE SPORTS RULES 2022

第2章 ライセンス

7 競技ライセンスとその種目

1）ライセンスには、競技ライセンス、Lライセンスおよびピットクルーライセンスとがあり、競技ライセンスは公認競技会に、Lライセンスは承認競技会に参加するために必要な証書である。

2）競技ライセンスの種目と競技会の参加区分は、次のとおりとする。

●競技ライセンス別の種目

ロードレース	
クラス	国　際
	国　内
	フレッシュマン
	ジュニア

モトクロス／トライアル	
クラス	国際A級
	国際B級
	国内A級
	国内B級
	ジュニア
	PC

スノーモビル	
クラス	A級
	B級
	ジュニア

ドラッグレース	
クラス	A級
	B級

※2001年よりダートトラックライセンスが設定されている。発行の資格等は別途定める。

●競技ライセンス別の参加できる競技会

参加できる種目 ＼ 取得しているライセンス		競技ライセンス						
		ロードレースライセンス	モトクロスライセンス	トライアルライセンス	スノーモビルライセンス	ドラッグレースライセンス	エンデューロライセンス	Lライセンス
公認競技会	ロードレース	○	—	—	—	—	—	—
	モトクロス	—	○	—	—	—	—	—
	トライアル	—	—	○	—	—	—	—
	スノーモビル	—	—	—	○	—	—	—
	ドラッグレース	—	—	—	—	○	—	—
	エンデューロ	—	—	—	—	—	○	—
承認競技会	ロードレース	○	—	—	—	—	—	—
	モトクロス	○	○	○	○	○	○	○
	トライアル	○	○	○	○	○	○	○
	エンデューロ	○	○	○	○	○	○	○
	ミニバイク	○	○	○	○	○	○	○
	スノーモビル	○	○	○	○	○	○	○
	その他MFJ中央スポーツ委員会の認める競技会	○	○	○	○	○	○	○

※運転免許資格者でピットクルーライセンス（ライセンスにAと表記されているもの）所持者に限り、ライダーとして承認競技会に参加できる（Lライセンスと同じ）

2002年ロードレースライセンス区分

ライセンス区分		参加可能格式
国際ライセンス（インターナショナル）		世界選手権（参加資格は別途定める） 国際選手権（参加資格は別途定める） 国内で行われるインターナショナル競技会 全日本選手権（参加資格は別途定める） エリア選手権 その他承認・公認競技会
国内ライセンス（ナショナル）		エリア選手権／地方選手権 地方大会／その他承認・公認競技会
	フレッシュマン	地方選手権／地方大会
	ジュニア	その他承認・公認競技会

●FIMライセンス（MFJを経由して取得）

国内・国外における世界選手権競技会、国際競技会に参加することのできるライセンスの区分は、次のとおりである。

種　目	競　技　会	必要なライセンス		申　請　資　格
		シリーズ参加の場合	1大会のみ参加（国外でも使用可）	
ロードレース	世界選手権GP（グランプリ）	世界選手権GP用年間ライセンス	世界選手権GP用1大会ライセンス	ロードレース国際ライセンス所持者 最低年齢 ・125cc＝15歳 ・250cc＝16歳 ・スーパーバイク、500ccその他＝18歳
	スーパーバイク世界選手権	SB世界選手権用年間ライセンス	SB世界選手権用1大会ライセンス	
	世界耐久選手権	世界耐久選手権用年間チーム及びライダーライセンス	世界耐久選手権用1大会チーム及びライダーライセンス	
	その他の国際競技会	FIMインターナショナルライセンス年間用	FIMインターナショナルライセンス1大会用	
	アジア選手権	アジア選手権用年間エントラントライセンス アジア選手権用年間ライダーライセンス	1大会のみエントラントライセンス 1大会のみライダーライセンス	
モトクロス	世界選手権GP（グランプリ）及びスーパークロス	世界選手権GP及びスーパークロス用年間ライセンス	世界選手権GP及びスーパークロス用1大会ライセンス	モトクロス国際A級ライセンス所持者最低年齢 1世界選手権用 ①125cc＝15歳 ②250cc＝16歳 ③その他＝18歳 2その他の競技会用 80cc＝12歳 125cc、250cc＝15歳
	その他の国際競技会	FIMインターナショナルライセンス年間用	FIMインターナショナルライセンス1大会用	
	アジア選手権	ライダー用年間ライセンス	1大会のみライダーライセンス	
トライアル	世界選手権	世界選手権用年間ライセンス	世界選手権用1大会ライセンス	トライアル国際A級ライセンス所持者 運転免許証を受けていること
	その他の国際競技会	FIMインターナショナル年間用	FIMインターナショナルライセンス1大会用	
	アジア選手権	ライダー用年間ライセンス	1大会のみライダーライセンス	
エンデューロ	ISDE等	ISDE用ライセンス		MFJモトクロスライセンス所持者でスポーツ委員会にて実績を認められた者
	アジア選手権	ライダー用年間ライセンス	1大会のみライダーライセンス	
ラリーレイド	ラリーレイド	ラリーライセンス		

海外での競技会への参加に関しては、事前にMFJに報告し、許可を得なければならない。（相手国協会に対しMFJより出場許可を文書で発行する）

※全てのインターナショナルライセンスの取得可能最高年齢は50歳までとする。（これを超えた場合は別途審査が必要）

8 競技ライセンスの取得資格

競技ライセンス取得申請を行う者は、次の要件を満たしていなければならない。

1）日本にスポーツ国籍を有すること。

2）日本のスポーツ国籍を持たない者は、日本国内に3ヶ月以上継続的に居住した期間を公的に証明できる書類を提出でき、かつ当人が所属する国のFMN（各国協会）の承諾書を受けていること。ただし、当人が所属する国のFMNからライセンスの発給を受けており、かつFMN

からの移籍許可を得、MFJ中央スポーツ委員会が認めた場合は、3ヶ月の居住証明は不要とする。

MFJから他国協会（FMN）にスポーツ国籍を移籍した者は、当該年度内はMFJライセンスの再取得はできない。

3）過去6ヶ月以内に重大な刑法上の犯罪により処罰された者でないこと。

4）種目による条件

(1) **モトクロス、トライアル、スノーモビル、エンデューロ、Lライセンス**

① 運転免許証（小型特殊免許を除く・以下同じ）を取得していること。

② 運転免許証を受けていない者はMFJの公認する競技ライセンス講習会の修了証（発行後6ヶ月以内のものに限る・以下同じ）を取得していること。

③ 運転免許証を取得できる身体的要件を備えていること。

(2) **ロードレース**

① 国内ライセンス

下記いずれかの要件を満たしていること。

ⓐ MFJの公認するロードレース国内ライセンス講習会の修了証を取得していること。

有効期間：受講日より6ヶ月

ⓑ MFJ国内公認及び準国内公認のサーキットにおける3時間以上の走行証明書を取得していること（走行券や走行カードは不可）。

有効期間：発行日より1年間

ⓒ フレッシュマンライセンスにて、公認・承認ロードレース大会に2回以上出走の実績があること。

有効期間：前々年度（2000年1月1日以降）の大会より。

ⓓ フレッシュマンライセンスにて、MFJ国内公認サーキット以上の施設で開催された公認・承認ロードレース大会にて下記の成績を得たもの。

・予選出走台数が20台以上のレースで10位以内に入賞。

・予選出走台数が10台以上のレースで6位以内に入賞。

有効期間：前々年度（2000年1月1日以降）の大会より。

② フレッシュマンライセンス

下記いずれかの要件を満たしていること。

ⓐ MFJ国内公認格式及び準国内公認のサーキットにてサーキットライセンス講習会の修了証を取得していること。

ⓑ MFJの公認するフレッシュマンライセンス講習会を受講し修了証を取得したもの。

ⓒ 満16歳以上で運転免許証を有しないものはMFJの公認するロードレースジュニアライセンス講習会を受講し修了証を取得していること。

③ ジュニアライセンス

満12歳以上16歳未満の者はMFJの公認するロードレースジュニアライセンス講習会を受講し修了証を取得していること。

(3) **ドラッグレース**

運転免許証を取得しており、下記要件を満たしていること。

MFJの公認するドラッグレース講習会を受講し修了証を取得していること。

(4) **ピットクルー**

16歳以上であること。

※本規則でいう「スポーツ国籍」とは競技参加者が最後にライセンスを交付されたFIM加盟の各国モーターサイクル協会「FMN」の国籍とする。

※ライセンス取得後の昇格については別に定めるMFJライセンス昇格・降格に関する規則による。(41頁参照)

9 競技ライセンスの有効期間

1．MFJの発行するライセンスの有効期間は、交付された日から当該ライセンスに表示された年の12月31日までとする。

2．MFJライセンスは未更新期間がある場合、ライセンス区分が降格したり、再度走行証明を取得する等の条件が付される場合がある。詳細については別に定めるMFJライセンス昇格・降格に関する規則による。(41頁参照)

10 競技ライセンスの効力の失効等

1）次の者のライセンスの効力は失効し、または停止される。

(1) 日本のスポーツ国籍を失った者。

(2) 運転免許の効力を失った者、または停止されている者。

(3) 氏名・年令等を偽り、不正にライセンスを受けた者。

(4) 前条の有効期限を経過し、継続申請をしなかった者。

(5) MFJ中央審査委員会の裁定により、停止処分を受けた者（中央審査委員会の定める期間）。

11 競技ライセンス資格の昇格および降格

1）競技ライセンスの昇格および降格については、別に定めるMFJライセンス昇格・降格に関する規則による（41頁参照）。

ピットクルーに関する指導要項

ピットクルーはライダーを補佐し、レースを円滑に進めるレースに欠かせない重要な役割を担っている。ライダーに代わって必要な情報を得たり、事務手続きをするなどのマネージャー的な役割や、レースの作戦を立てる監督的な役割、直接マシンの調整・修理をするメカニックまで、様々な立場の人がピットクルーライセンスを取得してレースに参加している。実際にレースにおいてピットクルーとして登録し作業する際には、下記のことに注意しなければならない。

1）ピットクルーの登録

① 基本的に下記の人数のピットクルーが登録可能である。

・ロードレース

地方選手権以下：2名以内
エリア選手権　：4名以内
全日本選手権　：6名以内

・モトクロス

地方選手権以下：2名以内
全日本選手権　：2名以内

② ロードレースの場合、地方選手権においては最低1名のピットクルーを登録することが義務づけられる。これはライダーが負傷した場合、帰りの交通手段の確保や病院での手続き、家族への連絡が必ず必要となるためである。

2）ピットクルーの登録と変更・追加

ピットクルーはエントリー用紙のピットクルー登録欄に記入し、登録する。いったん登録したピットクルーは選手受付時に変更することは可能だが、申請人数より追加することはできない。変更の際は変更手数料1,000円が必要となる。

3）ピットクルーの服装

安全上長袖・長ズボンを着用することが望ましい。ロードレースのピットロードやスタート時にエンジン始動を手伝うときや足場の悪いモトクロスなどはサンダル履きは避け、品位ある服装にすること。

※全日本モトクロスに参加するピットクルーは（207頁）参照。

4）ピットクルーの立ち入り範囲

① ロードレース

ピット作業エリアとピットサインを出すプラットフォーム、スタート進行時にはコース上に入ることができる。

② モトクロス

各大会ごとにコースレイアウトによってサインエリアが定められ公式通知、ライダースミーティング等で説明される。

5） ピットクルーの遵守事項

全てのピットクルーは、自らの参加する競技に関する規則を熟知していなければならない。また、安全に対する認識を持っていること。

① ロードレース

・ピットロードにおいては、ピットイン・ピットアウト車両に十分注意すること。また、無資格のゲスト等がピットロードに出ないように注意する。

・火気に注意する。特に喫煙は指定の場所で行うこと。

・スタート進行時は、スタートが遅延しないよう作業すること。時間がきたら速やかにコース外に退去すること。

・メカニックは特にブレーキ系とオイル回りの安全対策を常にチェックすること。

② モトクロス

・指定されたサインエリアの区分から出てサインを出さないこと。

・指定のエリアを遵守すること。

6） ペナルティ

ピットクルーが犯した行為に対するペナルティは、そのピットクルーが登録されているライダーに対して科される。

7） レース運営への協力

ライダーが黒旗を掲示された場合は、ピット側に向けてもそれを掲示するので、ピットサインでもその状況を伝え早急に停止するように伝達する。

特にオイルを撒いて走行しているときや、部品が脱落しそうな場合は他のライダーに大きな危険を及ぼすので、各自緊急時のサインを取り決めておくこと。

8） 共済会

MFJピットクルーライセンス料には、年間の共済会掛金（保険料）が含まれている。この共済会見舞金制度は、当該ピットクルーが正式に登録され、参加する大会の公式期間中に発生した事故等に対し適用される。

第3章 競技会

12 競技参加者

1）MFJの公認または承認する競技会に参加することのできる者は、次のとおりとする。

(1) **ライダー**

① 当該競技に必要なMFJ競技ライセンスを受け、参加申請した者（効力の停止中の者を除く）で当該競技に必要な身体的条件を備えていること。

② 当該競技の参加に必要な諸手続きを行なっている者。

③ 満20歳未満の者は、親権者の承諾書を提出した者。

④ 負傷しているライダーは、主催者の指定する医師の競技参加の承諾を得ているもの。

(2) **ピットクルー**

① 当該競技に必要なMFJピットクルーライセンスを受けて参加申請をした者。

② 当該競技の参加に必要な諸手続きを行なっている者。

(3) **エントラント**

ここで規定するエントラントとは下記の者で競技参加申請を行なった団体または個人をいう。

① MFJ公認クラブ（別に定める「MFJ公認クラブ等の名称に関する規程」(278頁参照)）

② MFJライセンス取得者

③ MFJメーカーライセンスを所有している車両メーカー

④ MFJ賛助会員ライセンスを所有しているコンストラクター、部品関連メーカー

※ エントラント資格を有し、エントリー用紙により参加申請をすることによりMFJ国内競技規則に定められている抗議者の資格が得られる。

※ ロードレース全日本選手権に関しては、別途エントラントライセンス制度がある。

2）主催者および競技役員は、競技会当日随時ライセンスの提示を求めることにより、ライダーおよびピットクルーの資格要件を確かめることができ、もし本規則に違反している者がいた場合、その者に対しては、所定の罰則が適用される。

13 競技参加者の遵守事項

1）競技参加者は、次の事項を守らなければならない。

(1) 競技会中は、MFJ国内競技規則に従って行動し、すべての行動に対して責任を持たなければならない。

(2) 国内競技規則および競技管理上のあらゆる規定および競技役員の指示に従い、かつレース場以外では交通規則を守らなければならない。

(3) 常にスポーツマンとしての態度を保ち、下品な言葉や言動は厳に慎まなければならない。

(4) 競技に関する業務についている者およびライダーは、アルコール類あるいは薬品（興奮剤、麻薬等）によって精神状態をつくろってはならない。
(5) 別途定めるドーピングコントロール規則を遵守する事。(48頁)
(6) 競技会中は、有効なライセンスを必ず携帯していなければならない。
(7) 競技会に参加することが認められた者が出場しない場合（競技現場での不参加を含む）は、正当な理由をもって、その旨主催者に通告しなければならない。この通知を怠るか、または欠場の理由が正当でない場合、主催者は速やかにMFJ中央スポーツ委員会に報告し、ペナルティを求めることができる。
(8) ライダーまたはエントラントが集団で競技または予選を欠場した場合、または、そのような働きかけをした場合、主催者は速やかにMFJ中央審査委員会に報告し、ペナルティを求めることができる。

2）特にライダーは、上記のほか次の事項を守らなければならない。
(1) 必要以上にハンドルから手を離したり、足をフットレストから離し、または外につき出したりするような危険な姿勢をとってはならない。
(2) 他のライダーの走行を妨害するような走りかたをしてはならない。
(3) 競技中（公式練習も含む）は、他人の迷惑、または危険を伴うような行為をしてはならない。
(4) 車両は、それ自体が持つ動力およびライダーの筋力、または重力などの自然現象以外の方法で、走ったり、加速したりしてはならない。
(5) 他の者の援助を一切受けてはならない。
(6) 競技中の車両には、いかなる者も同乗させてはならない。
(7) ライダーは、コース（ラン・オフ・エリアを含む）にある間は、MFJが公認したヘルメットを装着しなければならない。
(8) 競技監督が必要と認めた場合、ライダーに対し医師団長もしくは指定医師による診断を受けさせ、競技出場の健康上の理由による可否を最終的に決定することができる。

14 ライダーの装備(MFJ公認ヘルメット及びレーシングスーツ)

1）ライダーの装備は、次のとおりとする。

(1) **ヘルメット**

① 競技に使用するヘルメットはMFJが公認したものでなければならない。
② MFJ公認ヘルメットには、規定の認証マークが貼付されていなければならない。
③ MFJが公認するヘルメットの規格については、各競技種目別細則により定める。
なお、国際競技会においてはFIMで認められた各FMN規格のマークが前項のマークとみなされる。
④ 競技会の車両検査の際、ヘルメット検査が行われ、MFJが公認したものであっても、損傷しているなど著しくその機能を失っていると認められるものは、ライダーの安全上その使用を禁止する。
⑤ MFJ公認ヘルメットで、その認証マークの貼付されていないヘルメットについては、その場で特別検査を受け合格すれば使用することができる。
この場合は、別に定める特別検査料（各競技種目別細則による）を支払わなければならない。

(2) **服装**

① ロードレースのレーシングスーツは、MFJ公認のものでなければならない。

② ライダーの服装は、競技中ライダーの身体の安全を確保し、運転を妨げるものであってはならない。

③ その他細部については、各競技種目別細則により定める。

(3) 装備の公認とは国内競技規則に合致することを認めるものであり、その安全性及び耐久性を保証するものではない。

15 出場車両

1）競技に出場する車両のクラス区分等は、各競技種目別細則の定めるところによる。

2）車両は細則に示す「出場車両」と「基本仕様」に合致し、かつ大会特別規則の条件を満たし、安全上完全に整備されているものでなければならない。

3）大会審査委員会により危険であると判断された車両は、理由のいかんを問わず競技に使用することはできない。

4）本規則に基づき改造・変更を行う場合、その対象の選定・保守・管理は自己の責任において行うものとする。

16 MFJ公認車両および公認部品・用品

1）MFJ公認車両および公認部品・用品については、「MFJ車両・部品公認ならびに承認に関する規則」の定めるところによる。

なお、公認された車両および部品・用品については、MFJの発行する月刊「ライディング」誌、MFJホームページ（URL http://www.mfj.or.jp）その他により公示される。

2）公認は、MFJ技術委員会において審査し、承認された日を基準にして一定の告知期間の後に正式に発効する。告知期間は、公認制度（282頁）を参照のこと。

3）車両は、当該競技会公式車検日時点で公認が発効されている車両でなければ出場申し込みをすることができない。

4）公認とは国内競技規則に合致することを認めるものであり、その安全性及び耐久性を保証するものではない。

17 燃料およびオイル

1）競技に使用する燃料・オイル等については別に定めるMFJ技術規則による。

2）その他燃料については、次のとおりとする。

(1) ガソリンおよびオイルは、オクタン価や燃焼効率を高めるような添加剤、あるいは起爆剤を加えてはならない。

(2) ガソリンにオイルを混合する必要がある場合、安全を確認して作業しなければならない。

(3) ガソリンおよびオイルを入れる容器とその取扱いは、消防法に適合する金属製の容器を使用すること。

3）世界選手権に関してはFIM規則が適用される。

18 競技出場の申し込み

1）競技会への出場の申し込みは、次のとおりとする。

(1) 主催者が準備した用紙の記載事項のすべてを記入し、この競技規則を厳守することを誓約しなければならない（エントリー時で当該ライセンスを取得していること）。

① 車両の登録はエントリー用紙に下記事項を記入すること。参加受理書発送後記入事項に変更がある場合は、選手受付時に車両変更手続きを行なわなければならない。

ⓐ 銘柄 ⓑ 車名 ⓒ 年式 ⓓ フレーム打刻型式頭番号 ⓔ エンジン打刻型式頭番号

(2) 主催者は、エントラント、ライダーおよびピットクルーのいずれに対しても、その理由を明らかにすることなく申し込みを拒否、または無効とする権限を有する。

(3) 申し込み期間、申し込み場所、その他の詳細については、当該競技主催者の定める大会特別規則に示される。

2）競技出走者数または出場申し込み者数の定員は、大会特別規則に示される。

なお、出場申し込み者数が10名に満たない場合は、そのクラスの競技会を中止する場合がある。

19 出場料およびMFJ共済会掛金（保険料）

1）エントラントまたはライダーは、出場申し込みのとき、大会特別規則に明示する出場料を支払わなければならない。

2）ライダーは、出場申し込みのときMFJ共済会掛金(保険料)を主催者に支払わなければならない。主催者は、そのMFJ共済会掛金をMFJ共済会に納める。(別に定めるMFJ共済会規則による)

3）いったん主催者に受理された出場料およびMFJ共済会掛金は、競技会の延期および中止等（38頁）に合致する以外は払い戻しされない。

20 ライダーおよび車両の変更

1）エントリーされたライダーの変更は認められない。

2）登録された車両の変更は、原則として認められない。変更する必要が生じた場合は、所定の書式に従って車両の変更申請を行い、競技監督がこれを認めた場合に限り、車両の変更が認められる。車両変更手数料は5,000円とする。

(1) 公式予選終了後、安全上の理由により、フレームボディおよびエンジンなどを交換する必要が生じた場合は、競技監督に申告し、元の部品を提示して、許可を受けなければならない。

(2) 公式車検終了後ライダー間でマシンを交換することは禁止される。

(3) 紛争に際して製造メーカー側の車両欠陥についての立証の責任は、参加者側にあるものとする。

21 車両検査

1）競技車両は、本規則および各競技種目別細則の定めるところにより、車両検査を受けなければならない。車両検査の時刻、および場所は公式通知により示される。

2）車両は、競技直前に車両検査を受けたままの状態に保たれているかどうかのチェックを受けなければならない（スタート前チェック）。チェックの時刻およびチェックの場所は、公式通知により示される。

3）ライダーが車両仕様申告を行う場合は、車両検査時に大会事務局より配布された車両仕様書をもって申請しなければならない。

22 競　技

1）出場者数が多い場合は、予選またはタイムトライアルによって決勝競技出場者を決定することがある。その詳細については、各競技種目別細則および大会特別規則の定めるところによる。

2）スタートの方法は各種目細則および大会特別規則の定めるところによる。

3）競技中競技役員が合図旗（シグナル旗）を示した場合、各ライダーはただちにそれに従わなければならない。
4）合図旗（シグナル旗）とその意味については、各競技種目別細則の定めるところによる。
5）停止
(1) 競技中、コース内で停止する場合には、ライダーはただちに車両をコース脇によせ、他のライダーの走行の邪魔にならないように十分注意しなければならない。
(2) 競技中、車両をコースの進行方向と逆方向に移動してはならない。ただし、競技役員の指示による場合はこの限りではない。
(3) 事故または車両故障などの理由によってリタイヤ（中途退場）する場合は、その地点からもっとも近い競技役員（コース審判）に報告しなければならない。
(4) ライダーは、停止車両をその競技が終了するまで、競技役員の管理下におかなければならない。
ただし、その競技に支障のない地点まで、車両を移動させることを競技役員（コース審判）から指示された場合には、これに従わなければならない。
6）ゴールライン通過の際、ライダーは、マシンと離れた状態にあってはならない。
7）競技の終了
競技の終了は、チェッカー旗によりトップ走者がゴールしたのち、細則および大会特別規則に示す時間を経過した時点である。

23 優勝者等の決定

優勝者、順位および完走者の定義については、各競技種目別の細則の定めるところによる。

24 賞　典

賞典の対象者は、原則として6位までとし、その詳細は大会特別規則に示される。
賞は主催者（大会事務局）から付与されるが、その時間等詳細は大会特別規則または、公式通知により示される。

25 レース後の車両検査

1）競技終了後、原則として1位から6位までの車両は、レース終了後、ただちに車両保管区域に暫定結果発表後原則的に30分間保管され、必要に応じて検査される。
2）その他、種目別細則ならびに大会特別規則による。

26 競技結果および記録の公表

1）競技終了後、暫定結果の公表を行う。
2）競技の正式結果は、暫定結果発表後遅くとも3時間以内に公表される。
3）参加者は、公表された競技の正式結果に対して抗議することはできない。

27 公式得点（ポイント）

1）公認競技会における成績により、MFJから公式に与えられる得点（ポイント）は、42頁のとおりとし、これの詳細は、別に定める「MFJライセンス昇格・降格に関する規則」（41頁）による。

28 競技会の延期および中止等

1）競技は、天候・異変その他安全確保に支障をきたすおそれがある等、特別の理由がある場合にかぎり、その一部を打ち切りまたは中止することができる。

2）前項の判断決定は、大会審査委員会が行う。

3）すべての関係者は、大会審査委員会の決定した競技の一部打ち切りまたは中止に従わなければならない。

4）原則として中止されたレースの再レースは行なわれない。

5）レースの短縮及び打ち切り

(1) 決勝レース出走前の短縮

① 出走前にレース周回数・時間を短縮する場合は、原則として本来のレースの2/3以上とする。(但し、モトクロスの場合＋1周は考慮しない)

② 2/3以上に短縮し参加者に発表した後にさらに状況が悪化した場合さらにその2/3以上まで短縮することができる。

③ 上記を上回る短縮の場合は選手の得点（ポイント）は2/3とする。

④ 上記の短縮の決定は大会審査委員会が行い、参加者にこのことが速やかに通知されなければならない。

(2) 決勝レース出走後の短縮・打ち切り

① トップ走者（トライアルの場合は、選手の95%以上）が定められた周回数／時間／セクション数の2/3を完走しないうちにレースを打ち切った場合。(但し、モトクロスの場合＋1周は考慮しない)

ⓐ ロードレース：走行が2周以下＝中止・ノーポイント（予選を行った場合は，予選結果にて半分のポイントを与える）
走行が3周以上＝再スタートが不可能な場合は2/3のポイントでレース完了とする。

ⓑ トライアル：選手の95%以上が終了したセクション数が、全セクションの25%未満のクラス＝中止・ノーポイント
選手の95%以上が終了したセクション数が、全セクションの25%以上のクラス＝半分のポイント

ⓒ モトクロス他：中止・ノーポイント

6）トップ走者（トライアルの場合は、選手の95%以上）が決められた周回数（または時間）の2/3以上を完走して競技を打ち切った場合は、大会審査委員会は、その競技の判定結果にその理由を付して発表し，レースは完了となり、フルポイントが与えられる。

7）競技の中止と出場料等の返却は、下記表の通りとする。参加者はその他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

事　例	出場料	共済会掛金
予選が1回も行われず中止	選手受付した全員に返却	共済会の適用となる練習走行が行なわれていなければ返却する
予選は行われ、決勝グリッド発表後中止	決勝進出者のみ返却	返却しない
決勝スタートが行われたのち中止	返却しない	返却しない

8）大会審査委員会が本項に関して下した裁定に対しては、抗議することはできない。

※上記の2/3またはパーセント表示で端数が出る場合、小数点以下は切り捨てる。

29 損害に対する責任

1）競技中、車両およびその付属品等が破損した場合、その責任は参加者が負わなければならない。（ただし、車両が車検長または大会審査委員会によって保管されている期間中に生じたものを除く。）

車検長または大会審査委員会は、車両を保管している期間中に、これらの車両がなんらかの理由によって破損した場合には、1台当たり100,000円を最高限度額として、その所有者に補償する。

2）競技会開催期間中、またはその前後に生じた傷害は、参加者自ら責任を負うものとする。

3）競技役員は、その職務に最善をつくすが、仮に競技役員の行為によって起きたエントラント、ライダー、ピットクルーおよび車両等の損害に対しても、競技役員はいっさいの責任を負わない。

30 抗　議

1）抗議は、暫定結果発表後30分以内に当該ライダー及びエントラント代表者だけが行うことができる。抗議しようとするときの手続きならびにその措置は、次のとおりとする。

(1) 大会事務局に準備されている抗議書に記載し、1項目ごとに抗議保証金を添えて大会事務局に提出すること。

(2) 正式の手続きにより提出された抗議書のみが受付けられ、大会審査委員会において審議裁定される。

(3) 大会審査委員会は、証人を必要と認めた場合は証人をたて、その証言を求め、十分に実情を調査した上で裁定を下すものとする。

(4) 大会審査委員会の裁定の内容は、当該者へ通達時に説明される。レース運営上、説明を始める前に時間を定めて行なわれる（通常5分程度）。

(5) 大会審査委員会が下した裁定に対しては、いっさい抗議することはできない。

(6) 抗議保証金は、抗議が成立した場合のみ返還される。

抗議保証金は、1項目につき10,000円、ガソリンに関する抗議保証金は100,000円とする。

31 控訴権

1）すべての当該競技参加者（ライダーまたはエントラント代表者）は、競技会審査委員会が宣告した罰則または裁定に対し、MFJ中央審査委員会に控訴する権利を有するものとする。

2）裁定機関

・大会審査委員会決定に関する控訴に関しては中央審査委員会にて裁定される。

・中央審査委員会決定を最終とする。

・中央審査委員会は、証人を必要と認めた場合は証人をたて、その証言を求め、充分に実情を調査した上で裁定を下すものとする。

3）控訴の期限

・大会審査委員会に抗議を提出し、その裁定を不服として、MFJ中央審査委員会に控訴する場合は、その裁定の告知より1時間以内に、MFJ中央審査委員会あてに控訴する意思を示す文書に控訴料を添えて、当該競技会審査委員会を通じ提出しなければならない。

・上記控訴の理由を示す文書に関しては、前項規定の控訴意思表示および控訴料の納付を行ったことを条件に、当該告知日より2日以内に、直接MFJ事務局に提出することが出来る。

4）控訴保証金

控訴保証金は50,000円とする。

裁定機関は事情に応じて保証金の返還または没収について、または経費処理について指示する。

5）控訴が受理されるために必要な手続き

・期日までに控訴文書と控訴保証金がMFJ事務局まで提出されなければならない。

・文書には訴え出る決定の詳細・理由が的確に述べられていなければならない。

32 違反行為に対する罰則

1）大会中(競技中も含む)における本規則または大会特別規則に違反する行為に対しては、その軽重によって大会審査委員会ならびに競技監督の権限で下記の罰則を科することができる。

軽重順位	罰　則	内　容	決定機関
1	訓　戒	文書による注意……始末書を提出	大会審査委員会
2	罰　金	現金100,000円以下	大会審査委員会
3	タイム／ポイント／周回数に対する罰則	当該ライダーの実際の成績に影響を及ぼすタイム／ポイント／周回数の加算・減算・順位の変更のペナルティ／ストップ＆ゴーペナルティ	大会審査委員会
4	失　格	大会、イベント、レースまたは結果から失格となる	大会審査委員会
5	資格停止	一定期間競技会に参加する資格を停止する	中央審査委員会
6	資格剥奪	競技会に参加する資格を剥奪する	中央審査委員会

※ストップ＆ゴーペナルティの手順はロードレース競技規則の「17条スタートにおける反則」（71頁）に記載される。

※罰金はMFJにて管理され、安全対策等に使用される。

※罰則の詳細はリザルト表に記述される場合がある。

違反の事実認定は、競技監督の判断を優先するが、罰則の量刑ならびに適用は、大会審査委員会の決定によるものとする。

2）ライセンスについての罰則は、大会審査委員会の報告に基づき、中央審査委員会によって、さらに事後の出場停止、資格停止まで及ぶかどうか審査裁定され、30日以内に通告される。

33 大会審査委員会の権限

大会審査委員会は、本規則ならびにその細則に基づき、当該競技会において最終的な権限を行使することができる。

34 本規則の施行

本規則は、2002年１月１日から施行する。

2002 MOTORCYCLE SPORTS RULES

付則 1

MFJライセンス 昇・降格に関する規則

1 目 的

本規則は、(財)日本モーターサイクルスポーツ協会（以下MFJという）が発給、管理する競技ライセンスの昇格・降格に関して規定し、モーターサイクル競技の公正を図ることを目的とする。

2 2002年度の昇格対象期間

2002年度の昇格対象期間は2002年１月１日から、2002年10月31日までとし、昇格した後、有効となるのは2003年１月１日からとする。11月１日より12月31日までに開催された競技の結果は、特別昇格の審査対象となる。

3 昇格、降格の種類と手続き

1）自動昇格とは

昇格対象期間内に規定の自動昇格の得点または順位を得た場合、ライセンスは上位区分に昇格する。自動昇格対象者にはその年の11月末日までにMFJより昇格が通知される。

自動昇格の権利を得て、翌年ライセンスを更新しなかった場合は、自動昇格の権利は、なくなる。2002年以前に自動昇格通知を受け取っている場合でも、この規定が適用される。

2）申請昇格とは

昇格対象期間内に規定の申請昇格の資格、得点、または順位を得た場合、申請すれば上位ライセンス区分に昇格する。明確な基準が定められている申請昇格については、その対象者にはその年の11月末日までにMFJより通知される。（ロードレースのジュニア→フレッシュマン、フレッシュマン→国内、及びドラッグレースのB級→A級の場合を除く）

申請昇格の権利を得て、翌年ライセンスを更新しなかった場合は、申請昇格の権利は、なくなる。

3）特別昇格とは

10 特別昇格およびその手続き（46頁）参照。

4）自動降格、特別降格とは

ライセンスの欠格期間による自動降格、本人の申請により審査される特別降格がある（46頁参照）。

5）再昇格規定とは

ライセンスを降格した者が上位入賞した場合、ライセンスは再度昇格する（46頁参照）。

4 自動昇格に必要な得点（ポイント）

1）自動昇格に必要な得点（以下ポイントという）は公認競技会の格式別に完走者に対しその

成績に応じて下記のように与えられる。（ドラッグレースは別途定める）

2）ジュニア部門の公認競技会におけるポイントは競技会の格式にかかわらず下記②その他の公認競技会のポイントとする。（トライアルは別途定める）

①全日本選手権・エリア選手権および地方選手権競技会(台数…予選出走台数)

順位＼台数	25以上	22-24	20-21	18-19	16-17	14-15	12-13	10-11	8-9	6-7	5	0-4
1位	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	不成立
2位	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	
3位	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15		
4位	13	13	13	13	13	13	13	13	13			
5位	11	11	11	11	11	11	11	11				
6位	10	10	10	10	10	10	10					
7位	9	9	9	9	9	9						
8位	8	8	8	8	8							
9位	7	7	7	7								
10位	6	6	6									
11位	5	5										
12位	4	4										
13位	3											
14位	2											
15位	1											

注：全日本ロードレース選手権は、別途「全日本選手権大会特別規則」（79頁参照）に定める。

②その他の公認競技会

	予選出走台数					
順位	12以上	10-11	8-9	6-7	5	0-4
1位	10	10	10	10	10	不成立
2位	9	9	9	9	9	
3位	8	8	8	8		
4位	7	7	7	7		
5位	6	6	6			
6位	5	5	5			
7位	4	4				
8位	3	3				
9位	2					
10位	1					

注：出走台数は、そのクラスの決勝レースのスタートラインに並んだ台数とする。ただし、公式予選がある場合は、予選のスタートラインに並んだ総台数とする。

5 ロードレースライセンスの昇格

1）ジュニア➡フレッシュマン・国内

自動昇格

(1) 当該年度に16歳になる者は、誕生日前でも自動的にフレッシュマンとなる。

申請昇格

(1) ジュニアライセンスにて承認・公認レースに参加し、優秀な成績をおさめ昇格を希望する者は、参加した競技会の主催者推薦を得て申請しなければならない。MFJ中央スポーツ委員会で認められた場合にフレッシュマンまたは国内ライセンスに昇格できる。年度の途中でも申請できるが、申請料5,000円（ライセンス料金含む）を必要とする。

2）フレッシュマン➡国内

申請昇格

下記条件のいずれかを満たし申請することにより、国内ライセンスを随時取得できる。年度の途中でも申請できるが、ライセンス追加料金3,000円を必要とする。

(1) 公認サーキットでの３時間走行証明印を得る（複数のサーキットで走行時間の合計は不可）。

※走行証明の有効期間は発行より１年間。

(2) 承認ロードレース競技会にて６位以内の成績を修めること。（過去２年以内）

(3) 承認ロードレース競技会にて過去２回以上参加した実績を有する。（過去２年以内）

(4) 国内ライセンス講習会を受けること。

※講習会終了証の有効期限は受講日より６ヶ月。

3）国内➡国際

1　地方選手権

自動昇格

毎年1月～10月に開催された各地方選手権のGP125/250で、以下のポイントで自動昇格する（昇格の拒否はできない）。

北海道（HSP選手権、十勝選手権の合計）	60点以上
SUGO選手権	60点以上
仙台選手権	60点以上
エビス選手権	50点以上
関東選手権（筑波・富士・もてぎ）	50点以上
筑波選手権	50点以上
富士選手権	50点以上
間瀬選手権	50点以上
那須選手権	60点以上
もてぎ選手権	50点以上
鈴鹿選手権	50点以上
近畿選手権（猪名川・セントラル）	60点以上
西日本選手権（CP MINÉ）	50点以上
TI選手権	50点以上
九州選手権（SPA直入・オートポリス）	50点以上

申請昇格

SP250/400・ST600/SS600にて上記の自動昇格ポイントを得た場合は、申請により国際ライセンスに昇格する。ただし昇格を希望する場合、昇格手続きが完了するまで競技へ出場できない。

※申請期限：2003年2月末日消印有効

2　エリア選手権

(1)　エリア選手権のGP125/250/スーパーバイクでポイントを40点以上獲得した者は自動昇格する（SPクラス・ST600/SS600で40点以上の者は申請により昇格できる）。

(2)　エリア選手権に国内ライセンスにて出場し優勝した場合は、申請により国際ライセンスに昇格する。この権利はその年度内（12月31日まで）を申請期限とする。その年度内であれば、優勝直後に昇格しなくてもよい。

6 モトクロスライセンスの昇格

1）ジュニア➡国内B級

(1)　自動昇格

当該年度に16歳になる者は誕生日前でも自動的に国内B級となる。

(2)　申請昇格（申請期日：12月31日消印有効）

公認競技会（10月31日まで）において各地方で下記に示す得点以上を獲得し、昇格申請を提出した者。（複数の地方ブロックにまたがる得点の合計はしない。）

注：得点は［④自動昇格に必要な得点］（41頁）による。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	20	20	20	20	20	20	20	20

(3)　特別審査

その他、上記の基準と同等の技量を持つ者とモトクロス委員会にて承認推薦され、かつMFJ中央スポーツ委員会が承認した者。（年度途中でも申請でき、申請料は5,000円ライセンス料含む）

2）国内Ｂ級➡国内A級

(1) 自動昇格

公認競技会（10月31日まで）において各地方で下記のポイントを得た者（複数の地方ブロックにまたがるポイントの合計はしない。）

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	40	40	50	40	40	50	70	50

3） 国内A級➡国際B級

(1) 自動昇格

公認競技会（10月31日まで）において各地方で下記のポイントを得た者（複数の地方ブロックにまたがるポイントの合計はしない。85ccクラスは昇格の対象としない）

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	85	85	50	70	70	70	110	70

4）国際Ｂ級➡国際Ａ級

(1) 自動昇格

全日本選手権ランキングで各クラス１位～６位にランクされた者。

(2) 申請昇格

地方ブロックの地方選手権にてシリーズチャンピオン（250cc、125cc）となり本人が希望し、かつ当該ブロックの許可を得た者。（申請期日：12月31日消印有効）

5）オフロード全国大会選抜クラスの昇格

(1) 申請昇格（申請期日：12月31日消印有効）

a．選抜クラス総合優勝者の２階級昇格者

ジュニア➡国内Ａ級／国内Ｂ級➡国際Ｂ級／国内Ａ級➡国際Ａ級

b．選抜クラスで得たポイントは各地方ブロックの昇格ポイントに加算できる。

6）地方選手権におけるボーナスポイントについて

各地方選手権シリーズにおいて、年１戦のみボーナスポイント３点が加えられる。

※ ボーナスポイント対象大会については、各地方選手権カレンダーを参照すること。

7 トライアルライセンスの昇格

1）ジュニア➡国内Ａ級

自動昇格

ジュニア部門は国内Ｂ級部門との混走が認められ、昇格の基準は国内Ｂ級と同格に扱われる。（当該年度に16歳になる者は誕生日前でも自動的に国内Ｂ級となる）

2）国内Ｂ級➡国内Ａ級

自動昇格

公認競技会（10月31日まで）において各地方で下記のポイントを得た者（複数の地方ブロックにまたがるポイントの合計はしない）。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	45	70	45	50	50	45	70	45

注) 得点は細則10［④自動昇格に必要な得点］（41頁）による（地方選手権、その他の公認競技会による年間のポイントを昇格の基準とする）。

3）国内Ａ級➡国際Ｂ級

自動昇格

各地方ごとの地方選手権（10月31日まで）において、下記の人数でポイント上位の成績を得た者。ただし、同点者のある場合は、この人数を超えることができる。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
人数	2	3	12	5	6	6	3	3

4）国際B級➡国際A級

自動昇格

(1) 全日本選手権ランキングで、1位から8位にランクされた者。ただし、同点者のある場合はこの人数を超えることができる。

申請昇格

(1) 各地方の地方選手権にてシリーズチャンピオンとなり、本人が希望し、かつ当該ブロックの許可を得た者。（申請期限：12月31日消印有効）

5）その他

(1) **地方選手権におけるボーナスポイント**

各地方選手権において、ボーナスポイント3点が加算することができる大会が、年1戦開催される。

※ボーナスポイント対象大会は、各地方選手権カレンダー参照。

(2) トライアルグランドチャンピオン大会（11/12坂内バイクランド）グランドチャンピオンクラス（J／NB／NA混走）の上位10位（参加25台以上の場合）までの入賞者は、IBクラスへの昇格申請ができる。

(3) **全日本選手権　国際A級⇔国際A級スーパークラス**

1　申請昇格

全日本選手権国際A級ランキングで、1位から3位にランクされた者は、申請によりスーパークラスへ昇格できる。（申請期限：12月31日消印有効）

2　自動降格

全日本選手権国際A級スーパークラスランキングで11位以下の者およびポイントを獲得できなかった者は、翌年国際A級に自動降格となる。この場合、再昇格規定は適用されない。

8 ドラッグレースライセンスの昇格

B級部門➡A級部門

自動昇格

地方選手権、ストックバイククラスにおいて、50ポイント以上を得た者。

申請昇格（主催者に手続きをすることが必要）

(1) 悪天候などで開催数が少なかった場合、自動昇格に必要なポイントに満たない場合でも、申請昇格の対象となる。

(2) **主催者の推薦を受け、かつドラッグレース部会の許可を得た者。**

(3) **昇格の推薦ができる主催者とは、当人が出場する昇格対象競技会（地方選手権以上）の主催者である。**

9 自動降格の基準

1）ライセンスの更新がなされなかった場合は、その欠格期間（ライセンスを取得しなかった期間）によって次表のとおりライセンス等級が自動降格される。

●自動降格基準表　※2002年度ライセンスを取得した場合

種目 / 最終 / 部門 / ライセンス取得年	モトクロス・トライアル				ロードレース	スノーモビル
	国内B級	国内A級	国際B級	国際A級	国際	A級
'00年（欠格1年）	国内B級	国内A級	国際B級	国際A級	国際	A級
'99年（欠格2年）	〃	〃	〃	〃	〃	〃
'98年（欠格3年）	〃	国内B級	国内A級	〃	〃	〃
'97年（欠格4年）	〃	〃	国内B級	国際B級	国内	B級
'96年（欠格5年）	〃	〃	〃	〃	〃	〃
'95年以前	〃	〃	〃	国内A級	〃	〃

※ロードレースライセンス（国際及び国内）の継続手続において、10年以上の欠格期間がある場合はMFJ公認サーキットの走行証明印を提示することが必要。

※ロードレースフレッシュマン（国内含む）ライセンスの継続手続において、10年以上の欠格期間がある場合は、MFJ公認サーキットのサーキットライセンス（当該年度有効のもの）を提示することが必要。

10 特別昇格およびその手続き

1）昇格基準と同等とみなされる成績を得た（当該年の11月１日以降の公認競技会の成績も考慮される）者で、昇格を希望する者は、特別昇格の申請ができる。

2）申請は、前年の11月１日から12月31日までMFJ事務局に到着することを要し、それ以外の申請は受理されない。

3）申請は所定の申請書に必要事項を記入し、所属するMFJ地方支部の承認を得て、MFJ事務局に申請するものとする。

なお、所定の申請書は、MFJ事務局に用意されており、請求に応じて送付される。

4）申請にあたっては、申請書に申請料3,000円を添えて、所属MFJ地方支部（21頁参照）に提出すること。

5）特別昇格についての最終決定はMFJ中央スポーツ委員会の審査結果による。

11 特別降格およびその手続き

1）MFJ競技ライセンス資格の降格を希望する者は次の手続きによって申請し、MFJ中央スポーツ委員会の審査によって認められた場合は、降格することができる。

2）前項の申請は、特別降格をしようとする前年の11月１日から12月31日までMFJ事務局に到着することを要する。申請者の用紙は、MFJ事務局に準備され、それに必要事項を記入し申請料3,000円を添えて、MFJ地方支部の承認を得、MFJ事務局に申請する。

3）降格承認後は降格が決められた日より、その年度の終了する日まで、再昇格基準が適用される。

4）申請にあたっては、申請書に申請料3,000円を添えて、所属MFJ地方支部（21頁参照）へ提出すること。

5）特別降格についての最終的な決定は、MFJ中央スポーツ委員会の審査結果による。

※特別降格申請は、原則的にそのライセンス区分にて、得点を得られないまま１年以上経過した者のみを対象とする。

12 再昇格基準

ライセンスの降格があった者が、次の基準に適合することとなった場合は、原則として次の競技会からライセンス等級がひとつずつ再昇格する。自動降格により２段階以上降格した場合、その年度内であればひとつずつ２段階の昇格も認められる。基準に適合した者は、昇格されたライ

センスと引き換えに旧ライセンスを、MFJ事務局に返納しなければならない。(但し、この規則は特別降格申請が認められた年度および自動降格が適用された年度のみ適用する。この規則は、欠格期間が10年以上ある場合は適用されない。)

1）**ロードレース**

(1) 地方選手権以上のシリーズ大会において、原則として優勝した者。

(2) 公式記録によるラップタイム等により、MFJ中央スポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

2）**モトクロス**

(1) 国際B級部門から国内A級部門に降格した場合は、MFJ中央スポーツ委員会にて審議し、承認された者。

(2) 国内B級部門に降格した場合は、MFJ公認競技会において優勝した者。

(3) MFJ中央スポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

3）**トライアル**

(1) 国際B級部門に降格した場合、全日本選手権シリーズにおいて優勝した者。

(2) 国内A級部門に降格した場合は、地方選手権シリーズにおいて優勝した者。

(3) 国内B級部門に降格した場合は、MFJ公認競技会において優勝した者。

(4) その他MFJ中央スポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

付則

本規則は、2002年1月1日から施行する。

全日本選手権ランキング決定基準

1）全日本選手権ランキング順位決定方法

全日本選手権ランキングの順位づけは次の方法により決定される。

(1) 全日本選手権シリーズ大会で得たすべての得点を合計し、総合得点の多い者から順位を決定する。ただし、獲得点数が40点未満の場合はチャンピオンとせず、ランキング2位とする。

(2) 上記1）で同点となった場合、上位順位獲得回数の多い者が上位となる。

例：同点の者どうしで1位を獲得した回数で比較し、多い者が上位。これでも同位の場合、2位を獲得した回数を比較する。以下、下位まで同様に比較する。

(3) 上記2）で決定できない場合、最終戦上位の者を上位とする。

(4) 上記3）で決定できない場合、前年度のランキング上位の者を上位とする。

(5) 上記4）で決定できない場合、MFJ中央スポーツ委員会において最終決定する。

全日本選手権ランキング認定表彰式典

全日本選手権ランキング決定基準に基づき決定された、下記の全日本選手権各クラス上位1位～3位の者は、その栄誉をたたえ、2002年MFJ全日本選手権ランキング認定表彰式にて表彰される。受賞者は必ず出席しなければならない。

ロードレース	モトクロス	トライアル	ドラッグレース	スノーモビル
国際GP125	国際A級125	国際A級スーパークラス	A級プロストックバイククラス	スーパークラス
国際GP250	国際A級250	国際A級		
国際スーパーバイク	国際B級125	国際B級		
国際S-NK	国際B級250			
国際ST600				

付則2 MFJアンチドーピング規定

第1章　総則

第1条

ドーピングは、スポーツと医学の倫理に反する。

財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会（以下「本協会」という）は、オリンピックムーブメントアンチ・ドーピング規程、JOCアンチ・ドーピング規定並びにFIMメディカル・コードを尊重し、アンチ・ドーピングを推進する。

第2条

本協会は、ドーピングを禁止する。

第3条

ドーピングとは、オリンピックムーブメント　アンチ・ドーピング規程別表A並びにFIMメディカルコードに規定された禁止物質の使用および禁止方法に該当することをいう。

第4条

本協会は、本協会が公認・承認する競技会に出場する選手、および本協会が国際競技大会へ派遣する日本代表選手(候補を含む)を対象としてドーピング検査を行う。

第5条

第4条に規程される競技者は、本協会から要請があった場合には、ドーピング検査を受けなければならない。

検査を拒否した場合は、理由の如何に関らず陽性と判断され、制裁が課される。

第6条

本協会は、ドーピングを行った競技者に対して制裁を課す。

競技者にドーピングを強要したり、勧めた者、また競技者のドーピングを手助けしたり、容認した者にも制裁を課す。

第7条

ドーピングを行わないことは、競技者自らの義務と責任である。

競技者から禁止物質が検出された場合には、ドーピングの推定を反証する責任は当該競技者にある。

第2章　本協会が実施するドーピング検査

第8条

ドーピング検査は、事前の通告をもって、または通告無しに実施される。

第9条

ドーピング検査は、本協会ドーピングコントロール委員会が任命する検査員により、検査員の指定する場所において実施される。

第10条

検体採取は、細則で定める手続きに従って行われる。

検体の分析結果に影響するとは考えられない些細な手続きの違いは、結果に対する影響はないものとする。

第11条

検体の分析はIOC認定の検査機関で行われる。

第12条

検体の分析は、オリンピックムーブメント　アンチ・ドーピング規程並びにFIMメディカルコードに則って行われる。

第3章　結果の通告と制裁の手続き

第13条

検査機関からの検査結果は、本協会ドーピングコントロール委員会委員長または委員長が指定する代理委員に通告される。

第14条

A検体が陽性であった場合には、本協会ドーピングコントロール委員会委員長またはその代理委員は、本協会会長に報告し、競技者へは文書で通告する。

第15条

競技者は通知を受けてから14日以内にB検体の確認検査を要求できる。

競技者が確認検査要求の権利を放棄するか、14日以内に確認検査を要求しない場合には、ドーピング検査陽性と認定される。

第16条

B検体の検査には、本協会ドーピングコントロール委員会委員1名、本協会の代表者1名、選手

またはその代理人1名が立ち会うことができる。

第17条

B検体の検査結果は本協会ドーピングコントロール委員会委員長または代理委員に報告される。

本協会ドーピングコントロール委員会委員長またはその代理委員は、検査結果を本協会会長に報告する。

第18条

B検体が陰性の場合には、ドーピング検査陰性とされる。B検体が陽性の場合には、ドーピング検査陽性とされる。

ドーピング検査陽性の場合には、本協会は当該競技者ならびに関わりのあった者に対して制裁を課す。

第19条

本協会は、制裁を決定する前に、競技者ならびに関係者に公正な事情聴取の場を設ける。

第20条

本協会は、本協会規則に従って制裁を課す。

第4章　制裁

第21条

競技者に対する制裁は、競技結果の抹消、日本代表選手の認定取り消しおよび本協会に関わる公認・承認競技会への参加資格の停止である。

制裁内容は以下のとおり。

(1)　厳重注意
(2)　資格停止　2年以内
(3)　資格停止　2年以上終身

第22条

競技者にドーピングを強要したり、勧めた者、また競技者のドーピングを手助けしたり、容認した者に対する制裁は、第21条に規程する制裁を上限として、必要な修正を加えて課す。

第5章　付則

第23条

このアンチ・ドーピング規程の施行についての規則は別に定める。

付則 1. この規程は、2002年 1 月 1 日から施行する。

MFJ アンチ・ドーピング規定

第１章　ドーピング検査の手続き

第1条

本協会ドーピングコントロール委員会が任命する検査員からドーピング検査を要請された競技者は、なるべく速やかに検査を受けなければならない。

検査員は本協会ドーピングコントロール委員会が発行した検査員としての任命証を競技者に提示する。

第2条

検査員が訪れた場合には、競技者はその時点で行っている活動を終了させるために必要な相当の時間を与えられる。なお、競技者は検査が行われるまで検査員の監視下になければならない。

検体採取は可能な限り速やかに行う。

第3条

ドーピング検査は検査員が指定する場所をドーピング検査室として実施する。

ドーピング検査室には、競技者の付き添い1名が同席することができる。

第4条

競技者はコードナンバーをひとつ選ぶとともに、密封された採尿容器の中からひとつを選び、同性の検査員の監視のもとで、75ml以上の尿を採取する。

第5条

競技者は、密封された検体容器セットの中からひとつを選び、尿をA、Bの検体容器に分けて入れ、検体容器を密封してコードナンバーシールで封印をする。

第6条

競技者は、過去3日間にさかのぼって、使用した薬物を申告する。

第7条

競技者ならびに付き添い人は検査用紙、検体容器のコードナンバーが一致していること、手続きが公正に行われたことを確認し、検査用紙に署名する。

第8条

検査員は、検査用紙、検体容器のコードナンバーが一致していること、検査用紙に記載漏れが無いかを確認して、検査用紙に署名する。

第9条

競技者がサンプル提供を拒否した場合、検査員は検体採取を拒否することにより競技者本人がこうむる不都合、すなわち、ドーピング検査を拒否したとみなされ処分をうけるということを、説明しなければならない。それでもなお競技者が検体提供を拒否する場合は、検査員はこの旨をドーピング検査用紙に記載、署名し、競技者にも署名するよう要求する。検査員は、他にも特記すべきことがあればドーピング検査用紙にその旨を記載する。

第2章　制裁決定までの手続き

第10条

A検体陽性の場合には、陽性と判明した時点で、当該競技者の本協会に関わる事業への参加資格は一時停止される。

第11条

ドーピング検査陽性の場合には、制裁の最終決定がなされる前に、当該競技者ならびに関係者には公正な事情聴取の場として第13条以下に定める裁定委員会が設けられる。

第12条

裁定委員会の審議をもとに、制裁を決定する。

第3章　裁定委員会

第13条

裁定委員会は、必要に応じてその都度設置する。

第14条

裁定委員会の委員は、MFJドーピングコントロール委員会委員長、当該種目委員会委員長及び副委員長により構成されることとし、必要に応じて本協会会長が委嘱する。

第15条

裁定委員会は、検査機関に検査データについての説明を、また本協会ドーピングコントロール委員会の意見を求めることが出来る。

鈴鹿へ行こう!! 走ろう!! 楽しもう!!

2002年の鈴鹿サーキットは、これまで以上にバリエーション豊かなレースが満載。鈴鹿ならではの世界最高峰レースから、全日本選手権、エリア・鈴鹿選手権、FUN&RUN! 2-Wheelsやワンデーヒーローズなど、迫力満点の観るレースだけじゃなく参加して、走って楽しいレースが目白押し。鈴鹿サーキットならきっと自分のスタイルに合ったレースが見つかるはず。
やっぱりモーターサイクルスポーツは鈴鹿だね。

[2002年鈴鹿サーキットロードレース暫定カレンダー]

※下記日程は今後変更となる場合がありますのでご注意ください。

選手権	大会名	コース	世界／全日本選手権							エリア選手権				鈴鹿サンデーロードレース											主催者
ライセンス			INT							INT・NAT				FRE-INT	NAT	FRE・NAT			FRE-INT		FRE・NAT				
クラス			SB/JSB1000/S-NK	Super Production(1000)	Stock Sport(1000)	MotoGP	GP250	GP125	ST600	SB/JSB1000/S-NK	GP250	GP125	ST600	SSS600	GP250	GP125	SP400	SP250	SP OPEN	NK4 OPEN	NK4	ST600	ST250	NK-ST	
2/17	FUN&RUN! 2-Wheels	東												◆											鈴鹿サーキット
3/17	鈴鹿サンデーロードレース第2戦	東									○					○		◆		◆		◆	◆	◆	鈴鹿サーキット
4/5～7	World Grand Prix SUZUKA	全				★	★	★		○			○	◆											鈴鹿サーキット
4/27・28	FUN&RUN! 2-Wheels Endurance Special	東												◇2耐											鈴鹿サーキット
5/6(祝)	鈴鹿サンデーロードレース第4戦	西									○		○		○	○		◆		◆			◆	◆	鈴鹿サーキット
5/25・26	鈴鹿スーパーバイク200km	全	☆				☆	☆	☆			○										◆			鈴鹿サーキット
6/22・23	鈴鹿サンデーロードレース第6戦	全									○	○			○	○		◆		◆		◆	◆	◆	鈴鹿サーキット
7/19～21	鈴鹿U-4 OPEN 4時間耐久ロードレース	全								○			○	◆				◆U-4 OPEN 4耐					◆2耐	◆2耐	鈴鹿サーキット
8/1～4	"コカ・コーラ" 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第25回大会	全		★8耐																		◆4耐			鈴鹿サーキット
9/14・15	鈴鹿スーパーバイクレース R²-1秋祭り	全	☆				☆	☆	☆																鈴鹿サーキット
9/22	FUN&RUN! 2-Wheels	東												◆											鈴鹿サーキット
10/20	鈴鹿サンデーロードレース第10戦	西										○			○	○		◆				◆	◆	◆	鈴鹿サーキット
11/2・3	UFJカードカップ 2&4レース	全	☆																						鈴鹿サーキット
11/10	FUN&RUN! 2-Wheels Historic Special	東												◆											鈴鹿サーキット
11/30・12/1	第38回NGK杯MFJエリアグランプリ	全								◎	◎	◎	◎	◆	○	○				◆		◆			鈴鹿サーキット
	開催戦数									2	2	3	3	6	4	5	5	5	5	5	5	6	5	5	

※鈴鹿選手権SSS600は、エリア選手権SB/JSB1000/S-NK、またはFUN&RUN! 2-WheelsのS-NK(X-F/NK1/NK1-R)と混走となります。

[2002年FUN&RUN! 2-Wheels暫定カレンダー]

※FUN&RUN! 2-Wheelsは、エントリー台数が少ないクラスについては他クラスとの混走レースとなる可能性があります。

選手権	大会名	コース	FUN&RUN! 2-Wheels																			主催者
ライセンス			FRE-INT																			
クラス			Small Battle Royal: GP80・SS	Small Battle Royal: SP125+ST150	Small Battle Royal: NK-ST	Small Battle Royal: Aprilia RS250	L-Twin Air/Water	DUCATI CUP	BOXER TROPHY	X-Formula Single・I/II	X-Formula Twin・I/II	参加型 OPEN	LEGEND	Ladies	S-NK (X-F/NK1/NK1-R)	ROAD STAR WARS・I/II	ROAD STAR EXPERT	ROAD STAR・I/II	SPEED CHAIR	SIGNAL GP	Historic Bike	
2/17	FUN&RUN! 2-Wheels	東					□			□				□	□	□		□				鈴鹿サーキット
4/27・28	FUN&RUN! 2-Wheels Endurance Special	東		□			□	□		□		□	□	□	□2耐	□		□		□		鈴鹿サーキット
9/14・15	鈴鹿スーパーバイクレース R²-1秋祭り	東														□				□		鈴鹿サーキット
9/22	FUN&RUN! 2-Wheels	東		□			□	□				□	□		□			□				鈴鹿サーキット
11/10	FUN&RUN! 2-Wheels Historic Special	東		□					□	□		□	□	□	□						□	鈴鹿サーキット
	開催戦数		3	3	3	3	3	2	1	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	2	1	

★…世界選手権
☆…全日本選手権
◎…MFJエリアGP
○…自動昇格対象種目
●…申請昇格対象種目
◆…特別昇格可能種目
■…自動昇格対象期間外種目
□…昇格対象外種目
◇…シリーズポイント対象外種目

[2002年南コースロードレース暫定カレンダー]

※鈴鹿ワンデーヒーローズレースは、エントリー台数が少ないクラスについては他クラスとの混走レースとなる可能性があります。

選手権	大会名	コース	FUN&RUN! 2-Wheels																							主催者
ライセンス			FRE・NAT		J・FRE・NAT			L・J・FRE・NAT										FRE-INT	MFJ Lライセンス以上又は運転免許証							
クラス			GP125	NK-ST	ST250	ST150	GP80	GP-mini	SB-OP	SB-P2	SB-P4	SB-P5	SB-mini	SB-P-mini	ROAD STAR WARS	ROAD STAR	SPEED CHAIR	ターミネーター 250	ターミネーター LADYS	ターミネーター KIDS	FTR	TTR125	グラストラッカー	Dトラッカー	個人(エンジン)	
3/24	鈴鹿ワンデーヒーローズレース Spring Round	南	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□										Jレーシング
5/12	ALL JAPAN STREET BIKE GAMES	南													□	□		□	□	□		□			□	鈴鹿サーキット
6/9	鈴鹿ワンデーヒーローズレース Early Summer Round	南	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□										Mr.Hiro
9/1	鈴鹿ワンデーヒーローズレース Summer Round	南	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□										Mr.Hiro
10/6	鈴鹿ワンデーヒーローズレース Autumn Round	南	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□										Jレーシング
	開催戦数		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	4	1	1	1	1	1	1	1	1	

ここに注目!! 鈴鹿サンデーロードレースは
「SP-OPEN」「NK-OPEN」新設!!
※詳しくは、鈴鹿サーキットSMSCまでお問い合せください。
鈴鹿U-4(アンダー・フォー)OPEN 4耐 誕生!!

ファンランは… BOXER TROPHY&DUCATI CUP、ROAD STAR EXPERTを新設!!
ワンデーは…ROAD STAR WARSを追加!!
参加型全日本!?…All Japan Street Bike Games鈴鹿上陸!!

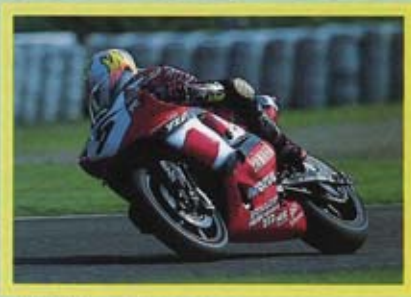
走行ライセンスのご案内

SMSC会員には鈴鹿サーキット開催レース入場無料(世界選手権除く)やサーキットホテルの宿泊割引など様々な特典がございます。SMSCライセンスについての詳細は、鈴鹿サーキット／SMSC事務局までお問い合せください。
●2輪会員(国際レーシングコース／南コース) ●ミニバイク会員(南コース) ●RIDE ON CLUB(ナンバー付バイク・南コーススポーツ走行会員)
講習日：世界選手権レースの開催がない日曜日(あらかじめTELにてご確認ください)
※レース・スポーツ走行でライダーをアシストされる方のための「ピットクルーパスポート会員」も募集しております(講習不要・毎日受付中)。

SUZUKA CIRCUIT www.suzukacircuit.co.jp
〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992 鈴鹿サーキット／SMSC事務局 TEL：0593-78-3405

主催者／参加申込先
■ミスターヒロ 〒580-0012 大阪府松原市立部2-499-1 TEL：0723-36-1550
■Jレーシング 〒468-0058 名古屋市天白区植田西3-901 TEL：052-802-0117

2002 SUGO



2002 SUGO MOTORSPORTS CALENDAR

(レース日程は2001年11月現在、暫定)

開催日		RACING COURSE	KART COURSE	MOTOCROSS COURSE	TRIAL COURSE
3月	17(日)		SUGOカートレース第1戦	YAMAHAチャレンジエンデューロ	
	24(日)		地方選手権ジムカーナ		
	31(日)		FK-9カート&ミニバイクレース		
4月	7(日)	SUGOロードレース選手権第1戦			
	14(日)	ビクトリーカップ4輪レース(4輪)	SUGOカートレース第2戦		
	21(日)	スーパーバイク世界選手権レース			
	28(日)			YAMAHAオフロードフロンティアレース	
5月	3(祝)		JMRCジムカーナ南北戦		
	5(日)	SUGOロードレース選手権第2戦			
	12(日)			YAMAHAチャレンジエンデューロ	
	19(日)		SUGOカートレース第3戦		東北トライアル選手権第3戦
	26(日)	全日本GT選手権レース(4輪)		全日本ATV選手権	
6月	2(日)	SUGOスプリングサウンドフェスティバル	全日本カートレース		
	9(日)	全日本ドラッグレース第3戦		全日本モトクロス選手権第5戦	
	23(日)	SUGOロードレース選手権第3戦	SUGOカートレース第4戦		
	30(日)		FK-9カート&ミニバイクレース		
7月	7(日)	ミニバイク4時間耐久レース			
	14(日)	ビクトリーカップ4輪レース(4輪)		YAMAHAオフロードフロンティアレース	
	21(日)	SUGOロードレース選手権第4戦	SUMMER FESTIVAL		宮城県トライアル選手権第2戦
8月	4(日)	フォーミュラニッポン第6戦(4輪)			
	11(日)	SUGOサマーサウンドフェスティバル			
	14(水)	SUMMER BIKE DAY	ナイトジムカーナ	SUMMER OFFROAD DAY	SUMMER BIKE DAY
	16(日)		全日本ジムカーナ		
	25(日)	EVエコラン		東北モトクロス選手権第6戦	
9月	1(日)	全日本ロードレース選手権第6戦		YAMAHAチャレンジエンデューロ	
	8(日)		SUGOカートレース第5戦		
	15(日)			アジア選手権モトクロス大会	
	16(祝)				
	22(日)	SUGOロードレース選手権第5戦			東北トライアル選手権第8戦
	29(日)		地方選手権ジムカーナ	全日本ATV選手権	
10月	6(日)	スーパー耐久レース最終戦(4輪)			
	13(日)	SUGOオープン耐久ロードレース	SLカート全国大会	YAMAHAオフロードフロンティアレース	
	20(日)	SUGOオータムサウンドフェスティバル			
	27(日)		JMRCジムカーナ南北戦	全日本モトクロス選手権日本GP	全日本トライアル選手権
11月	3(日)	SUGOロードレース選手権第8戦			
	10(日)	ビクトリーカップ4輪レース(4輪)	SUGOカートレース第6戦		
	23(祝)		FK-9耐久レース		
12月	8(日)		ウインターカート耐久レース	YAMAHAチャレンジエンデューロ	

※上記レースの開催日程はまだ暫定のものです。変更または中止となる可能性もありますので、ご注意ください。

情報満載SUGOホームページ公開中!!
アドレスは、http://www.spoortsland-sugo.co.jp

SUGO
〒989-1394
宮城県柴田郡村田町菅生6-1
TEL 0224(83)3111(代)

サンデーレースからグランプリまで
ライディングスポーツはロードレースを観る人、
ロードレースをやる人を応援します

RIDERS' SPIRIT FROM MOTORCYCLE SCENE
SINCE 1982

RIDING SPORT

月刊ライディングスポーツは毎月24日発売　定価650円

NEWs PUBLISHING CO.,INC.
株式会社 ニューズ出版

〒154-8575　東京都世田谷区三宿2-4-7
TEL:03-5430-4440　FAX:03-5430-4455
E-mail:news-pub@news-pub.com

ニューズ出版インターネットホームページ
http://www.news-pub.com/
(弊社の刊行物に関する情報をご案内します)

TSUKUBA CIRCUIT

2002 TSUKUBA CIRCUIT ROADRACE CALENDAR

◆TSUKUBA ROADRACE CHAMPIONSHIP SERIES

開催日	大会名	申込期間	GP250	GP125	SP400	SP250	SP125	GP125B	S80	GP80	N-NK	F3	New Category
			N	N·F	N·F	N·F	N·F	N·F	I·N·F·J	N·F·J	N·F	I·N	
3月23日(土) 24日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第1戦	2/12(火) ～2/22(金)	★	★	☆	☆	☆		☆	☆	☆	☆	
4月14日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第2戦	3/5(火) ～3/15(金)	★	★	☆	☆		☆	☆				
5月11日(土) 12日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第3戦	4/2(火) ～4/11(木)										☆	
6月2日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第4戦	4/22(月) ～5/2(木)	★	★				☆	☆		☆		♪
7月6日(土) 7日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第5戦	5/27(月) ～6/6(木)	★	★	☆	☆	☆			☆	☆	☆	♪
9月15日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第6戦	8/6(火) ～8/16(金)	★	★				☆	☆			☆	♪
10月26日(土) 27日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第7戦	9/17(火) ～9/27(金)	★	★	☆	☆	☆		☆	☆	☆		♪

★…自動昇格(資格)対象　／　☆·○·◆…昇格対象外

◆MFJ ALL JAPAN ROADRACE CHAMPIONSHIP SERIES

開催日	大会名	申込期間	SB/S-NK	GP250	GP125	ST600
			S	S	S	S
5月11日(土) 12日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦	4/2(火) ～4/11(木)	●	●	●	●

◆KANTOH CHALLENGE CUP ROADRACE CHAMPIONSHIP SERIES <EAST AREA>

開催日	大会名	申込期間	SB/S-NK	GP250	GP125	ST/SS600
			I·N	I·N	I·N	I·N
3月23日(土) 24日(日)	関東チャレンジカップロードレース選手権 シリーズ第1戦<イーストエリア>	2/12(火) ～2/22(金)	○	○	○	○
10月26日(土) 27日(日)	関東チャレンジカップロードレース選手権 シリーズ第7戦<イーストエリア>	9/17(火) ～9/27(金)	○	○	○	○

※F3は筑波TTでの開催を含め全5戦のシリーズ戦とします。
※11/17(筑波TT)にS80スペシャルステージを開催します。
　尚、この大会にシリーズポイントは与えられません。
※♪の詳細は後日 発表いたします。
※GP125B／SP125／GP80は、2002年をもって廃止します。
※SP400／SP250／N-NKは、2003年をもって廃止予定です。

<ライセンス区分>
S：スーパーライセンス　F：フレッシュマン　L：レジャー
I：国際ライセンス　J：ジュニア　T：筑波ライセンス
N：国内ライセンス　P：ピットクルー　U：運転免許証

◆TSUKUBA TOURIST TROPHY

開催日	大会名	申込期間	NS1	NS2	NT	NB	NM	SRF465	GrassTracker	DUCATI	RETRO50	OFB	F3	S80
			N·F	N·F	N·F	N·F	N·F	F·T·U	F·T·U	N·F	N·F·J·P·T·U	I·N·F	I·N	I·N·F·J
2月23日(土)	筑波ツーリスト・トロフィー in FEBRUARY ～RIDERS & MOTORCYCLE ENJOY FESTIVAL～	1/15(火) ～1/25(金)	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇					
6月23日(日)	筑波ツーリスト・トロフィー in JUNE ～RIDERS & MOTORCYCLE ENJOY FESTIVAL～	5/14(火) ～5/24(金)	◇	◇	◇	◇		◇	◇	◇				
11月16日(土) 17日(日)	筑波ツーリスト・トロフィー in NOVEMBER ～RIDERS & MOTORCYCLE ENJOY FESTIVAL～	10/7(月) ～10/17(木)	◇	◇	◇	◇	◇	◆	◆	◆	◇	◇	◆	◆

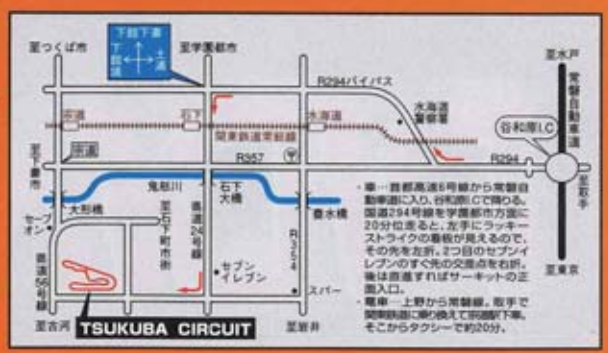
筑波サーキットライセンスのご案内

★ファミリーライセンス
サーキット走行を気軽に、あるいは趣味として楽しみたい方などからスポーツ走行へのステップとして、入門者から中級者を対象としています。

★講習会スケジュール
1月14日(祝)·26日(土)　7月6日(土)·27日(土)
2月11日(祝)·16日(土)　8月17日(土)·31日(土)
3月9日(土)·30日(土)　9月21日(土)
4月27日(土)　10月5日(土)·19日(土)
5月4日(祝)·18日(土)　11月2日(土)·24日(日)
6月15日(土)　12月8日(日)·21日(土)
※ 当日13:00～14:00にサーキットにて受付。予約の必要はございません。
※ 日程・時間等は都合により変更する場合がございます。予めお問い合わせの上ご来場下さい。

★当日ご用意して頂くもの
●受講料　¥26,000
（予約金、MFJフレッシュマンライセンス取得料含む）
●身分証明書　●印鑑　●筆記用具
●顔写真3枚
●実技走行に必要な車両・装備
（ヘルメット・レーシングスーツ・グローブ・ブーツ）
●未成年の方は親権者の承諾書

★スポーツライセンス
ファミリーライセンス取得後に申請できるライセンス。本格的なサーキット走行を楽しみたい方、レースを目標としている方、もちろん出場されている方など、中級者から上級者を対象としています。
申請方法：●入会申込用紙　●入会金 ¥28,000　●顔写真 1 枚
以上を(財)日本オートスポーツセンターまで現金書留にてご郵送下さい。



・車…首都高速6号線から常磐自動車道に入り、谷和原I.Cで降りる。国道294号線を宇都宮市方面に20分位走ると、左手にラッキーストライクの看板が見えるので、その先を左折。2つ目のセブンイレブンのすぐ先の交差点を右折。後は直進すればサーキットの正面入口。
・電車…上野から常磐線、取手で関東鉄道に乗り換えて下館駅下車。そこからタクシーで約20分。

お問い合わせ・お申し込み先

財団法人日本オートスポーツセンター（JASC）
〒104-0041　東京都中央区新富1－9－6新富一丁目ビル6F
TEL:03-3555-6051
FAX:03-3555-1048
ホームページアドレス　http://www.jasc.or.jp

筑波サーキット
〒304-0824　茨城県結城郡千代川村村岡字西原
TEL:0296-44-3146
FAX:0296-43-2952

発行：株式会社ジック・CSルーム
〒150-0002 渋谷区渋谷1-3-18ビラモデルナ
TEL:03-3499-0474 FAX:03-3499-0589
編集：株式会社ジック・CSルーム
〒106-0044 港区東麻布1-5-6麻布日比野ビル
TEL:03-5570-8581 FAX:03-5570-7050
■ http://www.cyclesounds.co.jp e-mail:editor.cyclesounds.co.jp

2002年 ツインリンクもてぎで あなただけの バイクライフを楽しもう!!

2002年もツインリンクもてぎでは参加型イベント「もて耐」から世界GP、トライアル選手権などの幅広いモーターサイクルイベント、そして気軽に参加できるプログラムまでライダーのための内容充実です。
ぜひツインリンクもてぎであなただけのバイクライフをみつけてください。

ツインリンクもてぎで観戦する!!

2002年ツインリンクもてぎモーターサイクルイベント開催スケジュール

6月22日(土)・23日(日)

2002年 R^-1 MFJ
全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦
もてぎスーパーバイクレース

8月23日(金)~25日(日)

サマー・エンデュランス・カーニバル
2002もてぎオープン7時間耐久ロードレース
もて耐

9月7日(土)・8日(日)

2002 FIM
トライアル世界選手権シリーズ
ウイダー日本グランプリ

10月4日(金)~6日(日)

FIM2002
ロードレース 世界選手権シリーズ 第13戦
Pacific Grand Prix of MOTEGI

チケットに関するお問い合せ:ツインリンクもてぎチケット&インフォメーション 0285-64-0080/03-3278-0777

ツインリンクもてぎで体験する!!

ツインリンクもてぎでは、どなたでも気軽にご参加いただけるモータースポーツ参加型プログラムをご用意しています。
初めての方から、レースに参戦してみたいという本格派の方まで、きっとご満足いただけるプログラムがみつかります。

1day GET MFJ ライセンス (一般・会員) ¥17,000~

たった1日でMFJライセンスを取得でき、同時にツインリンクもてぎのサーキットライセンスも取れるという画期的なプログラム。

TT-MOTEGI (会員) ¥7,000

TTとはタイムトライアルの略。もてぎを走り込んで自信がついてきたらTT-MOTEGIに参加してベストタイムを競う。気分はすっかりレーシングライダーだ!

スキルアップミーティング (会員) ¥11,000

会員のための走行会プログラム。腕を磨きたい、マシンセッティングが分からないという人は、是非このプログラムでスキルアップを!

丸山浩のサンデーレースやろうぜ! 二輪 (一般・会員) ¥11,000~

アドバイザー丸山浩氏がレース参戦のためのノウハウを伝授。レースに出てみたいと考えているあなたにピッタリのプログラムだ。

ダートトラッカー スクール (一般・会員) ¥13,000~

ダートトラックをこれから始めようという方に最適なのがこのプログラム。レンタル車両(XR100、SL230、FTR223)が用意されているので、気軽に参加しよう。

ダートトラッカー パーティー (一般・会員) ¥2,500~

気軽に楽しくダートトラック走行を体験できるイベントがダートトラッカーパーティー。もちろんレンタル車両(XR100、SL230、FTR223)も用意されている。(別料金)

※会員:T.R.M.C.-SPORTS(ツインリンクもてぎクラブ・スポーツ)/ツインリンクもてぎのコース走行をお楽しみいただけるクラブ会員制度です。※上記内容は変更になる場合もございます。詳しくはお問い合わせください。

●各プログラムの詳しいお問い合せ
開催日程などの詳細はhttp://www.twinring.co.jp/ モータースポーツカテゴリーで、Eメールでのお問い合せは motorsports@twinring.co.jp
ツインリンクもてぎモータースポーツ課 TEL.0285-64-0200/FAX.0285-64-0209

いろいろ楽しさいっぱい!

ツインリンクもてぎの
アミューズメント&ホテル

▲プレイングカート50 ▲プレイングジェットカー ▲ホテルツインリンク
▲サイドバイサイド ▲ロックカーエクスペリエンス ▲料理

とにかくサーキットを走りたいあなたに!!
会員募集中!
T.R.M.C.-SPORTS
ツインリンクもてぎ クラブ-スポーツ

特典
ツインリンクもてぎの国内レース(一部を除く)の観戦無料
・通常営業日の入場・駐車料金が無料
・レース開催日、当日券が10%OFF
・ツインリンクもてぎ場内のレストラン、ショップでのご利用代金3%OFF(一部を除く)
・ホテルツインリンクの宿泊料10%OFF

お問い合せ:0285-64-0200 モータースポーツ課

TWIN RING MOTEGI

〒321-3597
栃木県芳賀郡茂木町桧山 120-1
TEL:0285-64-0001(代)
FAX:0285-64-0009

〒104-0028
東京都中央区八重洲 2-6-20
ホンダ八重洲ビル
TEL:03-3278-0777
FAX:03-3278-0733

http://www.twinring.co.jp

※2002年3月1日より、ツインリンクもてぎのホームページアドレスは、http://www.twinring.jpとなります。
※イベント、スケジュールは変更になる場合がございます。

Honda Racing mini shoulder
¥3,200

Honda Racing t shirt A
¥2,400

Honda Racing t shirt B
¥2,800

Honda Racing trio pen ¥4,500
Honda Racing binder ¥1,800
Honda Racing mug ¥900

combination world time II
¥19,800
※写真は撮影サンプルのため、すべてのダイヤル表示をONの状態にしたもので、実際の表示とは異なります。

Honda official Wear & Goods

デザイン、カラーリングに、素材へのこだわりに、
Hondaスピリットが息づく。
約300アイテムのウェア&グッズ、
そのひとつひとつにこめた熱い思いを、
ぜひあなたにも体感してほしい。

combination world time I
¥19,800
※写真は撮影サンプルのため、すべてのダイヤル表示をONの状態にしたもので、実際の表示とは異なります。

Honda Racing cap
¥2,400

1 Honda Racing key holder A ¥1,000
2 Honda Racing key holder C ¥1,000

Honda Racing key case ¥2,900
Honda Racing wallet ¥5,800
Honda Racing watch ¥7,800

Honda Racing windbreaker
¥4,800

Honda Racing long sleeve t shirt
¥3,500

Honda Racing bottle holder
¥800

この他にも幅広い商品をラインアップしています。詳しくはカタログをご請求ください。※掲載商品の価格は、すべて希望小売価格で消費税は含まれておりません。

各商品のご注文とカタログ請求はお電話で承ります。受付時間:am9:00～pm9:00 年末年始を除き年中無休

0120-846-366 インターネット [http://www.honda.co.jp/HDC/]

社団法人 日本通信販売協会会員

- FAXでは24時間受け付けています。詳しくはお問い合わせください。
- お支払いは代金引き替え、もしくは各種クレジットカードがご利用になれます。
- お買い上げ金額の合計が2,000円以上から承ります。
- お買い上げ金額が5,000円未満の場合、送料として700円をご負担いただきます。
- 表示価格及び送料には、それぞれ消費税5%をご負担いただきます。
- 返品、交換は商品到着後1週間以内にご連絡ください。なお、お客様のご都合によるご返品の場合、返送料はお客様の負担となりますのでご了承ください。
- 商品はお申し込み後、約2週間でお届けします。また2点以上ご注文の際、まとめてお届けできない場合には、ご連絡させていただきます。
- 掲載の商品はすべて限定販売です。品切れの際はご容赦ください。

株式会社ホンダダイレクトマーケティング 〒107-0061 東京都港区北青山1-2-3 青山ビルデング13F TEL.03-3423-3616

Honda Direct Marketing Corp.

WAKO'S

Taro Sekiguchi Get the Champion!

2001年全日本選手権
GP250チャンピオン
club ventis所属
関口太郎選手

関口選手の使用するWAKO'Sと、あなたの使うWAKO'Sはまったく同じものです。
そう、あなたの手にしているのはチャンピオンオイルなのです!

2-STROKE ENGINE OIL | **4-STROKE ENGINE OIL** | **BRAKE FLUID**

RV-R
混合専用。高度にチューニングされたエンジン、レーシングエンジン用オイル。高い潤滑性能を持ちながらセッティング能力に優れ、無駄ハイオク仕様ロードレースで真価を発揮する。

化学合成油+変性植物油
1L/3,800円

WR-S
流体潤滑を徹底的に追求し、ベースオイルにこだわり、熱ダレに強く、過酷な条件でこそ、その真価を発揮するレーシング&チューンドマシン専用オイル。

10W-30・20W-50
100%化学合成油
2L/7,000円

4CR
2輪、4輪を問わずストリートからサーキット仕様まで適応する、高性能ガソリンエンジンオイル。特に高速走行(サーキット走行、レース等)で真価を発揮する。

5W-40・15W-50
100%化学合成油
1L/3,000円

SP-R
制動力の高性能とは何かを徹底追及し、手応え優先・効き重視を両立したブレーキフルード。連続のハードブレーキング時でもグットタッチを維持する。(公道使用可)

スーパープロレーシング
ブレーキフルード
500ml/2,800円

株式会社 和光ケミカル
神奈川県小田原市前川16-2 TEL.0465-48-2211(代)

【営業所】仙台 盛岡 福島 新潟 群馬 栃木 茨城 茨城北 埼玉 埼玉北 埼玉南 千葉 千葉南 東京 東京東 東京西 横浜 湘南 西湘 山梨 長野 静岡 浜松 岡崎 名古屋 岐阜 三重 大阪 大阪南 京都 神戸

【グループ】北海道ワコーズ ワコールーブ 九州ワコーズ

お求めはお近くのWAKO'Sステッカーのお店で。

最新のWAKO'S情報はこちらへ
http://www.wako-chemical.co.jp

MOTORCYCLE SPORTS RULES

ロードレース

ROAD RACE

CONTENTS

▼付則3　ロードレース競技規則

1．適用の範囲……62
2．ロードレース……62
3．競技会と開催クラス……62
4．公式シグナル……63
5．参加資格……64
6．出場申し込み……64
7．参加受理……64
8．ゼッケン・ナンバー……64
9．ライダーの装備……65
10．出場受付け……65
11．出場車両の変更……66
12．車両および装備の検査……66
13．ブリーフィング……66
14．公式予選……66
15．決勝レース出場台数……68
16．スタート方法……68
17．スタートにおける反則……71
18．"ウェット"および"ドライ"レース……72
19．レース中の行為……72
20．停車指示……74
21．レースの一時停止……74
22．赤旗中断されたレースの再スタート……75
23．リタイヤ（棄権）……75
24．レース終了……76
25．優勝者、順位、完走者および得点……76
26．レース終了後の車両保管と再検査……76
27．レースおよび大会の延期・中止等……77
28．抗議……77
29．違反に対する罰則……77
30．本規則の解釈……78
31．本規則の施行……78

▼付則4　2002年全日本選手権大会特別規則

1．公　示……79
2．開催種目と競技会の日程……79
3．参加定員……79
4．追加のクラス……80
5．コースと最多出場台数……80
6．大会審査委員会……80
7．参加資格……80
8．出場料および共済会掛金（保険料）……81
9．ピット要員……81
10．レース当日の練習走行……81
11．ゼッケンナンバー……81
12．車両の変更……82
13．ピットロードのスピード制限……82
14．公式予選……82
15．タイムキーピングシステム……83
16．スターティンググリッド……83
17．レース距離……83
18．賞および得点……83
19．主催者の権限……83
20．本規則の施行……84

2002年全日本ロードレース選手権開催日程……84

▼付則5　2002年エリア選手権大会特別規則

1．公示……86
2．開催種目……86
3．追加のクラス……86
4．選手権……86
5．コース……86
6．大会審査委員会……86
7．参加定員……87
8．出場料および共済会掛金（保険料）……87
9．ピット要員……87
10．ゼッケンナンバー……87
11．車両の変更……87
12．公式予選……87
13．タイムキーピングシステム……87
14．スターティンググリッド……88
15．賞および得点……88
16．主催者の権限……88
17．本規則の施行……88

▼付則6　ロードレース基本仕様

全日本・エリア選手権ロードレース技術仕様……108
全日本S-NKの仕様……123
JSB1000の仕様……130
ST600の仕様……140
SS600の技術規則……151
ST250・ST400の仕様……162
SPクラスの仕様……171
耐久レースの追加仕様……176
国内ロードレースGPクラスの仕様……178
ロードレースジュニアクラスの仕様……182
ミニバイクの仕様……185

※2002年からの規則変更点は太字で示されています。

付則 3

ロードレース競技規則

ROAD RACE

1 適用の範囲

以下に記す規則は、国内競技規則に基づき、世界選手権を除く国内におけるすべてのロードレース競技会に適用される。

2 ロードレース

ロードレースとは、舗装され、完全にクローズドされたサーキットで行われるレースであり、国内競技規則およびこの付則により運営・管理される。ロードレースは、スプリントレースと耐久レースに区別される。

スプリントレースの定義：①レースの総走行距離250km以下、もしくは走行時間２時間以下
②個人競技

耐久レースの定義：下記いずれかに合致すること。
①レースの総走行距離が250kmを超えるもの、もしくは走行時間２時間を超えるもの。
②２人もしくは３人の交代で行われる。

コースレコードの定義：コースレコードとは、そのサーキットのもっとも良いタイムの記録であり、クラス毎に管理される。予選、決勝ともにその対象となる。

3 競技会と開催クラス

競技会と開催クラスは下記とする。

出場可能ライセンス	大会格式	昇格ポイント対象種目		その他承認公認レース (特別昇格は可能)
		自動昇格	申請昇格	
国際ライセンス (参加資格は別途定める)	全日本選手権	GP125 GP250 SB(JSB1000/SB/S-NK) ST600		
国際ライセンス 国内ライセンス	エリア選手権	⇧ GP125 ⇧ GP250 ⇧ SB(JSB1000/SB/S-NK)	ST600 SS600	ネイキッド その他シングル／ツインレース等
国内ライセンス	地方選手権	⇧ GP125 ⇧ GP250	SP250 SP400 ST600 SS600	SP125 ネイキッド GP80 その他シングル／ツインレース等
フレッシュマンライセンス		⇧ GP125	SP250 SP400 ストックバイク ST600	SP125 ネイキッド その他シングル／ツインレース等
ジュニア				

②車両ナンバーにPの文字がつく場合は、ストップ・アンド・ゴー・ペナルティーの場合に提示されるものとし、当該ライダーは速やかにピットインし、オフィシャルの指示された場所に指示された時間停車する。

2）ライトによるシグナル

スタートの際、国旗の代わりに、ライトによるシグナルを使うことができる。

・黄色燈の点滅　黄旗と同意味。

・緑色燈　緑旗と同意味。

・赤色燈　赤旗と同意味、競技監督および監視ポストで使用。

ライトによるシグナルは、スタート時と特に夜間に行われるレースに使用されなければならない。

5 参加資格

1）エントラントおよびライダー

エントラントおよびライダーは、2002年度版 MFJ 国内競技規則・第3章〔⑫競技参加者〕(33頁) に合致していなければならない。

6 出場申し込み

1）出場申し込み場所および期間は、大会特別規則の定めるところのものとする。

2）出場申し込み手続き

(1) 各部門とも所定の申し込み書に必要事項をすべて記入し、出場料および共済会掛金(保険料) を添えて大会事務局に提出しなければならない。

(2) 2クラス以上に出場を申し込む場合は、別々に申し込み書を提出しなければならない。

(3) 郵送の場合は、現金書留又は主催者の定める方法とし、締切り日当日の消印のあるものまでが有効となる。

(4) 電話による申し込みおよび締切り日以後の申し込みはいっさい受付けない。

(締切り日以降のエントリー料金返却に際しての郵送料、送金手数料は返却金から差し引かれる)

7 参加受理

1）必要事項を記入した出場申し込み書、出場料及び共済会掛金(保険料)を大会事務局が受理した者のみに対し、参加受理書が発送される。

2）いったん受理された出場料、共済会掛金(保険料)は下記3)の場合を除き、いかなる理由があっても返却されない。公式予選を通過しなかった者も同様である。

3）大会が取り止めになった場合、また参加申請が拒否された場合のみ出場料、共済会掛金が返却される。(申し込み者が必要な手続きを怠った場合は、返却されない)

8 ゼッケン・ナンバー

1）主催者によってナンバーが割り当てられ、参加受理書に記入して通知される。

2）ゼッケン・ナンバーは、車両検査までに、規定の書体および色分けで記入しておかなければならない。

3）ゼッケン・ナンバーについては、車両検査時に検査され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。ゼッケンの修正を要求された場合、速やかに修正を行い、再度車両

自動昇格＝規定の得点を得た場合は、次年度は上級クラスへ自動的に昇格となる。
申請昇格＝規定の得点を得かつ申告をした者のみ昇格する。昇格申請は 2002年１月31日消印有効。
特別昇格＝規定の得点に満たない者または自動／申告昇格対象種目以外のクラスで同等の成績を得た者が申告を行い、審査の上昇格する。

4 公式シグナル

ライダーは掲示される公式シグナルを確認する義務があり、そのシグナルに従わなければならない。

1）公式練習、予選および決勝レース中は、下記の公式シグナルが使用される。

(1) 寸　法

・シグナル用旗　80cm×100cm

(2) 情報を伝える旗及びライト

・国旗またはグリーンライト：レーススタート

・緑旗及びグリーンライト：コースクリア。黄旗の解除。フリー走行及び予選の１周目ウォーミングアップ及びサイティングラップにて提示される。

・赤ストライプ付黄旗：コース表面が滑りやすい。

・青旗：後方よりペースの速い車両が接近し、まもなく追い越される場合に静止状態で提示され、追い越される寸前では振動によって提示される。

・チェッカー旗：フィニッシュライン通過ライダーはレース終了。

・青旗とチェッカー旗：ファイナルラップにフィニッシュラインの手前でトップライダーの前に他のライダーが走行している場合。トップのライダーはチェッカーを意味するが、トップライダー直前のライダーは、もう一周しなければならない事を伝える。

(3) 情報及び指示を伝える旗及びライト

・黄旗及びイエローライト：危険を予告。コースが危険状態の場合、黄旗振動またはイエローライト点滅により示される。減速し、停止準備。緑旗が提示される地点まで追い越し禁止。

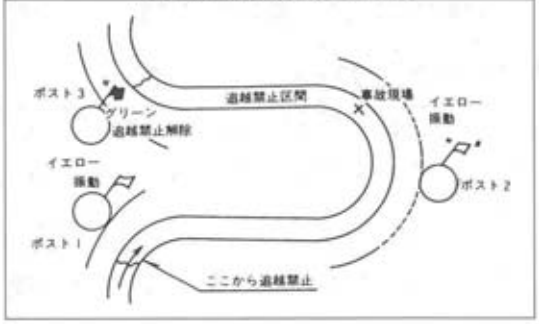
・赤旗及びレッドライト：競技中断。全てのライダーは、最大限の注意を払ってそれぞれのピットに戻る。

・白旗：救急車両等介入車両がコース上にある。追い越しは禁止されるが、介入車両の追い越しは認められる。介入車両を追い越した後の追い越し禁止は解除される。

・黒旗：この旗は車両ナンバーとともに提示され、当該ライダーに指示を与えるためのものである。

①装備及び車両にトラブルがある場合に提示され、当該車両は直ちにピットに戻りオフィシャルの指示を受けなければならない。

基本的な黄旗の出され方



検査を受けなければならない。

9 ライダーの装備

ヘルメット及び装備は、レース期間を通じて車検で合格したものを使用しなくてはならない。また車検以前の練習においても、公認された適切なものを使用すること。

車検には複数の装備を持ち込み、確認を得ることができる。

1）ヘルメット

(1) ヘルメットはフルフェイス型のもので、MFJ が公認したものでなければならない。

(2) MFJ の公認したヘルメットには、下記の認証マークが貼付されている。

(3) 競技会の車両検査受付け時に、ヘルメット検査が行われる。検査に合格しなかったヘルメットは、当該ライダーの安全上その使用を禁止する。

(4) MFJ 公認ヘルメットであっても、MFJ の認証マークの貼付されていないヘルメットについては、大会公式車検にて特別検査料（1,000円）を支払い、特別に検査を受け合格しなければならない。

〈MFJ公認ヘルメット認証マーク〉

2）ライダーの服装

(1) レーシングスーツ

① 革もしくは革と同等の素材（MFJ の許可を得たもの）であり、MFJ の公認したものでなければならない。

② MFJ が公認したレーシングスーツには、公認マークが貼付されている。

③ 競技会の車両検査受付け時にレーシングスーツの検査が行われ、合格しなかった場合は、ライダー本人の安全上使用を禁止する。

④ 競技会使用時には公認時のパット類が装備されていること。

〈MFJ公認レーシングスーツ認証マーク〉

(2) ブーツ・グローブ

革もしくは革と同等の素材（MFJ の許可を得たもの）であり、フックなどが外部に突出していないものでなければならない。

(3) 競技中のライダーは、レーシングスーツに裏地がついていない場合、アンダーウェアを着用しなければならない。

10 出場受付け

1）出場受付けの時間および場所は、公式通知に示される。

2）定められた時間内に、必ず本人または参加者が MFJ ライセンス、参加受理書を提出して出場資格の確認を受けなければならない。

3）MFJ ライセンスまたは参加受理書の提示ができない者は、出場が認められない。

11 出場車両の変更

1）車両の変更は国内競技規則・第3章〔⑳ライダーおよび車両の変更〕（36頁）による。
2）車両変更の申請は、同部門・同クラスの車両に限られ、手数料5,000円を添付して大会事務局に申請しなければならない。

12 車両の検査

1）車両検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールに従って、パドック内の車両検査区域において行われる。
2）車両検査のための車両は、ライダー本人が持参し、必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を受けなければならない。これ以後の検査は、競技監督が特別に認めた場合以外は行われない。
3）ライダーは、車両仕様書を提出し、装備品一式の検査を受けなければならない。
4）一大会において同一車両を複数のライダーが使用する事はできない。
5）同一車両で複数の種目へのエントリーはできるが、競技運営進行上支障をきたさないことを条件とする。
6）車両検査時持込み台数は、地方選手権および地方大会は出場1レースにつき1台に限られ、エリア選手権・全日本選手権は2台までとする（スペアマシンは同一メーカーに限る）。
7）車両検査において、規則違反または安全上出場が不適当と判断された車両は、公式予選を含むいっさいの走行を拒否される。
8）テレメトリーは禁止される。ラップタイム計測装置はテレメトリーとみなされない。
9）音量測定は車検時に全車測定、もしくは予選通過車両全車に対して行なう。
10）主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両検査を行う権限を有する。
11）ガソリン
① 地方選手権大会／エリア選手権／全日本選手権においては2サイクル・4サイクルともにMFJの定める無鉛ガソリンを使用しなければならない。MFJの定める無鉛ガソリンの定義はMFJ技術規則による。
② 使用するガソリンおよびオイルは 付則6 ロードレース基本仕様（105頁参照）に合致していなければならない。
③ 使用するガソリンは当該レースのサーキットで供給するものを使用しなければならない。供給されるガソリンの仕様は特別規則もしくは公式通知に記載される。
④ 承認競技会における使用ガソリンとその仕様並びに供給方法については各大会特別規則による。

13 ブリーフィング

主催者がブリーフィング（競技に関する要領説明）を行なう場合はライダー本人が必ず出席しなければならない。欠席した場合、罰則が課せられる場合がある。

14 公式予選

1）公式予選
(1) 公式予選は、原則として各クラス別に行われる。
(2) 公式予選の日程および時間は、特別規則に示される。
(3) 公式予選は、タイムトライアル方式とレース方式がある。
通常はタイムトライアル方式で行う。レース方式で行う場合は、特別規則または公式通

② 予選結果発表後主催者が規定する時間以内にウエイティングの願い書を提出する。
③ 主催者が規定する時間内にリタイヤがいない場合は出走は不可となる。
④ 審査委員会にてリタイヤ者のグリッドは順次繰り上げる。正式グリッド発表後は、一切の繰り上げ出場は認められない。

15 決勝レース出場台数

決勝レース出場台数は、各サーキットごとに定められ、特別規則に示される。

16 スタート方法

1）レースのスタート位置は、各ライダーに与えられているゼッケンナンバーとは関係なく、公式予選の結果によって決定される。

2）スタート方法は同時スタートとし、下記の3種類がある。通常はクラッチスタートにて行われる。

(1) 押しがけスタート
(2) クラッチスタート
(3) ルマン式スタート（耐久）

ルマン式スタートにおいては、スタートライダーを複数のグループに分けて時間差スタートをする、スタッガードスタートを採用する場合がある。(71頁参照)

3）スタート位置は、すべてのライダーが正規のスタートラインからスタートするものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップは一切考慮されない。

4）クラッチスタートの場合のスタート手順は以下のとおりとする。

(1) ウォームアップラップスタート約30分前

ライダーはスタート前チェックを受け、マシンとともにウエイティングエリアに待機する。

(2) ウォームアップラップスタート15分前

サイティングラップのためにピットレーン出口が開放される。ピット出口で5分、4分、3分、2分、1分前のカウントダウンボードが掲示される。

ただし、全ライダーがスタートした場合、カウントダウンボードの提示は省略され、以後のスタート手順が継続される。

(3) ウォームアップラップスタート10分前

ピットレーン出口が閉鎖される。サイティングラップは義務づけられない。サイティングラップに参加しないライダーはウォームアップラップ開始の5分前まではオフィシャルの指示に従って自分のマシンをグリッドに押してゆくことができる。

ライダーが所定の位置に着くのを助けるために、コースサイドでオフィシャルがグリッド列を示すボードを掲げる。この段階で競技監督はレースを『ウェット』または『ドライ』のいずれかを宣言する。この宣言はグリッド上にいるライダーとピットレーンにいるライダーに対してボードで示す。ボードが出されない場合は自動的に『ドライ』とみなされる。

(4) サイティングラップ開始

サイティングラップ開始後のグリッドとピットにおいては、余熱以外のタイヤウォーマーの使用は禁止される。グリッド上での給油は禁止される。

サイティングラップ中に技術的なトラブルに見舞われたライダーは、ピットに戻って調整またはマシンの交換（スペアマシン登録可能競技のみ。以後同様）を行うことができる。

知等に示される。

2）公式予選の内容

(1) レースに出場するすべてのライダーは、必ず公式予選に参加し、最終的に出場資格を取得しなければならない。

(2) 公式予選においては、競技役員による車両の安全チェックがなされた後にスタートし、定められた時間内であれば走行を中断し、また再スタートすることができる。

(3) 公式予選では、ラップタイムが測定されている。この測定で、ベストラップタイムが甚だしく劣る者はたとえ定員内であってもレース出場資格を与えられない場合がある。

●予選通過基準タイム

全日本選手権：トップタイムの**110**%以内（SBクラスは上位３名の、平均タイムの**110**%以内）

エリア選手権以下：トップタイムの120%以内

予選が２回以上ある場合、予選通過基準タイムはどちらかの予選で上記に示すタイムをクリアすれば、通過基準タイムを満たしたものとする。**予選基準タイムに満たない選手についても、過去の実績を考慮した上で、審査委員会の判断で出場を認める。**

(4) 公式予選において測定される各ライダーのベストラップタイムにより、大会特別規則に示されたレース出場台数を限度としてスタート位置が定められる。ベストラップタイムが同じ場合は、セカンドラップタイムによる。

(5) 各クラスの公式予選義務周回数は、特別規則に示される。なお、最初の１ラップ目は計測されないが、周回数には算定される。

(6) ２種目以上に出場するライダーは、出場全種目の公式予選に出場しなければならない。

(7) 複数の組にわかれて行われる予選の順位決定方法

① 予選結果を総合タイム順によって決定する場合と予選組ごとの順位により決定する場合がある。

② 天候の変化等により路面状況に大きな差異が認められると競技監督が判断した場合には各予選組ごとの順位によって決定する。この決定に対する抗議は一切受けつけない。

③ 各予選組ごとのタイム順で決定した場合のグリッドは、各予選組のトップのタイムを比較しその順番で振り分けることとする。

④ 各予選組ごとのタイム順で決定したグリッド数によって端数が出る場合の優先順序は下記とする。〈ウエイティング(67頁（10)参照)も同様〉

例：グリッド数30台、予選４組

予選組上位７台で28台が選抜される。

残り２台を予選組の８位（４台）のなかから決定するには…

・各予選組の１位のタイムと８位のタイムを比較する。

・各予選組８位のものからタイム差の少ない順に２名を選出する

(8) 最終的な予選選出方法とスターティンググリッドは大会審査委員会の決定による。

(9) 予選通過者で出場不可能となった者は、すみやかにその旨を届け出なければならない。

(10) ウエイティング（繰り上げ出場）

決勝レースに出場不可能となった者がいた場合、その者に代わり予選結果次点の者で願い書を提出したライダーの決勝レース参加を特別に認めること。

※ウエイティング（繰り上げ出場の方法）

① ウエイティングの資格を有する者は決勝レース出場願い書を提出した者の中で予選での上位３名までとする。但し、予選が複数組で行われた場合、総合予選結果順上位３名とする。

この場合当該ライダーはピットレーンからウォームアップラップを開始しなくてはならない。

グリッドに着く際には十分に徐行し、所定のグリッドに着かなければならない。

この段階で、グリッド上のライダーは、マシンの調整を行ったりコースコンディションに合わせてタイヤ交換を行うことができる。グリッド上では余熱によるタイヤウォーマーの使用は許可されるが、ジェネレーター、バッテリーまたはその他の電源をグリッドに持ち込むことは禁示される。

(5) ウォームアップラップ開始5分前ボード

グリッド上で5分前のボードが掲示される。

(6) ウォームアップラップ開始3分前ボード

グリッド上で3分前のボードが掲示される。

すべての調整は『3分前』のボードが出るまでに完了しなければならない。このボードが掲示された後、さらに調整を行うことを希望するライダーはマシンをピットレーンまで押してゆき、そこで調整またはマシンの交換を行うことができる。この場合当該ライダーはピットレーンからウォームアップラップを開始する。

この時点でライダー1名につき1名のメカニックとそのライダーのために傘を持って立つ1名、主催者の認めるTVクルー、および必要なオフィシャル以外の人間は全員グリッドから退去しなければならない。スペアホイルを除く全てのタイヤウォーマー（グリッドに着いているマシンおよびピットのスペアマシン）は取り外さなくてはならない。

(7) ウォームアップラップ開始1分前ボード

グリッド上で1分前のボードが掲示される。(エンジンスタート)

この時点でライダー1名につき1名のメカニック以外の全員がグリッドから退去する。このメカニックはライダーが押しがけするのを助けその後速やかにグリッドから退出する。(車検で許可された外部スターターの使用が認められる)

(8) ウォームアップラップ開始30秒前ボード

グリッド上で30秒前のボードが掲示される。

全ライダーはエンジンが始動している状態でグリッドの所定の位置に着かなくてはならない。これ以降メカニックの援助は禁示される。マシンをスタートできないライダーはマシンをピットレーンに移動し、そこでさらにマシンが始動するよう試みるかマシンを交換することができる。このようなライダーはピットレーンからウォームアップを開始することができる。

(9) ウォームアップラップ開始（レーススタートの約2分前）

ウォームアップラップの開始を示すためにイエローライトが点滅される。ライダーは各列ごとに役員の指示に従ってスタートし、1周走行する。セーフティーカーがその後ろに続く。集団が通過したらピットレーンで待機していたライダーはウォームアップラップに加わることが許可される。

ウォームアップ走行が開始されたら各ポストはライダーに旗の掲示位置を確認させるためにグリーンフラッグを掲示する。

グリッドに戻ってきたらライダーはエンジンを始動したまま、フロントホイールをグリッドポジションを示すラインに合わせ、所定の位置につかなければならない。グリッド最前列の前には赤旗を持ったオフィシャルが立つ。

セーフティーカーが到着した後に戻ってきたライダーはピットインし、ピットスタートする。

ウォームアップラップ途中でトラブルに見舞われたライダーは、ピットレーンに戻って

修理またはマシンの交換ができる。

グリッドでエンジンをストールさせたライダーまたはその他のトラブルに見舞われたライダーは、モーターサイクルにまたがったままの状態で腕を上げる。その方法によって意図的にレースのスタートを遅らせることは許されない。

グリッドの各列が整列したらオフィシャルは担当する列が整列したことを示すためにグリッド列ボードを降ろす。ある列のライダーがエンジンをストールさせたり、または他のトラブルに見舞われているときにはその列のボードは降ろされない。すべてのボードが降ろされて、セーフティーカーが戻ってきたら、グリッド後方に待機するオフィシャルがグリーンフラッグを振る。

その後スターターはグリッド前方で赤旗を掲示するオフィシャルにコースサイドに歩くよう指示を出す。

⑽ スタート

レッドライトが点灯され、その2～5秒後にレッドライトからグリーンライトに変わり、レースがスタートする。

ジャンプスタートをしたライダーに対しては30秒間のタイム加算もしくはストップ&ゴーのペナルティが与えられる。ペナルティは当該ライダーのチームにも通達されなければならない。

グリーンライトが点灯された後で、マシンがストールした場合、オフィシャルはエンジンがかかるまでそのマシンをコースに沿って押すことを補佐する。それでも始動しない場合、オフィシャルの指示に従ってマシンをピットレーンに押して行かなければならない。ピットレーンでは当該ライダーのメカニックがエンジン始動させるために援助することとマシンを交換することが許可される。

グリッドからスタートしたライダーの集団がピットレーン出口を通過したらオフィシャルはピットレーンに待機するライダーをスタートさせる。

トップを走行するライダーが1周目を終えてフィニッシュラインを通過した後、レースが中断されない限りマシンの交換は許可されない。

⑾ スタートディレイド

スタート時の安全性を脅かすようなトラブルがグリッド上で発生した場合には、スタートを受け持つオフィシャルがイエローライトを点滅させ『スタートディレイド』および「エンジンストップ」のボードを掲示する。この場合ライダーはエンジンを停止させなければならない。各ライダーについて1名のメカニックがエンジン始動を補佐するためにグリッドに立ち入ることが許可される。

スタート手順は『1分前』ボードの段階から再開され、ライダーは追加のウォームアップラップを1周走行し、レース周回数は1周減算される。

※サイティングラップスタートの時間、グリッド列ボードの配列（隔列の場合もある）、またはその他の手順について省略する場合がある。この場合、各特別規則ならびに公式通知に示される。

5）ルマン式スタートの場合のスタート手順は以下のとおりとする。

（以下のスタート手順は標準モデルであり、特別規則によって変更されることがある。）

⑴ スタート準備

スタート約45分前に、ライダーはマシンと共にピットで待機していなくてはならない。

⑵ レースのスタート

―1分前：シグナルタワーカウントダウン開始

“ヘルメット”パネル＋ホーン：ライダーはコースの反対側、自分のマシンの正面に立つ。

—30秒前：ボード表示
—グリーンライトまたは国旗（特別規則に明記される）：スタート
各ライダーは自分のマシンのもとへ駆け寄りエンジンを始動し、レースを開始する。
エンジンは、マシンの機械式デバイスを用いて該当ライダーひとりによって始動される。
外部からの援助は一切禁止される。
ルマン式スタートにおいて、安全上の理由により競技監督が必要と判断し、審査委員会の許可を得た場合、スタッガードスタート（スタートライダーを複数のグループに分けて行う時間差スタート）を採用する事ができる。

スタッガードスタート
—グリーンライトまたは国旗（特別規則に明記される）：スタート
最初のグループの各ライダーは自分のマシンのもとへ駆け寄りエンジンを始動し、レースを開始する。
約15秒後に国旗が振られて次のグループの各ライダーが同様にスタートする。ライダーは，前にスタートしたグループでエンジン始動の遅れたライダーが飛び出してくるかもしれないことに最大の注意を払わなければならない。
エンジンはマシンの機械式デバイスを用いて該当ライダーひとりによって始動される。外部からの援助は一切禁止される。
—オープニングラップはセーフティカーが追尾する。

(3) スタートの補助
もしライダーがマシンを始動できなかった場合、競技監督が可能だと判断した時点でグリーンフラッグを用いてアシスタントにマシンを押すことを許可する。ライダーがスタートできなかった場合には、ただちにコースマーシャルの指示により、マシンをピットに押して行く（出口あるいは入り口いずれか近いほうから）。マシンの修理が終わり次第、ライダーは再度スタートすることが出来る。
(4) ディレイドスタート
ピットの出口地点をライダーの主要集団が通過したあとで、ピットレーンで待機しているライダーに対してライトを用いてディレイドスタートが許可される。
(5) スタート手順違反へのペナルティ
上記(1)から(4)に関するいかなる違反も、当該ライダーにはストップ＆ゴーペナルティが科せられる。

17 スタートにおける反則

1）スタートラインについた車両およびライダーは、スタート手順の開始からスタート合図が出されスタートが終了するまでスタート合図の統制下にある。
2）スタート合図が行われる前に自分のスタートポジションから前進した場合（—ジャンプスタートと呼ぶ—フロントホイールスピンドルが各自のスタートラインより前進した）は、競技監督の決定により、下記のいずれかのペナルティが科せられる。
(1) 競技結果への30秒の加算。
(2) ストップ＆ゴーペナルティ
① 所定の場所での一旦停止（耐久レースでは停止時間を定める場合がある）

② 当該ライダーに黒旗と黒のシグナル板にPの文字とゼッケンナンバーを付したペナルティボードを掲示する。

③ 当該ライダーが停止指示を**3回にわたり提示されても**停止しなかった場合、失格となる。

④ 同時に複数の違反が発生した場合、原則的に一周ごとに停止させる。停止の順番は予選タイムに基づきタイム順に停止の指示を出す。ボードは複数同時に掲示する場合もある。

⑤ ストップ&ゴーペナルティが実行される前に赤旗中断で再レースとなった場合、再レース開始後停止することを要求される（レース終了までにペナルティが消化できない時は、レース結果に30秒加算の場合もある。）ただし3周未満で赤旗中断され、レース無効となった場合はペナルティは消滅する。ペナルティを終えていないまま再レースのスタートでもジャンプスタートをした場合、当該ライダーは失格となる。

※ジャンプスタート以外の反則に対してストップ&ゴーペナルティが適用される場合は上記手順が用いられる。

3）ピットクルーがスタートの規則に従わなかった場合も反則とみなされ、当該ライダーに1分間もしくは失格のペナルティが科せられる。

4）ペナルティは、当該ライダーのピットクルーにただちに通告される。判定に対する抗議は一切受付けられない。

18 “ウェット”および“ドライ”レース

1）すべてのレースはウェットかドライに分けられる。グリッド上で、ボードが掲示される。

ボードが掲示されない場合にはレースは自動的にドライとなる。この分類の目的は、ライダーにレース中天候状況の変化による影響があることを示すためである。

2）ドライレース

ドライレースと分類されたレースは天候状況が路面状態に影響を及ぼし、ライダーがタイヤ交換を望む可能性があると競技監督が判断した場合に中断される。

3）ウェットレース

ウェットレースと分類されたレースは、変化して行く状況、またはウェットの状況で通常開始され、天候の理由により中断されることはない。タイヤ交換を望むライダーはレース中ピットに入りタイヤを交換することが出来る。

4）すべての場合において、最初にレースが天候上の理由により中断された場合、再スタートは自動的に“ウェット”レースとなる。

19 レース中の行為

1）走行中の遵守事項は、国内競技規則・第3章〔⑬競技参加者の遵守事項〕（33頁）の他、以下も適用される。これに違反した場合罰則が科せられる。

(1) ライダーは、指示を伝えるシグナルフラッグに従わなければならない。

(2) もしライダーがコースアウトしたら、ライダーは、オフィシャルが指示した場所または、当該ライダーが有利にならないような場所からレースに復帰することができる。

※この際オフィシャルは下記の補助ができる。

・マシンを起こす補助。

・修理・調整が行われている間マシンを支える。

・ライダーの再スタートを補助する。

(3) リタイヤする場合、ライダーは自分のマシンをオフィシャルに指示された安全な場所に

止めなければならない。

(4) もしライダーがレースからリタイヤを余儀なくされるようなマシントラブルにあった場合、そのライダーはスロー走行でピットまで戻ろうと試みずに、コースアウトしてオフィシャルの指示に従い、安全な場所にマシンを止めなくてはならない。

(5) コース上にオイル等の液体をまき散らす恐れのあるようなトラブルにあった場合、そのライダーはピットまで戻ろうとせずに、コースアウトして安全な場所にマシンを止めなければならない。

又、停止後再スタートを希望する場合はオフィシャルの確認を必要とする。

上記に違反した場合、10,000円以上の罰金が科せられる。

(6) 修復作業のためにスロー走行するライダーは、できるかぎりピット設置側を走行しなければならない。

(7) コース外側より、作業もしくは工具・部品等の援助を受けてはならない。この場合は失格とされる。

いかなる場合でも、逆方向への走行あるいは規定外のコースを走行してはならない。これに違反した場合は罰則が科せられる。

(9) レース中（予選中を含む）直線部分では前車を追い越すためあるいは後車のスリップ・ストリーミングを外す目的以外で、進路を著しく変更することは禁止される。

2）ピットイン

ライダーはレース及びプラクティス中にマシンの調整やタイヤ交換のためにピットに戻ることが出来る。レースにおいては全ての作業はピットボックス前のピットエリアにて行われなければならない。ピットボックス内の作業はレース中断によるインターバル時、または予選時のみ行うことが出来る。

※ピットとは車両の修理、調整、部品交換、燃料補給などの作業を行うことを目的に、ライダーに与えられた区域である。

(1) ピットインする車両のライダーは、ピットロード入口手前よりピット側に車両を寄せ、手または足でピットインの合図を行ったのち、安全を確認して正規のピットロード入口から進入し、徐行しなければならない。

ピットエリア（ピットボックス前の作業エリア）を走行することは禁止される。

(2) ピットインする車両のライダーは、自己のピットにできるだけ近いピットロードからピットエリアに入り、できるだけ自己のピットに近づけて車両を停車させなければならない。

(3) ピットインしてピットエリアに入った車両及び当該車両のライダーやピットクルーは、ピットロード及びピットエリアにおいて他の車両の通過を妨げてはならない。

(4) ピットインの際、自己のピット前を通り過ぎて停車した車両のライダーは、競技役員の許可を得て、当該車両のライダーおよびピットクルーによって押し戻し、自己のピットにつけることができる。

3）ピットアウト

(1) ピットロードにおいてはピットインしてくる車両に優先権がある。

(2) ピットロードからコースに復帰するライダーは、正規のピットロードからコースインし、最初のコーナー出口に達するまで、ピット設置側に沿って走行しなければならず、その間、後方から近づく車両の走行を妨げてはならない。

(3) ピットでエンジンを止めたライダーは、メカニックの補助を受けてマシンを再スタートすることができる。

4）ピット作業

(1) レース中、車両の修理、調整、部品交換は、ピットに準備してある部品と工具によって

行わなければならない。給油中は、必ずエンジンを停止しなければならない。

(2) ピット区域内にオイルをこぼしたり、汚したりした場合は、安全上ただちに清掃しなければならない。

5）ピット作業人員

(1) 大会の格式によって登録できるピットクルーの人数が大会特別規則に示される。

(2) レース中にピットインした車両に対しての作業は、登録した2名のメカニックと、その車両のライダーの計3名だけに限られる。(全日本選手権は付則4全日本選手権特別規則〔⑨ピット要員〕参照)(81頁)

(3) ライダーに対するピットクルー（メカニック、ピットサインマンおよびヘルパー）の合図は、大会競技役員の使用する合図旗にまぎらわしいものであってはならない。また主催者により定められたピット区域またはピットサインエリアのみで合図を送ることができる。

(4) ピット作業を行う者は、ピットクルーライセンス所持者で、大会への参加申請がなされた者でなければならない。大会当日のピットクルーの追加は一切認められない。ただし参加申請がなされている者の変更は定められた時間内にのみ認められる（変更料1,000円)。

(5) ピットクルーは競技期間中を通じて、すべて大会競技役員の指示に従わなければならない。ピットクルーが諸規則に違反した場合の責任は、そのピットクルーが担当するライダーに帰属するものとし、当該ライダーに罰則が科せられる。

20 停車指示

1）レース続行が危険もしくはその疑いがあるとみなされるライダーまたは車両について、競技監督は、ピットインを命じるか、レースから除外することができる。

2）天災、大事故等の不慮の事態が発生した場合は、競技監督は、赤旗によって全ライダーに対し、停止を指示することができる。

21 レースの一時停止

競技監督が天候上の理由、あるいはそのほかの理由からレースを中断することを決定した場合、1）赤旗を掲示する。2）ペースカーを導入する。の2つの方法のいずれかを選択することができる。

1）赤旗を掲示する場合

(1) 赤旗がスタートラインとすべてのマーシャル・ポストで掲示される。ライダーはただちにスローダウンし、ピットレーンに戻らなくてはならない。当該レースの結果は前の周を終えた時点でのものとされる。

したがって、結果はレースを続行していたライダー全員が、赤旗が掲示されずにフルラップを完了した時点でのものとされる。

(2) トップのライダー、およびトップのライダーと同じ周回数を走っていた残りのライダー全員が3周未満しか走行していないことを結果が示した場合、当該レースは無効とされ、新たにレースが行われる。もしレースの再スタートが不可能な場合、このレースは中止と宣言される。但し、予選があった場合、ポイントは予選結果に基づいて正規のポイントの1/2が与えられる。(小数点以下2桁は四捨五入)

(3) トップのライダー、およびトップのライダーと同じ周回数を走っていた残りのライダー全員が3周以上、しかし本来のレース距離の2/3未満（小数点以下切り捨て）であった場合、レースの最終結果は二つのレースの周回数とタイムを合計して出される。もしレースの再スタートが不可能な場合、1回目のレース結果でレースは完了とし、ポイントは正規のポ

イントの2/3（小数点以下２桁は四捨五入）が与えられる。
30周のレースの場合の例：
トップのライダーは９周目を終えて10周目に入ったが、その他のライダー全員が９周目を終えていない時点で赤旗が掲示された場合、レース結果は８周目を終えた時点でのものとされ、セカンド・ヒートは22周となる。
トップのライダー、およびトップのライダーと同じ周回数を走っていた残りのライダー全員が９周目を終えて10周目に入っていた時点で赤旗が掲示された場合、レース結果は９周目を終えた時点でのものとされ、セカンド・ヒートは21周となる。

(4) トップのライダー、およびトップのライダーと同じ周回数を走っていた残りのライダー全員が本来のレース距離2/3（小数点以下切り捨て）を走行した場合、当該レースは完了したとみなされ、ポイントはフルに与えられる。

２）フルコースコーション（事故発生時に競技監督の判断によって、ペースカーが介入してレースを一時非競技化し、スロー走行で先導し、その間に事故処理を行う方法。）
ペースカーを導入する場合、各大会の特別規則または公式通知によって示される。

22 赤旗中断されたレースの再スタート

レースが再スタートされる場合、再スタートはコース・コンディションが許すかぎり早く行われなくてはならない。ライダーがピットに戻りしだい、競技監督は新たなスタート時刻を発表する。このスタート時刻は状況が許すかぎり最初の赤旗が掲示されてから30分以内に設定される。

１）競技結果が２周以下の場合の再スタートには下記各項が適用される。

(1) 全ライダーがスタートできる。
(2) マシンの修理・給油ができる。
(3) 転倒車両を使用する際には車検長の許可を必要とする。
(4) 登録され車検に合格しているスペアマシンに交換できる。
(5) 周回数は原則的にもとのレースと同じとする。
(6) グリッドポジションは本来のレースと同じとする。
(7) 再スタートできないライダーのグリッドはそのまま空席とする。
(8) スタートの手順は通常にサイティングラップから始める。

２）競技結果が３周以上2/3（小数点以下切り捨て）未満の場合の再スタートには下記各項が適用される。

(1) 前回のレースでトップの周回数の2/3（小数点以下切り捨て）を走行しているライダーだけが再スタートできる。
(2) 第２レースが開始される前に、第１レースの結果が公示されなくてはならない。
(3) 転倒車両を使用する際には車検長の許可を必要とする。
(4) マシンは修理・給油ができる。（耐久を除く）
(5) 登録され車検に合格しているスペアマシンに交換できる。
(6) 第２レースの周回数は、本来のレース距離を満たすために必要な周回数とする。（前回のレース結果の周回数に基づく）
(7) グリッドポジションは第１レースの結果に基づく。
(8) レースの最終結果は、二つのレースの周回数を合算し、最大数の周回のライダーが優勝者となる。周回数が同数の場合、二つのレースのタイムを合計したタイムによって順位が決定される。

23 リタイヤ（棄権）

1）リタイヤと停止（競技中、コース内での停止）は、国内競技規則・第3章〔㉒競技〕（36頁）による。

2）ライダー本人が負傷その他の理由でリタイヤ届を提出できないときには、競技役員の判定によりリタイヤと認めることができる。

3）ピット以外の地域でリタイヤする場合、ライダーは車両をレース（または予選）終了まで競技役員の管理下におかなければならない。ただし、競技役員から車両移動を指示された場合は、これに従わなければならない。

24 レース終了

1）トップのライダーにチェッカーフラッグが掲示された後、引き続き後続ライダーにも特別規則に示す時間掲示される。この時間が経過した時をもってレース終了となる。
※原則的にコース1周の距離1㎞につき約1分とする。

2）ファイナルラップにフィニッシュライン手前でトップのライダーのすぐ前に他のライダーがいる場合、スタート・フィニッシュマーシャルは同時にチェッカーと青旗を掲示する。これはトップを走行するライダーはレースを終了するが、そのすぐ前を走っているライダーはファイナルラップを完走しチェッカーフラッグを受けなければならないということを意味する。

3）トップを走行するモーターサイクルが、所定の周回数を完了する前にレース終了の合図が出された場合、当該レースはその時点で終了したものとみなされる。
何らかの理由によって、レース終了の合図が遅れた場合でも、レースはそれが本来終了する時点で終了したものとみなされる。

25 優勝者、順位、完走者および得点（ポイント）

1）優勝者

(1) 優勝者は規定の距離（周回数）または時間を完走して最初にフィニッシュライン（コントロールライン）を通過したライダーである。

(2) 写真判定が用いられる場合には勝者の決定はフロントホイールの先端がフィニッシュラインを最初に通過した方を有利とする。

(3) 優勝者がフィニッシュラインを通過したら他のライダーはその時点で走行している周回を終え、フィニッシュラインを通過した時点で終了となる。

2）順位の優先順位

優先順位：

1.チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定される。同周回数の場合はフィニッシュラインの通過順位による。

2.チェッカーを受けなかった完走者を周回数の多い順に決定する。同周回数の場合はフィニッシュライン通過順位による。

チェッカーは優勝者がフィニッシュラインを通過したのち特別規則に示す時間、フィニッシュラインで掲示される。

3）完走者

優勝者の周回数の75%（少数点以下切り捨て）以上を走行したライダー。

4）得点

得点は、国内競技規則・第3章〔㉒公式得点〕（37頁）によって与えられる。

26 レース終了後の車両保管と再検査

1）原則として1位～6位の車両は、所定の位置より競技役員の指示に従って車両保管区域へ入らなければならない。

2）原則として1位～6位の車両は、音量測定およびエンジンを分解して排気量を測定するほか、規定を越える改造などについて再検査を行うことがある。

3）原則として1位～6位の車両は、暫定結果発表後30分間保管される。
地方選手権においては、保管時間を特別規則で定める場合がある。

4）燃料検査
燃料検査の手順

(1) 燃料検査は各大会の審査委員会が必要と認めた場合実施できる。

(2) 燃料検査を行う対象クラス、ライダーは審査委員会が決定する。

(3) 燃料テストは審査委員会が必要と認めた場合レース期間中いつでも行うことができる。

(4) レース終了後に燃料タンク内に検査に必要な量が残っていなければならない。

(5) 各分析ごとに、それぞれ検査に必要な量のサンプルを2サンプル摂取する。
ひとつは検査用、ひとつは保管用として封印され、当事者によってサインが施され、主催者が保管する。
潤滑油を混合した場合は混入したオイルも添えて提出しなければならない。
車検にて判別できない場合はMFJ指定の機関にて分析を依頼し検査する。
サンプルはエントラントに提出義務があり、その検査の費用は自己負担とする。

(6) 結果が不合格であった場合、当事者は本人の費用負担によってMFJ指定の別の機関にて保管用サンプルの分析を依頼することができる。

(7) 分析の費用負担は下記の通り
① 大会審査委員会の決定により、特定の大会もしくはクラスに検査を行う場合。
・最初の検査の費用は主催者が負担する。
・結果が不合格で当事者が再度検査を要求する場合は当事者が負担する。
② 抗議が出され特定のライダーの検査をする場合は抗議者が費用を負担し、検査の結果違反が立証された場合は返却される。
③ 検査の結果違反が立証された場合は違反者が検査料を負担しなければならない。

(8) 競技結果
サンプル分析の結果、違反が立証された場合MFJ中央審査委員会に報告され、罰則が科せられる。また、当日受領した賞典等は返却しなければならない。

5）出場者は、車両保管解除と同時に、保管車両を速やかに引き取らねばならない。主催者は車両保管解除発表後、保管車両の責任は一切負わない。

27 レースおよび大会の延期・中止等

1）大会は、原則として本規則に基づいて発表した日程から変更または延期されることはない。

2）レースまたは大会が参加申し込み後に中止された場合、参加者が支払った出場料、共済会掛金は返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

28 抗議

1）抗議は、国内競技規則・第3章〔㉘抗議〕(39頁）による。

2）車両の分解検査に要した費用は、その抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車両の分解等に要した費用は車検長が算定する。

3）ガソリンに関する抗議の場合の保証金は100,000円とする。

29 違反に対する罰則

競技規則による違反行為に対する罰則は、国内競技規則・第３章〔㉜違反行為に対する罰則〕（40頁）による。罰則は文書で該当者に通知される。

30 本規則の解釈

規則および競技に関する疑義は、事務局あてに質疑をすることができる。なお、この回答は、大会審査委員会の解釈、決定が最終的なものとして示される。

31 本規則の施行

本規則は、2002年１月１日より施行する。

2002 MOTORCYCLE SPORTS RULES

付則4 全日本ロードレース選手権大会 特別規則

R²-1 全日本ロードレース専用ホームページ
http://www.r2-1.com

1 公 示

全日本ロードレース選手権はFIM国際スポーツ憲章に基づいたMFJ国内競技規則と全日本選手権シリーズを通じて、共通した項目をまとめた本大会特別規則と各大会の特別規則に基づきFIM・MFJ公認の国際格式競技会として開催される。

2 開催種目と競技会の日程

1）開催種目は下記とする。

ST600
GP125
GP250
スーパーバイク（**JSB1000/スーパーネイキッド/エクスペリメンタル混走**）
（エクスペリメンタルは賞典外）

2）レースウィークの日程

① 全日本選手権は下記日程で開催される。

月～木曜日：当該大会にエントリーしている選手は走行してはならない。これに違反した場合罰則が適用される。

金曜日：ART走行（施設との協議の上、定める）

土曜日：公式予選　**GP125・250　SB/JSB1000/S-NK：1組の場合：30分以上×2回**
2組の場合：25分以上×2回を基準とし主催者が定める。（筑波サーキットのみ、20分以上×2回とする）
ST600：最低20分×1回以上

日曜日：午前　ウォーミングアップラン　各クラス10分
9：00～　決勝レース

3）競技会の日程は巻末（84頁参照）に示す。

3 参加定員

エントリーの上限

もてぎ、SUGO、TI	48台
鈴鹿	52台
CP MINÉ	43台
筑波	43台

上記は基本台数であり、80頁-7. 参加資格を参照

4 追加のクラス

併催種目の設定に際しては、パドック並びに全日本の予選、決勝に影響しないことを条件とする。

5 コースと最多出場台数

コースはMFJが国際公認もしくは準国際公認したコースとする。
ショートカットに関する規定は、各主催者発表の特別規則に記載される。
各施設ごとの同時出走最多台数は以下の通り。

施設	決勝	予選
SUGO	40	48
筑波	36	43
もてぎ	40	48
鈴鹿	44	52
TI	40	48
CP MINÉ	36	43

6 大会審査委員会

1）大会審査委員長はMFJロードレース委員会の委員、もしくは主催者が指名する1級競技役員でMFJが任命する。
2）任命された審査委員長が定時までに会場に到着しない場合は、次席のものがこれにあたる。
3）審査委員長は必要に応じてエントラントの代表者を指名し、同席させることができる。

7 参加資格

2002年R²-1参加資格は以下のとおりとする。
参加条件に関する基本的な考え方
◇ST600は国際ライセンス所持者フリーエントリー（大会によって予選組数を制限する場合がある。）
◇GP125クラス、GP250クラス、SB/JSB1000/S-NKクラス
以下に記す有資格者は、エントリーが受理される。
国際ライセンス所持者で以下の条件を満たすもの
①2000年、2001年のスーパーライセンス所持者
②2001年度エリア選手権ランキング上位6名
③2002年度当該全日本選手権エントリー締め切り時点におけるエリア選手権上位6名
④上記以外で当該大会主催者が特別規則に規定した者
※上記①～③においても予選出走最多台数が満たされない場合、または予選出走最多台数を越えた場合、最大予選組2組を限度とし、その枠の範囲内で主催者が決定する。※200kmレースのスーパーバイクは2組
＊スーパーライセンスの取得資格
①2001年全日本選手権ポイント獲得者（個人資格）
②2001年各エリア選手権ランキング上位3名
③2001年エリアGPでの優勝者
④2002年全日本にワイルドカードで出場し、ポイント獲得した者（獲得時点での希望による）。
⑤世界選手権出場者などで、プロモーション委員会が認めた者。
＊トップエントラントのスーパーライセンス所持者はエリア選手権には出場できない。

(1) トップエントラント
各クラス2001年チームランキング15位まで（繰り下げはない）。
(2) トップエントラントチーム・スーパーライセンス所持者は主催者・プロモーション委員会の行う広報活動に協力する義務を負う。
（詳細は登録申請用紙に記す）

8 出場料およびMFJ共済会掛金（保険料）

出場料：1クラス		14,000円
MFJ共済会掛金（保険料）	1人	3,000円
	合　計：	17,000円

9 ピット要員

1）1ライダーに対して6名のピットクルーが認められる。いずれもピットクルーライセンスが必要であり、当日の変更は可能であるが追加は認められない。
2）ピットエリアではライダー1名について3人のピットクルーが作業できる。

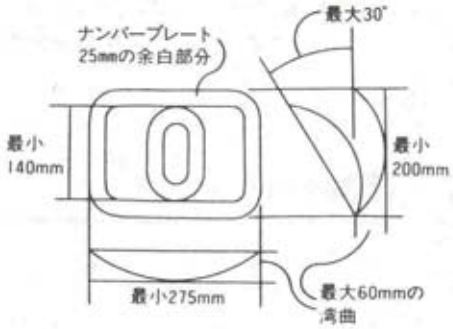
10 レース当日の練習走行

1）レース当日の朝、各クラスごとに最低10分間の練習走行が行われる。
2）天候等やむを得ない理由で短縮または中止される場合がある。

11 ゼッケンナンバー

1）前年度全日本選手権の有得点者で当該年度のスーパーライセンス申請者には、当該クラスのランキング順位に従って年間指定ゼッケンナンバーが与えられる。
2）その他のライダーには大会ごとに主催者からゼッケンナンバーが指定される。
3）ランキング順位に従って定められたゼッケンナンバーを変更する場合はMFJ中央スポーツ委員会にて許可が必要であり、別途定める料金を必要とする。
4）全日本選手権ゼッケン（ナンバープレート）規定
① モーターサイクルのフロントと両サイドにナンバーが装着され、観客と競技役員が明確に識別できるようにしなくてはならない。
② 文字およびバックグラウンドは、図Aに記載されているサイズに適合していなくてはならない。
③ 文字の色は黒か白とし、バックグラウンドの色と判別しやすいようにされなくてはならない。※S-NKのX-Formulaは白地に赤文字、NK-1は赤字に白文字（**JSBは青地に白文字**）とする。
④ バックグラウンドは最低限、下記の面積が単色でなければならない。蛍光色は禁止される。
・幅＝275㎜　　・高さ＝200㎜
⑤ ナンバープレートは、垂直から30°以上傾斜してはならない。
⑥ ナンバープレートは、湾曲による突出が水平方向からも垂直方向からも60㎜以上あってはならない。
⑦ 文字の周囲には最低25㎜幅の余白が残されていなくてはならない。
⑧ ナンバーの明瞭度に関して議論が持ち上がった場合、車検長の決定を最終のものとする。判別しにくいと判断された場合はすみやかに修正しなければならない。

図A



図B（基準の書体）

12 車両の変更

1）公式予選ではライダーは複数の車両を使用してもよいが、これはそのライダーの名前でスペアマシンとして登録され、車検に合格していることを条件とする。

2）公式車検終了後選手間でのマシンの交換はできない。

3）何らかの理由で、レースが停止されることになった場合、レースの再スタート前にマシンを交換する事が出来るが、そのライダーの名前でスペアマシンとして登録され車検に合格していることを条件とする。

4）レースがスタートした後のスペアマシンとのマシン交換はトップの走者が1周目を終えてフィニッシュラインを通過する前までとする（赤旗中断されたレースの再スタートの場合を除く）。

13 ピットロードのスピード制限

大会期間中を通じてピットロードのスピード制限は85km/hとする。

違反した場合は罰則が科せられる。

決勝レース時（サイティングラップ開始以降）における違反への罰則は、違反1回に対してストップ&ゴーペナルティー1回とする。

14 公式予選

1）公式予選

(1) 予選

① 予選は以下のとおりとする。

GP125, 250, スーパーバイク… 予選1組の場合 30分以上×2回を基準とする

予選2組の場合 25分以上×2回を基準とする

ST600…… 20分間以上×1回以上を基準とする

但し、天候等やむを得ない理由にて短縮される場合がある。

② 予選の同時出走最多台数は決勝レースグリッドの120%とする。

15 タイムキーピングシステム

主催者の定める大会特別規則にて自動計測装置の取り付けを義務づけられた場合、これに従わなければならない。

16 スターティンググリッド

スターティンググリッドの数、配置は各大会の特別規則に示される。

17 レース距離

1）各クラスの決勝レースの距離を下記のように定める。

ST600	40km～120km
GP125	60km～130km
GP250	60km～130km
スーパーバイク	60km～250km

2）天候等やむを得ない理由によって上記の距離から短縮される場合がある。

18 賞および得点

1）賞の詳細については公式通知に示される。

2）得点は国内競技規則・第3章〔㉗公式得点〕（37頁）に従い出走台数に応じて与えられる。得点の詳細は以下に示す。（S-NKの特別措置については85頁参照）

3）MFJのスポーツ国籍以外の選手については賞典は与えられるが、全日本選手権の得点は与えられない。（但し下位は繰上げない）

4）全日本選手権のランキングは得点の総合計によって決定される。その他の詳細は全日本選手権ランキング決定基準（47頁）に示される。

5）R^2-1全日本選手権においてのみ、以下の得点（ポイントシステム）がライダーポイント、チームポイントに採用される。

1位　25P	2位　20P	3位　16P	4位　13P	5位　11P
6位　10P	7位　9P	8位　8P	9位　7P	10位　6P
11位　5P	12位　4P	13位　3P	14位　2P	15位　1P

6）チームランキングポイントは、そのチームが起用（ワイルドカードを除く）するライダーの中の一番よいポイントだけを抽出し、積算する。

※ST600については有効ポイント制が検討されており、決定後ライディングに公示される。

19 主催者の権限

1）参加申し込みに際して、その理由を示すことなく、参加者、ライダー、ピットクルーを選択あるいは参加を拒否することができる。

2）競技監督が必要と認めた場合、ライダーに対し、指定医師による健康診断書の提出を要求し、競技出場の健康上の理由による可否を最終的に決定することができる。

3）ゼッケンナンバー、ピット・ガレージの割り当て等にあたり、各参加者の優先順位を決定することができる。

4）やむを得ない理由により、公式プログラムの印刷に間に合わなかったライダーの氏名登録または変更について許可することができる。

5）すべての参加者、ライダー、ピットクルーおよびその参加車両の音声、写真、映像など報道、放送、放映、出版、ビデオ等に関する権利を有し、この権限を第3者が使用することを許可できる。

20 本規則の施行

本規則は、各競技会の参加申し込み受付日より有効となる。なお本規則に示されていない事項は主催者の発行する大会特別規則、および国内競技規則による。

本規則は2002年１月１日より適用する。

R²-1 2002年MFJ全日本ロードレース選手権シリーズカレンダー

開催月日	大会名／会場	出場申込先	出場申込期間
4月13日(土) 〜 4月14日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第１戦 CP MINEスーパーバイクレース 会場：セントラルパークMINEサーキット ☎08375-8-0321	セントラルパークMINEサーキット 〒759-2152 山口県美祢市西厚保町 ☎08375-8-0321	2月26日(火) 〜 3月7日(木)
5月11日(土) 〜 5月12日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第２戦 筑波スーパーバイクレース 会場：筑波サーキット ☎0296-44-3146	(財)日本オートスポーツセンター 〒104-0041 東京都中央区新富1-9-6 新富一丁目ビル６Ｆ ☎03-3555-6051	4月2日(火) 〜 4月11日(木)
5月25日(土) 〜 5月26日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第３戦 鈴鹿スーパーバイク200km 会場：鈴鹿サーキット ☎0593-78-1111	(株)鈴鹿サーキットランドSMSC事務局 〒510-0295 ☎0593-78-3405	4月16日(火) 〜 4月25日(木)
6月8日(土) 〜 6月9日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第４戦 オートポリススーパーバイクレース 会場：オートポリスサーキット ☎0973-55-1111	オートポリスサーキット 〒877-0132 大分県日田郡上津江村大字上野田 1110-12 ☎0973-55-1111	4月30日(火) 〜 5月9日(木)
6月22日(土) 〜 6月23日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第５戦 もてぎスーパーバイクレース 会場：ツインリンクもてぎ ☎0285-64-0001	ツインリンクもてぎレース事務局 〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町大字桧山120-1 ☎0285-64-0200	5月14日(火) 〜 5月23日(木)
8月31日(土) 〜 9月1日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第６戦 SUGOスーパーバイクレース 会場：スポーツランドSUGO ☎0224-83-3127	SUGOスポーツクラブRR係 〒989-1394 ☎0224-83-3127	7月23日(火) 〜 8月1日(木)
9月14日(土) 〜 9月15日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第７戦 鈴鹿スーパーバイクレース「鈴鹿秋祭り」 会場：鈴鹿サーキット ☎0593-78-1111	(株)鈴鹿サーキットランドSMSC事務局 〒510-0295 ☎0593-78-3405	8月6日(火) 〜 8月15日(木)
10月19日(土) 〜 10月20日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第８戦 TIスーパーバイクレース 会場：TIサーキット英田 ☎08687-4-3311	TIサーキット(株)全日本RR事務局 〒701-2612 岡山県英田郡英田町滝宮1210 ☎08687-4-3311	9月10日(火) 〜 9月19日(木)
11月2日(土) 〜 11月3日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第９戦 2＆4 会場：鈴鹿サーキット ☎0593-78-1111	(株)鈴鹿サーキットランドSMSC事務局 〒510-0295 ☎0593-78-3405	9月24日(火) 〜 10月3日(木)

※開催クラスは全戦ともSB/JSB1000/S-NK、GP250、GP125、ST600クラス
※全大会とも２日制：土曜日＝公式予選、日曜日＝決勝レース
※全大会ともFIM公認国際格式レース
※鈴鹿サーキットとスポーツランドSUGOへの郵便物は、郵便番号と宛名のみで届きます。

2002年ロードレース主要競技会カレンダー

日　程	大会名/会場	開催クラス	出場申込先
4月5日(金) 〜 7日(日)	FIMロードレース世界選手権シリーズ GP of JAPAN 会場:鈴鹿サーキット　☎0593-78-1111	MotoGP GP250 GP125	(株)鈴鹿サーキットランドSMSC事務局 〒510-0295 ☎0593-78-3405
4月19日(金) 〜 21日(日)	FIMスーパーバイク世界選手権 SUGOスーパーバイク日本大会 会場:スポーツランドSUGO　☎0224-83-3111	SB	SUGOスポーツクラブRR係 〒989-1394 ☎0224-83-3127
8月2日(金) 〜 8月4日(日)	FIM世界耐久選手権シリーズ 鈴鹿8時間耐久ロードレース 会場:鈴鹿サーキット　☎0593-78-1111	SB/S-NK	(株)鈴鹿サーキットランドSMSC事務局 〒510-0295 ☎0593-78-3405
8月25日(日)	2002サマー・エンデュランス・カーニバル もてぎオープン7時間耐久 会場:ツインリンクもてぎ　☎0285-64-0001	オープン	ツインリンクもてぎレース事務局 〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町大字桧山120-1　☎0285-64-0200
10月5日(金) 〜 10月6日(日)	FIMロードレース世界選手権シリーズ Pacific GP 会場:ツインリンクもてぎ　☎0285-64-0001	MotoGP GP250 GP125	ツインリンクもてぎレース事務局 〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町大字桧山120-1　☎0285-64-0200
10月13日(日)	SUGO オープン耐久 会場:スポーツランドSUGO　☎0224-83-3111	オープン	SUGOスポーツクラブRR係 〒989-1394 ☎0224-83-3127

※鈴鹿サーキットランド・スポーツランドSUGOへの郵便物は、郵便番号と宛名のみで届きます。

スーパーバイクとJSB1000/スーパーネイキッドの混走時の規定

1．混走時の決勝進出台数の決定方法

予選通過の必要条件を満たした者の中で、SBとJSB/S-NKの台数比率を求める。この比率で各々のクラスの決勝進出台数を決定する。

①予選が1組の場合

タイム上位から各々のクラスの決勝進出台数に応じて選択する。

②予選が2組で総合タイム順にて決定する場合

2組の総合タイム順にて各々のクラスの決勝進出台数に応じて選択する。

③予選が2組で降雨等にて各組ごとの結果をもとに選択する場合

各予選組の同順位ごとにタイムを比較し、総合順位（SBとJSB1000/S-NKの混成）を出し、その後総合順位の上位から各クラスごとの決勝進出者を選択する。

2．全日本スーパーバイク（JSB1000/S-NK混走）のポイントシステム

①スーパーバイククラスのポイントはJSB1000/S-NKを含みトータルの順位で与えられる。

②スーパーバイクのポイントとは別に、決勝進出者からJSB1000/S-NK選手を抜き出してJSB1000/S-NKのポイントをつける。その際、出走台数によるポイント取得者について特別に下記を適用する。

1〜4台の場合：　1位＝12.5P　　2位＝10P　（完走者のうち2名のみ）

以下5台以上は通常通り。

※②のJSB1000/S-NKのみのポイント制度は2003年に廃止される

付則 5

エリア選手権大会 特別規則

ROAD RACE

1 公 示

エリア選手権ロードレースはFIM国際スポーツ憲章に基づいたMFJ国内競技規則とエリア選手権レースの共通した項目をまとめた本大会特別規則と各大会の特別規則に基づきMFJ公認の国内格式競技会として開催される。

2 開催種目

① 参加資格：国際・国内（スーパーライセンス所持者は参加できない）。
② クラス：ST600・SS600・GP125・GP250・スーパーバイク（JSB1000/S-NK含む）

3 追加のクラス

エリア選手権には併催クラスが追加されてもよい。

4 選手権

2002年エリア選手権は下記4地域で開催される。**（予定）**

・ノースエリア選手権（SUGO・エビス）
・イーストエリア選手権（筑波・富士・もてぎ）
・ウエストエリア選手権（鈴鹿・TI）
・サウスエリア選手権(CP MINÉ・SPA直入・オートポリス）

※各エリア選手権の各クラスのランキング上位3名は、次年度のスーパーライセンス取得資格が与えられる（選択可）。

※上記エリア区分については変更される場合がある。ライディング誌にて最終的に公示する

5 コース

コースはMFJが国内公認したコースとする。開催上限クラスはその施設の公認された上限クラスに限定される。

ショートカットに関する規定は、各主催者発行の特別規則に記載される。

6 大会審査委員会

1）大会審査委員長は主催者が任命する。

2）任命された審査委員長が定時までに会場に到着しない場合は次席のものがこれにあたる。

7 参加定員

参加定員を定める場合がある。

8 出場料およびMFJ共済会掛金（保険料）

エントリー料金は主催者によって定められる。MFJ共済会掛金（保険料）は3,000円

9 ピット要員

1）1ライダーに対して最大4名のピットクルーが認められる。いずれもピットクルーライセンスが必要であり、エントリー時に申請が必要であり、当日の変更は可能であるが追加は認められない。

2）ピットエリアではライダー1名について2人のピットクルーが作業出来る。

10 ゼッケンナンバー

ライダーには大会ごとに主催者からゼッケンナンバーが指定される。

1）国内ライセンスのプレートカラーはクラスごとに下記に定められる。

GP125	黒地に白文字	S-NK	X-Formula	白地に赤文字
GP250	緑地に白文字		NK1	赤地に白文字
スーパーバイク	白地に黒文字	ST600		白地に黒文字
JSB1000	**青地に白文字**	SS600		白地に青文字

2）国際ライセンス（S-NKは除く）のプレートは全日本特別規則[11]—4）・81頁のプレートカラーの規定とする。

11 車両の変更

1）公式予選ではライダーは複数の車両を使用してもよいが、これはそのライダーの名前でスペアマシンとして登録され、車検に合格していることを条件とする。

2）車検終了後の選手間でのマシンの交換は出来ない。

3）何らかの理由で、レースが停止されることになった場合、レースの再スタート前にマシンを交換することが出来るが、そのライダーの名前でスペアマシンとして登録され、車検に合格していることを条件とする。

4）レース停止の場合を除き、マシン交換はレーススタート後トップのライダーが1周するまでとする。

12 公式予選

公式予選は主催者により設定される。（最低時間は設けない）

13 タイムキーピングシステム

主催者の定める大会特別規則にて自動計測装置の取り付けを義務づけられた場合、これに従わなくてはならない。

14 スターティンググリッド

スターティンググリッドの数、配列は各大会の特別規則に示される。

15 賞および得点（ポイント）

1）賞の詳細については公式通知に示される。
2）得点は国内競技規則第３章〔㉗公式得点〕（37頁）によって与えられる。
3）耐久レースの場合は2倍のポイントがそれぞれのライダーに与えられる。ただしチームが3人からなる場合、レースの総距離あるいは総走行時間の20%以上を走ったライダーに得点が与えられる。
4）国内ライセンスで獲得する昇格ポイントは総合順位によって与えられる。
5）やむを得ず排気量クラスの混走を行う場合のポイントは，それぞれのクラスの予選出走台数から適用する。
6）国内ライセンスにて出場し優勝した者は、国際ライセンスに昇格する権利を与えられる（当該年度中であればいつでも可）。
7）全日本選手権と同日併催されるエリア選手権クラスには、賞金が設定される（各大会特別規則告知）。

16 主催者の権限

1）参加申し込みに際して、その理由を示すことなく、参加者、ライダー、ピットクルーを選択あるいは参加を拒否することができる。
2）競技監督が必要と認めた場合、ライダーに対し、指定医師による健康診断書の提出を要求し、競技出場の健康上の理由による可否を最終的に決定することができる。
3）ゼッケンナンバー、ピット・ガレージの割り当て等にあたり、各参加者の優先順位を決定することができる。
4）やむを得ない理由により、公式プログラムの印刷に間に合わなかったライダーの氏名登録または変更について許可することができる。
5）すべての参加者、ライダー、ピットクルーおよびその参加車両の音声、写真、映像など報道、放送、放映、出版、ビデオ等に関する権利を有し、この権限を第3者が使用することを許可できる。

17 本規則の施行

本規則は、各競技会の参加申し込み受付日より有効となる。なお本規則に示されていない事項は主催者の発行する大会特別規則および国内競技規則による。
本規則は2002年１月１日より適用される。

2002 MOTORCYCLE SPORTS RULES

ロードレースにおける2次災害防止について

最近転倒後に後続車にひかれる2次的な事故が多発しております。
転倒、もしくは故障で停止したときに2次事故防止に充分に気を配って行動して下さい。

転倒、又は故障停止したら

2次災害防止を基本的に

転倒したら2次災害の防止。つまり、後続車にひかれる、あるいは後続車を転倒させる等、事故の増大を防止するよう心がけて下さい。

まず逃げる

転倒したら、まず安全な所にできるだけ早く逃げて下さい。

特に、オイルによる転倒は、後続車も同じ所に次々と転倒してきます。

後続車への合図

ポストから黄旗が振られますが、できるかぎり後続車に知らせる努力をして下さい。タイミングを見て、電源と燃料コックをOFFにして火災やガス漏れの防止をして下さい。

障害物のかたづけ

オフィシャルと協力して散乱部品のかたづけを素早く行って下さい。オイルやガソリンがこぼれていたら処理作業も素早く行って下さい。安全上、走ってくるレーサーに背中を向けないよう心がけて下さい。

コース内はヘルメットを

自分が転倒した所は他のライダーも転倒しやすい場所です。いつ飛び込んで来るか分かりません。

ガードレールの外に出るまではヘルメットを被ったままで行動して下さい。コース内（グリーンも含む）にライダーがいる間は黄旗が振られ、追い越し禁止です。他のライダーを拘束しますので、できるだけ早くコース外に退場して下さい。

再スタート

マシンが再スタートが可能かどうかの確認をして下さい。

マシンの点検はコース内の危険な場所で行わないで下さい。オフィシャルの指示に従い安全な場所に移動して下さい。

1）オイル、ガソリン、冷却水、ブレーキオイル等の漏れがないか確認をして下さい。オイル漏れなどがあった場合は、無理にピット帰還はしないで下さい。

2）走行に危険のある部分の破損、重要保安部品の破損がないか、また破損部分が鋭利になり2次被害を与えないか確認して下さい。

3）カウリング内に泥、砂利、草等が入っていないかを確認し、またタイヤに泥が付着したままライン上に復帰してはいけません。後方の安全を充分に確認し余裕をもってコースに復帰して下さい。

転倒車両を見たら

転倒したマシンは、オイル、ガソリン等をこぼす可能性があります。

走行中に転倒車を目撃したら次の周には充分注意をして通過して下さい。

サーキット走行に関する指導要項

平成９年５月16日制定

１．目的

本指導要項は、財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会（以下MFJという）が、ロードレースコース（サーキット）において走行する際の基本的な走行方法、マナーなどについて指導するための基準である。

２．定義

１）サーキット走行は、全ての者が、その持ち得る技量及び車両の能力において、でき得る限りより速く、かつ安全に走ることを目的として走行しなければならない。（後述のスロー走行除く）

２）レコードラインの定義

レコードラインとは、そのサーキットをでき得る限りより速く、かつ安全に走るための理想的走行ラインをいう。

３．サーキット走行における遵守事項

サーキット走行する際は、各サーキットごとに定められた規則を熟知し、当該施設の指導員・係員等の指示に従わなければならない。

１）優先権

(1) サーキット走行においては、基本的にはレコードラインを走行する者に優先権がある。

(2) スロー走行中の者は、レコードラインを走行する者を妨げてはならない。

スロー走行とは、以下をいう。故障車両／初心者／ならし運転中の者／コース慣熟走行中の者。

スロー走行車は基本的にはコースピット側を走行する。

(3) ピットロードにおいては、ピットインしてくる車両に優先権がある。

(4) ピットアウトしてコースに復帰するライダーは、ピットロードを出て最初のコーナー出口に達するまでは、コースピット側に沿って走行しなければならず、その間、後方から近づく車両の走行を妨げてはならない。レコードラインへの合流に際しては、充分な速度まで加速しなければならない。

２）走行中の遵守事項

(1) シグナルおよびフラッグシグナルを確認し、その指示に従う義務がある。

(2) 通常予想できない地点での不必要な急減速をしてはならない。

(3) いかなる場合も、逆方向への走行あるいは規定外のコースを走行してはならない。

(4) 直線部分では、前車を追い越す以外の目的で進路を著しく急激に変更することは禁止される。

(5) 他のライダーの走行を妨害するような走行をしてはならない。

(6) 必要以外にハンドルから手を離したり、足をフットレストから離し、また外に突き出したりするような危険な姿勢をとってはならない。

3）転倒・コースアウト

(1) コースアウト

1　もしコースアウトしたら、復帰する場合は後方を確認したのちコースに復帰することができるが、マシンの確認（破損・オイル漏れ・グラベルの砂利等）も留意しなければならない。

2　トラブルなどで走行を止める場合は、マシンをコース外の安全な場所に止めてから退去する。

(2) 転倒

1　自分が転倒した場合、2次災害の防止つまり後続車にひかれる、あるいは後続車を転倒させる等の事故の増大を防止するように心がけなければならない。

2　転倒したらまず安全な所へ避難すること、特にオイルによる転倒は、後続車も同じ場所で続々と転倒してくる可能性があるので注意すること。

3　安全な場所から、でき得る限り後続車へ知らせる努力をすること。安全なタイミングを見て電源と燃料コックをオフにして火災やガス漏れを防止する。また、可能な限り散乱部品を撤去すること。

4　ガードレールの外に出るまでは、ヘルメットを着用していなければならない。

5　転倒したマシンは、オイル・ガソリン等をこぼす場合が多いので、転倒車両を目撃したら次の周回は充分注意して走行すること。

(3) コースへの復帰

1　安全な場所にてマシンが走行可能かどうか確認する。

2　オイル・ガソリン・冷却水・ブレーキオイル等の漏れがないか確認する。漏れがあった場合は、無理にピットまで帰還しないこと。

3　走行に危険がある部分の破損、重要保安部品の破損、または破損部が鋭利になっていないかを確認する。

4　カウリング内に泥、砂利、草等が入っていないか確認し、またタイヤに泥が付着したままライン上に復帰してはならない。

5　後方の安全を充分に確認して余裕を持ってコースに復帰する。

4）マシントラブル

(1) 走行中にマシントラブルに見舞われた場合、レコードラインを走行するライダーの妨げにならないように注意してピットに戻ることができるが、後方の安全を確認し合図をしてからピット設置側を走行すること。

(2) コース上にオイル等の液体を撒き散らす恐れのあるようなトラブルがあった場合は、スロー走行でピットに戻ろうとはせずに、すみやかにコースアウトして安全な場所にマシンを止めなければならない。

(3) 車両は、自己の責任において安全装備等各サーキットにて要求される仕様を満たし、完全に整備されていなければならない。

5）ピットイン

(1) ピットインする車両のライダーは、ピットロード入り口手前より後方を確認したのち、ピット側に車両を寄せ、手または足でピットインの合図を行ったのち、安全を確保しピットロードを徐行しなければならない。

ピットエリア（停車区域）を走行することは禁止される。

(2) ピットインする車両は、自己のピットにできるだけ近いピットロードからピットエリアに入り、自己のピットにできるだけ寄って停車しなければならない。

(3) ピットロードのスピード制限を設けてある場合は、当該サーキットの規則に従わなけれ

ばならない。

6）その他

(1) 常にスポーツマンとしての態度を保ち、品格を疑われるような言動は厳に慎まなければならない。

(2) 走行時には、アルコール類あるいは薬品（興奮剤等）を使用してはならない。

4．損害に対する責任

1）走行中自己の車両及びその付属品及び安全装備等が破損した場合、またサーキットの付帯設備等を破損した場合も、その責任は自己が負わなければならない。

2）走行に際して起こった負傷等は、参加者自らが責任を負うものとする。

開催日程(二輪・四輪)	スケジュール		持参するもの	申込用紙、運転免許証、印鑑、筆記用具、写真2枚(2.5cm×3cm)、承諾書・印鑑証明(未成年のみ)、入会金・年会費・受講料・保険証
2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	サーキット事務所にお問い合わせ下さい。	開催日によりタイムスケジュールが異なりますので、ご予約の際ご確認ください。 ＊日程の追加及び中止の場合があります。	走行に必要なもの	二輪：実技車両(125cc以上のスポーツバイク・レーサー可) 皮ツナギ、ヘルメット、グローブ、ブーツ
		定員		四輪：実技車両(JAF国内競技車両にもとづく車両、又ノーマル車両、シートベルトは3点式以上のもの) ヘルメット、グローブ、レーシングシューズ、レーシングウェア(運転に適した服装)
		二輪 100名		
		四輪 60名 ＊尚、定員になり次第〆切らせていただきます。	申込方法	●必ず電話予約してください。 ●開催日の1ヶ月前より受付開始いたします。 ●予約先…エビススポーツクラブ事務所☎0243-24-2972

ESCライセンス料金とスポーツ走行料金

(ロード二輪・四輪は、西東コース共通会員とする。)

	ロード二輪	ロード四輪		ロードミニバイク西	スーパーカート東
入会金	8,000円	8,000円		5,000円	5,000円
年会費	12,000円	20,000円		10,000円	15,000円
講習料	5,000円	5,000円			
合　計	25,000円	33,000円		15,000円	20,000円
＊更新料	12,000円	20,000円		10,000円	15,000円
走行料(会員)	30分＝2,000円	30分＝平日2,500円	30分＝土日祝3,000円	30分＝1,500円	2,500円
保険料(1口)	500円	500円		500円	500円

＊更新料は更新時期によって料金が異なります。

エビスサーキット

〒964-0088　福島県二本松市沢松倉1番地
TEL.0243-24-2972 FAX.0243-24-2936
http://www.interq.or.jp/japan/ebisu/index.html

いつまでもモーターサイクル。

フレッシュで充実した情報をキメ細かく編集。あなたのバイクライフを応援します。

モーターサイクリスト

Since 1951

毎月1日発売●定価560円

別冊 MOTOR CYCLIST

Since 1978

毎月15日発売●定価660円

※定価は税込み

株式会社 八重洲出版

本　　社 ●〒104-8488 東京都中央区八丁堀4-5-9　エイトビル ☎03-3552-8431(代)
大阪支社 ●〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地1-3-16 京富ビル ☎06-6344-2015(代)

MFJ 全国公認 サーキットリスト

MFJの公認サーキットは全国に
下記21サーキットがあります。

北海道：HSP（北海道スピードパーク）
：十勝インターナショナルスピードウェイ
宮城県：スポーツランドSUGO
：仙台ハイランドレースウェイ
福島県：エビスサーキット
：エビスサーキット西コース
新潟県：日本海間瀬サーキット
栃木県：那須モータースポーツランド
：ツインリンクもてぎ
：ツインリンクもてぎ北ショートコース
茨木県：筑波サーキット
静岡県：富士スピードウェイ（FISCO）
三重県：鈴鹿サーキット
：鈴鹿サーキット南コース
兵庫県：猪名川サーキット
：セントラルサーキット
岡山県：TIサーキット英田
山口県：セントラルパークMINÉサーキット
大分県：スポーツ&セーフティライディングフィールド・SPA直入
：オートポリスインターナショナルレーシングコース
熊本県：HSR九州（ホンダセーフティ&ライディングプラザ九州）

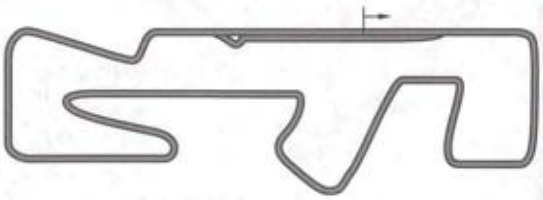
▶HSP（北海道スピードパーク）

〒044-0085 北海道虻田郡倶知安町字峠下155
☎0136（23）3880

全長距離／1,389.44m
最大直線長／360m
ピット数／15個
走行路幅／9～12m
交通／札幌市内より95km

▶十勝インターナショナルスピードウェイ

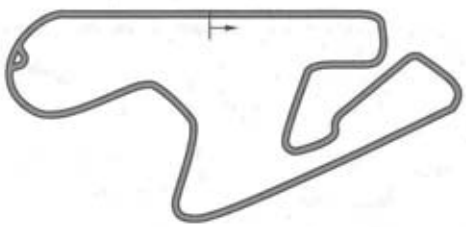
〒089-1573 北海道河西郡更別村字弘和477番地
☎0155（52）3910
全長距離／グランプリコース・5,100m
クラブマンコース・3,400m
最大直線長／1,010m
ピット数／36個
走行路幅／13.5～15m
交通／帯広空港から15km
帯広駅から40km



▶スポーツランドSUGO

〒989-1394 宮城県柴田郡村田町菅生6-1
☎0224（83）3111

全長距離／3,737.5m
最大直線長／704.5m
ピット数／45個
走行路幅／10～12.5m
交通／東北自動車道・村田I.Cより約10km



▶仙台ハイランドレースウェイ

〒989-3434 宮城県仙台市青葉区新川早坂12
☎022（395）2120

全長距離／4,063.00m
最大直線長／584.34m
ピット数／32個
走行路幅／12～15m
交通／東北自動車道
仙台宮城I.Cより約20km

▶エビスサーキット

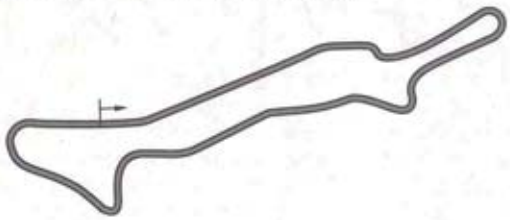
〒964-0088 福島県二本松市沢松倉1
☎0243（24）2972
全長距離／2,061m
最大直線長／420.10m
ピット数／20個
走行路幅／10～12m
交通／東北自動車道・二本松I.Cより約10km

▶エビスサーキット西コース

〒964-0088 福島県二本松市沢松倉1
☎0243（24）2972
全長距離／2,103m
最大直線長／275.72m
ピット数／60個
走行路幅／10～15m
交通／東北自動車道・二本松I.Cより約10km

▶日本海間瀬サーキット

〒953-0105 新潟県西蒲原郡岩室村大字間瀬字下山610
☎0256（85）2201
全長距離／2,000m
最大直線長／500m
ピット数／30個
走行路幅／8～12m
交通／関越自動車道・巻潟東I.Cより約20km



▶那須モータースポーツランド

〒325-0011 栃木県黒磯市寺子字坂の上677
☎0287（63）7300

全長距離／1,146m
最大直線長／281m
ピット数／12個
走行路幅／7.5～12m
交通／東北自動車道・那須I.Cより約10km

▶ツインリンクもてぎ

〒321-3533 栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1
☎0285（64）0001

全長距離／4,801.379m（フルコース）
最大直線長／762m
ピット数／45個
走行路幅／12～15m

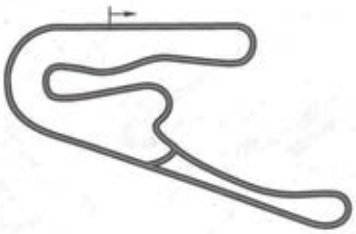
交通／常磐自動車道・
水戸I.Cより40分
那珂I.Cより40分
東北自動車道・
鹿沼I.Cより90分
宇都宮I.Cより80分

▶ツインリンクもてぎ北ショートコース

〒321-3533 栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1
☎0285（64）0001
全長距離／982.164m
最大直線長／142.280m
ピット数／16個
走行路幅／8～14m
交通／常磐自動車道・
水戸I.Cより40分
那珂I.Cより40分
東北自動車道・
鹿沼I.Cより90分
宇都宮I.Cより80分

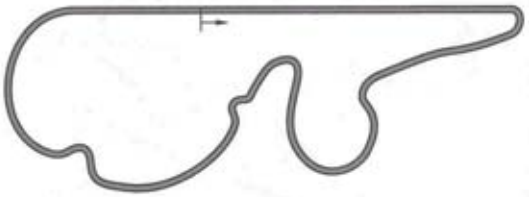
▶筑波サーキット

〒304-0824 茨城県結城郡千代川村村岡字西原
☎0296（44）3146
全長距離／2,070m
最大直線長／437.75m
ピット数／30個
走行路幅／10～15m
交通／常磐自動車道・谷和原I.Cより約25km



▶富士スピードウェイ（FISCO）

〒410-1308 静岡県駿東郡小山町大御神
☎0550（78）1234
全長距離／4,416m
最大直線長／1,500m
ピット数／45個
走行路幅／12～15m
交通／東名自動車道・御殿場I.Cより約10km
中央自動車道・東富士五湖道路　須走I.Cより約10km



▶鈴鹿サーキット

〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
☎0593（78）1111

全長距離／5,864.03m（2001年1月1日現在）
最大直線長／900m
ピット数／48個
走行路幅／10～14m
交通／東名阪自動車道・鈴鹿I.Cより約13km
名古屋より約52km、大阪より約132km

▶鈴鹿サーキット南コース

〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
☎0593（78）1111

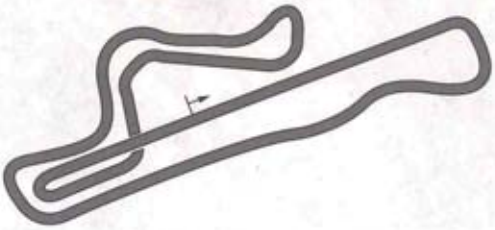
全長距離／1,264m
最大直線長／190m
ピット数／20個
走行路幅／10m
交通／東名阪自動車道・
鈴鹿I.Cより約13km

▶猪名川サーキット

〒666-0214 兵庫県川辺郡猪名川町清水字前谷72-1
☎0727 (69) 0193
全長距離／1,021m
最大直線長／131.7m
ピット数／30個
走行路幅／8～12m
交通／県道川西篠山線から約1.5km

▶セントラルサーキット

〒679-1132 兵庫県多可郡中町坂本字草山521-1
☎0795 (32) 3766
全長距離／2,858.774m
最大直線長／664.642m
ピット数／30個
走行路幅／12～15m
交通／中国自動車道・竜野社I.Cより約16km
加西I.Cより約14km



▶TIサーキット英田

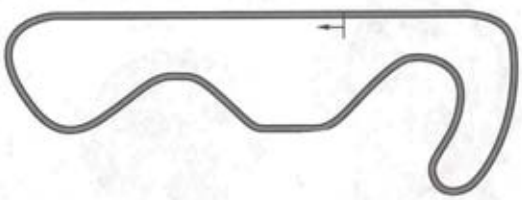
〒701-2612 岡山県英田郡英田町滝宮1210
☎0868 (74) 3311
全長距離／3,703m
最大直線長／680m
ピット数／54個
走行路幅／12～15m
交通／中国自動車道・美作I.Cより約25km
山陽自動車道・備前I.Cより約25km
和気I.Cより約25km

▶セントラルパークMINÉサーキット

〒759-2152 山口県美祢市西厚保町
☎0837 (58) 0321
全長距離／3,238.98m
最大直線長／900m
ピット数／46個
走行路幅／10～15m
交通／中国自動車道・
美祢西I.Cより約5km

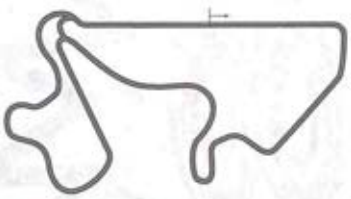
▶スポーツ＆セーフティ ライディングフィールド・SPA直入

〒878-0403 大分県直入郡直入町大字上田北字浦原510-15
☎0974 (75) 3191
全長距離／1,430m
最大直線長／420m
ピット数／24個
走行路幅／10～11m
交通／大分市内より約40km



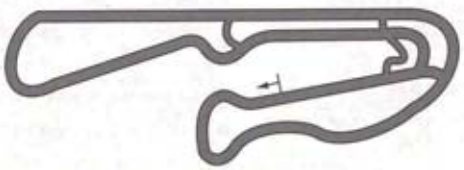
▶オートポリスインターナショナルレーシングコース

〒877-0312 大分県日田郡上津江村大字上野田1110-12
☎0973 (55) 1111
全長距離／4,674m
最大直線長／902m
ピット数／46個
走行路幅／12～15m
交通／九州自動車道・菊水I.Cより約45km
大分自動車道・日田I.Cより約45km



▶HSR九州 (ホンダセーフティ&ライディングプラザ九州)

〒869-1231 熊本県菊池郡大津町大字平川1500
☎096 (293) 1370
全長距離／2,991m
最大直線長／700m
ピット数／30個
走行路幅／9～15m
交通／九州縦貫道路・熊本I.Cより約15km



実践のレーシングポテンシャルを集約

新しいシンボルマークです。

FO-424

レーシングスーツ ¥118,000

カラー:レッド、ブラック、ブルー
サイズ:M、L、L/W、LL、LL/W、3L
素　材:表地/牛革(一部パンチ加工)
　　裏地/ポリエステル100%
　　(メッシュ)

サーキットで激しいバトルを繰り返すライダーのニーズに応えた、レーシングテクノロジー直系のレーシングスーツ。攻めの走りのための、勝つための機能を、高い次元で実現させています。

- 機能美を徹底追求した印象的なデザイン。
- 整流効果とパットを兼ねたネックサポートを標準装備。
- 腰、肩にメッシュ加工のシャーリングを採用。より快適な通気性と運動性に優れた柔軟性を両立。
- 肩、肘、膝パットはアウターレザー部と一体化(ベルクロ式)。ライディング中のパットのズレを解消し、ハードなライディングにも対応。
- 脱着式裏地を採用。立体裁断に加え、ニット部を広げ、着用性と運動性をアップ。
- 手首に楕円状のニットを施し、操作性アップと伸縮性を確保。
- フイドサイズの設定(LL/W・L/W)

FORZA
フォルザインターナショナル 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-21虎ノ門33森ビル2F
TEL/03-3433-0405 FAX/03-3433-0460 http://www.majic-b.com/FORZAHOME.html

付則 6

ロードレース基本仕様

ROAD RACE

以下に規定する基本仕様は、ロードレース競技を行う上で必要とされる基本規則であり、ロードレースの全ての車両及び競技会に適用される。カテゴリー別に必要とされる詳細な仕様に関しては、各カテゴリー別仕様が適用される。

1 カテゴリー

1-1　GPクラス
　　レース専用に生産された車両

1-2　スポーツプロダクション
　　市販レーサーを除く一般市販車をベースとしてレース用に改造された車両

2 排気量の算出方法

2-1　総排気量は、シリンダーの容積を測定するのに用いられる幾何学公式に従って計算される。すなわち直径はボアによって表され、高さはピストンがその最上部から最下部まで移動するのに占めるスペースで表される。

2-2　公式
　　総排気量＝（D×3.1416×C÷4）×気筒数
　　D=ボア　C=ストローク　単位=cm　小数点以下4桁で切り捨て

2-3　測定の際には、ボアに1/10mmまでの許容誤差が認められる。この許容誤差を考慮しても排気量が当該クラスのリミットを越える場合、エンジンが冷めた状態で再測定が1/100mmのリミットまで行われる。

2-4　シリンダーのボアが真円でない場合、断面積を測定し、計算することとする。

2-5　全てのカテゴリーにおいて、スーパーチャージは禁止される。

3 一般的なアイテム

3-1 材質

フレーム、フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアーム・スピンドル、およびホイール・スピンドルにチタニウムを使用することは禁止される。ホイール・スピンドルに関しては、軽合金の使用も禁止される。チタニウム合金製のナットとボルトの使用は許可される。

3-2 フレームの定義

3-2-1 フレームとは図（107頁、図）で示すとおり、エンジンが取り付けられている部分を中心にステアリング取り付け部分とリヤサスペンションの取り付け部を含む構造全体をいう。

3-2-2 シートを取り付けるためのサブフレームは、フレーム本体に溶接されている場合はフレームとみなし、ボルトオン（脱着可能）のものはフレームとみなさない。

3-3 リヤ・スプロケットガード

3-3-1 チェーンとリヤスプロケットの間に、身体の一部が誤って挟まれることのないように、リヤスプロケットガードを取り付けなくてはならない。

3-3-2 そのガードは、スプロケットとドライブチェーンの噛合部をカバーすることとし、その材質は、アルミニウム、頑強なプラスチックまたは樹脂とし、その取り付け方式は、スイングアームにボルト・オンまたは溶接し、安易に脱落したりしないよう確実に固定しなければならない。

3-4 エキゾースト・パイプ

3-4-1 エキゾースト・パイプとサイレンサーは、音量規制に関する必要条件をすべて満たさなくてはならない。

3-4-2 エキゾースト・パイプの先端は、最低30㎜にわたってモーターサイクルの中心軸と水平かつ平行でなくてはならない。（許容誤差±10°）

3-4-3 排気ガスは後方に排出しなければならないが、ほこりを立てたり、タイヤやブレーキを汚したり、またパッセンジャーや他のライダーに迷惑をかけるような放出方法であってはならない。

3-4-4 後続ライダーに迷惑をかけないようにするために、オイルの飛散を防ぐ措置を施さなくてはならない。

3-4-5 エキゾースト・パイプの後端は、リヤ・タイヤの垂直接線より後ろにあってはならない。

3-5 ハンドルバー

3-5-1 ハンドルバーの最低幅は、85ccまでのマシンは最低400㎜。85ccを越えるマシンは最低450㎜とする。

3-5-2 ハンドルバーの最低幅はグリップの外側の先端から、反対側のグリップの外側先端までの距離で測定される。…… 107頁の図参照

3-5-3 ハンドルバーの先端が露出される場合は、固形物質を詰めるか、ゴムでカバーされていなければならない。

3-5-4 ハンドルバーの中心線、または中央位置から両側への回転角度は、最低各15°以上なくてはならない。…… 107頁の図参照

3-5-5 ストリームライニングがある場合、ハンドルバーがどの位置にあってもフロントホイールがストリームライニングに接触してはならない。

3-5-6 ライダーの指が挟まれないようにするために、ハンドルを左右いっぱいに切ってもハンドルバー（レバーを含む）と燃料タンクの間に最低30㎜の間隔があるように、ストッパー（ステアリングダンパー以外のもの）を取りつけなくてはならない。

3-5-7 ハンドルバー・クランプは、ハンドルバーが折れやすい部分ができないように、丸みをつけて製作しなくてはならない。

3-5-8　軽合金ハンドルバーの溶接による補修は禁止される。

3-6 コントロールレバー

3-6-1　すべてのハンドルバー・レバー類（クラッチ、ブレーキ等）は、原則として端部がボール状（このボールの直径は最低19㎜）でなくてはならない。このボールを平たくすることも認められるが、どのような場合も端部は丸くなっていなくてはならない（この平たくした部分の厚みは最低14㎜とする）。レバー端部は、レバーと一体構造に固定されていなくてはならない。

3-6-2　コントロール・レバー（フット・レバーおよびハンド・レバー）は、それぞれ別個のピボットに設けられなくてはならない。

3-6-3　ブレーキ・レバーがフットレストの軸に設けられる場合、どのような状況においても作動できなくてはならない。例えば、フットレストが曲がった、あるいは変形したというような状況においても作動できなくてはならない。

3-7 スロットルコントロール

スロットルコントロールは、手を離した時に自動的に閉じるものでなくてはならない。

3-8 フュエルポンプ

3-8-1　エレクトリックフュエル・ポンプは、事故の際に自動的に作動するサーキット・カットアウト（回路開閉器）を介して配線されなくてはならない。

3-8-2　この機能が車両検査時に確認できるよう、エレクトリックフュエルポンプにはテスト機能がなくてはならない。

3-9 フットレスト

3-9-1　フットレストの先端には最低半径８㎜の、中空でない球状の一体構造のプロテクションが設けられていなくてはならない。

3-9-2　フットレストは折りたたみ式でもよいが、この場合は自動的に元の位置に戻る仕組みになっていなくてはならない。

3-9-3　折りたたみ式でないスチール製フットレストの先端には、プラスチック、テフロンあるいはそれと同等の材質でできた先端（プラグ）が固定されなくてはならない（最低直径16㎜）。

3-10 ブレーキ

3-10-1　すべてのモーターサイクルは最低２つの効果的なブレーキ（各ホイールにひとつ）がなくてはならず、これは独立してホイールと同心的に作動しなくてはならない。

3-10-2　左右へのフロントブレーキキャリパーのフロントブレーキラインの分岐部分は、ロワーフォークブリッジ（ロワートリプルクランプ）より上になければならない。

3-11 マッドガードおよびホイールプロテクション

3-11-1　マッドガードはタイヤの両側方に張り出していなくてはならない。

3-11-2　フロント・マッドガードは、ホイールの周囲を最低100°に渡ってカバーしていなくてはならない。また、107頁記載の角度の範囲内でなければならず、その部分はホイール自体がカバーされてもよい。

3-11-3 マッドガードの前端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は45°と60°の間でなくてはならない。マッドガードの後端とホイール中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は20°を越えてはならない。

3-11-4 リヤ・マッドガードは、ホイールの周囲を最低120°に渡ってカバーしていなくてはならない。

3-11-5 リヤ・マッドガード後端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は20°を越えてはならない。(107頁図参照)

3-11-6 ストリームライニングがある場合、マッドガードは必要とされない。ストリームライニングが無い場合にはマッドガードが必要とされる。

3-11-7 シートのフェアリングがリヤ・タイヤの後側の垂直接線にまで達している場合には(許容誤差−50㎜)、リヤ・マッドガードを装着する必要は無い。

3-12 フェアリング(カウリング、ウインドスクリーン含む全てのボディワーク)

3-12-1 フロントホイールは(タイヤを除く)、フロントマッドガードに隠れる部分を除き、各サイドからはっきりと見えなくてはならない。

3-12-2 フェアリングのいかなる部分も、フロント・ホイール・アクスルから前方100㎜を通る垂直線より前にあってはならない。ノーマルのマッドガードはフェアリングとはみなされない。

※スポーツプロダクションクラスに限り、車両公認時の形状がこの項目に合致しない場合、種目別仕様である公認時の形状の維持が優先される。

3-12-3 フェアリングのいかなる部分も、リヤ・ホイール・アクスルを通る垂直線の後部にあってはならないうえ、リヤ・ホイールのリムは、この線の後部円周180°に渡ってはっきり見えなくてはならない。

3-12-4 モーターサイクルのいかなる部分も、リヤ・ホイール外側の後端の垂直接線より後方にあってはならない。

※スポーツプロダクションクラスに限り、車両公認時の形状がこの項目に合致しない場合、種目別仕様である公認時の形状の維持が優先される。

3-12-5 エアフォイル、またはスポイラーは、それがフェアリングまたはシートと一体構造になっている場合に限り取りつけることができる。これは、フェアリングの幅を越えてはならないうえ、ハンドルバーの高さを越えてはならない。

3-12-6 尖っているエッジは、少なくとも半径8㎜の丸みを持たせなくてはならない。

3-12-7 ウィンドスクリーンの先端と、全てのフェアリングの露出部分の先端は丸められていなくてはならない。

3-12-8 通常のライディング・ポジションにおいてライダーは後方の両側及び上から全体(腕の前部を除く)が視認されなくてはならない。ライダーの顔またはヘルメットとフェアリング(ウインドスクリーン含む)との間の最低スペースは100㎜とする。この規則の適用を免れるために透明な材質を使用することは禁止される。

3-12-9 ライダーシートの後部の高さは最高150㎜とする。この高さは、シートの固いベースの最下部から、ライダー後方のフェアリングの最上部までを測った場合のものである。

3-12-10 ハンドルバーの位置がどこにあっても、フェアリングとハンドルバー先端あるいはステアリング・ステム、およびそれに装着されている装備類との間隔は最低20㎜なくてはならない。

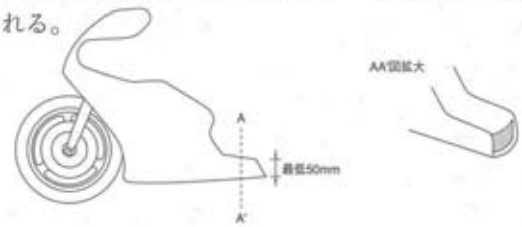
3-12-11 ナンバープレートが固定されている前部の傾斜角度は垂直面から後部へ30°以上あってはならない。(107頁図参照)

3-12-12　シートまたはその後方にあるいかなる部分（排気系を除く）の幅も450㎜以上あってはならない。

3-12-13　燃料タンクのキャップは、燃料タンクの外観形状からはみ出さないように、また転倒の際に外れることがないように取り付けられなくてはならない。

※この規則は、2000年以降の市販車に対してのみ適用される。

3-12-14　全ての４ストローク車両については、エンジンの破損または故障時に、そのエンジンに使用されるエンジンオイルおよびエンジン・クーラント総量の最低半分を保持できる構造になっていなくてはならない。（但しST250・ST400・SPは推奨事項）
フェアリング下部（オイル受け）の端部は、一番低いところから最低50㎜の高さであることが推奨される。



3-12-15　フェアリング下部の内側には、オイルを吸収する難燃性の素材が貼られてもよい。この規則を満足させるための最低限の外観変更が許可される。

3-12-16　上記変更以外に、スポーツプロダクションのフェアリングには、何も追加できない。

3-13 モーターサイクルの傾斜角とサスペンション

3-13-1　ロードレース（GPクラス）およびプロダクションレースにおけるモーターサイクルは、荷重がかからない状態において、タイヤ以外のいかなる部分も地面に触れることなく、垂直線から50°の角度に傾斜することができなくてはならない。（107頁図参照）

3-13-2　ST及びSPクラスについては推奨とする。

3-14 ホイール、リム、およびとタイヤ

3-14-1　メーカーが出荷した一体構造ホイール（キャスト、モウルド、リベット）または従来の着脱式リムに対して、スポーク、バルブまたは安全ボルト以外へはいかなる改造も禁止される。ただし、タイヤがリムから外れることを防ぐために使用される、テンションスクリューは例外とする。

3-14-2　リムの最大幅は下記のとおりとする。（スポーツプロダクションは限く）
ホイールリムの幅は、ETRTO（ヨーロッパタイヤリム技術機構）の定める方法によりフランジウォールの内側にて測定される。

3-14-3　リムの最低直径は400㎜とする。

クラス	最大幅
125	3.5インチ
250	5.5インチ
スーパーバイク	6.25インチ

3-15 ナンバープレート

3-15-1　ナンバープレートは長方形で頑丈な材質で出来ていなくてはならない。最低寸法は285㎜×235㎜とする。

3-15-2　プレートは平面から50㎜以上カーブ（突出）していてはならない。また、カバーされたり曲げたりされてはならない。

3-15-3　１枚のプレートがフロントに、垂直面から後方に向かって30°以内の角度で傾斜して固

定されなければならない。他の２枚はモーターサイクルの両側に、外に向かって垂直に固定されなくてはならない。

3-15-4 ナンバープレートははっきりと見えるように装着され、モーターサイクルのいかなる部分、またはライダーが自分のシートに座った時に身体で隠れてしまわないようにしなくてはならない。

3-15-5 ナンバープレートの数字の間に穴を開けることができる。しかしどのような状況においても数字自体に穴を開けてはならない。穴の部分も規定の色に見えなくてはならない。

3-15-6 別個のナンバープレートを装着する代わりに、ボディーまたはストリームライニングに同寸法のスペースをつや消し色でペイントするか、あるいは固定してもよい。

3-15-7 数字ははっきり読めるように、また太陽光線の反射を避ける為に、地の色同様につや消しで書かれなければならない。

3-15-8 数字の最低寸法は下記のとおりとする。

数字の高さ	140㎜	数字の幅	80㎜
ストローク幅	25㎜	数字間のスペース	15㎜

3-15-9 正規のナンバーと混同する恐れのあるその他のナンバープレート、またはマーキングは競技会の開始前にすべて取り外されなくてはならない。

3-15-10 すべてのナンバープレートの周囲には最低50㎜の余白が残され、ここにはいかなる広告も表示されてはならない。この規則に適合していないナンバー・プレートを装着しているモーターサイクルは、車検長によりレース参加の許可を得ることができない。

3-15-11 ナンバープレートの地色及び数字の色は下記のとおりとする。(蛍光色は禁止)

GP125	黒地に白文字	GP250	緑地に白文字
SP	黒地に黄文字	ストックバイク(ST600含む)	白地に黒文字
SS600	白地に青文字	スーパーバイク	白地に黒文字
JSB1000	**青地に白文字**		
耐久	黒地に白文字（白文字は反射素材のもの）		

3-16 フュエルタンク及びオイルタンク

3-16-1 フュエルタンクの最大容量は下記の通りとする。

GPクラス	32ℓ
耐久レース	24ℓ
スーパーバイク	24ℓ
JSB1000	24ℓ

3-16-2 その他スポーツプロダクションは各カテゴリーごとに設定する。

3-16-3 燃料はマシンにしっかりと固定された１つのタンク内に入れるものとする。

3-16-4 シートタンクおよび補助タンクは禁止される。すべての競技において、給油の為に容易に脱着出来る取り換えタンクを使用することは厳禁される。

3-16-5 タンクの容量を減少させる一時的充填物の使用は禁止される。

3-16-6 タンクに防爆材を完全に充填することが義務づけられる。

3-16-7 国内SPクラス、STクラスで、車両公認時の燃料タンクに一切の改造、変更のない場合は、この条件を免除される。

3-16-8 オイルキャッチタンクとブリーザーシステム

オイルブリーザーパイプが装着される場合、オイル放出は容易に手が届く場所に設けられたキャッチタンクに行う。このタンクは競技の前に空にしなくてはならない。

オイル・キャッチタンクの最低サイズは、ギヤーボックス・ブリーザーの場合250ccとし、エンジン・ブリーザーの場合には500ccが勧められる。

すべての4ストローク車両は、クローズド・ブリーザーシステムを備えていなければならない。オイルブリーザーパイプはエアボックス接続され、ボックス中に排出されなくてはならない。(107頁図参照)

3-16-9 オイル・ドレーンプラグおよび供給パイプ

すべてのオイルドレーンボルトは確実に固定され、ドリルで穴を開け、ワイヤーで所定の箇所に固定されなければならない。オイル供給パイプは所定の位置に適切にワイヤー止めされなくてはならない。

オイルキャビティに進入する外部オイル・フィルターのスクリューやボルトは、安全にワイヤーロックされなければならない。

3-16-10 燃料タンク・ブリーザー・パイプ

ノン・リターン・バルブを燃料タンク・ブリーザー・パイプに取りつけなくてはならない。これは、適切な材質でできた、最低容量250ccのキャッチ・タンクに放出されるようになっていなくてはならない。

3-16-11 燃料タンク・フィラー・キャップおよびオイル・フィラー・キャップ

燃料タンク・フィラー・キャップおよびオイル・フィラー・キャップは、閉じた状態で漏れないようになっていなくてはならない。さらにこれらはいかなる場合においても誤って開くことのないように完全にロックされていなくてはならない。

3-17 燃料、燃料／オイルの混合液

3-17-1 すべての車両には、MFJの定める無鉛ガソリンが使用されなくてはならない。(AVガス、航空機用燃料の使用は禁止される)

3-17-2 競技に使用できるガソリン

競技に使用できるガソリンは下記の項目のすべてに合致していなくてはならない。

① 競技用ガソリンとは一般公道用の市販車に供するために通常のガソリンスタンドにて購入できるもの、あるいはMFJ公認サーキットのガソリンスタンドにて購入できるガソリンとする。(ロードレースに関しては大会時にサーキットにて購入できるガソリンに限る)

② 競技用ガソリンは下記のMFJの定める仕様以内(無鉛ガソリン)に制限される。(AVガス、航空機用ガソリン等は使用できない)

鉛の含有量は0.013 g/l以下であること。

リサーチオクタン価が100.0(RON)、モーターオクタン価が89.0(MON)以下であること。

密度は15℃において0.725 g/ml～0.780 g/mlであること。

③ 競技用ガソリンには販売時に混入されている以外のいかなるものも添加されてはならない。ただし一般に販売されているスタンダードの潤滑油および1.5%以下のアルコール(燃料精製中に混入されているものに限る)については認められる。

④ 水冷エンジンの冷却水は、水あるいは水とアルコールの混合物に限られる。

3-17-3 大会特別規則(全日本ロードレース特別規則等)によりガソリンの銘柄および供給方法が指定される場合、それに従わなくてはならない。

3-18 音量規制

3-18-1 計測のためのマイクロフォンの位置は排気管後端から500㎜で、かつ中心線から後方45°で排気管と同じ高さとする。但し、高さが200㎜以下である場合は45°上方の点で行う。

3-18-2　ノイズ・テストの際、ギヤ・ボックスにニュートラルがないマシンは、スタンドに載せた状態で測定を受けなくてはならない。

3-18-3　規制に適合しているサイレンサーには車検にてマークが付けられ、車検後にサイレンサーを変更することが禁止される。ただし同様に車検合格し、マークを受けたスペア・サイレンサーに関しては例外とする。

3-18-4　ギヤはニュートラルとしてエンジンを回転させ、所定のrpm域に達するまでエンジンの回転を増していかなくてはならない。測定は所定のrpmに達した時に行うものとする。

3-18-5　rpmは、エンジンのストロークに相応するピストンの平均速度に基づく次の式にて求められる。

3-18-6　所定のエンジン回転数(rpm)$=\frac{30{,}000\times\text{ピストンスピード(m/s)}}{\text{ピストンストローク(mm)}}$

3-18-7　4ストローク車両の音量測定は、下記固定回転数方式が適用される。
エンジン型式および排気量ごとに、エンジンストロークはほぼ同等と見なされるので、測定は下記固定回転数にて実施する。

スポーツプロダクション、プロダクションをベースとしたエンジン。

	1気筒	2気筒	3気筒	4気筒
250cc（4・stroke）	5,500RPM	8,500RPM		
400cc（4・stroke）	5,000RPM	6,500RPM	7,000RPM	8,000RPM
600cc（4・stroke）	5,000RPM	5,500RPM	6,500RPM	7,000RPM
750cc（4・stroke）	5,000RPM	5,500RPM	6,000RPM	7,000RPM
over750cc（4・stroke）	4,500RPM	5,000RPM	5,000RPM	5,500RPM

その他レース用エンジン、GPフォーミュラ。（国内SPおよびGPクラス）

	1気筒	2気筒	3気筒	4気筒
125cc（2・stroke）	7,000RPM			
250cc（2・stroke）		7,000RPM		
500cc（2・stroke）		5,500RPM	7,000RPM	7,000RPM

3-18-8　2気筒を越えるエンジンの音量計測は、各エキゾースト・パイプの先端で測定される。

3-18-9　規制値をオーバーしているマシンは、レース前車検において再度測定を受けることができる。

3-18-10　バンケルエンジンの場合の測定回転数は、6,000rpmとする。

3-18-11　現行の音量規制値
2ストローク・エンジンについてはピストンスピード13m/secで測って105dB/Aまで。4ストローク・エンジンについては11m/secで測って105dB/Aまでとする。レース終了後は3dB/Aの許容誤差が認められる。全日本・エリア選手権においては79.06の固定回転数を使用することもできる。
スーパーバイク・SS600・ST600の規制値は、102dB/A、国内のSPクラス、ST250・400クラスの規制値は99dB/A

3-18-12　周辺への音量は、モーターサイクルから半径5m以内において90dB/Aまでとする。

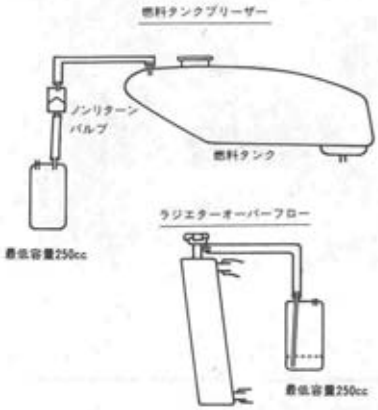
3-18-13　音量測定は気温20°を基準とする。気温10°以下の場合許容誤差＋1dB/Aが認められる。気温0°以下の場合許容誤差＋2dB/Aが認められる。

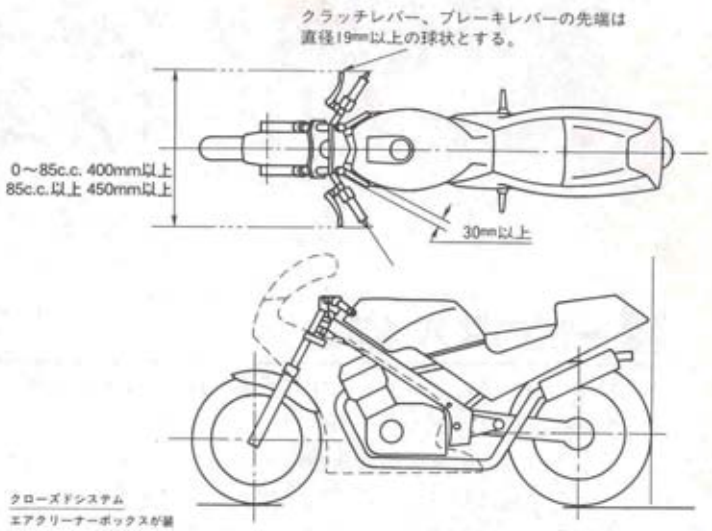
3-18-14　音量測定方法で、ここに記載されていない項目はFIM規則による。

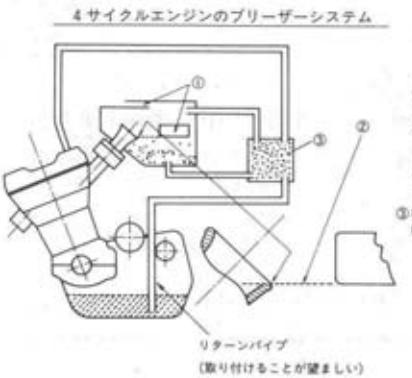
3-19 テレメトリー

動いているモーターサイクルへ情報を伝える、または動いているモーターサイクルから情報を得ることは禁止される。
マシンには、公式シグナリング・デバイスの搭載が必要とされる可能性もある。

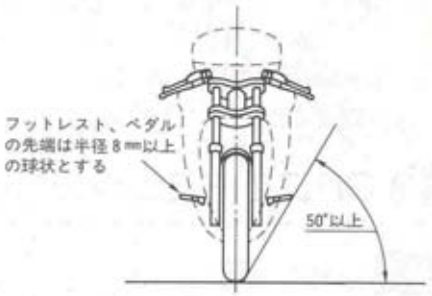
自動ラップ計時デバイスは“テレメトリー”とはみなされない。
自動ラップ計時デバイスは、公式計時方式、および装備を妨げてはならない。







クローズドシステム
エアクリーナーボックスが装着されていない場合、ブローバイガスがキャブレターに吸入されるような措置を施すこと。
③オイルキャッチタンク
最低容量500cc

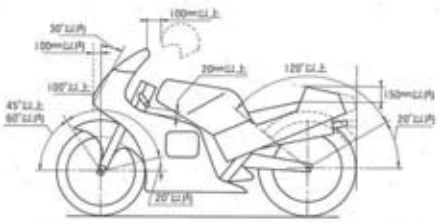


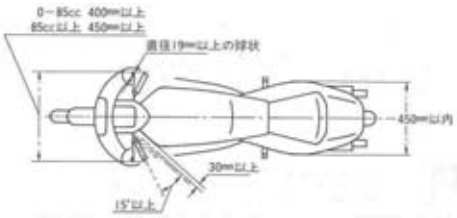
①+②

エア吸入口は、エアファンネルの一番低い箇所の水平線よりも上に位置すること。
吸入口がこれよりも下にある場合は吸入口に至る吸入通路の底部の少なくとも一部分が、水平線の上に位置すること。

①+③

ブリーザーシステム（エアクリーナーボックスおよびその他のオイルタンク）は、ドレーンパイプが詰まった場合に、合計で最低1,000ccの排出油を確保できる容量を持つこと。





[GPフォーミュラ]

付則 7

全日本・エリア選手権 ロードレース大会 技術仕様

ROAD RACE

1 一般的なアイテム

以下のクラスは全日本・エリア選手権ロードレース技術仕様により開催される。
全日本・エリア選手権：GPフォーミュラクラス
全日本・エリア選手権：スーパーバイククラス
地方選手権は別に定める国内の仕様にて開催される。
GPフォーミュラの技術仕様は以下の種目別仕様、スーパーバイクは種目別仕様と付則6ロードレース基本仕様に合致していることとする。種目別仕様と付則6ロードレース基本仕様の間で解釈の違いが生じた場合は種目別仕様を優先する。
規則の追加、改訂はMFJライディングにて告示される。

2 GPフォーミュラの技術仕様（全日本選手権、エリア選手権へ適用）

2.1 序 論

2.1.1 モーターサイクルとは、一本の軌跡を残す二輪車両で、内燃エンジンによって推進され、ひとりのライダーによってコントロールされるものである。

2.1.2 下記のMFJロードレースGPフォーミュラ規則に適合することを条件に、コンストラクターはデザイン、材質、およびモーターサイクルの全体的構造において自由に革新性を追求することができる。

2.1.3 テレメトリー
走行中のモーターサイクルから、またはモーターサイクルへの情報交換はおこなってはならない。オフィシャルのタイム計測装置は義務付けられる。

2.2 クラス

2.2.1 エンジン容積に基づいて下記のクラスに分類される

クラス	エンジン排気量	最多気筒数
125cc	85ccを越え125ccまで	単気筒
250cc	175ccを越え250ccまで	2気筒

2.3 エンジン

2.3.1 エンジンは2ストロークまたは4ストロークの原理で作動するもののみとする。

2.3.2 エンジンは自然吸気でなくてはならない。

2.3.3 エンジンの排気量はシリンダーの行程容積によって定義される。すなわち、シリンダー・ボア面積×ストロークである。

2.3.4 排気量に許容誤差は認められない。

2.3.5 エンジン排気量は外気温のもとで測定されなくてはならない。

2.4 ギ ヤ

2.4.1 ギヤの最大段数は6速とする。

2.5 車 重

2.5.1 下記が許可される最低車重である：

125cc ……70kg

250cc 単気筒……100kg ＊1

2気筒……100kg ＊2

＊世界選手権においては＊1＝85kg、＊2＝95kgが適用される。

2.5.2 最低車重を達成するためにバラストの追加が許可される。

2.5.3 車重は最初の車検でチェックされる。しかし、最終的な車重検査は、プラクティス・セッション終了後、あるいはレース終了後に実施される。

モーターサイクルの車重は、モーターサイクルが出場する状態、すなわちオイル、水、及び他の液体を含み（燃料は除く）、他のすべての追加の装備（例えばオフィシャルのタイム計測装置、カメラ装備等）を装着した状態で計測される。

2.5.4 燃料の残量といった可変的な要素を除くために、モーターサイクルは燃料タンクなしの状態で車両重量を計測され、その際全クラスについて2kgの許容誤差が認められる。

2.5.5 125ccクラスに関しての車両重量チェックは、ライダーが完全装備で乗車した状態で計測する。ライダーが乗車した状態の車両重量は132kgとする。（マシンの最低重量は70kg）

2.6 燃料タンク

2.6.1 燃料キャップはリーク・プルーフ（漏れ防止が施されているもの）で、ポジティブ・クロージングデバイス（確実にしまる装置）を装備していなくてはならない。

2.6.2 燃料タンク・ブリーザー・パイプにはノン・リターン・バルブが装着されていなくてはならない。

ブリーザーパイプは、最低容量250ccの適切な容器に排出しなくてはならない。

2.6.3 燃料タンクには火炎防止材質（防爆材）又はフュエルブラダー（燃料セル袋）が充填されていなくてはならない。

2.7 安全および構造基準

注意：図1，2，3（111頁）も参照のこと

2.7.1 **スロットル・グリップ**

2.7.1.1 スロットルツイスト・グリップは、開放時に自動的に閉じるものでなくてはならない。

2.7.2 **ステアリング**

2.7.2.1 ハンドルバーの幅は最低450㎜とし、先端はソリッド（中空でない）またはゴムで覆われたものとする。

ハンドルバーの幅とは、ハンドルバー・グリップまたはスロットル・ツイストグリップの外側と外側の間隔で測定されたものとする。

2.7.2.2　中心線から両側に、最低15°のステアリング回転角度がなくてはならない。

2.7.2.3　ハンドル・ロックした状態でハンドルバーとタンクの間に最低30㎜の間隔があるように、ストッパーを設置しなくてはならない。

2.7.3　**ブレーキ**

2.7.3.1　モーターサイクルには各ホイールに最低１個の、独立して操作されるブレーキが装備されなくてはならない。

2.7.3.2　カーボン製のディスクは禁止される。

2.7.4　**エキゾースト**

2.7.4.1　エキゾーストの排出口は、リヤ・タイヤの後端から垂直に引かれた線の後方に突出してはならない。

2.7.4.2　パイプ最後端の30㎜は水平で、モーターサイクルの中心線と平行でなくてはならない。許容誤差は、＋／－10°とする。

2.7.5　**フットレスト**

2.7.5.1　フットレストの先端は丸型で、中空でなく球状で、その半径は最低８㎜でなくてはならない。

2.7.6　**ハンドルバー・レバー**

2.7.6.1　レバーの長さは、ピボットポイントから測定して200㎜以上あってはならない。

2.7.6.2　レバーは原則として、端部がボール状でなくてはならない。

2.7.7　**フェアリング（カウリング・ウインドスクリーンを含む全てのボディワーク）**

2.7.7.1　ウインドスクリーンエッジ、またはその他のすべてのフェアリングの露出した部分のエッジは丸められていなければならない。

2.7.7.2　フェアリングの最大幅は600㎜を超えてはならない。
シートまたはその後方にあるすべての物の幅は、450㎜を越えてはならない。（エキゾースト・パイプは例外とする。）

2.7.7.3　フェアリングは、フロント・ホイール・スピンドルから前へ100㎜のところ（マッドガードが装着される場合は例外とする）に垂直に引かれた線とリヤ・タイヤのエッジから垂直に引かれた線を超えてはならない。

2.7.7.4　横から見た場合、下記を判別することができなくてはならない：
a）最低180°にわたるリヤ・ホイール・リム
b）マッドガードまたはフォークに覆われた部分を除くフロント・ホイール・リム全体
c）ノーマル・ポジションに座ったライダー。上腕を除く。
注意：透明の材質を使用することは禁止される。

2.7.7.5　モーターサイクルのいかなる部分も、リヤ・タイヤの後端から垂直に引かれた線より後方に突出してはならない。

2.7.7.6　シートのベースとシートの一番高い地点との差は最大150㎜とする。

2.7.7.7　マッドガードは義務づけられない。装着された場合、フロント・マッドガードは下記まで伸びてはならない：
a）フロント・ホイール・スピンドルを通る水平の線から上と前に45°に引かれた線の前
b）フロント・ホイール・スピンドルからリヤまで水平に引かれた線の下

2.7.7.8　ウイングは、それがフェアリングあるいはシートの一部分で、フェアリングとシートの幅、ハンドルバーの高さを超えない場合には装置を許可される。
尖ったエッジは丸くされなくてはならない。動くエアロダイナミック・デバイスは禁

止される。

2.7.8 **クリアランス**

2.7.8.1 荷重のかからない状態のモーターサイクルは、タイヤ以外が路面に接地しない状態で、垂直線から50°の角度で傾斜が可能でなくてはならない。

2.7.8.2 モーターサイクル・サスペンションがどのようなポジションにあり、リヤ・ホイール・アジャストメントがどのようなポジションにあっても、タイヤの円周に沿って最低15㎜のクリアランスがなくてはならない。

2.7.9 **ブリーザー・パイプ**

2.7.9.1 エンジンまたはギヤボックスからのブリーザー・パイプは、最低容量250ccの適切な容器に排出しなくてはならない。個々のブリーザー・パイプごとに別個の容器が装備されなくてはならない。

2.7.10 **チタニウム及び軽合金**

フレーム、フロント・フォーク、ハンドル・バー、スイングアーム・スピンドルホイール・スピンドルの構造にチタニウムを使用することは禁止される。

ホイール・スピンドルに関しては、軽合金の使用も禁止される。

2.7.11 **チェーンガード（リヤスプロケットガード）**

リヤホイールのファイナルドライブスプロケットと、ロワードライブチェーンの間に挟まれないように、ガードが取り付けられなくてはならない。

図1

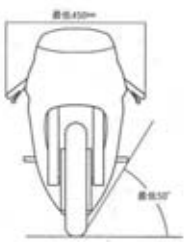


図2

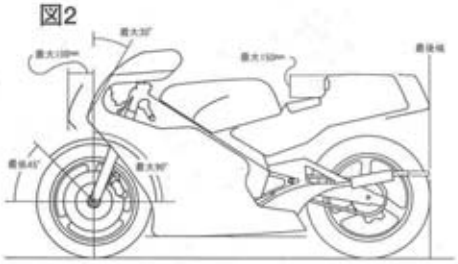
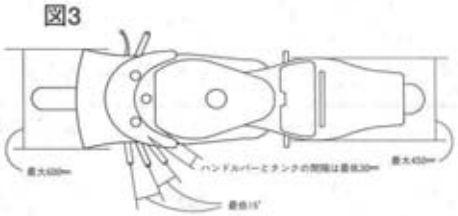


図3



2.8 タイヤとリム

2.8.1 レーシング・タイヤが使用されなくてはならない。

2.8.2 最大リム幅は下記の通りとする

	フロント	リヤ
125cc	2.5インチ	3.5 インチ
250cc	4.0インチ	5.5 インチ

2.8.3 カーボン製ホイールは禁止される。

2.9 ナンバーとバックグラウンド(下地)

① 全日本選手権に適用されている規則

2.9.1　モーターサイクルのフロントと両サイドにレーシング・ナンバーが装着され、観客とオフィシャルが明白に識別できるようにしなければならない。

2.9.2　ナンバーは、図4（112頁）に明記されている寸法に適合しなくてはならない。

2.9.3　ナンバーは黒か白とし、バックグラウンドの色の上に書かれた際に判別しやすいようにする。

2.9.4　バックグラウンドは最低限，下記の面積が単色でなくてはならない。バックグラウンドに蛍光色は禁止される。

幅　275mm　　高さ　200mm

2.9.5　ナンバープレートのバックグラウンドは垂直から30°以上傾斜してはならない。

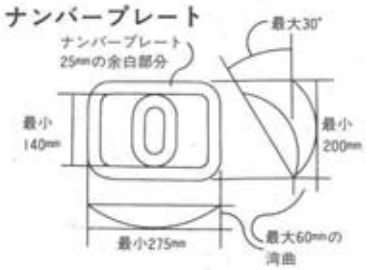
2.9.6　ナンバープレートのバックグラウンドの湾曲による突出は、最低幅と最低高において60㎜以上超えてはならない。

2.9.7　ナンバーの周囲には最低25㎜のクリアー・エリア（余白）が設けられなくてはならない。

2.9.8　ナンバーの明瞭度に関して論議が持ち上がった場合、車検長の決定が最終的なものとする。

② エリア選手権に適用される規則（国際ライセンス所持者は、上項①が適用される）
エリア選手権においてはロードレース基本仕様―3－15ナンバープレート（103頁）の規則が適用される。（ナンバープレートの地色、及び数字の色等が規制されている）

図4



2.10 燃料、オイル及びクーラント

2-10-1　国内におけるロードレース競技会（世界選手権を除く）において、燃料は下記の仕様に制限されている。

2-10-2　公認ロードレースには、MFJの定める無鉛ガソリンを使用しなければならない。

2-10-3　ガソリンの仕様

1）すべての車両にはMFJの定める無鉛ガソリンを使用しなくてはならない。（AVガス航空機用燃料の使用は禁止される）

2）競技に使用できるガソリン
競技に使用できるガソリンは下記の項目のすべてに合致していなくてはならない。

① 競技用ガソリンとは一般公道用の市販車に供するために通常のガソリンスタンドにて購入できるもの、あるいはMFJ公認サーキットのガソリンスタンドにて購入できるガソリンとする。

② 競技用ガソリンは下記のMFJの定める仕様以内（無鉛ガソリン）に制限される。（AVガス、航空機用ガソリン等は使用できない）
リサーチオクタン価が100.0（RON）、モーターオクタン価が89.0（MON）以下

であること。
密度は15℃において0.725g/ml～0.780g/mlであること。

③ 競技用ガソリンには販売時に混入されている以外のいかなるものも添加されてはならない。ただし一般に販売されているスタンダードの潤滑油および1.5%以下のアルコール（燃料精製中に混入されているものに限る）については認められる。

④ 水冷エンジンの冷却水は、水あるいは水とアルコールの混合物に限られる。

2-10-4 大会特別規則により、ガソリンの銘柄および供給方法が指定される場合、それに従わなくてはならない。

2.11 音量規制

FIM方式で測定し105dB/Aとする。詳細はロードレース基本仕様（105頁・音量規制）参照。

2.12 キャブレター

キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

クラス	最大限サイズ
250	直径39㎜相当以下
125	直径39㎜相当以下

スーパーバイク規則（全日本選手権・エリア選手権へ適用）

1 分野別仕様―スーパーバイク

スーパーバイク・モーターサイクルにはFIMの公認が必要とされる。モーターサイクルは、すべての要素に関して付則6ロードレース技術仕様に明記されている「ロードレースの必要条件」を満たしていなくてはならない。

スーパーバイク・モーターサイクルの前後および側面からの外観形状（別記された場合を除いて）は、原則として車両公認時（メーカー出荷時）のものと合致していなくてはならない。

2 スーパーバイク・クラス

スーパーバイク：

排気量	ストローク	最多気筒数
601cc～750cc	4ストローク	4気筒
601cc～900cc	4ストローク	3気筒
751cc～1000cc	4ストローク	2気筒

3 最低重量

スーパーバイク：最低重量は気筒数に関わらず162kg

最低重量を満たすために、バラストを追加することが認められる。

フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアーム・スピンドルおよびホイール・スピンドルの構造にチタニウムを使用することは禁止される。ホイール・スピンドルに関して、軽合金の使用も禁止される。

燃料タンクなしの状態で、車両重量を検査する場合、最低重量より4kgの差し引きが認められる。

レース終了後の最終車検では、水冷車両の場合、車重検査の前にラジエターに水を加えること

ができる。

レース終了後の車重検査では、車両の車重に１％の許容範囲が許可される。

ラジエターに水を加えることを除いて、レース後のモーターサイクルはレースを終えたままの状態で規定車重に適合していなくてはならない。すべての車両車重は、燃料なしの状態とする。

レース終了後の車両検査において計測される重量は、レース終了時の状態で計測される。

設定された車重はレース終了時のマシンの重量でなければならない。水、オイル、燃料、タイヤの変更等いかなるものもマシンに追加されてはならない。

ライダーは、プラクティス及び公式予選の間、ピットレーンにおいて車重チェックを要請される場合がある。(但し、これは限りなくライダー、チームの作業を妨げるものではないが、ライダー、チームは要請に従わなければならない。)

4 ナンバープレートの色

スーパーバイクのナンバープレートの色は、下地が白で数字が黒とする。

RAL色番号：黒＝9005、白＝9010（103頁事項３－15を参照)。

ナンバーの明瞭度に関して議論が持ち上がった場合、車検長（またはテクニカルスチュワード）の決定を最終的なものとする。

5 キャブレーションインストルメント（キャブレター、インジェクター等）

キャブレター、またはインジェクションシステムのインテークサイズに制限はしない。

オートバイ製造メーカーは公認された車両のキャブレーションまたはエアーインテークコントロールとは別に、レース専用として一機種に一個特別公認を受けることが出来る。

6 燃料

使用する燃料はMFJが規定する無鉛ガソリンで当該サーキットから購入できるものを使用しなければならない。

7 マシンの仕様

以下に明記されないすべてのアイテムは、公認車両として製造メーカーが製作した状態のままでなくてはならない。

7-1 **メインフレームボディ**

メインフレームは公認車両として製造メーカーが製作した状態のままでなくてはならない（107頁事項を参照)。

メインフレームには、ガゼット（補強板）またはチューブを追加するという変更のみ許可される。ガゼット（補強板）やチューブを取り除くことはできない。

すべてのモーターサイクルには、メインフレームボディに車両識別番号が記されなくてはならない（シャシー・ナンバー)。

リヤのサブフレームは、交換または改修してもよいが、材質は公認を受けたものと同じでなくてはならない。ペイントデザインに制限はない。

7-2 **フロントフォーク**

フロントフォークは全体的に、または部分的に交換することができるが、公認車両に装着されたものと同じタイプとする（リーディング、テレスコピック、倒立等)。

上と下のフォーククランプ（三又、フォーク・ブリッジ）は交換してもよいし、モディ

ファイしてもよい。
ステアリングダンパーを追加する、あるいはアフターマーケット・ダンパーと交換してもよい。
ステアリングダンパーは、ステアリングロック制御デバイス（ステアリングストッパー）としての役割を果たしてはならない。

7-3 **リヤフォーク（スイングアーム）**

リヤフォークは車両公認時に装着されているものから変更されてもよいし、交換されてもよい。カーボンファイバー、またはカーボンコンポジット材質は、車両公認時に装着されている場合を除いて許可されない。
リヤホイールのドライブスプロケットとロワーチェーンの間にはさまれないようにチェーンガード（シャーク・フィン）が取りつけられなければならない。リヤホイールスタンドブラケットは溶接又はボルトによってリヤフォークに取り付けることが出来る。ブラケットは端が丸められていなければならない。ボルトオンの際のスクリューは突出していてはならない。

7-4 **リヤサスペンションユニット**

リヤサスペンションユニットは変更及び、位置の移動をしてもよいが、同じシステムが採用されなくてはならない（すなわちデュアル、またはモノ）。
リンケージは、公認車両に装着されているものから改造・変更されてもよいし、別のものに変更されてもよい。

7-5 **ホイール**

ホイールとその関連部品は、車両公認時に装着されているものから改造又は、別の物に交換されてもよい。カーボンファイバー、またはカーボンコンポジットホイールは、製造メーカーが公認車両にこのタイプのホイールを装着している場合を除いて許可されない。
ベアリング、シール、およびアクスルは車両公認時に装着されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。
直径16インチ未満のホイールリムは許可されない。
フロントホイールリムの最大幅：4.00インチ
リヤホイールリムの最大幅：6.25インチ

7-6 **ブレーキ**

以下に示す部品は公認車両に装着されているものから改造、変更または別のものに交換されてもよい。
①フロントマスターシリンダー
②リヤマスターシリンダー
③フロントキャリパー
④リヤキャリパー
⑤ブレーキパッド、またはブレーキシュー
フロントまたはリヤ油圧ブレーキラインは変更されてもよい。ただしフロントブレーキラインの、左右のキャリパーへの分岐点は、ロアフォークブリッジよりも上に位置しなくてはならない。
ブレーキディスクは、モーターサイクルの車両公認時に装備されているものから変更または交換することができる。鉄素材のみがブレーキディスクに採用できる。ブレーキキャリパーへの特殊合金素材（例：アルミニウムベリリウム等）の使用は認められない。

7-7　**タイヤ**

タイヤは、公認車両に装備されているものから別のものに交換されてもよい。
タイヤウォーマーの使用が許可される。

7-8　**フットレスト／フットコントロール**

フットレスト／フットコントロールの位置は移動してもよい。
フットレスト／フットコントロールはリヤ・アクスルの前に設けなくてはならない。
フットレストはリジットにマウントされたものか、あるいは通常の位置に戻すデバイス（装置）を持ったホールディングタイプ（折りたたみ式）のものでなくてはならない。
フットレストの先端は、最低半径8㎜の固いボール状（中空でない玉）でなくてはならない。
ホールディングタイプ（折りたたみ式）ではないスチール製フットレストの先端には、プラスチック、テフロン、あるいはそれと同等の材質でできた先端（プラグ）が固定されなくてはならない（最低半径8㎜）。

7-9　**ハンドルバーとハンドコントロール**

ハンドルバー、ハンドコントロール、およびケーブルは公認車両に装着されているものから改造、変更又は、別のものに交換されてもよい。
ハンドルバーには、エンジン・ストップ・スイッチ（キルスイッチ）を設けなくてはならない。

7-9　**フェアリング（カウリング、ウインドスクリーン含む全てのボディワーク）**

a）フェアリング、マッドガードおよびストリームライニングは、原則としてメーカー出荷時の形状で車両公認時の形状に合致しなくてはならない。
b）ウインドスクリーンの交換は認められる。形状の変更も認められる。
c）フェアリングとエアボックスの間を結ぶエアダクトは車両公認時に装着されているものから改造されても交換されてもよい。
d）フェアリング下部は、エンジン破損または故障時に、そのエンジンに使用されるエンジン・オイルおよびエンジン・クーラント総量の最低半分（最低5ℓ）を保持できる構造でなくてはならない。フェアリング下部（オイル受け）の端部は、フェアリングの最下端から最低50㎜以上、上になければならない。（「最低50㎜」に関しては'99年から全日本／エリアも義務付けとなった。）
e）フェアリング下部には、直径25㎜の孔を最高二つまで設けてもよい。この孔はドライ・コンディションの時には閉じられなくてはならず、競技監督がウェット・レース・コンディションだと宣言した時にのみ開かれなくてはならない。
f）ホイール交換用のエレベーター（スタンド）を採用するため、およびフレームやエンジンにプラスチック製プロテクティブ・コーンを装着するために、フェアリングへの最低限の変更が許可される。
g）オイルクーラーに導入するエアーの量を増大するために、フェアリングにドリルで孔を開けることが許可される。直径10㎜以上の大きな孔はメタルガーゼ、または目の細かいメッシュで覆わなくてはならない。メッシュは周囲の材質にマッチするようにペイントされなくてはならない。
h）フロントマッドガードは、原則としてメーカー出荷時の形状で、車両公認時の形状に合致していなくてはならない。
i）冷却効率を上げるために、フロントマッドガードにドリルで孔を開けることが許可される。直径10㎜以上の大きな孔はメタルガーゼ、または目の細かいメッシュで覆わなくてはならない。メッシュは周囲の材質にマッチするようにペイントされなくてはな

らない。

j) リヤマッドガードは追加又は、取り外してもよい。

k) フロントマッドガード、リヤマッドガード、およびフェアリングの材質は、公認車両に装着されているものから改造、変更又は、別のものに交換されてもよい。
露出しているエッジ部分はすべて丸められなくてはならない

107頁事項—フェアリング（カウリング）を参照。

7-11 燃料タンク

側面からオリジナルの外観形状が車両公認時のものに合致していれば、公認時のタンクを改造して最大容量を達成することが許可される。

タンクの各側の間にクロスオーバーラインを設けることが許可される（最大内径10㎜）。

燃料タンクには防爆材（すなわちexplosafeなど）が完全に充填されなくてはならない。

タンクブリーザーパイプのついた燃料タンクには、適切な材質でできており、最低容量250ccのキャッチタンクに放出するノンリターン（戻らない）バルブが装備されなくてはならない。

燃料タンクフィラーキャップは、公認車両に装着されているものから改造、変更又は、別のものに交換されてもよい。

燃料キャップは、閉じられている状態では漏れない構造になっていなくてはならない。さらに、どのような場合にも事故で開かないように保たれていなくてはならない。

プラクティスで使用されたものと同じサイズの燃料タンクがイベントの期間中ずっと使用されなくてはならない。

燃料タンク構造の材質は、公認車両に使用されているものから改造、変更又は、別のものに交換されてもよい。

カーボンファイバー、アラミドファイバー又はファイバーグラス素材は燃料タンク構造の材質に認められない。

7-12 シート及びシートカウル

シートは、認証モーターサイクルに装備されているものから改造、変更又は、別のものに交換されてもよい。

シート周辺のリヤボディワークの上部分をシングルシートに改造することができる。この場合シートカウルは、リヤゼッケンプレートと一体の構成になっていなくてはならない。前後および両側面からの外観形状は、原則として車両公認時のものと合致しなくてはならない。

シートカウル、またはリヤカウルは、正常な数字が表示できなくてはならない。

冷却効率を上げるためにシートカウル、またはリヤカウルにドリルで孔を開けることが許可される。10㎜以上の大きな孔はメタルガーゼ、または目の細かいメッシュで覆わなくてはならない。メッシュは周囲の材質にマッチするようにペイントされなくてはならない。

露出しているエッジ部分はすべて丸められなくてはならない。

シートの構造の材質は、公認車両に使用されているものから改造、変更又は、別のものに交換されてもよい。

7-13 ラジエター／オイルクーラー

オリジナルのラジエター、またはオイルクーラーは、公認車両に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。

ラジエター、またはオイルクーラーを追加してもよい。

オイルクーラーはリヤマッドガードの上、またはそれ以上高い位置に設けられてはなら

ない。
マシンの前、後ろ、および側面からの外観形状はラジエターまたはオイルクーラーを追加したあとでも、原則として車両公認時のものと合致していなくてはならない。

7-14 **エアーボックス**

エアーボックスは、車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい（レース用スペシャルデザインが許可される）。
エアーフィルターエレメントは取り外してもよい。
エアーボックスはインダクションベルマウス（エアファンネル）とすべてのエンジンブリーザー・チューブの周囲を完全に密閉すること。エアーはベルマウス・リップ（エアファンネルの縁）の一番低い位置より上からのみ吸気できるようにされなくてはならない（107頁図参照）。キャブレーションインストルメントは、完全にエアーボックスの中に収めることもできる。
エアーボックスドレーンは密閉されなくてはならない。
すべてのスーパーバイクモーターサイクルはクローズド・ブリーザー・システムが義務づけられる。オイルブリーザー・ラインはエアーボックスに連結され、ここに放出されなくてはならない。
ブリーザー・システム（エアーボックス＋ブリーザーオイルコレクターボックス）は、ドレーンパイプが詰まった時に、排出液を最低1000cc保持できるものとする。

7-15 **キャブレター**

キャブレーションインストルメントは公認車両に装備されたものとは異なる特別公認レーシングタイプに交換することができる。
キャブレーションインストルメントの数は公認時のままとする。
キャブレーションインストルメントの研磨および軽量化は許可されない。
バタフライの交換、またはモディファイは禁止される。
キャブレタージェット、ニードル、およびスロットルバルブは別のものに交換されてもよい。
ベルマウス（エアファンネル）は、車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。

7-16 **フュエルインジェクションシステム**

スロットルボディは、車両公認時に装備されたものとは異なる特別公認レーシング・タイプに交換することができる。
キャブレーションインストルメントの数は公認時のままでなくてはならない。
キャブレーションインストルメントの研磨および軽量化は許可されない。
フュエルインジェクターは車両公認時に装着されたものとは異なる特別公認レーシングタイプに交換することができる。
バタフライの交換、またはモディファイは禁止される。
フュエルインジェクション・マネージメント・コンピューターアッセンブリーおよびフラッシュRAMは変更することが出来る。
フュエルポンプとプレッシャー・レギュレーターはモディファイされてもよいし、改造、変更されてもよい。

7-17 **燃料供給**

フュエルラインは別なものに交換することができる。
フュエルベント・ラインは別なものに交換することができる。
フュエルフィルターを追加することができる。
フュエルコックは、車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに

交換されてもよい。

7-18 **エンジン**

公認時のエンジンデザインコンセプトを変更することはできない。

クランクケース、シリンダー、シリンダーヘッド、およびギヤボックスハウジングの材質とキャスティングは公認時のものを用いる。クランクケース、シリンダー、シリンダーヘッドおよびギヤボックスハウジングの材質は溶接によってのみ追加され、機械加工でのみ削減できる。

カムドライブの方法は公認車両と同じでなくてはならないが、通常の販売ルートを通じてコンプリートキットが入手できる場合は例外とする。相当数のコンプリートキットが販売され、レーシングスペアパーツブックに記載されていなくてはならない。

バルブリテンションの方法は公認車両と同じでなくてはならない。(公認車両に装着されている場合を除いて、エアーバルブ・リテンション装置は許可されない)。

エンジン内部の動くパーツ、ギヤボックスパーツ、およびクラッチパーツは、車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。材質の変更も許可される（改造、変更が許可されていない特定の部分に含まれる部品を除く)。

キャブレーションインストルメントを除くエンジンパーツの研磨と軽量化は許可される(改造、変更が許可されていない特定の部分に含まれる部品を除く)。

7-19 **シリンダーヘッド**

シリンダーヘッドは公認時のままでなくてはならない。改造は許可される。

シリンダーヘッドは公認時の材質とキャスティングが使用されなくてはならない。シリンダーヘッドの素材は溶接による追加および、機械加工による切削のみ許可される。

バルブ、ポート（インテークおよびエキゾースト）の数を含む吸排気システムは、公認時のままでなくてはならない。

通常、個人的な調整と考えられるガスフロー、シリンダーヘッド（燃焼室を含む）の修理のような、シリンダーヘッドのポーティング、研磨は許可される。

圧縮比は自由とする。

燃焼室はモディファイしてもよい。

以下に示す部品は車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。

①バルブ
②バルブシート
③バルブガイド
④バルブスプリング
⑤バルブリテーナー

7-20 **カムシャフト**

カムシャフトは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

7-21 **カムスプロケット、またはカムギア**

カムスプロケット、またはカムギアは、車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。

7-22 **クランクシャフト**

クランクシャフトは、車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。

クランクシャフトのストロークは公認時のままでなくてはならない。

研磨または軽量化が許可される。

クランクシャフト、ロッド、およびピストンのバランス取りが許可される。

7-23 **オイルポンプおよびオイルライン**

オイルポンプ及びオイルラインは、車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。

正圧のかかるオイル・ラインは、もし交換されるならば金属強化構造のもの又は、ネジ式のコネクターを持つものを使用しなくてはならない。

7-24 **コンロッド**

コンロッド（コネクティングロッド）は、車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。カーボンコンポジット、またはカーボンファイバー材質は許可されない。

研磨または軽量化が許可される。

コンロッドのバランス取りが許可される。

7-25 **ピストン**

ピストンは、車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。

ピストンのバランス取りが許可される。

研磨または軽量化が許可される。

7-26 **ピストンリング**

ピストンリングは、車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。

7-27 **ピストンピンとクリップ**

ピストンピンとクリップは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

7-28 **シリンダー**

シリンダーは公認時の材質とキャスティングが使用されなくてはならない。シリンダーの素材は溶接による追加、機械加工による切削のみ許可される。スリーブまたはライナーの材質の変更は認められる。表面加工は認められるが、ボアは公認時のままでなくてはならない。

7-29 **クランクケース／ギヤボックスハウジング**

クランクケースとギヤボックスハウジングには公認時の材質とキャスティングが使用されなくてはならない。クランクケースとギヤボックス・ハウジングの素材は溶接による追加、機械加工による切削のみ許可される。

7-30 **トランスミッション／ギヤボックス**

すべてのトランスミッション／ギヤボックスレシオは自由とする。

プライマリーギヤレシオは自由とする。

ギヤの最大数は６速に制限される。

クイックシフトシステムのようなものをギヤボックス、またはセレクター機構に追加することが許可される。

カウンターシャフトスプロケット、リヤホイールスプロケット、チェーンピッチとチェーンサイズは変更できる。

7-31 **クラッチ**

クラッチスプリングは変更できる。

フリクションディスクとドライブディスクは変更できる。

クラッチタイプと作動方法は、車両公認時に装備されているものから改造、変更され

てもよいし、別のものに交換されてもよい。

7-32 **イグニッション／エンジンコントロールシステム**

イグニッション／エンジンコントロールシステムは、モディファイされてもよいし、交換されてもよい。

スパークプラグとプラグワイヤーは別なものに交換することができる。

7-33 **ジェネレーター**

ジェネレーター、電気式、手動式の始動装置（キックレバー、キックペダル、スタータークランクギヤ、スターターシャフト等）は、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

セルモーターの装着が義務となる。

7-34 **エキゾーストシステム**

エキゾーストパイプとサイレンサーは、車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。

7-35 **下記のアイテムは車両公認時に装備されているものから改造、変更又は、別なものに交換されてもよい。**

・潤滑油、ブレーキフルード、サスペンションフルード。
・スパークプラグ、およびプラグキャップ。
・インナーチューブ（装着される場合）またはインフレーションバルブ。
・ホイールのバランスウェイト（取り外し、交換、追加）
・いかなるブランドのベアリング（ボール、ローラー、テーパー、プレイン等）。
・ファスナー（ナット、ボルト、スクリュー類）
・エレクトロニックデバイス、電気ケーブル、コネクター、バッテリー、およびスイッチ
・外部の表面加工、およびデカール

7-36 **下記のアイテムは取り外すことができる**

ライトとリフレクター
計器類と計器用ブラケットおよび関連ケーブル
ホーン
ナンバープレートブラケット
ツールボックス
タコメーター
スピードメーター（およびホイールスペーサー）
ラジエターファンとワイヤー
パッセンジャー用フットレスト
パッセンジャー用グラブレール
チェーンガード

7-36 **下記のアイテムは変更されなくてはならない**

モーターサイクルには、始動しているエンジンおよび、その他のすべての電気部品を停止することのできる効果的なイグニッションキルスイッチ、またはボタンが、ハンドルバーの右あるいは左に設けられていなくてはならない（グリップを握った状態で手の届く距離になくてはならない）。

スロットルコントロールは手で握っていない時には自動的に閉じるものでなくてはならない。

エレクトリックフュエルポンプは、レースでの事故の際に自動的に作動する回路遮断シ

ステムを介していなくてはならない。
エレクトリックフュエルポンプの設計には、車検の時にテストできるように回路遮断のテスト機能が設けられていなくてはならない
セーフティバー、センタースタンド、およびサイドスタンドは取り外されなくてはならない（固定されたブラケットは、そのままでなければならない）。
すべてのドレーンプラグはワイヤーロックされなくてはならない。外部オイルフィルタースクリューおよびオイルフィルターボルトでオイルキャビティ（オイルパン）に進入するものは、すべて安全にワイヤーロックされなくてはならない。
ブリーザーパイプ、またはオーバーフローパイプが装備される場合、排出はそのパイプの排気口からなされなくてはならない。公認時のクローズドシステムは維持されなくてはならず、大気へ排出することは禁止される。
オイルブリーザーパイプが装備される場合、排出は簡単に手の届く位置に設けられたキャッチタンクにされなくてはならない。
キャッチタンクは、レース前に空にされなくてはならない。
オイルクーラーは、リヤ・マッドガードの上、またはそれ以上高い位置に設けられてはならない。
キャッチタンクの最低サイズは、ギヤボックスブリーザーパイプの場合250cc、エンジンブリーザーパイプの場合500ccとする。
すべての4ストロークモーターサイクルには、クローズドブリーザーシステムが採用されなくてはならない。オイルブリーザーラインはエアーボックスに連結され、これに排出されなくてはならない。
ヘッドライト、リヤライト、およびウインカーは取り外さなくてはならない。これらを外したあとの穴は、適切な材質で覆わなくてはならない

7-36 **追加の装備**

車両公認時にはない、追加の装備を設けることができる（すなわちデータ収集器具、コンピューター、記録機器等）。しかしながら、事項3－19（106頁）（テレメトリー）は守られなくてはならない。

付則 8

全日本S-NKの仕様

ROAD RACE

1 スーパーネイキッドクラスの参加

1-1　2002年全日本ロードレース選手権スーパーバイククラスにスーパーネイキッドクラスは参加することができる。

1-2　総合ランキングとともに、別途**S-NK/JSB1000合同**のランキングが定められる。

1-3　予選通過に際してはそれぞれのクラスの按分比率により決勝出場台数を定める。

1-4　賞金は総合順位のみに与えられる。

1-5　スーパーネイキッドクラスにはファクトリーチームの参加は認められない。

2 スーパーネイキッドクラス車両規則

2-1　スーパーネイキッドクラスの構成

①X-Formula（エックス・フォーミュラ）クラス

②NK-1クラス

2-2　参加車両

X-Formulaクラスに参加する車両は、自然吸気4ストロークで改造前排気量800cc以上の一般生産型エンジンをベースとした一般生産型モーターサイクルでMFJの承認を得なければならない。

NK-1クラスの車両は、自然吸気4ストロークで排気量750ccを超えるスチールパイプフレームの一般生産型モーターサイクルでMFJの承認を受けなければならない。

3 X-FORMULAの改造限度

車両は付則6ロードレース基本仕様に合致していなくてはならない。

3-1 下記項目に関しては車両公認時の状態で下記規則に合致していない場合でも、車両公認時の形状を維持していることを条件に認められる。

3-1-1　カウルのいかなる部分もフロントホイールアクスルから前方100mmを通る垂直線より前にあってはならない。

3-1-2　車両のいかなる部分もリヤタイヤの最後端を通る垂直線の後部にあってはならない。

3-2 安全の為に必ず行わなければならない改造

3-2-1 エンジンおよびその他すべての電気部品を停止することの出来る効果的なイグニッションキルスイッチがハンドルバーのグリップを握った状態で手の届く範囲に取りつけなければならない。

3-2-2 スロットルは手で握っていない時には自動的に閉じるようになっていること。

3-2-3 電動式フューエルポンプはレースでの事故の際に自動的に作動する回路遮断システムを備えていなければならない。車検の時にテストできるように回路遮断のテスト機能が設けられなければならない。

3-2-4 すべてのドレーンプラグはワイヤーロックしなければならない。外部オイルフィルタースクリューおよびオイルフィルターボルトでオイルパンに進入するものは全て安全にワイヤーロックされていなければならない。

3-2-5 ブリーザーパイプ、またはオーバーフローパイプが装備される場合、排出はそのパイプの排気口からなされなければならない。公認時のクローズドシステムは維持されなくてはならず、大気へ排出されてはならない。

3-2-6 オイルブリーザーパイプが装備されている場合、排出は簡単に手の届く位置に設けられたキャッチタンクに排出されなければならない。

最低容量： ギヤボックスブリーザーの場合 250cc
エンジンブリーザーの場合 500cc

3-2-7 すべての4サイクル車両にはクローズドブリーザーシステムが採用されなければならない。

オイルブリーザーラインはエアボックスに連結され、これに排出されなければならない。

3-2-8 アンダーカウルはエンジン破損時にエンジンに使用されるエンジンオイルおよびエンジンクーラント総量の最低半分（最低5リットル）を保持できる構造でなければならない。端部の折り返しの高さは最低50mmとする。内側には吸収材および耐火素材が装着されていることが望ましい。

アンダーカウルには直径25mmの孔を最高2つまで設けても良い。この孔はドライコンディションの時は閉じられていなければならず、競技監督がウエットレースの宣言を行った時のみ開けることが出来る。

3-2-9 燃料タンクには防爆材を充填しなければならない。

3-3 改造範囲

下記各項目以外の改造変更は自由とする。

3-3-1 エンジン

①エンジンの型式を変更することは認められない。

②ボアアップは可能とするが、最大排気量は1,350ccとする。

③ストロークの変更は認められない。

④シリンダー、シリンダーヘッド、クランクケース及びギヤボックスシェルは切削による改造以外は認められない。

3-3-2 ミッション

変更可能。最大6速とする。

3-3-3 マフラー

音量は105db/A以内とする。(FIM測定方式)

3-3-4 ステアリングダンパーの追加が出来る。ただしハンドルストッパーと兼ねてはならない。

3-3-5　ゼッケンカラーは白字に赤文字とする。
3-3-6　ブレーキディスクにカーボン素材の使用は禁止される。

3-4 禁止事項

フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアームスピンドルおよびホイールスピンドル構造にチタニウムを使用することは禁止する。ホイールスピンドルに関しては軽合金も使用してはならない。

3-5 買取規定

1大会にてS－NKクラス3位以内に入賞した車両は購入希望者がいた場合、下記価格にて販売しなければならない。売買によって発生する税金はこの金額に含まれない。

X－Formula……350万円　／　NK1……200万円

1）　購入希望者はS－NKクラス3位以内に入賞した車両が、決勝レース暫定結果発表後30分以内に限り購入申請をすることができる。
・売主を除き、購入申請者に特に満たさなければならない条件はない。
（競技参加者である必要はなく、主催者・観客も含め購入申請が出来る。）
・購入申請は決勝レース暫定結果発表後に行なうことが出来る。
・購入申請が締め切られた後、売主に購入申請があったことが通達される。

2）　購入申請は主催者指定の用紙に必要事項を記入し、以下の物を揃え、主催者へ提出すること。
購入申請〆切後の申請撤回は認められない。
・購入申請用紙
・購入者の運転免許証のコピー
・購入申請保証金500,000円（購入申請保証金は購入代金の一部とされる）

3）　購入希望者が複数の場合、申請〆切後、抽選の会場・時間が購入希望者に連絡される。
購入者は主催者により抽選が行われ、決定される。
（売買契約が無効になった場合に備え、全購入希望者に購入優先順位が同時に抽選で決定される。なお、購入優先順位1位以外の者の購入申請保証金は抽選後返却される。）

4）　購入申請者が発生した時点より主催者は車両を売買契約日まで保管しなければならない。
（売主が車両に触れることは、厳に禁じられる。）

5）　売買契約日は、購入申請日から起算して10日以内の間に設定されなければならず、売主・購入者・そして主催者の3者合意のもと、売買契約日を決定する。

6）　前項にて決定された売買契約日に購入代金（現金）と、車両の受け渡しが行われる。

7）　売買契約日までに売主・購入者双方とも身分証明書のコピーを主催者に提出しなければならない。

8）　売買契約は売主・購入者双方と主催者立ち会いのもと行われる。

9）　5項にて決定された売買契約日に購入者が購入代金を支払うことができない場合は、この売買契約は無効となり購入申請保証金500,000円は返却されない。また、この場合に発生する経費（運搬費等）は購入希望者が負担する。

10）　売買契約が無効になった場合は3項で決定された、優先順位の次点の購入希望者に購入権利が与えられる。
主催者より次点購入希望者に連絡がされ、3日以内に再度、購入申請保証金500,000円が主催者に提出された時点で購入権利の移行が確定する。確定しなかった場合は再度さらに次点の

者に購入権利の発生が連絡され同様に扱われる。
購入権利の移行が確定した後に、売主に連絡され3者合意のもと、3者立会の売買契約調整日が設定され、売買契約調整日より5項以降の規定が適用される。

11) 上記規定は購入者・売主・主催者の3者合意があれば、部分的に簡略化することが出来る。
なお、3者の合意が必要な規定について、調整が困難な場合は主催者が決定する権利を有する。(売買契約日等)

12) 売買された車両が売主のエントラントから出場登録された場合、主催者はこれを拒否することが出来る。

4 NK-1の改造限度

4-1 車両はMFJ技術規則のロードレース基本仕様に合致していなくてはならない。

4-2 下記項目に関しては車両公認時の状態で下記規則に合致していない場合でも、車両公認時の形状を維持していることを条件に認められる。

4-2-1 カウルのいかなる部分もフロントホイールアクスルから前方100mmを通る垂直線より前にあってはならない。

4-2-2 車両のいかなる部分もリヤタイヤの最後端を通る垂直線の後部にあってはならない。

4-3 安全の為に必ず行わなければならない改造

4-3-1 エンジンおよびその他すべての電気部品を停止することの出来る効果的なイグニッションキルスイッチがハンドルバーのグリップを握った状態で手の届く範囲に取りつけなければならない。

4-3-2 スロットルは手で握っていない時には自動的に閉じるようになっていること。

4-3-3 エレクトリックフュエルポンプはレースでの事故の際に自動的に作動する回路遮断システムを備えていなければならない。車検の時にテストできるように回路遮断のテスト機能が設けられなければならない。

4-3-4 すべてのドレーンプラグはワイヤーロックしなければならない。外部オイルフィルタースクリューおよびオイルフィルターボルトでオイルパンに進入するものは全て安全にワイヤーロックされていなければならない。

4-3-5 ブリーザーパイプ、またはオーバーフローパイプが装備される場合、排出はそのパイプの排気口からなされなければならない。公認時のクローズドシステムは維持されなくてはならず、大気へ排出されてはならない。

4-3-6 オイルブリーザーパイプが装備されている場合、排出は簡単に手の届く位置に設けられたキャッチタンクに排出されなければならない。
最低容量： ギヤボックスブリーザーの場合 250cc
エンジンブリーザーの場合 500cc

4-3-7 すべての4サイクル車両にはクローズドブリーザーシステムが採用されなければならない。
オイルブリーザーラインはエアボックスに連結され、これに排出されなければならない。

4-3-8　アンダーカウルはエンジン破損時にエンジンに使用されるエンジンオイルおよびエンジンクーラント総量の最低半分（最低５リットル）を保持できる構造でなければならない。端部の折り返しの高さは最低50mmとする。内側には吸収材および耐火素材が装着されていることが望ましい。
アンダーカウルには直径25mmの孔を最高２つまで設けても良い。この孔はドライコンディションの時は閉じられていなければならず、競技監督がウエットレースの宣言を行った時のみ開けることが出来る。

4-3-9　燃料タンクには防爆材を充填しなければならない。

4-4 改造範囲

下記各項目以外の改造変更は自由とする。

4-4-1　エンジン
①エンジンの型式を変更することは認められない。
②ボアアップは可能とするが、最大排気量は1,350ccとする。
③ストロークの変更は認められない。
④シリンダー、シリンダーヘッド、クランクケース及びギヤボックスシェルは切削による改造以外は認められない。

4-4-2　キャブレター
①ラム圧をかけることは禁止
②フューエルインジェクションは禁止

4-4-3　ミッション
変更可能。最大6速とする。

4-4-4　フレーム
①量産車両フレームを使用し下記以外の改造は出来ない。
　追加工・補強・不要ステーのカット・シートレールの削除/変更
　※追加工・補強に関して素材はスチールに限定される。
②フレームナンバーは量産時の物を維持すること。パーツ交換の場合は購入証明を添えて車検に申し出る。判定は車検長による。

4-4-5　リヤサスペンション
2本サスの車両は2本サスを維持すること。

4-4-6　ハンドル
パイプハンドルでステムヘッドの上に取りつける。バーエンドはステムヘッドより上になければならない。

4-4-7　マフラー
音量は105db/A以内とする。（FIM測定方式）

4-4-8　ホイール
ホイールの交換は自由であるが最低直径16インチとする。

4-4-9　タンク
車両公認時のものを使用し、下記以外の改造は許可されない。
給油口とコックの改造
※電動式フューエルポンプへの改造は禁止される。

4-4-10　カウル（ウインドスクリーンは除く）
形状はオリジナルのものとし、下記以外の改造は許可されない。

オイルクーラーに導入するエアーの量を増大する為に、フェアリングにドリルで孔を開けること。直径10mm以上の孔にはメタルガーゼまたは目の細かいメッシュで覆わなければならない。メッシュ部分は周囲の材質にマッチするようペイントされなければならない。

4-4-11　シート

シートベースはオリジナルのものを使用しなければならない。

4-4-12　ステアリングダンパーの追加が出来る。ただしハンドルストッパーと兼ねてはならない。

4-4-13　ゼッケンカラーは、赤地に白文字とする。

4-4-14　ブレーキ

カーボン素材は禁止される。

4-5 禁止事項

フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアームスピンドルおよびホイールスピンドル構造にチタニウムを使用することは禁止する。ホイールスピンドルに関しては軽合金も使用してはならない。

4-6 買取規定

1大会にてS－NKクラス3位以内に入賞した車両は購入希望者がいた場合、下記価格にて販売しなければならない。売買によって発生する税金はこの金額に含まれない。

X－Formula……350万円　／　NK 1 ……200万円

1）　購入希望者はS－NKクラス3位以内に入賞した車両が、決勝レース暫定結果発表後30分以内に限り購入申請をすることができる。

・売主を除き、購入申請者に特に満たさなければならない条件はない。

（競技参加者である必要はなく、主催者・観客も含め購入申請が出来る。）

・購入申請は決勝レース暫定結果発表後に行なうことが出来る。

・購入申請が締め切られた後、売主に購入申請があったことが通達される。

2）　購入申請は主催者指定の用紙に必要事項を記入し、以下の物を揃え、主催者へ提出すること。

購入申請〆切後の申請撤回は認められない。

・購入申請用紙

・購入者の運転免許証のコピー

・購入申請保証金500,000円（購入申請保証金は購入代金の一部とされる）

3）　購入希望者が複数の場合、申請〆切後、抽選の会場・時間が購入希望者に連絡される。購入者は主催者により抽選が行われ、決定される。

（売買契約が無効になった場合に備え、全購入希望者に購入優先順位が同時に抽選で決定される。なお、購入優先順位1位以外の者の購入申請保証金は抽選後返却される。）

4）　購入申請者が発生した時点より主催者は車両を売買契約日まで保管しなければならない。

（売主が車両に触れることは、厳に禁じられる。）

5）　売買契約日は、購入申請日から起算して10日以内の間に設定されなければならず、売主・購入者・そして主催者の3者合意のもと、売買契約日を決定する。

6）　前項にて決定された売買契約日に購入代金（現金）と、車両の受け渡しが行われる。

7）　売買契約日までに売主・購入者双方とも身分証明書のコピーを主催者に提出しなければならない。

8）　売買契約は売主・購入者双方と主催者立ち会いのもと行われる。

9）　5項にて決定された売買契約日に購入者が購入代金を支払うことができない場合は、この売買契約は無効となり購入申請保証金500,000円は返却されない。また、この場合に発生する経費（運搬費等）は購入希望者が負担する。

10）　売買契約が無効になった場合は3項で決定された、優先順位の次点の購入希望者に購入権利が与えられる。
主催者より次点購入希望者に連絡がされ、3日以内に再度、購入申請保証金500,000円が主催者に提出された時点で購入権利の移行が確定する。確定しなかった場合は再度さらに次点の者に購入権利の発生が連絡され同様に扱われる。
購入権利の移行が確定した後に、売主に連絡され3者合意のもと、3者立会の売買契約調整日が設定され、売買契約調整日より5項以降の規定が適用される。

11）　上記規定は購入者・売主・主催者の3者合意があれば、部分的に簡略化することが出来る。
なお、3者の合意が必要な規定について、調整が困難な場合は主催者が決定する権利を有する。（売買契約日等）

12）　売買された車両が売主のエントラントから出場登録された場合、主催者はこれを拒否することが出来る。

付則 9

JSB1000の仕様

ROAD RACE

本規則はＦＩＭスーパープロダクション規則をベースに全日本ロードレース用に一部追加、変更を加えた規則である。
世界耐久選手権レース（スーパープロダクションクラス）に出場する場合はＦＩＭ規則が適用される。

本規則は市販レーサーを除く、公道用一般市販車をベースに、安全性、平等性、経済性を考慮しつつ且つハイレベルのレースを基本理念とする。

全ての車両は全ての要素においてＭＦＪロードレース基本仕様に適合していなくてはならない。但し、公認された車両が本規則の仕様に合致しない場合は、公認車両の仕様が優先される。

本規則に明記されていない、または許可されていないものについては一切改造、変更は許可されない。

1 出場車両

一般生産型モーターサイクルで、ＦＩＭがストックスポーツ用として公認した車両でなければならない。

2 排気量区分

排気量は公認時の排気量のままとする。クラスリミットに到達するためボア・ストロークサイズを変更することは禁止される。

600cc－1000cc	4ストローク	4気筒以上
750cc－1000cc	4ストローク	3気筒
850cc－1200cc	4ストローク	2気筒

3 最低重量

3-1 各気筒数別車両の最低重量は以下のとおりとする。

1～3気筒	158Kg
4～5気筒	168Kg
6気筒以上	178Kg

※左記の重量を満たすために、バラストを追加することは認められない。

3-2 各レース終了後、無作為抽出されたマシンの重量が最終車検時にレースを終えた状態で測定される。

3-3 マシンは、レースを終えた状態で車重規定に合格していなくてはならず、マシンには、水、オイル、または燃料を含む一切のものを追加することが出来ない。

3-4 レース後の重量測定時には、１％の許容誤差が認められる。

3-5 練習走行及び予選の時に、マシンの車重検査をピットレーンで受けるようライダーに要請が出されることもある。この場合、当該ライダーは車重検査の要請に従わなくてはな

らない。レース期間中いかなる時においても、マシン全体の車重（燃料タンクを含む）は、最低車重以下であってはならない。

4 音量

4-1　音量の測定は、MFJロードレース基本仕様3-18音量規制に従う。
4-2　音量規制値は105dB/A以下とする。
4-3　レース終了後は3dB/Aの許容誤差が認められる。

5 燃料

使用する燃料はＭＦＪが規定する無鉛ガソリンで、当該レースが開催される当該サーキットから購入できるものを使用しなければならない。

6 ナンバープレート及びカラー

6-1　ナンバープレート及び数字の最低寸法はロードレース基本仕様3-15参照。
6-2　数字の明瞭度に関して議論が生じた場合、車検長の決定を最終的なものとする。
6-3　ナンバーのカラーは、青地に白文字とする。
6-4　基準カラーは、RALカラー　青：5017　白：9010　とする。

7 マシンの仕様

7-1 マシンの外観

モーターサイクルのフロント、リヤ及びプロフィールの外観は特記されない限り公認された形状と同じでなければならない。

7-2 メインフレーム・ボディ

7-2-1　メインフレームは、マニュファクチャラーが公認マシン用に製造した状態に維持されていなくてはならない。
7-2-2　メインフレームは、ガゼットまたはチューブを追加することによってのみ変更することが出来る。ガゼットまたはチューブを削除することは出来ない。
7-2-3　全てのモーターサイクルには、メインフレームボディに車両認識番号（シャーシーナンバー）が刻印または表示されていなくてはならない。（スペアフレームの場合は刻印なしの状態で販売証明を車検にて提示しなければならない）
7-2-4　リヤ・サブフレームは変更または改造することができるが、材質は公認時のものと同じでなければならない。

7-3 フロントフォーク

7-3-1　フロントフォークは全体的にまたは部分的に交換することが出来るが、公認車両に装着されたものと同じタイプでなければならない。（リーディング、テレスコピック、倒立等）上下のフォーククランプ（三又、フォークブリッジ）は変更または改造してもよい。
7-3-2　ステアリング・ダンパーを追加する、またはアフターマーケット・ダンパーと交換してもよい。
7-3-3　ステアリング・ダンパーはステアリングロック制御デバイス（ステアリングストッパー）

としての役割を果たしてはならない。

7-4 リヤフォーク（スイングアーム）

7-4-1 リヤフォークは車両公認時のものから変更または交換することができる。但し、カーボンファイバーまたはケブラー材質の使用は車両公認時に装着されている場合を除いて許可されない。

7-4-2 ライダーの身体の一部がドライブチェーンとリヤホイールスプロケットの間に挟まれないようにチェーンガードを装着しなければならない。

7-4-3 リヤホイール・スタンド用ブラケットを溶接またはボルトによって追加することができる。

7-4-4 スタンドブラケットの先端は危険防止のため丸められなくてはならない。（半径を大きくする）。ブラケット固定のためのスクリューは平面から突出してはならない。

7-5 リヤサスペンション・ユニット

7-5-1 リヤサスペンション・ユニットは変更することができるが、同様のシステム（デュアル・サスペンションかモノ・サスペンションか）が使用されなくてはならない。

7-5-2 リヤサスペンション・リンケージは変更することができる。

7-6 ホイール

7-6-1 ホイール及びその関連パーツは公認されたモーターサイクルに装備されているものから変更または交換できる。カーボンファイバー、またはカーボン・コンポジット製のホイールの使用は公認車両に装備されている場合を除いて許可されない。

7-6-2 ベアリング、シール、およびアクスル（材質はロードレース基本仕様に適合すること）は車両公認時のものから交換してもよい。

7-6-3 ホイールのサイズは
直径16インチ未満のホイール・リムは許可されない。
フロントホイール・リム 最大幅 ： 4.00インチ
リヤホイール・リム 最大幅 ： 6.25インチ

7-7 ブレーキ

下記部品は公認車両に装備されているものから変更または交換できる。

①フロントマスターシリンダー
②リヤマスターシリンダー
③フロントキャリパー
④リヤキャリパー
⑤ブレーキパッド 及び ブレーキシュー
⑥ブレーキホース 及び ブレーキカップリング
但し、二つのフロントブレーキキャリパー用ラインの分岐点は、下部フォークブリッジ（下部三つ又）の上に設けられなくてはならない。
⑦ブレーキディスク 及び ブレーキキャリパー
但し、ブレーキディスクには鉄材質のみが認められる。アルミニウムベリリウム等の特殊合金素材の使用は認められない。

7-8 タイヤ

7-8-1 タイヤは公認車両時に装備されているものから交換することができる。

7-8-2 タイヤウォーマーの使用が許可される。

7-9 フットレスト/フット・コントロール

7-9-1 フットレスト/フットコントロールの位置は変更してもよい、ただしリヤアクスルの前に位置しなければならない。

7-9-2 フットレストはリジッドマウントタイプか折り畳み式でもよい、折り畳み式のものは通常の位置に戻るデバイスを持つものとする。

7-9-3 フットレストの先端は、最低半径8mmの固体状でなければならない。(ロードレース基本仕様図Bを参照)

7-9-4 折り畳み式でない鉄製フットレストには、プラスティック、テフロン、または同等の材質で出来たエンドプラグ（最低半径8mm）が常時固定されていなくてはならない。

7-9-5 足で操作するクイックシフターは認められる。シフトパターンを逆にする場合は、ギヤシフトリンケージを改造する場合のみ許可される。

7-10 フェアリング(カウリング、ウインドスクリーンを含む全てのボディワーク)

7-10-1 フェアリング、マッドガード、及びボディワークは原則として、公認車両時の形状に合致しなければならい。

7-10-2 ウインドスクリーンは変更できる。

7-10-3 フェアリングからエアーボックスに至るエアーダクトは変更または交換できる。

7-10-4 フェアリング下部（ロワーカウル）はエンジン破損時にエンジン内のオイルとエンジンクーラント容量の最低半分（最低5リットル）を保持できる構造とする。

7-10-5 フェアリング下部(オイル受け)の端部は、フェアリング（ロワーカウル）の一番低いところから最低50mmの高さでなければならない。

7-10-6 フェアリング（ロアーカウル）下部には、直径25mmの孔が最大2個開けられる。この孔はドライコンディションの時には閉じられ、競技監督がウエット・レースを宣言した場合、開けなければならない。

7-10-7 ホイール交換用のスタンドを使用できるようにする為、又は、フレーム及びエンジンにプラスティック製のプロテクティブ・コーンを装着するため、フェアリングへの最低限の穴開けをすることができる。

7-10-8 オイルクーラーへの風量を増加するためにフェアリングにドリルで孔を開けたり、カットすることができる。直径10mm以上の大きさの孔は、メタルガーゼ、または目の細かいメッシュで覆われなけてはならない。メッシュは周囲の材質に合うようペイントされなくてはならない。

7-10-9 フロントマッドガードは公認車両時の形状に合致しなければならない。

7-10-10 フロントマッドガードに孔を開けて冷却効果を上げることができる。直径10mm以上の孔はメタルガーゼまたは目の細かいメッシュで覆われなくてはならない。メッシュは周囲の材質に合うようペイントされなくてはならない。

7-10-11 リヤマッドガードは追加、または取り外すことができる。

7-10-12 フロントマッドガード、リヤマッドガード、フェアリングの材質は変更することができる。

7-10-13 すべての露出しているエッジは丸められなければならない。

7-11 燃料タンク

7-11-1 公認車両時の燃料タンクを改造することができる。側面からの外観形状は、公認時のものと合致していなければならない。

7-11-2 最大容量は24㍑とする。

7-11-3 タンクの両側をつなぐクロスオーバー・ラインが許可される（最大内径10mm）。

7-11-4 燃料タンクは、防爆材（“Explosafe”が望ましい）で完全に充填されなくてはならない。

7-11-5 タンク・ブリーザーパイプのついた燃料タンクには、適切な材質でできた最低容量250ccのキャッチタンクに放出するノンリターン・バルブ（戻らない）が装備されなくてはならない。

7-11-6 燃料タンク・フィラー・キャップは、公認されたモーターサイクルに装備されているものから変更または交換できる。（クイックフィラーキャップの装着も許可される）

7-11-7 燃料キャップは、閉じられた状態で漏れない構造になっていなければならない。
さらに、燃料キャップは、誤って開いてしまわないように対策を施されていなくてはならない。

7-11-8 燃料タンクの材質は、公認されたモーターサイクルに装備されているものから変更、または交換できる。カーボンファイバー、アラミド・ファイバー、またはファイバーグラスの材質の使用は許可されない。

7-11-9 燃料タンクの認証
非金属材質（アルミニウムを除く）の燃料タンクを使用する場合、ＦＩＭテスト規格に合格した燃料タンクのみが使用することができる。

7-12 シート

7-12-1 シートは、公認されたモーターサイクルに装備されているものから変更または交換できる。

7-12-2 シート周辺のリヤ・ボディワークの上部をソロシートに改造することができる。この場合、ソロシートには、サイド・ナンバープレートが一体化されていなくてはならない。
前後およびサイドからの外観は、原則として公認形状に合致していなくてはならない。

7-12-3 シート／リヤカウルは、マシンのナンバーがはっきり見える状態になくてはならない。

7-12-4 シート、またはリヤカウルに孔を開けて冷却効果を増すことができる。直径10mm以上の大きさの孔は、メタルガーゼ、または目の細かいメッシュで覆われなくてはならない。
メッシュは周囲の材質に合うようペイントされなくてはならない。

7-12-5 すべての露出しているエッジは丸められていなければならない。

7-12-6 シートの構造の材質は、認証されたモーターサイクルに装備されているものから変更、または交換できる。

7-13 ラジエター／オイルクーラー

7-13-1 ラジエターまたはオイルクーラーは、変更、交換及び追加することができる。但し、マシンのフロント、リヤ、およびプロフィールの外観形状は、ラジエター、またはオイルクーラーを追加したあとでも認証された形状でなければならない。

7-13-2 オイルクーラーは、リヤ・マッドガードに取り付けることはできない。

7-13-3 ラジエター・チューブの変更は認められる。

7-14 ワイヤー・ハーネス

変更または改造することができる。

7-15 バッテリー

バッテリーのサイズとタイプは変更することができる。

7-16 エアーボックス

7-16-1 エアーボックスは、本来マニュファクチュラーが公認マシン用に製作した状態に維持されなくてはならないが、エアーボックス・ドレーンは密封されなくてはならない。

7-16-2 エアーフィルター・エレメントは取り外すことができる。

7-16-3 すべてのモーターサイクルには、クローズド・ブリーザー・システムが採用されなくてはならない。オイル・ブリーザー・ラインはエアーボックスに連結され、これに放出する。

7-17 キャブレター

7-17-1 改造は許可されない。

7-17-2 ジェット、ニードル、およびスライドスプリングは交換することができる。

7-17-3 CVキャブレタースライドコントロールのエア調節孔のサイズは変更することができる。

7-17-4 エレクトリック、またはメカニカル・エンリッチング（濃くする）・デバイスは、そのまま装着されていなくてはならないが、作動しないようにすることはできる。

7-17-5 ベルマウスは、本来マニュファクチュラーが公認マシン用に製作した状態に維持されなくてはならない。

7-17-6 エンジン内部以外の排気ガス対策装置の取り外しは許可される。（エンジン外部に備されたパイプ・チューブ類を取り外し、回路を閉塞すること）

7-17-7 キャブレターの温水配管の取り外しも認められる。

7-18 フュエル・インジェクション・システム

7-18-1 改造は許可されない。

7-18-2 インジェクターは公認されたモーターサイクルに装備されているのと同じスタンダード・モデルでなくてはならない。

7-18-3 ベルマウスは、本来マニュファクチュラーが公認マシン用に製作した状態に維持されなくてはならない。

7-18-4 フュエル・インジェクション・マネージメント・チップ（EPROM）を変更することができる。

7-18-5 燃料ポンプと燃料プレッシャー・レギュレーターは公認通りのままとする。

7-18-6 インジェクション・マッピングにフラッシュ・メモリー（フラッシュRAM）を使用することは許可される。

7-18-7 燃料の混合比を変えるために、追加のコントロール・ユニットを装着することは許可される。

7-19 燃料供給

7-19-1 燃料ラインは交換できるが、燃料コックは変更できない。

7-19-2 クイック・コネクターを使用することができる。

7-19-3 燃料フィルターを追加することができる。

7-20 下記部品は公認車両のままとし、一切改造・変更は許可されない。

①カムシャフト
②カムスプロケット
③クランクシャフト
④コンロッド
⑤ピストン
⑥ピストンリング
⑦ピストンピン及びクリップ
⑧シリンダー

7-21 下記部品は全てにおいて、または一部のみ改造、変更が認められる。

7-21-1 シリンダーヘッド

ポーティングは自由とする。
シリンダーヘッドベース面の研磨による圧縮比の変更は認められる。

7-21-2 クランクケース及び全てのエンジンカバー（すなわちACGカバー、クラッチカバー等）

クランクケース及びその他全てのエンジンカバーは、保護カバーを装着することができる。
バンク角確保のため、左右エンジンカバーの改造及び変更は許可される。
車両公認時のフロントスプロケットガードが装着していなければならない。
逆シフトにする際に、フロント・スプロケットガードが干渉する場合、最小限のカットが認められる。但し、本来の機能が果たせなくなるようなカットは認められない。

7-21-3 トランスミッション／ギヤボックス

トランスミッション・ギヤの変更は認められる。但し、一時減速は不可。
フロント（ドライブ）スプロケット、リヤ（ドリブン）スプロケット、チェーンピッチ、およびチェーンサイズは変更することができる。

7-21-4 クラッチ

改造は許可されない。
クラッチ・スプリングは変更することができる。
フリクション・ディスクとドライブ・ディスクのみ変更することができるが、数はオリジナルのまま維持されなくてはならない。

7-21-5 イグニッション／エンジン・コントロール・システム

イグニッション/エンジン・コントロール・システムは変更または交換することができる。
ECUの交換は認められる。

7-21-6 オイルポンプ及びオイルライン

オイルポンプは車両公認時のものとし、改造は許可されない。
オイルラインは改造または交換しても良い。圧力のかかるオイルラインを交換する場合

は、金属強化構造のもの、またはネジ式のコネクターを持つものを使用しなければならない。

7-21-7 ジェネレーター、オルタネ―ター、エレクトリック・スターター

7-21-7-1 ジェネレーターの改造、取り外し、交換は許可される。

7-21-7-2 エレクトリック・スターターは、レース中及びレース前後の車検時に常に正常に作動し、エンジンを始動させることが出来なければならない。エレクトリック・スターターがその機能を果たし停止した時には、エンジンは独自のパワーで作動し続けなければならない。

7-21-8 エキゾースト・システム

7-21-8-1 エキゾースト・パイプは、変更、または交換することができる。

7-21-8-2 サイレンサーの数は車両公認時のままでなければならない。

7-21-8-3 サイレンサーの位置は原則として公認時と同じでなければならない。

7-21-8-4 ライダーの足の部分またはフェアリングと接触する部分を熱から保護する場合を除き、エキゾースト・システムを覆うことは認められない。

7-21-8-5 チタニウム、およびカーボン製サイレンサーが許可される。

7-21-8-6 チタニウム製エキゾーストも許可される。

7-22 下記のアイテムは公認されたモーターサイクルに装備されているものから変更、または交換できる

①潤滑油、ブレーキフルード、またはサスペンションオイル
②スパークプラグおよびスパークプラグキャップ
③ベアリング（ボール、ローラー、テーパー、プレインなど）
④ファスナー（ナット、ボルト、スクリューなど）
⑤外部の表面仕上げ、およびデカール
⑥ガスケット

7-23 下記のアイテムは取り外すことができる

①メーター、メーターブラケット、および関連ケーブル
②ホーン
③ライセンス・プレート・ブラケット
④ツールボックス
⑤タコメーター
⑥スピードメーター、およびホイール・スペーサー
⑦サーモスタット
⑧ハンドル左側のスイッチホルダー
⑨ラジエーター・ファン、およびワイヤリング
⑩パッセンジャー用フットレスト
⑪パッセンジャー用グラブレール
⑫チェーンカバー
⑬リヤフェンダー

⑭ヘルメット用フック及び荷物用フック（溶接されている場合は、切削も可能）

7-24 下記のアイテムは変更されなくてはならない

車両公認時の状態で、下記の各項目に適合していない場合、改造、変更が義務付けられる。

7-24-1 アクセルは手で握っていない時は、自動的に閉じるようになっていること。

7-24-2 キルスイッチは、ハンドルを握ったまま操作できる位置に取り付けること。

7-24-3 エレクトリック・フュエルポンプがついている車両は、転倒した時にポンプが自動的に停止するための回路遮断システムを備えていなければならない。

7-24-4 クローズドブリーザーシステム
すべての車両は、クローズドブリ－ザーシステムになっていなければならない。オイルブリ―ザーラインはオイルキャッチタンク及びエアクリーナーボックスに連結され、これに排出する構造となっていること。

7-24-5 ブリーザー、またはオーバーフロー・パイプが装着される場合、その排出は既存の排出口から排出されなくてはならない。オリジナルのクローズド・システムが維持されなければならず、外気への直接排気は禁止される。

7-24-6 オイル・ブリーザー・パイプが装着される場合、排出液は簡単に手の届くところに設けられたキャッチタンクへ放出され、このキャッチタンクはレースのスタート前に空にされる。キャッチタンクの容量はオイルキャッチタンクが最低500cc、オイルキャッチタンクとエアクリーナーボックスの合計で1000ccとする。

7-24-7 セーフティバー、センタースタンド、およびサイドスタンドは取り外されなくてはならない（固定ブラケットは維持されなくてはならない）。

7-24-8 すべてのドレーンプラグはワイヤーロックされる。外部のオイルフィルター・スクリューおよびボルトでオイル・キャビティに進入するものは、安全にワイヤーロックされる（すなわち、クランクケース、オイルライン、オイルクーラーなどに）。

7-24-9 ヘッドライト、リヤライト、およびウインカーは取り外されなくてはならない。

7-24-10 本来それがあった部分は、適切な材質で覆われなければならない。

8 追加の装備

オリジナルの公認モーターサイクルに装備されていない装備を追加することができる（すなわち、データ収集器、コンピューター、記録装置など）。
しかしながら、第　章MFJ技術規則（テレメトリー）が守られなくてはならない。
２方向の無線伝達は禁止される。

9 部品の買い取り制度

① 大会にてクラス別上位３位に入賞した車両の下記部品は、購入希望者がいた場合、下記価格にて販売しなければならない。

- フロントサスペンション　120万円
- リヤサスペンション　40万円
- シリンダーヘッドアッセンブリー　50万円
- ECUイグニッション　15万円

② 購入希望者は決勝レース暫定結果発表後30分以内に限り購入申請をすることが出来る。

- 売主を除き、購入申請者は当該レース参加者に限る。
- 購入申請は決勝レース暫定結果発表後に行うことが出来る。

・購入申請が締め切られた後、売主に購入申請があったことが通達される。

③　購入申請は主催者指定の用紙に必要事項を記入し、以下の物を揃え、主催者へ提出すること。

・購入申請〆切後の申請撤回は認められない。

・購入申請用紙

・購入者の運転免許証のコピー

・購入申請保証金50,000円（購入申請保証金は購入代金の一部とされる）

④　希望者が複数の場合、申請〆切後、抽選の会場・時間が購入希望者に連絡される。購入者は主催者により抽選にて購入優先順位が決定される。購入優先順位１位以外の者の購入申請保証金は抽選後返却される。

⑤　購入申請が提出された時点より、主催者は車両を売買契約日まで保管しなければならない。（売主が車両に触れることは禁止される）

⑥　売買契約日は購入申請日から起算して10日以内の間に設定されなければならず、売主・購入者・そして主催者の３者にて売買契約日を決定する。

⑦　前項にて決定された売買契約日に購入代金（現金）と車両の受け渡しが行われる。

⑧　売買契約日までに売主・購入者双方とも身分証明書のコピーを主催者に提出しなければならない。

⑨　売買契約は売主、購入者双方とも主催者立会いのもと行われる。

⑩　５項にて決定された売買契約日に売買契約日に購入者が購入代金を支払うことができない場合はこの売買契約は無効となり購入申請保証金50,000円は返却されない。また、この場合に発生する経費（運搬費等）は購入希望者が負担する。

⑪　売買契約が無効になった場合は３項で決定された、優先順位の次点の購入希望者に購入権利が与えられる。

主催者より次点購入希望者に連絡し、３日以内に再度、購入申請保証金が主催者に提出された時点で購入権利の移行が確定する。確定しなかった場合は再度さらに次点の者に購入希望の発生が連絡され、同様の手順が適用される。

購入権利の移行が確定した後に、売主に連絡され３者立会いの売買契約調整日が設定され、売買契約日より５項以降の規程を適用する。

⑫　上記規定は購入者・売主・主催者の合意があれば、部分的に簡略化することが出来る。なお、３者合意が必要な規定について、調整が困難な場合は主催者が決定権利を有する。（売買契約日等）

付則10 ST600の仕様

ROAD RACE

本規則は市販レーサーを除く公道用一般市販車をベースに、安全性、平等性、経済性を考慮し、最小限の改造とコストで参加できる、参加型レースを基本理念とする。

用語の定義：改造＝オリジナルパーツ（車両公認時に装着されたもの）に対し切削、追加、研磨を行う行為変更＝オリジナルパーツ（車両公認時に装着されたもの）を、他のパーツに置き換える行為

※ST600クラスの改造規則は「ここに記載されていないことは改造・変更が出来ない」ことを念頭に解釈すること。

1 出場車両

ST600クラスに出場する車両は、一般生産型モーターサイクルで、MFJがストックバイク600（ST600）用として公認した車両でなければならない。

2 排気量区分

401cc～600cc	4ストローク	最大4気筒
600cc～750cc	4ストローク	最大2気筒

3 最低重量

4気筒401cc～600cc	167kg
2気筒600cc～750cc	172kg

※左記重量を満たすために、バラストを追加することは認められない。

各レース終了後の最終車検時に、チェックされたマシンの車重が、レースを終えた状態で測定される。

マシンは、レースを終えた状態で車重規定に合格していなくてはならない。すなわち、マシンには、水、オイル、燃料、またはタイヤを含む一切のものを追加することができない。

レース後、マシンの車重には1％の許容誤差が認められる。

イベントのいかなる時においても、マシン全体の車重（燃料タンクを含む）は最低車重以下であってはならない。

プラクティス、およびクォリファイ・セッションの際に、マシンの車重検査をピットレーンで受けるようライダーに要請が出されることもある（これはライダーとチームの作業をできる限り妨害しないように行われる。しかし、すべての場合において、当該ライダーは車重検査の要請に従わなくてはならない）。

4 音量

4-1　音量の測定は、MFJロードレース基本仕様3-18音量規則に従う。

4-2　音量規制値は102dB/A以下とする。

4-3　レース終了後は3dB/Aの許容誤差が認められる。

5 燃料／オイル

5-1　使用する燃料はMFJが規定する無鉛ガソリンで、当該サーキットから購入できるものを使用しなければならない。

5-2　競技に使用できるガソリン

競技に使用できるガソリンは下記の項目のすべてに合致していなくてはならない。

① 競技用ガソリンとは一般公道用の市販車に供するために通常のガソリンスタンドにて購入できるもの、あるいはMFJ公認サーキットのガソリンスタンドにて購入できるガソリンとする。

② 競技用ガソリンは下記のMFJの定める仕様以内（無鉛ガソリン）に制限される。（AVガス、航空機用ガソリン等は使用できない）

鉛の含有量は0.013g/l以下であること。

リサーチオクタン価が100.0（RON）、モーターオクタン価が89.0（MON）以下であること。

密度は15℃において0.725g/ml～0.780g/mlであること。

③ 競技用ガソリンには販売時に混入されている以外のいかなるものも添加されてはならない。ただし一般に販売されているスタンダードの潤滑油および1.5%以下のアルコール（燃料精製中に混入されているものに限る）については認められる。

④ 水冷エンジンの冷却水は、水あるいは水とアルコールの混合物に限られる。

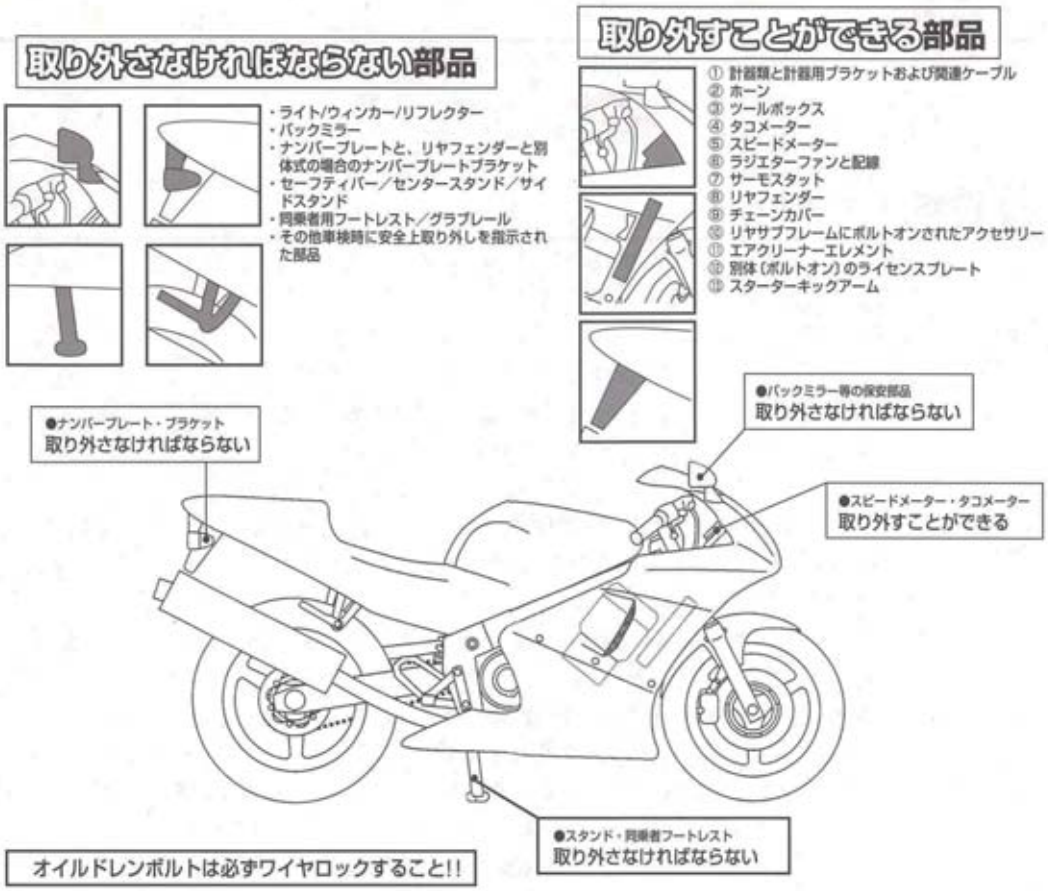
5-3　大会特別規則により、ガソリンの銘柄および供給方法が指定される場合、それに従わなくてはならない。

5-4　上記以外の起爆剤・添加剤は使用してはならない。

6 仕様

以下に明記されていないすべての事項については、MFJまたはFIMが公認した状態の仕様でなければならない。

同一車種において国内販売車両と輸出専用車両の仕様が異なる場合は、国内販売車両は輸出専用車両の仕様に変更することができる。但し変更する場合は変更部品をあらかじめMFJに申請し、公認部品として承認を受けなければならない。



6-1　レースのために行わなければならない変更

1）取り外さなければならない部品

(1) ライト／ウィンカー／リフレクター

(2) バックミラー

(3) ナンバープレートと、リヤフェンダーと別体式の場合のナンバープレートブラケット

(4) セーフティバー／センタースタンド／サイドスタンド

(5) 同乗者用フットレスト／グラブレール

(6) **シートレールに取り付けられた荷掛けフック（溶接されたものの切削も可）**

(7) その他車検時に安全上取り外しを指示された部品

2）車両公認時の状態で、下記の各項目に適合していないときは、改造・変更が義務づけられる。特にガソリン／オイル等をコースに撒き散らすことは事故原因になるので、そのための対策を主眼とする。

(1) アクセルは手で握っていないときは、自動的に閉じるようになっていること。

(2) キルスイッチは、ハンドルを握ったまま操作できる位置に取付けること。

(3) 電動式フュエルポンプがついている車両は、転倒したときにポンプが自動的に停止するための回路遮断システムを備えていなければならない。

(4) クローズドブリーザーシステム

すべての車両はクローズドブリーザーシステムになっていなければならない。すなわちオイルブリーザーラインはオイルキャッチタンク、およびエアクリーナーボックスに連結され、これに排出する構造となっていること（図A参照）。容量はオイルキャッチタンクが最低500cc、オイルキャッチタンクとエアクリーナーボックスの合計で最低1000ccとする。

エアクリーナーボックスの下部に排出穴が開いている場合は、オイルを受けられるようにふさがなければならない。

(5) カウリング下部のオイル受け

エンジンの破損または故障時に、そのエンジンに使用されるエンジンオイル、およびエンジンクーラント総量の最低半分（最低５リットル）を保持できる構造になっていなくてはならない。

カウリング下部の端部は、一番低いところから最低50mmの高さにあることが義務づけられる（図B参照）。

カウリング下部の内側には、オイルを吸収する難燃性の素材が貼られても良い。この規則を満足させるための最低限の外観変更が許可される。

上記変更以外に、カウリングには何も追加できない。

カウリング下部には、直径25mmの孔を最高２つまで設けてもよい。この孔はドライコンディションの時には閉じなくてはならず、競技監督がウェットレース宣言したときにのみ開くことが出来る。

アンダーカウルのフロント形状はサイドシルエットが変わらなければ変更可とする。

(6) オイルドレーンプラグおよび供給パイプ

エンジンのオイルドレーンボルトは確実に固定され、ドリルで穴を開け、ワイヤーで所定の位置に固定しなければならない。

オイルパンに進入する外部オイルフィルターのスクリューやボルトは、安全にワイヤーロックされていなければならない。

(7) 燃料タンクブリーザーパイプがついている車両は、ノンリターンバルブを燃料タンクブリーザーパイプに取りつけなくてはならない。これは、適切な材質でできた最低容量250ccのキャッチタンクに放出されるようになっていなくてはならない。

(8) 燃料タンクフィラーキャップおよびオイルフィラーキャップは閉じた状態で漏れないようになっていなくてはならない。さらに，これらはいかなる場合においても誤って開くことのないように完全にロックされていなくてはならない。

(9) ラジエターオーバーフローパイプがついている車両は、最低容量250cc以上のキャッチタンクを取付けなくてはならない。

(10) スプロケットガードの取りつけ

＊2001年より義務付け。下記条件に適合すること

① リヤスプロケットガード

a．取り付けはボルトオンまたは溶接で確実に取り付けられていること。

b．材質はチタニウム以外は制限されないが、容易に破損するような材質は認められない。

c．形状はチェーンとスプロケットの間にライダーの手足が巻き込まれないという目的にかなったもので、かつシャープエッジでないこと。

d．スイングアームの補強とリヤスプロケットガードを兼ねることは認められない。

② フロントスプロケットガード

a．車両公認時のスプロケットガードが装着されていなければならない。

b．逆シフトにしようとする際、フロントスプロケットガードに干渉する場合は最小限のカットは認められる。本来の機能が果たせない場合は不可となる。

(11) ナンバープレート（ゼッケンプレート）

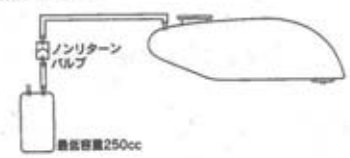
① ナンバープレートは、フロントと両サイドの３ヶ所に取付けなければならない。

② ナンバープレートの地色は白で、文字は黒色とする。

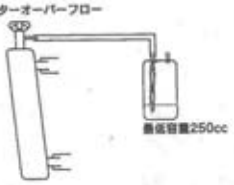
③ プレートサイズ、文字サイズは図Ｃを参照のこと。

図A キャッチタンク

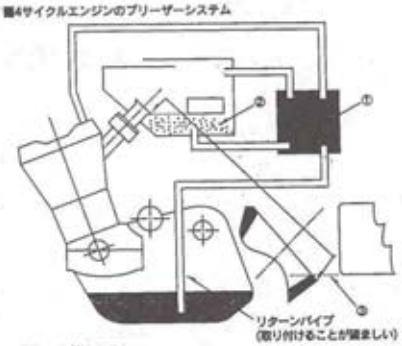
燃料タンクブリーザー



ラジエターオーバーフロー



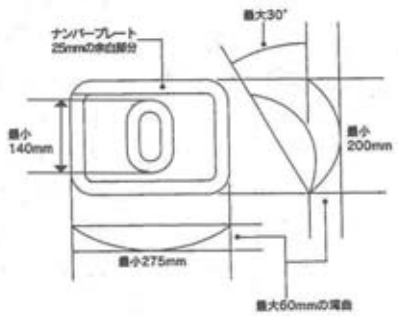
4サイクルエンジンのブリーザーシステム



●クローズドシステム
エアクリーナーボックスが装着されていない場合、
ブローバイガスがキャブレターに吸入されるような措置を施すこと。
①オイルキャッチタンク／最低容量500cc
②エアクリーナーボックス内のオイル溜まり
※①と②の合計で最低1000ccとする

図B オイル溜まり

図C ナンバープレート



3）レースの為に変更、改造、チューニングが許可される部分

以下の部分以外の変更、改造は許可されない。

(1) フレーム

① リヤサブフレームにボルトオンされたアクセサリーの取り外し

② ステアリングダンパーの取付けおよび取りつけ目的のためのフレーム加工

③ 全てのカウリングステーは、部分的に変えたり、交換してもよい。

④ 転倒時に車両のダメージを最小限に抑えるためフレームにプロテクティブコーンの取り付けは可。

(2) リヤスイングアーム

① リヤスプロケットガードの取りつけ、および取りつけ目的の加工

② スタンドブラケットの取りつけ、および取りつけ目的の加工

(3) サスペンション

① フロントサスペンションのスプリング変更

② 車高調整を目的としたフロントフォークの上下の取りつけ位置の調整

③ リヤサスペンションのスプリング変更
④ サスペンションフルードの変更
⑤ リヤサスペンションの車高調整

a．リヤサスペンションの車高調整は一般公道用車両がベースであることから、車種によってはバンク角確保が必要であり、車種ごとの構造上、下記範囲内にて許可される。

ホンダCBR600F4i ：シム追加による手法で13mm以内
ヤマハYZF－R6 ：シム追加の車高調整は構造上不可。
スズキGSX－R600 ：シム追加による手法で９mm以内
カワサキZX－R6 ：'00モデルは公認時のサスペンション取り付け部の調整ネジにより９mm以内
'01モデルはメーカーオプションのシム追加による手法で９mm以内

b．各エントラントがメーカーオプション以外の調整用シムを制作する場合はその材質・寸法等の仕様について各メーカーの指示に従うこと。

(4) エキゾーストシステム

① 音量規制値以内であれば、エキゾーストパイプおよびサイレンサーを交換、または改造してもよい。（チタン・カーボン製のものも使用可）ただしサイレンサーの数、および配置は公認車両の状態を維持しなければならない。（例：4into2から4into1への変更、左右１本出しから片側２本出しへの変更などは許可されない）

サイレンサーを変更する場合、ステーの交換はボルトオンの場合のみ認められる。材質にチタニウム素材のものを使用してはならない。

(5) ブレーキ

① 後ブレーキパッドとホースの変更
② ブレーキホース変更に伴うバンジョウボルトの材質変更
③ ブレーキフルードの変更

(6) タイヤ・ホイール

① スピードメーター駆動部の取り外しとスペーサーの変更
② タイヤ

a．VまたはZ級のタイヤが使用されなくてはならない。交通法規に適合する一般市販タイヤだけが許可される。タイヤトレッド主溝の深さは、最低でも2.5mmでなくてはならない。

b．タイヤには、EマークまたはDOTマークまたはJISの認定マークが表示されていなくてはならない。

c．レースまたはプラクティスが「ウェット」宣言された場合、市販のレインタイヤ使用が許可される。このタイヤには、EマークまたはDOTマークまたはJISの認定マークが表示されていなくてもよいが、「NOT FOR HIGHWAY USE」と表示されていなくてはならない。

d．タイヤへの追加工（ハンドカット等）は禁止される。

e．タイヤマニュファクチャラーがMFJに使用登録したタイヤのみ使用することが出来る。使用登録できるタイヤは各マニュファクチャラー、ドライ、ウェット用各1種類とする。指定タイヤは150頁に示す。

f．1～6位に入賞した車両のタイヤは買い取り対象とする。買い取り価格は35,000円とし、手順は車両・部品の買い取り制度（138頁）と同じとする。

(7) フットレスト・チェンジレバー・ブレーキペダル

フットレストは改造・変更されてよいが、下記条件を満たさなければならない。ただし車両公認時から改造・変更しない場合は、突起物を取り外し車検長の許可を得れば、下記仕様を満たさなくても使用できる。

① ブラケットの改造、変更によりフットレスト／フットコントロールの位置は移動してもよいが、ブラケットは元の取付け位置に固定しなければならない。

② フットレストの先端は、最低半径8mmの中空でない一体構造の球状になっていなければならない。

③ 折りたたみ式の場合は、自動的に戻るようになっていなければならない。

④ スチール製フットレストで折りたたみ式でない場合、その先端にはプラスチック、テフロンあるいはそれと同等の材質でできた先端（プラグ）が固定されていなくてはならない。(最低半径8mm)

(8) ハンドルバー・レバー類

① ハンドルバーは交換出来るが下記を条件とする。

a．車両公認時にバーハンドルのものはセパレートハンドルに交換できない。また、その逆も認められない。

b．セパレートハンドルはブラケットとバーが一体式でも別体式でもよい。

c．ハンドルバーの末端が露出している場合は、固形物質を詰めるかゴムでカバーされていなくてはならない。

d．ハンドルバーの最低幅は450mm

② ブレーキ／クラッチレバーおよびブレーキ／クラッチケーブル／スロットルケーブルの変更。

ハイスロットルのためのスロットルホルダーの変更

③ ブレーキ／クラッチレバーの先端はボール状でなくてはならない（最低直径19mm)。このボールを平たくすることができるが、端部は丸くなっていなければならない（最低の厚み14mm)。

(9) カウリング、ウィンドスクリーン

① カウリングとウィンドスクリーンは、アフターマーケットのものに変更することができる。ただし外見はノーマルと同じでなければならない。

a．スクリーンエッジは丸く加工する。

b．カーボン、ケブラー強化繊維等の素材は使用できない。

c．カウリングを交換した場合、カウリングの吸気口のメッシュフィンは付いてなくても良い。

d．プロテクティブコーンを取り付けるための最低限の穴開けは認められる。

② 取付けブラケットの改造・変更

③ 露出しているエッジは、すべて丸められていなければならない。

(10) シート・シートカウル

オプションのシングルシートまたはアフターマーケットのものに変更できる。ただし外観はノーマルと同じでなければならず、カーボン／ケブラー強化繊維等の素材は使用できない。

(11) シリンダーおよびシリンダーヘッド

シリンダーおよびシリンダーヘッドは、公認車両の状態に対して切削、追加、研磨をしてはならない。シリンダーヘッドポートのバリ取りと、シリンダーヘッド燃焼室、シリンダーヘッドポートのカーボン除去および基準寸法内での研磨は認められる。バ

リとは鋳型の合わせ面に生ずる「型合わせバリ」を指す。

⑿ ラジエター

① ラジエターの交換・サブラジエターの追加が認められる。

② ラジエターブラケットの（ステー）の変更。但し材質は公認時と同じかアルミニウムとする。

③ ラジエターに導風板を取り付けることは認められる。（カウル内部形状の変更は不可）

⒀ 排気ガス対策部品

① エンジン内部以外の排気ガス対策装置の取り外し（エンジン外部に装備されたパイプ・チューブ類を取り外し、回路を閉塞すること）
キャブレターの温水配管の取り外し

⒁ クラッチ

クラッチスプリングの変更

⒂ キャブレター

ジェット類、およびニードル類のみ変更が許可される。

⒃ フュエルインジェクション

① スロットルボディは、公認モデルの標準ユニットでなければならない。

② インジェクターは、公認モデルの標準ユニットでなければならない。

③ エンジン作動中に機能する、長さが変化するフュエルインジェクションインテイクトラクト装置は許可されない。

④ バタフライの交換・改造は禁止される。

⑤ フュエルインジェクション・マネージメント・コンピューターアッセンブリーおよびフラッシュRAMは変更してもよい。

⑥ 燃料ポンプ、またはプレッシャーレギュレーターは公認時の状態でなければならない。

⒄ 燃料供給

① フュエルラインの変更

② フュエルベントラインの変更

③ フュエルフィルターの追加・変更

⒅ ワイヤーハーネス

ワイヤーハーネスの改造、変更

⒆ スプロケット／チェーン

カウンターシャフトスプロケット、リヤホイールスプロケット、チェーンのピッチならびにサイズは変更できる。

⒇ エンジンレブリミッター／スピードリミッター

エンジンレブリミッター／スピードリミッター（イグナイター含む）の変更

(21) 点火時期／スパークプラグ

① スパークプラグ、プラグキャップの変更

② ハイテンションコードの変更

③ 点火時期の調整

(22) ボルト・ナット類

① ボルト・ナット類の変更。ただし同じ材質でなければならない。

② カウリング（シートカウル含む）、ウィンドスクリーンの取りつけボルト・ナット類は別の素材のものに変更できる。

③ ボルト・ナット類はセーフティワイヤーを付けるために穴を開けてもよい。しかし軽量化する改造は認められない。

④ カウリングのボルト、ナット類はクイックタイプに変更できる。

㉓ 取り外すことができる部品

① 計器類と計器用ブラケットおよび関連ケーブル（**計器用ブラケットがカウルステーを兼ねている場合はカウルステーと見なし、交換は可。ただしメーターは車両公認時のものでなければならない。**）

② ホーン

③ ツールボックス

④ タコメーター

⑤ スピードメーター

⑥ ハンドル左側のスイッチホルダー
但し、チョークレバーはオリジナルのままとする。

⑦ ラジエターファンと配線

⑧ サーモスタット

⑨ チェーンカバー

⑩ リヤフェンダー（シートカウル下部またはスイングアームに取り付けられたもの両方）※カットは可

⑪ リヤサブフレームにボルトオンされたアクセサリー

⑫ エアクリーナーエレメント

⑬ 別体〔ボルトオン〕のライセンスプレート

⑭ スターターキックアーム

4） その他

(1) チタニウム合金部品の使用は禁止される。（エキゾーストパイプ、サイレンサーは除く）

(2) データロガーの使用は認められない。

(3) 電気式のスターターはレース前後の車検時に正常に作動しなければならない。

(4) 買い取り制度

① 大会にて6位以内に入賞した車両および部品は、購入希望者がいた場合、下記価格にて販売しなければならない。売買によって発生する税金は、この金額に含まれない。

a．買い取り価格：国産車両　1,400,000円
外国産車両　2,200,000円

車　種	キャブレターASSY	シリンダーヘッドASSY	ECU&インジェクション	Fサスペンション	Rサスペンション
CBR600F4i	114,000	255,000	スパークユニット	30,000　78,000	42,000
			PGM Fiユニット63,000	Fスプリング&	リヤスプリング
			スロットルボディASSY67,000	カラー=94,000	=60,000
YZF−R6	105,000	364,000	−	112,000	51,000
GSX−R600		310,000	ECUスロットル37,000	116,000	80,000
			ボディASSY79,000		
ZX−6R	170,000	388,000		99,000	71,500

※ シリンダーヘッドASSYにはカムシャフト、バルブ類（バルブ組込み工賃含む）が含まれます。

② 購入希望者は当核レース参加者に限定され、決勝レース暫定結果発表後30分以内に限り購入申請をすることができる。

・売主を除き、購入申請者は当該レース参加者に限る。

・購入申請は決勝レース暫定結果発表後に行うことが出来る。
・購入申請が締め切られた後、売主に購入申請があったことが通達される。

③ 購入申請は主催者指定の用紙に必要事項を記入し、以下の物を揃え、主催者へ提出すること。
・購入申請〆切後の申請撤回は認められない。
・購入申請用紙
・購入者の運転免許証のコピー
・購入申請保証金50,000円（購入申請保証金は購入代金の一部とされる）

④ 購入希望者が複数の場合、申請〆切後、抽選の会場・時間が購入希望者に連絡される。購入者は主催者により抽選が行われ購入優先順位が決定される。
購入優先順位1位以外の者の購入申請保証金は抽選後返却される。

⑤ 購入申請が提出された時点より、主催者は車両を売買契約日まで保管しなければならない。（売主が車両に触れることは禁止される）

⑥ 売買契約日は購入申請日から起算して10日以内の間に設定されなければならず、売主・購入者・そして主催者の3者にて売買契約日を決定する。

⑦ 前項にて決定された売買契約日に購入代金（現金）と車両の受け渡しが行われる。

⑧ 売買契約日までに売主・購入者双方とも身分証明書のコピーを主催者に提出しなければならない。

⑨ 売買契約は売主。購入者双方と主催者立会いのもと行われる。

⑩ 5項にて決定された売買契約日に購入者が購入代金を支払うことができない場合はこの売買契約は無効となり購入申請保証金50,000円は返却されない。また、この場合に発生する経費（運搬費等）は購入希望者が負担する。

⑪ 売買契約が無効になった場合は3項で決定された、優先順位の次点の購入希望者に購入権利が与えられる。
主催者より次点購入希望者に連絡し、3日以内に再度、購入申請保証金50,000円が主催者に提出された次点で購入権利の移行が確定する。確定しなかった場合は再度さらに次点の者に購入希望の発生が連絡され、同様の手順が適用される。
購入権利の移行が確定した後に、売主に連絡され3者立会いの売買契約調整日が設定され、売買契約日より5項以降の規定を適用する。

⑫ 上記規定は購入者・売主・主催者の合意があれば、部分的に簡略化することが出来る。なお、3者合意が必要な規定について、調整が困難な場合は主催者が決定権利を有する。（売買契約日等）

ST600規則の判例集

下記判例集は規則書の条文の統一解釈として規則と同様の効力を有する。

1 車体関係

1）リヤフェンダー
取り外しとカットは認められるがアフターマーケットのリヤフェンダーとの交換は認められない。

2）カウリング
①カウルのゼッケンベース部分に孔を空けてエア取り入れ口を作っていたケースがあったが、これは認められない。

②カウルのエア吸入口の下に新たにエアダクトを作り装着していたケースがあったが、これは認められない。

③ラップタイム記録用の送信機をリヤカウルに孔を空けて装着していたケースがあったが、これは認められない。

④吸気ダクトのカバー（ホンダCBR600F4i）

吸気ダクトのカバー（タンク前方の左右に取り付けられている）はハンドル交換時にハンドル切れ角に影響するため、取り外しが認められる。

3）ステップのヒールカバー

ステップの後部にチェーンとの干渉を防ぐためにヒールガードを取り付けることは認められる。また、車両公認時に装着されている場合は交換してもよい。素材はチタン以外は規制されない。

リヤサスペンションのスプリングを交換しているが、スプリング長が短いためカラーを装着しているケースがあり、これは認められない。

4）フロントフォークチップガード

フロントフォークの傷防止の為のガードの取り外しは認められない。

5）ホイールのダストシールの取り外しは認められない。

2 エンジン関係

1）フラッシュRAM関連部品

市販部品の『パワーコマンダーⅢ』は、フラッシュRAM交換が認められており、使用が認められた。

2）ヤマハYZF−R6のキャブ・エアベントパイプ

①キャブ・エアベントパイプは燃料供給関連部品のため、変更を認める。パイプの径・材質ともに変更してもよい。

②エアボックスに連結されたエアベントパイプを取り外して外気吸入にする場合は、エアボックスへの連結ブの穴を塞がなければならない。

③外気吸入にする場合、エアベントパイプの先端はエアダクト先端にクランプで固定しなければならない。カウルに新たに吸入口を設けたり、カウルの吸入口の下に新たな吸入口を作成したり、エアダクトを加工して取り付けることは認められない。

3）DUCATI車でバッテリーのプラス端子を剥き出しのままにしている車両があり、安全上プラス端子にテーピングをすること指導した。

※判例集はシーズン途中で追加される場合があります。追加の場合は機関誌ライディング・MFJホームページ・主催者の公式通知等にて告知されます。

ST600指定タイヤ

銘柄	ドライ／ウェット		パターン名
ダンロップ	ドライ用		D-208GP
	ウェット用	フロント	MR977
		リヤ	KR244
ブリヂストン	ドライ用	フロント	BT-001F
		リヤ	BT-001R
	ウェット用	フロント	ME01Z
		リヤ	E-02Z
ミシュラン	ドライ用		未定
	ウェット用		未定

※銘柄追加及び未定の場合はライディングに公示される

付則11 SS600の仕様

ROAD RACE

本規則はFIMのスーパースポーツ規則をベースに国内における事情を考慮し、一部追加・変更を加えたものである。世界選手権はFIM規則が適用される。

また本規則は市販レーサーを除く、公道用一般市販車をベースに、安全性・平等性・経済性を考慮しつつ、限られた改造コストで中・上級クラスの参加者を念頭においた参加型レースを基本理念とする。

1 出場車両

スーパースポーツクラスに出場する車両は、一般生産型モーターサイクルでMFJがスーパースポーツ用として公認した車両でなければならない。

2 国内販売車両と輸出専用車両の公平性

同一車種において国内販売車両と輸出専用車両の仕様が異なる場合は、国内販売車両は輸出専用車両の仕様に変更することが出来る。ただし、変更する場合は当該メーカーが変更部品をあらかじめMFJに申請し、公認部品として認められていなければならない。

スーパースポーツモーターサイクルの前後、及び側面からの外観形状（別記された場合を除いて）は、原則として車両公認時（メーカーが製造したまま）の状態でなくてはならない。

3 スーパースポーツクラスの排気量区分

401cc—600cc	4ストローク	最大4気筒
600cc—750cc	4ストローク	最大2気筒

4 最低重量

4-1

600cc	4気筒	167kg
750cc	2気筒	172kg

※左記重量を満たすために、バラストを追加することは認められない。

4-2 各レース終了後の最終車検時に、レースを終えた状態車両重量が測定される。
マシンは、レースを終えた状態で車重規定に合格していなくてはならない。すなわち、マシンには、水、オイル、燃料、またはタイヤを含む一切のものを追加することができない。
レース後、マシンの車重には１％の許容誤差が認められる。

4-3 大会のいかなる時においても、マシン全体の車重（燃料タンクを含む）は最低車重以下であってはならない。

4-4 プラクティス、およびクォリファイ・セッションの際に、マシンの車重検査をピットレ

ーンで受けるようライダーに要請が出されることもある（これはライダーとチームの作業をできる限り妨害しないように行われる。しかし、すべての場合において、当該ライダーは車重検査の要請に従わなくてはならない）。

5 ナンバープレートの色

5-1　スーパースポーツのナンバープレートの色は、下地が白で数字が青とする。
RAL色番号は、青5010、白9010とする。

5-2　ナンバーの明瞭度に関して議論が持ち上がった場合、車検長の決定を最終的なものとする。

6 燃　料

6-1　使用する燃料は6 - 2に規定する無鉛ガソリンで、当該サーキットから購入できるものを使用しなければならない。それ以外の起爆剤・添加剤は使用してはならない。
＊世界選手権では以下のルールが適用される
すべてのスーパースポーツエンジンは、最大鉛含有量0.013g/l（無鉛）と最大MON値90の通常の無鉛ガソリンで作動するものとする（完全な仕様に関しては第01.63条を参照のこと）。

6-2　競技に使用できるガソリン
競技に使用できるガソリンは下記の項目のすべてに合致していなくてはならない。

① 競技用ガソリンとは一般公道用の市販車に供するために通常のガソリンスタンドにて購入できるもの、あるいはMFJ公認サーキットのガソリンスタンドにて購入できるガソリンとする。

② 競技用ガソリンは下記のMFJの定める仕様以内（無鉛ガソリン）に制限される。
（AVガス、航空機用ガソリン等は使用できない）
鉛の含有量は0.013 g /l以下であること。
リサーチオクタン価が100.0（RON）、モーターオクタン価が89.0（MON）以下であること。
密度は15℃において0.725 g /ml～0.780 g /mlであること。

③ 競技用ガソリンには販売時に混入されている以外のいかなるものも添添加されてはならない。ただし一般に販売されているスタンダードの潤滑油および1.5%以下のアルコール（燃料精製中に混入されているものに限る）については認められる。

④ 水冷エンジンの冷却水は、水あるいは水とアルコールの混合物に限られる。

6-3　大会特別規則（全日本モトクロス特別規則等）により、ガソリンの銘柄および供給方法が指定される場合、それに従わなくてはならない。

7 車両の仕様

以下に明記されていないすべての事項については、MFJが公認した状態の仕様でなければならない。

7-1　フレームボディー及びリアサブフレーム

7-1-1　フレームは、車両公認時の状態でなくてはならない。

7-1-2　フレームボディーへの追加、および削除は一切許可されない。

7-1-3　フレームボディーには車両識別番号（シャシー・ナンバー）が記されていなくてはならない。

7-1-4　エンジン取り付けブラケット、およびプレートは、車両公認時の状態でなくてはならない。
7-1-5　リヤサブフレームは、車両公認時の状態でなくてはならない。
7-1-6　追加のシート用ブラケットを付け加えてもよいが、シート用ブラケットを取り除くことはできない。リヤのサブフレームへのボルトオンのアクセサリーは取り除いてもよい。
7-1-7　塗装方法は制限しないが、フレームボディー、サブフレームへの研磨は許可されない。

7-2　フロントフォーク

7-2-1　フォークは車両公認時の状態でなくてはならない。
7-2-2　標準的なフォーク内部部品は、改造しても良い。
7-2-3　アフターマーケット・ダンパーキット、及びバルブを取り付けてもよい。
7-2-4　フォークスプリングは交換してもよい。
7-2-5　フォークキャップは、フォークスプリングの外部調整のみを目的として、改造しても交換してもよい。
7-2-6　フォークチューブ（スタンチオン、フォークパイプ）は車両公認時の状態でなくてはならない（追加の表面処理は許可されない）。
7-2-7　上下フォーククランプ（三又、フォークブリッジ）は車両公認時の状態でなくてはならない。
7-2-8　ステアリングダンパーの追加、アフターマーケット・ダンパーとの交換は許可される。
7-2-9　ステアリングダンパーは、ステアリングロック制御装置(ステアリングストッパー)としての役割を果たしてはならない。

7-3　リヤフォーク（スイングアーム）

7-3-1　リヤフォークは、車両公認時の状態でなくてはならない。
7-3-2　リヤフォークピボットボルト（アクスルシャフト）は、車両公認時の状態でなくてはならない。
7-3-3　リヤチェーン・アジャスターの改造または変更は許可される。
7-3-4　スタンドブラケットの取り付け、および取り付けのための加工は許可される。
7-3-5　ブラケットはボルトオンタイプでも溶接による取付けでも許可される。但し、ブラケットの周辺は鋭角であってはならない。取付け用ボルト（スクリュー）頭部はブラケットの裏面から突出してはならない。
7-3-6　チェーンガードの取り付け、および取り付けのための加工は許可される。但し、ライダーの身体のいかなる部分もドライブチェーンとリアスプロケットに巻き込まれないようにしなければならない。

7-4　リヤサスペンションユニット

7-4-1　リヤサスペンションユニット（ショック・アブゾーバー）は、改造してもよいし、交換してもよい。
7-4-2　リヤサスペンションユニットスプリングは変更してもよい。
7-4-3　リヤサスペンションリンケージは車両公認時の状態でなくてはならない。

7-5　ホイール

7-5-1　ホイールは車両公認時の状態でなくてはならず、ディーラー／ディストリビューターチェーンに対する販売時の状態でなくてはならない。
7-5-2　スピードメータードライブは、取り外してもよいし、スペーサーと交換してもよい。
7-5-3　公認車両がリヤホイールにクッションドライブも含む場合、その状態を維持しなくてはならない。
7-5-4　フロントとリヤのホイールアクスルは、車両公認時の状態でなくてはならない。

7-5-5　ホイールの直径とリム幅は、車両公認時のものと同じでなければならない。

7-6　ブレーキ

7-6-1　フロントとリアのブレーキディスクは変更してもよいが、車両公認時に装着されているキャリパー及びマウンティングにフィットしなければならない。ただし、外径とベンチレーションシステムは車両公認時のものと同じでなくてはならない。インターナリーベンチレーテッド（内部換気）ディスクは許可されない。

7-6-2　ブレーキディスクキャリアは変更してもよいが、ホイールに対するオフセットと、マウンティングのタイプは車両公認時の状態でなければならない。

7-6-3　交換されるブレーキディスクの材質は、鉄素材でなければならない。

7-6-4　フロントとリアブレーキキャリパー（マウント、キャリア、ハンガー）は、車両公認時の状態でなくてはならない。

7-6-5　フロントマスターシリンダーは、車両公認時の状態でなくてはならない。

7-6-6　リヤマスターシリンダーは、車両公認時の状態でなくてはならない。

7-6-7　フロントとリヤの油圧ブレーキラインは変更してもよい。クイック・コネクターを使用してもよい。左右のフロントブレーキキャリパーへのフロントブレーキラインの分岐点は、ロアフォークブリッジよりも上に位置しなくてはならない。

7-6-8　フロントとリヤのブレーキパッドは変更してもよい。ブレーキパッドのロッキングピンはクイックチェンジタイプに改造してもよい。

7-6-9　ブレーキ冷却用エアダクトの追加は認められない。

7-7　タイヤ

7-7-1　V、またはZ級のタイヤが使用されなければならない。交通法規に適合する付属品として一般販売されているタイヤのみが許可される。タイヤトレッドの深さは、レース前検査時に、タイヤのトレッドパターン幅全体にわたり、最低でも2.5mmなければならない。

7-7-2　タイヤには、「E」マークまたはDOTマークまたはJISの認定マークが表示されていなくてはならない。

7-7-3　レース、またはプラクティスが「ウェット」宣言された場合のみ、レインタイヤの使用が許可される。このタイヤは、「DOT」「E」「JIS」マークを持つ必要はないが、「NOT FOR HIGHWAY USE」と表示されていなければならない。

※　世界選手権では「DOT」「E」のみ有効

※　世界選手権ではレインタイヤの種類も規定される。

7-8　フットレスト／フットコントロール

7-8-1　フットレスト／フットコントロールの位置は移動してもよいが、ブラケットは、フレームの元の取付位置に取付けなければならない。

7-8-2　フットレストはリジット（固定式）に取り付けられたものか、あるいは通常の位置に戻る仕組みになっているホールディングタイプ（折りたたみ式）のものであること。

7-8-3　フットレストの先端は、最低半径8mmの中空でない一体構造の球状でなければならない。

7-8-4　ホールディングタイプ（折りたたみ式）でないスチール製フットレストには、永続的に取り付けられたプラスチック、テフロン、あるいはそれと同等の材質でできたプラグ(先端)が固定されていなければならない（最低半径8mm)。

7-9　ハンドルバー、及びハンドコントロール

7-9-1　ハンドルバー、ハンドコントロール類（レバー等）は交換してもよい（ブレーキマスターシリンダーは含まない)。

7-9-2　ハンドルバー、ハンドコントロール類（レバー等）は位置を移動してもよい。

7-9-3　ハンドルバーには、スタータースイッチとエンジンストップスイッチを設置しなければ

ならない。

7-10　フェアリング／ボディーワーク

7-10-1　フェアリング、フロントマッドガード、及びボディーワークは公認車両の状態でなくてはならない。

7-10-2　フェアリング、及びボディーワークはオリジナル部品の外観形状が同じであれば交換しても、材質を変更してもよい。カーボンファイバー、またはケブラー素材の使用は許可される。

7-10-3　大きさも細部寸法も、車両公認時のものと同じ（追加、削除は一切認められない）でなければならない。

7-10-4　ウィンドスクリーンは交換できるが、全く同じ形に成形されたもので、透明素材でなければならない。耐久においてウインドスクリーンの高さは変更してもよい。

7-10-5　インストルメントブラケット／フェアリングブラケットの組合せは変更してもよい。全てのフェアリングブラケットは、部分的に変更したり、交換してもよい。

7-10-6　フェアリングとエアボックスを結ぶ公認時のエアダクトは、部分的に変更したり、交換しても良い。

7-10-7　エアボックスへ通じる公認時のエアダクトは、部分的に変更したり、交換してもよい。

7-10-8　フェアリング下部は、エンジン故障時に、そのエンジンに使用されるオイル、及びエンジンクーラント総量の最低半分（最低5リットル）を保持できる構造でなければならない。フェアリングの開口部の下端部はフェアリングの最下端から最低でも50mm以上、上に位置しなければならない。

7-10-9　フェアリング下部には、直径25mmの孔を最高２つまで設けてもよい。この孔はドライコンディションの時には閉じられていなければならず、競技監督がウェットレースコンディションを宣言した場合にのみ開けることができる。

7-10-10　ホイール交換用のエレベーター（スタンド）を使用するため、及びフレームやエンジンに小型のプラスチック製プロテクティブ・コーンを装着するために、フェアリングへの最低限の変更が許可される。

7-10-11　フロントマッドガードは、車両公認時の外観と同じでなくてはならない。

7-10-12　フロントマッドガードは、車両公認時のものと外観が同じた製品と交換してもよい。

7-10-13　フロントマッドガードは、タイヤのクリアランスを増やすために上に移動してもよい。

7-10-14　スイングアームに装着されたリアマッドガードは、車両公認時のものと外観が同じ製品と交換してもよい。

7-10-15　チェーンガードを組み込むスイングアームに装着されたリアマッドガードは、更に大きい直径のリヤスプロケットを収容するために改造してもよい。

7-10-16　シート下の既存のリアマッドガードは取り外してもよい。マッドガードはスイングアームに直接装着してもよい（ホイール120度以上を覆わないこと）。

7-10-17　露出しているエッジ部分はすべて丸められなければならない。

7-11　燃料タンク

7-11-1　燃料タンクは車両公認時の状態でなくてはならない。

7-11-2　燃料タンクには防爆材が完全に充填されていなければならない。

7-11-3　タンクブリーザーパイプのついた燃料タンクには、適切な材質でできた最低容量250ccのキャッチタンクに放出する、ノンリターン（戻らない）バルブが装備されていなければならない。

7-11-4　燃料キャップは変更してもよい。燃料キャップは閉じた状態で漏れないものでなければならない。さらにいかなる場合にも事故で開かないように、完全にロックされなければ

ならない。

7-12　シート

7-12-1　シート、シートベース、及びそれに伴うボディーワークは、車両公認時のものと同じ外観形状の製品と交換してもよい。カーボンファイバー、またはカーボン複合材を使用してもよい。

7-12-3　シート周辺のリアボディーワークの上部分を、シングルシートに改造してもよい。この場合、シ-ングルシートはリアゼッケンプレートと一体構成になっていなければならない。

7-12-4　前後、および両側面からの外観形状は、原則として車両公認時の状態と合致していなければならない。

7-12-5　シート／リアカウルを交換する場合、正常にゼッケン表示ができなければならない。

7-12-6　露出しているエッジ部分は全て丸められていなければならない。

7-13　ワイヤリングハーネス

7-13-1　ワイヤリングハーネスは、部分的に変えたり、交換してもよい。追加のワイヤリングハーネスを加えてもよい。

7-13-2　ワイヤリングハーネスを切削してもよい。

7-14　バッテリー

バッテリーのサイズ、及びタイプは変更したり、位置を移動してもよい。追加のバッテリーを加えてもよい。

7-15　ラジエター／オイルクーラー

7-15-1　ラジエターは、標準位置に装着でき、メインフレームまたはフェアリングの外観形状に改造を必要としないものに限り、変更してもよい。

7-15-2　既存のオイルクーラーの改造は、メインフレーム、またはフェアリングの外観形状に改造を必要としないものに限り許可される。ヒートエクスチェンジ（オイル／水）は、オイルクーラーと取り替えてもよい。

7-15-3　追加のオイルクーラーは許可されない。

7-16　エアボックス

7-16-1　エアボックスは、車両公認時の状態でなくてはならない。

7-16-2　エアフィルターエレメントは、取り外してもよい。

7-16-3　エアボックスドレーンは、密閉されていなければならない。

7-16-4　全ての４ストロークモーターサイクルは、クローズド・ブリーザー・システムを維持しなければならない。オイルブリーザーラインはエアボックスに連結され、ここに放出されなければならない。

7-16-5　フェアリングとエアボックスを結ぶ車両公認時のエアダクトは、部分的に変えたり、交換してもよい。

7-16-6　エアボックスへ通じる車両公認時のエアダクトは、部分的に変えたり、交換してもよい。

7-17　キャブレター

7-17-1　キャブレターは、公認モデルの標準ユニットでなければならない。

7-17-2　バタフライの交換、改造は禁止される。

7-17-3　キャブレタージェット、ニードルは交換してもよい。

7-17-4　CVキャブレタースライドコントロールのエア調節孔は、サイズ変更してもよい。

7-17-5　電子的、または機械的チョーク装置は装着された状態でなければならないが、機能しなくてもよい。

7-17-6　ベルマウス（エアファンネル）は、車両公認時の状態から部分的に変えたり、交換して

もよい。

7-17-7　エンジン作動中に機能する、長さが変化するキャブレターインテイクトラック装置（すなわち、長さが変化するベルマウス）は許可されない。

7-18　フュエルインジェクションシステム

7-18-1　スロットルボディは、公認モデルの標準ユニットでなければならない。

7-18-2　インジェクターは、公認モデルの標準ユニットでなければならない。

7-18-3　ベルマウスは、車両公認時にメーカーにより装備されているものから、部分的に変えたり、交換してもよい。

7-18-4　エンジン作動中に機能する、長さが変化するフュエルインジェクションインテイクトラクト装置は許可されない。

7-18-5　バタフライの交換、改造は禁止される。

7-18-6　燃料ポンプ、プレッシャーレギュレータの改造は禁止される。

7-18-7　フュエルインジェクション・マネージメント・コンピューターアッセンブリーおよびフラッシュRAMは変更してもよい。

7-18-8　燃料ポンプ、またはプレッシャーレギュレータは公認時の状態でなければならない。

7-19　燃料供給

7-19-1　フュエルラインは、交換してもよい。

7-19-2　クイックコネクター、またはドライブレーキクイックコネクターを使用してもよい。

7-19-3　フュエルベントラインは、交換してもよい。

7-19-4　フュエルフィルターを追加してもよい。

7-19-5　フュエルペットコックは、メーカーにより製作された状態のままでなければならない。

7-20　シリンダーヘッド

7-20-1　シリンダーヘッドは公認時の状態でなければならないが、以下の改造のみ許可される。

7-20-2　通常、個人的なチューニングと考えられる、燃焼室を含むシリンダーヘッドへのポーティング、及びポリッシング（ガスフローイングなど）は許可されるが、溶接によるマテリアルの追加は許可されない。

7-20-3　圧縮比は自由とする。

7-20-4　燃焼室は改造してもよい。

7-20-5　バルブは部分的な変更、交換が認められる。材質の変更も認められる。最大直径と最低重量は公認時のものと同じでなければならない。チタニウムバルブの使用は許可されない。

7-20-6　バルブシートは、車両公認時の状態でなければならない。改造はしてもよい。

7-20-7　バルブガイドは、車両公認時の状態でなければならない。ポートエリア内のバルブガイドへの改造は許可される。

7-20-8　バルブスプリングは、変更してもよい。

7-20-9　バルブスプリングリテーナーは、変更してもよい。但し、重量は公認部品と同等か、それ以上でなくてはならない。

7-21　カムシャフト

7-21-1　ドライブ方式は、車両公認時の状態でなければならない。

7-21-2　デュレーションは自由だが、リフトは車両公認時のものと同じでなければならない。

7-21-3　カムチェーンやカムベルトのテンション装置は自由とする。

7-22　カムスプロケット

カムスプロケットは、カムシャフト角度を変更するために改造したり、交換してもよい。

7-23　クランクシャフト

7-23-1　クランクシャフトは車両公認時の状態でなくてはならず、改造されてはならない。
7-23-2　研磨、及び軽量化は許可されない。
7-23-3　フライホイールの改造は許可されない。

7-24　オイルポンプ、及びオイルライン

7-24-1　オイルポンプは車両公認時のものでなければならない。改造は許可される。
7-24-2　オイルラインは改造したり、交換してもよい。圧力のかかるオイルラインを交換する場合は、金属強化構造のもの、またはネジ式のコネクターを持つものを使用しなければならない。

7-25　コネクティングロッド

7-25-1　コネクティングロッドは、車両公認時の状態でなければならない。
7-25-2　研磨、軽量化は許可されない。

7-26　ピストン

7-26-1　ピストンは、車両公認時の状態でなければならない。
7-26-2　研磨、軽量化は許可されない。

7-27　ピストンリング

ピストンリングは車両公認時の状態でなければならない。改造は許可されない。

7-28　ピストンピン、及びクリップ

ピストンピン、及びクリップは車両公認時の状態でなければならない。改造は許可されない。

7-29　シリンダー

7-29-1　シリンダーは、車両公認時の状態でなければならない。
7-29-2　シリンダーに対しては以下の改造のみが許可される。シリンダーヘッドガスケットの表面は、圧縮比の調整、又は曲がったシリンダーの表面デッキの修理を目的とした表面仕上げのために、機械加工されてもよい。
7-29-3　シリンダーには、車両公認時の材質、及びキャスティングが使用されなければならない。表面仕上げ及びボアは維持されなければならない。
7-29-4　シリンダー容量は、車両公認時のサイズのままでなければならない。

7-30　クランクケース、及びその他の全てのエンジンケース（すなわち、イグニッションケース、クラッチケース）

7-30-1　クランクケースは、車両公認時の状態でなければならない。改造は許可されない。
7-30-2　その他のエンジンケースは、車両公認時の材質で作られていなければならない。
7-30-3　クランクケース／ギアボックスケース、イグニッション、クラッチ、及びジェネレーターカバーは、ステンレススチール、又はカーボン／Kevlar（R）複合材などでできたカバーを追加して保護してもよい。
7-30-4　クーリング性能を向上させるため、ドライクラッチカバーに孔を加えてもよい。
7-30-5　強化エンジンサイドカバーとしてエンジンケースガードを取りつけてもよい。これらのカバーは同じ材質で作らなくてはならず、重量は標準の材質より軽くあってはならない。
7-30-6　カウンターシャフトカバーは、取り外してもよい。
7-30-7　カウンターシャフトのクランクケースプロテクターの追加は許可される。

7-31　トランスミッション／ギアボックス

7-31-1　全てのトランスミッション／ギアボックスレシオは、自由とする。
7-31-2　プライマリーギアは、車両公認時の状態でなければならない。
7-31-3　クイックシフトシステムのようなものをギアボックス、またはセレクター機構に追加することは許可されない。

7-31-4　カウンターシャフトスプロケット、リアホイールスプロケット、チェーンピッチ、ならびにサイズは変更できる。

7-32　クラッチ

7-32-1　クラッチタイプ（ウェット、またはドライ）、及び作動方法（ケーブル、又は油圧による）は、車両公認時の状態でなければならない。

7-32-2　フリクション、及びドライブディスクは、変更してもよい。

7-32-3　クラッチスプリングは、変更してもよい。

7-32-4　クラッチバスケット（アウター）は、補強してもよい。

7-33　イグニション／エンジンコントロールシステム

7-33-1　イグニション／エンジンコントロールシステムは、改造したり、変更してもよい。

7-33-2　追加のワイヤハーネスを加えてもよい。

7-33-3　ワイヤハーネスを切削してもよい。

7-33-4　スパークプラグ、及びプラグワイヤーは交換してもよい。

7-34　ジェネレーター

7-34-1　ジェネレーターの改造、取り外し、交換は許可される。

7-34-2　エレクトリック・スターターは、レース前後の車検時に正常に作動しなければならない。エレクトリック・スターターがその機能を停止した時にもエンジンはスタートし、作動しなければならない。

7-35　エキゾーストシステム

7-35-1　エキゾーストパイプ、及びサイレンサーは、改造、変更してもよい。

7-35-2　スーパースポーツのノイズ・リミットは、102dB/A。

7-35-3　サイレンサー数は車両公認時のままでなければならない。サイレンサーの位置は、原則として公認時と同じでなければならない。

7-35-4　ライダーの足の部分、又はフェアリングと接触する部分を熱から保護する場合を除き、エキゾーストシステムを覆うことは、許可されない。

7-36　ファスナー

7-36-1　ファスナーは、どのような材質、デザインのファスナーにも交換することができる。

7-36-2　アルミニウムのファスナーは、主要構造部分でない場所に限り使用してもよい。

7-36-3　チタニウムのファスナーは主要構造部分に使用してもよいが、その強度とデザインは、標準ファスナーの強度と同等、あるいはそれ以上でなければならない。

7-36-4　特別なスチールのファスナーは、主要構造部分に使用してもよいが、その強度とデザインは、標準ファスナーの強度と同等、あるいはそれ以上でなければならない。

7-36-5　ファスナーは、安全ワイヤーのためにドリルで穴をあけてもよいが、重量軽減のための改造は許可されない。

7-36-6　フェアリング／ボディーワークファスナーは、クイック・ディスコネクトタイプのものに変更してもよい。

7-37　以下の項目は、車両公認時に装備されているものから部分的に変更、交換が認められる。

7-37-1　どの種類の潤滑油、ブレーキ、またはサスペンションフルードを使用してもよい。

7-37-2　どの種類のスパークプラグ、及びプラグキャップを使用してもよい。

7-37-3　どのインナーチューブ（装着される場合）、またはインフレーションバルブを使用してもよい。ホイールのバランスウェイトは外しても、変更しても、追加してもよい。

7-37-4　どの種類、あるいはどのブランドのベアリング（ボール、ローラー、テーパー、プレイン等）を使用してもよい。

7-37-5　ガスケットとガスケットの素材
7-37-6　塗装された外部表面の仕上げ、及びデカール。
7-38　以下の項目は取り外すことが認められる。
・インストルメント、及びインストルメントブラケット、ならびに関連ケーブル
・ホーン
・ライセンスプレートブラケット
・ツールボックス
・タコメーター
・サーモスタット
・スピードメーター、及び関連するホイールスペーサー
・ラジエーターファン、及びワイヤー
・パッセンジャー用フットレスト
・パッセンジャー用グラブレール
・シートレールに取りつけられた荷掛けフック（溶接されたものの切削も可）
・チェーンガード
・リアサブフレームにボルトオンのアクセサリー。
7-39　以下の項目は変更されなくてはならない。
7-39-1　モーターサイクルには、作動中のエンジンを停止できる効果的なイグニションキルスイッチ、またはボタンがハンドルバーの右、あるいは左（グリップを握った状態で手の届く距離）に取り付けられていなければならない。
7-39-2　スロットルコントロールは、手で握っていないときには自動的に閉じるものでなければならない。
7-39-3　エレクトリックフュエルポンプは、大会中の事故の際に自動的に作動する回路遮断システムを介していなければならない。
7-39-4　エレクトリックフュエルポンプの設計には、車検時にテストできるように回路遮断のテスト機能が設けられていなければならない。
7-39-5　セーフティーバー、及びセンター／サイドスタンドは取り外されなければならない（固定されたブラケットは維持されなければならない）。
7-39-6　ドレーンプラグは全てワイヤーロックされていなければならない。外部オイルフィルタースクリュー、及びボルトでオイルキャビティに入るものは、安全にワイヤーロックされていなければならない。
7-39-7　ブリーザー、またはオーバーフローパイプが装備される場合、排出は既存の排気口からなされなければならない。オリジナルのクローズドシステムは維持されていなければならず、直接大気へ排出することは禁止される。
7-39-8　オイルブリーザーパイプが装備される場合、排出は簡単に手の届く位置に設けられたキャッチタンクにされなければならず、キャッチタンクはレース前に空にされなければならない。
7-39-9　キャッチタンクの最低サイズは、ギアボックスブリーザーパイプの場合250cc、エンジンブリーザーパイプの場合500ccとする。
7-39-10　すべての4ストロークモーターサイクルには、クローズドブリーザーシステムが採用されなくてはならない。オイルブリーザーラインは、エアボックスに連結され、ここに排出されなければならない。
7-39-11　ヘッドランプ、リアランプ、及びウィンカーは、取り外さなければならないが、ウィンカーの形を含む側面、及び正面の外観は維持されなければならない。開口部は適切な材質で覆わなければならない。

8 追加イクイップメント

車両公認時に装備されていない、追加のイクイップメントを加えてもよい（例：データ取得機、コンピューター、レコーディング・イクイップメント等）。ただし、付則6ロードレース基本仕様3-19の「テレメトリー」（106頁）（遠隔測定法）は尊重すること。

9 買い取り規定

① 大会にて6位以内に入賞した車両は、購入希望者がいた場合、下記価格にて販売しなければならない。売買によって発生する税金は、この金額に含まれない。

買い取り価格：ホンダ・ヤマハ・スズキ・カワサキの車両　1,600,000円
ドゥカッテイ・トライアンフ・ラベルダの車両　2,500,000円

② 購入希望者は決勝レース暫定結果発表後30分以内に限り購入申請をすることが出来る。

・売主を除き、購入申請者は当該レース参加者に限る。
・購入申請は決勝レース暫定結果発表後に行うことが出来る。
・購入申請が締め切られた後、売主に購入申請があったことが通達される。

③ 購入申請は主催者指定の用紙に必要事項を記入し、以下の物を揃え、主催者へ提出すること。

・購入申請〆切後の申請撤回は認められない。
・購入申請用紙
・購入者の運転免許証のコピー
・購入申請保証金50,000円（購入申請保証金は購入代金の一部とされる）

④ 購入希望者が複数の場合、申請〆切後、抽選の会場・時間が購入希望者に連絡される。購入者は主催者により抽選が行われ購入優先順位が決定される。
購入優先順位1位以外の者の購入申請保険金は抽選後返却される。

⑤ 購入申請が提出された時点より、主催者は車両を売買契約日まで保管しなければならない。（売主が車両に触れることは禁止される）

⑥ 売買契約日は購入申請日から起算して10日以内の間に設定されなければならず、売主・購入者・そして主催者の3物にて売買契約日を決定する。

⑦ 前項にて決定された売買契約日に購入代金（現金）と車両の受け渡しが行われる。

⑧ 売買契約日までに売主・購入者双方とも身分証明書のコピーを主催者に提出しなければならない。

⑨ 売買契約は売主。購入者双方と主催者立会いのものと行われる。

⑩ 5項にて決定された売買契約日に購入者が購入代金を支払うことができない場合はこの売買契約は無効となり購入申請保証金50,000円は返却されない。また、この場合に発生する経費（運搬費等）は購入希望者が負担する。

⑪ 売買契約が無効になった場合は3項で決定された、優先順位の次点の購入希望者に購入権利が与えられる。
主催者より次点購入希望者に連絡し、3日以内に再度、購入申請保証金50,000円が主催者に提出された次点で購入権利の移行が確定する。確定しなくなかった場合は再度さらに次点の者に購入希望の発生が連絡され、同様の手順が適用される。
購入権利の移行が確定した後に、売主に連絡され3者立会いの売買契約調整日が設定され、売買契約日より5項以降の規定を適用する。

⑫ 上記規定は購入者・売主・主催者の合意があれば、部分的に簡略化することが出来る。なお、3者合意が必要な規定について、調整が困難な場合は主催者が決定権利を有する。（売買契約日等）

付則12

ST250・ST400の仕様

ROAD RACE

ストックバイク規則は公道用一般車両をベースに最小限の改造とコストで性能を参加しやすいレベルに抑えることを基本理念とする。

用語の定義：改造＝もとの部品を使って切削・追加・研磨を行う行為
変更＝もとの部品から他の部品に置き換える行為

1 出場車両

1-1　ストックバイククラスに出場する車両は一般生産型モーターサイクルでMFJの公認車両でなければならない。

1-2　公認車両のリストは巻末に記載する。

2 排気量区分

50ccクラス　～50cc　125ccクラス　86cc～125cc　400ccクラス　251cc～400cc
85ccクラス　51cc～85cc　250ccクラス　126cc～250cc

3 燃料／オイル

3-1　使用する燃料はMFJが規定する無鉛ガソリンで、当該サーキットから購入できるものを使用しなければならない。

3-2　オイルは一般に市販されているものから選択しなければならない。

3-3　上記以外の起爆剤・添加剤は使用してはならない。

4 仕　様

4-1　レースのために行わなければならない変更

1）取り外さなければならない部品

(1) ライト／ウインカー／リフレクター
(2) バックミラー
(3) ナンバープレートとブラケット
(4) セーフティーバー／センタースタンド／サイドスタンド
(5) 同乗者用フットレスト／グラブレール
(6) その他車検時に安全上取り外しを指示された部品

2）車両公認時の状態で下記の各項目に適合していない時は、改造・変更が義務付けられる。特にガソリン／オイル等をコースに撒き散らすことは事故原因になるのでその為の対策を主眼とする。

(1) アクセルは手で握っていないときは、自動的に閉じるようになっていること。
(2) キルスイッチをハンドルを握ったまま操作できる位置に取り付けること。
(3) 電動式フューエルポンプがついている車両は、転倒した時にポンプが自動的に停止するための回路遮断システムを備えていなければならない。
(4) 4ストローク車両はクローズドブリーザーシステムになっていなければならない。すなわち、オイルブリーザーラインはエアクリーナーボックスに連結され、これに排出する構造となっていること。エアクリーナーボックスの下部に排出穴があいている場合は、オイルを受けられるように塞がなければならない。(154頁図を参照)
(5) オイルブリーザーパイプが装着されている車両には、オイルキャッチタンクを取り付けなければならない。
最低の容量：2ストローク：250cc　4ストローク：500cc
(6) オイルドレーンボルト及び供給パイプ
エンジンのオイルドレーンボルトは確実に固定され、ドリルで穴を開け、ワイヤーで所定の位置に固定しなければならない。
オイルパンに進入する外部オイルフィルターのスクリューやボルトは安全にワイヤーロックされていなければならない。(168頁図参照)
(7) 燃料タンクブリーザーパイプがついている車両は、ノンリターンバルブを燃料タンクブリーザーパイプに取り付けなくてはならない。これは、適切な材質でできた最低容量250ccのリザーバータンクに放出されるようになっていなくてはならない。
(8) 燃料タンクフィラーキャップ及びオイルフィラーキャップは閉じた状態で漏れないようになっていなくてはならない。さらに、これらはいかなる場合においても誤って開くことのないように完全にロックされていなくてはならない。
(9) ラジエターオーバーフローパイプがついている車両は、最低重量250cc以上のキャッチタンクを取り付けなければならない。

3) ナンバープレートの取り付け
(1) ナンバープレートは、フロントと両サイドの3枚を取り付けなければならない。
(2) ナンバープレートの地色は白で、文字は黒色とする。
(3) プレート・文字サイズは図（168頁）を参照のこと。

4-2 レースの為にチューニングが許可される部分
記載されている事以外は一切改造・変更はできない。

1) フレーム
(1) 追加が認められるパーツの取り付けを目的としたステーの追加。
(2) リヤサブフレームにボルトオンされたアクセサリーの取り外し。
(3) ステアリングダンパーの取り付けおよび取り付け目的のためのフレーム加工

2) リヤフォーク（リヤスイングアーム）
(1) スタンドブラケットの取り付け、および取り付け目的の加工。
(2) リヤスプロケットガードの取り付け、および取り付け目的の加工。

3) サスペンション
(1) フロントサスペンションのスプリングの変更。
(2) 車高調整を目的としたフロントフォークの上下の取り付け位置の調整。
(3) リヤサスペンションのスプリングの変更。
(4) サスペンションフルードの変更。

4） ブレーキ

(1) 前後ブレーキパッドとホースの変更。

(2) ブレーキフルードの変更。

5） タイヤ・ホイール

(1) スピードメーター駆動部の取り外しとスペーサーへの交換。

(2) タイヤ

① タイヤは変更できるが、一般公道用のタイヤに限られる。レース用のスリックタイヤ／レーシングレインは天候に関わらず使用できない。

② タイヤは入門者クラスとして公平を期すため、排気量クラスごとに銘柄と種類を限定する。当該銘柄で使用できるタイヤは下記に限定される。

年度	クラス	メーカー	パターン
2002～2003年	ST250	ダンロップ	GPR80、D220ST
	ST400	ブリジストン	BT92、BT39、BT45、BT020、BT010

③ タイヤの追加工（再グルービング等）は禁止される。

④ 磨耗限度を超えたタイヤは使用できない（残溝はインジケーターによる）。

⑤ タイヤウォーマーの使用は禁止する。

⑥ 上位入賞車両は再車検にて詳細検査を行い、登録タイヤと異っていた場合は失格とする。

⑦ 原則的には出荷時のタイヤサイズが望ましい。

6） フットレスト・チェンジレバー・ブレーキペダル

フットレストは改造・変更されてもよいが、下記条件を満たさなければならない。ただし車両公認時から改造・変更しない場合は突起物を取り外し、車検長の許可を得た場合は下記仕様を満たさなくても使用できる。

(1) フットレスト／フートコントロールの位置は移動してもよいが、ブラケットは元の取り付け位置に固定しなければならない。

(2) フットレストの先端は、最低半径８㎜の中空でない一体構造の球状になっていなければならない。

(3) 折りたたみ式の場合は、自動的に戻るようになっていなければならない。

(4) スチール製フートレストで折りたたみ式でない場合、その先端にはプラスチック、テフロンあるいはそれと同等の材質でできた先端（プラグ）が固定されていなくてはならない。（最低半径８㎜）

7） ハンドルバー・レバー類

(1) ハンドルバー、ブレーキ／クラッチレバー及びブレーキ／クラッチケーブル／スロットルケーブルの変更。ステアリングパイプ（ハンドルバー）取り付け方式、タイプは車両公認時のものから変更できないが、取り付け位置調整、角度調整は認められる。

(2) ハンドルバーの末端が露出している場合は、固形物質を詰めるかゴムでカバーされていなければならない。

(3) ハンドルバーの最低幅は85ccまでは400㎜、86cc以上は450㎜。

(4) ブレーキ／クラッチレバーの先端はボール状でなくてはならない（最低直径19㎜）。このボールを平たくすることができるが、端部は丸くなっていなければならない（最低の厚み14㎜）。

8） カウリング

(1) カウリングとウインドスクリーンはアフターマーケットのものに変更することが

できる。ただし、外観はノーマルと同じでなければならない。

① スクリーンエッジは丸く加工する。

② カーボン、ケブラー強化繊維等の高価素材のものは使用できない。

(2) 取り付けブラケットの改造・変更。

(3) 露出しているエッジは、全て丸められていなければならない。

(4) 大会期間中に破損した場合の補修と取り外し。

9) シート

オプションのシングルシートまたはアフターマーケットのものに変更できる。ただし、外観はノーマルと同じでなければならず、カーボン／ケブラー強化繊維等の高価素材のものは使用できない。

10) シリンダー

(1) 4ストロークのシリンダーヘッドポートのバリ取りとカーボン除去。バリとは鋳型の合わせ面に生ずる「型合わせバリ」を指す。(226頁図参照)

※ポート内のザラ付きは鋳ハダと解釈し、切削、研磨は認められない。

(2) 2ストロークのシリンダーヘッドとポートのカーボン除去。

11) クラッチ

クラッチスプリングの変更。

12) キャブレター

ジェットとニードルの変更。

13) 燃料供給

(1) フューエルラインの変更。

(2) フューエルベントラインの変更。

(3) フューエルフィルターの追加・変更。

14) ワイヤーハーネス

不要なワイヤーハーネスのカット。

15) スプロケット／チェーン

カウンターシャフトスプロケット、リヤホイールスプロケット、チェーンの変更。ただし、チェーンは公認時のサイズとする。

16) エンジンレブリミッター／スピードリミッター

エンジンレブリミッター／スピードリミッターの変更。

17) 点火時期／スパークプラグ

スパークプラグ、プラグキャップの変更。ハイテンションコードの変更。

点火時期の調整。

18) ボルト・ナット類

(1) ボルト・ナット類の変更。ただし、同じ材質でなければならない。

(2) ボルト・ナット類はセーフティーワイヤーをつける為に孔を開けてもよい。しかし、軽量化する改造は認められない。

(3) カウルのボルト・ナット類はクイックタイプに変更できる。

19) 取り外すことができる部品

(1) 計器類と計器用ブラケット及び関連ケーブル。

(2) ホーン

(3) ツールボックス

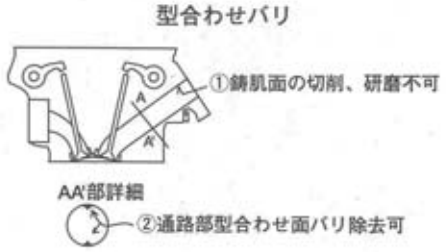
(4) タコメーター

(5) スピードメーター

(6) ラジエターファンと配線
(7) 2サイクル分離給油用のオイルポンプとオイルタンクの取り外しと、取り外し後のカバー類の取り付け。
(8) リヤフェンダーと結合していない場合のチェーンガード。
(9) リヤサブフレームにボルトオンされたアクセサリー。
(10) エアクリーナーエレメント
(11) 別体（ボルトオン）のライセンスプレート
(12) スターターキックアーム

20) ノーマルマフラーに対する曲げによる接地対策は許可される（切り取り、追加は許可されない）。また、取り付けのためのブラケットの変更も許可される。

21) その他の制限
チタン合金部品の使用は禁止される。



5 買い取り制度

1大会にて6位以内に入賞した車両は、購入希望者がいた場合下記価格にて販売しなければならない。売買によって発生する税金は、この金額に含まれない。

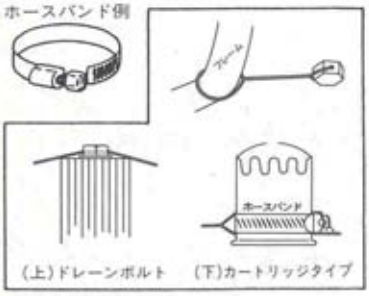
80ccクラス以下　500,000円　　250ccクラス　1,000,000円
125ccクラス　　700,000円　　400ccクラス　1,000,000円

① 購入希望者は6位以内に入賞した車両が車両保管されている時間内に限り、購入申請することができる。
② 購入申請は主催者指定の用紙に必要事項を記入し主催者に提出すること。
③ 購入希望者が複数の場合、主催者により抽選が行われ、決定される。
④ 購入者が決定した時点で、購入者は購入申請日に以下のものをそろえて主催者へ提出しなければならない。
・購入申請用紙　　・購入者の運転免許証のコピー
・購入申請保証金50,000円（購入申請保証金は購入代金の一部とされる）。
⑤ 購入者が決定した時点より、主催者は車両を売買契約日まで保管しなければならない。
⑥ 売買契約日は、購入申請日から起算して10日以内の間に設定されなければならず、売主・購入者、そして主催者3者合意のもと、売買契約日を決定する。
⑦ ⑥にて決定された売買契約日に購入代金（現金）と、車両の受け渡しが行われる。
⑧ 売買契約日に売主・購入者双方とも、身分証明のコピーを主催者に提出しなければならない。
⑨ 売買契約は売主・購入者双方と主催者の立ち会いのもと行われる。
⑩ ⑥にて決定された売買契約日に購入者が購入代金を支払うことができない場合は、この売買契約は無効となり購入申請保証金50,000円は返却されない。また、この場合に発生する経費（運搬費等）は購入希望者が負担する。
⑪ 主催者が購入申請を行うことができる。
⑫ 売買された車両が、売主のエントラントから出場登録された場合、主催者はこれを拒否する事ができる。

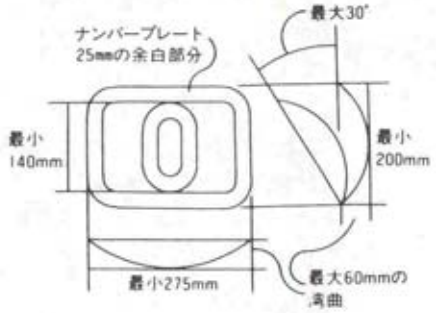
よくある質問と答え：

① ステアリングダンパーの取り付けは認められますか。
A：認められます。ステアリングダンパー取り付け目的の加工も認められます。
② インテークマニホールドに取り付けられたインテークチャンバーの取り外しは可能ですか。
A：取り外しできません。
③ ステアリングパイプ（ハンドルバー）の角度変更は認められますか。
A：取り付け方式、タイプは公認時から変更できません（左記に変更のない範囲で取り付け位置、角度調整は可能）。
④ エアクリーナーエレメントの取り外しは認められますか。
A：認められます。
⑥ ACGローターの軽量化は行ってよいですか。
A：認められません。
⑦ ACGステータコイルの取り外しは認められますか。
A：認められません。
⑧ リミッターカットに伴うメーンハーネスの交換は認められますか。
A：リミッターカットを目的としたメーンハーネス、イグナイターハーネス、CDIユニット、カードの交換は認められます。
⑩ リヤマッドガードの取り外し、カットは認められますか。
A：別体（ボルトオン）のライセンスプレートのみ取り外しできます。
⑪ 水温計取り付けのためにラジエターに加工してもよいですか。
A：ラジエターへの加工は認められません。
⑫ ラジエターホースを変更してもよいですか。
A：スタンダード品に限り認められます。
⑬ 指定タイヤのなかで、サイズ変更は認められますか。
A：原則的には、出荷時のサイズが望ましいです。
⑭ オートシフターの取り付けは認められますか。
A：認められません。
⑮ キックアームの取り外し、およびスターターギヤの取り外しは認められますか。
A：キックアームの取り外しは認められますが、ギヤの取り外しは認められません。
⑯ マフラーステーの取り外し、変更は認められますか。
A：ステーの取り外し、変更ともに認められます。
⑰ ウィンドスクリーンの変更は認められますか。
A：同一形状であれば認められます。

ワイヤーロック

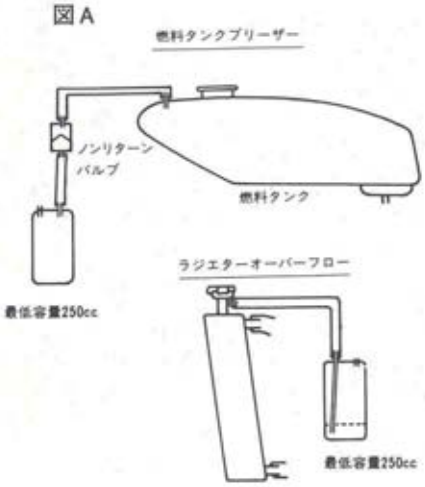


ナンバープレート



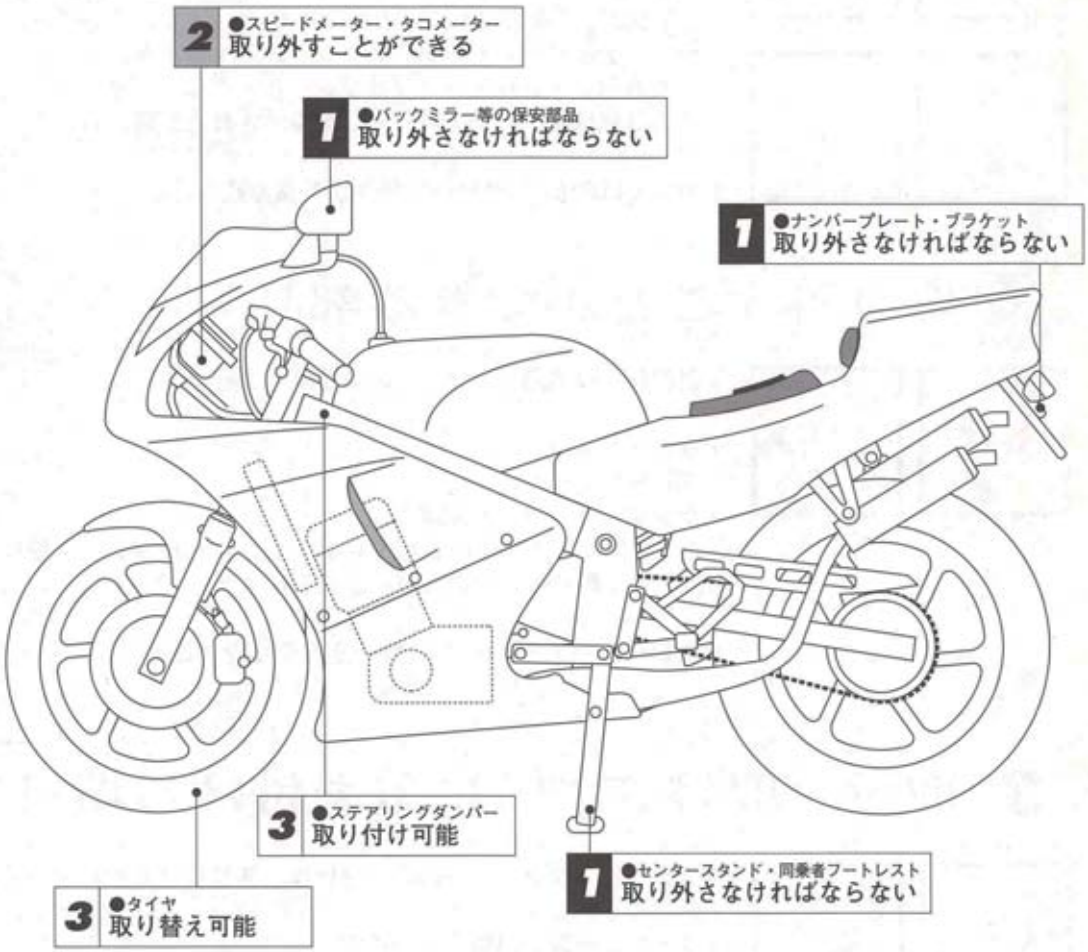
キャッチタンク

図A



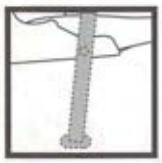
クローズドシステム
エアクリーナーボックスが装置されていない場合、ブローバイガスがキャブレターに吸入されるような措置を施すこと。
オイルキャッチタンク
最低容量500cc

マシンにはほとんど手を加えず、気軽に低コストで参加できるクラスとして、1998シーズンから新設されたのがストックバイククラス。新設当初から全国各サーキットで開催され、好評を得ているこのクラスだが、改造範囲が狭いだけにマシン作りもそれまでと勝手が違うようだ。ここでは、ストックバイクの仕様についてわかりやすい説明を行なうと同時に詳細規定、判例も収録した。ストックバイクの仕様についてのポイントは、ここに「書いてないことはしないこと」だ。ストックバイクで手軽にレースを楽しんではいかが？



オイルドレンボルトは必ずワイヤーロックすること!!

1 取り外さなければならない部品



・ライト／ウィンカー／リフレクター
・バックミラー
・ナンバープレートとブラケット
※但し、ナンバープレートとブラケットが一体型のものは、ブラケットを取り外すことができない。
・セーフティバー／センタースタンド／サイドスタンド
・同乗者用フートレスト／グラブレール
・その他車検時に安全上取り外しを指示された部品

★詳しくはP162～P166の仕様規定を良く読むこと。

2 取り外すことができる部品

・計器類と計器用ブラケットおよび関連ケーブル
・ホーン
・タコメーター
・スピードメーター
・ラジエターファンと配線
・2サイクル分離給油用のオイルポンプとオイルタンクの取り外しと、取り外し後のカバー類の取り付け

★詳しくはP162～P166の仕様規定を良く読むこと。

3 取付・取替等で特に気を付ける項目

・ステアリングダンパーの取り付けは、取り付けるための加工を含めて可能。
・タイヤは一般公道用の銘柄指定タイヤのみ使用可能で、レーシングスリック、レーシングレインタイヤは天候に関わらず使用不可。違反した場合は失格となる。
・タイヤは2002～2003年までで銘柄指定タイヤが変更されるので要注意。
・スクリーン、カウリング、シートカウルは安価なアフターマケットのものに交換できるが、外観が同じものに限られる。
・フロントサスペンションおよびリアサスペンションのスプリング変更、車高調整を目的としたフロントフォークの上下取り付け位置の調整、サスペンションフルードの変更は可能。サスペンションについて、これら以外は一切改造も変更もできない。

★詳しくはP162～P166の仕様規定を良く読むこと。

付則13 SPクラスの仕様

1 クラス区分

クラス	排気量範囲	2ストローク	4ストローク	最大限気筒数	最大限変速段数
400	250を越え400以下	×	○	4	6
250	125を越え250以下	○	×	2	6
250F	125を越え250以下	×	○	4	6
125	80を越え125以下	○	○	1	6
85	50を越え 85以下	○	○	1	6
50	50以下	○	○	1	6

2 出場車両

2-1　車両は（市販レーサーを除く）一般生産型車両でMFJが公認したもの、又はSP用コンプリートマシンとしてMFJが公認したもの。

2-2　車両は国内競技規則および付則６ロードレース基本仕様に示されているすべての条項に適合していること。

2-3　車両のホイールリムの最大幅は下記のとおりとする。

クラス	最大幅フロント	最大幅リヤ
400以下	3.5インチ	4.5インチ

3 公認車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない

（仕様の変更とはその部品の改造、変更、寸法の変更又は取りはずしを言う）

3-1　エンジンの型式

3-2　シリンダーの数

3-3　ピストンストローク

3-4　シリンダー（スリーブ及びライナー含む）、シリンダーヘッド、クランクケース、ギヤボックスの材質・鋳造及び形状

3-5　クラッチの構造　＊ただし4-5参照

3-6　エンジン内部の部品の材質

3-7　４ストローク車のバルブの径、リフト、タイミング及び圧縮比

3-8　２ストローク車のシリンダー、ピストンによるポートタイミング、排気デバイス、ポートサイズ、一次、二次の圧縮比

3-9　シリンダー、シリンダーヘッドのクランクケースに対する向き

3-10　吸入、排気系統のシステム、バルブ数、ポート数、キャブレター数

3-11　クランクケースカバー類の材質・鋳造および形状

3-12　シリンダー（2サイクル）、シリンダーヘッド（4サイクル）のポートの形状、寸法
3-13　クランクシャフトアッセンブリー、ピストン
3-14　カムシャフト、バルブ、バルブスプリング、リードバルブアッセンブリー（リード単体含む）
3-15　(1) キャブレター　＊ただし4-2参照
(2) マニホールドタイプのフュエルインジェクションは公認車両に装備されているものに限り認められる。
3-16　フュエルタンク　＊ただし4-3参照
3-17　プライマリーギヤ　＊ただし4-5参照
3-18　ミッション　＊ただし4-6参照
3-19　4ストローク車のエアクリーナーボックス　＊ただし4-7参照
3-20　リヤホイール
3-21　リヤブレーキ関係　＊ただし4-8参照
3-22　フロントホイール
3-23　フロントブレーキ関係　＊ただし4-9参照
3-24　フレームボディ　＊ただし4-11参照
3-25　フロントフォーク　＊ただし4-12参照
3-26　(1) リヤフォーク　＊ただし4-13参照
(2) リヤサスペンション、サスペンションのシステム　＊ただし4-13参照
3-27　ステアリングステムを含むボトムブリッジ、トップブリッジ
3-28　ストリームライニング（カウリング・ウインドスクリーンを含む全てボディワーク。以下略す。）およびマッドガード（フェンダー）の外観形状（原則として取り外すことも認められない）。ストリームライニングには、いかなるものも追加されてはならない。＊ただし4-15参照

4 公認車両に対し下記事項の変更が出来るが、付則6ロードレース基本仕様には適合していることを条件とする
(3条で規制された項目の、部分的な規則緩和も含みます)

4-1　2ストロークエンジンにおいて、デトネーション現象からシリンダーを保護する目的の上面加工及び異金属のリング圧入（リングの断面は5㎜×5㎜程度）およびシリンダーヘッドへの異金属の挿入。ただし、この加工によりシリンダー・シリンダーヘッドの寸法、形状が変更されてはならない。（※シリンダーヘッドは寸法、形状の確認をする目的で登録制となっている。MFJ登録部品のみ使用できる）
4-2　(1) キャブレターのセッティング（取り外し可能なジェット、ニードル、スロットルバルブの範囲）
(2) エアファンネルの取り付け又は寸法の変更（キャブ本体は除く）
(3) リストリクターの取り付け
リストリクターは5㎜の区間に渡って最小断面積を確保するように処置されていなければならない。リストリクターの取り付け位置はキャブレターの混合気の通路内であれば自由とする。
(4) 公認キャブレターの使用（マグネシウム等高価素材のものは公認されない）
4-3　(1) フュエルタンクの給油口は改造変更出来るが位置は変えられない。
(2) フュエルパイプ、フュエルコックの変更
4-4　エキゾーストパイプ、マフラーの変更（但し音量規定に適合していること）

4-5　クラッチディスクの材質とスプリングの諸元

4-6　ミッションギヤのレシオ（但し公認部品に限られる）

4-7　(1)　２ストローク車両のエアクリーナーボックスの改造または取りはずしは許可される。

(2)　４ストローク車両のエアクリーナーボックスの改造は、下記条件の基に認められる。いずれの場合もクローズドシステム(ブローバイガスを直接大気へ放出しない)を維持していること。

①　公認キャブ取り付けのための改造（キャブ取り付け部分のみ）

②　口径φ100㎜相当（8,000㎟誤差10％）を最大とするエア吸入口の拡大

③　ボックス内部の切削、取りはずし

④　公認エアクリーナーボックスへの交換（改造は認められない）

(3)　ブローバイガスをエアクリーナーボックス内に導入する配管のための加工

(4)　エア吸入口の位置

①　エアファンネルの一番低い箇所（168頁の図Ａ参照）の水平線よりも上に位置すること。

②　吸入口がエアファンネルの一番低い箇所の水平線よりも下にある場合は、吸入口に至る吸入通路の底部の少なくとも一部分が、上記水平線の上に位置することを条件とする。

(5)　ブリーザーシステム

ブリーザーシステム(エアクリーナーボックスおよびその他のオイルキャッチタンク)は、ドレーンパイプが詰まった場合、合計で最低1,000ccの排出液を確保できる容量を持つこと。

4-8　リヤブレーキパッドの材質と油圧ホースの変更

4-9　フロントブレーキパッドの材質と油圧ホースの変更

4-10　タイヤは変更出来るがMFJ公認SP用タイヤに限られる。ウエット時はMFJ公認SP用レーシングレインタイヤの使用が認められる。

4-11　(1)　フレームボディーの不要なステー類のカット（但しフレームボディーの強度、剛性に全く影響を与えないこと）

(2)　車両公認時に装着されたステップは、突起物を取り外し車検長の許可を受ければ、その使用が認められる。

4-12　(1)　フロントサスペンションのスプリングの変更

(2)　フロントフォークの剛性アップの為のスタビライザーの取り付け

4-13　(1)　リヤサスペンションのスプリングの変更

(2)　スタンドブラケットの取り付け、および取り付けのための加工

(3)　リヤスプロケットガードの取り付け、および取り付けのための加工

4-14　ハンドルバーの変更

4-15　(1)　カウリングの材質（但しカーボン、ケブラー強化繊維等の高価素材を除く）

(2)　ラジエター、オイルクーラー等にエアーを取り入れるためのドリルによる穴開けは許可される。（直径10㎜以下に限る）

(3)　雨天時、寒冷時の追加カバー類は、以下の条件で許可される。

①　ライダーのナックル部分をカバーするもので、必要最小限のものである。

②　ストリームライニング（カウリング）と別構造で、取り外すことができる。

③　ハンドルバーの位置がどこにあっても、カバーとの間に最低20㎜の間隔がある。

(4)　フェアリング下部は、エンジン破損時にエンジンに使用されるエンジンオイルおよ

びエンジンクーラント総量の最低半分を保持できる構造とすることが望ましい。

4-16　(1) シートカウルの形状･材質(但しカーボン、ケブラー強化繊維等の高価素材を除く)の変更。

(2) マッドガード（フェンダー）は、タイヤのサイズ変更に合わせて位置を変えることが許可される。

4-17　公認ロードレースではMFJの定める無鉛ガソリンが使用されなくてはならない。
仕様の詳細はロードレース基本仕様3-17燃料、燃料／オイルの混合液（105頁）参照。
※大会特別規則により、ガソリンの銘柄および供給方法が指定された場合、これに従わなくてはならない。

4-18　すべての部品に関して調整・仕上げは認められる。
調整とは各部品の単品またはアッセンブリーコンプリートの状態で個々のまたは合計の公差内で意図的に選定すること（メタル合わせ、タペットクリアランス、点火時期等）をいう。
仕上げとは各部品の基準寸法内で表面粗度を向上させる作業をいう（コンロッドみがき、ピストンみがき、シリンダーヘッドの燃焼室みがき等）２サイクル、４サイクルともにポートについては、バリ取り、カーボン除去に限り認められる。
シリンダーポート、シリンダーヘッドポートにおけるバリとは以下のものを指す。
① 型合わせバリ　② シリンダー加工バリ（図参照）
「ポート内のザラつき」は鋳ハダと解釈し、切削、研磨は認められない。

4-19　(1) 不要なステー類（シートレールの一部含む）のカット。
(2) ゼッケンプレート、メーター、シート等の取り付けのためのステーの追加。

5 重　量

SPクラスの最低重量は下記のとおりとする（半乾燥重量）。

クラス	最低重量	クラス	最低重量
400	145kg	250F	130kg
250	115kg	125	95kg

注）半乾燥重量とは走行可能な状態から燃料を抜いた値とする。分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。
上記最低重量を満たすためにダミーウェイト（バランス）を装着することは認められる。

6 公認車両が下記事項に適合していない場合、改造・変更が義務づけられる

6-1　(1) キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

クラス	最大限サイズ	クラス	最大限サイズ
400	直径32㎜相当以下	250F	直径31㎜相当以下
250	直径32㎜相当以下	125	直径32㎜相当以下

注）キャブサイズとはキャブレターの吸入混合気通路の最小断面積部分の面積が上記サイズ相当以下であること。この場合、ジェットニードル、バタフライシャフト、バルブ、スロットバルブ等の形状、断面積は考慮されないものとする。マニホールドタイプのフュエルインジェクションへのキャブサイズ制限値も同様とする。

(2) 規制値を越えるキャブレター装着車両については公認キャブレターに交換するか、

リストリクターによって口径を調整しなければならない。

6-2 (1) フュエルタンクの給油口を改造した場合、ノンリターンバルブ付きのオーバーフローパイプとキャッチタンク（250cc以上）の取り付け。

(2) エレクトリックフュエルポンプを装備している場合は、転倒の際にただちにフューエルポンプが自動的に停止する装置を備えていなければならない。

6-3 ラジエターのオーバーフローパイプとキャッチタンクの取り付け（250cc）。

6-4 (1) エンジンブリーザーのキャッチタンク取り付け（容量は4サイクル車は500cc以上、2サイクルは250cc以上）。

(2) 4ストローク車両のキャッチタンクからのブローバイガスはエンジンに再吸入させること（107頁参照）。

6-5 エンジンキルスイッチの取り付け（ハンドルを握って操作可能な位置に取りつけなければならない）。

6-6 灯火器のレンズの処置また取り外し。

6-7 保安部品（スタンド、バックミラー、補助ステップ、ウインカー類）の取り外し。

6-8 エンジンのすべてのオイルドレンボルト、及び外部部品のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック。

7 いかなる場合も禁止される事項

7-1 改造・変更に当たって特殊な材料の使用（チタニウム合金、カーボン、ケブラー強化繊維等の高価な材料）（カーボンサイレンサーは完全禁止）。

7-2 リヤホイールスピンドル構造に軽合金の使用。

7-3 フロントホイールスピンドル構造に軽合金の使用。

7-4 タイヤへの追加工。

7-5 ステアリングダンパーのハンドルストッパーとしての使用。

7-6 ガソリンの仕様及び供給方法は制限される。（付則6ロードレース基本仕様3-17燃料、燃料／オイルの混合液の項105頁参照）

8 音量規定

FIM方式で測定し99dB/A以下であること。レース終了後は3dB/Aの誤差値が認められる。

9 互換性

フレーム打刻型式とエンジン打刻型式のいずれも同一のモデル内にあっては、一切の追加工なしで単品またはアッセンブリーで組みつけ可能な部品は相互に交換が認められる。

注）コンプリートマシンはベースマシンと型式が異なるが互換性が認められる。
（コンプリートマシンのベース機種の打刻型式に基づき判断される。）
'92年度までに公認を受けた車両は互換性の対象から外される。
（'92年度末を区切りとして、この前後にまたがった組合わせは禁止される）

付則14

耐久レースの追加仕様

(国内の各クラス)

ROAD RACE

1 クラス区分

一般生産車両をベースとしたMFJ公認車両で行われる。スーパーバイクはFIM公認車両とする。

2 出場車両

2-1　一般生産型車両でMFJが公認し、参加しようとする各クラスの仕様に適合していること。

2-2　ロードレースの基本仕様に合致していること。

2-3　耐久用の仕様を満たしていること。

3 重　量

それぞれの定められたスプリントレース用の最低重量に3kgを加えることとする。

灯火類の装備を義務づけられる耐久レースでは、定められたスプリント用の最低重量に5kgを加えられる。

4 耐久仕様

4-1　車両には確実に作動するスタート装置が装備されていなくてはならない。

4-2　(1) フュエルタンクは給油口を改造することは認められるが、位置は変えられない。

(2) 給油口は最大直径62.5㎜とし、2ヶ所取り付けが許可される。

(3) 最大容量を増やすための燃料タンクの改造は許されるが、サイドからの外観形状は変えられない。また、タンクの材質は車両公認時のものから変更できない。

(4) フュエルフィラーキャップをクイックフィルタイプに変更することが許可される。

SP400　18ℓ以下

SP250　18ℓ以下

ST600／SS600公認申請時の容量（許容誤差10%）

(5) 燃料は、マシンにしっかりと固定されたひとつのタンク内に入れられるものとする。シートタンク、および補助タンクは禁止される。すべての競技において給油のために簡単に脱着できる取り換えタンクを使用することは厳禁される。

4-3　(1) レースが夜間にかかる場合は公認された発電・充電装置を備えてあること。これらはレース期間中及びレース後の車検において正常に作動するものであること。

(2) 灯火器はヘッドライト、ストップランプは正常に作動すること。またエキストラのライトを追加することは認められる。

4-4　ホイールの交換を容易にするための改造は、各々クラスの改造範囲でなければならない。

4-5　ブレーキ廻りのメンテナンス性向上のための改造は、各々のクラスの改造範囲内でなけ

ればならない。

4-6　フロントマッドガードは、車両公認時のものでなければならない。但し耐久の場合、フロントマッドガードのマウント位置の変更は認められる。この場合充分安全を考慮しなければならず、柔軟な素材を使用してはならない。

4-7　ジャッキアップのための装置は一部をマシンに取りつけてもよいが、ストリームライニングから外側にあってはならず、レース期間中確実に固定されていること。これらはマシンの重量に含まれるものとする。

4-8　フロント／リヤホイールスタンドを取り付けるためのブラケットはフレーム、エンジンブロック又はリヤフォーク（スイングアーム）にボルト止めされなければならない。これをするためのフェアリングのカットは認められる。
但し、ブラケットとフェアリングのクリアランスは5mm以上なければならない。

4-9　ウィンドスクリーンの高さは自由とする。

付則15 国内GPクラスの仕様（地方選手権）

ROAD RACE

車両規則は選手権ごとに下表のように適用される。特に国内ライセンスでは地方選手権とエリア選手権の両方に出場できるので、仕様の違いに注意すること。

選手権ごとの車両規則の適用

選手権	ライセンス区分	適用される車両規則	参照頁
地方選手権	国内ライセンス(NAT)	国内ロードレースGPクラスの仕様（第　章）	頁～　頁
エリア選手権	国内ライセンス(NAT) 国際ライセンス(INT)	FIM規則01章GPフォーミュラの技術仕様	頁～　頁
全日本選手権	国際ライセンス(INT)	スーパーバイク規則(全日本選手権・エリア選手権へ適用)	

1 クラス区分

クラス	排気量範囲	最大限気筒数	最大限変速段数
50	～50以下	1	6
85	50を越え 85以下	1	6
125	100を越え125以下	1	6
250	175を越え250以下	2	6

2 出場車両

2-1　車両は市販レーサーまたは一般生産型車両でMFJが公認したもの。

2-2　車両は国内競技規則および付則６ロードレース基本仕様に示されているすべての条項に適合していること。

2-3　車両のリム幅（最大限リム幅）は下記のとおりとする。

クラス	最大幅
50	3.5インチ
85	3.5インチ
125	3.5インチ
250	5.5インチ

2-4　車両のキャブサイズは下記のとおりとする。

クラス	最大限サイズ
250	直径39㎜相当以下
125	直径39㎜相当以下

2-5　キャブサイズとはキャブレターの吸入混合気通路の最小断面積部分の面積が上記サイズ相当以下であること。この場合、ジェットニードル、バタフライシャフト、バルブ、スロットバルブ等の形状、断面積は考慮されないものとする。
マニホールドタイプのフュエルインジェクションへのキャブサイズ制限値も同様とする。

2-4-2　規制値を越えるキャブレター装着車両については公認キャブレターに交換するか、リストリクターによって口径を調整しなければならない。

3 下記事項は車両公認時の仕様の変更は認められない

（仕様の変更とはその部分の改造、変更、寸法の変更または取りはずしを言う）

3-1　エンジンの型式

3-2　シリンダーの数

3-3　ピストンストローク

3-4　クランケース
但し、切削による加工のみ認められる。

3-5　市販レーサーのシリンダー、シリンダーヘッド
但し、互換性対象部品であるため、10互換性を参照。

3-6　バルブ数、ポート数、キャブ数

3-7　キャブレター
但し、セッティング（取り外し可能なジェット、ニードル、スロットルバルブ）は可能。
また、互換性対象部品であるため、10互換性を参照

3-8　特殊な高価材質の使用（チタニウム合金）

3-9　市販レーサーのフレームボディ

3-10　一般市販車のフレームボディ
但し、補強及びフレームボディーの強度に全く影響を与えない場合の不要なステー類の取り外しは認められる。

3-11　市販レーサーのフロントフォーク
但し、フロントサスペンションのスプリングの変更は認められる。

3-12　市販レーサーのリヤフォーク及びサスペンションとリンク
但し、リヤフォークの補強とリヤサスペンションのスプリングの変更
　スタンドブラケットの取り付け及び取り付け目的の加工
　リヤスプロケットガードの取り付け及び取り付けのための加工
は認められる。また、互換性対象部品であるため、10互換性を参照。

4 基本仕様に適合していることを条件に下記事項の変更が認められる

（3条で規制された項目の、部分的な規制緩和も含む）

4-1　クランクケースの切削による加工

4-2　シリンダー

4-2-1　シリンダーの切削によるポートタイミングとポートエリアの変更。

4-2-2　シリンダーヘッドの切削による圧縮化、燃焼室の形状変更。

4-2-3　2ストロークエンジンにおいて、デトネーション現象からシリンダーを保護する目的の上面加工及び異金属のリング圧入（断面は5㎜×5㎜程度）。ただし、この加工によりシリンダーの寸法、形状が変更されてはならない。

4-3　すべての部品に関して調整・仕上げは認められる。
調整とは各部品の単品またはアッセンブリーコンプリートの状態で個々のまたは合計の公差内で意図的に選定すること（メタル合わせ、タペットクリアランス、点火時期等）
仕上げとは各部品の基準粗度を向上させる作業をいう（ポートみがき、コンロッドみが

き、燃焼室みがき等）

4-4　フレームボディとリヤフォークを除き、軽量化の為の改造はできるが、最低重量以上であること。

5 燃料、燃料／オイルの混合液

5-1　すべての車両にはMFJの定める無鉛ガソリンを使用しなくてはならない。（AVガス・航空機用燃料の使用は禁止される）

5-2　競技に使用できるガソリン

競技に使用できるガソリンは下記の項目のすべてに合致していなくてはならない。

① 競技用ガソリンとは一般公道用の市販車に供するために通常のガソリンスタンドにて購入できるもの、あるいはMFJ公認サーキットのガソリンスタンドにて購入できるガソリンとする。

② 競技用ガソリンは下記のMFJの定める仕様以内（無鉛ガソリン）に制限される。（AVガス、航空機用ガソリン等は使用できない）

鉛の含有量は0.013 g/l以下であること。

リサーチオクタン価が100.0（RON）、モーターオクタン価が89.0（MON）以下であること。

密度は15℃において0.725 g/ml～0.780 g/mlであること。

③ 競技用ガソリンには販売時に混入されている以外のいかなるものも添加されてはならない。ただし一般に販売されているスタンダードの潤滑油および1.5%以下のアルコール（燃料精製中に混入されているものに限る）については認められる。

④ 水冷エンジンの冷却水は、水あるいは水とアルコールの混合物に限られる。

5-3　大会特別規則により、ガソリンの銘柄および供給方法が指定される場合、それに従わなくてはならない。

6 重　量

6-1　最低重量は下記のとおりとする（半乾燥重量）。

クラス	最低重量
50	70kg
85	70kg
125	70kg
250	100kg

注）半乾燥重量とは走行可能な状態から燃料を抜いた値とする。
分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。
左記重量を満たすために、バラストを追加することは認められない。

7 公認車両が下記事項に適合していない場合、改造変更が義務付けられる

7-1　キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

クラス	最大限サイズ
250	直径39㎜相当以下
125	直径39㎜相当以下

7-2　フュエルタンクの給油口を改造した場合、ノンリターンバルブ付きのオーバーフローパイプとキャッチタンク（250cc以上）の取り付け。

7-3　エレクトリック・フュルポンプを装備している場合は転倒の際にただちにフュエルポンプが自動的に停止する装置を備えていなければならない。

7-4　ラジエーターのオーバーフローパイプとキャッチタンクの取り付け（250cc以上）。

7-5　ギヤボックスからのブリーザーキャッチタンク（250cc以上）。

7-6　エンジンキルスイッチの取り付け（ハンドルを握って操作可能な位置に）。
7-7　灯火器のレンズの処理または取り外し。
7-8　保安部品の取りはずし。
7-9　すべてのオイルドレンボルト及び外部のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック。

8 いかなる場合も禁止される事項

8-1　改造変更にあたって特殊な材料の使用（チタニウム合金）
8-2　リヤホイールスピンドル構造に軽合金の使用
8-3　フロントホイールスピンドル構造に軽合金の使用
8-4　ステアリングダンパーのハンドルストッパーとしての使用
8-5　ガソリンの仕様及び供給方法は制限される。（付則６ロードレース基本仕様3-17燃料、燃料／オイルの混合液の項105頁参照）
8-6　カーボンブレーキ及びカーボンホイールの使用は認められない。

9 音量規定

9-1　FIM方式で測定し105dB/A以下のこと。
9-2　２サイクルは13m/sec、４サイクルは11m/secのピストンスピードとする。
9-3　レース終了後は３dB/Aの誤差値が認められる。

10 互換性

10-1　フレームの打刻型式とエンジン打刻型式のいずれも同一のモデル内にあっては一切の追加工なしで単品またはアッセンブリーで組みつけ可能な部品は相互の交換が認められる。
10-1　注）コンプリートマシンはベースマシンと型式が異なるが互換性が認められる。
（コンプリートマシンのベース機種の打刻型式に基づき判断される）
10-2　下記の部品は同一メーカー同士でかつ公認車両であれば流用することが出来る。
(1)　ミッションアッセンブリーまたは単品
(2)　フロントフォークアッセンブリーまたは単品
(3)　リヤサスペンションユニットおよびリンク関係
(4)　リヤフォーク
(5)　キャブレター
(6)　シリンダー
(7)　シリンダーヘッド
10-3　公認部品として下記の部品またはアッセンブリーが認められる。
(1)　フロントフォークアッセンブリーまたは部品
(2)　リヤサスペンションユニット、アッセンブリーまたは部品
(3)　リヤフォーク
(4)　キャブレター
(5)　シリンダー
(6)　シリンダーヘッド
注）部品公認申請条件を満たしていること。

付則16 ジュニアクラスの仕様

ROAD RACE

1 クラス区分

カテゴリー	クラス	排気量範囲	最大限気筒数	最大限変速段数
SP（スーパープロダクション）	50	～50以下	1	6
	85	50を越え85以下	1	6
GP	50	～50以下	1	6
	85	50を越え85以下	1	6

2 出場車両

1-1　車両は市販レーサーまたは一般生産型車両でMFJが公認したもの。または一般生産型車両をベースとしたSP用コンプリートマシンとしてMFJが公認したもの。

1-2　車両は国内競技規則及び付則6ロードレース基本仕様に示されているすべての条項に適合していること。

1-3　ホイールリム直径が16インチ以上で、85cc以下の二輪車。

3 公認車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない

（仕様の変更とはその部品の改造、変更、取りはずしをいう）

3-1　エンジンの型式

3-2　シリンダーの数

3-3　ピストンストローク

3-4　シリンダー（スリーブ及びライナーを含む）、シリンダーヘッド、クランクケース、ギヤボックスの材質、鋳造および形状

3-5　クラッチの構造

3-6　エンジン内部の部品の材質及び寸法形状

3-7　4ストロークエンジンのバルブの径、バルブのリフト量、バルブタイミング及び圧縮比

3-8　2ストロークエンジンのシリンダー、ピストンによるポートタイミング、ポートサイズ、一次、二次圧縮比

3-9　シリンダー、シリンダーヘッドのクランクケースに対する向き

3-10　吸入、排気系統のシステム、バルブの数、ポートの数、キャブレターの数

3-11　クランクケースカバー類の材質、鋳造、及び形状

3-12　2ストロークのシリンダー、4ストロークのシリンダーヘッドのポートの寸法、形状

3-13　クランクシャフトアッセンブリー、ピストンの材質、寸法、形状

3-14　カムシャフト、バルブ、バルブスプリング、リードバルブアッセンブリーの材質、形状、寸法

3-15　キャブレター　＊ただし4-1及び6-1参照
3-16　フュエルタンク
3-17　プライマリーギヤのレシオ、及び寸法形状　＊ただし4-2参照
3-18　ミッションギヤのレシオ、及び寸法形状
3-19　リヤホイール
3-20　リヤブレーキ関係　＊ただし4-5参照
3-21　フロントホイール
3-22　フロントブレーキ関係　＊ただし4-6参照
3-23　タイヤ　＊ただし4-13参照
3-24　フレームボディ　＊ただし4-12参照
3-25　フロントフォーク　＊ただし4-7参照
3-26　リヤフォーク、リヤクッション、リヤクッションリンケージ
3-27　ステアリングステム、トップ、ボトムブリッジ　＊ただし4-8参照
3-28　フェアリングの形状　＊ただし4-9参照

4 公認車両に対し下記事項の変更が出来るが、付則6ロードレース基本仕様には適合していることを条件とする
（3条で規制された項目の、部分的な規則緩和も含みます）

4-1　キャブレターのセッティング、（取り外し可能なジェット、ニードル、スロットルバルブの範囲）エアーファンネルの取り付け、または寸法の変更。（キャブ本体を除く）
4-2　クラッチディスクの材質とスプリングの諸元
4-3　スタート装置の取り外し
4-4　エアクリーナーボックスの改造
4-5　リヤブレーキパッドの材質と油圧ホースの変更
4-6　フロントブレーキパッドの材質と油圧ホースの変更
4-7　フロントサスペンションセッティングのためのオイル交換、セット荷重調整
4-8　ステアリングダンパーの取り付け
4-9　カウリングの材質（但しカーボン、ケブラー等高価素材は除く）
4-10　シートカウルの形状、材質（但しカーボン、ケブラー等高価素材は除く）
4-11　すべての部品についての調整・仕上げは自由である。
4-12　不要なステー類のカットは可（但し軽量化目的の材料は除く）
4-13　ホイールリムのサイズは直径16インチ以上とし、タイヤはメーカーのラインで装着されている50/85ccクラスの一般公道用タイヤとする。

クラス	最大幅フロント	最大幅フロント
50（SP、GP）	2.15インチ	2.75インチ
85（SP、GP）	2.15インチ	2.75インチ

5 重　量

クラス		最低限重量
SP	50	77kg
	85	79kg
GP	50	77kg
	85	79kg

最低限重量は半乾燥重量とする。
半乾燥重量とは走行可能状態からガソリンを抜いた値とする。
分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。
左記重量を満たすために、バラストを追加することは認められない。

6 公認車両が下記事項に適合していない場合改造変更が義務づけられる

6-1　キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

6-1-1

クラス	最大限サイズ
50（SP、GP）	直径18㎜相当以下
85（SP、GP）	直径28㎜相当以下

6-1-2　規制を越えるキャブレター装着車は公認キャブで、かつ規制以下のキャブレターに交換すること。

6-2　電動式フュエルポンプを装着している車両は、転倒時に自動的に停止する装置を備えていること。

6-3　ラジエターのオーバーフローパイプとキャッチタンクの取り付け（250cc以上）

6-4　エンジンブリーザーのキャッチタンクの取り付け（４ストローク車は500cc以上、２サイクルのギヤボックスからのブリーザー250cc以上）
４ストローク車のキャッチタンクからのブローバイガスはエンジンに再吸入させること。

6-5　エンジンキルスイッチの取り付け（ハンドルを握って操作可能な位置にとりつけなくてはならない。）

6-6　灯火器のレンズの処置または取り外し。

6-7　保安部品の取りはずし（スタンド、バックミラー、補助ステップ、ウインカー類。）

6-8　エンジンのすべてのオイルドレンボルト、及び外部のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック。

7 いかなる場合も禁止される事項

7-1　改造・変更に当たって特殊な材料の使用（チタン合金、カーボン、ケブラー強化繊維等の高価な材料）（カーボンサイレンサーも完全禁止）

7-2　リヤホイールスピンドル構造に軽合金の使用

7-3　タイヤへの追加工

7-4　ステアリングダンパーを取りつけた場合、ハンドル切れ角のストッパーとしての使用。

7-5　ガソリンの仕様及び供給方法は制限される。（燃料、燃料／オイルの混合液の項105頁参照）

8 音量規定

8-1　FIM方式で測定し99dB/A以下であること。

8-1　レース終了後は３dB/Aの誤差値が認められる。

9 互換性

フレーム打刻型式とエンジン打刻型式が同一のモデル内にあっては一切の追加工なしで単品またはアッセンブリーで組みつけ可能な部品は相互に交換が認められるが、'93年１月１日以降の公認車両同士に限られる。

注）コンプリートマシンはベースマシンと型式が異なるが互換性が認められる。
（コンプリートマシンのベース機構の打刻型式に基づき判断される。）

付則17 ミニバイクの仕様

1 クラス区分

クラス	排気量範囲	2ストローク	4ストローク	最大限気筒数	最大限変速段数
N5（スクーター50cc一部改造）	50cc以下	○	○	1	6
S5（スポーツバイク50cc一部改造）	50cc以下	○	○	1	6
S8（スポーツバイク85cc一部改造）	50ccを越え85cc以下	○	○	1	6

2 出場車両

車両は（市販レーサーを除く）一般生産型車両で、MFJが公認したもの。

3 公認車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない

（仕様の変更とはその部品の改造、変更または取り外しをいう）

1） エンジンの型式。
2） シリンダーの数
3） ピストンストローク。
4） シリンダー（スリーブ及びライナー含む）、シリンダーヘッド、クランクケース、ギヤボックスの材質・鋳造及び形状。
5） クラッチの構造（但しディスクの材質とスプリングは除く）。
6） エンジン内部の部品の材質。
7） 4ストローク車のバルブの径、リフト、タイミング及び圧縮比。
8） 2ストローク車のシリンダーピストンに依るポートタイミング、ポートサイズ、一次、二次の圧縮比。
9） シリンダー、シリンダーヘッドのクランクケースに対する向き。
10） 吸入、排気系統のシステム、バルブ数、ポート数、キャブレター数。
11） クランクケースカバー類の材質・鋳造および、形状。
12） シリンダー、シリンダーヘッド。
13） クランクシャフトアッセンブリー、ピストン。
14） カムシャフト、バルブ、バルブスプリング、リードバルブアッセンブリー。
15） キャブレター（メインジェットのみ変更可）。
16） フュエルタンク。
17） プライマリーギヤ。
18） ミッション。

19) ブリーザーシステム。
20) リヤホイール。
21) リヤブレーキ関係。
22) フロントホイール。
23) フロントブレーキ関係。
24) フレームボディ。
25) フロントフォーク。
26) (1) リヤフォーク。
(2) リヤサスペンション。
27) ステアリングステムを含むボトムブリッジ、トップブリッジ。
28) ストリームライニング。

4 公認車両に対して下記事項の変更が出来るが、付則6ロードレース基本仕様に適合していることを条件とする

1) (1) キャブレターのメインジェットの変更は可。
(2) ゼッケンプレート、メーター、シート等の取り付けのためのステーの追加ができる。
2) イグニッションコイル、点火ユニット、リミッターの改造・変更は可。
3) プラグの変更は可。
4) スピードメーターの取りはずしは可。
5) チェーンの変更は可。
6) スプロケットの変更は可。
7) タイヤ
一般市販され通常ルートで購入出来るもののみ交換は可。ただし、スリックタイヤ（インターミディエイト含む）および摩耗限度を越えたタイヤの使用は禁止。

5 公認車両が下記事項に適合していない場合改造変更が義務づけられる

1) エンジンキルスイッチの取り付け（ハンドルを握って操作可能な位置に）
2) 灯火器のレンズの処置または取り外し
3) 保安部品（スタンド、バックミラー、補助ステップ、ウインカー類）の取り外し
4) すべてのオイルドレンボルト、及び外部のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック

6 いかなる場合も禁止される事項

1) 改造・変更に当たって特殊な材料の使用（チタニウム合金、カーボン強化繊維等の高価な材料）
2) リヤホイールスピンドル構造に軽合金を使用してはならない。
3) フロントホイールスピンドル構造に軽合金を使用してはならない。
4) タイヤへの追加工
5) ステアリングダンパーを取りつけた場合、ハンドル切れ角のストッパーとしてはならない。
6) ガソリンは通常のスタンドで購入できるか各サーキットのスタンドで購入できるMFJの定める無鉛ガスに限る。

6 音量規定

FIM方式で測定し99dB/A以下であること。
レース終了後は3 dB/Aの誤差値が認められる。

7 互換性

フレーム打刻型式とエンジン打刻型式が同一のモデル内にあっては一切の追加工なしで単品またはアッセンブリーで組みつけ可能な部品は相互に交換が認められる。
'92年度までに公認を受けた車両は互換性の対象から外される。
（'93年1月1日以降の公認車両同士に限られる）

モーターサイクルスポーツのメンタルパーツ

RIDER'Sビック保障プラン

平成12年5月～
またまた保険料が
安くなりました

1 無配当新定期保険 (災害入院特約・疾病入院 手術特約付)

給付金の種類	支払事由	給付金額
災害入院給付金 [入院日額 ×[入院日数－4日]] 1入院120日、通算700日限度	災害で5日以上 継続入院したとき	日額 5,000円
疾病入院給付金 [入院日額 ×[入院日数－4日]] 1入院120日、通算700日限度	疾病で5日以上 継続入院したとき	日額 5,000円
手術給付金 手術に応じて [入院日額の50・30・15倍]	災害または疾病で 所定の手術を受けたとき	手術種類により 25・15・7.5万円
災害死亡 高度障害保険金	災害によって死亡 所定の高度障害のとき	500万円
疾病死亡 高度障害保険金	疾病によって死亡 所定の高度障害のとき	500万円

■月払保険料表【抜粋】 【集団扱い・特約保険料含む】

年齢	男性	女性	年齢	男性	女性
5才	1,560円	1,460円	30才	2,475円	2,220円
10才	1,785円	1,560円	35才	2,800円	2,475円
15才	2,125円	1,760円	40才	3,400円	2,905円
20才	2,260円	1,925円	45才	4,275円	3,495円
25才	2,325円	2,065円	50才	5,650円	4,225円

2 資料請求について

■お気軽にお電話で資料請求ください。
●9:30～16:00 (土曜/日曜/祝祭日を除く)

FreeDial **0120-893104**
MFJ保険事務局（直通）

045-225-5271
アクサニチダン生命(株) 財日本モーターサイクルスポーツ協会担当まで

■おハガキで資料請求する場合は下記要領で

■資料請求■
●〒 ●住所 (フリガナ)
●氏名 (フリガナ) ●性別
●電話 ●生年月日
●ライセンス番号
●追加の場合は
証券番号

50 104-0045
東京都 中央区
築地 2-11-24
第29興和ビル 別館
財団法人
日本モーターサイクル
スポーツ協会 内
ライダースビック保障プラン
保険事務局 係

■ご契約の際には「ご契約のしおり・約款」・パンフレットを必ずご覧下さい。
■ご職業・既契約・既往症・地域などによってはご契約が出来ない場合があります。
■このプランは【満期金】【配当金】がない掛捨型の生命保険です。
■加入年齢は 5歳～55歳。医師の診断などはない【告知扱い（書類診査）】です。
■保険料は抜粋です。ご契約時点の年齢で1才きざみで保険料は異なります。
■保障期間は【保険期間10年・自動継続型・主契約85才・特約80才】です。
■保険料は一般契約よりも割安な【集団割引・月払保険料】です。
■引受保険会社 アクサ ニチダン生命保険 株式会社

3 RIDER'Sビック保障プラン Q&A

Q 1.趣味としてモーターサイクル・スポーツを楽しんでいますが？

もち論、保障します。
ロードレース・モトクロス・トライアル・スノーモビル・ドラッグレース エンデューロなどモーターサイクルスポーツ中（練習・予選・決勝を含む）に発生したケガ／死亡を国内／海外と場所地域を問わず保障します。
また、海岸・河川敷・林道など一般公道以外で発生した事故もＯＫです。
さらに【一般公道上の交通事故】【スキー、ダイビング等レジャー中の事故】【仕事中の労災事故】そして【病気】【成人病】【ガン】までも保障します。
誠にオールマイティな保障を重点においた保険です。
つまり、モーターサイクルスポーツシーンを含み、キミの生活を24時間にわたり一般には加入出来ない割安な保険料で保障する素晴らしい保険です。

※参考 一般の傷害保険（交通傷害保険・傷害保険等）は「危険なスポーツでの傷害事故は免責（保障対象外）」と約款（契約上の取り決め）で定めています。つまり、モーターサイクルスポーツは一般的傷害保険では「危険なスポーツ」とされ保障されません。ご注意下さい。

Q 2.申込締切日と保障開始日とその支払方法は？

■申込書の締切日は 毎月1日
事務局から保険会社へ提出する締切日が毎月1日。
事務局には毎月20日ごろまでご返送下さい。
■保障の開始日は 翌々月の1日～
■保険料は 第一回目から安心確実な口座自動振替

Q 3.通院や自宅で療養中の場合は保障されますか？

残念ながら、通院・整骨・療養は保障の対象外です。
また、たとえ入院であっても人間ドックなど検査を目的とする入院や出産（異常出産は適用）も保障の対象外です。つまり治療入院が対象です。

Q 4.現在ケガで通院中ですが、このプランに加入出来ますか？

残念ですがご契約出来ません。契約する時点が（健康な方）が条件です。
ケガをしっかり治したあとにお申し込み下さい。
なお、現在リハビリ中の方、骨折されてギプス/プレート/針金等で固定中の方、また医師の指導/指示をうけ薬を服用中の方、病気などで定期検査を指示されている方、また妊娠中の女性の方も同様に申込み出来ません。
また、ご職業・既往症などによってもお申し込みが出来ない場合もありますのでお問い合わせください。
「備えあれば、憂いなし」ということわざがあります。保険も重要なパーツです。マシンとともにメンタル部分もチューンナップが必要。
是非、ナニかが起こる前に、ご加入する事をおすすめします。

Q 5.モーターサイクルスポーツ中の保障を具体的に教えてください？

お支払例
●大腿骨骨折で90日入院。接合手術あり（抜釘手術含む）の場合。

災害入院給付金	430,000円 [5,000円×（90日間－4日間）]
手術給付金 [給付倍率15倍]	75,000円 [5,000円×15倍]
お支払い合計	505,000円

1事故ないし1入院のお支払対象期間は120日が限度です。
保険期間中の通算日数はケガ・病気とも700日間、計1400日間を保障致します。

Q 6.加入資格、またモーターサイクルスポーツを卒業された場合は？

このプランは、財団法人、日本モーターサイクルスポーツ協会に登録された会員の方、またその家族に限り加入することが出来ます。
保険料は一般に契約するよりも割安な集団割引を適用した団体保険です。
契約後、モーターサイクルスポーツをご卒業されたとしても、MFJメンバーズサービスとしてそのままの保険料で継続いたしますので大丈夫。
なお保険期間は10年間。さらに自動継続制度で終期85歳（特約80歳）まで保障。継続時がたとえ傷病中であってもその時点の年齢別保険料で自動継続しますので安心です。

Q 7.保障の額を引き上げたいのですが？追加契約が出来ますか？

朗報 まずはこのプラン【無配当新定期保険】に1口ご加入ください。
ご成約後、無事故／無疾病6カ月経過後にもう1口追加加入が可能です。
つまり保障を2倍に引き上げる事も可能ですのでご利用ください。
また、その時点で入院重視プラン【医療保険】も選択が可能となります。
自分にあった保険内容を自分で組み立てる事が可能ですのでご気軽にご用命下さい。

すでに契約されている方も追加OK

MFJ 会員の皆様へ

RIDER'Sビック保障プランは【安い保険料】
【幅広い保障】でキミのレーシングライフを
24時間体制でサポートいたします。

2002年 2輪ロードレースカレンダー

2001.12.1時点（本カレンダーは変更になる場合があります）

		開催クラス																				
		承認競技								地方選手権				エリア選手権				全日本選手権				参加申込期間
ライセンス区分		運・F・N	運・L～I	N・I	J～I	F・N	J～N	J～I	J～N	F・N	J～N	N	F・N	N・I				I	スーパーライセンス（I）			
名称	開催日	DAYS OF NUMBER	ミニ50	オープン	F-NK	NK4	ノーマル250	S8	MH80	SP250 SP400	GP125	GP250	ST600	ST600	GP125	GP250	SB/S-NK/SP1000	ST600	GP125	GP250	SB/S-NK/SP1000	
第1戦	2月24日	1/14					●	●—	—●	●	●		●			●	●					1/21（月）～1/28（月）
第2戦 TIフレッシュマン[illegible]	3月24日				●—	—●						●			●							2/18（月）～2/25（月）
第3戦 &耐久フェスティバル	4月28・29日	4/28		3H耐久	2H耐久	2H耐久	2H耐久	●—	—●	●			●		●							3/24（日）～4/1（月）
第4戦	6月2日		● [illegible]		●—	—●	●			●	●	●					●					4/26（金）～5/7（火）
第5戦	6月30日			●				●—	—●		●	●	●	●								5/27（月）～6/3（月）
第6戦	8月11日	8/15	90分耐久				●	●—	—●						●	●						7/8（月）～7/15（月）
第7戦	9月22日			100マイル耐久	●—	—●				●	●	●	●									8/19（月）～8/26（月）
TI[illegible]	10月19・20日	10/19																●	●	●	●	9/10（火）～9/19（木）
第8戦	11月10日			●	●—	—●	●				●			●		●	●					10/7（月）～10/15（月）
第9戦	12月8日						●	●—	—●	●		●	●									11/5（火）～11/12（火）
開催回数		4	2	4	5	5	6	5	5	5	5	5	5	2	3	3	3	1	1	1	1	

※●・・・・スプリントレース　●—●・・・混走レース　※ライセンス区分略称　◆I……国際　◆N……国内　◆F……フレッシュマン　◆J……ジュニア　◆L……Lライセンス　◆運……運転免許証
※ウエストエリア選手権は上記以外に鈴鹿サーキットにて開催されます。（詳細は鈴鹿サーキットまで）

■ARC入会のご案内

ARC（アイダレーシングクラブ）は、モータースポーツへの参加を希望する全ての方を対象とし、楽しくTIサーキット英田でのスポーツ走行をしていただくクラブです。

●入会資格
満12歳以上で、普通自動2輪免許もしくは、MFJロードレース競技ライセンス所持者と同等の運転技量をお持ちの方。
（未成年の場合は、親権者の承諾が必要です）

●講習会スケジュール
基本的に毎日開講しておりますのでご希望の日程をあらかじめお電話にてご予約ください。当日のスケジュールは講義、実技走行の約半日となります。

●当日ご用意して頂くもの
●入会費用　¥39,000（税別）　●運転免許証
●印鑑 ●顔写真　2枚　●競技ライセンス（取得者のみ）
●実技走行に必要な車両・装備
（ヘルメット・レーシングスーツ・グローブ・ブーツ）

■サンデーライダーズミーティング（SRM）

「TIロードレース選手権」およびモトルネッサンス、ストリートカフェ時に開催するライセンス不要の2輪走行会
●参加車両　排気量250cc以上のナンバー付バイク（レース車両は不可）
●参加資格　参加するバイクを運転できる免許証を所持していること
●装備　革ツナギ、フルフェイスヘルメット、グローブ、ブーツ着用
●参加料金　¥8,000（レース観戦料、保険料込み）
●申し込み　電話一本でOK
※併せてサーキットクルーズ（先導車付体験走行）も実施しています。

■TIキッズバイク

5才以上の自転車に乗れるお子様対象のバイク体感走行会。子供用オフロードバイク「ヤマハPW50」、ヘルメット、プロテクター等のレンタルも料金に含まれます。
料金:3,000円／1日（税込）　※モトルネッサンス、ストリートカフェ時に開催

TI POWER STATION

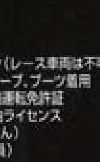
ダイノマシンによる2輪&4輪エンジンパワーチェック
シャシーダイナモによるパワー測定。マシンの最高出力、出力特性がグラフで一目瞭然。ビッグバイクはもちろんのこと、ミニ50ccでも測定可能です。
●2輪:3,000円～、4輪:6,000円～
（セッティング等の内容により別途料金となります）

DAYS OF NUMBER

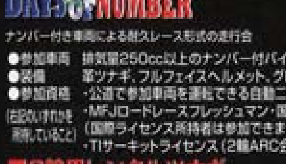
ナンバー付き車両による耐久レース形式の走行会
●参加車両　排気量250cc以上のナンバー付バイク（レース車両は不可）
●装備　革ツナギ、フルフェイスヘルメット、グローブ、ブーツ着用
●参加資格（右記のいずれかを所持していること）
・公道で参加車両を運転できる自動二輪運転免許証
・MFJロードレースフレッシュマン・国内ライセンス（国際ライセンス所持者は参加できません）
・TIサーキットライセンス（2輪ARC会員）

■2輪用レンタルツナギ

サンデーライダーズミーティングや各種イベント走行会など、サーキット走行の機会はあるけれど、ツナギを買ってまではどうも…という方に。信頼あるテグナー製レーシングスーツを使用。サイズはM～LL、すべてワイドサイズです。
料金:3,000円／1日（税込）
※数には限りがありますので、事前にお問い合わせ下さい。
※レースでの使用は出来ませんので、予めご了承下さい。



■交通アクセスのご案内



●山陽自動車道
和気ICより 約25km
備前ICより 約25km
●中国自動車道
美作ICより 約25km

●お問合わせ・お申込み先
INTERNATIONAL RACING COURSE
TI Circuit AIDA
http://www.ti-circuit.co.jp
〒701-2612 岡山県英田郡英田町滝宮1210　TEL:0868-74-3311 FAX:0868-74-2600

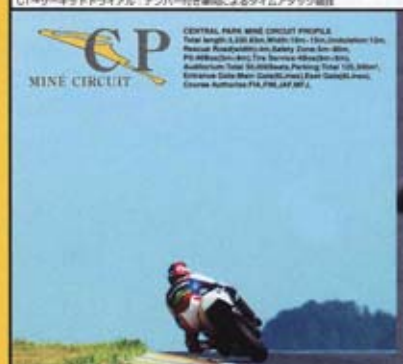
CP MINÉ CIRCUIT

2002 CP MINÉ サーキット ロードレース暫定カレンダー

※このカレンダーは、追加・変更になる場合があります。

		サウスエリア選手権				MINE選手権(仮称)			西日本選手権			承認レース	承認行事
	ライセンス区分	I/N				I			N			F〜I	運以上
開催日	レース名	GP250	GP125	SB	ST600	GP250	GP125	ST600	GP250	GP125	ST600	モトバスター	CT
3/3	サウスエリア選手権／西日本選手権第1戦	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○		
4/13〜14	全日本ロードレース選手権第1戦												
6/2	西日本選手権第2戦／モトバスター					○	○	○	○	○	○	○	○
9/1	西日本選手権第3戦／モトバスター						○	○	○	○	○	○	○
9/22〜23	全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第8戦	●				○							
10/13	MFJ承認モトバスター4H OPEN耐久フェスティバル												○
11/17	サウスエリア選手権第6戦	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○		

MINE選手権（仮称）のGは、エリア選手権とのダブルタイトルです。
CT…サーキットトライアル：ナンバー付き車両によるタイムアタック競技



スポーツ走行ライセンスのご案内

レース界でトップを目指す人、愛車で楽しみたい人、スタイルは違えどサーキットを走行するためのライセンスです。
ライセンスの取得は、講義と実走行で半日の講習会参加でOKです。

講習会開催日：レースイベントのない土日祝日
取得費用：39,900円（税込）
受講方法：受講日を電話予約して下さい。

当日必要な物：運転免許証、競技ライセンス（以上お持ちの方のみ）、印鑑、顔写真2枚、実技走行に必要な車両、皮ツナギ、ヘルメット、グラブ、ブーツ

体験走行のご案内

CP MINÉサーキットは、どんなコースなのか自分の車、バイクで気軽に体験いただけます。
レースイベント開催日を除く毎日12時すぎから実施中。

料金：1台1,500円（2輪・4輪）
受付：当日9時〜12時
内容：ペースカーの先導によりレーシングコース（約3.3km）を2周いたします。

◆宇部空港より　30分　◆福岡空港より　80分
◆新幹線小倉駅より 35分　◆新幹線厚狭駅より 15分　◆広島より　100分
◆美祢西 I.C（中国自動車道）より 5分

セントラルパークMINÉサーキット

〒759-2152　山口県美祢市西厚保町　Tel.0837-58-0321（代）　Fax.0837-58-0323
通常営業時間　8:30〜17:30　毎週火曜日定休
http://www.cp-mine.co.jp/

確かな技術には、精密な裏づけがある。

泌尿器科
形成外科
性病科

東京上野クリニック

●当院は予約制です。秘密は完全に厳守します。●手術後も安心できる生涯無料保証システムを完備。●男性スタッフが全て対応します。●相談・受付は24時間、電話にて対応いたします。●診療時間は、朝10時から夜8時までの年中無休です。●小冊子「手術のいろいろ」は無料で送付いたします。※小冊子のご請求は、0120-087-008までお申し込みください。（クリニックの名前を伏せて別の名前で発送しますので、ご安心ください。）

ご紹介できる全国の上野クリニック一覧

札　幌 011-252-6000

中央区北4条西2 アイビル4F

仙　台 022-723-3000

青葉区中央1-6-27 仙信ビル7F

新　潟 025-241-4000

新潟市花園1-4-6 柳都ビル2F

大　宮 048-642-1000

さいたま市宮町2-11 ハシモトビル7F

東　京 03-3274-4000

中央区八重洲1-8-16 新槇町ビル14F

上　野 03-3876-7000

台東区根岸1-8-18 高松ビル4F

渋　谷 03-5784-3000

渋谷区宇田川町33-8 東田ビル7F

新　宿 03-3343-4000

新宿区西新宿1-3-15 坂本ビル7F

横　浜 045-323-5000

西区北幸2-10-50 北幸山田ビル2F

千　葉 043-221-8000

中央区富士見1-2-11 勝山ビル6F

浜　松 053-452-6000

浜松市鍛冶町140-3イズムハママツビル5F

名古屋 052-562-5000

中村区名駅3-26-21 新香取ビル6F

京　都 075-352-5000

下京区烏丸通北小路上る北小路町550クリスタル烏丸ビル5F

大阪北 06-6456-3000

北区梅田1-2 駅前第2ビル2F

大阪南 06-6634-3000

中央区難波3-5-11 東亜ビル8F

岡　山 086-224-9000

岡山市本町6-36 第一セントラルビル3F

福　岡 092-415-6000

博多区博多駅東1-12-7 第13岡部ビル2F

鹿児島 099-812-3800

鹿児島市中央町3-26 西駅M.Nビル5F

24時間直接電話相談
携帯・PHSからもご利用できます
男の悩みに男性カウンセラーが直接お答えいたします。
0120-508-550

メンズ総合案内
携帯・PHSからもご利用できます
男の悩み情報・小冊子の請求 などご案内しています。
0120-087-008

メール相談もできる男のHP **http://www.ueno.co.jp**
携帯アドレス **http://www.ueno-c.com**

東京上野クリニックはモータースポーツを心より応援しています。

Nasu
MOTOR SPORTS LAND

For All the People
Who Love Nature and Motor Sports

Relishing nature and taking delight in motor sports...
That will bring the infinite power of passion,
and open the doo

2002年度　那須MSL主催２輪レース予定

①4月7日　②7月21日　③9月1日　④11月10日

開催クラスは
ただいま調整中です。
（01年11月現在）

ナンバー付クラス、旧車／絶版車クラス、小排気量のスペシャルクラスなどビギナーからベテラン、エキスパートにいたるまで皆様に楽しんで頂けるよう企画中です。

上記以外にも多くのイベントを予定しております。最新情報を下記の那須MSLホームページその他でご確認ください。

mosla
NASU MOTOR SPORTS LAND CLUB

モスラクラブ会員募集中!

サーキットライセンスの取得・継続がしやすくなりました。
年会費　¥3,000
講習料　¥3,000
ただ今入会・更新受付中!

NASU MOTOR SPORTS LAND
栃木県黒磯市寺子字坂の上677 〒325-0011
TEL.0287(63)7300(代)　FAX.0287(63)7301
http://www.acekogyo.co.jp

ダートクールってモトクロスにもかなり詳しい

隔月刊
モトクロス専門誌
ダートクール
偶数月24日発売

DIRT Cool

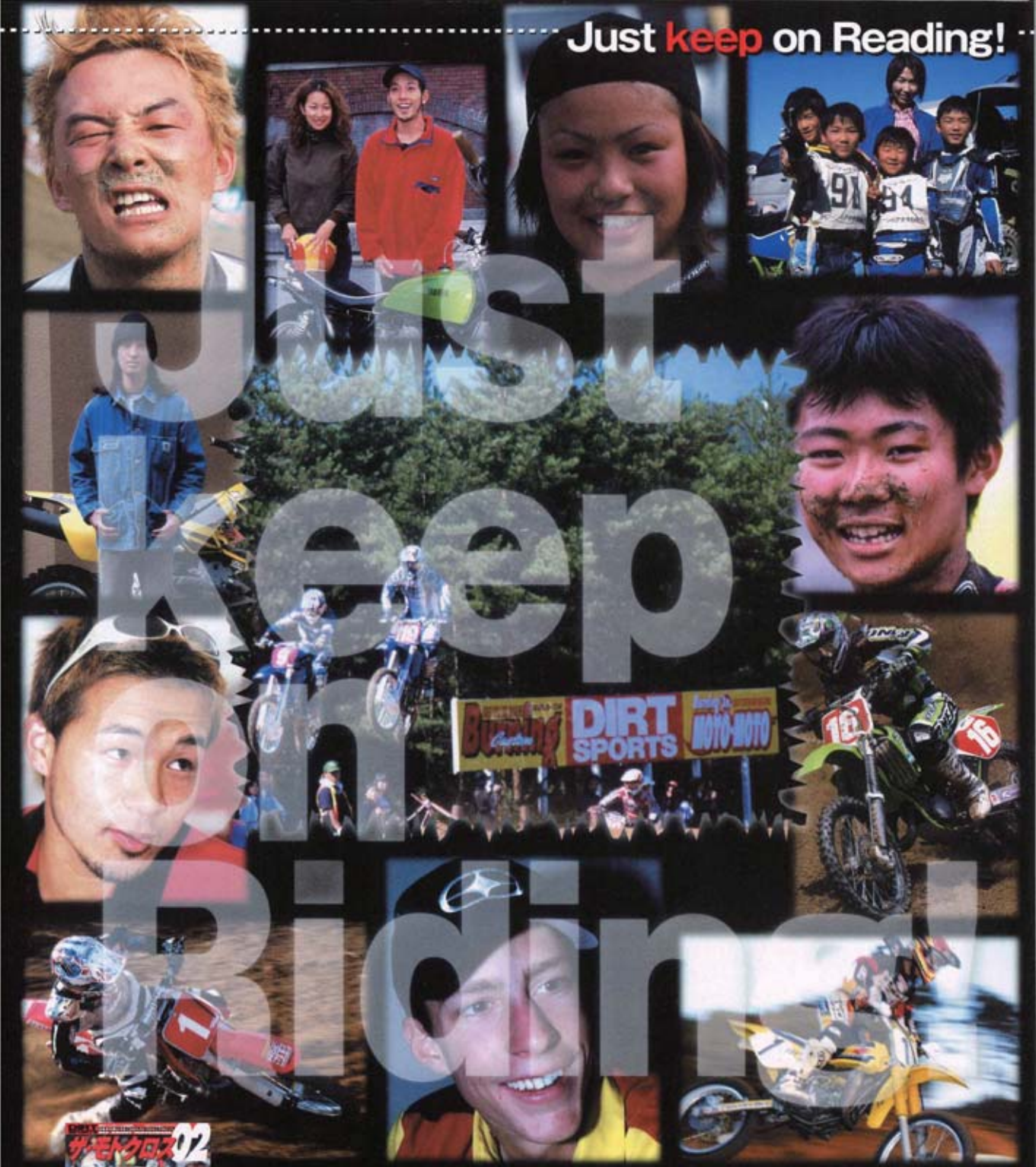
ダートクール2002 No.1　12／24発売
ダートクール2002 No.2　2／24発売
ダートクール2002 No.3　4／24発売
ダートクール2002 No.4　6／24発売
ダートクール2002 No.5　8／24発売
ダートクール2002 No.6　10／24発売

発行／株式会社ニューズ出版
〒154-8575 東京都世田谷区三宿2-4-7
Tel. 03-5430-4440（販売）

制作／有限会社エアタイム
〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-11-5-106
Tel. 03-5423-5464（広告・編集）

http://www.dirtcool.com/

Just keep on Reading!



「ザ・モトクロス02」¥980円 絶賛発売中!

造形社
〒164-0011 東京都中野区中央5-2-2
TEL 03-3380-1061 FAX 03-3380-1016
http://www.zokeisha.co.jp

「レースなんて大嫌い」というライダーにも読んで欲しい…

DIRT SPORTS
「ダートスポーツ」毎月24日発売 580円

Burning Custom
「カスタムバーニング」毎月24日発売 580円

Burning Jr. MOTO-MOTO
「モト・モト」奇数月6日発売 550円

プレス用ゼッケン

各種フラッグ

大会を主催される皆様へ

ゼッケンはもちろんのこと、レースに必要とされるあらゆる機材を製作することができます。カラーリング等、バリエーションも豊富に取り揃えておりますのでぜひ一度お試しください。

モーターサイクルスポーツを楽しむみなさんの味方

Original Goods & Original Design

オリジナルグッズを作ろう!

モーターサイクルスポーツを開催するために必要な機材を注文するなら中尾商事です。
フラッグやゼッケンなどを古くからモーターサイクルスポーツに供給してきた当社なら、きっとみなさんのリクエストにお答えすることができるでしょう。大会主催者やサーキット等レース関係者のみなさんも、ライダー用胸ゼッケンやレースで使用されるフラッグ等、その他にもあらゆる製作物に対応できますので、ぜひご相談下さい。全国どこでも注文お受けします。

オリジナルパンフレット立て

会場表示板

コーステープ

ライダー用ゼッケン

※この広告にご紹介しました製作物はほんの一部。まだまだ作れるものいっぱいあります！

株式会社 中尾商事

〒164−0002 東京都中野区上高田1-1-43　電話 03-3364-5621　FAX 03-3367-4437

WAKO'S

最高峰を獲る!!

辻健二郎

WAKO'S は彼等と共に闘う

2-STROKE ENGINE OIL

RV-R
混合専用。高度にチューニングされたエンジン、レーシングエンジン用オイル。高い潤滑性能を持ちながらセッティング能力に優れ、無駄ハイオク仕様のロードレースで真価を発揮する。

化学合成油＋変性植物油
1L/3,800円

2CRV-R
混合専用。高度にチューニングされたエンジン、レーシングエンジン用オイル。高い潤滑性能を持ちながらカーボン発生を抑え、特にモトクロス等で真価を発揮する。

化学合成油＋変性植物油
500ml/2,200円

2CR
混合専用。ミニバイクからモトクロス、カート［ストッククラス］等、あらゆる車両に適応するレーシングオイル。特にミニバイク・SPの小排気量で真価を発揮する。

100%化学合成油
500ml/1,800円

4-STROKE ENGINE OIL

WR-S
流体潤滑を徹底的に追求し、ベースオイルにこだわり、無ダレに強く、過酷な条件でこそその真価を発揮するレーシング&チューンドマシン専用オイル。

10W-30・20W-50
100%化学合成油
2L/7,000円

4CR
2輪、4輪を問わずストリートからサーキット仕様まで適応する、高性能ガソリンエンジンオイル。特に高速走行（サーキット走行、レース等）で真価を発揮する。

5W-40・15W-50
100%化学合成油
1L/2,800円

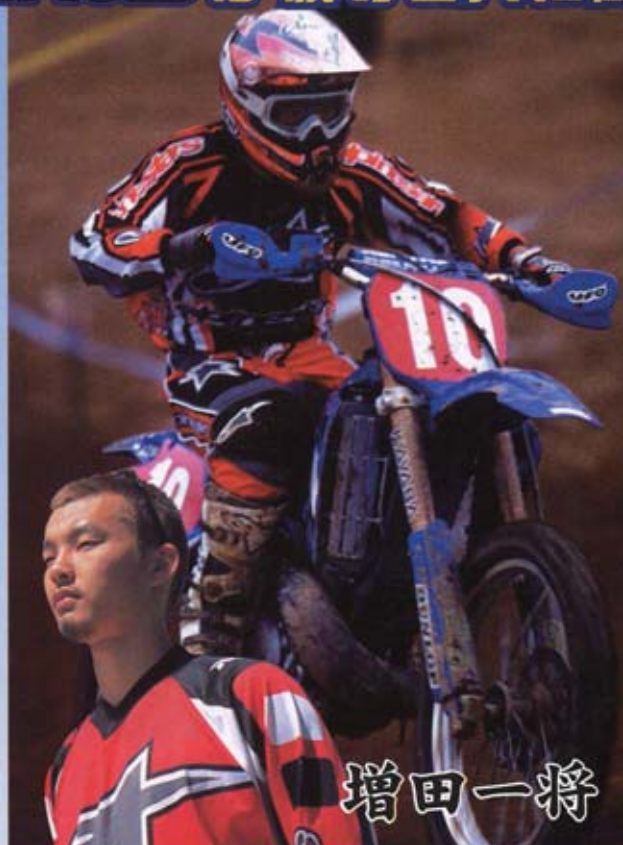
4CT
2輪、4輪を問わずストリートからサーキット仕様まで適応する、高性能ガソリンエンジンオイル。特にストリート（連続走行、ツーリング等）で真価を発揮する。

10W-40・15W-50
半化学合成油
1L/1,900円

BRAKE FLUID

SP-R
制動力の高性能とは何かを徹底追求し、手応え優先・効き重視を両立したブレーキフルード。連続のハードブレーキング時でもグッドタッチを維持する。（公道使用可）

スーパープロレーシング
ブレーキフルード
500ml/2,800円



株式会社 和光ケミカル
神奈川県小田原市前川16-2 TEL.0465-48-2211(代)

【営業所】仙台 盛岡 福島 新潟 群馬 栃木 茨城 茨城北 埼玉 埼玉北 埼玉南 千葉 千葉南 東京 東京東 東京西 横浜 湘南 西湘 山梨 長野 静岡 浜松 岡崎 名古屋 岐阜 三重 大阪 大阪南 京都 神戸

【グループ】北海道ワコーズ ワコールーブ 九州ワコーズ

お求めはお近くの WAKO'S ステッカーのお店で。

最新のWAKO'S情報はこちらへ
http://www.wako-chemical.co.jp

CONTENTS

▼付則18　モトクロス競技規則

1．適用の範囲……198
2．モトクロス……198
3．コースの仕様……198
4．レース中の公式シグナル（合図）……198
5．出場車両……198
6．MFJ公認車両・公認部品……199
7．ライダーの装備……199
8．参加資格……199
9．出場申し込み……199
10．参加受理……200
11．公式通知・タイムスケジュール……200
12．参加定員……200
13．ゼッケンナンバー……200
14．燃料およびオイル……201
15．出場受付……201
16．車両検査……201
17．ライダーの変更……201
18．車両の変更……201
19．部品の変更……202
20．フリープラクティクスおよび公式練習……202
21．ピットおよびサインエリア……202
22．公式予選……202
23．決勝レース出場台数……202
24．スタート位置の決定方法……202
25．ウォーミングアップ……202
26．レース……203
27．レースの終了……203
28．優勝者、順位、完走者および得点……204
29．レース後の車両検査……204
30．レースおよび大会の延期、中止等……204
31．抗　　議……204
32．レース中の違反行為に対する罰則……205
33．本規則の解釈……205
34．本規則の施行……205

▼付則19　2002年全日本選手権大会特別規則

1．公　　示……206
2．競技会開催日程等……206
3．運営・実行組織……206
4．開催部門・クラス……206
5．参加資格……207
6．出場申し込み……207
7．出場料およびMFJ共済会掛金（保険料）……207
8．参加受理……207
9．競技内容……208
10．賞および得点……208
11．出場車両……208
12．ゼッケンナンバー……209
13．ガソリンおよびオイル……210
14．車両検査……210
15．車両の変更……210
16．フリープラクティスおよび公式練習……210
17．決勝レース出場資格……210
18．スタート……211
19．レース……213
20．レース後の車両検査……214
21．総合順位の決定方法……214
22．抗　　議……214
23．本規則の解釈……214
24．本規則の施行……214
2002年全日本モトクロス選手権開催日程……216

▼付則20　モトクロス基本仕様

1．カテゴリー……218
2．排気量の算出方法……218
3．一般的なアイテム……218
4．燃料、燃料／オイルの混合液……222
5．音量規制……223
6．テレメトリー……224
7．重　　量……224

▼付則21　国内モトクロスの仕様

1．クラス区分……225
2．出場車両……225
3．重　　量……225
4．音　　量……226
5．互換性……226
6．公認部品……227
7．燃　　料……227
8．マシン仕様……227
9．各部の仕上げ調整……230
10．公認車両から変更・交換できるもの……230
11．追加の装備……230
国際B級の仕様……231
50cc部門の仕様……232

※2002年度の規則変更点は太字で示されています。

付則18 モトクロス競技規則

MOTORCROSS

1 適用の範囲

以下に記す規則は、国内競技規則に基づき国内すべてのモトクロス競技会に適用される。（世界選手権は除く）

2 モトクロス

モトクロスとは、走路面に凹凸、急勾配、走路方向が急変するような地形のところで行われるクロス・カントリーレースである。国内競技規則および本細則により管理される。

3 コースの仕様

コースの長さは1周、3㎞以下とし、その幅は少なくとも追い越し可能なゆとりを持たせなければならない。また、コース等は、別に定めるモトクロス会場に関する規則に準拠し、適切なレーシングコンディションと安全性とが確保されていなくてはならない。

4 レース中の公式シグナル(合図)

ライダーは掲示される公式シグナルを確認し、そのシグナルに従わなければならない。

1）公式シグナル（合図）は、約750㎜×600㎜寸法の旗を使用し、次のように与えるものとする。

シグナル	意　味
赤旗	全員走行停止
黒旗とゼッケンを記したボード	当該ライダーは走行停止
黄旗（静止）	危険予告
黄旗（振動）	徐行、安全確認、追い越し禁止
青旗	警告、ラップされようとしている
緑旗	レーススタート時におけるコースクリアを示す為に使用される場合がある。
白黒チェッカー旗	レース終了

※グリーンフラッグはスタート進行の際（スターティングエリアへ移動する際）に示される。（全日本選手権のみ）

2）競技内容が示されている規定の時間を経過した後、トップのライダーがゴールを通過した時点から、残りの周回数を示すボードが提示される。

5 出場車両

車両は、国内競技規則・第3章［⑮出場車両］（35頁）の限度を充たし、安全上完全に整備さ

れているものでなければならない。

尚、改造されて型式（モデル）が判別できないような車両は競技会に出場することはできない。

6 MFJ公認車両・公認部品

MFJ公認車両及び公認部品は、国内競技規則・第3章［⑯MFJ公認車両および公認部品・用品］（35頁）による。

7 ライダーの装備

1）ヘルメット

(1) ヘルメットはジェット型かフルフェイス型のもので、MFJが公認したものでなくてはならない。

(2) MFJの公認したヘルメットには、公認マークが貼付されている。

(3) 競技会の車両検査時にヘルメットの検査が行われ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットであっても当該ライダーの安全上、その使用を禁止される。

〈MFJ公認ヘルメットマーク〉

(4) MFJ公認マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査を受け、公認ヘルメットと判明した時点で、公認シールが貼付される。その際、特別検査料（1,000円）を支払わなければならない。

2）ゴーグル

ガラスを用いたゴーグルの使用は一切禁止される。枠は柔軟な素材を使用したもので転倒による衝撃を受けた場合でも危険でないものでなくてはならない。

3）ライダーの服装

(1) 服装は、レース中ライダーの身体の安全を確保し、車両の操縦を防げるものであってはならない。

(2) 耐火性で溶けない素材の丈夫な生地で自由な動作を妨げない長袖のジャージを着用しなくてはならない。

(3) 突出部分のない革、または革と同等以上の性能を持つ手袋及びブーツを着用しなければならない。

(4) ライダーは競技会中、難燃性の素材を使用したアンダーウェアを着用しなければならない。

(5) プロテクター（ブレストガード等）の着用が望ましい。

8 参加資格

参加者及びライダーは、国内競技規則・第3章［⑫競技参加者］（33頁）に合致していなければならない。

9 出場申し込み

1）出場申し込み場所および期間は、大会特別規則の定めるところのものとする。

2）出場申し込み手続き

(1) 各部門とも所定の申し込み書に必要事項をすべて記入し、出場料及び共済会掛金を添えて大会事務局に提出しなければならない。

(2) 2クラス以上に出場を申し込む場合でも、申込書は1枚でよい。ただし、2クラス以上出場に必要な事項をすべて記入すること。もし記入漏れのあった場合、申し込みを拒否さ

れる場合がある。

(3) 郵送の場合は現金書留を使用し、締切日当日の消印のあるものまでが有効となる。

(4) 締切日以降の申し込み及び電話・FAX等の申し込みは一切受けつけない。

10 参加受理

1）必要事項を記入した出場申し込み書、及び所定の金額を大会事務局が受理したもののみ、参加受理書が発送される。

2）大会が中止された場合、また参加者が何らかの理由によって拒否された場合のみ（申込者が必要な手続きを怠った場合はこれに当てはまらない）出場料、共済会掛金が返却される。

3）いったん受理された出場料・共済会掛金は、上記2）及び国内競技規則・第3章［㉘競技会の延期および中止等］（38頁）の場合を除き、いかなる理由があっても返却されない。公式予選を通過しなかった場合も同様である。

11 公式通知・タイムスケジュール

公式通知及びタイムスケジュールの詳細は、申し込み締切後に通知される。

12 参加定員

定員は定めない。

13 ゼッケンナンバー

1）ゼッケンナンバーは、車両検査までに規定の書体及び色で記入しなければならない。（19頁参照）

2）年間指定ゼッケンナンバーを与えられているライダーは、ヘルメットの両側面にゼッケンナンバーを記入しなければならない。

3）ゼッケンナンバーの状態は、車両検査時に車検員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。
ゼッケンの修正を要求された場合、速やかに修正を行い、再度車両検査を受けなければならない。

4）レース中、ナンバープレートや配布されたゼッケン及びヘルメットナンバーシールを装着せずに走行したり、間違ったゼッケンナンバーを装着して走行した場合は、その周回数は記録されない。

5）雨天の場合、競技監督の判断によりヘルメット後部に補助ゼッケンプレート（9㎝×9㎝程度）を取り付けなければならない。

←（補助ゼッケンプレート）

14 燃料およびオイル

1）ガソリンは無鉛ガソリンに制限されている（AVガス、航空機用燃料等は使用できない）。ガソリン及びオイルに関する詳細は国内競技規則・第３章［⑰燃料およびオイル］（35頁）及びモトクロス基本仕様④燃料、燃料／オイルの混合液（222頁）による。

2）ガソリンの銘柄及びその詳細が主催者によって指定された場合は、当該指定ガソリンを使用しなければならない。

3）ガソリンの運搬については、消防法第16条の規定に従った方法で行わなければならない。

15 出場受付

1）出場受付の時間及び場所は、公式通知によって示される。

2）定められた時間内に、必ずライダー本人または当該ライダーのメカニックがMFJライセンス、参加受理書および健康保険証（コピー可）を提示して出場資格の確認を受けなければならない。

3）MFJライセンスを提示できない者は、出場が認められない。

16 車両検査

1）車両検査は、公式通知に示されるタイムスケジュールに従って、パドック内の車両検査区域において行われる。

2）車両検査のための車両は、ライダー本人又は当該ライダーのメカニックが車両仕様書とともに持参し、必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を受けなければならない。また、車両に打刻されたナンバー（エンジン部・フレーム部）が研磨及び切削などにより失われている車両については、販売証明書を添付すること。販売証明書を添付されない場合は原則として競技会への参加は認められない。規定時間以外の車両検査は、競技監督が不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外は行わない。

3）車両検査において、規則違反または安全上出場が不適当と判定された車両は、公式予選を含む一切の走行を拒否される。

4）主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両の検査を行うことができる。その際、規則に準拠していない車両がある場合、当該車両の使用は認められない。

17 ライダーの変更

ライダーの変更は認められない。

18 車両の変更

登録された車両の変更は原則として認められない。変更する必要が生じた場合は、所定の書式に従って変更申請を行い、競技監督が認めた場合に限り認められる。（国内競技規則第３章⑱競技出場の申し込み、⑳ライダーおよび車両の変更（36頁）による）

1）エントリー車両と、車検を受ける車両の変更

参加受理書発送後エントリー用紙記入車両に変更がある場合、選手受付時に車両変更手続きをしなければならない。

2）車検終了後の車両変更

車検終了後の変更は、大会事務局にて車両変更手続きをしなければならない。

3）車両変更は同部門、同クラス間の変更のみ許可される。車両変更手数料は5,000円とする。

19 部品の変更

フレーム、クランクケース、サイレンサーの変更は原則として認められない。ただし、交換のためにあらかじめ検査を受けたサイレンサーは除く。フレームの変更、クランクケースの変更は、車両の変更とみなされる。

20 フリープラクティスおよび公式練習

大会によって、フリープラクティス及び公式練習が設けられる。フリープラクティスへの参加は義務づけられていないが、安全上の理由から参加することが望ましい。ライダーは、主催者が設けた公式練習に参加することが義務づけられる。

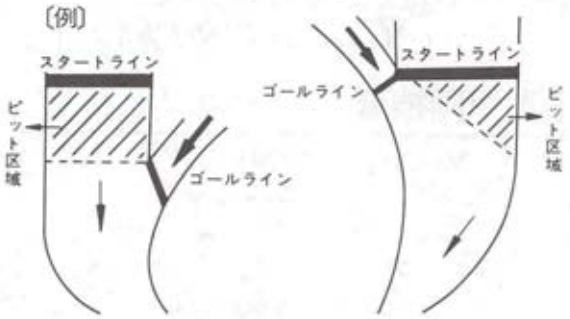
21 ピットおよびサインエリア

1）ピット及びサインエリアは主催者により指定される。特に指定のない場合のピットエリアは、スタートラインからゴールラインまでの、周回走行にさしつかえのないコースサイドまたはコース上である。

2）ピットクルーはサインエリアの区分を厳守しなければならない。

3）レース中に、ピット区域以外のパドックに戻った場合は失格となる。

〔例〕



22 公式予選

各クラスの出場申し込み台数が、決勝レース出場台数を越えた場合、決勝進出者決定のために公式予選が行われる。

公式予選の内容

(1) 公式予選は、原則として各クラス別に行われる。

(2) 公式予選の日程は、特別規則に示される。

(3) 公式予選は原則として大会公示に示される周回数のレースによって行われる。

23 決勝レース出場台数

決勝レース出場台数は原則として最大30台とするが、各コースごとに定められる公式通知に示される。

24 スタート位置の決定方法

スタート位置の決定方法は、大会特別規則もしくは公式通知に示される。

一度スターティンググリッドを選択したものはその位置を変更することはできない。

25 ウォーミングアップ

1）エンジンのウォーミングアップは主催者により指定された場所及び時間帯に限られる。

2）ウォーミングアップ以降、スタート係によってスタートのためのエンジン始動の合図がなされた後は（キックスタートの場合は、エンジン停止の合図がなされた後）ライダーからタイムのサインがあっても競技は続行される。

26 レース

1）スタートまでの行動

(1) ライダーは、特別規則に定められたタイムスケジュールを厳守しなければならない。

(2) ライダーは、スタート前チェックの後車両とともに指定区域内に待機していなければならない。

2）スタート

(1) スタートの方法については、原則として各部門ともスターティングマシンを使用したエンジンランニングスタートとする。ただしスターティングマシンを使用しない場合は、主催者の定めるスタート方法とする。

(2) スタート位置は、すべて正規のスタート・ラインからなされるものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップは、一切考慮されない。

(3) スターティングマシンが使用される場合は、車両の位置はスターティングマシンの後方の区域内とする。

(4) スタートの合図は、スタート係の合図（国旗等）によって行われる。ただし、スターティングマシンを使用する場合は、この限りでない。

(5) スタート時にフライングが認められた場合は、スタートライン前方（第1コーナー付近）において赤旗が提示され、再スタートとなる。その際、同一ライダーが再びフライングをした場合、当該ライダーは失格となる。

3）コースアウト

ライダーは、走行中、やむを得ず定められたコースを外れ、再びコースに戻る場合には、外れた地点よりコースに進入しなければならない。

4）コースカット

コースカットは禁止される。自分に有利になるように故意にカットしたライダーは当該予選またはレースから除外とされる場合がある。必要に応じて審査委員会は更なるペナルティーを科すことができる。コースに復帰するには、時間的または距離的に自分の有利とならない地点から復帰しなければならない。その際は一時停止及び安全確認を怠らないこと。

5）ピットエリア内で車両整備などに従事するメカニックの数は、2名以内に限定される。

6）レース中、サイレンサー、マフラー、チャンバーが外れた場合、または破損した場合は、競技役員より当該ライダーに対して黒旗及びゼッケンを記したボードが提示される。提示されたライダーは速やかにピットエリアに入り、修理しなくてはならない。修理後競技役員の許可を得た上で、スタートが認められる。

27 レース終了

1）レース終了は、優勝者の完走後、チェッカー旗が振られ、マーシャルが定位置を離れるか、またはマーシャルがコースを一巡することによって示される。

2）トップを走行するライダーが、所定の周回数を完了する前にレース終了の合図が出された場合、当該レースはその時点で終了したものとみなされる。

何らかの理由によって、レース終了の合図が遅れた場合でも、チェッカーフラッグが提示された周をもって終了したものとみなされる。

28 優勝者、順位、完走者および得点（ポイント）

順位は下記の優先順位に基づき決定される。（いかなる場合も完走者及びチェッカーが優先される）

1）優勝者

優勝者は、定められた周回数またはレース時間＋1周を最短時間で完走したライダーとする。

2）順位の優先順位

1　チェッカーを受け完走周回数を満たしたライダーで周回数の多い順。

2　1、で同周回の場合はチェッカーを受けた順。

3　チェッカーを受けられなかった完走周回数を満たしたライダーで、周回数の多い順。

4　3、で同周回数の場合はゴールライン通過順

3）その他の優先順位（未完走者）

この項に該当するライダーは順位は付かないがリザルト上の優先順位を下記のとおりとする。

1　周回数の多い順。

2　同周回数の場合、ゴールライン通過順。

※完走者とは

1）優勝者の75%（少数点以下は切り捨てる）以上の周回数を完了したライダーを完走者とする。

2）レース途中でリタイヤしたライダーも完走周回数を完了している場合は、完走者とみなされる。

4）得点

(1) 得点は国内競技規則・第3章［㉗公式得点（ポイント）］（37頁）によって与えられる。

(2) 得点は完走者に与えられる。

(3) オープンクラスに関しては、自動昇格得点対象外とする。

29 レース後の車両検査

1）レース終了後、原則的に1～6位の車両は直ちに車検員によって決められた区域内に管理され、暫定結果発表後30分間保管され、必要に応じて検査される。

2）上記車両は、必要に応じて車両重量及び音量が測定され、規定を満たしていない車両の当該ライダーは失格となる。

30 レースおよび大会の延期、中止等

国内競技規則・第3章［㉘競技会の延期および中止等］（38頁）による。

31 抗　議

1）抗議は、国内競技規則・第3章［㉙抗議］（39頁）による。

2）抗議は、暫定結果発表後30分以内（全日本選手権では20分以内）に当該ライダーおよびエントラント代表者だけが行うことができる。

3）車両の分解検査に要した費用は、その抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合は、抗議対象者が支払わなければならない。この車両の分解等に用した費用は車検長が算定する。

4）車両の分解検査に立ち合う者は、車検長及び抗議を受けた当事者のみとする。

32 レース中の違反行為に対する罰則

レース中の違反行為については、競技監督並びに大会審査委員会がその権限において下記の罰則を課すことができる。

1）失格

(1) 故意に走路を妨害した場合。

(2) コースを逆走した場合。

(3) 示された合図旗に従わなかった場合。

(4) フライングを２度繰り返した場合。

2）１周減算または失格

(1) レース中に他のいかなる援助を受けた場合。

外部からの援助

公式練習、公式予選及びレース／ヒートの間に外部からの他のいかなる援助を受けた場合。（ただし、オーガナイザーに任命されたオフィシャルが役務の一環として安全上の理由から援助する場合は例外とする。）

(2) １度コース外に出て、明らかに自分に有利となる所より再びコースに復帰したと判断された場合、１周減算または失格とする。

3）１周減算

(1) ウォーミングアップ中止後、競技役員の許可なくエンジンを始動させた場合。

(2) 上記２）(1)、(2)の場合。

その他、競技規則に対する罰則は、国内競技規則・第３章［㉜違反行為に対する罰則］（40頁）による。

33 本規則の解釈

本規則及び競技に関する疑義は、大会事務局あてに質疑申し立てできる。なお、この回答は大会審査委員会の決定を最終的なものとする。

34 本規則の施行

本規則は、2002年１月１日から施行する。

2002 MOTORCYCLE SPORTS RULES

付則19

全日本モトクロス選手権大会 特別規則

MOTORCROSS

1 公　示

全日本モトクロス選手権はFIM国際スポーツ憲章に基づきMFJ国内競技規則、モトクロス競技細則及び全日本選手権シリーズを通じて共通した項目をまとめた本特別規則と、各大会の特別規則に基づき開催される。

2 競技会開催日程等

1）レースウィークの日程

月～木曜日：占有走行は禁止される。スポーツ走行は開催されてもよい。

金　曜　日：すべての練習走行は禁止される。

土～日曜日：競技会日

2）競技会の日程は巻末に示す（216頁参照）。

3 運営・実行組織

大会運営・実行組織は、公式プログラムまたは公式通知に示される。

4 開催部門・クラス

1）全日本選手権シリーズの開催部門、クラス区分は次のとおりとする。

部門	国際B級	国際A級	レディス
クラス	125cc・250cc	125cc・250cc	85cc

2）全日本選手権は原則としてレディス、国際B級、国際A級の3部門にて開催されるが、その他2クラスまでのレース、およびエキジビション（ポイント対象外）レースを併催することができる。ただし併催レースは全日本選手権のクラスに影響しない範囲に限り認められる。

3）国際A級250cc・125ccのクラス指定について

国際A級部門は、125ccクラスと250ccクラスを開催し、クラスの選択は自由とする。

国際A級のクラス指定申請方法

(1) クラス申請については以下の者だけが12月31日（消印有効）までにMFJより送付される所定の申請用紙にてクラス指定を行なうものとする。

① 前年からのクラス変更者［例］前年 IA250 → 当該年 IA125に指定する者
　　前年 IA125 → 当該年 IA250に指定する者

② 国際B級からの昇格者（ルーキー）

③ 前年に全日本選手権においてポイントを取得していない者

④ 前年に出場していない国際A級ライセンス取得者

(2) クラスの変更を行なわない者は（前年と同じクラスに指定する者）［⑫指定ゼッケンを決定するための優先順位］に従い年間指定ゼッケンが与えられる。

(3) 一度クラスの選択を行ったら、年度内のクラス変更は認められない。

5 参加資格

1）参加者及びライダー

参加者及びライダーは、国内競技規則・第3章［⑫競技参加者］（33頁）に合致していなければならない。

2）年齢制限

大会に出場できる最低年齢は、下記のとおりとする。

125：15歳　　250：16歳

※いずれも大会予選日に誕生日を迎えていること。ただし'01年全日本選手権における実績を有する者は、中央スポーツ委員会にて審査される（MFJ事務局への手続きが必要）。

6 出場申し込み

1）競技会への出場申し込みは主催者が準備した用紙の記載事項のすべてを記入し、競技規則を厳守することを誓約しなくてはならない。（エントリー時点で当該ライセンスを取得していること。）

2）申込期間、申込先などの詳細は216頁参照。

3）ピットクルーの登録

(1) 出場申込後に、ピットクルーの追加は一切できない。但し大会当日の出場受付時間内に、他のピットクルーライセンス所持者と変更することはできる（変更手数料が必要）

(2) ひとりのピットクルーを、複数のライダーに登録することはできない。

(3) 参加ライダー本人を自分のピットクルーとして登録することはできない。（但し作業はできる）

(4) ピットクルーパス及びピットクルーライセンスの装着義務

ピット作業を行なうクルーは、各自が用意するパスケースにピットクルーパス及びピットクルーライセンスを収納し、判別しやすいように左腰前部に装着しなければならない。

7 出場料およびMFJ共済会掛金（保険料）

出場料およびMFJ共済会掛金（保険料）は、以下のとおりである。

	総　額	内　訳	
		出場料	MFJ共済会掛金
1クラス	14,000円	12,500円	1,500円
2クラス（Wエントリー）	22,000円	20,500円	1,500円
レディス	8,000円	7,500円	500円

8 参加受理

付則18モトクロス競技規則［⑩参加受理］（200頁）による。

9 競技内容

1）公式予選

公式予選の有無、周回数、予選組分け、その他の詳細は公式通知、またはプログラムに示される。※国際A級クラスは予選グリッド数を下回った場合でもグリッド決定の予選を行う。

告知

2002年MFJ全日本モトクロス選手権シリーズ第5戦菅生大会（6月9日）の国際A級クラスの予選方式はタイムアタック形式で行う。詳細は大会特別規則による。

2）国際A級の予選組分けについて

① 国際A級は大会当日（第2戦以降）、受付終了時点にて最新（暫定）のランキング順により予選組を振り分けられる。（スターティンググリッドもこれに準ずる）

また、ポイントを獲得していないライダーは、ポイント獲得者の後に、ゼッケン順に振り分けられる。

② 第1戦においては、抽選により予選組が振り分けされる。（予選のスターティンググリッドもこれに準ずる）

※この方式は国際B級、レディスには適用されない。

※国際A級はシード制度が導入される。（210頁17 決勝レース出場資格参照）

※国際A級・国際B級・レディスはラストチャンスレースは行われない。

3）レース距離（レース時間） ※天候その他の理由により、変更する場合がある。

① 公式予選 国際A級：15分＋1周、国際B級、レディス：公式通知に示す。

② 決勝レース 国際A級：30分＋1周、国際B級：20分＋1周、レディス：10分＋1周

決勝スタート前に、コース安全確認のためのサイティングラップ（1周）を行なう。（212頁参照）

10 賞および得点（ポイント）

1）賞の詳細は、公式通知に示される。

2）全日本選手権ランキングの得点

(1) 得点は国内競技規則・第3章［㉗公式得点］（37頁）によって与えられる。

(2) 日本グランプリ大会については、規定の得点に3点が加算される。

(3) 全日本選手権ランキングの順位は、上記によって与えられた得点のすべてが加算され、その得点合計によって決定される。

その詳細は、全日本選手権ランキング決定基準（47頁）に示される。

3）賞及び得点の制限

国内競技規則・第3章［㉗公式得点］（37頁）による。

11 出場車両

1）車両は、付則18モトクロス競技規則［⑤出場車両］（198頁）を遵守しなければならない。

2）全日本対象クラス（国際A級・国際B級）の4ストローク車両の音量について

全日本選手権に参加する4ストローク車両の音量は下記のとおり。

・FIM固定回転数で測定し98dB/A以下のこと（測定方法は、モトクロス基本仕様223頁音量規制参照）

※全日本選手権以外の公認競技会では94dB/Aとする。

12 ゼッケンナンバー

1）国際A級及び国際B級の一部（30番まで）のライダーには、年間指定ゼッケンナンバーが割り当てられる。

指定ゼッケンを与えられた選手については、ジャージ背中側に指定ゼッケンの印刷が義務付けられる。

(1) 指定ゼッケンを決定するための優先順位

下記規定は、全日本選手権ランキング及び12月31日までに前年からのクラス変更申請または新規クラス選択申請（国際B級からの昇格者及び新規申請者を含む）を行った者が対象とされ、国際A級のクラス申請に従って指定ゼッケンが与えられる。それ以外の場合については、全てm.を適用する。

① 国際A級250ccクラス

a．当該年度全日本選手権250ccクラスの獲得点数の多いもの。
b．aにて同点の場合、上位入賞回数の多いもの。
c．上記a～bにて定められない場合、当該年度ゼッケン順とする。
d．当該年度125ccクラスに出場していたもので、12月31日までに250ccクラスを選択し、当該年度全日本選手権成績の合計得点の多いもの。
e．dにて同点の場合、上位入賞回数の多いもの。
f．上記d～eにて定められない場合、当該年度ゼッケン順とする。
g．国際B級からの昇格者で250ccクラスを選択したもので、当該年度全日本国際B級250ccクラスランキング順。
h．国際B級からの昇格者で250ccクラスを選択したもので、当該年度全日本国際B級125ccクラスランキング順。
i．国際B級からの昇格者で250ccクラスを選択したもので、地方選手権における獲得点数の多いもの。
j．iで同点の場合、地方選手権での上位入賞回数の多いもの。
k．g～jで決定できない場合、クラス選択申請順。
l．前年の全日本選手権において、ポイントを取得していない者。
m．その他は、全日本選手権エントリー時に主催者によって決定される。

② 国際A級125ccクラス

a．当該年度全日本選手権125ccクラスの獲得点数の多いもの。
b．aにて同点の場合、上位入賞回数の多いもの。
c．上記a～bにて定められない場合、当該年度ゼッケン順とする。
d．当該年度250ccクラスに出場していたもので、12月31日までに125ccクラスを選択し、当該年度全日本選手権成績の合計得点の多いもの。
e．dにて同点の場合、上位入賞回数の多いもの。
f．上記d～eにて定められない場合、当該年度ゼッケン順とする。
g．国際B級からの昇格者で125ccクラスを選択したもので、当該年度全日本国際B級125ccクラスランキング順。
h．国際B級からの昇格者で125ccクラスを選択したもので、当該年度全日本国際B級250ccクラスランキング順。
i．国際B級からの昇格者で125ccクラスを選択したもので、地方選手権における獲得点数の多いもの。
j．iで同点の場合、地方選手権での上位入賞回数の多いもの。

k．g～jで決定できない場合、クラス選択申請順。
l．前年の全日本選手権において、ポイントを取得していない者。
m．その他は、全日本選手権エントリー時に主催者によって決定される。

(2) 国際B級（30番まで）の年間指定ゼッケンナンバー決定基準は以下のとおりとする。
① 125/250クラスを比較し、順位が高いクラスをそのライダーの代表クラスとする。
② 代表クラスの順位を比較し、上位の者が優先される。
③ 代表クラスが同順位の場合、そのクラスの上位入賞回数の多い者が優先される。
④ ③で決定できない場合は、代表クラスの排気量の大きい方を優先する。
⑤ ④まで決定できない場合は、中央スポーツ委員会にて最終決定する。

(3) ルーキーゼッケン
国際B級から国際A級に昇格する上位の選手（最大12名）にはルーキーゼッケンが与えられる。また国際A級のクラス自由登録制にともない、一方のクラスに偏ることも想定されるため、ルーキーゼッケンは01～012まで与えられる場合がある。

2）上記(1)、(2)、(3)に記載されている他のライダーには、大会毎に主催者によって各クラスゼッケンナンバーが割り当てられ、参加受理書に記入して通知される。

3）その他希望ゼッケンを要望する場合は、MFJ中央スポーツ委員会の許可が必要とされ、有料とする。（申請期日：前年の12月31日消印有効）

13 ガソリンおよびオイル

ガソリンは無鉛ガソリンに制限されている。（AVガス、航空機用燃料等は使用できない）
モトクロス基本仕様④燃料、燃料／オイルの混合液（222頁）参照。

14 車両検査

1）付則18モトクロス競技規則［⑯車両検査］（201頁）参照。

2）車両検査持ち込み台数は、1クラスにつき国際B級部門は1台に限定し、国際A級部門については制限を設けない。ただし、車両検査を受けていない車両の使用は一切認められない。

3）予選終了後に音量測定が実施される場合でも、規定値を越えていた場合失格になる。希望者は車検に申し出ることにより予選以前にも音量測定を受けることができる。
※また規定の車検時に実施される音量測定は必ず受けなければならない。

15 車両の変更

1）付則18モトクロス競技規則［⑱車両の変更］（201頁）参照。

16 フリープラクティスおよび公式練習

1）競技会前日の練習走行は禁止される。

2）ライダーは、主催者が設けた公式練習に参加しなければならない。

17 決勝レース出場資格

1）国際A級のシード制度
・シード選手は予選の結果にかかわらず決勝への出場を保証される。
・シード選手がシード権を行使した場合（予選不通過の場合）、当該選手は、予選通過者の後

にグリッドを選択する。通常予選通過者の後に走る権利が認められ、グリッド優先順位は当該大会のシードランキング順とする。またその場合グリッドの無いコースの場合は安全を考慮した2列目スタートまたはその他の方法でスタートされる。

・シード選手がシード権を行使する場合、必ず予選に出場していなければならない。
・シード選手を加えた上で、決勝進出者とグリッド優先順位を最終的に決定する。

シード選手の資格

①第1戦は前年の全日本選手権ランキング上位10位
②第2戦以降は前戦までの最新ランキング上位10位

2）国際A級リザーブライダー
各予選組の**周回数の多い、**トップタイムの早い組から1名ずつ最大2名とする。

3）国際B級の出場資格
①公式予選通過者（予選通過人数は各大会による）
フルグリッドにならない場合は、各予選組の**周回数の多い、**トップタイムの早い順に1名ずつ交互に補充される。
②リザーブライダー
公式予選にて決勝レース出場資格を得られなかったライダーのうち、上位2名はリザーブライダーの権利を得る。
※上位2名は各予選組の**周回数の多い、**トップタイムの早い順に交互に決定される。
リザーブライダーは、各決勝レース前のサイティングラップに必ず参加しなければならない（⑱スタート参照）。

18 スタート

1）スタートの方法は原則として、各部門ともスターティングマシンを使ったエンジンランニングスタートとする。またスターティングマシンを使用しないエンジンランニングスタートの際は、必ずヘルメット上部に左手を当てて待機し、スタート合図によりスタートすることとする。

2）スタートの手順

予選スタート手順

①予選開始予定時刻の10分前までに、当該予選ライダーはプレパレーションエリアに集合することが望ましい。※予選開始予定時刻とは、プログラム及びタイムスケジュールに告知された時刻である。
②レース開始時刻に進行員の指示で第一ライダーがエンジン停止状態で押しながら、スターティングエリアへ移動し、最初のライダーが動いた時点より遅れて来たライダーは最後尾からのグリッド整列となる。（遅れたライダーの優先順位は来た順番となる）
③スターティンググリッドに付いた時点で、当該ライダーおよび当該ピットクルーのみは道具を使用しないで地ならしができる。（コンクリートの場合は除く）
④ライダーがスターティンググリッドに付いたことが確認された後、進行員の指示でエンジン始動の合図が出されプレパレーションエリアへのゲートは閉鎖される。この時ライダー、オフィシャル以外は速やかにスターティングエリアより退去しなければならない。
※　スターティンググリッド内で何らかのトラブルが発生した場合、当該ライダーのピットクルーは競技監督の許可を得て安全上スタートに支障のない場所で作業することができる。（スタートに支障のない場所は競技役員により指示される）

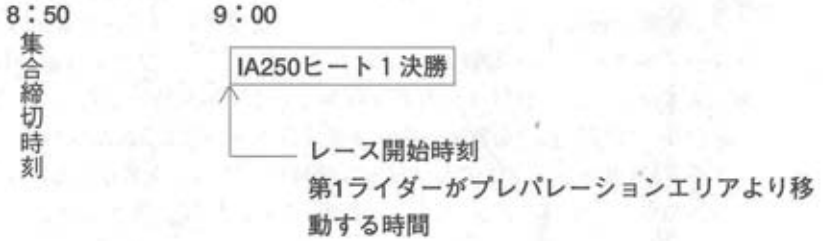
1分間のウォーミングアップ後、30秒ボードが30秒間提示される。

⑤15秒ボードが、15秒間提示される。
⑥5秒ボードが提示された後5～10秒以内にスタートとなる。

決勝スタート手順

①レース開始予定時刻の10分前までに、リザーブライダーを含む決勝出場者全員は、プレパレーションエリアに集合することが望ましい。この時プレパレーションエリア内では予選順位または、決勝ラインナップ順位によりグリッド選択順に整列される。
※レース開始予定時刻とは、サイティングラップを含むプログラム及びタイムスケジュールに告知された時刻である。
②レース開始時刻に進行員の指示で第一ライダーがエンジン停止状態でスターティングエリアへ移動し、最初のライダーが動いた時点より遅れてきたライダーはリザーブライダーの前に最後尾より整列される。(遅れたライダーの優先順位は来た順となる。)また最終ライダー(リザーブライダーを含まない)が動いた時点でプレパレーションエリアへのゲートは閉鎖される。ゲート閉鎖に間に合わなかったライダーは、いかなる理由があろうとも決勝レースへ出場することは認められない。
③ライダーがスターティンググリッドに着いた時点で当該ライダーおよび当該ピットクルーは道具を使用せずに地ならしができる。(コンクリートの場合は除く)
④全ライダーがスターティンググリッドに付いたことが確認された後、進行員の指示でサイティングラップ(コース安全確認1周)が実施される。(リザーブライダーを含む)
⑤サイティングラップ終了後、サイティングラップからスターティンググリッドに戻ってきていないライダーは、競技監督の判断により競技除外となり、リザーブライダーの決勝出場が認められる。
※サイティングラップ中におけるライダーへの援助は、オフィシャルの判断あるいはオフィシャルの認めた者だけが行うことができる。他の援助を受けたライダーは競技除外とされる。但しサイティングラップ後(リザーブ確定後含む)スターティンググリッド内で何らかのトラブルが発生した場合、当該ライダーのピットクルーは競技監督の許可を得て安全上スタートに支障のない場所で作業することができる。(スタートに支障のない場所は競技役員により指示される)
⑥全ライダーがスターティンググリッドに着いたことが確認された後、エンジン始動とともに30秒ボードが30秒間提示される。
この時ライダー・オフィシャル以外は速やかにスターティングエリアより退去しなければならない。
⑦15秒ボードが、15秒間提示される。
⑧5秒ボードが提示された後5～10秒以内にスタートとなる。

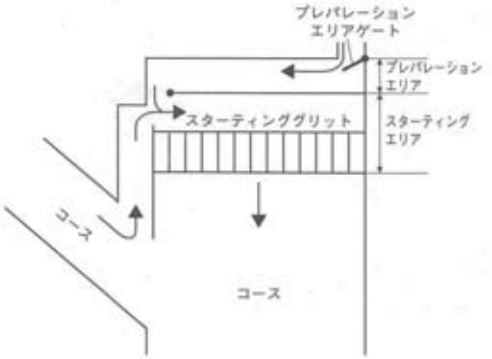
例) タイムスケジュール記載方法
IA250ヒート　1レーススタート9：00の場合(サイティングラップを含む)



スタートエリア規制について

①スターティンググリッド前（コース側）
オフィシャル及びプレスを除くいかなる者もこのエリアに入ることは認められない。

②スターティングエリア内まで（スターティンググリッドを含む）
ライダー、オフィシャル、ピットクルー、プレス、レーシングサービス、レース関係者（キャンペーンガールを含む）以外はこのエリアに入ることは認められない。



3）予選におけるスタート位置を選択する優先順位

(1) 国際A級［付則19全日本モトクロス選手権大会特別規則5.⑨競技内容・2）国際A級の予選組分けについて］（208頁）参照。

(2) 国際B級スタートの位置は、抽選結果の順位による。

4）決勝レースのスタート位置を選択する優先順位

国際B級

スタート位置を選択する優先順位は、予選順位に基づき決定される。

国際A級

両ヒート（第1、第2ヒート）ともそれぞれの**予選組の周回数の多いトップタイムの早い組順に交互に選択される。**同周回の場合はトップタイムの早い組から、交互に上位より順番に選択できる。

5）ウォーミングアップ

エンジンのウォーミングアップは主催者により指定された時間帯及び場所に限られる。

6）ウォーミングアップ以降、スタート係によってスタートのためのエンジン始動の合図がなされた後は（キックスタートの場合は、エンジン停止の合図がなされた後）ライダーからタイムのサインがあっても競技は続行される。

7）予選・決勝におけるスタート位置の選択

決められた優先順位に従い、グリッドを選択するために、プレパレーションエリアから移動することができる。

一度スタート位置を選択し、グリッドに着いたものはそのスタート位置を変更することはできない。

19 レース

1）レース中の遵守事項は、国内競技規則・第3章［⑬競技参加者の遵守事項］（33頁）による。

2）ピットエリア内で車両整備などに従事するメカニックの数は、2名以内とする。

3）レース中、サイレンサーまたはエキスパンションチャンバーが外れた場合、また破損した場合は、競技役員より当該ライダーに対して黒旗及びゼッケンを記したボードが提示される。提示されたライダーは速やかにピットインし、修理の後、当該競技役員の許可を得て、再出走が認められる。

20 レース後の車両検査

付則18モトクロス競技規則［㉙レース後の車両検査］（204頁）参照。

1）レース終了後、入賞車両は直ちに車検員によって決められた区域内に管理され、暫定結果発表後20分間保管され、必要に応じて検査される。

2）上記車両は、必要に応じて車両重量及び音量が測定され、規定を満たしていない車両の当該ライダーは失格となる。

21 総合順位の決定方法

レースが2ヒートに分かれて行われる場合の総合順位の決定は、以下に記すとおりとする。

1）1ヒート、2ヒートの合計得点が多い者。

2）上記1）で決定できない場合は、2ヒート目の成績を優先する。

22 抗　議

付則18モトクロス競技規則［㉛抗議］（204頁）および国内競技規則第3章［㉚抗議］（39頁）による。

1）抗議は、暫定結果発表後20分以内（全日本選手権以外では30分以内）に当該ライダー及びエントラント代表者だけが行うことができる。

23 本規則の解釈

本規則及び競技に関する疑義は、大会事務局あてに質疑申し立てできる。なお、この回答は大会審査委員会の決定を最終的なものとする。

24 本規則の施行

本規則は、各大会出場申し込み受付日より有効とする。なお、本規則に示されていない事項は、国内競技規則・付則18モトクロス競技規則による。

附則

国別対抗世界選手権　モトクロス・デ・ナシオン

標記競技会の、日本代表選手選考規定は以下のとおりとする。

日本代表選手選考委員会を設置し、代表選手を選抜する。

1）選考委員会

選考委員会のメンバーはモトクロス委員長・副委員長・選手会・プレス代表・有識経験者（オブザーバー）・MFJ事務局で構成する。

尚、選考委員の関係者が選考対象となった場合、当該委員の代理を選考委員会が選出する。

2）選考委員会審議事項

1．コンセプトについて。

2．選手選考について。

3．日本チーム監督の選任について。

4．出場費用について。

5．日本チーム体制発表について。

6．MFJ事務局活動について

3） 選手選考について

全日本選手権の成績を参考にして海外で活躍中の選手も含めて選考する。又該当選手に負傷等の理由により出場が難しくなった場合補欠ライダーが出場する。

但し日程等の関係から車両の変更が出来ない場合は同系列メーカーの選手を選考する。

4） 団長・監督に選任について

①団長　　MFJモトクロス委員会より選任される。

任務　日本チーム全体の総括。

②監督　　選考した選手の属するチーム監督または選考委員会より選任される。

任務　出場決定後の選手及びチームのマネージメント。

5）トレーナー等の選任について

当該選手のチーム監督及びデ・ナシオン日本チーム監督の意見を参考に選考される。

6） 権限について

デ・ナシオンチーム選抜に関する全ての権限はMFJモトクロス委員会及びデ・ナシオン選考委員会に委ねられる。

※尚、モトクロス・デ・ナシオン選考委員会は当該年度の第１回モトクロス委員会前に結成され、モトクロス委員会に承認される。

選考委員会は第１回モトクロス委員会承認後開催され、当該年の体制を決定する。

2002年全日本モトクロス選手権大会特別規則

2002年 MFJ全日本モトクロス選手権シリーズ カレンダー

開催日	大会名	出場申込先	開催場所	出場申込期間	チャレンジクロス枠
4月13日(土) 〜 4月14日(日)	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第1戦 近畿大会	MFJ近畿支部 〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀1-7-14 ☎06（6534）6422	奈良県 名阪スポーツランド	3月5日(火) 〜 3月14日(木)	○
4月27日(土) 〜 4月28日(日)	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第2戦 関東大会	MFJ関東支部 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-5 アルス新大塚202号　☎03（3971）0022	茨城県 自動車安全運転センター	3月19日(火) 〜 3月28日(木)	○
5月11日(土) 〜 5月12日(日)	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第3戦 中国大会	MFJ中国支部 〒733-0031 広島県広島市西区観音新町1-18-9 広島県二輪車安全普及協会内　☎082（295）6994	広島県 グリーンパーク弘楽園	4月2日(火) 〜 4月11日(木)	○
5月25日(土) 〜 5月26日(日)	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第4戦 九州大会	MFJ九州支部 〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-11-9 メゾンド水巻1F-B　☎092（473）2616	熊本県 HSR九州	4月16日(火) 〜 4月25日(木)	○
6月8日(土) 〜 6月9日(日)	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第5戦 SUGO大会	SUGOスポーツクラブMX係 〒989-1394 ☎0224（83）3127	宮城県 スポーツランドSUGO グランプリコース	4月30日(火) 〜 5月9日(木)	−
7月6日(土) 〜 7月7日(日)	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第6戦 北海道大会	MFJ北海道支部 〒011-0925 北海道札幌市北区新川5条20丁目1-20 新川地区工業団地内　☎011（768）3988	北海道 わっさむサーキット	5月28日(火) 〜 6月6日(木)	−
7月20日(土) 〜 7月21日(日)	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第7戦 東北大会	藤沢町モータースポーツ協会 〒029-3405 岩手県東磐井郡藤沢町徳田字大望沢37-10 藤沢町B&G海洋センター内　☎0191（63）3333	岩手県 藤沢スポーツランド	6月11日(火) 〜 6月20日(木)	○
9月7日(土) 〜 9月8日(日)	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第8戦 近畿大会	MFJ近畿支部 〒550-0012 大阪市西区立売堀1-7-14 ☎06（6534）6422	奈良県 名阪スポーツランド	7月30日(火) 〜 8月8日(木)	○
10月12日(土) 〜 10月13日(日)	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第9戦 中国大会	MFJ中国支部 〒733－0031 広島県広島市西区観音新町1-18-9 広島県二輪車安全普及協会内　☎082（295）6994	広島県 グリーンパーク弘楽園	9月3日(火) 〜 9月12日(木)	○
10月26日(土) 〜 10月27日(日)	第40回モトクロス日本グランプリ MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第10戦	SUGOスポーツクラブMX係 〒989v1394 ☎0224（83）3127	宮城県 スポーツランドSUGO グランプリコース	9月17日(火) 〜 9月26日(木)	○

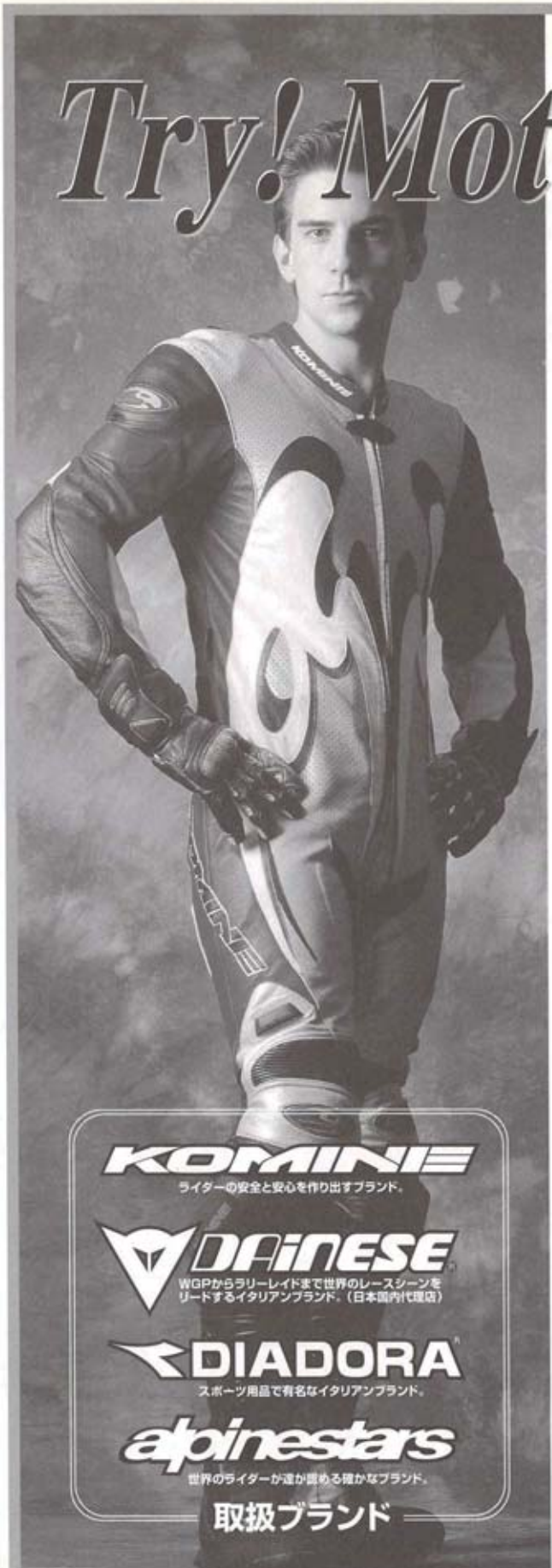
※スポーツランドSUGOへの郵便物は郵便番号と宛て名のみで届きます。

※レディスクラブは全戦開催。

2002年 モトクロス主要競技会 カレンダー

開催日	大会名	出場申込先	開催場所
9月15日（日）	アジアモトクロス選手権 日本大会 MFJオフロード全国大会	（財）日本モーターサイクルスポーツ協会 〒104－0045 東京都中央区築地2-11-24 第29興和ビル別館7F　☎03（5565）0900	宮城県・スポーツランドSUGO

開催日	大会名	開催場所
9月29日（日）	2002モトクロス・デ・ナシオン	ベルギー・スパフランコルシャン



Try! Motor Sports

**成功と達成を現実にするパートナー
としてコミネは夢を追い続け、
チャレンジする人を応援します。**

全てのライダーをサポートするコミネショップ

国内販売代理店一覧

■オートランド札幌
Tel.011(892)3323
■水戸コミネオートセンター
Tel.029(231)2536
■ライコランド
●千葉店
Tel.0471(93)4182
●埼玉店
Tel. 047(723)8211
●多摩店
Tel. 047(723)8211
■しゃぼん玉
●本店
Tel. 05617(2)7050
●名古屋店
Tel. 052(369)0018
■SEED
●岡崎店
Tel. 0564(26)4786
●豊田店
Tel. 0565(37)7717
■レオタニモト レオナ店
Tel. 075(312)0051
■Buell レオ
Tel. 075(721)0051
■サイクルワールド
●神戸本店
Tel. 078(742)1200
●明石店
Tel. 078(928)3232
●姫路店
Tel. 0792(35)3411
■ファミリーユサ
●小倉店
Tel. 093(581)1331
●黒崎店
Tel. 093(621)1333
●二輪館比恵店
Tel. 092(471)1331
●福岡東店
Tel. 092(624)1331
■バイクランド フタバ
Tel. 096(371)1168
■GOGGLE
Tel. 099(254)5064

※代理店名は、北より並べております。

KOMINE
ライダーの安全と安心を作り出すブランド。

DAINESE
WGPからラリーレイドまで世界のレースシーンをリードするイタリアンブランド。(日本国内代理店)

DIADORA
スポーツ用品で有名なイタリアンブランド。

alpinestars
世界のライダーが認める確かなブランド。

取扱ブランド

http://komine.ac

KOMINE

株式会社コミネオートセンター

〒111-0056 東京都台東区小島2-20-11
TEL03(3862)9811(代) FAX03(3866)5134(代)

2002年度 コミネ総合カタログ

ご希望の方は、上記本店に住所・氏名・電話番号を明記したメモと切手700円分を同封の上、郵送にてお申し込み下さい。

付則20 モトクロス基本仕様

以下に規定する基本仕様は、モトクロス競技を行う上で必要とされる基本規則であり、モトクロスの全ての車両及び競技会に適用される。
カテゴリー別に必要とされる詳細な仕様に関しては、各カテゴリー別仕様が適用される。

1 カテゴリー

1-1 レーサークラス
レース専用に生産された車両

1-2 スポーツプロダクション
市販レーサーを除く一般市販車をベースとしてレース用に改造された車両

2 排気量の算出方法

2-1 総排気量は、シリンダーの容積を測定するのに用いられる幾何学公式に従って計算される。
すなわち直径はボアによって表され、高さはピストンがその最上部から最下部まで移動するのに占めるスペースで表される。

2-2 公式
総排気量＝（D×3.1416×C÷4）×気筒数
D=ボア　C=ストローク　単位=cm　小数点以下4桁で切り捨て

2-3 測定の際には、ボアに1/10mmまでの許容誤差が認められる。この許容誤差を考慮しても排気量が当該クラスのリミットを越える場合、エンジンが冷めた状態で再測定が1/100mmのリミットまで行われる。

2-4 シリンダーのボアが真円でない場合、断面積を測定し、計算することとする。

2-5 全てのカテゴリーにおいて、スーパーチャージは禁止される。

3 一般的なアイテム

3-1 材質

フレーム、フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアーム・スピンドル、およびホイール・スピンドルにチタニウムを使用することは禁止される。ホイール・スピンドルに関しては、軽合金の使用も禁止される。チタニウム合金製のナットとボルトの使用は許可される。

3-2 フレームの定義

3-2-1 フレームとは図（224頁）で示すとおり、エンジンが取り付けられている部分を中心にステアリング取り付け部分とリヤサスペンションの取り付け部を含む構造全体をいう。

3-2-2 シートを取り付けるためのサブフレームは、フレーム本体に溶接されている場合はフレームとみなし、ボルトオン（脱着可能）のものはフレームとみなさない。

3-3 スタート装置

スタート装置は義務づけられる。

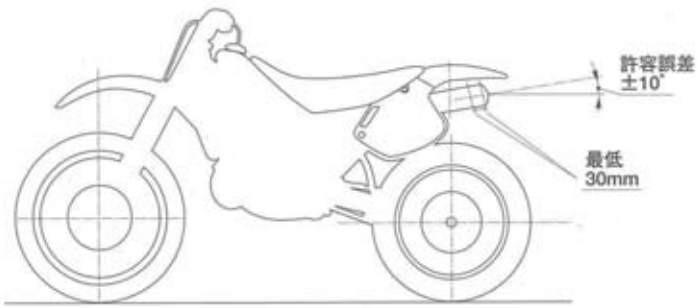
3-4 エキゾースト・パイプ

3-4-1 エキゾースト・パイプとサイレンサーは、音量規制に関する必要条件をすべて満たさなくてはならない。

3-4-2 エキゾースト・パイプの先端は、最低30㎜にわたってモーターサイクルの中心軸と水平かつ平行でなくてはならない。（許容誤差±10°）**またその先端は５㎜以上サイレンサー本体より突出してはならない。全ての鋭利な部分は最低半径２㎜以上で丸みを帯びさせていなければならない。下図参照**

3-4-3 排気ガスは後方に排出しなければならないが、ほこりを立てたり、タイヤやブレーキを汚したり、またパッセンジャーや他のライダーに迷惑をかけるような放出の仕方をとってはならない。後続ライダーに迷惑をかけないようにするために、オイルの飛散を防ぐ措置を施さなくてはならない。

3-4-4 エキゾースト・パイプの後端は、リヤ・タイヤの垂直接線より後ろにあってはならない。



3-5 ハンドルバー

3-5-1 ハンドルバーの幅は、600㎜未満でも850㎜を越えてもならない。

3-5-2 ハンドルバーには、クロスバーの上に保護パッドを取り付けなくてはならない。クロスバーがない場合、ハンドルバーの中央にハンドルバークランプを広くカバーするパッドを取り付けなくてはならない。

3-5-3 ハンドルバーの先端が露出される場合は、固形物質を詰めるか、ゴムでカバーされていなければならない。

3-5-4 ハンドルをいっぱいに切った時にハンドルバー（レバー類含む）とタンクの間に最低30㎜のすき間を設けるためにハンドルストッパー（ステアリングダンパー以外のもの）を、取り付けなくてはならない。

3-5-5　ハンドルバー・クランプは、ハンドルバーが折れやすい部分ができないように、慎重に丸みをつけて製作しなくてはならない。
3-5-6　ハンド・プロテクターが使用される場合には、非粉砕材質でなくてはならない。
3-5-7　軽合金ハンドルバーの溶接による補修は禁止される。

3-6 コントロールレバー

3-6-1　すべてのハンドルバー・レバー類（クラッチ、ブレーキ等）は、原則として端部がボール状（このボールの直径は最低19㎜）でなくてはならない。このボールを平たくすることも認められるが、どのような場合も端部は丸くなっていなくてはならない（この平たくした部分の厚みは最低14㎜とする）。レバー端部はレバーと一体構造に固定されなくてはならない。
3-6-2　コントロール・レバー（ハンドおよびフット・レバー）はそれぞれ独立したピボットを持っており、そのレバー自体のピボットにマウントされていなくてはならない。
3-6-3　ブレーキ・レバーがフットレストの軸に設けられる場合、どのような状況においても作動できなくてはならない。例えば、フットレストが曲がった、あるいは変形したというような状況においても作動できなくてはならない。

3-7 スロットルコントロール

3-7-1　スロットルコントロールは、手を離した時に自動的に閉じるものでなくてはならない。
3-7-2　モーターサイクルには有効なイグニッション・キルスイッチ、又はボタンがハンドルバーの右か左（ハンドルグリップを握って届く位置）に設けられなくてはならない。このスイッチは始動しているエンジンを停止できなくてはならない。

3-8 フットレスト

3-8-1　フットレストの先端には最低半径８㎜の、一体構造のプロテクションが設けられていなくてはならない。(221頁図E参照)
3-8-2　フットレストは折りたたみ式でもよいが、この場合は自動的に元の位置に戻る仕組みになっていなくてはならない。
3-8-3　フットレストが折りたたみ式でない場合、及びゴムのカバーを装着していない場合は、その先端を最低半径８㎜以上の球状に丸められていなくてはならない。

3-9 ブレーキ

すべてのモーターサイクルは、最低２つの効果的なブレーキ（各ホイールにひとつ）がなくてはならず、これは独立してホイールと同心的に作動しなくてはならない。

3-10 マッドガードおよびホイールプロテクション

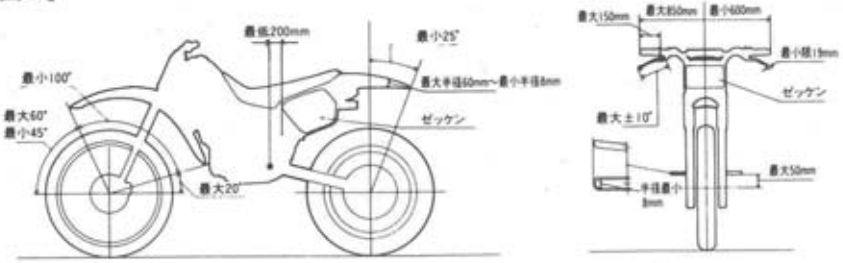
3-10-1　マッドガードはタイヤの両側方に張り出していなくてはならない。
3-10-2　フロント・マッドガードは、ホイールの周囲を最低100°にわたってカバーしていなくてはならない。マッドガードの前端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は45°と60°の間でなくてはならない。マッドガードの後端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線が作り出す角度は20°を越えてはならない。(221頁図E参照)
3-10-3　リヤ・マッドガードは、リヤホイール・スピンドルを通る垂直線から25°の角度で後方

に引かれる線よりも後方まで及んでいなくてはならない。

3-10-4　マッドガードの後端は丸められていなくてはならず、この丸め方は最低半径８㎜で、かつ半径60㎜を越えてはならない。

3-10-5　キャストホイール、または溶接されたホイールが使用される場合には、頑丈なディスクでスポークを覆う形でプロテクションが施されなくてはならない。

［図E］



3-11 フェアリング

フェアリング（カウリング等空気整流効果のあるもの）の装着は禁止される。

3-12 ホイールリム、タイヤ

メーカー出荷時の一体構造ホイール（キャストホイール、モウルドホイール、リペットホイール）、又はリムに対しては、スポーク、バルブ又は安全ボルト以外へはいかなる改造も禁止される。ただし、タイヤがリムから外れることを防ぐために使用されるビードストッパーは例外とする。

3-13 モトクロスタイヤ

3-13-1　使用されるタイヤの種類に制限はない。

3-13-2　スクープまたはパドル（横断面に連続したリブを持つ）タイヤ、あるいは高さが19.5㎜以上のラグ（ブロックの高さ）を持つタイヤの使用は禁止される。

3-13-3　外観および外面的な寸法は制限されない。

3-13-4　タイヤ表面に後から滑り止めスパイク、特殊チェーン等の装置を取りつけることは禁止される。

3-14 ナンバープレート

3-14-1　ナンバープレートは長方形で頑丈な材質で出来ていなくてはならない。最低寸法は285㎜×235㎜とする。

3-14-2　プレートは平面から50㎜以上カーブ（突出）していてはならない。またカバーされたり曲げたりされてはならない。

3-14-3　フロントナンバープレート
一枚のプレートがフロントに、垂直面から後方に向かって30°以内の角度で傾斜して固定されなくてはならない。ナンバープレートには数字の間に穴を開けてもよいが、いかなる場合においても、数字自体に穴を開けてはならない。

3-14-4　サイドナンバープレート
サイド・ナンバープレートは、リヤホイール・スピンドルを通る水平線より上に設けられ、ナンバープレートの前端はライダーのフットレスト後方200㎜のところを通る垂直線より後方に位置していなくてはならない。ナンバー・プレートは、はっきりと見える

ように装着されなくてはならず、モーターサイクルの一部分や、シートに座ったライダー自身により隠れないようにしなくてはならない。

3-14-5 全日本国際A級トランスポンダーを使用する場合のナンバープレート

・フロントナンバープレートはメッシュ地のプレートが認められる。

・ナンバープレートへの広告・縁取り（スポンサーマーク表示）

フロント及びサイドナンバープレートへの広告（スポンサーマーク表示）はナンバープレートの上から50㎜までのスペースに認められる。また数字の上下1㎝およびナンバープレート内で最低50㎜のフリースペースが設けられていなければならない。

3-14-6 別個のナンバープレートを装着する代わりに、ボディーに同寸法のスペースをつや消し色でペイントするか、あるいは固定してもよい。

3-14-7 数字ははっきり読めるように、また太陽光線の反射を避ける為に、地の色同様につや消しで書かれなければならない。数字の最低寸法は下記の通りとする。（形状は図１を参照）

数字の高さ	140㎜	ストローク幅	25㎜
数字の幅	80㎜	数字間のスペース	15㎜

図１

3-14-8 数字は英国式を使用する。「１」は垂直の１本線「７」は水平のラインなしの単純な傾斜線。

3-14-9 正規のナンバーと混同する恐れのあるその他のナンバープレート、またはマーキングは競技会の開始前にすべて取り外されなくてはならない。

3-14-10 すべてのナンバープレートの周囲には、最低50㎜の余白が残され、ここにはいかなる広告も表示されてはならない。この規則に適合していないナンバー・プレートを装着しているモーターサイクルは、車検長によりレース参加の許可を得ることができない。

3-14-11 ナンバープレートの色

ナンバープレートの地色及び数字の色は下記のとおりとする。

ジュニア……赤地に白文字　レディス……白地に黒文字

国内Ｂ級……白地に黒文字　国内Ａ級……黄地に黒文字

国際Ｂ級……紺地に白文字　国際Ａ級250……赤地に白文字

国際A級125……黒地に白文字

その他、ナンバープレートの地色および数字の色について、モーターサイクルのクラスや競技の形式などによって変わる場合があり、大会特別規則によって示される。

4 燃料、燃料／オイルの混合液

4-1 すべての車両にはMFJの定める無鉛ガソリンを使用しなくてはならない。（AVガス・航空機用燃料の使用は禁止される）

4-2 競技に使用できるガソリン

競技に使用できるガソリンは下記の項目のすべてに合致していなくてはならない。

① 競技用ガソリンとは一般公道用の市販車に供するために通常のガソリンスタンドにて購入できるもの、あるいはMFJ公認サーキットのガソリンスタンドにて購入できるガソリンとする。

② 競技用ガソリンは下記のMFJの定める仕様以内（無鉛ガソリン）に制限される。
（AVガス、航空機用ガソリン等は使用できない）
鉛の含有量は0.013 g/l以下であること。
リサーチオクタン価が100.0（RON）、モーターオクタン価が89.0（MON）以下であること。
密度は15℃において0.725 g/ml～0.780 g/mlであること。

③ 競技用ガソリンには販売時に混入されている以外のいかなるものも添加されてはならない。ただし一般に販売されているスタンダードの潤滑油および1.5％以下のアルコール（燃料精製中に混入されているものに限る）については認められる。

④ 水冷エンジンの冷却水は、水あるいは水とアルコールの混合物に限られる。

4-3 大会特別規則（全日本モトクロス特別規則等）により、ガソリンの銘柄および供給方法が指定される場合、それに従わなくてはならない。

5 音量規制

5-1 計測のためのマイクロフォンの位置は排気管後端から500㎜で、かつ中心線から後方45°で排気管と同じ高さとするが、少なくとも地面から20㎝上方でなくてはならない。もしこれが不可能な場合、計測は45°上方で行ってもよい。

5-2 ノイズテストの際、ギヤ・ボックスにニュートラルがないマシンは、スタンドに載せた状態で測定を受けなくてはならない。

5-3 規制に適合しているサイレンサーには車検にてマークが付けられ、車検後にサイレンサーを変更する事が禁止される。ただし同様に車検合格し、マークを受けたスペア・サイレンサーに関しては例外とする。

5-4 ギヤはニュートラルとしてエンジンを回転させ、所定のrpm域に達するまでエンジンの回転を増していかなくてはならない。測定は、所定のrpmに達した時に行うものとする。

5-5 現在のモトクロス車両は排気量ごとに、エンジンストロークはほぼ同等と見なされるので、測定は下記の固定回転数で実施する。

85ccまで	8,000rpm	250ccを超え500ccまで	4,500rpm
85ccを超え125ccまで	7,000rpm	500ccを超える	4,000rpm
125ccを超え250ccまで	5,000rpm		

5-6 ２気筒以上のエンジンの音量計測には、各エキゾースト・パイプの先端で測定される。

5-7 規制値をオーバーしているマシンは、レース前車検において再度測定を受けることができる。

5-8 現行の音量規制値
最大98dB/Aとする。

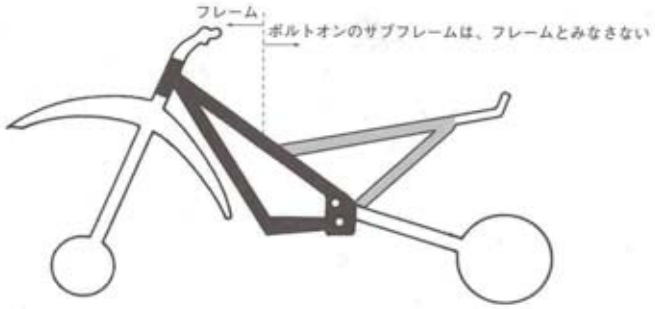
5-9 周辺の音量は、モーターサイクルから半径５m以内において90dB/Aまでとする。

5-10 音量測定は気温20°を基準とする。気温10°以下の場合許容誤差＋１dB/Aが認められる。気温０°以下の場合許容誤差＋２dB/Aが認められる。

5-11 レース後の最終検査においては、２dB/Aの許容誤差が認められる。

5-12 メーターの読み方は常に切捨てとする。（100.9dB/A＝100dB/A）

フレームの基本骨格



6 テレメトリー

動いているモーターサイクルへ情報を伝える、または動いているモーターサイクルから情報を得ることは禁止される。
マシンには、公式シグナリング・デバイスの搭載が必要とされる可能性もある。
自動ラップ計時デバイスは“テレメトリー”とはみなされない。
自動ラップ計時デバイスは、公式計時方式、および装備を妨げてはならない。

7 重量

クラス	2ストローク	4ストローク
85cc	65kg	—
125cc（4ストローク250cc以下）	88kg	88kg
250cc（4ストローク550cc以下）	98kg	98kg

付則 21

国内モトクロスの仕様

(国際B級、国内A級、国内B級、ジュニア、レディス)

MOTOR CROSS

市販レーサーを基本に参加者のコストを抑制、安全性の保持、更に公平性を維持しながらハイレベルなレースを指向し全ての参加者が充足感を得られるレースとすることを基本理念とする。

1 クラス区分

クラス	エンジン排気量		最多気筒数	最多変速段数	国際B級 国内A・B級	ジュニア ・レディス
	2ストローク	4ストローク				
85	51cc～85cc	—	1	6	×	○
125	～125cc	～250cc	1	6	○	×
250	150～250cc	251～550cc	1	6	○	×

2 出場車両

国内A級、国内B級、ジュニア、レディス

車両は一般市販レーサー、または一般生産型車両としMFJが公認したもの。

国際B級

車両は一般市販レーサー、またはオフロード専用車としMFJが公認したもの。

国内A級、国内B級及び国際B級共通項目

車両は国内競技規則及びモトクロス基本仕様に示されているすべての条件に適合していること。

3 車　重

1）各クラスの最低車両重量は半乾燥重量で下記のとおりとする。

85ccクラス　65kg
125ccクラス　88kg
250ccクラス　98kg

半乾燥重量とは走行可能な状態から燃料を抜いた値とする。
ダミーウエイトによる車重の調整は認められない。
レース後の計測においては１％の許容誤差が認められる。

4 音　量

1）音量の測定はFIM方式で測定する。
　測定手順についてはモトクロス基本仕様を参照。
2）２ストローク車は下記エンジン回転数で測定し音量は98dB/A以下でなければならない。

85ccまで	8,000rpm
85ccを超え125ccまで	7,000rpm
125ccを超え250ccまで	5,000rpm
250ccを超え500ccまで	4,500rpm
500ccを超えるもの	4,000rpm

3）４ストローク車の音量は94dB/A以下とする。
　※全日本選手権に出場する車両（国際A・B級）の音量は98dB/A以下とする。
　（全日本開催期間内に限る）
　付則19全日本モトクロス選手権大会特別規則11出場車両（208頁）参照。

5 互換性

1）フレームの打刻型式とエンジン打刻型式のいずれも同一モデル内にあたっては、一切の追加工無しで単品、またはアッセンブリーで組み付け可能な部品については相互に互換が認められる。
2）下記の部品は同一メーカーかつ公認車両同士で相互に互換性があれば流用することが認められる。
　①ミッションアッセンブリーまたは単品
　②フロントフォークアッセンブリーまたは単品
　③リヤサスペンションユニットまたはリンク関係
　④リヤフォークアッセンブリーまたは単品
　⑤キャブレター
　⑥シリンダーコンプリート
　⑦シリンダーヘッドコンプリート
　⑧ピストン及びピストンリング

6 公認部品

公認部品として下記の部品またはアッセンブリーが認められる。
1）ミッションギヤセットまたは単品
2）フロントフォークアッセンブリーまたは単品
3）アッパーブラケット・アンダーブラケットアッセンブリーまたは単品
4）リヤサスペンションユニットアッセンブリー
5）リヤフォークコンプリート
6）キャブレター
7）シリンダーコンプリート
8）シリンダーヘッドコンプリート
9）カムシャフト
10）バルブ
11）ピストン・ピストンリング
12）クラッチバスケット・プライマリードライブ
　注）部品公認申請条件を満たしていること。

7 燃　料

1）燃料はMFJが定める無鉛ガソリンを使用しなければならない。
　詳細はモトクロス基本仕様④燃料、燃料／オイルの混合液（222頁）を参照。
2）大会特別規則（全日本モトクロス特別規則等）により、ガソリンの銘柄及び供給方法が指定される場合、それに従わなくてはならない。

8 マシン仕様

以下に明記されていない全てのアイテムについては、MFJが公認した状態の仕様でなければならない。

但し、5条及び6条に適用できる項目はその条項に従って変更してもよい。

1）フレームボディー・リヤサブフレーム

フレームは公認車両として製造メーカーが製作した状態のものでなくてはならない。（以下公認車両の状態でなくてはならない、という）

フレームには製造メーカーの車両識別番号（シャーシ・ナンバー）が刻印されていること。

フレームボディーへの追加、削除は一切認めない。

但しサイドスタンドブラケットの削除及びエンジンガードプレートを追加するためのフレームへの改造及び補修を目的とするフレームへのガゼット追加は認められる。（詳細は項目22）を参照）

ボルトオンタイプのリヤ・サブフレームは同一車両メーカーで且つ公認車両同士であれば相互流用することが出来る。

塗装方法に制限はないが、フレーム、サブフレームへの研磨は許可されない。

2）フロントフォーク

フロントフォークは公認車両の状態でなければならない。但し同一車両メーカーで且つ公認車両同士であればボルトオンタイプに限り相互流用することが出来る。

フォークスプリングは変更してもよい、またスプリングの長さを調整するためのカラーを追加してもよい。

フォーククランプに対するフロントフォークの高さと位置は変更することができる。

3）リヤフォーク（スイングアーム）

リヤフォークは公認車両の状態でなければならない。

チェーンガイド（スリッパーを含む）は変更または補強してもよい。

4）リヤサスペンションユニット

リヤサスペンションユニットは公認車両の状態のままでなければならない。

リヤサスペンションのスプリングは変更してもよい。

リヤサスペンションリンケージは公認車両の状態でなければならない。

但し同一車両メーカーで、且つ公認車両同士であればボルトオンタイプに限り相互流用することができる。

5）ホイール／タイヤ

ホイール／タイヤホイールは一般市販型ホイールと交換してもよい、但しホイールの構造は公認車両と同じものでなければならない。

タイヤサイズは規制しない。

スプロケット（エンジンスプロケット及びリヤスプロケット）は変更してもよい。

ドライブチェーンはサイズを含め自由とする。但し変更する場合はサイズ及び強度がスタンダードと同等かそれ以上のものでなければならない。

その他詳細についてはモトクロス基本仕様を参照。

6）ブレーキ

ブレーキディスクは変更してもよい。（雨天用、ドライ用）

油圧ブレーキラインは変更してもよい。

ブレーキパッドは変更してもよい。

ブレーキディスクカバーは取り付けても、取り外してもよい。

ブレーキレバー及びブレーキペダルは変更してもよい。

その他モトクロス基本仕様を順守する。

7）フットレスト

フットレストは改造して位置を変更してもよい、但しフットレストブラケットの位置は公認車両の状態でなければならない。

フットレストは溶接により補強してもよい。

その他詳細はモトクロス基本仕様を参照。

8）ハンドルバー／ハンドコントロール

ハンドルバー及びハンドルグリップは変更してもよい。

ハンドルバーを変更する為にアッパーブラケット及びアンダーブラケットアッセンブリーの変更は認められる。但し、変更される部品はMFJ公認部品でなければならない。

ハンドルバーとハンドコントロールの位置は変更してもよい。

ケーブル（クラッチ、スロットル）は変更してもよい。

クラッチレバーは変更してもよい。

その他詳細についてはモトクロス基本仕様3-5、3-6及び3-7を参照。

9）マッドガード（フェンダー）／サイドカバー（ゼッケンプレートを含む）

マッドガード及びサイドカバーは変更してもよい、但しカーボンファイバーの使用は禁止する。

変更するマッドガード及びサイドカバーの外観形状は基本的に公認車両の状態と同等でなければならない。

その他詳細についてはモトクロス基本仕様3-10を参照。

10）フュエルタンク

フュエルタンクは公認車両のものでなければならない。

フュエルコック及びフュエルラインは変更してもよい。

フュエルベントラインは変更してもよい。

11）シート

シートはライダーに合わせて変更してもよい、また形状も変更しても良い。

12）ラジエーター

ラジエーターは公認車両の状態のものでなければならない。

13）エアーボックス（**国際B級は付則21国際B級の仕様参照**）

エアーボックスは公認車両の状態のものでなければならない。

エアーフィルター・エレメントは変更してもよい。

雨天時の防水防泥対策は許可される。

14）キャブレター

キャブレターは公認車両のものを使用しなければならない。

キャブレターのセッティングは取り外し可能なセッティングパーツ（ジェット、ニードル、スロットルバルブ、バルブスプリング等）により使用状況に適したセッティングに変更することが出来る。

15) シリンダーヘッド（**国際Ｂ級は付則21国際Ｂ級の仕様参照**）
シリンダーヘッドは公認車両のものでなければならない。但し、５条及び６条に準ずるものはその限りではない。
シリンダーヘッドに材質を追加したり機械加工で取り除いたり、改造してはならない、但し各ポートまたは燃焼室のカーボン除去程度のポーリッシングは認められる。
シリンダーヘッドガスケットは一般市販のものと変更してもよい、ガスケットの厚さも変更してもよい、ガスケットの変更による圧縮比の変更は認められる。
４ストローク車両のバルブはMFJの公認部品との変更は認められる。但し材質は公認車両のものと同じ材質でなければならない。
４ストローク車両のバルブスプリングは変更してもよい、但し材質は公認車両のものと同じ材質でなければならない。
16) カムシャフト／カムスプロケット（４ストローク車）
カムシャフトはMFJの公認部品との変更は認められる。
カムスプロケットは公認車両のままでなければならない、但しボルトオンタイプのものでタイミングを変更出来るものは、その範囲内でタイミングの変更は許可される。
カムチェーン及びカムチェーンテンショナーの変更はしてもよい。
17) クランクシャフト
クランクシャフトは公認車両の状態のものでなければならない。
18) コンロッド
コンロッドは公認車両の状態のものでなければならない。
19) ピストン
ピストンは公認車両のものでなければならない。
但し４ストローク車の場合はMFJの公認部品との変更は認められる。
20) ピストンリング
ピストンリングは公認車両の状態のものでなければならない。
但し４ストローク車の場合はMFJの公認部品との変更は認められる。
21) シリンダー（**国際Ｂ級は付則21国際Ｂ級の仕様参照**）
シリンダーは公認車両のままでなければならない。
但し各ポートのバリ取りやカーボン除去程度のポーリッシング（過度な表面磨きによる寸法の変更は認められない）は認められる。
２ストローク車のリードバルブAssyは変更または交換しても良い。
シリンダーヘッドとの合わせ面（上面）の歪み是正のための表面仕上げは許可される。
（歪みの目安は0.05mmを限度とする）
22) クランクケースと他のエンジンカバー（ゼネレーターカバー・クラッチカバー）
クランクケースは公認車両の状態でなければならない。
クランクケース／ギヤボックス／クラッチカバー／ゼネレーターカバーを保護する目的で追加としてガードプレートを取りつけることができる。
ガードプレートを追加するためのフレームへの改造は許可される。
ガードプレートの材質にはステンレススチール／アルミニウムプレート／カーボン・ケブラー・コンポジット等を使用することができる。
23) トランスミッション／ギヤボックス
トランスミッション/ギヤボックスは公認車両のままでなければならない。
但しMFJ公認部品又は５条に適用したものとの変更は認められる。
カウンタースプロケットの変更は許可される。

チェンジレバー（ペダル）は変更してもよい。
キックレバーは変更してもよい。

24）クラッチ
クラッチは公認車両の状態のままでなければならない。
但し下記部品は変更することができる。
フリクション・プレート
クラッチ・プレート
クラッチスプリング
4ストローク車のクラッチ・バスケット（アウター）、及びプライマリードライブギヤはMFJの公認部品と変更することが出来る。

25）イグニッション／エンジンコントロールシステム
イグニッション／エンジンコントロールシステムは公認車両の状態のものでなければならない。
ワイヤーハーネスの変更は許可されない。但し一般公道用車両のワイヤーハーネスは変更しても良い。
スパークプラグは変更してもよい。
ローター（マグネト）によるイナーシャーの変更はしてもよい。

26）エキゾーストシステム
エキゾーストパイプ及びサイレンサーは変更しても良い。
但し音量規定に適合していること。
その他詳細についてはモトクロス基本仕様3-4を参照。

9 各部の仕上げ調整

各部の仕上げ調整とは、公認車両時の基本仕様を変更することなく各製造メーカーがマニュアルで指示している仕上げ調整をいう。

10 公認車両から変更、交換できるもの

1）潤滑油、ブレーキオイル、サスペンションオイル。
2）ガスケットとガスケットの材質。
3）カバー、ケース等のボルト、ナット。
4）ペイントの色、デカール。

11 追加の装備

下記装置は基本的に使用することが禁止される。
1）テレメトリー
2）その他データ収集装置

付則21－1　国際B級の仕様

1 マシン仕様

1）エアーボックス

エアーボックスは変更、改造してもよい、エアーボックスの材質は自由とする。

2）シリンダーヘッド

シリンダーヘッドは公認車両の状態のものとし、下記改造が許可される。

①シリンダーヘッドの各ポート及び燃焼室に関しては通常のチューニングして施されるポーティングまたはポリッシングは許可される

②シリンダーヘッドガスケット面の表面加工は許可される。

③圧縮比は変更しても良い（但し２ストローク車の一次圧縮比は変更出来ない）

3）シリンダー

シリンダーは公認車両の状態のものとし、下記改造が許可される。

①２ストローク車における通常のチューニングとして施される各ポートのポーティングまたはポリッシングは許可される。

また、ポーティングによるポートタイミングの変更も許可される。

② シリンダーベース面の表面加工は許可される。

その他の仕様は国内モトクロス仕様に準ずる。

4）エキゾーストシステム

①エキゾーストパイプ及びサイレンサーは変更しても良い。

②チタニウム製の材質を使用しても良い。

付則21－2　50cc部門の仕様について

1 基本理念

モーターサイクルスポーツの入門クラスとして参加者のコスト抑制・安全性の保持とともに公平性を維持し、誰もが楽しめ充足感を得られるクラスとすることを基本理念とする。

2 クラス区分

クラス	エンジン排気量	最多気筒数
50	～50cc	1

3 出場車両

1）　車両はMFJ公認車両でなければならない。

4 公認車両に対し、下記以外の改造、変更は認められない。

・タイヤの変更（サイズ変更は不可）
・スパークプラグの変更
・ハンドルグリップの変更
・シートの変更
・ペイント、デカールの変更
・潤滑油、サスペンションオイルの変更
・キルスイッチの変更
・ステップの変更（但し一切の追加加工は認められない）
・メインジェットの変更（但しメーカーの出荷する純正部品に限る）

注意事項

マフラーはノーマルに限る。（製造時の溶接以外の溶接（加工）のあるものは、一切認められない）
キャブレーター口径、変更、改造は一切認められない。
スプロケットの変更は認められない。
ボアアップは認められない。

車検方法

・外装のチェック
・他より車両に関する抗議がある場合は、当該ライダーのピットクルーが車検場にてキャブレーターの分解を行い車検にて検査される。（分解の範囲はキャブレーターのみとする。）

MOTORCYCLE SPORTS RULES

トライアル TRIAL

CONTENTS

▼付則22　トライアル競技規則

1．トライアルの定義……234
2．適用の範囲……234
3．コース……234
4．セクション……235
5．障害……236
6．持ち時間(タイムキーピング)……236
7．練　習……236
8．出場に関する手続き……236
9．技術規則関連……237
10．ペナルティ……238
11．結果の記録……240
12．セクションの閉鎖……240
13．結果と順位……240
14．大会の中断……240
15．同　点……240
16．賞……240
17．抗　議……240
18．本規則の解釈……241
19．本規則の施行……241
付　則……241

▼付則23　2002年全日本トライアル選手権大会特別規則

1．適用の範囲……243
2．セクション……243
3．オブザベーションエンクロージャ……243
4．開催クラス……243
5．参加資格……243
6．出場料および共済会掛金(保険料)……243
7．ゼッケンナンバー……244
8．メカニック……244
9．車両検査……245
10．スタート……245
11．結果の記録(採点カード)……245
12．持ち時間(タイムキーピング)……245
13．セクション……246
14．セクション持ち時間……246
15．ペナルティ……246
16．イエローカード……247
17．賞および得点……247
18．同点……247
19．本規則の施行……247
付則　トライアル・デ・ナシオン選考基準……247
2002年全日本トライアル選手権開催日程……248

▼付則24　トライアル基本仕様

1．カテゴリー……249
2．排気量の算出方法……249
3．一般的なアイテム……249
4．燃料、燃料／オイルの混合液……254
5．音量規制……254
6．テレメトリー……255

▼付則25　国内トライアルの仕様

1．クラス圧分……256
2．出場車両……256
3．公認部品……256
4．マシン仕様……256
5．各部の仕上げ調……256

※2002年度の規則変更点は太字で示されています。

付則22 トライアル競技規則

1 トライアルの定義

トライアルとは、ライダーの技術および正確性が結果の基盤をなす、モーターサイクル競技である。

コースのなかにセクションが配置される。セクションとは走行するライダーの技術が観察され、減点が科される区間である。加えてコースを走行するにあたり、コースの一部分またはコース全体に時間制限が与えられる。

コースはクロスカントリーの地形（小道、田舎道、林道など）で構成されても良いし、インドアに設定されても良い。

2 適用の範囲

国内のトライアル競技会は以下に記す付則18トライアル競技規則、国内競技規則（33～40頁）、および各大会の主催者より配布される大会特別規則（公式通知）によって開催される。

3 コース

競技は大別して、同時にスタートして各セクションを自由にめぐる方式と、コースを定めて順次セクションをめぐる方式がある。大会特別規則（公式通知）で特に定めない限り、コースを定めて順にセクションをめぐる方式が採用される。

コースとはスタート地点から最終ゴール地点まで、定められた順路全体を指す。

コースを定める場合、移動は原則として一方通行となる。例外的に交互通行となる場合、通路を区分けしたり、オフィシャルを配置するなど、安全上の対策がされる。

完走者[1]となるためには、そのライダーの車両が、その車両自身の推進力かライダー自身の努力によって、コース全体を走りきらなくてはならない。セクショントライの順番待ちはコースに含まれる（主催者が特に認めた補助や、認められたショートカットコース[2]の使用は例外的に認められる）。

これに違反した場合、失格となる。

1）距　離

コース全長は、特別規則（公式通知）に記載される。

2）コース指示（コースマーク）

コースはコースマーク（案内矢印）、看板、コーステープによって表示される。

表示されたコースを正確に通らなくてはならない。コースから離れてしまったライダーは、離れてしまった地点からコースに復帰しなくてはならない。

1．完走者：競技を完了した者。順位が認定されるための資格。
2．ショートカットコース：コースをセクション順にまわらずにパドックに戻るための、主催者により設定された通路、近道。

3）コース内での補助

コース上では誰からでも品物を受け取ることができる（セクション内を除く）。ただし車両の補修、部品の交換などの作業はライダー本人がしなくてはならない（全日本選手権ではルールが異なる）。

4）ライダーパドック

主催者の定めるライダーパドック（選手用駐車場）内であれば、車両の補修、部品の交換などであっても、誰からでも補助を受けることができる。

5）コース移動に関する義務

コースの移動は原則として時速20km以下とし、観客の移動を最優先しなくてはならない。

4 セクション

大会のセクション数は、特別規則書（公式通知）に記載される。

すべてのセクションには、セクション番号が明確に表示されている。ライダーはその番号の順序に従って、第1セクションから順にトライしなくてはならない。

すべてのセクションには、“セクション入り口”を「IN」と、“セクション出口”を「OUT」と明確に表示される。

“セクション入り口”と“セクション出口”の間のセクション区間内は、右側がセクションテープ（色の区別はない）または赤色セクションマーカー。左側はセクションテープ（色の区別はない）または青色セクションマーカーによって示される。これらのセクションを示すために使われるテープ、杭、マーカー等すべてを「セクション表示物」と呼ぶ。

セクションを示すのにテープを使用する場合、テープは地上から最低10cm、最高30cmの間の高さに張らなくてはならない。

セクションの幅は、セクションマーカーによって制限される場合1.2m以上、セクションテープによって制限される場合2.0m以上の幅があることを原則とする。

セクション内にいた時間とは、車両のフロントホイールの中心（ホイールスピンドル）が“セクション入り口”の表示を通り過ぎてから、“セクション出口”の表示を通り過ぎるまでの時間をいう。“セクション入り口”“セクション出口”の表示をリヤホイールがフロントホイールより先に通過した場合“失敗”となる。

1）各クラス用ゲート

ひとつのセクションを複数クラスが混走する場合、クラス別専用ゲート[4]を設ける。この場合、各クラスとも当該クラスのゲートを通過しなければならない。

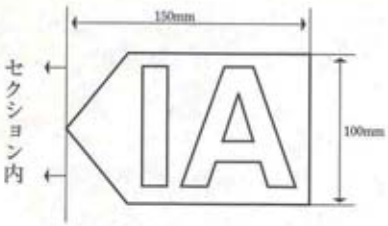
ゲートはクラスを表示した側がイン側、裏側がアウト側である。**ゲートにアウト側から進入**した場合“失敗”となる。

ゲートの示す範囲は、ゲートに示されている矢印の先端と先端の間と解釈する。前輪および後輪は厳密にこの間を通過しなくてはならない。通過の際、ゲートの現状を変化させると“失敗”となる。

他クラス用ゲートは通過しても、通過しなくても良い。しかし、他クラス用のものであってもセクション表示物の現状を変化[5]させると“失敗”となる。

クラスは以下のように示す。

3．“失敗”：セクションの走行技術に関して、もっとも重い減点（5点）。定義は後に述べる。
4．ゲート：セクションを部分的に制限する関門のこと。左右一対のゲートマーカーで表示され、原則的に左右1.2m以上の間隔で制限される。
5．現状の変化：テープ、マーカー、杭などに車両、ライダーが干渉して壊す、たるませる、移動させる、押し倒す、引きちぎる等の行為。



国内B級・ジュニア

ゲートマーカー
クラスは以下のように示す。

国際A級スーパークラス	IAS（赤地に黄色文字）
国際A級クラス	IA（赤地に白文字）
国際B級クラス	IB（緑地に白文字）
国内A級クラス	NA（黄色地に黒文字）
	NB（白地に黒文字）

5 障害

トライ中のライダーが予期しない障害にトライを妨害された場合、セクション審判の判断によって再トライを認めてもよい。

再トライが実施される場合、そのセクションは妨害のあった地点から採点され、その地点までの減点はそのままとする。

6 持ち時間（タイムキーピング）

1）持ち時間

ライダーの持ち時間は特別規則に記載される。すべてのライダーに、完走するための持ち時間が同様に与えられる。

スタート時間に遅れたペナルティは1分まで毎に1点。20分以上の遅れは失格となる。

ゴール時間に遅れた場合、失格となる。（全日本選手権ではルールが異なる）

2）スタート時間管理

スタート時間コントロールは、スタート地点で行われる。

3）ゴール時間管理

特別規則（公式通知）に特別に記載されなかった場合、最終タイムコントロールは最終セクションを出てすぐに、明確に、そして良く見えるように設置される。しかし最終ゴール地点でゴールチェック（車両チェック）を受けるまで、ライダーは競技の管理下にある。

4）セクション持ち時間

セクション個々に持ち時間が設定される場合、持ち時間はどのライダーにも、どのセクションにも同様に与えられ、時間管理の方法とともに特別規則に記載される。持ち時間以内にセクション完走が果たせなかったライダーは、そのセクションに関して“失敗”となる。

7 練　習

設定されたコース中での練習と、セクションでの練習は、大会日以前であっても禁止される。これに違反した場合は失格となる。

大会会場での練習が認められる期間と場所は、特別規則（公式通知）に記載される。

大会期間中に練習することが認められている場所を、ウォーミングアップエリアと呼ぶ。

8 出場に関する手続き

1）大会へのエントリー

出場申し込み方法の詳細は特別規則に記載される。申し込み用紙に必要事項をすべて記入し、定められた出場料、および共済会掛け金を添えて申し込むこと。

締め切り日以降のエントリーは認められない。電話による申し込みなど、定められた以外

の方法は認められない。

受理された車両は、同メーカー同型式の場合を除いて変更できない。しかし競技監督に書類で申し込み、許可が得られた場合は例外とされる。(手数料5,000円)

2）エントリー費用

エントリー費用は特別規則に記載される。

3）ライダー、メカニックのゼッケンナンバー

ライダーおよびメカニックは、主催者から指定されたナンバーを車両検査までに、規定の書体、規定の色分けで記入していなくてはならない。

4）メカニックの登録

メカニックの登録は、全日本選手権にのみ認められている。

5）出場者受付

大会当日にライダーとメカニックの出場資格の確認を行なう。

確認するもの：MFJライセンス、参加受理書

出場者受付の時間は、特別規則（公式通知）に記載される。

9 技術規則関連

1）モーターサイクルの装備

車　　両：車両は国際A級、国際B級は付則24トライアル基本仕様（249頁）に合致した車両。国内A級以下はトライアル基本仕様と国内トライアルの仕様（256頁）に合致したMFJ公認車両でなくてはならない。改造されて型式が判別できない車両は、出場が認められない。

タ イ ヤ：国内A級以下では、MFJ公認タイヤのみ使用することが出来る。

ガソリン：トライアル技術規則に適合するガソリンだけが認められる。

これらの規則に完全に適合しない場合、失格となる。

メカニックの使用する車両は、MFJ公認車両でなくてはならない。

2）ライダーとメカニックの装備

MFJ公認ヘルメットの着用が義務づけられる。MFJ公認ヘルメットには、公認マークが貼付されている。

服装は、下半身は長ズボン、上半身は長袖でなければならない。手袋、および足首以上を保護する突出部分のないブーツなど革靴、またはゴム長靴が義務づけられる。

3）音量規制

競技前に、車両の音量が車両規則に沿って計測される。不合格の車両は、基準に達するまで調整したり、部品を交換することができる。テストに合格したサイレンサーだけがマーキング[6]を受ける。

音量の規制値は、FIM方式（50cm離れて5000回転）で測定し、94dB/Aを超えないこと。

4）車両検査

大会当日出場資格の確認後、ライダーとヘルパーの車両検査を行なう。検査を受ける車両は、ライダー、メカニック各1名に対し1台までに制限されている。

5）部品のマーキング

部品がマーキングされる場合、その詳細が特別規則（公式通知）に掲載される。マーキングされた部品は、競技期間中交換が禁止される。

サイレンサーがマーキングされた後ダメージを受け、大幅に音量が増した場合、サイレンサーを交換するか走行を停止しなくてはならない。サイレンサーを交換した場合、オフィシャルに申し出なくてはならない。サイレンサーを交換した車両は、最終ラップのマシンチェ

6．マーキング：車検を受けた部品であることを証明するため、ペンキなど落ちにくい塗料で部分的に塗装する。

ック後、主催者によって車両が保管され音量検査がされる（規制値を超えていた場合、失格となる）。

6）ライダーの責任

マーキングが行われた場合、ライダーはパーツが適正にマーキングされたことを、自分の責任で確認してから競技を開始しなくてはならない。

7）部品のチェック

主催者は、競技中にどの車両でも、いつでも部品をチェックすることができる。マーキングされた部品からマークが消えていた場合、その部品を交換したとみなされる。

10 ペナルティ

2001年12月現在、FIM トライアル委員会はトライアルルールの変更（ペナルティに関して）を検討しており、変更があった場合これを受けて2002 年MFJ ルールを部分変更する可能性があります。

1）タイムペナルティと持ち時間関連

スタート遅れ1分まで毎　　1点
スタート遅れ20分を超えた場合　失格
最終タイムコントロール遅れ　　失格（全日本選手権ではルールが異なる）

2）減点

セクションにおいて
－フォルト1回　　1点
－フォルト2回　　2点
－フォルト3回以上　　3点

フォルトの定義

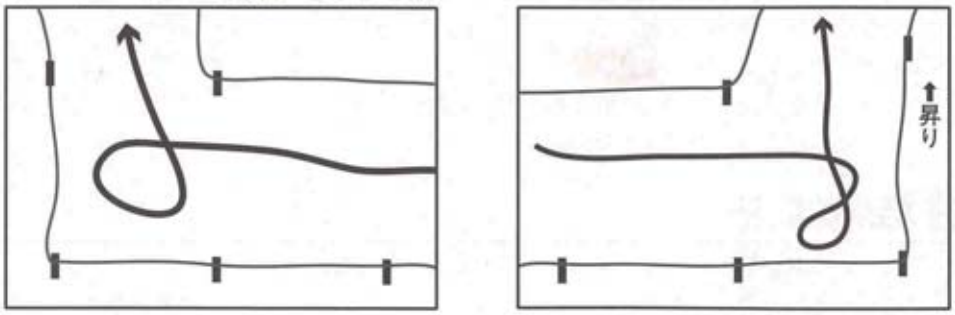
－セクション内におけるマシンの停止（スタンドスティル）
－ライダーの一部またはマシンの一部（タイヤ、フットレスト[7]、エンジンプロテクションプレートを除く）が地面に接したり、地形[8]によりかかった場合。

“失敗”の定義

－ライダーが足を着く、着かないにかかわらず、後退してしまった場合。
－前進動作なしに前後ホイールのいずれか、または両方を意図的に横へ移動させた。
－マシンのフロントホイールまたはリヤホイールが、セクションの境界（テープなど）を超えて接地した場合。
－ライダーまたはマシンが、マーカーや杭などセクション表示物の現状を変化させた場合。
－車両のサイド、または後方に両足をついて車両から降りてしまった。
－足つき停止状態にある時、両手でハンドルバーを持っていなかった。
－（セクション持ち時間がある場合）時間内にセクション完走ができなかった。
－ライダーが外部からの援助を受けた場合。
－ライダーまたはメカニックが、セクションの状況を変更した場合。
－セクションオフィシャルに告げた後、セクションインしなかった場合。
－両が前進しない状態で、ライダーがどこかに寄りかかっている（足を着くこと含む）、またはタイヤを除くマシンの一部が接地しているときに、エンジンが停止してしまった。
－マシンのハンドルバーが地面に接地してしまった場合。
－マシンが完全なループをおこない、その軌跡を**前輪または後輪、または前後輪で**横切った場合。〈図A参照〉

7．フットレスト：ステップの別称。
8．地形：地面、木、枝、壁、石、岩、杭などを総称して「地形」と呼ぶ。

図A（ループで“失敗”とされる例）



－セクション見落とし（次のセクションにトライしてしまった場合、見落としたセクションに対して）　10点

ひとつのセクションで、いくつかの減点が累積する場合、もっとも重い減点だけが適用される。しかし以下の減点は加算される。

－失敗後オフィシャルの指示に従わず，セクション持ち時間経過後も、セクションから出ない。

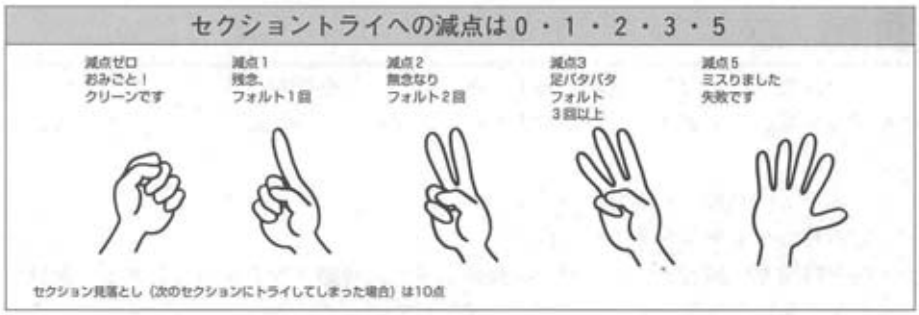
5点（加算）

－セクションを1番から順にトライしなかった。

20点（加算）

どちらともとれる判定では、ライダーに有利な判定をする。

セクション審判が、手またはプラカードで示す減点は暫定的なものであり、パンチカードなど記録用紙に記したものが、そのセクションにおける最終的な結果である。暫定的な表示から結果が変更されたり、競技監督から追加減点が通告される場合がある。



以下の3）罰金、4）失格は審査委員会の承認に基づき、競技監督からライダーへ通告される。

3）罰金

ライダーかメカニックによるオフィシャルへの暴力的な言動、行動

10,000円以上50,000円以下の罰金

4）失格

ライダーは以下の行為により失格となる。

－ライダーかメカニックによるオフィシャルへの暴力的な言動、行動（重大な場合）。

－ヘルメットを着用しないでの走行。

－コース指示の見落とし（コース間違い）。

－競技中の車両、またはライダーの変更。

－認められないタイヤの使用。
－認められないガソリンの使用。
－禁止された薬物の使用。
－ゼッケンナンバーの変更。
－コースを見失った地点以外からのコース復帰。
－競技期間中のセクションでの練習。

11 結果の記録

パンチカードが使用される場合、溶けにくい素材でできたスコアカードが配布される。

ライダーは自分のスコアカードに各セクションでマークを受け、求められたときにはリザルトオフィシャルにスコアカードを手渡す責任がある。

12 セクションの閉鎖

競技時間が残されていても、最終ライダー通過後バックマーカー[9]がセクションを閉鎖する場合がある。

同時スタート方式の場合、タイムスケジュールで定められた時刻にセクションが閉鎖される。

13 結果と順位

大会の優勝者は、［⑩ペナルティ］（238頁）による減点数がもっとも少ないライダーである。

14 大会の中断

大会が終了前に中断されてしまった場合、審査委員会はその大会を無効・取り消しとするか、その結果と賞が正当とするか、状況によって判断する。

15 同　点

同点が生じた場合、０点がもっとも多いライダーを勝者とする。依然として同点だった場合１点が最も多いライダー、２点が最も多いライダー、３点が最も多いライダーという順序で判断する。

それでも同点だった場合、少ないタイムペナルティ（または、計っていたら少ない所要時間）で完走したライダーを勝者とする。

所要時間を計測していない場合、最終ラップの成績上位者を勝者とする。最終ラップも同点だった場合最終ラップの前のラップ、依然として同点だった場合さらにその前のラップという順序で判断する。

16 賞

得点は国内競技規則第３章［㉗公式得点］（37頁）による。

17 抗　議

抗議は国内競技規則第３章［㉚抗議］（39頁）による。

セクション審判が下したジャッジには抗議できない。

車両の分解検査に要した費用は、抗議不成立の場合提出者、抗議成立の場合対象者が負担する。費用の算定は車検長が行なう。

9．バックマーカー：オフィシャルの役職名。セクション閉鎖を指示する。

18 本規則の解釈

本競技細則および競技に関する疑義は、事務局あて質疑をすることができる。なお、この回答は、大会審査委員会の解釈、決定を最終的なものとして示される。

19 本規則の施行

本規則は、2002年1月1日より施行する。

付則　判例集

以下は現在までの適用例をまとめたものです。規則に準じて適用されます。

マナーに関することがら

競技中の事故や、競技の参加を取りやめる（リタイヤする）場合は、すみやかに大会本部へ連絡しなくてはならない。

ライダーはセクションに入る準備ができしだい、手を挙げてセクションオフィシャルに合図しなければならない。

コース、ウォーミングアップ

競技開始前や終了後に競技車両でコース内に立ち入ったり、競技終了後にウォーミングアップエリアや競技エリアで練習することは禁止される。

ライダーの装備に関して

1 MFJ公認ヘルメットであってもMFJの公認マークの貼付されていない場合、特別検査によって公認ヘルメットであることが確認され、かつ安全性が確認されればその競技で使用することができる。（検査料1,000円が必要）

競技の進行に関して

2 ライダーは、スタートの合図を受けて始めてエンジンを始動することができる。

3 ライダーはセクション内で一切の援助を受けてはならないが、“失敗”後は例外である。

ライダーへの援助

4 許可された場所（パドック）以外で、外部から整備の援助（部品の交換を含む）を受けた場合、失格となる。（全日本選手権の、登録されたメカニックを除く）

5 セクショントライの順番待ちはコースに含まれる。よってライダー自身以外のメカニック、その他のサポートスタッフによる順番待ちは失格となる。

セクション関連

6 複数クラスが混走するためクラス別ゲートが使用される場合で最下位クラス用ゲートが設けられていない場合、同クラスはセクション内のどこを通っても良い。

ペナルティ関連

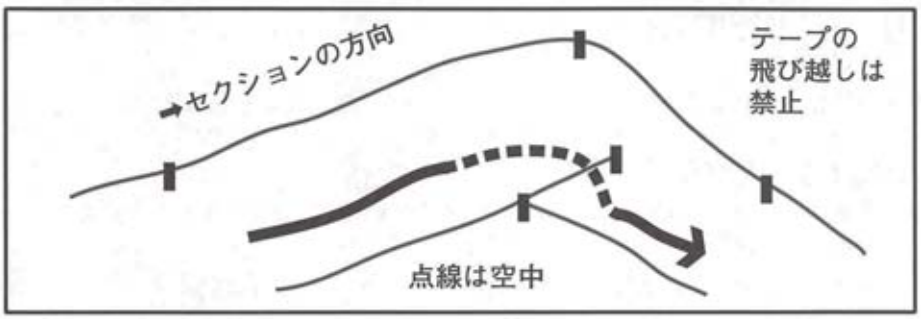
7 以下の場合、車両が前進していれば1回の足つきとみなす。

一体の部分で手、足についてはその付け根から先を同一とみなす。したがって足つきと同時

にひざを接地しても、1回の足つきである。
—足つき状態でつま先とかかとを交互についた。
—足つき状態のまま、引きずられてしまった。
—片足を軸にして、車両を回転させた。
—手を立ち木、壁についた。
—身体または車両が地形にもたれかかり、バランスを修正した。

8 以下の場合、“失敗”とみなす。
—上り坂等での足つきの状態で、フロントタイヤが浮いてタイヤがバックした。
—テープを飛び越えた（図B参照）

図B（テープを飛び越える例）



“失敗”のペナルティの対象となる「ライダーが外部から援助をうけた場合」には、登録外のメカニックや他のライダーによるセクションの状況変化、ライン指示等、あらゆるサポート行為が援助とみなされる可能性がある。

9 タイムペナルティーは以下の基準による。
14：00分ゴールの場合、00分を1秒でも越えた時点でペナルティーの対象となる。

10 “失敗”となるエンジンストップの解釈は、原則として以下のような状況が同時に起きた場合を指す。
・車両が前進していない
・エンジンが停止している
・ライダーの足が地面に着いている
このとき“失敗”（5点）となる。

結果の記録

11 パンチを間違えてしまった場合、正解を示す点数だけを除いて、残る点数を全部パンチする方法が推奨される。

12 以下の場合、“減点”または“失敗”とみなされない。
—ライダーの身体や車両の部分が地形に接触したが、明らかなバランス修正はしなかった。
—セクション表示物への単純な接触で、現状は変化しなかった。
—テープの上からフローティングターンなどによりフロントタイヤ、リヤタイヤのどちらか片方がテープ外に出て、地形に接触しないでテープ内に着地した。
—ゲートマーカー、セクションマーカー付近でのフローティングターン等によるマーカー迂回で、テープ内にあるタイヤの接地面はマーカーの内側を通った。
—V字型の地形でフットレスト（ステップ）がかみ込んで停止した場合、フットレスト（ステップ）に足が乗っていれば“足つき減点”にならない（停止の減点は科される）。そのフットレスト（ステップ）上のつま先、足の裏部分が接地していても、意識的なバランス修正が無い場合、足つき減点の対象とならない。

付則23

全日本トライアル選手権大会特別規則

TRIAL

1 適用の範囲

トライアル全日本選手権は以下に記す全日本選手権特別規則、トライアル競技規則（233～242頁）、国内競技規則（33～40頁）、および各大会の主催者から配布される大会特別規則（公式通知）によって開催される。

2 セクションの公認

大会前日に査察が行なわれ、査察団によって最終的にセクションが認定される。査察団は審査委員長を団長とし、競技監督、セクション設定責任者、選手会代表で構成される。

3 オブザベーションエンクロージャ

一般観客用エリアとセクションの間に、オフィシャル、ライダー、メカニックが立ち入れるエリアを設けることが望ましい。

4 開催クラス

国際A級部門、国際A級スーパークラス部門、および国際B級部門とする。

5 参加資格

国際A級スーパークラス：

前年度全日本選手権国際A級スーパークラスランキング上位10名、**トライアル委員会が特に認める者（世界選手権ポイント獲得者等）**、および前年度国際A級ランキング上位3名の中の希望者（MFJ事務局への手続きが必要）。

当該年に有効なライセンス所持者。

国際A級、および国際B級：

それぞれ当該年に有効なライセンス所持者。

メカニック：

当該年に有効な国内B級以上のライセンス所持者。

6 出場料およびMFJ共済会掛金（保険料）

参加受理

1）必要事項を記入した出場申込書、出場料を大会事務局が受理した時点で参加受理書、公式通知等が発送される。

2）いったん受理された出場料、MFJ共済会掛金（保険料）はいかなる理由があっても返還されない。

3）大会が取り止めになった場合、また参加が拒否された場合にのみ出場料、MFJ共済会掛金（保険料）が返還される。（申込者が必要な手続きを怠った場合は、これに当てはまらない）

	総額	内訳	
		出場料	MFJ共済会掛け金
国際A級部門（スーパークラス含む）	12,000円	11,700円	300円
国際B級部門	12,000円	11,700円	300円
メカニック	6,000円	5,700円	300円

7 ゼッケンナンバー

全日本選手権の年間指定ゼッケンは以下の基準による。

国際A級スーパークラス

(1) 前年度国際A級スーパークラス上位から指定する。（ランキング10位まで）

(2) **トライアル委員会が特に認める者（世界選手権ポイント獲得者等）。**

(3) 前年度国際A級上位から指定する。（上位3名から、希望者）

国際A級

(1) 前年度国際A級で、スーパークラスを希望しなかった者を指定する。（上位３名から）

(2) 前年度国際A級スーパークラスからの降格者を指定する。

(3) 前年度国際A級上位から指定する。（ポイント獲得者）

国際B級

(4) 国際A級への昇格者を除く、前年度のランキング上位から指定する。（ポイント獲得者）

(5) 上記以外は大会ごとに指定する。

ナンバープレートの色は以下のとおり。

国際A級スーパークラス：赤地黄色文字

国際A級（スーパークラス除く）：赤地白文字

国際B級：緑地白文字

国際A級スーパークラスのメカニック：黄地赤文字

国際A級のメカニック（スーパークラス除く）：白地赤文字

国際B級のメカニック：白地緑文字

ゼッケン番号は、メカニックを登録するライダーと同じ。

8 メカニック

1）メカニックの登録

ライダー１名に対し、１名のメカニックが認められる（登録できる）。

メカニックは、ライダーの出場申込みの際同時に登録しなければならない。この場合ライダーは、登録したメカニックの行動すべてに責任を負うことを認めたものとみなされる。（メカニックの受けた罰則は、登録したライダーがその罰則を受ける。）

登録したメカニックは、有資格者であれば変更が認められる。この場合大会当日の出場者受付に変更手数料（1,000円）を添えて申し込まなければならない。

ライダー単独でエントリーした場合、大会当日のメカニック登録はできない。

大会により、メカニックの登録を認めない場合がある。

2）メカニックの義務

メカニックミーティングが開催される場合、これに出席しなくてはならない。
移動コースは、特に指示の無い場合ライダーと同一とする。逆走はできない。
メカニックは、登録したライダーと同時にスタートしなくてはならない。

3）メカニックの行なって良い行為（下記以外は認められない）

パドック以外での車両整備（部品の交換を含む）は、選手本人およびその選手に登録されたメカニックのみが行なうことができる。

メカニックは原則としてセクション内に立ち入ることはできない。ただしトライ失敗の際の補助（安全上の目的）として、その選手に登録されたメカニックがセクションオフィシャルの許可を受けた場合に限り、そのセクション内への立ち入りが認められる。

9 車両検査

競技前の車検に合格した車両にはステッカーが貼付され、以下の部分にマーキングを行なう。マーキングを受けた部品以外は、車検後でも交換することができる。

パーツ名	ペイント部分
フレーム	フレーム前方（ステアリングヘッド）右側
クランクケース	右側
サイレンサー	サイレンサー本体

シリンダーへのマーキングは不要

10 スタート

第1戦のスタート順序はゼッケン下位からとする。

第2戦以降は、ポイント獲得者以外のゼッケン下位の者から先にスタートし、次いで前戦までのランキング下位の者からスタートする。

11 結果の記録（採点カード）

1）ライダーはスタート時に採点カードを受け取り、各ラップごとに交換すること。
2）セクションでのパンチの点数は、その場でライダーが確認すること。
3）セクションをトライしてもパンチを受けないで次のセクションへ入った場合、前セクションは“セクション見落とし”とみなされる。（減点10）
4）採点カードの破損等によって、採点が確認できない場合、当該セクションはエスケープとみなされる。
5）採点カードは選手自身がパンチを受け、管理しなくてはならない。
6）採点カードを紛失した場合、失格とされる。
7）採点カードはコンピューター処理されるので、折り曲げたりしてはならない。
8）採点カードの交換場所は、大会特別規則（公式通知）に示される。

12 持ち時間（タイムキーピング）

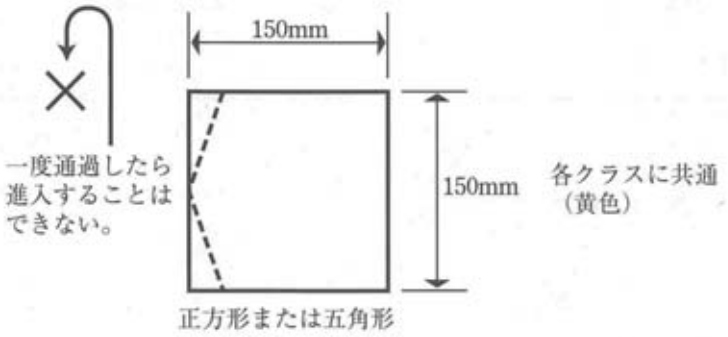
1）各ライダーに完走するための時間が同様に与えられる。もしライダーがスタート時間に遅れた場合、新しいゴール時間は、実際にスタートした時間によって決定される。
2）スタート時間に遅れたライダーは、1分まで毎に1点の減点が科せられ、20分以上の遅れは失格とする。
3）ゴールに遅れたライダーは、1分まで毎に1点の減点が科せられ、20分以上の遅れは失格とする。
4）ゴールタイムチェックを受けたライダーは、定められたコースに従い10分以内にカード交

換場所に戻り、採点カードを係員に提出すること。この時点でゴール完了となる。ゴール完了前に指定されたコース外に出たり、パドックに入ったりしてはならない。

13 セクション

1）**進行方向表示ゲート**[1]

セクションの進行方向を特に定める場合、進行方向表示ゲートを左右一対で設ける。このゲートはすべてのクラスに適用され、いったん通過したあと再び進入した場合"失敗"とみなされる。



14 セクション持ち時間

セクションでのタイムは、計測が開始されたことを知らせるためのホイッスルを所持するオフィシャルによって計測される。ライダーが**1分30秒以内**にセクション完走ができなかった場合、オフィシャルは失敗を告げるホイッスルを長く鳴らす。

15 ペナルティ

トライアル競技細則に定める減点に加え、下記減点を科す。

1）セクションでの持ち時間

各セクションごとに**1分30秒**の持ち時間が与えられ、**1分30秒以内**にセクションアウトできなかった場合は、"失敗"となる。

2）減点

－ライダーまたはメカニックがセクションを著しく変化させた。　5点

－オフィシャルの許可を受けずに、メカニックがセクションに入った。　5点

ひとつのセクションで、いくつかの減点が累積する場合、もっとも重い減点だけが適用される。しかし、以下の減点は加算される。

－メカニックが、セクション審判の判定に反論した。　5点（加算）

3）罰金

メカニックが以下の条項に従わなかった。

モーターサイクル乗車中は、ブーツ、長ズボン、ヘルメットを装備しなくてはならない。

罰則1回目：罰金10,000円、2回目：罰金20,000円、3回目：罰金50,000円

16 イエローカード

オフィシャルの指示に従わないライダー（メカニック等含む）、および攻撃的な言動をとるライダーに対してイエローカードが提示される。オフィシャルはカードの裏に当該ライダーのゼッ

1. ゲート：セクションを部分的に制限する関門のこと。左右一対のゲートマーカーで表示され、原則的に左右1.2m以上の門隔で制限される。

ケンを記入するとともに、そのライダーの行為について内容をメモする。

その日の終わりにすべてのカードは競技監督に集められ、何らかのペナルティを与えるかどうかの提案とともに審査委員会へ提出される。審査委員会はカードを確認し、ペナルティを与えるかどうか判断するとともに再発防止のためにその行為を記録する。たびたびイエローカードを受けるライダーには、更なるペナルティが科される。

17 賞および得点（ポイント）

1）各大会ごとに国際A級、国際B級の各クラス（スーパークラスは除く）へベストクリーン賞が与えられる（クリーン数が同数の場合は、成績が上位のものとする）。

2）国際A級、国際A級スーパークラス、国際B級部門全日本選手権ランキングの得点

(1) 得点はMFJ国内競技規則第3章［㉗公式得点］（37頁）によって与えられる。

(2) 全日本選手権ランキングの順位は、上記によって与えられた得点のすべてが加算され、その合計得点によって決定される。

(3) 国際A級スーパークラスは、出走台数に関わらず上位10位までにポイントが与えられる。

(4) 詳細は全日本選手権ランキング決定基準（47頁）に示される。

18 同点

同点が生じた場合、0点がもっとも多いライダーを勝者とする。依然として同点だった場合1点が最も多いライダー、2点が最も多いライダー、3点が最も多いライダーという順序で判断する。それでも同点だった場合、少ない所要時間（秒単位）で完走したライダーを勝者とする。

19 本規則の施行

本規則は、出場申し込み受付日より有効となる。なお、本規則に示されていない事項は、国内競技規則、トライアル競技細則による。

付則

トライアル・デ・ナシオン（国別対抗世界選手権）出場資格

標記競技会の、日本代表選手選考基準は以下のとおりとする。

(1) **6月中旬までに開催される、2002年全日本選手権の成績を参考にする。**

(2) **6月中旬までに開催される、2002年世界選手権の成績を参考にする。**

(3) **上記参考対象の成績にて選抜するが、最終的な決定は2002年6月に開催する"日本代表選手選考委員会"にて決定する。**

選考委員は以下のとおり。

MFJトライアル委員会委員長
MFJトライアル委員会副委員長
ジャーナリスト代表者（1名）
選手会代表者（1名）
MFJ事務局（1名）
※選考委員の関係者が選考対象となった場合、当該委員の代理を選出する。

2002年 MFJ全日本トライアル選手権シリーズ開催日程

開催月日	大会名	出場申込先	会場	出場申込期間
3月16日（土） ～ 3月17日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第1戦 関東大会	MFJ関東支部 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-5 アルス新大塚202 ☎03（3971）0022	茨城県 真壁トライアル ランド	2月5日（火） ～ 2月14日（木）
3月30日（土） ～ 3月31日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第2戦 九州大会	MFJ九州支部 〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-11-9 メゾンド水巻1F-B 福岡県軽自動車協会内 ☎092（473）2616	熊本県 猿ヶ城キャンプ村	2月19日（火） ～ 2月28日（木）
5月4日（土） ～ 5月5日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第3戦 近畿大会	MFJ近畿支部 〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀1-7-14 ☎06（6534）6422	兵庫県 猪名川サーキット	3月26日（火） ～ 4月4日（木）
8月3日（土） ～ 8月4日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第4戦 北海道大会	MFJ北海道支部 〒011-0925 北海道札幌市北区新川5条20丁目1番20号新川地区工業団地内 ☎011（768）3988	北海道 わっさむ サーキット	6月25日（火） ～ 7月4日（木）
9月14日（土） ～ 9月15日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第5戦 中国大会	MFJ中国支部 〒733-0036 広島県広島市西区観音新町1-18-9 広島県二輪車安全普及協会内 ☎082（295）6994	岡山県 原瀧山トライアル パーク	8月6日（火） ～ 8月15日（木）
10月12日（土） ～ 10月13日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第6戦 中部大会	MFJ中部支部 〒466-0812 愛知県名古屋市昭和区八事富士見1603 ☎052（833）9676	岐阜県 坂内バイクランド	9月3日（火） ～ 9月12日（木）
10月26日（土） ～ 10月27日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第7戦 東北大会	SUGOスポーツクラブTR係 〒989-1394 ☎0224（83）3127	宮城県 スポーツランド SUGO	9月17日（火） ～ 9月26日（木）

※スポーツランドSUGOへの郵便物は、郵便番号と宛て名のみで届きます。

2002年トライアル主要競技会カレンダー

開催月日	大会名	出場申込先	会場
9月7日（土） ～ 9月8日（日）	トライアル世界選手権シリーズ 日本大会	ツインリンクもてぎレース事務局 〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町大字桧山120-1 ☎0285（64）0200	栃木県 ツインリンクもてぎ
11月10日（日）	MFJトライアル グランドチャンピオン大会	MFJ中部支部 〒466-0812 愛知県名古屋市昭和区八事富士見1603 ☎052（833）9676	岐阜県 坂内バイクランド

開催月日	大会名	開催場所
9月29日（日）	2002年トライアル・デ・ナシオン	ポルトガル（Pacos de Ferreira）

付則24 トライアル基本仕様

以下に規定する基本仕様は、トライアル競技を行う上で必要とされる基本規則であり、トライアルの全ての車両及び競技会に適用される。

カテゴリー別に必要とされる詳細な仕様に関しては、各カテゴリー別仕様が適用される。

1 カテゴリー

1-1 競技専用車両クラス
競技専用に生産された車両

1-2 スポーツプロダクション
競技専用車両を除く一般市販車をベースとしてレース用に改造された車両

2 排気量の算出方法

2-1 総排気量は、シリンダーの容積を測定するのに用いられる幾何学公式に従って計算される。
すなわち直径はボアによって表され、高さはピストンがその最上部から最下部まで移動するのに占めるスペースで表される。

2-2 公式
総排気量＝（D×3.1416×C÷4）×気筒数
D=ボア　C=ストローク　単位=cm　小数点以下4桁で切り捨て

2-3 測定の際には、ボアに1/10mmまでの許容誤差が認められる。この許容誤差を考慮しても排気量が当該クラスのリミットを越える場合、エンジンが冷めた状態で再測定が1/100mmのリミットまで行われる。

2-4 シリンダーのボアが真円でない場合、断面積を測定し、計算することとする。

2-5 全てのカテゴリーにおいて、スーパーチャージは禁止される。

3 一般的なアイテム

3-1 材質

フレーム、フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアーム・スピンドル、およびホイール・スピンドルにチタニウムを使用することは禁止される。ホイール・スピンドルに関しては、軽合金の使用も禁止される。チタニウム合金製のナットとボルトの使用は許可される。

（市販時にこの条件から外れる場合は、市販時の状態を維持することを条件にその仕様が許可される。）

3-2 フレームの定義

3-2-1 フレームとは図（252頁）で示すとおり、エンジンが取り付けられている部分を中心にステアリング取り付け部分とリヤサスペンションの取り付け部を含む構造全体をいう。

3-2-2 シートを取り付けるためのサブフレームは、フレーム本体に溶接されている場合はフレームとみなし、ボルトオン（脱着可能）のものはフレームとみなさない。

3-3 スタート装置

スタート装置が義務づけられる。

3-4 オープントランスミッションガード

3-4-1 チェーンとリヤスプロケットの間に身体の一部が誤って挟まれることのないように、リヤスプロケットガードを取り付けなくてはならない。

3-4-2 そのガードは、スプロケットとドライブチェーンの噛合部を完全に覆わなければならない。

3-4-3 材質は、アルミニウム、頑強なプラスチックまたは樹脂とし、その付け方式は、ボルト・オンまたは溶接とし、安易に脱落したりしないよう確実に固定しなければならない。

3-5 エキゾースト・パイプ

3-5-1 エキゾースト・パイプとサイレンサーは、音量規制に関する必要条件をすべて満たしていなくてはならない。

3-5-2 エキゾースト・パイプの先端は、最低30㎜にわたってモーターサイクルの中心軸と水平かつ平行でなくてはならない。（許容誤差±10°）**またその先端は5mm以上サイレンサー本体より突出してはならない。全ての鋭利な部分は最低半径2mm以上で丸みを帯びさせていなければならない。**

3-5-3 排気ガスは後方に排出しなければならないが、ほこりを立てたり、タイヤやブレーキを汚したり、またパッセンジャーや他のライダーに迷惑をかけるような放出の仕方をとってはならない。後続ライダーに迷惑をかけないようにするために、オイルの飛散を防ぐ措置を施さなくてはならない。

3-5-4 エキゾースト・パイプの後端は、リヤ・タイヤの垂直接線より後ろにあってはならない。

3-6 ハンドルバー

3-6-1 ハンドルバーの幅は、600㎜以上でも850㎜以下でなければならない。

3-6-2 ハンドルバーの先端が露出される場合は、固形物質を詰めるか、ゴムでカバーされていなければならない。

3-6-3 ハンドルをいっぱいに切った時に**ハンドルバー（レバー類含む）**とタンクの間に最低30㎜のすき間を設けるためにハンドルストッパー（ステアリングダンパー以外のもの）を、取り付けなくてはならない。

3-6-4 ハンドルバー・クランプは、ハンドルバーが折れやすい部分を作らないために、慎重に丸みをつけて製作しなくてはならない。

3-6-5 ハンドル・プロテクターが使用される場合には、非粉砕材質でなくてはならなく、手を入れるための開口部分が常に開いていなくてはならない。

3-6-6 軽合金ハンドルバーの溶接による補修は禁止される。

3-7 コントロールレバー

3-7-1 すべてのハンドルバー・レバー類（クラッチ、ブレーキ等）は、原則として端部がボール状（このボールの直径は最低19㎜）でなくてはならない。このボールを平たくすることも認められるが、どのような場合も端部は丸くなっていなくてはならない（この平たくした部分の厚みは最低14㎜とする）。レバー端部は、レバーと一体構造に固定されていなくてはならない。

3-7-2 各コントロール・レバー（ハンドおよびフット・レバー）はそれぞれ独立したピボットを持っており、そのレバー自体のピボットにマウントされていなくてはならない。

3-7-3 もしブレーキ・レバーが、フットレストの軸にピボットされている場合、フットレストが曲がり、又は変形した場合など、どのような場合でも作動できなくてはならない。

3-8 スロットルコントロール

3-8-1 スロットルコントロールは、手を離した時に自動的に閉じるものでなくてはならない。

3-8-2 モーターサイクルには有効なイグニッション・キルスイッチまたはボタンがハンドルバーの右か左(ハンドルグリップを握って届く位置)に設けられなくてはならない。このスイッチは始動しているエンジンを停止できなくてはならない。

3-9 フットレスト

3-9-1 フットレストの先端には最低半径８㎜の、一体構造のプロテクションが設けられていなくてはならない。(252頁図E参照)

3-9-2 フットレストは折りたたみ式でもよいが、この場合は自動的に元の位置に戻る仕組みになっていなくてはならない。

3-9-3 フットレストが折りたたみ式でない場合、及びゴムのカバーを装着していない場合は、その先端を最低半径８㎜以上の球状に丸められていなくてはならない。

3-10 ブレーキ

3-10-1 すべてのモーターサイクルは、最低２つの効果的なブレーキ（各ホイールにひとつ）がなくてはならず、これは独立してホイールと同心的に作動しなくてはならない。

3-10-2 先端のとがったブレーキディスク（のこぎりの歯状デザイン）の使用は禁止される。

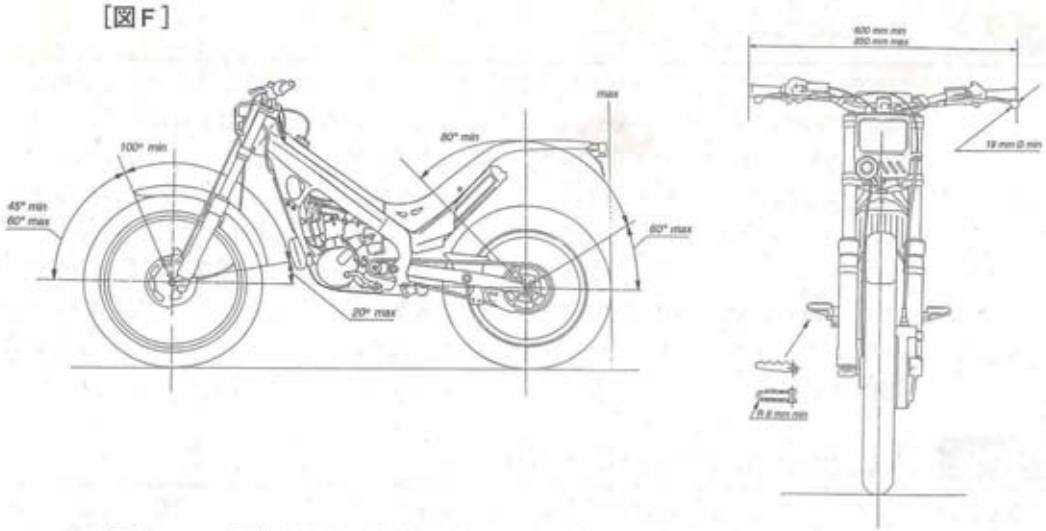
3-10-3 ディスクへの開口部（抜き穴）の幅は、最大３㎜であることが推奨される。開口部は最低半径３㎜、最大半径５㎜で丸みがつけられていること。

3-11 マッドガードおよびホイールプロテクション

3-11-1 マッドガードはタイヤの両側方に張り出していなくてはならない。

3-11-2 フロント・マッドガードは、ホイールの周囲を最低100°にわたってカバーしていなくてはならない。マッドガードの前端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は45°と60°の間でなくてはならない。**マッドガードの後端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線が作り出す角度は20°を越えてはならない。(図Ｆ参照)**

［図F］



3-11-3 **リヤ・マッドガードは、リヤホイール・スピンドルを通る垂直線から25°の角度で後方に引かれる線よりも後方まで及んでいなくてはならない。**

3-11-4 **マッドガードの後端は丸められていなくてはならず、この丸め方は最低半径8㎜で、かつ半径60㎜を越えてはならない。**

3-11-5 **キャストホイール、または溶接されたホイールが使用される場合には、頑丈なディスクでスポークを覆う形でプロテクションが施されなくてはならない。**

3-11-6 インドアトライアルまたはアリーナトライアルのような公道を使用しない競技会では、リヤ・マッドガードはリヤ・ホイールスピンドルを通る垂直線と、その垂直線に25°の角度で後方に引かれる線よりも後方まで及んでいなくてはならない。

3-11-7 **下記の項目は国内の事情を考慮し、国内の仕様にて開催する。よって基本仕様と異なる場合、下記の仕様が優先される。（日本で開催される国際格式競技会を除く）**
リヤ・マッドガードは、ホイールの周囲を最低120°にわたってカバーしていなくてはならない。リヤ・マッドガードは、リヤホイール・スピンドルを通る垂直線から25°の角度で後方に引かれる線よりも後方まで及んでいなくてはならない。

3-12 フェアリング

フェアリング（カウリング等空気整流効果のあるもの）の装着は禁止される。

3-13 ホイールリム、タイヤ

メーカー出荷時の一体構造ホイール（キャストホイール、モウルドホイール、リベットホイール）、又はリムに対しては、スポーク、バルブ又は安全ベルト以外へはいかなる改造も禁止される。ただしタイヤがリムから外れることを防ぐために使用されるビードストッパーは例外とする。

3-14 トライアルタイヤ

3-14-1 ホイールに正常に装着された状態でタイヤの全幅は、115㎜を越えてはならない。

3-14-2 トレッドの深さ（A）はトレッド面から直角に測った場合、13㎜を越えてはならない。同一円周のブロックはすべて同じ深さでなくてはならない。……253頁の図G参照

3-14-3 ブロック間のトレッドの幅は、タイヤ幅方向（B）で9.5㎜、円周方向（C）で13㎜を越えてはならない。

3-14-4　ショルダーブロック（D）間のトレッド幅は、22㎜を越えてはならない。

3-14-5　トレッド横幅（E）は、タイヤウォールに直角に測った場合、ブロックで中断されていない限り、タイヤ全幅に及んでいなければならない。

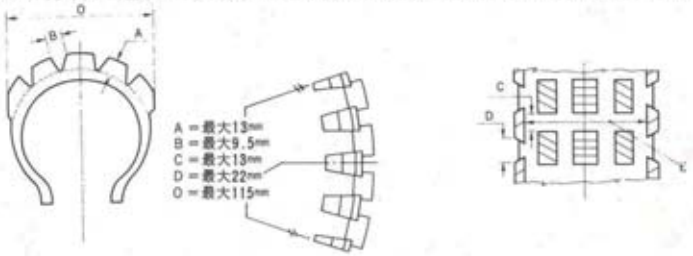
3-14-6　すべてのトレッドブロック（ショルダーブロックを除く）は、両側辺が平行で、タイヤの軸に対し直角そして平行な長方形でなければならない。（タイヤは、図Gに適合し、逆回転させても同じ外観でなければならない。）

3-14-7　通常の販売ルート、または小売店を通じて入手できる一般公道用に認可されたタイヤのみが使用を許可される。

3-14-8　タイヤは一般の購入者が入手できるマニュファクチャラーの商品カタログ、またはタイヤ仕様リストに掲載されているものでなくてはならない。

3-14-9　これらのタイヤは、荷重、スピードコードに関してヨーロッパ・タイヤ・リム技術機構(ETRTO)の定める条件に適合し、最低45Mの使用等級のものでなければならない。

［図G］



3-15 ナンバープレート

3-15-1　ナンバープレートは長方形で頑丈な材質でできていなくてはならない。最低寸法は175㎜×150㎜とする。

3-15-2　ナンバープレートは１枚を車両の前面に見やすいよう前向きに取りつけなくてはならない。

3-15-3　数字は英国式を使用する。「１」は垂直の１本線。「７」は水平のラインなしの単純な傾斜線。

3-15-4　数字および地色に蛍光色は一切認められない。

3-15-5　判読しずらい文字等は車検長に依りレース参加の許可を得ることができない。

3-15-6　国際Ａ級及び国際Ｂ級部門についてはプレート下部にライダーの名前を記入するものとする。

3-15-7　全日本選手権の国際Ａ級・国際Ｂ級に関する特別規則
数字は英国式とし、観客とオフィシャルが明確に識別できるようにしなくてはならない。（デザインされた書体の使用を認める）

3-14-8　ナンバープレートの地色及び数字の色は下記のとおりとする。

ジュニア……黒地に白赤字　　国内Ｂ級……白地に黒文字
国内Ａ級……黄地に黒文字　　国際Ｂ級……緑地に白文字
国際Ａ級……赤地に白文字　　国際Ａ級スーパークラス……赤地に黄文字

3-16 ライト類、警告装置およびスピードメーター

灯火器のレンズの処理または取りはずし、保安部品（バックミラー、補助ステップ、ウィンカー類）の取りはずしが義務づけられる。

4 燃料、燃料／オイルの混合液

4-1　すべての車両にはMFJの定める無鉛ガソリンを使用しなくてはならない。（AVガス・航空機用燃料の使用は禁止される）

4-2　競技に使用できるガソリン

競技に使用できるガソリンは下記の項目のすべてに合致していなくてはならない。

① 競技用ガソリンとは一般公道用の市販車に供するために通常のガソリンスタンドにて購入できるもの、あるいはMFJ公認サーキットのガソリンスタンドにて購入できるガソリンとする。

② 競技用ガソリンは下記のMFJの定める仕様以内（無鉛ガソリン）に制限される。（AVガス、航空機用ガソリン等は使用できない）

鉛の含有量は0.013 g /l以下であること。

リサーチオクタン価が100.0（RON）、モーターオクタン価が89.0（MON）以下であること。

密度は15℃において0.725 g /ml～0.780 g /mlであること。

③ 競技用ガソリンには販売時に混入されている以外のいかなるものも添加されてはならない。ただし一般に販売されているスタンダードの潤滑油および1.5%以下のアルコール（燃料精製中に混入されているものに限る）については認められる。

④ 水冷エンジンの冷却水は、水あるいは水とアルコールの混合物に限られる。

4-3　大会特別規則（全日本トライアル特別規則等）により、ガソリンの銘柄および供給方法が指定される場合、それに従わなくてはならない。

5 音量規制

5-1　計測のためのマイクロフォンの位置は排気管後端から500㎜で、かつ中心線から後方45°で排気管と同じ高さとするが、少なくとも地面から20㎝上方てなくてはならない。もしこれが不可能な場合、計測は45°上方で行ってもよい。

5-2　ノイズテストの際、ギヤ・ボックスにニュートラルのないマシンについては、スタンドに載せた状態で測定を受けなくてはならない。

5-3　規制に適合しているサイレンサーには車検にてマークが付けられ、車検後にサイレンサーを変更する事は禁止される。ただし同様に車検合格し、マークを受けたスペア・サイレンサーに関しては例外とする。

5-4　ギヤはニュートラルとしてエンジンを回転させ、所定のrpm域に達するまでエンジンの回転を増していかなくてはならない。測定は、所定のrpmに達したときに行うものとする。

5-5　現在のトライアル車両のエンジンストロークはほぼ同等と見なされるので、測定は5000rpmの固定回転数で実施する。

5-6　規制値をオーバーしているマシンは、再度測定を受けることができる。

5-7　現行の音量規制値

最大94dB/A、11m/秒で測定する。（原則として事項5-5が適用される）

5-8　周辺への音量は、モーターサイクルから半径５m以内において80dB/Aまでとする。

5-9　音量測定は気温20°を基準とする。気温10°以下の場合許容誤差＋１dB/Aが認められる。気温０°以下の場合許容誤差＋２dB/Aが認められる。

5-11　レース後の最終検査においては、１dB/Aの許容誤差が認められる。

5-12　メーターの読み方は常に切捨てとする。（100.9dB/A＝100dB/A）

6 テレメトリー

動いているモーターサイクルへ情報を伝える、または動いているモーターサイクルから情報を得ることは禁止される。
マシンには、公式シグナリング・デバイスの搭載が必要とされる可能性もある。
自動ラップ計時デバイスは“テレメトリー”とはみなされない。
自動ラップ計時デバイスは、公式計時方式、および装備を妨げてはならない。

付則25 国内トライアルの仕様

(国内A級、国内B級、ジュニア)

1 クラス区分

排気量によるクラス区分は特にない。

2 出場車両

1） 車両は市販レーサー、または一般生産型車両でMFJが公認したもの。
2） 車両は国内競技規則及び付則24トライアル基本仕様に示されているすべての条件に適合していること。

3 公認部品

タイヤは公認タイヤに限り交換が認められる。

4 マシン仕様

以下に明記されているアイテムについては、MFJが公認車両として公認した状態でなければならない。

1） エンジンの形式
2） シリンダーの数
3） ピストンローク
4） クランクケース、シリンダー、シリンダーヘッドの材質、鋳造、および形状
10） 吸排気系のバルブ数、ポート数、キャブ数
42） リヤホイールスピンドルの材質
44） フロントホイールスピンドルの材質
50） フレームボディ

5 各部の仕上げ調整

全ての部品に関して、調整・仕上げが認められる。
調整とは各部品の単品またはアッセンブリーコンプリートの状態で、個々のまたは合計の公差内で意図的に選定すること。(メタル合わせ、タペットクライアンス、点火時期等)
仕上げとは各部品の基準寸法内で表面粗度を向上させる作業をいう。(ポートみがき、コンロッドみがき、ピストンみがき、燃料室みがき等)
その他フロントフォークオイル、ミッションオイル等オイル類は変更できる。

MOTORCYCLE SPORTS RULES

ドラッグレース
DRAG RACE

CONTENTS

▼付則26　ドラッグレース競技規則

1．適用の範囲……258
2．ドラッグレース……258
3．競技と開催クラス……258
4．レース出場車両……258
5．参加資格……258
6．出場申し込み……258
7．参加受理……258
8．ゼッケン・ナンバー……259
9．ライダーの装備……259
10．出場受付……260
11．出場車両の変更……260
12．車両および装備の検査……260
13．スタート方法とスターティングシステム……260
14．スタート手順……261
15．競　技……262
16．順位の決定……263
17．計測システムと計時結果……264
18．禁止行為……264
19．リタイヤ(棄権)と停止……264
20．賞　典……264
21．レース終了後の車両保管と再車検……265
22．レースの成立……265
23．レースおよび大会の延期・中止等……265
24．抗　議……265
25．違反に対する罰則……265
26．本規則の解釈……265
27．本規則の施行……265

▼付則27　2002年全日本ドラッグレース選手権大会特別規則

1．公　示……266
2．開催種目と競技会の日程……266
3．追加のクラス……266
4．コース……266
5．大会審査委員会……266
6．参加定員……267
7．出場料および共済会掛金(保険料)……267
8．ピット要員……267
9．ゼッケンナンバー……267
10．公式予選……267
11．決勝レース……267
12．コース選択……267
13．賞および得点……267
14．主催者の権限……267
15．本規則の施行……267

▼付則28　ドラッグレースの仕様

ドラッグレースの基本仕様……269
1．チタニウム合金……269
2．エキゾースト・パイプ……267
3．ハンドルバー……267
4．コントロールレバー……270
5．スロットルコントロール……270
6．フットレスト……270
7．ホイール……270
8．タイヤおよびチューブ……270
9．ブレーキ……270
10．フロントフォーク……271
11．最低地上高……271
12．マッドガードおよびホイールプロテクション……271
13．ストリームライニング……271
14．シート……272
15．ナンバープレート……272
16．ウイリーバー……272
17．プロテクティブ・カバー……273
18．フュエルタンク及びオイルタンク……273
19．燃料システム……273
20．キャブレターとフュエル・インジェクション……273
21．キル・スイッチ……273
22．オイル・キャッチ・タンク……273
23．チェーン……274
PB（プロストックバイク）の車両規制……274
1．クラス区分……274
2．車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない……274
3．下記部品は各項の制限内で改造出来る（ドラッグレースの基本仕様に合致すること）……275
4．重　量……276
5．車両が下記事項に適合していない場合、改造・変更が義務づけられる……276
6．いかなる場合も禁止される事項……276

※2002年度の規則変更点は太字で示されています。

付則26 ドラッグレース競技規則

DRAG RACE

1 適用の範囲

以下に記す規則は、国内競技規則に基づき、すべての国内のドラッグレース競技会に適用される。

2 ドラッグレース

1）ドラッグレースとは完全にクローズドされたコースで行われ、2台の車両が先着を競う競技である。

2）区間タイム（Elapsed Time：以降E.T.という）を測定するコースの長さは下記4種類が設定される。

① SS1/4マイル（402.33m）
② SS1,000フィート（304.8m）
③ SS1/8マイル（201.165m）
④ SS250メートル

※コースの長さは大会特別規則、公式通知で変更される場合がある。

3 競技会と開催クラス

競技会と開催クラス、および出場可能ライセンスは以下のとおり。

大会格式 出場可能ライセンス	全日本選手権	地方選手権	承認競技会
ドラッグレースA級	PB	SB-EX	—
ドラッグレースB級	—	SB	SS-BⅠ，SS-BⅡ
Lライセンス及び運転免許証	—	—	SS-BⅠ，SS-BⅡ

4 レース出場車両

1）一大会において同一車両を複数の種目のレースに使用することはできない。

2）一大会において同一車両を複数のライダーが使用することはできない。

5 参加資格

1）エントラント及びライダー

エントラント及びライダーは、2002年度版MFJ国内競技規則第3章〔⑫競技参加者〕（33頁）に合致していなければならない。

6 出場申し込み

1）出場申込場所は、大会特別規則の定めるところとする。

2）出場申込手続き

(1) 各クラスとも所定の申込書に必要事項をすべて記入し、出場料およびMFJ共済会掛金(保険料)を添えて大会事務局に提出しなければならない。

(2) 2クラス以上に出場を申し込む場合は、別々に、申し込み書を提出しなければならない。

(3) 郵送の場合は、現金書留又は主催者の定める方法とし、締め切り当日の消印のあるもの迄が有効となる。

(4) 電話による申込及び締め切り日以降の申込は一切受けない。

7 参加受理

1）必要事項を記入した出場申込書、金額を大会事務局が受理した時点で、参加受理書が発送される。

2）いったん受理された出場料、MFJ共済会掛金（保険料）はいかなる理由があっても返還されない。公式予選を通過しなかった場合も同様である。

3）大会が取り止めになった場合、また参加が拒否された場合のみ出場料、MFJ共済会掛金（保険料）が返還される（申込者が必要な手続きを怠った場合は、これにあてはまらない)。

4）競技の中止と出場料等の返却は、下記表の通りとする。

事例	出場料	共済会掛金
予選が1回も行われず中止	選手受付した全員に返却	共済会の適用となる練習走行が行われていなければ返却する
競技不成立の場合（クラス毎に判断する）	クラス単位で選手受付した全員に返却	1人（1組）でもスタートしたクラスは返却しない
競技が成立した	返却しない	返却しない

※返金の場合、事務手数料は差し引かれる。

8 ゼッケン・ナンバー

1）主催者によってナンバーが割り当てられ、参加受理書に記入して通知される。

2）ゼッケン・ナンバーは、車両検査までに規定の書体および色分けで記入しておかなければならない。

3）ゼッケン・ナンバーについては、車両検査以降においても、判断しにくいと判断された場合には修正が要求される場合がある。

4）最初決められたゼッケン・ナンバーは、年度末まで変更できない。

9 ライダーの装備

1）ヘルメット

(1) ヘルメットはMFJが公認したフルフェイス型のものとする。

(2) MFJの公認したヘルメットには、下記の認証マークが貼付される。

(3) 競技会の車両検査受付時に、ヘルメットの検査が行われる。MFJの公認したヘルメットでも、検査に合格しなかったヘルメットは、当該ライダーの安全上その使用を禁止する。

(4) MFJ公認ヘルメットであっても、MFJの公認マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料（1,000円）を支払い、特別に検査を受けなければならない。

2）ライダーの服装

(1) レーシングスーツ

① 皮革もしくは、同等の素材であること。MFJ公認スーツが望ましい。スーツはワンピ

ースデザインもしくはウエストでつながるジッパータイプ。

(2) ブーツ・グローブ

ブーツはくるぶしが完全に覆われるもので、皮製、サイドボタンタイプ。

グローブは、手を覆うサイドボタンタイプ。

MFJが公認したレーシングスーツには、シルバー地の公認マークが付いている。

3）競技中のライダーは、難燃性の素材を使用した肌着を着用しなければならない。

10 出場受付

1）出場受付けの時間および場所は、公式通知に示される。

2）定められた時間内に、必ず本人または参加者がMFJライセンス、参加受理書を提出して出場資格の確認を受けなければならない。

3）MFJライセンスまたは参加受理書の提示ができない者は、出場が認められない。

11 出場車両の変更

1）車両の変更は国内競技規則・第3章〔㉔ライダーおよび車両の変更〕(36頁）による。

2）車両変更の申請は、同部門・同クラスの車両に限られ、手数料5,000円を添付して大会事務局に申請しなければならない。

12 車両および装備の検査

1）車両検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールに従って、パドック内の車両検査区域において行われる。

2）車両検査の車両は、ライダー本人が持参し，必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を済ませなければならない。これ以後の検査は大会審査委員会が、不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外は行われない。

3）ライダーは、車両仕様書を提出し、装備品一式の検査を受けなければならない。

4）車両検査持ち込み台数は、地方選手権および地方大会は出場1レースにつき1台に限られる。

5）車両検査において、規則違反または安全上出場が不適当と判断された車両は、公式予選を含む一切の走行を拒否される。

6）主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両検査を行うことがある。

13 スタート方法とスターティングシステム

1）スタート方法はスタンディングスタートとし、下記の2種類とする。クラス毎のスタート方法は大会特別規則に示す。

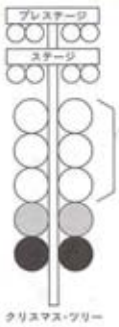
(1) プロスタート

スリーアンバーライト（プレスタートライト）（3個同時）が点灯してグリーン（スタート）ライトが点灯までの間隔0.4秒。

(2) ストックスタート

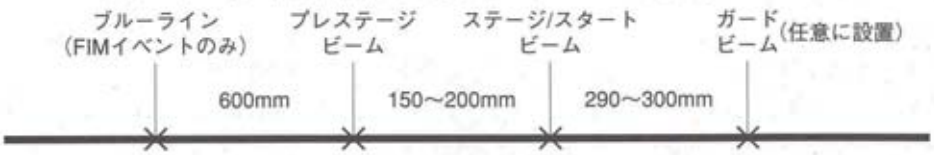
スリーアンバーライト（プレスタートライト）（上よりカウントダウン）が点灯してグリーン（スタート）ライトが点灯までの間隔0.5秒。

2）スターティングシステム（クリスマス・ツリー）



Pre-Stage light：スタートするために、まずプレステージライトを点灯させる。
Stage light：デュアルスタートの場合、対戦相手がプレステージライトを点灯させる前にステージライトを点灯させてはならない。
Three Amber Light：ステージライト点灯後１～５秒後に点灯。
(Pre-Startlight)　①Pro-Start：３段同時点灯。
②Stock-Start：上段より順次点灯。点灯間隔0.5秒。
Green-Start light：スリーアンバーライト(プレスタートライト)点灯後
①Pro-Start：0.4秒、②Stock-Start：0.5秒で点灯。
Red light：**Foul Start**：グリーンライトが点灯する前にスタート／ガードビームを横切った場合に点灯。

3）スタートライン（ビーム）
スタートエリアには下図のようなライン／ビームがある。



(1) ブルーライン（FIMイベントのみ設置）
スターターの合図でステージングする際、フロントホイールがブルーラインを超えたら何者も車両に触れてはならない。
(2) プレステージビーム
このビームを横切るとプレステージライトが点灯する。
(3) ステージ／スタートビーム
このビームを横切るとステージライトが点灯する。
スタートの計時を開始するための光電管。
(4) ガードビーム（任意に設置）
車両の低い位置に着いている部品がステージビームを遮断したままの状態でフライングスタートが切られることを防止する。
ステージビームが遮断されたままガードビームが作動した場合、ファールとなる。

14 スタート手順

1）バーンアウト
(1) クラスにより場所を制限する。
(2) バーンアウトの際にセンターラインを超えてしまっても失格にはならない。
(3) バーンアウト後ピットクルーが安全確認のために車両進行方向修正を行なう以外に車両に触れることは禁止される。
(4) ドライホップは１回まで許可される。
2）コース選択
(1) タイムトライアルでは、コースイン順に競技役員の指示に従って行われる。
(2) ラダー競技では、前のヒート（公式予選含む）のタイムの良い方に選択権がある。
3）ステージング
(1) コースインした時点でスタート準備が完了していること。
(2) セルフスタートし、セルフステージしなければならない。*
※セルフとは車両のエンジン動力で行うことを言う。
(3) ステージビームと車両の位置を確認するために機械や電子装置等補助具を使用してはならず、ライダーの肉眼のみで行うこと。

(4) ステージビームに進む前にプレステージライトを点灯させなければならない。デュアルスタートの場合は両者がプレステージライトを点灯するまでステージビームに進んではならない。

(5) スタートするためには、プレステージライトを点灯させなければならない。ステージ完了前にステージライトを消灯した場合は、失格となる。ただし決勝ヒートにおいて両者がステージライトを消灯させてしまった場合は再スタートするものとする。

(6) ステージのために与えられる時間のリミットはスターターに委ねられる。このリミットを越えた場合およびスターターの指示通りステージしない場合失格となる。

(7) ステージ完了後ステージし直すことは禁止される。

※ステージングの際、プレステージ・ステージライト点灯後、さらに深くステージングする為に前進してプレステージライトを消灯する、いわゆるディープステージは、ファールを誘発するため望ましくない。

4) スタート

(1) クリスマスツリーのグリーンライトが点灯した時をスタート合図とする。

(2) 決勝レースにおいてステージ完了後、スリーアンバーライトが作動（点灯）する前にステージライトを消灯した場合は、当該ヒート無効とする。

(3) リアクションタイム（以下RTと呼ぶ）によって反則とみなされる場合を以下に示す。

① ファールスタート

a．プロスタートの場合：RTが0秒以上～0.4秒未満

b．ストックスタートの場合：RTが0秒以上～0.5秒未満

② ジャンプスタート

RTが0秒未満

15 競　技

競技方法は次の2種類とする。

1) タイムトライアル競技

2～3回のタイムトライアルを行いE.T.（区間タイム）を競う。

2) トーナメント競技

(1) 公式予選

① 決勝のラダーポジションを決定するために、最低1回のタイムトライアルによる公式予選を行なう。

② 各ライダーは、最低1回公式予選に出走しなければならない。

③ 予選の優先順位

a．有効なスタートと、有効なゴールを行なったライダーのE.T.順。

b．aが同タイムの場合はトップスピードの速い順。

c．bが同スピードの場合はRTが規程数値に近い順。

d．ファールスタートを行ったライダーは、RTが規程数値に近い順。

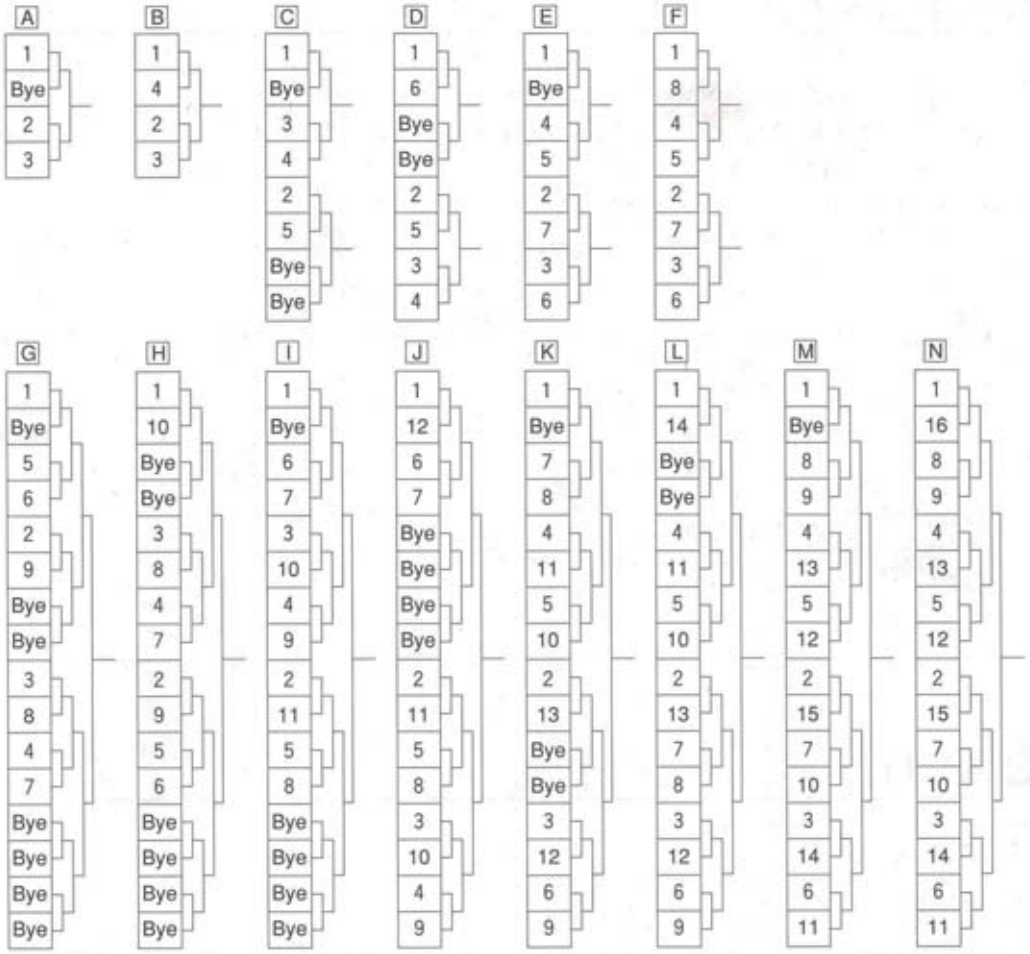
e．有効なスタートを行ったが1分未満にゴールに到着しなかったライダーには、59.999秒のタイムが与えられる。複数の場合のラダーポジションは大会審査委員会の決定に委ねられる。

f．上記以外の予選に関する順位付けは、審査委員会の決定に委ねられる。

(2) 決勝

決勝出走台数による決勝出走組み合わせ（ラダーポジション）は、タイムトライアルの順位によって次頁の表の通りとする。

American Pro ladder by-run system (FIM Road Racing Rules Appendix028)



A：3名ラダーの組み合わせ
B：4名ラダーの組み合わせ
C：5名ラダーの組み合わせ
D：6名ラダーの組み合わせ
E：7名ラダーの組み合わせ
F：8名ラダーの組み合わせ
G：9名ラダーの組み合わせ
H：10名ラダーの組み合わせ
I：11名ラダーの組み合わせ
J：12名ラダーの組み合わせ
K：13名ラダーの組み合わせ
L：14名ラダーの組み合わせ
M：15名ラダーの組み合わせ
N：16名ラダーの組み合わせ

16 順位の決定

タイムトライアル、公式予選	トーナメント、決勝レース
1．E.T.のベストタイムの早い者が上位。 2．1．が同タイムの場合、トップスピードの速い者が上位。 3．2．が同速度の場合、リアクションタイムの早い者が上位。 4．ファールスタートの場合、RTが規定数値に近い者が上位。E.Tは無効。	1．勝者の決定 (1) 2台同時にスタートし、先にゴールラインを超えた者が勝者。 (2) (1) で同着の場合、E.T.の早い者が勝者。 (3) (2) が同タイムの場合、トップスピードの速い者が勝者。 (4) (3) が同速度の場合、前ヒートのE.T.の速い者が勝者。 (5) (4) が同タイムの場合は大会審査委員会の決定による。 2．順位の決定 (1) 最終ヒートの勝者が優勝となる。 (2) 最終ヒートの敗者が2位となる。 (3) 3位以下の順位は当該ライダーの完了したヒートごとのE.T.順に決定する。

17 計測システムと計時結果

1）タイム計測

(1) E.T.を光電管計測装置を使用し、1/1000秒単位まで計測を行う。

(2) 光電管計測装置が故障、事故等によって使用できない場合はストップウォッチを使用し手動計測で1/10秒単位まで計測する。

2）タイム発表は原則としてE.T.のみとする。

3）タイム計測ができない場合およびレース中の反則行為の取り扱い。

(1) 当該ヒート無効	① ステージング完了前にステージライトを消灯した場合。 ② ステージング後スタートシステム作動前にステージライトを消灯した場合。 ③ 相手側がプレステージまたはステージングしてから著しくプレステージまたはステージングが遅い場合。 ④ ファールスタート ⑤ センターライン等コースを区分けするラインを越えた場合。 ⑥ コースの設備、計測装置に接触した場合。 ※ラインを越えるとは、タイヤの一部でもライン塗装上を越えることを言う。ただしデュアルスタートで相手との接触を避けるためにラインを越えた場合は反則とは見なされない。
(2) 計測不能	① グリーンランプ点灯後5秒以内にスタートしない場合。 ② ジャンプスタート
(3) 59.999秒	タイムトライアル・予選においてスタート後ゴールラインを超えられない場合。

4）速度計測

ゴールラインの手前に設置された光電管によりゴールラインの通過速度（トップスピード）を測定する。

18 禁止行為

次の行為を行った場合失格となる。

1）バーンアウトで車両を後退させることができない場合：旋回してスタートラインへ戻ることは禁止される。

2）スタート前に2回エンジンが止まった場合：エンジンの再始動は1回のみ許される。

3）競技役員の許可なしにコースを逆走した場合。

4）パドック内、リターンロードでの最低速度遵守違反。

19 リタイヤ(棄権)と停止

1）リタイヤと停止は、国内競技規則・第3章［㉒競技］（36頁）による。

2）ライダー本人が負傷その他の理由でリタイヤ届を提出できないときには、競技役員の判定によりリタイヤと認めることができる。

20 賞典

1）賞典は大会特別規則または公式通知にて示される。

2）賞典は参加台数により制限される場合がある。この制限は、大会特別規則または公式通知にて示される。

3）全日本選手権、地方選手権ポイントは、付則27［⑬賞および得点］（267頁）による。

21 レース終了後の車両保管と再車検

1）上位入賞車両は、所定の位置により競技役員の誘導に従って車両保管区域へ入らなくてはならない場合がある。

2）エンジンを分解して排気量を測定するほか、規定を越える改造などについて再車検を行うことがある。

3）必要に応じて車両保管を行うことがある。

22 レースの成立

1）成立の条件

定められたスケジュールに従い参加者全員に走行の機会が与えられる。クラスごとに全員1回のタイムトライアル（またはトーナメント及び予選）が終了していれば、その時点で競技は成立したものとみなされる。

参加者の事情により走行しない場合も、クラス単位で競技は成立となる。

2）レース中断／中止時の順位の決定

タイムトライアル、予選	トーナメント、決勝レース
1．完了したヒートのE.T.のベストタイムが速い者が上位。 2．1.が同タイムの場合、ドップスピードの速い者が上位。 3．R.T.の速い者 4．3.が同じ場合、大会審査委員会の決定による。	1．公式予選のみ完了の場合、タイムトライアルに準ずる。 2．完了したヒートの勝者のE.T.の速い者が上位。 3．完了したヒートの敗者のE.T.の速い者が上位。

23 レースおよび大会の延期・中止等

1）大会は原則として本規則に発表した日程から変更または延期されることはない。

2）レースまたは大会が参加申込後に中止された場合、参加者が支払った出場料、MFJ共済金掛金は返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

24 抗　議

1）抗議は、国内競技規則・第3章〔㉚抗議〕（39頁）による。

2）車両の分解検査に要した費用は、その抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わなければならない。車両の分解等に要した費用は車検長が算定する。

25 違反に対する罰則

競技規則による違反行為に対する罰則は、国内競技規則・第3章〔㉜違反行為に対する罰則〕（40頁）による。

26 本規則の解釈

本特別規則および競技に関する疑義は事務局宛に質疑をすることができる。なお、この回答は、大会審査委員会の解釈、決定が最終的なものとして示される。

27 本規則の施行

本規則は、各競技大会の参加申込受付日より有効となる。なお本規則に示されていない事項は国内競技規則による。本規則は、2002年1月1日から施行する。

付則27

全日本ドラッグレース選手権大会 特別規則

DRAG RACE

1 公　示

全日本ドラッグレース選手権は、FIM国際スポーツ憲章に基づいたMFJ国内競技規則と各大会の特別規則に基づきMFJ公認の国内格式として開催される。

2 開催種目と競技会の日程

日　程	会　場
3月31日（日）	ツインリンクもてぎ
5月6日（祝）	鈴鹿サーキット
6月9日（日）	スポーツランドSUGO
7月28日（日）	ツインリンクもてぎ

1）開催種目は下記とする。
ドラッグレースライセンスA級　プロストックバイク（PB）

2）ドラッグレースA級所持者であっても全日本選手権に出場するためには、一定の制限が設けられる場合がある。

3）日程調整中の競技会が追加される場合がある。

3 追加のクラス

全日本選手権には併催クラスが追加されてもよい。但し下記の条件が満たされなければならない。パドックが充分広く、主催者が全日本選手権のレースを優先させ規定の予選・決勝レースを設定できること。

4 コース

日本ドラッグレースウェイ	SS1/4マイル（402.33m）
ツインリンクもてぎ	SS1/8マイル（201.165m）
鈴鹿サーキット	SS250m
スポーツランドSUGO	**SS1/8マイル（201.165m）**

コースの長さは大会特別規則、公式通知で変更される場合がある。

5 大会審査委員会

大会審査委員会は以下のように構成する。
審査委員長　：公平性の判断（MFJ派遣）
審査委員　　：公平性の判断

ディレクター：競技のディレクション

1）必要に応じて審査委員長任命の選手代表が、審査委員会に参加することが出来る。

2）競技の中止など重大事項を決定する場合、審査委員長、ディレクター、選手代表の３者で審議のうえ決定する。

3）任命された審査委員長が定時までに会場に到着しない場合は次席の者がこれにあたる。

6 参加定員

制限が設けられる場合がある。

7 出場料およびMFJ共済会掛金（保険料）

出場料：40,000円（MFJ共済会掛金（保険料）1,500円含む）

8 ピット要員

1）１ライダーに対して３名のピットクルーが認められる。いずれもピットクルーライセンスが必要である。エントリー時に申請が必要であり、当日の変更は可能であるが追加は認められない。

9 ゼッケンナンバー

1）前年度全日本選手権の有得点者には当該クラスのランキング順位に従って年間指定ゼッケンナンバーが与えられる。

2）その他のライダーには大会ごとに主催者からゼッケンナンバーが指定される。

10 公式予選

1）公式予選は、タイムトライアル方式により最低１回行う。

11 決勝レース

1）16台によるトーナメント（勝ち抜き方式）によって行われる。また参加台数によって32台のトーナメントを行う場合がある。

12 コース選択

1）コース選択は、経過タイムにより決定する。予選のE.T.（直線の区間タイム）の速い方が第１ヒートのレーン選択ができる。続くヒートでは、前回のヒートの速い方がレーン選択をできる。同タイムの場合は、トップスピードの速い者が優先される。

13 賞および得点（ポイント）

1）賞の詳細については大会特別規則または公式通知にて示される。

2）得点はトーナメント競技では、下記のポイント表の通りとする。

・トーナメントラダー

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	14位	15位	16位
250	220	200	180	160	140	120	100	80	70	60	50	40	30	20	10

a）予選に参加し予選を通過して決勝トーナメントに残ったライダーには、その順位によって下記のポイントが与えられる。この場合の参加とは、予選において有効なタイムを記録

した場合を指す。

予選　1位……50　4位……20
　　2位……40　5位～8位……15
　　3位……30　9～16位……5

b）競技が当初よりタイムトライアルで行われた場合、下記のタイムトライアル競技の〈ポイント表〉に従いポイントが与えられる。

c）トーナメント競技において、不可抗力及びトーナメント競技参加者の全者が失格となり、トーナメント競技の続行が不可能となり、タイムトライアルとしてその後の競技を続行した場合は、タイムトライアル競技の〈ポイント表〉に従いポイントが与えられる。この場合a）項のポイントは無効となる。

d）トーナメント競技において不可抗力により競技の途中で続行が不可能になった場合は、その時点で決定された順位により、下記のタイムトライアル競技の〈ポイント表〉に従いポイントが与えられる。この場合、a）項のポイントは有効となる。

e）出走台数が2台に満たない場合はポイントは与えられない。

タイムトライアル競技では、有効なタイムを記録したライダーに、その順位によって下記のポイントが与えられる。

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	14位	15位	16位
150	130	110	100	90	80	70	60	50	40	30	25	20	15	10	5

※ドラッグレースの全日本選手権・地方選手権は上記の得点をシリーズランキングポイントとする。

（B級からA級への昇格はMFJ国内競技規則第3章［㉗公式得点］（37頁）による）

14 主催者の権限

1）参加申込みの受付に際して、その理由を示すことなく、参加者、ライダー、ピットクルーを選択あるいは参加を拒否することができる。

2）競技監督が必要と認めた場合、ライダーに対し、指定医師による健康診断書の提出を要求し競技出場の健康上の理由による可否を最終的に決定することができる。

3）競技番号の指定、あるいはピットの割り当て等にあたり、各参加者の優先順位を決定することができる。

4）やむを得ざる理由により、公式プログラムの印刷に間に合わなかったライダーの氏名登録又は変更について許可することができる。

5）すべての参加者、ライダーピット要員およびその参加車両の音声、写真、映像など報道、放送、出版、ビデオ等に関する権利を有し、この権限を第3者が使用することを許可できる。

15 本規則の施行

本規則は、各競技会の参加申込受付日より有効となる。なお本規則に示されていない事項は国内競技規則による。

用語の解説
- ラダー（Ladder）
  トーナメント競技の組み合わせ表のこと。
- E. T.（Elapsed Time）
  スタートからフィニッシュまでの区間タイムのこと。
- R. T.（Reaction Time）
  リアクションタイムのこと。グリーンスタートライトが点灯してから車両が動き出すまでの反応時間。
- バーンアウト（Burn Out）
  タイヤのグリップ向上を目的として、スタートエリアに着く前に指示されたエリアで水を撒き、後輪を空転させて暖める行為。
- ドライホップ（Dry Hop）
  バーンアウト後にタイヤに付着したタイヤかすを飛ばしたり、水を乾燥させるために行う短い前進。
- ステージング（Staging）
  スタートエリアに入り、プレステージライトを点灯させるために移動を始めてから、ステージライトを点灯させるまでの一連の行動。

付則28 ドラッグレースの仕様

DRAG RACE

ドラッグレースの基本仕様

1 チタニウム合金

すべての車両についてフレーム、フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアーム、スイングアーム・スピンドル、およびホイール・スピンドルの構造にチタニウム合金を使用することは禁止される。ホイール・スピンドルに関しては、軽合金の使用も禁止される。チタニウム合金のナットとボルトの使用は許可される。

2 エキゾースト・パイプ

エキゾースト・パイプはリヤホイールの後ろに伸びてはならない。またライダー、燃料タンク、およびタイヤから離れて放出されるようにする。フレキシブル・パイプは許可されない。

3 ハンドルバー

1）ハンドルバーの最低幅は、80ccまでのマシンは最低400㎜。80ccを越えるマシンは最低450㎜とする。500ccを越えるマシンは最低560㎜とする。

2）ハンドルバーの最低幅はグリップ外側の先端から、反対側のグリップの外側先端までの距離で測定される。

3）ハンドルバーの先端が露出される場合は固形物質を詰めるか、ゴムでカバーされていなければならない。

4）ハンドルバーは、標準仕様の位置でなければならない。溶接された鋼鉄またはクロモリ鋼鉄延長ハンドルバーは認める。但し、標準ハンドルバーの位置より100㎜以上越えてはならない。

5）ハンドルバーの中心線、または中央位置から両側に対する回転角度は最低各15°以上なくてはならない。

6）ストリームライニングがある場合、ハンドルバーの位置がどこにあっても、フロント・ホイールがストリームライニングに接触してはならない。

7）ライダーの指が挟まれないようにするために、ハンドルを左右いっぱいに切ってもハンドルバー（レバーを含む）と燃料タンクの間に、最低30㎜の間隔があるように、ストッパー（ステアリングダンパー以外のもの）を取りつけなくてはならない。

8）ハンドルバー・クランプは、ハンドルバーが折れやすい部分ができないように丸みをつけて製作しなくてはならない。

9）軽合金ハンドルバーの溶接による補修は禁止される。

4 コントロールレバー

1）すべてのハンドルバー・レバー（クラッチ、ブレーキ等）は、原則として端部が丸くなっていなければならない。
2）ピボット点からレバーの端（ボール状の先端）まで測った場合のコントロール・レバーの長さは200㎜を越えてはならない。
3）各コントロールレバー（ハンドルおよびフット・レバー）はそれぞれ独立したピボットを持っており、そのレバー自体のピボットにマウントされていなくてはならない。
4）もしブレーキ・レバーがフットレストの軸にピボットされている場合、フットレストが曲がったり、又は変形した場合など、どのような場合でも作動できなくてはならない。

5 スロットルコントロール

1）スロットルコントロールは、手を離した時に自動的に閉じるものでなくてはならない。
2）オートマチック・クラッチを用いるモーターサイクルには、バーンアウトの後でアシスタントがマシンをスターティングラインに押して戻る際に、スロットルが開くのを防ぐための安全装置が装着されていなければならない（ツイストグリップ・スリーブとハンドルバーにピンを介入し、目立った飾りふさを装着すれば十分）。

6 フットレスト

1）フットレストは折りたたみ式でもよいが、この場合は自動的に元の位置に戻る仕組みになっていなくてはならず、さらにフットレストの先端には半径最低８㎜の、一体構造のプロテクションが設けられている事が望ましい。
2）もしフットレストが折りたたみ式でない場合、及びゴムのカバーを装着していない場合は、その先端を半径最低８㎜以上の球形に丸められていることが望ましい。
3）フットレストは、前後のホイールの中心を結ぶ線よりも100㎜以上、上に設けられていてはならない。またリヤ・ホイールの中心を通る垂直線よりも380㎜以上前になくてはならない。フットレストはコントロール・ペダルの操作が行いやすい位置にしなくてはならない。

7 ホイール

モーターサイクルにはフロントにモーターサイクル用に製造されたホイールを装備していなければならない。リヤ・ホイールリムの幅はリヤ・タイヤの接地面よりも50㎜以上狭くなければならない。

8 タイヤおよびチューブ

タイヤはスリック・タイプまたはトレッドの深さが最低２㎜のものとする。トップスピードが200㎞/hを越えるモーターサイクルの場合、フロント・タイヤは最低“V”レートあるいはロードレース・タイプとする。リヤ・タイヤのチューブは天然ゴム製のレーシングタイプとする。

9 ブレーキ

1）モーターサイクルには、各ホイールにひとつずつ、ホイールと同心的に独立して作動する有効なブレーキが装備されていなくてはならない。

2）ディスクブレーキの最低直径は175㎜、ドラムブレーキの最低直径は、150㎜とする。500cc以上のモーターサイクルはフロント及びリヤにディスクブレーキを装備していなければならない。フロントシングルディスクは、最低254㎜（10インチ）×5㎜、フロントダブルディスクは最低203㎜（8インチ）×5㎜。フロントシングルディスクの場合、リヤディスクは、最低254㎜（10インチ）×5㎜。フロントダブルディスクの場合、リヤディスクは、最低216㎜（8 1/2インチ）×5㎜。ラインロックの使用を認める。

10 フロントフォーク

フロントフォークは油圧タイプとする。フォーク・チューブはトップ・フォーク・クラウンより30㎜以上突出していてはならない。最低ストロークは、50㎜とする。フォークがボトムした状態で、ホイール以外のいかなる部分も路面に接地してはならない。

トップ・フォーク・チューブの最低直径は：

350ccを越え750cc以下　**35㎜**

750ccを越え　**38㎜**

11 最低地上高

ライダーがポジションにつき、正当な空気圧（リヤタイヤ4 PSI（0.3気圧））で、フォークが完全に圧縮された状態での最低地上高は50㎜とする。垂直位置からモーターサイクルを左右に12°づつ傾けることが可能でなければならない。これはホイール以外のいかなる部分も路面に接地しない状態で達成されなければならない。

12 マッドガードおよびホイールプロテクション

1）マッドガードはタイヤの両側方に張り出していなくてはならない。

2）フロント・マッドガードは、ホイールの周囲を最低100°に渡ってカバーしていなくてはならない。この部分において、下記の角度を守っていればホイール自体がカバーされてもよい。マッドガードの前端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は45°と60°の間でなくてはならない。マッドガードの後端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は20°を越えてはならない。

3）リヤ・マッドガードは、ホイールの周囲を最低120°に渡ってカバーしていなくてはならない。リヤ・マッドガード後端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は120°を越えてはならない。

4）ストリームライニングがある場合には、マットガードは必要とされない。ストリームライニングが無い場合にはマッドガードが必要とされる。シートのフェアリングがリヤ・タイヤの外側の垂直接線にまで達している場合には（許容誤差−50㎜）、リヤ・マットガードを装着する必要は無い。

13 ストリームライニング

1）ストリームライニングは、ライダーがストリームライニングのパーツを取り外さないでマシンに乗り降り出来るようにできていなければならない。また、ライダーがモーターサイクルを操作するのを妨げてはならない。

14 シート

シートはライダーに安全なライディング・ポジションを提供するように作られ、危険なほど不快適であってはならない。最低シート高は500㎜（ライダーが乗車してリヤタイヤ0.3気圧において）。

15 ナンバープレート

1）ナンバープレートは長方形で頑丈な材質でできていなければならない。最低寸法は285㎜×235㎜とする。

2）水平面から50㎜以上カーブしていないプレートは、カバーされたり曲げたりされてはならない。

3）ナンバープレートはモーターサイクルの両側に、外に向かって垂直に固定されなくてはならない。ナンバープレートははっきりと見えるように装着され、モーターサイクルのいかなる部分、またはライダーが自分のシートに座った時に身体で隠れてしまわないようにしなくてはならない。ウイリーバーが付いている車両はウイリーバーに付けることが望ましい。

4）別個のナンバープレートを装着する代わりに、ボディーまたはストリームライニングに同寸法のスペースをつや消し色でペイントするか、あるいは固定してもよい。

5）数字ははっきり読めるように、また太陽光線の反射を避ける為に地の色同様につや消しで書かなければならない。

数字の最低寸法は下記のとおりとする。

数字の高さ	140㎜
数字の幅	80㎜
ストローク幅	25㎜
数字間のスペース	15㎜

6）数字は英国式を使用する。「1」は垂直の1本線「7」は水平のラインなしの単純な傾斜線

7）正規のナンバーと混同する恐れのあるその他のナンバープレート、またはマーキングは競技会の開始前にすべて取り外されなくてはならない。

8）すべてのナンバープレートの周囲には最低50㎜の余白が残され、ここにはいかなる広告も表示されてはならない。この規則に適合していないナンバー・プレートを装着しているモーターサイクルは、車検長によりレース参加の許可を得ることができない。

9）ナンバープレートの地色及び数字の色は下記のとおりとする。

PB	（プロストックバイク）	黄地に黒文字
SB-EX	（ストックバイクエキスパート）	白地に黒文字
SB	（ストックバイク）	白地に黒文字

※その他の種目は主催者の定める大会特別規則による。

16 ウイリーバー

ウイリーバーの装着が強く勧められる。ウイリーバーの長さは、フロントアクスルセンターからウイリーバーアクスルセンターまで最大3,300㎜以内である事。金属製のウイリーバー車輪は禁止する。

17 プロテクティブ・カバー

すべてのオープン・トランスミッションにはカバーが設けられ、回転するパーツとの接触が保護される。機械式駆動のコンプレッサーには“ポップ・オフ・バルブ”インテーク・マニフォールドへのゴム製コネクション、または爆発を防ぐための他のデバイスが設けられていなければならない。

18 フュエルタンク及びオイルタンク

1）燃料タンクはフレームに安全に固定されていなければならない。

2）すべてのオイルドレーンボルトは確実に固定され、ドリルで穴を開け、ワイヤーで所定の箇所に固定されなければならない。オイル供給パイプは所定の位置に適切にワイヤー止めされなくてはならない。オイル通路に進入する外部オイル・フィルター及びオイル圧力ラインのスクリューやボルトには、安全にワイヤーロックされなければならない。

3）燃料およびオイル・フィラー・キャップ

燃料およびオイル・フィラー・キャップは、閉じた状態で漏れないようになっていなくてはならない。さらにこれらはいかなる場合においても誤って開くことのないように完全にロックされていなくてはならない。

19 燃料システム

すべてのモーターサイクルには、機械的な燃料シャット･オフ･バルブが装着されていなければならない。ポンプによって駆動されるフュエル・インジェクション・システムにはエアロクイップまたは同様のハイプレッシャー・チューブがもうけられていなければならない。イグニッションによって停止できないエンジンの場合、すぐに作動する燃料シャット・オフ・バルブがもうけられていなければならない。これはライダーが両手でハンドルを握った状態で操作できなければならない。また、これは、ライダーがモーターサイクルを離れた際にエンジンへの燃料の供給を止めるような構造（どの方向においても作動するように）になっていなければならない。シャット・オフ・バルブはエンジンスタート時に延長された状態で１m以内の長さのコードによって、常にライダーに連結されなくてはならない。

20 キャブレターとフュエル・インジェクション

キャブレターとフュエル・インジェクター・インレットは、バックファイヤーが生じた際に、ライダーが怪我をしないような位置に置かれるか、覆われていなければならない。フュエル・インジェクションには、デュアル・ケーブルのポジティブ・リターン・スロットル（または２本のリターン・スプリング）が必要とされる。

21 キル・スイッチ

モーターサイクルには、ライダーがモーターサイクルのコントロールを失った時に、エンジンへのすべての電源をカットする電気式接触が装備されていなければならない。これはエンジン始動時には常にライダーにコネクトされていなければならない。

22 オイル・キャッチ・タンク

1）オイル・ブリーザー・パイプが装着されている場合、排出口はキャッチ・タンクに放出するようになっていなければならない。（次の物も安全なようにワイヤー・ロックされていな

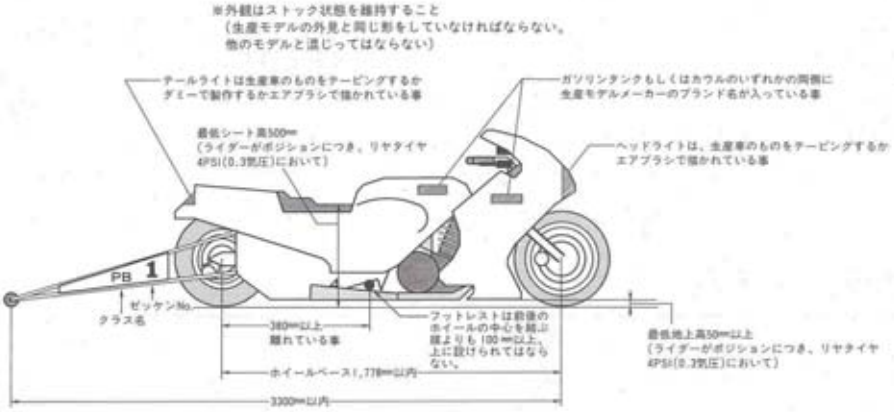
ければならない。リヤ・スプロケット、フロント・アクスル、リヤ・アクスル、ブレーキ・キャリパーのピン、ブレーキ・ディスク、フットブレーキのマスターシリンダー。）

2）オイルキャッチタンクはアクシデント発生時でも容易に破損したり脱落せず、かつ高温に耐えられる材質であること。

3）キャッチタンクに溜まったオイルはエンジンにもどるリターンパイプを取り付けることが望ましい。……付則6ロードレース基本仕様の図A（107頁参照）。

23 チェーン

チェーンはマスターリンクのないクローズド・タイプとする。またはマスターリンクがある場合には安全にワイヤーロックされなくてはならない。



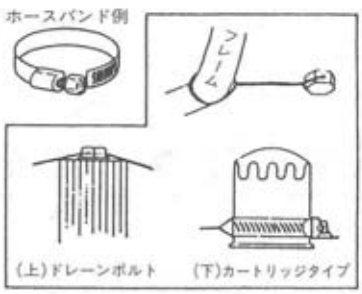
ワイヤーロック

1）必ず行う部分

① オイルドレーンボルト
② 外部オイルフィルター
③ 圧力ライン系
④ ホイールスピンドルエンド

2）推奨される部分

上記以外の回転部分を固定するボルト類



PB（プロストックバイク）クラスの車両規制（A級）

1 クラス区分

定義：このクラスはストック（生産モデル）の外観で自然吸気によりガソリンを燃焼するモーターサイクル用のクラスである。

クラス	ベースエンジン	最大限排気量	最大限気筒数	最大限変速数
プロストックバイク(PB)	ハーレーVツイン	2,621cc (160立方インチ)	2	6
	2バルブエンジン	1,507.60cc (92立方インチ)	6	6
	4バルブエンジン	1,294.57cc (79立方インチ)	6	6

2 車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない

1）エンジンの型式
2）シリンダーの数

3 下記部品は各項の制限内で改造出来る（ドラッグレースの基本仕様に合致すること）

42）(2) リヤホイールは交換出来るが下記制限内とする。
最低直径　15インチ　　最大直径　18インチ

44）(1) フロントホイールは交換出来るが下記制限内とする。
最低直径　16インチ　　最大直径　19インチ

50）(1) フレームボディ
修正・変更は認められる。但しキャスター角は最大で40°、シート高は最低50cm（ライダーがポジションにつきリヤタイア4 PSI（0.3気圧）において。）ホイールベースは70インチ（1778mm）以内

51）(1) フロントサスペンション
フロントサスペンションユニットは交換出来る。ただしサスペンションストロークは最低35mm（O.E.M.タイプ）。アフターマーケット製の場合、最低直径34mm。サスペンションストロークは38mm。フロントフォークの延長は4インチ（約10cm）以内。

52）(1) リヤサスペンション
リヤサスペンションの改造・変更（リジット化含む）は認められる。

54）カウリング
(1) オートバイ用として生産されていなければならない。生産モデルの外見と同じ形をしていなければならず、他のモデルと混じってはならない。
(2) パーツの変更は認められるが生産時の形状を維持しなければならない。カウルの両側にブランド名が入っていること。
(3) カウルの下部はエキゾーストパイプのクリアランスのために修正及び取り除いてもよい。
(4) カウルの外側にエアーインテークホースの取り付けは認められない。
(5) ヘッドライト、テールライトはエアブラシ等で描かれていること。

55）シート・シートカウル
改造変更出来るがライダーが後ろに滑るのを防ぐステップがついていることが望ましい。

4 重　量

重量

PBクラスの最低重量は下記とする。

ライダーが全装備で乗車した状態で測定する。

1）スズキエンジン搭載車で社外製ヘッド装着車　260.82kg（575ポンド）

2）その他の車両　249.47kg（550ポンド）

5 車両が下記事項に適合していない場合、改造・変更が義務づけられる

17）　エレクトリックフュエルポンプを装備している場合は、転倒の際にただちにフュエルポンプが自動的に停止する装置を備えていなければならない。

27）(1)　エンジンブリーザーのキャッチタンク取り付け（4サイクル車は500cc以上、2サイクル車は250cc以上）

36）　灯火器のレンズの処置または取り外し

40）　チェーンガード

リヤアクスルを越えてチェーンの上部をカバーすること。チェーンガードは鋼鉄製または厚さ3.2㎜以上のアルミ製のものに限る。固定は3カ所以上とする。

53）　ステアリング・ダンパーの取り付け

56）　すべてのオイルドレンボルト、及び外部のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック。

61）　ウイリーバーの取り付け

フロントアクセルセンターからウイリーバーアクセルセンターまでは最大3,300㎜以内である事。金属製のウイリーバー車輪は禁止する。

6 いかなる場合も禁止される事項

23）　シフトは手動またはエアシフターとし、電気式デバイスおよびコンピュータによるシフトチェンジは禁止する。（エアシフターの機構の一部に電気式デバイスを使用することも禁止される。）

42）　リヤホイールスピンドル構造に軽合金を使用してはならない。

44）　フロントホイールスピンドル構造に軽合金を使用してはならない。

53）　ステアリングダンパーを取りつけた場合ハンドル切れ角のストッパーとしてはならない。

58）　燃料はガソリンとし、アルコール等の燃料は禁止する。燃料及び添加剤等のいかなる手段でも亜酸化窒素、一酸化二窒素の使用は一切認めない。輸入レーシングガソリンの使用は事前に申告し許可を得た場合以外は使用を認めない。

59）　情報収集以外の目的でのコンピューターの使用。

60）　キック、電気スターター以外のエンジン始動（押しがけ等）。

クイックテント 設営2分！簡単収納！

屋外作業・展示・イベント・キャンプ・災害備品に…

UVカット加工 トップカバー

QUIK SHADE クイックシェード RECREATIONAL3×3

品 番／XT−250−D
品 名／クイックシェードレクレーショナル3×3
通信販売キャンペーン価格／￥40，000−［税・送料込み］（通信販売価格：￥49，800−）
TEAM NEO通信販売会員価格／￥32，000−［税・送料込み］※ダークグリーンのみ
◆カラー：ブルー・レッド・ダークグリーン・ホワイト ◆重量：約33Kg
◆展開サイズ：3．2（高さ）×3．0（幅）×3．0（奥行き）メートル
◆収納サイズ：1．55（高さ）×0．2（幅）×0．2（奥行き）メートル
※輸入品のため製品仕様・価格を予告なく変更する場合がありますので、ご注文の際、納期とあわせてご確認下さい。

クイックシェードは安全対策を施した設計ですが、強風の場合の天幕不順時や危険と思われる場所などでは使用を差し控えて下さい。
雨天の場合など、市販のテント用防水スプレーのご使用をおすすめいたします。

アクセサリー（別売）

※ウォールパネル・エントリーパネル・ご注文の際は、生布色（青・赤・濃緑・白）をご指定下さい。
※また安全対策として、別売「ウエイトプレート」（重量：1枚約3Kg／4個セット￥10,000）の使用や、市販のロープとペグで固定されますことをおすすめ致します。

ウォールパネル
壁用シート。
アタッチメントとジッパーで装着！
（写真は3方使用例）
￥12，000−／1面

エントリーパネル
入り口用シート。
ジッパーで簡単開閉！
（写真はエントリーパネル1枚＋ウォールパネル3枚使用例）
￥13，000−／1面

スクリーンパネル
虫除けに最適。
ジッパーで簡単開閉！
￥16，500−／4面

ウエイトプレート
重量：1枚約3kg
￥10，000−／4枚1セット

ガソリン携行缶

危険物保安技術協会試験確認済

本体カラー：赤
写真はTS−20

いつでもどこでもこれさえあれば大丈夫！一家に一台の必需品鋼板製完全携行缶

■用途■長距離ドライブ、小型船舶、農耕用、工事現場用、一般家庭用
■特徴■①長距離ドライバー、家庭、職場、農耕、小型船舶などの補給燃料の携行缶です。特に安全性を第一に考案した商品です。
②女性ドライバーには特に10L、5Lが楽々と給油出来る様に作製してあります。
③内面、亜鉛処理鋼板、外装はメラミン焼付塗装仕上げですので防錆耐久性に優れています。
④鋼製ドラム構造の口金を使用しています。エアー抜き、給油の蓋のネジを絞める、弛めるは、給油ホースのもとにドラムレンチが付いています。
⑤車載用の場合、油揺れを防止し、揺れから起こる気化現象を防ぐために仕切り板が20L、18Lに付いています。
■使用上の注意■
●給油量は各種の収納量以上入れないで下さい。●給油はエアーを抜き口金を弛める。（レンチは給油ホースのもとに付いてる）
●蓋、給油ホースは絶対に紛失しないようにして下さい。●Oリングは老化したら交換して下さい。
●給油中、火気などに充分注意して下さい。

品番（型番）	TS−20
通信販売価格	￥4，250−［税込み］
角形 本体寸法	長さ455×幅255×高さ190mm
JIS適合	内面：防錆処理鋼板 外面：高級塗装 0．8mm
容器	容積：20L 収納量：18L
日本工業規格	口金は日本工業規格 ドラム用口金小使用
付属品	ノズル 給油管の先にドラムレンチ

品番（型番）	TS−10
通信販売価格	￥3，500−［税込み］
角形 本体寸法	長さ360×幅240×高さ135mm
JIS適合	内面：防錆処理鋼板 外面：高級塗装 0．7mm
容器	容積：11L 収納量：10L
日本工業規格	口金は日本工業規格 ドラム用口金小使用
付属品	ノズル 給油管の先にドラムレンチ

品番（型番）	TS−5
通信販売価格	￥2，450−［税込み］
角形 本体寸法	長さ270×幅180×高さ115mm
JIS適合	内面：防錆処理鋼板 外面：高級塗装 0．7mm
容器	容積：5．3L 収納量：4．5L
日本工業規格	口金は日本工業規格 ドラム用口金小使用
付属品	ノズル 給油管の先にドラムレンチ

たて型ガソリン携行缶

品番（型番）	たて型−20
通信販売価格	￥7，500−［税込み］
角形 本体寸法	長さ340×幅165×高さ466mm
JIS適合	内面：防錆処理鋼板 外面：高級塗装 0．8mm
容器	容積：20L 収納量：18L
口金	ドラム用口金中使用
付属品	ノズルと専用レンチ

本体カラー：赤
写真はTS−5

ガソリン・オイルの運搬、備蓄に！

本体カラー：緑
写真はたて型−20

※ガソリン携行缶の仕様は 予告なく変更する場合があります。

LEGUNOS HIGH PERFORMANCE LUBRICANTS

4T−HD special MC SYNTHETIC	￥3，800−／1L	ハーレーやレース用バイクに。放熱性。15W−50
4T−10W−40 SEMI−SYNTHETIC	￥2，000−／1L	ヨーロッパ産高純度ベースオイル使用
2T−SPECIAL SPEC Ⅱ（SS−Ⅱ） SYNTHETIC	￥5，600−〜￥7，500−／950ml	モトクロス・ロード・レース他。当社レース実績No1。混合目安1：40
GASOLINE FUEL ADD. PREMIUM	￥250−／30ml	ガソリン燃料添加剤。排気清浄。着火性・出力向上。30L用※LUBRO MOLY製品（1パック9個入）【レース規定注意】
GASOLINE FUEL ADD. CLASSIC	￥3，000−／250ml	ガソリン燃料添加剤。クラシックエンジンに。高圧縮エンジンに。50L用※LUBRO MOLY製品（1パック9個入）【レース規定注意】

TEAM NEO RACING

TEAM NEO高性能ガソリン燃料

製造日より10日以降から50日以内の間でのご使用をおすすめします。価格変動有り

2000年10月3日価格改定

品番（品名）	20L燃料のみ	20Lペール缶入
出力向上タイプ（TN−GFP−012）	￥5，000−	￥6，400−
燃焼安定タイプ（TN−GFP−001）	￥5，000−	￥6，400−
NEO RACING 特注 レース用ガソリン	仕様により別途見積り	仕様により ステンレス缶必要

＜送料＞
1缶につき1送料必要です。
東北地方を除く、本州・四国・九州￥600−、東北地方￥800−、北海道￥1，200−、その他特殊配達地域・沖縄・離島はお問い合せ下さい。

Silkolene 代行輸入 価格変動有

4サイクルオイル	
◆Pro−4 PLUS SYNTHETIC RACING 10W−50	￥2，400−／1L
◆Pro−4 SYNTHETIC RACING 15W−50	￥1，800−／1L
2サイクルオイル	
◆Pro−2 SYNTHETIC レース混合用 40:1	￥3，120−／1L
◆SUPER−2 INJECTA 分離・混合用	￥1，020−／1L
ギアオイル	
◆Pro−SRG 75 SYNTHETIC RACING	￥2，400−／1L
サスペンションフリュード	
◆Pro−RSF SYNTHETIC RACING #2.5・5・10・15	￥1，980−／1L

取扱製品 LEGUNOS LUBROMOLY オーダーメイドオイル・添加剤 TEAM NEO RACING BEL-RAY UQUI MOLY RED LINE Silkolene オイル関係製品 Kics ナット&ハブ Stant ラジエターキャップ STIKA PC不要タイプ チャイルドシート evenflo HYPER BEAM SYSTEM

通信販売お申し込み方法 ◆一般通信販売でのご購入の方に、消費税サービス 販売店募集中！
■お支払い方法…1．クレジットカード（JCB・VISA・MASTER・DC・AMEX） 2．代金引換運送（手数料￥500−必要）
■送料…1回の注文金額1万円以上ご購入の場合、送料無料。1万円未満の場合、北海道￥1，200−、東北地方￥800−、関東・中部・関西・四国・中国・九州地方￥600−。ただし一部特殊配達地域・沖縄・その他離島等は実費を頂戴致します。
■返品・交換…不良製品や配達による破損の場合についてのみ返品交換致します。その際、製品だけでなく、梱包箱や付属品・説明書等全て必要です。商品到着後、10日以内に当社に連絡下さい。その際、商品の返品先・返送方法を指定致します。
※お客様のご都合による返品・交換はお受け致しかねますので、予めご注意下さい。

MIC & COMPANY LIMITED
334,Ichiba,Momoyama-cho,Naga-gun,Wakayama-ken Japan.〒649-6124 TEL0736-66-2330 FAX0736-66-2025
株式会社 ミック 和歌山県那賀郡桃山町太字市場334番地
http://www.cypress.ne.jp/mic/ E-mail:mic@cypress.ne.jp
電話お問い合わせ時間：平日10〜12時 16時〜18時

付則29

MFJ公認クラブ等の名称に関する規定

この規定は、財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会（以下「MFJ」という）に登録するクラブ及び団体（以下「クラブ等」という）の名称の取り扱いに関して規定する。

第1条　クラブ等の登録

クラブ等が、MFJに登録する場合は、5名以上のライセンス（Lライセンスを含む）所持者で構成されなければならない。クラブ等が、公認競技会の主催者となる場合の条件は、別に定める。

第2条　クラブ等の名称の使用

クラブ等の名称は、MFJの承認を受けたものでなければ使用してはならない。
承認の申請は、MFJに対して行なわなければならない。

第3条　使用してはならない名称

次の各項に掲げる名称については承認されない。

1．国際モーターサイクリズム連盟（FIM）及びFIM加盟の各国モーターサイクル協会の名称及びその略称。
2．MFJに既に登録されているクラブ等の名称及びその略称、ただし、当該クラブ等の同系列であり、地名等を付し、かつ、名称に関する権利保有者の名称使用についての同意書を得た場合はこの限りでない。
3．著名な商品名、会社名及びこれに類似する名称。ただし、当該関係会社（二輪車メーカーを除く）と同系列等直接又は間接に関係があり、かつ名称使用の同意書がある場合はこの限りでない。
4．連盟（Federation）、協会（Association）、組合（Union）など、および同義語など。
5．日本、国際、アジア、極東、ナショナル、ロイヤル、インペリアル、太平洋などの誇大にわたる名称及びこれとの同意義語。

第4条　その他承認されない名称

新規登録の場合、第2条の各項に該当する以外の名称であっても、公序良俗に反するか、または社会通念上奇異に感じられる名称並びに実質と内容が伴わない名称については、MFJ中央スポーツ委員会において審査し、却下しまたは変更を求めることがある。
更新登録の場合において、その名実が相反することとなった場合は、改称を求めることがある。

第5条　使用の文字

クラブ等の名称は、漢字、片仮名、平仮名および数字のいずれかを用いた組合せによって表示されなければならない。略称は、ローマ字で示すこととする。ただし地名を付記するものはこの限りではない。

第6条　名称の由来

クラブ等が新規に登録する際、必要により当該クラブ等に対しその名称の由来について、説明書の添付を求めることがある。

第7条　名称の変更

MFJに既に登録されたクラブ等の名称変更の申請がなされたときは、これを審査し、この規程の趣旨に反しないと認めた場合は、これを承認することとする。

第8条　付　則

本規定は、2002年1月1日から施行する。本規定施行の際、既に承認されているクラブ等の名称は、この規定の趣旨に反しない限りはなお従前の例による。

モータースポーツフィールド
TOKACHI

2002 十勝ロードレース&
十勝ミニバイクレース選手権
暫定スケジュール
●第1戦:4月28日 ●第2戦: 6月9日
●第3戦:8月11日 ●第4戦:10月6日
※日程が変更になる場合があります。

2002
楽しさ、無限大。

2輪スポーツ走行(レーサー・一般)
クラブマンコース
走行1単位(25分)……4,500円
●月・木曜日は除きます。
●サーキットライセンス保持者割引あります。
(3,000円／1単位)
※レーサーで走行する場合はMFJライセンスが必要です。
※2002年5月より、月1回程度一般ライダーを対象とした走行会
「バイク感謝Day」を実施します。

TOKACHI
INTERNATIONAL SPEEDWAY

十勝インターナショナルスピードウェイ
〒089-1573 北海道河西郡更別村字弘和477
Tel.0155-52(GOTO)-3910 Fax.0155-53-3366

NEW OPEN!

★ 知りたい情報を瞬時にGET!
★ MFJをもっと知りたい人のために!
★ モーターサイクルスポーツの情報満載!

MFJオフィシャルサイト
http://www.mfj.or.jp
みんなで広げようモーターサイクルスポーツの輪

◎モーターサイクルスポーツを心から楽しんで頂いているMFJライセンス会員の皆様へ情報をお送りします。

みんなで参加するモーターサイクルスポーツは楽しさ100倍。
アナタのまわりのお友達も誘って、レースをエンジョイしましょう!

ライセンスについてご不明な点はお問い合わせ下さい。
申請用紙も郵送いたします。
※HPにもライセンス取得のご案内が掲載されています。ぜひご覧下さい。

財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会
〒104-0045 東京都中央区築地2-11-24第29興和ビル別館7F
電話 03-5565-0900 ／ Fax 03-5565-0907

■MFJ共済会（保険）制度

（平成14年１月１日～12月31日までの競技会）

種目	共済会掛金（１名１大会）	共済会見舞金支払額		請求のために必要な書類
		最高限度額（死亡、後遺症100%）	共済会見舞金支払額	
ロードレース（2ストローク111cc以下、4ストローク125cc以下）	3,000円	共済会見舞金2,000万円（共済会が契約した傷害保険含む）	共済会見舞金 A　通院実日数（ギブス等の固定期間および通勤、通学、就業が不可能として診断された日数含む）×1,000円 B　入院実日数×2,000円 C　診断書作成補助金5,000円	○共済会見舞金請求書（様式９） ○完治したときの医師の診断書（様式10） 死亡、後遺症の場合は、上記、様式９のほかに傷害保険請求用紙（三井海上）等の各種書類が必要となります。
ドラッグレース	1,500円			
ダートトラックレース	500円			
モトクロス（市販車、レーサー125cc以上）	1,500円			
ミニモトクロス（2ストローク85cc以下、4ストローク125cc以下）	500円			
トライアル	300円			
ミニバイクレース（2ストローク110cc以下、4ストローク125cc以下）	500円			
エンデューロ	1,000円			
ジムカーナ	500円			
スノーモビル	500円			
スピード行事	1,500円			
ツーリング・ラリー	500円			
ツーリングトライアル	500円			
バイクトレッキング	500円			
ロードレースライセンス講習会（ライセンス保持者のレーシングスクール含む）	1,000円			
モトクロスライセンス講習会（ライセンス保持者のレーシングスクール含む）	500円			
トライアルライセンス講習会（ライセンス保持者のテクニカルスクール含む）	300円			
スノーモビルライセンス講習会	500円			
ミニバイク講習会	500円			
ロードレース競技役員講習会	200円			
モトクロス競技役員講習会	200円			
トライアル競技役員講習会	200円			
ピットクルー	年間500円			

☆見舞金の支払われる期間は、受傷日から最高180日間以内の入院および通院の実日数分となります。
★見舞金の請求期限は、受傷日より一年以内です。一年以上経過しますとその請求権は無効となります。
☆見舞金の支払われる適用範囲は、公認または承認された当該競技会の公式日程期間（主催者が申請した大会期間）で、かつ競技監督の統轄下において行われた競技中、または公式練習中に発生した事故とする（※サーキットが行う特別スポーツ走行時の事故は、見舞金の請求は出来ません）。
☆同一大会で二種目以上出場する場合は、掛金の高い種目が適用されます。
☆共済会は治療費の支払いはありません。
☆死亡、後遺症見舞金を受ける場合は、入通院見舞金および診断書作成補助金は受けられません。
☆死亡見舞金の請求者は、法定相続人に限られます。
☆競技役員、講師の共済会見舞金は別に定めるMFJ競技役員傷害保険によります。

■共済会見舞金請求の手続きは…

１．まず主催者に連絡

負傷したその日に主催者に連絡してください。万一その日に連絡できない場合は、負傷日より２日後までにご連絡ください。なお、負傷日より２日目以降に主催者に届けのない場合は、見舞金が支払われませんのでご注意ください。

２．大会主催者から共済会見舞金請求書（様式９）と診断書書式（様式10）をもらう

ケガをした大会の主催者またはMFJに、共済会見舞金請求書（様式９）と共済会指定の診断書（様式10）を請求してください。

３．請求先は共済会事務局

請求書中に必要な事項を記入し、治療先の医師に診断書の記入を依頼してください。書類は一括して負傷者本人（代理人でもよい）が共済会事務局宛（MFJ内）に請求してください。見舞金は書類に不備のない場合に限り、３ケ月以内に指定口座に振り込まれます。

本　人
↓
共済会事務局
↓
本人宛銀行振込

付則30 MFJ公認制度

1 公認制度の目的

財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会は国内競技規則に基づき、車両または部品・タイヤ・ヘルメット・レーシングスーツの公認を行う。車両・部品に関しては種目別規則の範囲内で、平等性と低コストと安全性を最低限確保すること。ヘルメット・レーシングスーツにおいては一定の基準を設け、品質の向上により競技者の安全に寄与することを目的とする。

2 公認制度

車両・部品・タイヤ・ヘルメット・レーシングスーツの公認制度の詳細は別途定めるそれぞれの公認に関する規則に示す。

3 公認を要するもの

公認車両・部品・タイヤ・ヘルメット・レーシングスーツであることが必要とされる種目と開催クラスの各種目の技術規則に示される。

4 公示方法

① 公認車両・部品・タイヤ・ヘルメット・レーシングスーツは国内競技規則付録（283〜303頁）に示す。

② 追加機種については機関誌ライディングに公認発効日とともに公示される。

MFJ公認車両

★は公認が継続された車輌、商品を表す

('01年12月8日現在)

■本田技研工業㈱　〒107-8556　東京都港区南青山2-1-1　☎03-3423-1111

●一般市販車（オンロードタイプ）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	VFR750R（初回公認 '87年12月9日）	RC30	RC07E	748	70.0×48.6	'98. 1.27				○			
★	VFR400R（初回公認 '89年1月20日）	NC30	NC13E	399	55.0×42.0	'98. 1.27		○					
★	NSR250RSP（初回公認 '88年5月13日）	MC18	MC16E	249	54.0×54.5	'98. 1.27		○					
	CB400 SuperFour	NC39	NC23E	399	55.0×42.0	'99. 4 23		○					
	CBR600F	PC35	PC35	599	67.0×42.5	'99. 6 27		○					
	CBR400 SUPER FOUR	NC31	NC23E	399	55.0×42.0	'99. 12 28		○					
	RVF	NC35	NC13E	399	55.0×42.0	'99. 12 28		○	○				
	RVF/RC45	RC45	RC45E	749	72.0×46.0	'99. 12 28		○					
	CBR250R	MC19	MC14E	249	48.5×33.8	'99. 12 28		○					
	NS-1	AC12	AC08E	49	39.0×41.4	'99. 12 28		○					
	NSR50	AC10	AC08E	49	39.0×41.4	'99. 12 28		○					
★	CBR400RR（初回公認'93年12月19日）	NC29	NC23E	399	55.0×42.0	'00. 1. 1		○					
★	NSR250SE（初回公認'93年11月19日）	MC28	MC16E	249	54.0×54.5	'00. 1. 1		○					
★	NSR250RSP（初回公認'93年11月19日）	MC28	MC16E	249	54.0×54.5	'00. 1. 1		○					
★	NSR250R（初回公認'93年11月19日）	MC28	MC16E	249	54.0×54.5	'00. 1. 1		○					
	CB400 SuperFour	NC39	NC23E	399.1	55.0×42.0	'00. 5.28		○					
★	NSR250R（初回公認'91年5月31日）	MC21	MC16E	249	54.0×54.5	'01.10.31		○					

●一般市販車（オフロードタイプ）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	XLR200R（初回公認 '93年10月24日）	MD29	MD29E	196	63.5×62.2	'98. 1.27							
★	XLR125R（初回公認 '93年10月24日）	JD16	JD09E	124	56.5×49.5	'98. 1.27							
	XR400R	NE03	NE03E	397.2	85.0×70.0	'99. 3 24						○	
★	CRM250（初回公認 '94年 3 月19日）	MD24	MD24E	246	66.0×72.0	'99.12 28						○	

●スポーツ専用市販車（モトクロッサー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	CR250R（初回公認 '93年 9 月24日）	ME03	ME03E	249.3	66.4×72.0	'98. 1.27						○	
★	CR125R（初回公認 '93年 9 月24日）	JE01	JE01E	124.8	54.0×54.5	'98. 1.27						○	
★	CR80R（初回公認 '93年 9 月24日）	HE04	HE04E	79.4	46.0×47.8	'98. 1.27						○	
	CR250R	ME03	ME03E	249.3	66.4×72.0	'98. 7.29						○	
	CR125R	JE01	JE01E	124.8	54.0×54.5	'98. 8.18						○	
	CR80R2	HE04	HE04E	79.4	46.0×47.8	'98. 7.29						○	
	CR80R	HE04	HE04E	79.4	46.0×47.8	'98. 7.29						○	
	CR80R	HE04	HE04E	79.4	46.0×47.8	'99. 8. 6						○	
	CR80R2	HE04	HE04E	79.4	46.0×47.8	'99. 8. 6						○	
	CR125R	JE01	JE01E	124.8	54.0×54.5	'99. 9.26						○	
	CR250R	ME03	ME03E	249.3	66.4×72.0	'99. 9.26						○	
★	CR80R（初回公認'95年10月20日）	HE04	HE04	79.4	46.0×47.8	'00. 1. 1						○	
★	CR80R2（初回公認'95年10月20日）	HE04	HE04	79.4	46.0×47.8	'00. 1. 1						○	
★	CR125R（初回公認'95年8月12日）	JE01	JE01E	124.8	54.0×54.5	'00. 1. 1						○	
★	XR250R（初回公認'95年7月20日）	ME08	ME08E	249	73.0×59.5	'00. 1. 1						○	
★	XR250R（初回公認'89年12月27日）	ME06	ME06E	249	73.0×59.5	'00. 1. 1						○	
★	CR250R（初回公認'95年8月12日）	ME03	ME03E	249.3	66.4×72.0	'00. 1. 1						○	
	CR80R2	HE04	HE04E	82.9	47.0×47.8	'00. 8. 5						○	
	CR80R	HE04	HE04E	82.9	47.0×47.8	'00. 8. 5						○	
	CR125R	JE01	JE01E	124.8	54.0×54.5	'00. 8. 5						○	
	CR250R	ME03	ME03E	249.3	66.4 ×72.0	'00. 8. 5						○	
	QR50	AE01	AE01E	49	40.0 ×39.3	'01. 2.22						○	
	XR50R	AE03	AE03E	49.4	39.0 ×41.4	'01. 2.22						○	
	CR250R	ME03	ME03E	249.3	66.4 ×72.0	'01.10. 2						○	
	CR125R	JE01	JE01E	124.8	54.0 ×54.5	'01. 9. 2						○	
	CR80	HE04	HE04E	82.9	47.0 ×47.8	'01. 9. 2						○	
	CR80R2	HE04	HE04E	82.9	47.0 ×47.8	'01. 9. 2						○	
	XR50R	AE03	AE03E	49.4	39.0 ×41.4	'01. 9. 1						○	
	CRF450R	PE05	PE05E	449	96.0×62.1	'01.11.11						○	
★	CR250R（初回公認 '97年 7 月23日）	ME03	ME03E	249.3	66.4 ×72.0	'02. 1. 1						○	
★	CR125R（初回公認 '97年 9 月24日）	JE01	JE01E	124.8	54.0 ×54.5	'02. 1. 1						○	

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	TLM220R（初回公認'88年5月13日）	MD23	MD23E	216	69.0×58.0	'98. 1.27							○
★	TLM200R（初回公認'87年 5 月 6 日）	MD15	MD15E	193	67.0×55.0	'98. 1.27							○

■㈱ホンダレーシング　〒351-0024　埼玉県朝霞市泉水3-15-1　☎048-461-8804

●スポーツ専用市販車（ロードレーサー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	94RS125R（初回公認 '93年12月 1 日）	RS125RF	RS125RE	124	54.0×54.5	'98. 1.27					○		
★	93RS125R（初回公認 '93年 1 月 1 日）	RS125RF	RS125RE	124	54.0×54.5	'98. 1.27					○		
	99RS250R	MR01	MR01E	249	54.0×54.5	'98.12. 2					○		
★	95RS250R（初回公認 '94年12月）	MR01	MR01E	249	54.0×54.5	'99. 2.24					○		

	車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	95RS125R（初回公認'94年11月）	JR01	JR01E	124	54.0×54.5	'99. 2.24					○		
★	94RS250R（初回公認'94年1月）	RS250RF	RS250RE	249	54.0×54.5	'99. 2.24					○		
	'00RS125R	JR01	JR01E	124	54.0×54.5	'99.11.24					○		
★	96RS125R（初回公認'95年11月1日）	JR01	JR01E	124	54.0×54.5	'00. 1.26					○		
★	96RS250R（初回公認'95年12月1日）	MR01	MR01E	249	54.0×54.5	'00. 1.26					○		
	01RS125R	JR01	JR01	124	54.0×54.5	'00.11.28					○		
	01RS250R	MR02	MR02E	249	54.0 ×54.5	'00.12.27					○		
★	92RS125R（初回公認'91年）	RS125RF	RS125RE	124	54.0×54.5	'02. 1. 1					○		
★	93RS250R（初回公認'92年）	RS250RF	RS250RE	249	54.0×54.5	'02. 1. 1					○		
★	98RS125R	JR01	JR01E	124	54.0×54.5	'02. 1. 1					○		
★	98RS250R	MR01	MR01E	249	54.0×54.5	'02. 1. 1					○		

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

	車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	87TLM240R（初回公認'86年10月13日）	TLM240F		236	72.0×58.0	'98. 1.27							○
★	86TLM240R（初回公認'85年11月28日）	TLM240F		236	72.0×58.0	'98. 1.27							○
★	87RTL250S（初回公認'86年10月30日）	RTL250SF	RTL250E	249	70.0×64.9	'98. 1.27							○
★	86RTL250S（初回公認'86年1月30日）	RTL250SF		249	70.0×64.9	'98. 1.27							○
★	85RTL250S（初回公認'84年12月11日）	RTL250SF		249	70.0×64.9	'98. 1.27							○
	99RTL250R	RTL250RF	NN3E	249	72.2×61.0	'99. 1.26							○
★	94TLR260（初回公認'94年1月）	TLR250F	TLRE	261	71.0×66.0	'99. 2.24							○
★	93TLM260R（初回公認'92年11月）	TLM260RF	NN1	256.2	75.0×58.0	'99. 2.24							○
★	89RTL250S（初回公認'88年12月）	RTL250SF		249	70.0×64.9	'99. 2.24							○
★	89TLM250R（初回公認'88年11月）	TLM250F		249	74.0×58.0	'99. 2.24							○
★	88RTL250S（初回公認'88年1月）	RTL250SF		249	70.0×64.9	'99. 2.24							○
★	88TLM250R（初回公認'88年1月）	TLM250F		249	74.0×58.0	'99. 2.24							○
	TLR250R	MD18	ME18E	244	72.0 ×60.0	'99.12.28							○
	00RTL250R	RTL250RF	NN3E	249	72.2×61.0	'00. 1.26							○
★	90TLM260R（初回公認'90年2月7日）	TLM260RF	NN1	256.2	75.0×58.0	'00. 1.26							○
★	91TLM260R（初回公認'90年11月1日）	TLR260RF	NN1	256.2	75.0×58.0	'00. 1.26							○
★	95TLR260（初回公認'95年1月1日）	TLR260F	TLRE	261	71.0×66.0	'00. 1.26							○
	01RTL250R	RTL250RF	NN3E	249	72.2 ×61	'01. 1.25							○
	92TLM260R（初回公認'91年8月29日）	TLM260RF		256	75.0 ×58.0	'01. 1.25							○
★	97RTL250R	RTL250RF	NN3E	249	72.2×61.0	'02. 1. 1							○
★	98RTL250R	RTL250RF	NN3E	249	72.2×61.0	'02. 1. 1							○

■ヤマハ発動機㈱　〒438-8501　静岡県磐田市新貝2500　☎0538-37-4111

●一般市販車（オンロードタイプ）

	車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	TZR250RS（初回公認'93年）	3XV	3XV	249	56.0×50.7	'98. 1. 1		○					
★	TZR250RSP（初回公認'93年）	3XV	3XV	249	56.0×50.7	'98. 1. 1		○					
★	FZR400RRSP（初回公認'93年）	3TJ	1WG	399	56.0×40.5	'98. 1. 1		○					
★	YZF750SP（初回公認'93年5月5日）	4JD	4JD	749	72.0×46.0	'98. 1. 1				○			
★	XJR400（初回公認'93年5月27日）	4HM	4HM	399	55.0×42.0	'98. 1. 1		○					
★	SR500（初回公認'93年4月25日）	1JN	2JZ	499	87.0×84.0	'98. 1. 1		○					
★	SR400（初回公認'93年4月25日）	1JR	2H6	399	87.0×67.2	'98. 1. 1		○					
★	SRV250S（初回公認'93年7月22日）	4DN	4DN	248	49.0×66.0	'98. 1. 1		○					
★	SRV250（初回公認'93年6月27日）	4DN	4DN	248	49.0×66.0	'98. 1. 1		○					
★	SRV250（初回公認'93年7月22日）	4DN	4DN	248	49.0×66.0	'98. 1. 1		○					
★	TZR50R（初回公認'93年5月10日）	4EU	4EU	49	40.0×39.7	'98. 1. 1		○					
★	TZR250R（初回公認'93年4月25日）	3XV	3XV	249	56.0×50.7	'98. 1. 1		○					
	XJR1300	PR01J	P501E	1250	79.0×63.8	'98. 5. 5							
	TDM850	RN03J	N401E	849	89.5×67.5	'98. 9.10				○			
★	TZR125（2UT）（初回公認'88年2月）	2UT	2RM	124	56.4×50.0	'99. 1. 1							
★	TZR125（2RM）（初回公認'87年3月）	2RM	2RM	124	56.4×50.0	'99. 1. 1							
★	XJR400S（初回公認'94年6月）	4HM	4HM	399	55.0×42.0	'99. 1. 1		○					
★	TZM50R（初回公認'94年2月）	4KJ	4EU	49	40.0×39.7	'99. 1. 1		○					
★	XJR1200（初回公認'94年2月）	4KG	4CC	1188	77.0×63.8	'99. 1. 1							
★	TZR250SPR（初回公認'94年11月17日）	3XV	3XV	249	56.0×50.7	'00. 1. 1		○					
★	YZF750SP（初回公認'94年12月15日）	4JD	4JD	749	72.0×46.0	'00. 1. 1				○			
★	TZR250RS（初回公認'93年12月15日）	3XV	3XV	249	56.0×50.7	'00. 1. 1	○	○					
★	TZR50R（初回公認'95年1月17日）	4EU	4EU	49	40.0×39.7	'00. 1. 1							
★	XJR400R（初回公認'95年2月16日）	4HM	4HM	399	55.0×42.0	'00. 1. 1		○					
★	TRX850（初回公認'95年2月16日）	4NX	4NX	849	89.5×67.5	'00. 1. 1		○		○			
★	XJR1200（初回公認'95年2月16日）	4KG	4KG	1188	77.0×63.8	'00. 1. 1							
★	XJR400（初回公認'95年2月16日）	4HM	4HM	399	55.0×42.0	'00. 1. 1		○					
	RZ505FC	RA02J	A106E	49	40.0×39.7	'00. 4.17		○					
	XJR1300/5EA	RP03J	P501E	1248	79.0×63.8	'00. 5. 1							
★	TZR250R SP（初回公認'91年11月22日）	3XV	3XV	249	56.0 ×50.7	'01. 1. 1	○	○					
★	TZR250 SP（初回公認'91年1月30日）	3XV	3XV	249	56.0 ×50.7	'01. 1. 1	○	○					
★	XJR400RII（初回公認'96年1月17日）	4HM	4HM	399	55.0 ×42.0	'01. 1. 1	○	○					
★	TZR250 SP（初回公認'90年2月1日）	3MA	3MA	249	56.0 ×50.7	'01. 1. 1							
★	TZR250（初回公認'89年1月9日）	3MA-000001	3MA	249	56.0 ×50.7	'01. 1. 1							
★	TZR250（初回公認'90年2月1日）	3MA-046001	3MA	249	56.0 ×50.7	'01. 1. 1							
★	XJR400R（初回公認'96年2月17日）	4HM	4HM	399	55.0 ×42.0	'01. 1. 1		○	○				
★	XJR1200（初回公認'96年2月17日）	4KG	4CC	1188	77.0×63.8	'01. 1. 1		○	○				

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	XJR1200R（初回公認'96年2月17日）	4KG	4CC	1188	77.0 ×63.8	'01. 1. 1		○	○				
★	XJR400（初回公認'96年3月16日）	4HM	4HM	399	55.0 ×42.0	'01. 1. 1		○	○				
★	SRV250（初回公認'96年3月16日）	4DN	4DN	248	49.0 ×66.0	'01. 1. 1		○					
★	SR400（初回公認'96年9月18日）	1JR	2H6	399	87.0 ×67.2	'01. 1. 1		○	○				
★	SR500（初回公認'99年9月18日）	1JN	2J2	499	87.0 ×84.0	'01. 1. 1			○				
	SR400 3HT	RH01J	H313E	399	87.0 ×67.2	'01. 4.30		○	○				
	XJR400R 4HM	RH02J	H501E	399	55.0 ×42.0	'01. 5.24		○	○				
★	FZ400（初回公認'97年5月20日）	4YR	4YR	399	56.0 ×40.5	'02. 1. 1							
★	TZR250RS（初回公認'92年）	3XV	3XV	249	56.0×50.7	'02. 1. 1		○					

●一般市販車（オフロード）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	TT250R（初回公認 '93年 5 月24日）	4GY	4GY	249	73.0×59.6	'98. 1. 1							
	XT225W（初回公認 '93年 8 月11日）	4JG	1KH	223	70.0×58.0	'98. 1. 1							
	XT225（初回公認 '92年 7 月16日）	1KH	1KH	223	70.0×58.0	'97.12.24							
★	TT250R Raid（初回公認 '94年 3 月）	4GY	4GY	249	73.0×59.6	'99. 1. 1							
★	TY250ZS（初回公認'94年11月17日）	4ML	4ML	249	74.0×58.0	'00. 1. 1							
★	XT225W（初回公認'95年1月17日）	4JG	1KH	223	70.0×58.0	'00. 1. 1							
★	TT250R（初回公認'95年2月15日）	4GY	4GY	249	73.0×59.6	'00. 1. 1							
★	TT250R Raid（初回公認'95年3月16日）	4GY	4GY	249	73.0×59.6	'00. 1. 1							
	XT225WE 5MP	DG08J	G316	223	70.0×58.0	'00. 9. 1							
★	TT250R Raid（初回公認'96年2月17日）	4WA	4GY	249	73.0 ×59.6	'01. 1. 1							

●スポーツ専用市販車（ロードレーサー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	TZ250（初回公認 '93年12月15日）	4DP	4DP	249	56.0×50.7	'98. 1. 1					○		
★	TZ125（初回公認 '93年11月 9 日）	4JT	4JT	124	56.0×50.7	'98. 1. 1					○		
	TZ125	CE04C	E106E	124.8	54.0×54.5	'98.10. 2					○		
	TZ250	CG06C	4TW	249.6	56.0×50.7	'98.11. 6					○		
★	TZ125（初回公認 '94年10月）	4JT	4JT	124	56.0×50.7	'99. 1. 1					○		
	TZ125・4JT	CE06C	E110E	124	54.0×54.5	'99.11. 6					○		
	TZ250・5KE	CG09C	G201E	249	54.0×54.5	'99.11.26					○		
★	TZ250（初回公認'94年11月17日）	4DP	4DP	249	56.0×50.7	'00. 1. 1					○		
★	TZ250（初回公認'95年1月17日）	3TC	3TC	249	56.0×50.7	'00. 1. 1					○		
★	TZ125（初回公認'95年9月16日）	4JT	4JT	124	56.0×50.7	'00. 1. 1					○		
★	TZ250（初回公認'95年10月17日）	4TW	4TW	249	56.0×50.7	'00. 1. 1					○		
	TZ250・5KE	CG09C	G201E	249	54.0×54.5	'00.11. 8					○		
★	TZ250（初回公認'91年11月22日）	4DP	4DP	249	56.0 ×50.7	'01. 1. 1					○		
★	TZ250（初回公認'90年11月1日）	3YL	3YL	249	56.0 ×50.7	'01. 1. 1					○		
★	TZ250（初回公認'88年11月25日）	3LC	3LC	249	56.0 ×50.7	'01. 1. 1					○		
★	TZ250（初回公認'87年12月16日）	3AK	3AK	249	56.0 ×50.7	'01. 1. 1					○		
★	TZ125（初回公認'96年9月18日）	4JT	4JT	124.8	56.0 ×50.7	'01. 1. 1					○		
★	TZ250（初回公認'96年9月18日）	4TW	4TW	249.6	56.0 ×50.7	'01. 1. 1					○		
	TZ250 5KE3	CG09C	G201E	249	54.0×54.5	'01.10.12					○		
★	TZ125（初回公認'97年10月1日）	CE02C	CE02E	124.8	54.0×54.5	'02. 1. 1					○		
★	TZ250（初回公認'97年11月1日）	CG03C	4TW	249.6	56.0×50.7	'02. 1. 1					○		

●スポーツ専用市販車（モトクロッサー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	YZ250（初回公認 '93年 9 月 7 日）	4JX	4JX	249	68.0×68.8	'98. 1. 1						○	
★	YZ125（初回公認 '93年11月 4 日）	4JY	4JY	124	54.0×54.5	'98. 1. 1						○	
★	YZ80LW（初回公認 '93年10月10日）	4LB	4LB	79.4	46.0×47.8	'98. 1. 1						○	
★	WR250Z（初回公認 '93年11月13	4JW	4JW	249	68.0×68.8	'98. 1. 1						○	
	YZ250	CG05C	G103E	249	66.4×72.0	'98. 8. 1						○	
	YZ125	CE03E	E105E	124	54.0×54.5	'98. 8. 1						○	
	WR400F・5BF	CH02W	H304E	399	92.0×60.1	'98.11.25						○	
	WR400F・5GS	CH04W	H309E	399	92.0×60.1	'98. 1.17						○	
	YZ400F・5BE	CH01C	H303E	399	92.0×60.1	'98.11.25						○	
	YZ400F・5GR	CH03C	H308E	399	92.0×60.1	'98.12.11						○	
★	YZ250（初回公認 '94年 8 月）	4MX	4MX	249	68.0×68.8	'99. 1. 1						○	
★	YZ125（初回公認 '94年 7 月）	4PE	4PE	124	54.0×54.5	'99. 1. 1						○	
★	YZ80LW（初回公認 '94年 7 月）	4LB	4LB	79.4	46.0×47.8	'99. 1. 1						○	
★	WR250Z（初回公認 '94年 9 月）	4JW	4JW	249	68.0×68.8	'99. 1. 1						○	
	YZ80・4GT	CB01C	4GT	79.4	46.0×47.8	'99. 9. 2						○	
	YZ80LW・4LB	CB02C	4LB	79.4	46.0×47.8	'99. 9. 2						○	
	YZ125・5HD	CE05C	E109E	124	54.0×54.5	'99. 9. 2						○	
	YZ250・5HC	CG08C	G105E	249	66.4×72.0	'99. 9. 2						○	
	YZ426F 5JG	CJ01C	J306E	426	95.0×60.1	'99.11.24						○	
	WR400F 5GS	CH04W	H309E	399	92.0×60.1	'99.11.24						○	
★	YZ250（初回公認'88年7月26日）	3JE	3JE	246	68.0×68.0	'00. 1. 1						○	
★	YZ80（初回公認'95年6月16日）	4GT	4GT	79.4	46.0 ×47.8	'00. 1. 1						○	
★	YZ125（初回公認'95年7月15日）	4SS	4SS	124	54.0 ×54.5	'00. 1. 1						○	
★	YZ250（初回公認'95年8月11日）	4SR	4SR	249	68.0 ×68.8	'00. 1. 1						○	
★	YZ250（初回公認'90年7月5日）	3XK	3XK	249	68.0 ×68.8	'00. 1. 1						○	
	YZ80 4ES	CB01C	4ES	82.9	47.0 ×47.8	'00. 7.13						○	
	YZ80 4LC	CB02C	4LC	82.9	47.0 ×47.8	'00. 7.13						○	
	YZ250 5MW	CG08C	G105E	249	66.4×72.0	'00. 9.23						○	
	YZ125 5MV	CE08C	E111E	124	54.0×54.5	'00. 9.23						○	

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
	YZ426F 5JG	CJ01C	J308E	426	95.0 ×60.1	'00.10.21						○	
	YZ250F 5NL	CG10C	G321E	249	77.0 ×53.6	'00.11.21						○	
★	WR250Z（初回公認'91年11月22日）	4DC	4DC	249	68.0 ×68.8	'01. 1. 1						○	
★	YZ250（初回公認'91年7月25日）	4DA	4DA	249	68.0 ×68.8	'01. 1. 1						○	
★	YZ125（初回公認'91年7月25日）	4DB	4DB	124	56.0 ×50.7	'01. 1. 1						○	
★	YZ125（初回公認'96年6月19日）	4XM	4XM	124	54.0 ×54.5	'01. 1. 1						○	
★	YZ80（初回公認'96年6月19日）	4GT	4GT	74.9	46.0 ×47.8	'01. 1. 1						○	
★	YZ80LW（初回公認'96年6月19日）	4LB	4LB	74.9	46.0 ×47.8	'01. 1. 1						○	
★	YZ250（初回公認'96年6月19日）	4XL	4XL	249	68.0 ×68.8	'01. 1. 1						○	
★	WR250Z（初回公認'96年8月9日）	4XK	4XK	249	68.0 ×68.8	'01. 1. 1						○	
	PW50	3PT	3PT	49	40.0 ×39.2	'01. 2.22						○	
	WR250F 5PH（海外向け）	CG11W,CG1	G322E	249	77.0 ×53.6	'01. 3.31						○	
	YZ85 5PA3	CB04C	B111E	84.7	47.5 ×47.8	'01. 7.17						○	
	YZ85LW 5SH3	CB05C	B111E	84.7	47.5 ×47.8	'01. 7.17						○	
	YZ125 5NY3	CE09C	E112E	124	54.0 ×54.5	'01. 8. 4						○	
	YZ250 5NX3	CG12C	G106E	249	66.4 ×72.0	'01. 8. 4						○	
	YZ250F	CG10C	G321E	249	77.0 ×53.6	'01.10. 2						○	
	YZ426F 5SF3	CJ01C	J308E	426	95.0 ×60.1	'01.10. 2						○	
★	YZ80	CB01C	4GT	79.4	46.0×47.8	'02. 1. 1						○	
★	YZ80LW	CB02C	4LB	79.4	46.0×47.8	'02. 1. 1						○	
★	YZ125	CE01C	E101E	124	54.0×54.5	'02. 1. 1						○	
★	YZ250	CG01C	G101E	249	68.0×68.8	'02. 1. 1						○	
★	WR250Z	CG02C	G102E	249	68.0×68.8	'02. 1. 1						○	

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
★	TY250Z（初回公認 '93年）	4GG	4GG	249	74.0×58.0	'98. 1. 1							○
★	TY250Z（初回公認'94年11月17日）	4GG	4GG	249	74.0×58.0	'00. 1. 1							○
	TY250Z（初回公認'96年11月16日）	4GG-013526	4GG	249	74.0 ×58.0	'01. 1. 1							○
	TY250Z（初回公認'95年12月16日）	4GG-011001	4GG	249	74.0 ×58.0	'01. 1. 1							○
★	TY250Z（初回公認'97年）	4GG	4GG	249	74.0 ×58.0	'02. 1. 1							○

■スズキ㈱ 〒432-8611 静岡県浜松市高塚町300 ☎053-440-2376

●一般市販車（オンロードタイプ）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
	GSX-R 750Y	FIM公認		749	72.0×46.0	'00. 5.10				○			
★	RGV-Γ 250SP（初回公認'96年2月29日）	VJ23A	J209	249	54.0×54.5	'00. 5.24		○					
★	RGV-Γ 250SP（初回公認'90年1月31日）	VJ22A	J206	249.2	56.0×50.6	'00. 6.28		○					
★	RGV-Γ 250SP（初回公認'89年2月8日）	VJ21A	J205	249.2	56.0×50.6	'00. 6.28		○					
★	RG125Γ（初回公認'92年）	NF13A	F116	124	56.0×50.6	'97. 2.25		○					

●一般市販車（オフロードタイプ）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
	DJEBEL250	SJ45A	J425	249	73.0×59.6	'98. 8.23							
	DR-Z400SY	SK43A	K419	398	90.0×62.6	'00. 6.25							

●スポーツ専用市販車（モトクロッサー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
	RM250X	RJ17A	J115	249.3	66.4×72.0	'98. 9. 1						○	
	RM125X	RF15A	J114	124.8	54.0×54.5	'98. 8. 1						○	
	RM80LX	RC12B	C114	79.5	46.5×46.8	'98. 7.11						○	
	RM125R（初回公認 '93年 8 月）	RF14A	F114	124.8	54.0×54.5	'99. 4.27						○	
★	RM250R（初回公認 '93年 8 月）	RJ16A	J114	249.6	67.0×70.8	'99. 4.27						○	
★	RM125Y	RF15A	F114	124.8	54.0×54.5	'99. 7. 2						○	
	RM250Y	RJ17A	J115	249.3	66.4×72.0	'99. 8. 2						○	
★	RM80LS（ラージホイール）（初回公認'94年12月22日）	RC12B	C114	79.5	46.5×46.8	'99.12.28						○	
★	RM125S（初回公認'94年7月28日）	RF14A	F114	124.8	54.0×54.5	'99.12.28						○	
★	RM250S（初回公認' 94年7月28日）	RJ16A	J114	249.6	67.0×70.8	'99.12.28						○	
	RM80Y	RC13A	C114	79.5	46.5 ×46.8	'99.12.29						○	
	RM80LY	RC13B	C114	79.5	46.5 ×46.8	'99.12.29						○	
★	RM80（ラージホイール仕様）（初回公認 '95年8月23日）	RC12B	C114	79.5	46.5×46.8	'00. 1. 1						○	
★	RM125（初回公認 '95年8月27日）	RF15A	F114	124.8	54.0×54.5	'00. 1. 1						○	
★	RM250（初回公認'95年10月28日）	RJ17A	J115	249.3	66.4×72	'00. 1. 1						○	
	DR-Z400Y	DK42A	K416	398	90.0×62.6	'00. 4.26						○	
	RM250KI	RJ18A	J119	249	66.4×72.0	'00. 7.26						○	
	RM125KI	RF16A	J134	124	54.0×54.5	'00. 8. 9						○	
	RM80LKI	RD15B	D106	82.9	47.5×46.8	'00. 9. 1						○	
	RM80KI	RD15C	D106	82.9	47.5×46.8	'00. 9. 1						○	
	RM125K2	RF16A	F134	124	54.0 ×54.5	'01. 7. 2						○	
	RM250K2	RJ18A	J119	249	66.4 ×72.0	'01. 7. 2						○	
	RM85K2（スモールホイール）	RD16C	D107	84.7	48.0 ×46.8	'01.11. 2						○	
	RM85LK2（ラージホイール）	RD17C	D107	84.7	48.0 ×46.8	'01.11. 2						○	
★	RM80LW	RC12B	C114	79.5	46.5 ×46.8	'02. 1. 1						○	
★	RM125W	RF15A	F114	124.8	54.0 ×54.5	'02. 1. 1						○	
★	RM250W	RJ17A	J115	249.3	66.2×72.0	'02. 1. 1						○	

■川崎重工業㈱　〒673-8666　兵庫県明石市川崎町1-1　☎078-921-1317

●一般市販車（オンロードタイプ）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
	ZXR-II	ZR400E	ZX400KE	399	57.5×38.5	'98. 7.26		○					
	ZRX	ZR400E	ZX400KE	399	57.5×38.5	'98. 7.26		○					
	D-TRACKER	LX250E	LX250DE	249	72.0×61.2	'98. 7.26		○					
★	ZXR250（初回公認 '93年4月1日）	ZX250C	ZX250CE	249	49.0×33.1	'98. 6.23		○					
★	ZRX（初回公認 '94模年1月）	ZR400E	ZX400KE	399	57.5×38.5	'99. 1. 1		○					
★	KR-1S（初回公認 '89年3月）	KR250C	KR250BE	249	56.0×50.6	'99. 2.24		○					
★	KR-1R（初回公認 '89年3月）	KR250C	KR250BE	249	56.0×50.6	'99. 2.24		○					
★	ZXR400R（初回公認 '89年2月）	ZX400H	ZX400GE	398	57.0×39.0	'99. 2.24		○					
★	ZXR400（初回公認 '89年2月）	ZX400H	ZX400GE	398	57.0×39.0	'99. 2.24		○					
★	ZX-4（初回公認 '88年1月）	ZX400G	ZX400GE	398	57.0×39.0	'99. 2.24		○					
★	KR-1（初回公認 '88年1月）	KR250B	KR250BE	249	56.0×50.6	'99. 2.24		○					
★	ZXR400R（初回公認'91年2月1日）	ZX400L	ZX400GE	398	57.0×39.0	'00. 1. 1		○					
★	ZXR400（初回公認 '91年2月10日）	ZX400L	ZX400GE	398	57.0×39.0	'00. 1. 1		○					

●一般市販車（オフロードタイプ）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
KLX250	LX250E	LX250DE	249	72.0×61.2	'98. 7.26							

●スポーツ専用市販車（モトクロッサー）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
KX250	KX250L	KX250LE	249	66.4×72.0	'98. 7.29						○	
KX125	KX125L	KX125LE	124	54.0×54.5	'98. 7.29						○	
KX80-II	KX080Z	KX080XE	79	47.0×45.8	'98. 7.29						○	
KX80	KX080X	KX080XE	79	47.0×45.8	'98. 7.29						○	
KX60	KX060B	KX060BE	60	43.0×41.6	'98. 7.29						○	
KX125	KX125L	KX125LE	124	54.0×54.5	'99. 7.16						○	
KX250	KX250L	KX250LE	249	66.4×72.0	'99. 7.16						○	
KX65	KX065A	KX065AE	64	44.5×41.6	'99. 9.16						○	
★ KX125（初回公認 '95年6月16日）	KX125K	KX125KE	124.8	54.0×54.5	'00. 2.23						○	
★ KX250（初回公認 '95年6月16日）	KX250K	KX250KE	249.3	66.4×72.0	'00. 2.23						○	
KX65	KX065A	KX065AE	64	44.5×41.6	'00. 7.16						○	
KX85	KX085A	KX085AE	84	48.5×45.8	'00. 8. 2						○	
KX85 II	KX085B	KX085AE	84	48.5×45.8	'00. 8. 2						○	
KX125	KX125L	KX125LE	124	54.0×54.5	'00. 7.16						○	
KX250	KX250L	KX250LE	249	66.4×72.0	'00. 7.16						○	
KX85	KX085A	KX085AE	84	48.5×45.8	'01. 7.16						○	
KX85II	KX085B	KX085AE	84	48.5×45.8	'01. 7.16						○	
KX250	KX250L	KX250LE	249	66.4×72.0	'01. 8. 2						○	
KX125	KX125L	KX125LE	124	54.0×54.5	'01. 8. 2						○	
KX65	KX065A	KX065AE	64	44.5×41.6	'01. 8.29						○	

■㈱亜路欧　〒154-0004　東京都世田谷区太子堂2-7-1　☎03-3419-6053

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
GAS-GAS CONTACT TX250	VTRGG	GG25	237.9	71.0×60.0	'98. 2.25							○
GAS-GAS CONTACT TX200	VTRGG	GG16	162.8	64.0×50.6	'98. 2.25							○
GAS-GAS TRIAL250-99	VTR	GG25	249	72.5×60.0	'99. 3.24							○

■㈲アルプスヴァン　〒407-0263　山梨県韮崎市穴山町7804　☎0551-30-0135

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
スコルパイージー	SCR249	425	248.9	68.8×67.0	'98. 5.27							○
スコルパイージー	VMUSCR249	485	248.9	68.8×67.0	'99. 3.24							○
SCORPA SY	SCY249	4GG	249	74.0×58.0	'00.12.27							○

■㈱ボスコ・モト　〒562-0012　大阪府箕面市白島2丁目22番25号　☎0727-25-3311

●一般市販車（オンロードタイプ）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
アプリリア RS125	GS	ROTAX123	124.8	54.0×54.5	'98. 1.25		○					

■㈲月木レーシング　〒597-0102　大阪府貝塚市木積2406-1　☎0724-47-1150

●スポーツ専用市販車（ロードレーサー）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
KR150NK	KR150J-A	KR150JEA	148.7	59.0×54.4	'98. 1.28		○					

■㈱プレストコーポレーション　〒105-0014　東京都港区芝1-4-7ニチガビル　☎03-5419-8231

●一般市販車（オンロードタイプ）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
ヤマハTZR125R	4HW	4HW	124.8	56.0×50.7	'98. 8.23		○					

■㈲カシック　〒721-0942　福山市引野町1099-1　☎0849-40-3866

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
BULTAC	ST	VNBS	249	72.8×60.0	'99. 7.28							○

■ホンダワールド㈱　〒513-0825　三重県鈴鹿市住吉町6786　☎0593-78-1455

●スポーツ専用市販車（ロードレーサー）

車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
AC28M	AC28M	MR01E または打刻なし	249.6	54.0×54.5	'99. 9.29					○		
AC29M	AC29M	MR0E-0010102	249.6	54.0×54.5	'00. 5.24					○		

■㈱ダートフリーク　〒488-0067　愛知県尾張旭市南原山町山町石原136　☎0561-51-0350

●スポーツ市販車（モトクロッサー）

車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
LEM LX1	01001	FM	498	39.0×41.7	'01. 6.26						○	
LEM LX2 SPORT	000101	FM2909	498	39.0×41.7	'01. 6.26						○	

■㈱トシ・ニシヤマ　〒143-0016　東京都大田区大森北6-23-16　☎03-3766-4320

車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	ST	SP	SS	SB	GP	MX	TR
KTM125SX	VBKMXH	503	124.8	54.0×54.5	'00.12.27						○	

FIM/MFJ公認車両

JSB1000／FIMスーパープロダクション／ストックスポーツ公認車両

銘柄	車　両	公認年度	鈴鹿8耐	全日本選手権	エリア選手権
HONDA	CBR900RR(W)-'98	98年度	○	○	○
	CBR900	02年度	○	○	○
	CBR929RR(Z)-'99	00年度	○	○	○
	VTR1000SP	99年度	○	○	○
	VTR1000SP II	02年度	○	○	○
YAMAHA	YZF R1(1998 model)	98年度	○	○	○
	YZF R1(2000model)	99年度	○	○	○
	YZF R-1	02年度	○	○	○
SUZUKI	GSX-R750(V)	97年度	○	○	○
	GSX-R750(W)	98年度	○	○	○
	GSX-R750(Y)	00年度	○	○	○
	GSX-R750	02年度	○	○	○
	GSX-R1000(K1)	00年度	○	○	○
	TL1000R	98年度	○	○	○
Kawasaki	ZX7R	97年度	○	○	○
	ZX9R	99年度	○	○	○
	ZX9R	99年度	○	○	○
	ZX9R	02年度	○	○	○
DUCATI	ZDM996Strada	99年度	○	○	○
	ZDM996S	01年度	○	○	○
APRILIA	RSV1000	99年度	○	○	○
	RSV1000R	00年度	○	○	○
	RSV1000RP	01年度	○	○	○
TRIUNPH	T955	98年度	○	○	○

ST/SS600公認車両

銘柄	車　両	公認年度	SS世界選手権	全日本選手権	エリア選手権	地方選手権
HONDA	CBR600F(PC31)	97年	○	○	○	○
	CBR600F(PC35)	99年	○	○	○	○
	CBR600F	2001年	○	○	○	○
	CBR600FS	2001年	○	○	○	○
	CBR600F4i	2001年	○	○	○	○
YAMAHA	YZF600R	96年	○	○	○	○
	YZF-R6	99年	○	○	○	○
	YZF-R6	2001年	○	○	○	○
SUZUKI	RF600	96年	○	○	○	○
	GSX600RV	97年	○	○	○	○
	GSX600RW	98年	○	○	○	○
	GSXR600	2001年	○	○	○	○
Kawasaki	ZX600G(ZX-6R)	98年	○	○	○	○
	ZX600G(ZX-6R)	99年	○	○	○	○
DUCATI	ZDM748S	95年	○	○	○	○
	ZDM748SPS	98年	○	○	○	○
	748R-H3	99年	○	○	○	○
BIMOTA	YB9 SRI	96年	○	○	○	○
	YB9 SRI	98年	○	○	○	○
LAVERDA	750s Fomula	99年	○	○	○	○

スーパーバイク公認車両

銘柄	車両	公認年度	鈴鹿8耐	SS世界選手権	全日本選手権	エリア選手権
HONDA	VTR1000(SC36)	97年	○	○	○	○
	VTR1000SP	99年	○	○	○	○
	VFR750(RC30)	87年	—	—	—	○
	RVF750(RC45)	93年	—	—	—	○
YAMAHA	TRX850	96年	○	○	○	○
	YZF-R7	99年	○	○	○	○
	YZF750SP(OW01)	93年	—	—	—	○
SUZUKI	GSXR750	96年	○	○	○	○
	GSXR750V	97年	○	○	○	○
	GSXR750W	98年	○	○	○	○
	TL1000RW	98年	○	○	○	○
Kawasaki	ZX750N(ZX-7RR)	96年	○	○	○	○
	ZX750SP(ZX-7R)	96年	○	○	○	○
DUCATI	H1 916SPS	97年	○	○	○	○
	H1 916SPS	98年	○	○	○	○
	H1 916SPS (fogaty reprica)	98年	○	○	○	○
	996SPS	99年	○	○	○	○
APRILIA	RSV1000SP	99年	○	○	○	○
	RSV1000R	99年	○	○	○	○
BIMOTA	SB8K	99年	○	○	○	○

○はFIM公認車両、〇はFIM公認切れでMFJ公認が継続している車両。

S-NK承認車両

銘柄	車両	型式		年式	NK1該当車両とその最低重量
		フレーム	エンジン		
HONDA	CB1000SF CB1000SF/T2	SC30-	SF30E	94～	185kg
	X4(CB1300SF)	SC38-	SC38E-	97～	185kg
	CB1300SF	SC40-	SC38E-	98～	185kg
	CBR900RR	SC28*- *:U,2,9	SC28E- SC33E-	92～95 96～	
		SC33*- *:C,3,2,A,B,D,F,9,E,U			
	CBR900RR (CBR929RR)	JH2SC	JH2SC44A	99～	
	CBR1100XX	SC35*- *:C,3,2,A,B,C,E,U,D	SC35E-	96～	
	VTR1000F	SC36-(国内)	SC36E-	97～	
		SC36*- *:E,A,B,C,U,D,2			
YAMAHA	YZF1000R	4SV1,4SV2,4VD1, 4VE1,4VF1,4VG1, 4WN1		96	
		4SV3,4VD2,4VE2, ¥4VF2,4WN2,4XJ1, 4YW1,4YW2		97	
		4SV4,4VD3,4VD4, 4VE3,4VF3,4XJ2		98	
	YZF1000R1	5EG1,4XV1,4XV2, 4XV3,4XV4,4XV5, 4XV6		98～	
	TRX850	4NX1		95	165kg
		4UN1,4UN2,4VN1, 4XG1		96	
		4UN3,4VN2,4XG2, 5CS1		97	
		4NX2,4NX3,4UX4, 4VN3,4XG3		98	
	TDM850	3VD1,3VD2,4CF1, 4CM2,4CN1		91	180kg
		3VD3,3VD4,4CF2, 4CM2,4CN2,4DT1, 4DT2,4DT3,4EP4		92	
		3VD5,3VD6,4CF3, 4CM3,4CN3,4DT4, 4DT5,4EP2		93	
		3VD7,3VD8,4CF4, 4CM4,4CN4,4EP3		94	
		3VDA,3VD9,4CM5, 4CN5		95	
		AVDB,4TX1		96	
		4TX2,5AR1		97	

銘柄	車　両	型式		年式	NK1該当車両とその最低重量
		フレーム	エンジン		
YAMAHA	TDR850	4TX3,5AR2,5GG, 4TX4,4TX5		98	
	XJR1200	4KG1		94	185kg
		4KG2,4PU1,4PU2, 4RB1		95	
	XJR1200	4KG4,4PU3,4PU4, 4RB2,4UW1		96	
		4JN2,4JN3,4PU7, 4PU8,4RB4,4PU5, 4PU6,4RB3		97	
		4PUA,4PU9,4RB5, 4UW2,4PUB,4PUC, 4RB6		98	
	XJR1200R	4KG3		96	180kg
	XJR1300	5EA1,5EA2,5EA3, 5EA4			180kg
SUZUKI	GSX- R1100W	GU75B,JS1GU,GU75D, GU75E,GU75C			
	TL1000R	JS1AM,JS1VT,VT52A			
	TL1000S	JS1AG,JS1VT,VTT51A			
	SGX1100刀				180kg
	GSF1200				185kg
	GSX1300R(隼)				
	GSXR1000				
	GS1200SS				
Kawasaki	ZZ-R1100	JKAZXBD1 XA, JKAZXT10DDA- ZXT10D-	ZXT10CE	93～	
	ZX-9R	JKAZX2E1- JKAZX900EEA	ZX900CE ZX900E	00	
	ZX-9R	JKAZX2B1 VA, ZX900B	ZX900BE	94～97	
	ZX-9R	JKAZX2C1 XA- JKAZX900CCA ZX900C-	ZX900CE-	98～	
	ZX12R	JKAZXR9A1- ZXT20A JKA2XT20AAA-	ZXT20AE		
	ZRX1100	ZRT10C- JKAZRBC1 XA JKAZRT10CCA	ZXT10CE	97～	185kg
	ZRX1100 II	ZRT10C- JKAZRT10CDA	ZXT10CE	97～	
	ZRX1200R	JKAZR9A1- ZRT20A JKAZRT20AAA-	ZRT20AE		
	ZRX1200S	JKAZR9B1- ZRT20A JKAZRT20ABA-	ZRT20AE		
	Z-1			73～75	
	GPZ1100	ZXT10E-	ZXT10CE	95～	185kg
	GPZ1100ABS	ZXT10E-	ZXT10CE	96～	
	ZEPHYR1100	JKAZXBD1 VA JKAZRT10CCA ZRT10A-	ZRT10AE	92～	180kg
	ZEPHYR1100RS	ZRT10A- ZRT10B-	ZRT10AE	92～	
	GPZ900R	ZX900A	ZX900AE	84～	180kg
TRIUMPH	トライデント900				180kg
BIMOTA	SB6R				
DAYTONA	WEAPON II		OHV1200HD	97～	
DUCATI	916SP	ZDM916S	ZDM916W4		
	916SPS	ZDMH100 AAWB	ZDM916W4		
	916SPS	ZDMH100 AAWB	ZDM996W4	99～	

MFJ公認車両〔スノーモビル〕

部門＼クラス		SJクラス	S3クラス		S2クラス	S1クラス	スーパークラス
排気量	水冷エンジン	——	350cc以下		351cc～500ccまで	オープン	オープン
	空冷エンジン	～125ccまで	125cc～500ccまで		501cc～750ccまで	オープン	オープン
モディファイスポーツ		SV80（E） SV125E	CS350（E） S340 S250 ET250 ET300 ET340 GPX338 EC340 TXL340 S300T S350DX INDY-SPORTS INDY-LITE INDY340	PZ480 PZ480ED PZ480E PZ480LT（Special） S440 SS440 GPX433 INDY-TRAIL CUTLASS-SS TXL-INDY VT480E FORMULA-SL INDYSuper Sport FORMULA-SL MXZ500F-SP PZ480SE PZ500 PZ500LT Indy XCF SP	S540 EC540 XL540 INDY500（SP） INDY400 PROWER440 EX570SX EX570LT VX500（E-LT） MXZ INDY-XCR440 FORMULA-Z INDY500EFI FormulaSLS INDY440XC INDY440XCR MXZ500 VX500SX VX500XTC INDY500XC SP INDY500XC SP 45Th Anniversary SX500R Indy 440 PRO X Indy 500 XCSP MXZ STANDARD 500 SRX700LT SRX700S SRX600S MXZX440LC	EX570（E） EX570SP INDY650（RXL） FORMURA-MACHI EL-TIGER WILD-CAT WILD-CAT700 FORMULA-PLUS VX750 INDYSTORM INDYXLT Special VX600（E-LT,XT） MACHZ VX800（E-LT） INDYXCR600（SP） MXZ583 FormulaⅢ INDYUltraSPX SE INDYUltraSP INDY600XC MXZ670 ZRT600 VX700SX VX700LT VX600XTC VX600SX VX600LT VX6000DX INDY700XC INDY700XC SP SX600R SX700R ZR800 Indy 600 EDGE X MXZ X 800 SXV700ER SXV700 ZR800EFI VX700LT ←他クラス車両	S1 S2 S3 SJ の公認車両

その他の部門車両区分xフレッシュマンレース、レディース・ジュニア、OBレースのクラス区分は主催者により定める。
＊この資料は2001年12月8日現在のものです。最新のものはMFJライディングにてご確認ください。

2002 MOTORCYCLE SPORTS RULES

MFJ公認部品

('01年12月8日現在)

ロードレース用

●㈱カワサキモータースジャパン　〒673-8666　兵庫県明石市川崎町1-1　☎078-921-2642

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	ST	SP	SS	GP
★	エアボックスキット（初回公認'93年）	J914073-1694	ZXR400/ZR400D/ZXR400R	'99. 1. 1		○		
★	トランスミッション（初回公認*年月日）		ZX400H ZX400L ZX400M ZX400D	'00. 1. 1		○		

●㈱ホンダレーシング　〒351-0024　埼玉県朝霞市泉水3-15-1　☎048-461-9511

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	ST	SP	SS	GP
	エアクリーナーアッパーカバー	NKA	VFR400R/RVF（NC35）	'99. 2.24		○		
	エアクリーナーボックスセット	NKB	CBR400RR	'99. 2.24		○		
★	NSR250Rトランスミッション(初回公認'90年3月6日)		NSR250R（MC21）	'00. 1.26		○		
★	NSR250Rトランスミッション(初回公認'90年2月14日)		NSR250R（MC18）	'00. 1.26		○		
★	VFR400Rトランスミッション(初回公認'90年12月26日)	NL1	VFR400R（NC30）	'01. 1.25		○	○	
★	400トランスミッション（初回公認'92年）	NKB	CBR400RR	'02. 1. 1	○			
★	250トランスミッション（初回公認'91年）	NKD	NSR250R	'02. 1. 1	○			

●本田技研工業㈱　〒107-8556　東京都港区南青山2-1-1　☎03-3423-1111

部品名	型式	適用車種	公認発効日	ST	SP	SS	GP
CAMSHAFT COMP.EX		CBR600F	'00. 3.28		○		
GEAR MAINSHAFT THIRD&FOURTH		CBR600F	'00. 3.28		○		
GEAR COUNTERSHAFT FOURTH（27T）		CBR600F	'00. 3.28		○		
CAMSHAFT COMP.IN		CBR600F	'00. 3.28		○		
CARBURETOR ASSY（VP64AA）		CBR600F	'00. 3.28		○		
INSULATOR. CARBURETOR		CBR600F	'00. 3.28		○		
CAMSHAFT.,IN		CBR600F4I	'01. 4.30	○		○	
CAMSHAFT.,EX		CBR600F4I	'01. 4.30	○		○	
INSULATOR.,TROTTLEBODY		CBR600F4I	'01. 4.30	○		○	
GEAR,COUNTERSHAFT FOURTH		CBR600F4I	'01. 4.30	○		○	
GEAR,MAINSHAFT THIRD&FOURTH		CBR600F4I	'01. 4.30	○		○	

●ヤマハ発動機㈱　〒438-8501　静岡県磐田市新貝2500　☎0538-37-4420

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	ST	SP	SS	GP
★	FCR-D41（ASSY）（初回公認'96年4月20日）	#4050～4062	TRX850	'01. 1. 1		○		
★	FCR-D41（ASSY）（初回公認'96年4月20日）	#4000～4012	FZR750R（OW-1）	'01. 1. 1		○		

●㈱ケーヒン　〒211-8580　神奈川県川崎市中原区市ノ坪386　☎044-411-6381

部品名	型式	適用車種	公認発効日	ST	SP	SS	GP
4サイクルE／Gキャブレター ASSY	FLAT-CR（小型）	CBR400R/RR/CB1、 CBR250F/R/CBR250RR/JADE FZR400/R/RR/RR SP、FZR250 /R/FZ250/ZEAL、GSX-R400/R、 GSX-R250/R、ZXR400/R/ZX-4/ ZZR400、 ZXR250/R/ZZR250R/BALIUS	'99. 3.23	○			

モトクロス用

●㈱ホンダレーシング　〒351-0024　埼玉県朝霞市泉水3-15-1　☎048-461-9511

部品名	型式	適用車種	公認発効日	MX
カムシャフト	NKK	XR400R	'99. 4.23	○

●㈲城北ホンダオート　〒161-0031　東京都新宿区西落合3-26-6　☎03-3952-4004

部品名	型式	適用車種	公認発効日	MX
Jha CR125シリンダー	JHA001CR～JHA00CR	CR125（99）	'99.12.23	○

●㈱カワサキモータースジャパン　〒673-8666　兵庫県明石市川崎町1-1　☎078-921-2642

部品名	型式	適用車種	公認発効日	MX
ホイール1.85×20	41090～1132	カワサキKX125-L	'01. 3.21	○
ホイール1.85×20	41090～1134	カワサキKX250-L	'01. 3.21	○

●㈱RSタイチ　〒574-0013　大阪府大東市中垣内3-1-25　☎072-874-3268

部品名	型式	適用車種	公認発効日	MX
ロアートリプルクランプ		各メーカー　モトクロッサー	'01. 1.25	○
トップトリプルクランプ		各メーカー　モトクロッサー	'01. 1.25	○

●Zing Racing Japan　〒213-0033　神奈川県川崎市高津区下作延870　☎044-877-8386

部品名	型式	適用車種	公認発効日	MX
EMIG TOP CLAMP		各メーカー　モトクロッサー	'01. 1.25	○

●㈲井原商会　〒301-0823　茨城県竜ケ崎市砂町2738-1　☎0297-62-0149

部品名	型式	適用車種	公認発効日	MX
ハンドルクランプ	02-4900～02-4999	各メーカー　モトクロッサー	'01. 3.21	○

●㈱エフイーティー　〒157-0071　東京都世田谷区千歳台4-30-11　☎03-5490-2551

部品名	型式	適用車種	公認発効日	MX
トップトリプルクランプ&バーマウントKit		国内4メーカー	'01.11.12	○

モトクロッサー80ccボアアップパーツ

●本田技研工業㈱

名称	型式	対象機種	公認発効日	申請分類
CR80R　ボアアップパーツ		CR80R	'00. 6.28	新規
(シリンダー)	12110-GBF-840			
(シリンダーヘッド)	12201-GBF-840			
(ピストン)	13110-GBF-840			
(ピストンリング)	13121-GBF-841			

●ヤマハ発動機㈱

名称	型式	対象機種	公認発効日	申請分類
YZ80/LW用　ボアアップパーツ		YZ80 (82.9ヘ)	'00. 6.23	新規
(シリンダーヘッド)	4LC-11111-00			
(シリンダー)	4ES-11311-10			
(ピストン)	4ES-11631-01 AO～DO			
(ピストンリング)	43K-11611-00			

●スズキ㈱

名称	型式	対象機種	公認発効日	申請分類
RM80　シリンダー・ピストンパーツ		RM80	'00. 6.28	新規
(シリンダー)	RC12A			
	RC12B			
(ピストン)	RC13A			
(ピストンリング)	RC13B			

●㈱カワサキモータースジャパン

名称	型式	対象機種	公認発効日	申請分類
KX80X/Z　ボアアップキット	50199-1195	98年モデルより	'00. 8. 2	新規
(シリンダ-ヘッド)	11001-1539	使用可能		
(ヘッドガスケット)	11004-1360			
(シリンダー)	11005-1937			
(バルブアッシ)	49116-1181			
(ピストン)	13001-1580			
(リングセット)	13008-1200			
(チャンバー)　パワーバンドUP	18120-1105			
(キャブレター)　PWK28　85CC用	15003-1817			
(ダクト) pWK28用　A/Cダクト	14073-1785			

SPクラス用登録部品('01年12月8日現在)

●ドッグファイトレーシング　〒270-2221　千葉県松戸市紙敷1370-1　☎047-392-7234

部品名	打刻	適用車種	登録年月日
シリンダーヘッド・プロテクションリング	DFR-Y000～ DFR-H000～ DFR-S000～	93・'94TZR250R・SP　'95～TZR250SPR 90～NSR250R・SE・SP ～'98RG125Γ (NF13A)	'98.10. 1

●ケーアンドティー　〒513-0823　三重県鈴鹿市道伯1923　☎0593-70-4735

部品名	打刻	適用車種	
シリンダーヘッド (リング加工)	KNH001～ KNL001～ KZ001～ KR001～	NSR250 (KV3H) NSR250 (KV3L) TZR250 96～RGV250Γ	

MFJ公認ヘルメット

取得規格／T用＝ツーリング用，M用＝モトクロス用，TR用＝トライアル用，
R用＝ロードレース用，R特選＝ロードレース特選
形状／J＝ジェットタイプ，F＝フルフェイスタイプ

●(株)シヨウエイ

〒110-0005東京都台東区上野5-8-5 cp10ビル　103-5688-5195

名　称	取得規格	形状	公認年月日
JET - X	SNELL JIS - C - R特選	F	'89.1.11
RSV	SNELL JIS - C - R特選	F	'89.1.11
VZ	JIS - C - M用	F	'89.6.13
VZ - Ⅱ	JIS - C - M用	F	'89.6.13
VX - 4R	JIS - C - M用	F	'89.11.7
FX - 1	JIS - C - R用	J	'90.5.8
RHV	JIS - C - R用	F	'90.9.4
FX - TOURING	JIS - C - M用	J	'90.4.10
X - 8	JIS - C - R特選用	F	'93.1.27
TSV	JIS - C - R特選用	F	'93.1.27
VF - X	JIS - C - M用	F	'93.1.27
X - 8 SP	JIS - C - R特選用	F	'93.2.24
FX - AFREET	JIS - C - M用	F	'93.2.24
NEW SR - X7	JIS - C - TR,T用	J	'93.2.24
TR - 2P	JIS - B - TR用	J	'93.2.24
FX - J	JIS - C - M用	F	'93.2.24
BL - J	JIS - B - TR,T用	J	'93.2.24
ES - J	JIS - B - T用	F	'93.2.24
X - FOUR Light	JIS - C - R用	F	'93.4.28
NRV	SNELL M90 JIS - C種	F	'93.11.23
X - 8V	SNELL JIS - C - R特選	F	'94.12.1
VF - X2	SNELL JIS - C - M用	F	'94.12.1
KH - S（NRV）	SNELL、JIS - C RR特選	F	'95.1.25
KM - SA（FX - 1）	JIS - C - MX用	F	'95.1.25
FX - HORNET	JIS - C - MX用	F	'95.3.1
RFD	JIS - C - R用	F	'95.6.10
ZRV	SNELL、JIS - C種・R特選	F	'96.1.24
X - 8J	JIS - C - R用	F	'96.1.24
FX - R	JIS - C - M用	F	'96.1.24
VYRCE	JIS - C - R用	F	'96.4.24
X - 8SP	SNELL、JIS - C種・R特選	F	'96.7.24
SR - FREEDOM	JIS - C - TR、T用	J	'96.7.24
RDV	JIS - C - R用	F	'96.10.23
Z - CRUZ	JIS - C - R用	F	'97.1.29
WYVERN	JIS - C - R用	F	'97.2.26
Buell2	JIS - C - R用	F	'97.3.26
RHEOS XS - 1	JIS - C種・M用	F	'97.1.29
RHEOS RS - 1	SNELL・JIS - C種・R特選	F	'97.1.29
X-8R	SNELL　M95・JIS - C種　R特選	F	'98.1.28
HORNET-V	JIS-C種　M用	F	'98.1.28
X-8SPⅡ	SNELL　M95・JIS - C・R特選	F	'99.1.27
VFX-R	SNELL　M95・JIS - C・M用	F	'99.3.24
Super VYRCE	JIS - C - R用	F	'99.7.28
TR-3	JIS - B - TR用	J	'99.10.27
ZF-R	JIS - R用	F	'00.1.26
TRV	JIS - R用	F	'00.1.26
X-2000	JIS - R用	F	'00.1.26
X-8Rhi（旧X-8R）	SNELL M95 - R特選	F	'00.2.23
HORNET　XV	JIS - M用	F	'00.6.28
SR-J	JIS-T8133-2000T用	J	'01.7.18
RFDⅡ	JIS-T8133-2000R用	F	'01.11.28

●(株)アライヘルメット

〒330-0841埼玉県大宮市東町2-12　1048-641-3825

名　称	取得規格	形状	公認年月日
F - V	SNELL JIS - C - R特選	F	'89.6.13
GIGA	SNELL JIS - C - R特選	F	'89.6.13
ASTRO - R	SNELL JIS - C - R特選	F	'89.6.13
MX - 2	JIS - C - M用	J	'89.6.13
RAPIDE - VIIIR	JIS - C - R用、SNELL M85	F	'90.5.8
RAPIDE - μ	JIS - C - R用、SNELL M85	F	'90.5.8
MX - Enduro	JIS - C - M用、SNELL M85	J	'90.5.8
AT - S	JIS - B - TR用	F	'90.5.8
Super cLc RX - 7RR	JIS - C - R特用	F	'93.1.27
OW	JIS - C - R、M用	F	'93.2.24
VX	JIS - C種　M用	F	'94.11.30
NT - X NT - GALAXY,Windy - 12	JIS - C種　R用	F	'96.4.24
OMNI - R	SNELL、JIS - C種・R特選	F	'96.4.24
HYPER-T	JIS - T用	J	'00.6.28
RAPIDE-M	SNELL M95 - R特選	F	'00.7.26
SNC SIGNET-RR	SNELL M95 - R特選	F	'00.7.26
GOTH	SNELL M95 - R特選	F	'00.7.26
ASTRO-M	SNELL M95 - R特選	F	'00.7.26
GP-4X	SNELL M95 - R特選	F	'00.7.26
V-CROSS2	SNELL M95 - M特選	F	'00.7.26
MX-3	SNELL M95 - M特選	J	'00.7.26
TOUR CROSS	SNELL M95 - M特選	F	'00.7.26
FREEWAY	JIS - T用	J	'00.7.26
MX-3 Jr	JIS - M用	J	'00.8.23
RAPIDE-Jr.	JIS - R用	F	'00.8.23
ASTRO-J, ASTRO REFLEX	SNELLM2000R特選	F	'01.10.12
URBANE-GT, KurtisRobertsGT	SNELLM2000R特選	F	'01.10.12

●テイ・エステック(株)

〒351-0012埼玉県朝霞市栄町3-7-27　☎048-462-1121

名　称	取得規格	形状	公認年月日
AMI（L - 06）	JIS - B - TR、T用	F	'87.10.7
AMI（L - 07）	JIS - B - TR、T用	F	'87.10.7
AMI（L - 08）	JIS - B - TR、T用	F	'87.10.7
RHEOS（R - 21）	JIS - C - R用	F	'87.10.7
RHEOS（R - 92）	JIS - C - R用	F	'87.10.7
RHEOS（R - 93）	JIS - C - R用	F	'87.10.7
RHEOS（R - 94）	JIS - C - R用	F	'87.10.7
RHEOS（R - 95）	JIS - C - R用	F	'87.10.7
RHEOS（R - 96）	JIS - C - R用	F	'87.10.7
RHEOS（R - 97）	JIS - C - R用	F	'87.10.7
SEED（J - 23）	JIS - B - TR、T用	J	'87.10.7
Ami	JIS - B - TR、T用	J	'88.1.18
SEED - R22	JIS - C - R用	F	'88.1.18
SEED - R23	JIS - C - R用	F	'88.1.18
RHEOS R98	JIS - C - R用	F	'88.1.18
RHEOS R99	JIS - C - R用	F	'88.1.18
RHEOS R92LED	JIS - C - R用	F	'88.7.5
RHEOS RR101	SNELL JIS - C - R特選	F	'88.12.12
RHEOS RR102	SNELL JIS - C - R特選	F	'88.12.12
RHEOS RR103	SNELL JIS - C - R特選	F	'88.12.12
RHEOS RR104	SNELL JIS - C - R特選	F	'88.12.12
RHEOS RR301	SNELL JIS - C - R特選	F	'88.12.12
RHEOS RR302	SNELL JIS - C - R特選	F	'88.12.12
RHEOS PA101	JIS - C - R用	F	'89.2.14
RHEOS PA102	JIS - C - R用	F	'89.2.14
RHEOS PA103	JIS - C - R用	F	'89.2.14
RHEOS（RC）	JIS - C - R用	F	'91.2.20
Rheos（RD）	JIS - C - R用	F	'92.3.11
Rheos（JB）	JIS - C - M - T用	J	'92.4.17
HONDA Rheos（RC）	SNELL R特選	F	'92.5.13
Rheos RC	JIS - C - R用	F	'93.6.20
ami L10	JIS - C - TR、T用	J	'93.7.28
ami J10	JIS - C - TR、T用	J	'93.7.28
RHEOS		J	'93.1.7
RHEOS（RE2）	JIS - C種	F	'94.4.27
RHEOS HRC RE - 2	JIS - C - R用	F	'95.3.1
RHEOS FANG Junior	JIS - C種 - M用	J	'96.1.24
RHEOS RE - 3	JIS - C種 - R用	F	'96.7.24
RHEOS JE 6	JIS - C種 - M用	J	'96.8.28
RHEOS RE 3	SNELL、JIS - C種 - R用	F	'96.10.23
RHEOS HRC YASHA（RJ2）	JIS - C種 - R用	F	'97.7.23
RHEOS HRC YASHA（RJ1）	SNELL、JIS - C種 - R特選	F	'97.6.25
RHEOS　YASHA（RJ21）	JIS-C種　R用	F	'98.6.24
RHEOS　YASHA（RJ11）	SNELL　M95　R特選	F	'98.6.24
RHEOS　YASHA（RJ11R）	JIS-C種　R用	F	'98.7.29
RHEOS　RE23	JIS-C　R用	F	'99.2.24

●(株)コミネオートセンター
〒111-0056東京都台東区小島2-20-11 ☎03-3862-9811

名称	取得規格	形状	公認年月日
KF-RV	JIS-C-R用	F	'86.3.26
KF-RC	JIS-C-R用	F	'86.9.9
ANSWER	SNELL JIS-C-M用	F	'86.9.9
NARVA NC-2	JIS-C-R特選	F	'88.10.5
NARVA CROSS	JIS-C-M用	J	'90.1.9
Spazzio	JIS-C-R用	F	'90.4.3
JT	JIS-C-M用	J	'90.4.3
Answer	SNELL-MX用	F	'95.8.23

●(株)エフイーティー
〒157-0071東京都世田谷区千歳台4-30-11 ☎03-5490-2562

名称	取得規格	形状	公認年月日
NOLAN N35 AIR	JIS-C-R用	F	'88.5.6
NOLAN N35 AIR	JIS-C-R用	F	'88.5.13
AXO SPORT X-49	JIS-C-M用	F	'89.6.13
AXO SPORT RX-1	JIS-C-M用	J	'91.8.20
AXO SPORT RX-2	JIS-C-M用	F	'92.9.25
AXO MM ZERO (旧 RX5)	JIS-M用	F	'00.6.28
AXO MX ZERO (旧 RX5)	JIS-M用	F	'00.6.28
AXO RR5	JIS-R用	F	'00.6.28
AXO RR6	JIS-R用	F	'00.6.28
AXO MM CARBON	JIS-M用	F	'00.6.28

●大日本インキ化学工業(株)

名称	取得規格	形状	公認年月日
DIC (TY-1)	JIS-C-R用	F	'86.4.30
DIC (DF-1)	JIS-C-R用	F	'86.1.9
DIC (DF-2)	JIS-C-R用	F	'87.3.31
DIC (GP'87)	JIS-C-R用	F	'87.7.7
DIC (K)	JIS-C-R用	F	'87.9.4
DIC (AR)	JIS-C-R用	F	'87.9.4
DIC (ZIO)	JIS-C-R用	F	'87.11.4
SUZUKI (ONE) S50C		F	'81.1.18

●興和精機(株)
〒105-0014東京都港区芝1-13-17 ☎03-3453-6011

名称	取得規格	形状	公認年月日
GRIFFIN (G100TD)	JIS-B-TR、T用	J	'86.10.23
GRIFFIN (GS-520)	JIS-B-T用	F	'86.10.23
GRIFFIN (GX-707)	JIS-B-T用	F	'86.10.23
GRIFFIN (GS530)	JIS-B-T用	F	'86.11.23
GRIFFIN (GX707)	JIS-C-M用	F	'87.3.4
GRIFFIN (GS530)	JIS-C-R用	F	'87.3.4

●(株)光輪モータース
〒110-0015東京都台東区東上野4-26-4 ☎03-3841-3411

名称	取得規格	形状	公認年月日
AGV (KR2000)	JIS-C-R用	F	'86.1.30
AGV QUASAR	JIS-C-R用	F	'95.3.1
SUOMY GW	JIS-C-R用	F	'99.9.29

●ワールド通商(株)
〒113-0033東京都文京区本郷1-24-1 本郷MFビル3F ☎03-3818-5451

名称	取得規格	形状	公認年月日
ポルシェ・デザイン (CP-4)	JIS-C-R用	F	'86.2.25
KIWI (K-16)	JIS-C-R用	F	'86.7.2
KIWI (K-20)	JIS-C-R用	F	'88.1.6

●(株)モトワールド
〒110-0016東京都台東区台東3-31-4

名称	取得規格	形状	公認年月日
ANSWER A-TECH-5		F	'88.8.4

●(株)谷尾商会
〒530-0037大阪府大阪市北区松ケ枝町5-4 ☎06-6358-0651

名称	取得規格	形状	公認年月日
NAVA 3A/C	JIS-C-R用	F	'86.4.28
NAVA-8	JIS-C-R用	F	'87.7.7

●(株)ヤナセ

名称	取得規格	形状	公認年月日
FJ (FJ-01)	JIS-C-R用	F	'86.5.28
FJ (FJ-02)	JIS-C-R用	F	'86.4.28
F-J (FJ-Ⅱ・インテグラ)	JIS-C-R用	F	'87.7.7

●クノー工業(株)
〒141-0031東京都品川区西五反田6-11-6 ☎03-3492-5641

名称	取得規格	形状	公認年月日
EF-2	JIS-C-M用	J	'86.8.5
DELTA	JIS-C-M用	J	'86.8.5
AIGLE	JIS-C-M用	J	'86.8.5
LYNX	JIS-C-M用	J	'86.8.5
SETA (045)	JIS-C-R用	F	'87.3.4
Rom RS-1 (SETA045)	JIS-C-R用	F	'99.10.27

●ユニコ(株)
〒106-0032東京都港区六本木7-3-17 ☎03-3478-2707

名称	取得規格	形状	公認年月日
VS-2	JIS-C-R用	F	'86.3.26
NEF (VS-2)	JIS-C-R用	F	'86.12.15
NEF-RO2	JIS-C-R用	F	'88.6.10

●(株)立花
〒133-0044東京都江戸川区本一色3-16-20 ☎03-3653-6277

名称	取得規格	形状	公認年月日
カスタム ES-2 (A型)	JIS-A-T用	J	'92.4.8
カスタム (A型)	JIS-A-T用	J	'92.3.11
ライジン (A型)	JIS-A-TR用	J	'93.2.24
ライジン (レザートップ)	JIS-A-TR用	J	'93.2.24

●ヤマハ大船渡製造(株)
〒022-0002岩手県大船渡市大船渡町字欠の下向1-1 ☎0192-27-4101

名称	取得規格	形状	公認年月日
GEORAMA-TS	JIS-C-R用	F	'86.1.30
GEORAMA-RS	JIS-C-R用	F	'86.2.24
FE-X	JIS-C-R用	F	'86.2.24
OE	JIS-C-M用	F	'86.2.24
GEORAMA-GFV		F	'86.3.15
GEORAMA-GFV-R	JIS-C-R用	F	'89.9.5
GFS	JIS-C-R用	F	'89.10.11
YFR	JIS-C-R用	F	'90.5.8
YFV	JIS-C-R用	F	'90.5.8
INPURE (YOA)	JIS-C-R用	F	'90.5.8
YFV (HJ1)	SNELL-R特選	F	'91.7.3
GFV (YON)	JIS-C-R用	F	'92.6.3
YJ-X (YON)	JIS-C-M用	J	'92.7.8
STAIR	JIS-C-R特選	F	'93.6.23
GIBSON	JIS-C-M用	F	'92.2.5
YSF (YOH)	JIS-C様 R用	F	'94.7.27
YSF (RODEM) (YOH)	SNELL-R特選	F	'95.1.25

●(株)ジャパンプロダクト
〒133-0041東京都江戸川区上一色416-1 ☎03-3655-9055

名称	取得規格	形状	公認年月日
R120N R2-1	JIS-C-R用	F	'86.7.2

●(株)RSタイチ
〒574-0013大阪府大東市中垣内3-1-25 ☎072-874-3268

名称	取得規格	形状	公認年月日
JT (ALS-1)	JIS-C-M用	J	'87.9.4
JT (ALS-2)	JIS-C-M用	F	'87.9.4

●旺文社パシフィック(株)

名称	取得規格	形状	公認年月日
NAVA	JIS-C-T用	セミJ	'86.7.26

●(株)大都
〒110-0014東京都台東区北上野1-7-1 ☎03-3843-6426

名称	取得規格	形状	公認年月日
BELL (MAG-4)	SNELL JIS-C-M用	J	'86.9.30

●(株)丸万茂又

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
MAC	JIS・C・R用	F	'87.8.5

●(株)ドルフィン・インターナショナル

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
BELL MOTO5	SNELL JIS・C・R特選	F	'89.5.9

●日栄プラスチック(株)

〒362-0806埼玉県北足立郡伊奈町大字小室字志久4429　☎048-723-0611

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
DIC（DFX）	SNELL・R特選	F	'91.2.15
Gibson（YX）	JIS・C・M用	F	'91.2.5
DIC（RT35・06））	JIS・C・R用	F	'92.7.8
DIC・VR	JIS・C・R用	F	'89.12.12
SYDEEN	SNELL C・R用	F	'89.3.7
DIC・Inc State	JIS C・M用	J	'89.5.9
DIC・zio・SX	JIS C・R用	F	'89.7.20
DIC ZR	JIS C・R用	F	'89.11.7

●オージーケー販売(株)

〒577-0037大阪府東大阪市御厨西ノ町2丁目1番3号　☎06-6783-5906

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
RS・1	JIS・C・R用	F	'91.6.6
RS・1R	JIS・C・R用	F	'92.9.25
EX・R/S・93G	JIS・C・R用	F	'93.6.23
S・94G	JIS・C・R用	F	'95.4.20
RX・R	JIS・C・R用	F	'95.4.20
RX・V	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'97.2.26
RG・V	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'97.2.26
S・95G	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'97.2.26
Regles　S-98G	JIS-C種　R用	F	'98.1.28
FF-3	JIS・R用	F	'00.3.29
AEROBLADE（旧ラグレス）	JIS・R用	F	'00.6.28

●ヤマハ発動機(株)

〒438-8501静岡県磐田市新貝2500　☎0538-37-4111

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
YZ07	JIS C・R用	F	'93.6.23

●(株)イエローコーン

〒106-0045東京都港区麻布十番2-20-6 ジャノメ麻布十番ビル7F　☎03-5442-7661

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
SIMPSON（BANDIT5）	JIS C種	F	'94.1.26

●エッチジェイシージャパン(株)

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
FG・X3	JIS・C・MX用	F	'95.4.26
FG・10K	JIS・C・RR特選	F	'95.4.26

●フランコ商事(株)

〒540-0005大阪府大阪市中央区上町1-14-13 TAPSビル4F　☎06-6761-6505

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
SHARK（XRC・CARBON）	JIS・C・R用	F	'95.8.23
SHARK　RS2	JIS・C　R用	F	'98.4.28
SHARK　RSR	JIS-T8133-2000R用	F	'01.11.28

●山本光学(株)

〒577-0056大阪府東大阪市長堂3-25-8　☎06-6783-1109

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
YAMAHA	JIS・B・TR用	F	'95.1.25

●岡田商事(株)

〒105-0012東京都港区芝大門1-3-7　☎03-5473-0371

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
BELL（MOTO6）	JIS C種	F	'94.5.10
BELL（RACE STAR）	JIS C種	F	'94.6.29
FG・TECH	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'96.6.26
CL・X	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
FG・X3	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
CL・10	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'96.6.26
FG・Light	JIS・C種・R用	F	'96.7.24
BELL　MOTO　7	JIS・M用	F	'00.2.23

●(株)洪進クラウン

大韓民国京畿道龍仁市二東面西里54-2

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
FG・TECH	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
CL・X	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
FG・X3	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
CL・10	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
FG・Light super	JIS・C種・R用	F	'96.7.24

●(株)ダックスコーポレーション

〒566-0073大阪府摂津市鳥飼和道2-8-5　☎0726-53-0299

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
BieFFe BR16	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'97.11.26
BieFFe（BR19）	SNELL　M95　R特選	F	'98.6.24
BieFFe　Cross　Tech	SNELL　M95　MX特選	F	'98.7.29
BLEEFE　BR16　GPR（旧BR16）	SNELL　M95・R特選	F	'00.3.29
BieFFe（AOKI）	SNELL　M95・RD特選	F	'00.11.22
BieFFe（ビアッジ）	SNELL　M95・RD特選	F	'00.11.22

●(有)井原商会

〒301-0823茨城県竜ケ崎市砂町2738-1　☎0297-62-0149

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
O'NEAL SL708	SNELL　M95　M特選	F	'99.2.24
O'NEAL SL709 KBC TK-X	SNELL　M95・M特選	F	'00.2.23
O'NEAL WL691	SNELL　M2000・M	F	'01.5.23
thor SVS4	SNELL　M2000・M特選	F	'01.10.12
thor SVR	SNELL　M2000・M特選	F	'01.10.12

●モトプラザ・アップル(株)

〒984-0042宮城県仙台市若林区大和町1-5-15　☎022-283-1651

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
FOX FLITE	SNELL　M90　M用	F	'99.8.25

●(株)アクティブ

〒470-0115愛知県日進市折戸町藤塚56－290　☎05617-2-7011

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
SIMPSON SUPER BANDIT 7	SNELL M95　R特選	F	'00.6.28

●(株)ダートフリーク

〒488-0067愛知県尾張旭市南原山町山町石原136　☎0561-51-0350

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
FOX　PILOT	SNELL　M2000　M特選	F	'01.6.26
FOX　FLITE	SNELL　M2000　M特選	F	'01.10.25

●(有)エトスデザイン

〒651-2132兵庫県神戸市西区森友4-13　☎078-928-6644

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
SUOMY　GW	SNELL　M2000　R特選	F	'01.7.18

●ドゥカティジャパン(株)

〒153-0051東京都目黒区上目黒1-26-9中目黒オークラビル　☎03-3794-5001

名　称	取得規格	形　状	公認年月日
Ducati, Corse, Scudetto, Superbike, Supersport	SNELL　M2000　R特選	F	'01.8.29

公認レーシングスーツ

●(株)カドヤ
〒111-0035東京都台東区西浅草3-29-21　☎03-3843-2000

名　称	型　式	公認年月日
ON THE RACE G2	RP,PX,MM,RD,PT	'90.10.23
NEW CONCEPTER	MDシリーズ(MD1,2は染)	'90.10.23
KADOYA	OR・SR	'90.10.23
ON THE RACE G2	RP・FS 0020	'91.4.10
ON THE RACE G2	G2・RP（G2/RP・125）	'92.3.11
ON THE RACE G2	G2・RP（G2/RP・07,08）	'92.3.11
KADOYA	OR	'95.6.28
K'S LEATHER	CLASH　KING	'95.6.28
K'S LEATHER	BER　DT-1	'00.8.23
K'S LEATHER	CLASH　KING　STD	'00.8.23

●(株)クシタニ
〒430-0853静岡県浜松市三島町231　☎053-441-2251

名　称	型　式	公認年月日
KUSHITANI	KR　KRN	'90.10.23
KUSHITANI	KI	'90.10.23
KUSHITANI	K	'91.1.18
KUSHITANI	KV	'91.1.18
KUSHITANI	オーダーメイド	'91.2.8
KUSHITANI	KI・101,102,103	'91.4.10
KUSHITANI	KX・1	'91.11.5
KUSHITANI	KX・1	'91.11.5
KUSHITANI	KI・X（KI・107X）	'92.11.1
KUSHITANI	KI・XM（KI・106）	'92.11.1
KUSHITANI	KI・X	'93.3.24
KUSHITANI	KI・X（KI・109,KI・111）	'94.1.10
KUSHITANI	KI・X（KI・112,KI・113）	'94.11.23
KUSHITANI	K・DR（K・161,K・162,K・163）	'95.12.26
KUSHITANI	KI・XW（KI・114XX）	'95.12.26
KUSHITANI	KI・XW（KI・115XX）	'95.12.26
KUSHITANI	KI・XW（KI・160XX）	'95.12.26
KUSHITANI	KI・XG（KI・118XX）	'95.12.26
KUSHITANI	KI・XV（KI・150XX）	'96.9.25
KUSHITANI	KI・XV（KI・116XX）	'96.9.25
KUSHITANI	KI・XV（KI・117XX）	'96.11.27
KUSHITANI	KI・XR（KI・119XX）	'98.1.28
KUSHITANI	KI・XG（KI・121XX）	'98.1.28
KUSHITANI	KI・XD（KI・122）	'98.1.28
KUSHITANI	K・X（0001XX）	'99.2.24
KUSHITANI	K・X（0002XX）	'99.2.24
KUSHITANI	K・X（0003XX）	'99.2.24
KUSHITANI	K・X（0005XX）	'99.2.24
KUSHITANI	K-0007XX	'99.12.29
KUSHITANI	K-0008XX	'99.12.29
KUSHITANI	K-0009XX	'99.12.29
KUSHITANI	K-0010XX	'99.12.29
KUSHITANI	K-0012, 13, 16XX	'01.1.25
KUSHITANI	K-0011XX, K-0017XX	'01.1.25
KUSHITANI	K-0018XX	'01.6.26
KUSHITANI	KI・XRR（K・0019XX）	'01.11.28
KUSHITANI	K・X（K・0020XX）	'01.11.28

●(株)ルック
〒125-0061東京都葛飾区亀有4-3-7　☎03-3604-7800

名　称	型　式	公認年月日
SR	SR01～03	'90.10.23
RS	RSⅠ～Ⅴ	'90.10.23
SS	SSⅠ～Ⅲ	'90.10.23
Look	(オーダー)	'90.10.23
ラファール3	オーダーメイド	'91.4.20
GPシリーズ		'92.11.28
SPシリーズ	SP	'93.11.24

●(株)RSタイチ
〒574-0013大阪府大東市中垣内3-1-25　☎072-874-3268

名　称	型　式	公認年月日
Nixeレーシングレザースーツ	NXL	'90.9.29
NIXEレーシングレザースーツ	NXL005,006,007,008,009	'91.9.8
NIXEレーシングレザースーツ	NXL,NXL（オーダー）	'91.1.18
NIXEレーシングレザースーツ	NXL（NXL001）	'92.10.7
NIXEレーシングレザースーツ	NXL（NXL012,015）	'92.10.7
NIXEレーシングレザースーツ	NXL（NXL011）	'92.10.14
NIXE NXL	NXL016	'94.1.26
NIXE NXL	NXL017・018	'94.1.26
NIXEレーシングレザースーツ	NXL	'94.12.28
NIXE NXL	NXL030	'95.12.26
NIXE NXL	NXL031	'95.12.26
NIXE NXL	NXL032	'95.12.26
NIXE NXL	NXL035	'96.11.27
NIXEレーシングレザースーツ	NXL038	'97.1.29
NIXEレーシングレザースーツ	NXL037（条件付公認）	'97.1.29
NIXEレーシングスーツ	NXL040、NXL041	'97.12.24
NIXEレーシングスーツ	NXL042、NXL043、NXL044、NXL045、NXL046、NXL047	'98.9.30
NO FEARレーシングスーツ	NFL・500	'99.10.27
NIXEレーシングスーツ	NXL・049、NXL・051	'99.10.27
NIXEレーシングスーツ	NXL・048、NXL・050	'99.10.27
NIXEレーシングスーツ	NXL053・054・055	'00.6.28
NIXEレーシングスーツ	NXL056	'00.11.22
NIXEレーシングスーツ	NXL057	'00.11.22
NIXEレーシングスーツ	NXL058	'00.11.22
NIXEレーシングスーツ	NXL059	'00.11.22
NIXE	NXL062	'01.11.28
NIXE	NXL064	'01.11.28

●(株)アズ・スポーツ

名　称	型　式	公認年月日
Justys	J・001R～J・023R	'90.10.23
Justys・J・PRO・R	JPR・001R～JPR・004R	'90.10.23
A's Racing	AS001SO～AS007SO	'90.10.23

●(株)大都
〒110-0014東京都台東区北上野1-7-1　☎03-3843-6426

名　称	型　式	公認年月日
THE BIKE	RCシリーズ	'90.10.23
D'S	DRS・3007,3008	'91.5.8
THE BIKE	オーダーメイド	'91.5.8
THE BIKE	FR・10,11,12,13	'91.6.5
THE BIKE	FR・3,5,6,7,8,9	'91.2.6
THE BIKE	GP・3,GP・5	'91.2.6
THE BIKE	RC・355,RS・NB	'93.8.25

●(株)イエローコーン
〒106-0045東京都港区麻布十番2-20-6 ジャノメ麻布十番ビル7F　☎03-5442-7661

名　称	型　式	公認年月日
SLEDGE HAMMER	BBL・0405	'00.11.22
SLEDGE HAMMER	YBL・0401	'00.11.22

●(株)光輪モータース
〒110-0015東京都台東区東上野4-26-4　☎03-3841-3411

名　称	型　式	公認年月日
PLICANA	グループC（PT・MS）	'90.10.23
PLICANA	グループA（PT・RXIGP）	'91.2.6
PLICANA	グループB（PT・NIGP）	'91.2.6
PLICANA	グループH（PT・ATILS）	'91.2.6
PLICANA	PT・ZEAI	'91.11.5
PLICANA	グループAPT・DELTAMAX	'95.12.26
PLICANA	グループC PT IS1	'95.12.26
PLICANA	グループCPTラッキーストライク	'95.12.26
PLICANA	グループAPT・DELTAMAX	'95.12.26
PLICANA	グループC PT IS1	'95.12.26
PLICANA	グループCPTラッキーストライク	'95.12.26

●(有)セクレテール
〒152-0002東京都目黒区目黒本町6-21-15　☎03-3714-0533

名　称	型　式	公認年月日
セクレテール	RF,RC,RS,TR,MFR	'90.10.23
セクレテール	(オーダー)	'90.10.23
セクレテール	MFR - 912	'92.3.11
セクレテール	RS - 26,27	'92.3.11
セクレテール	RS - 28,29,30,REP,	'92.11.28
セクレテール	RF,RS,REP	'93.5.26
セクレテール	RF33,RS43,RFP944,RFP945	'94.10.25

●(株)デグナー
〒607-8463京都府京都市山科区上花山講田町57-1　☎075-501-7137

名　称	型　式	公認年月日
デグナー	R - 1	'90.10.23
デグナー	R - 2	'90.10.23
デグナー	R - 6	'90.10.23
デグナー	フルオーダー	'98.7.29

●(株)ナカタケ
〒721-0964広島県福山市港町2-16-22　☎0849-23-2423

名　称	型　式	公認年月日
ナカタケ	NS - ゴーズアップシリーズ	'90.10.23
ナカタケ	NS - R	'91.11.5

●(株)邑輝総研

名　称	型　式	公認年月日
Boldor	レーシングワンピース	'90.10.23

●(有)ライブラ
〒491-0934愛知県一宮市大和町苅安賀字角出62　☎0586-44-6451

名　称	型　式	公認年月日
ライブラレーシングスーツ	LRS - 01	'90.10.23
COSMIC (Libra)	オーダーメイド	'92.1.9

●東京ベルト (株)

名　称	型　式	公認年月日
TO BEL	TBシリーズ	'90.10.23

●(有)エムシーコレクション
〒270-2231千葉県松戸市稔台37　☎0473-64-6555

名　称	型　式	公認年月日
フォーヘッド(FOR HEAD)	(オーダーメイド)	'90.11.17
フォーヘッド(FOR HEAD)	FH - 001,002,009	'90.11.17

●(株)レインボー
〒110-0014東京都台東区北上野1-5-5　☎03-3843-5606

名　称	型　式	公認年月日
レインボー	(オーダーメイドレーシング)	'90.11.17

●(有)アールシーエム

名　称	型　式	公認年月日
Toril	オーダーメイド	'91.5.8
ファルコン	オーダーメイド	'91.5.8
HAL	オーダーメイド	'91.5.8
FALCON	FS	'91.3.12
Toril	TX,TXR	'91.3.12
HAL	01A,02A,03A,05A,06A	'91.5.8
プラスト	オーダーメイド	'91.11.5

●(株)アイアンドエイ
〒660-0823兵庫県尼崎市大物町1-1-15　☎06-6401-1011

名　称	型　式	公認年月日
B - LINE	オーダーメイド	'91.5.8

●(株)アダチ

名　称	型　式	公認年月日
JRP	オーダーメイド	'91.2.6
MOTO FLASH	オーダーメイド	'91.2.6
RSA	オーダーメイド	'91.2.6
MOTOR KING MICHIKO KOSHINO	オーダーメイド	'92.3.11

●(株)アチーブ
〒340-0025埼玉県草加市谷塚上町738-1　☎0489-24-7519

名　称	型　式	公認年月日
レーシングスーツYONEZO	オーダーメイド	'91.1.8

●(有)エフワン
〒114-0003東京都北区豊島4-14-2　☎03-3912-5149

名　称	型　式	公認年月日
エフワン	FR - 2A,6B,03A,21,22,システム06	'91.5.8
F - ONE	FR - G2B	'91.2.6

●ジュベットレザーハウス
〒435-0017静岡県浜松市薬師町148　☎053-421-7722

名　称	型　式	公認年月日
JUBET	オーダーメイド	'91.4.10

●(株)キジマ
〒123-0841東京都足立区西新井4-16-3　☎03-3897-2167

名　称	型　式	公認年月日
KISS	オーダーメイド	'91.4.10
KISS RACING	プロトワン・プロトツー	'91.2.6

●(株)ギャロップ

名　称	型　式	公認年月日
FORZA	FO - 404,405,406	'91.2.6
FORZA	オーダーメイド	'91.2.6
R - SPORTS	R - SPORTS02,401,402,403	'91.5.8
FORZA	FO - 407	'91.10.16
STREET SLIDER	SSシリーズSS - 03	'92.9.5
TRX	X - Sシリーズ	'93.1.27
FORZA	FOシリーズ	'93.2.24
ワンズワン	GOシリーズ	'93.5.26
STREET SLIDER	SSシリーズ	'93.5.26
モトプラザGT	GTシリーズ	'93.11.23
FORZA FOシリーズ	FO - 411	'94.4.27
FORZA FOシリーズ	FO - 412	'94.9.15
FORZA FOシリーズ	FO - 413	'94.10.31
FORZA FOシリーズ	FO - 414	'96.11.27
FORZA FOシリーズ	FO - 415	'97.1.29
FORZA FOシリーズ	FO - 416	'97.1.29

●(株)フォルザ・インターナショナル
〒105-0003東京都港区新橋2-19-1　☎03-3433-0405

名　称	型　式	公認年月日
FORZA	FO - 414	'98.12.23
FORZA	FO - 415	'98.12.23
FORZA	FO - 416	'98.12.23
FORZA	FO - 417	'98.12.23
FORZA	FO - 418	'99.4.28
FORZA	FO - 419	'99.4.28
FORZA	FO - 420,421	'00.3.29
FORZA	FO - 422	'01.2.22
FORZA	FO - 423	'01.2.22

●(株)ホンダショップアルトモトスポーツグラッド
〒537-0012大阪市東成区大今里3-15-25　☎06-6971-6381

名　称	型　式	公認年月日
KIKUTANI	AK	'93.2.24

●(有)後藤商店
〒208-0011東京都武蔵村山市学園3-18-1　☎042-565-6663

名　称	型　式	公認年月日
GOTO MD - Performance	MD - Ⅰ～Ⅲ	'91.1.8
GOTO	オーダーメイド	'91.1.8
GOTO MD - Performance	MD - Y9,10,11	'91.4.28

●ツナギのコウタ
〒300-3505茨城県結城郡八千代町佐野16　☎0296-49-0626

名　称	型　式	公認年月日
コウタ	(オーダー)	'90.9.29

●(株)コミネオートセンター
〒111-0056東京都台東区小島2-20-11　☎03-3862-9811

名　称	型　式	公認年月日
Spazzioレーシング	A,S - 11	'91.2.6
KOMINE Spazzio	オーダーメイド	'91.2.6
Spazzio	S - 14R	'91.5.8
Spazzio	S - B,S - 8,S - 10,S - 14	'91.6.5
Spazzio	S - 15	'92.1.9
Spazzio	S - 16	'92.11.28
Spazzio	ツナギ	'98.9.30
Spazzio	セパレート	'98.9.30
Spazzio	S - 17S	'99.10.27
スパジオ	S - 17	'99.12.29
スパジオ	S - 18	'99.12.29
スパジオ	S - 19	'00.10.25
スパジオ	S - 20	'00.10.25
スパジオ	S - 22	'01.7.18
スパジオ	S - 23	'01.7.18
スパジオ	S - 24	'01.7.18
スパジオ	S - 25	'01.7.18
スパジオ	S - 22S	'01.7.18

●ジニアス
〒579-8043大阪府東大阪市客坊町5-3　☎0729-87-0165

名　称	型　式	公認年月日
ジニアス	SIR - G	'91.2.6

●ステージレザー
〒341-0037埼玉県三郷市高州2-387-3　☎048-955-5146

名　称	型　式	公認年月日
PRO STAGE	レーシングワンピース	'91.1.18

●ダイネーゼジャパンインク
〒560-0036大阪府豊中市蛍池西町2-13-7第2岡ビル1F　☎06-6854-9921

名　称	型　式	公認年月日
ダイネーゼ	T.MONZA,T.MISANO,T.SIL.VERSTONE'	'91.8.7
ダイネーゼ	T.GRAPHICA,T.FRECCIA,T.CHILLI TEAM	'91.8.7
ダイネーゼ	T.STROM,T.FOLT.EDDIE95,T.SFUMATA	'92.5.13
ダイネーゼ	T.K.S	'93.4.28
ダイネーゼT - SAFETY PRO	T - SAFETY PRO	'94.6.29
ダイネーゼ	T - SCOTT RUSSEL REPLICA	'95.12.26
ダイネーゼ	T - BELZEBU	'95.12.26
ダイネーゼ	T - CAPIROSSI REPLICA	'95.12.26
ダイネーゼ	T - FOGARTY REPLICA	'96.3.27
ダイネーゼ	T - BIAGGI REPLICA	'96.3.27
ダイネーゼ	DAINESE T - RD1	'96.4.24
DAINESE	T.TECHNO	'99.2.24
DAINESE	T - AGE DIV	'01.3.31
DAINESE	T - WING DIV	'01.3.31
DAINESE	T - TIMER DIV	'01.3.31
DAINESE	T - AGE PROF	'01.3.31
DAINESE	T - SAFETY PRO2	'01.3.31

●(株)谷尾商会
〒530-0037大阪府大阪市北区松ケ枝町5-4　☎06-6358-0651

名　称	型　式	公認年月日
ラビーン	RVX - 1～5	'91.1.18

●南海部品(株)
〒530-0002大阪府大阪市北区曾根崎新地2-6-28　106-6344-1581

名　称	型　式	公認年月日
ナンカイ	SDシリーズ	'91.2.6
SRシリーズ	SRシリーズ	'91.2.8
ナンカイ	オーダーメイド	'91.6.5
ナンカイ	NR - 011R平レプリカスーツ	'91.6.5
ナンカイ	NR - 50プロレーシングスーツ	'91.6.5
ナンカイ	NRシリーズ	'91.1.8
ナンカイ	SR - 16	'92.5.13
ナンカイ	SR - 17	'92.5.13
ナンカイ	NR - 51	'92.5.13
ナンカイ	SD - 8	'92.11.1
ナンカイ	NR - 52	'92.11.1
ナンカイ	NR - 51,SR - 16,17	'93.3.24
SRシリーズ	SR - 18	'93.11.24
94年ドゥーハンレプリカニューモデル	NR - 06R8,NR - 013R1	'93.4.27
SDシリーズ	SD - SPECIAL	'94.4.27
94D - ビーティーマルボロレーシングレプリカ	NR - 015R1	'94.4.27
94原田哲也レーシングレプリカ	NR - 018R1	'94.7.27
94A - バロスラッキーストライクレーシングレプリカ	NR - 014R1	'94.7.27
94辻村猛レーシングレプリカ	NR - 016R1	'94.7.27
94井形とも子レーシングレプリカ	NR - 017R1	'94.7.27
ナンカイ	NR - 53プロレーシングスーツ	'95.3.1
ナンカイ	NR - 54プロレーシングスーツ	'95.3.1
ナンカイ	SD - 12レーシングスーツ	'95.3.1
ナンカイ	SD - 13レーシングスーツ	'95.3.1
ナンカイ	プロレーシングレプリカスーツ	'95.10.25
ナンカイ	NR - 55ミレプリカスーツ	'96.9.25
ナンカイ廉価版レーシングスーツ	SR - 20	'96.11.27
ナンカイ廉価版レーシングスーツ	SR - 21	'97.1.29
ナンカイプロレーシング	NR - 56	'97.1.29
NANKAIプロレーシングスーツ	NR - 57、NR - 58	'98.2.25
NANKAIレーシングスーツ	SD - 100	'98.8.26
NANKAIレーシングスーツ	SD - 101	'98.8.26
NANKAIプロレーシングスーツ	NR - 59	'99.4.28
NANKAIプロレーシングスーツ	NR - 06R10	'99.7.28
ナンカイレーシングスーツ	SD - 102	'00.1.26
ナンカイPRO ネオレトロモデル	NR - 60	'00.5.24
ナンカイケブテックスーツ	SR - 22	'00.7.26
ナンカイケブテックスーツ	SR - 23	'00.11.22
ナンカイケブテックスーツ	SRD - 24	'00.11.22

●(有)ハイブ

名　称	型　式	公認年月日
ハイブ	オーダーメイド	'91.3.12

●バギー(株)
〒636-0203奈良県磯城郡川西町梅戸226　☎0745-43-0177

名　称	型　式	公認年月日
バギー,ベルベットBR	オーダーメイド	'91.4.10
バギー,ベルベットBR	A,AP,AR	'91.1.18
PERUHEAD	AP	'98.1.28

●(有)ビッグスター
〒110-0014東京都台東区北上野1-5-5　☎03-3487-1480

名　称	型　式	公認年月日
ビッグスター	オーダーメイド	'91.4.10

●ファクトリースズキ
〒193-0833東京都八王子市めじろ台4-3-13　☎0426-65-8180

名　称	型　式	公認年月日
PRIDE ONE	オーダーメイド	'91.9.4

●(有)フジタレザー
〒502-0814岐阜県岐阜市福光西2-10-15　☎0582-33-5620

名　称	型　式	公認年月日
フジタレザー	オーダーメイド	'91.6.5
フジタレザー	レザーモーターサイクルワンピーススーツ	'95.12.26

●ユニバース
〒183-0056東京都府中市寿町1-1-10　☎0423-60-6311

名　称	型　式	公認年月日
STUFF U	SU1003,5,6,7 STAGE	'91.3.12
STUFF U	オーダーメイド	'91.3.12
PROSPEC	RC - 001,RC - 002	'91.6.5

●プレーンレザー
〒430-0846静岡県浜松市白羽町2410　☎053-441-6471

名　称	型　式	公認年月日
プレーンレザー	オーダーメイド	'91.3.12

●モータースポーツミスターヒロ
〒580-0012大阪府松原市立部2-499-1　☎0723-36-1550

名　称	型　式	公認年月日
Mr.hiro	オーダーメイド	'91.9.4

●アレス
〒340-0002埼玉県草加市青柳町7-11-22　☎0489-31-4319

名　称	型　式	公認年月日
アレス	オーダーメイド	'91.2.6

●ヤマハ発動機(株)
〒438-8501静岡県磐田市新貝2500　☎0538-37-4420

名　称	型　式	公認年月日
YAMAHA YL - Aシリーズ	YL - 340,336,337,338	'91.2.6
Takai R	TR　TRL	'90.10.23
PRO SHOP TAKAI	オーダーメイド	
Takai R	TR　TRL	'91.5.8

●ライディングコスチュームT&T
〒651-2111兵庫県神戸市西区池上4-13-8　☎078-974-8682

名　称	型　式	公認年月日
T&T	TS	'91.1.18

●レーシングプロショップO.S.F.C
〒959-0432新潟県西蒲原郡西川町新栄町296　☎0256-88-7441

名　称	型　式	公認年月日
レーシングプロショップO.S.F.C	O.S.F.C	'91.2.6

●(有)ワンステップライダー

名　称	型　式	公認年月日
OSR	YR - 07	'90.11.17

●パパス

名　称	型　式	公認年月日
Papa's	オーダーメイド	'92.1.9

●(有)福富洋商会（シュアー）
〒300-1151茨城県稲敷郡阿見町大字荒川沖1924-1　☎0298-42-8161

名　称	型　式	公認年月日
SURE（シュアー）	オーダーメイド	'92.1.9

●BCピロータ

名　称	型　式	公認年月日
BCピロータ	オーダーメイド	'92.1.9

●(株)プランツ
〒111-0043東京都台東区駒形1-10-9村上ビル3F　☎03-3847-2891

名　称	型　式	公認年月日
ハロスギア　レーシングスーツ	OP - 1オーダーメイド	'92.1.9

●レザーハウスA&M
〒277-0812千葉県柏市花野井1925-6　☎0471-33-1664

名　称	型　式	公認年月日
レザースーツA&M	オーダー	

●美津濃(株)

名　称	型　式	公認年月日
MIZUNO	オーダーメイド	'92.3.11

●WORK BOX KASAI
〒985-0831宮城県多賀城市笠神2-2-1　☎022-366-6879

名　称	型　式	公認年月日
{bulit}	オーダーメイド	'92.3.11

●ツカサプランニング

名　称	型　式	公認年月日
HELIO TROPE	HELIO RACING	'92.3.11

●(有)レーシングショップアイティーエ
〒981-1241宮城県名取市高館熊野堂字余方上12-12　☎022-386-3705

名　称	型　式	公認年月日
ITAレーシングスーツ	ITAオーダー	'92.3.11

●アトリエ・ワン
〒485-0024愛知県小牧市南外山長田64-1　☎0568-71-3040

名　称	型　式	公認年月日
A - ONE RACING	オーダーメイド	'92.7.8
アトリエ・ワン	AS101	'99.2.24

●レースサービスAxtas
〒182-0036東京都調布市飛田給1-34-16　☎0424-84-9115

名　称	型　式	公認年月日
Axtas	AYシリーズ	'94.2.23

●(株)ホンダアクセス
〒352-8589埼玉県新座市野火止8-18-4　☎048-477-9143

名　称	型　式	公認年月日
Super Bold'os	デイトナ、イモラ、ホッケンハイム、キャラミ、ラグナセカ、アッセン、イースタンクリーク、スズカ、ヘレス、シルバーストーン、'94オカダ	'94.9.28
Super Bold'os	CLASSIC MODEL	'99.2.24
Super Bold'os	MOTEGI MODEL	'99.2.24
Super Bold'os	DREAM MODEL	'99.2.24
Super Bold'os	WING MODEL	'99.2.24
Super Bold'os	HRC MODEL	'99.2.24
Super Bold'os	HARU AOKI MODEL	'99.2.24
Super Bold'os	BOMBER MODEL	'99.2.24
Super Boldor（ボルドール）	イモラ2	'01.2.22
Super Boldor（ボルドール）	デイトナ2	'01.2.22

●(株)アール・エス・エー・レザース
〒481-0001愛知県西春日井郡師勝町六ツ師女夫越110　☎0568-25-7830

名　称	型　式	公認年月日
RSA Leathers	フルオーダー	'95.8.23
ドーバークラブ	フルオーダー	'96.9.25

●(有)エス・ケー・ワイ
〒161-0033東京都新宿区下落合3-4-3コテージ二宮1B　☎03-3565-3685

名　称	型　式	公認年月日
GREEDY	GR-401, 402	'99.3.24
GREEDY	GR-401S, 402S	'99.3.24
SPEED OF SOUND	SOS-1, SOS-2 SOS-3, SOS-4	'99.4.28
GREEDY	GR-403	'00.5.24
GREEDY	GR-403S・404	'00.5.24
GREEDY	GR-1002	'00.9.14
GREEDY	GR-1001	'00.9.14
SPEED OF SOUND	SOS-05・06	'00.9.14
SPEED OF SOUND	SOS-07	'00.11.22
SPEED OF SOUND	SOS-08	'01.6.26

●(株)ショウエイ
〒110-0005東京都台東区上野5-8-5 cp10ビル　☎03-5688-5195

名　称	型　式	公認年月日
SPIDI SPORT SRL	プロトタイプ	'00.3.29
SPIDI SLIDER PRO	Y56	'01.2.22

●(有)トリニティプロダクト
〒340-0002埼玉県草加市青柳7－39－27プラザTOM1F　☎0489-33-0507

名　称	型　式	公認年月日
TRINITY	TR4001, TR4002	'00.4.26
TRINITY	TR4003	'01.3.31
TRINITY	TR4001LM, TR4001LMP, TR4002KAI	'01.3.31

●(有)ジーピーカンパニー
〒161-0033東京都新宿区下落合2-13-11-203　☎03-5988-8318

名　称	型　式	公認年月日
GULLY	FOS-101	'00.8.23
GULLY	FOS-102	'01.8.29

●(株)アプロード
〒590-0801大阪府堺市大仙中町1-28　☎0722-45-0189

名　称	型　式	公認年月日
ATTENTION!	ATR-01R	
ATTENTION!	ATR-01R（パンサー）	'01.3.31
ATTENTION!	ATR-01R（スコーピオン）	'01.3.31

●(株)エフイーティー
〒157-0071東京都世田谷区千歳台4-30-11　☎03-5490-2551

名　称	型　式	公認年月日
AXO SPORT S.P.A FIGHT	PS5029	'01.7.18
AXO SPORT S.P.A CENTURY	PS5031K	'01.7.18
AXO SPORT S.PO.A HTR-7	PS5027	'01.10.12

●(株)ストラット
〒124-0012東京都葛飾区立石8-43-19立石DKハイム801 ☎03-3694-1999

名称	型式	公認年月日
CUSTOM BATES LEATHERS	BAS-S1	'01.10.12

●(有)ボスコ・モト
〒562-0012大阪府箕面市白島2-22-25 ☎0727-25-3311

名称	型式	公認年月日
SPYKE Free style	4615	'00.12.27
SPYKE Kj one	4595	'00.12.27
SPYKE Voretex	4575	'00.12.27
SPYKE NESS	MDF-657	'01.10.12
SPYKE NESS	MDF-754	'01.10.12

●ALPINESSTARS S.P.A
〒243-0806神奈川県厚木市下依知1192 2F ☎046-245-160

名称	型式	公認年月日
ALPINESTARS P-1	315-551	'01.1.25
ALPINESTARS HAGA	315-701	'01.1.25

●ラディカル
〒566-0046大阪府摂津市別府1-17-24 ☎06-6829-3901

名称	型式	公認年月日
RAadical!		'00.12.27

MFJ公認タイヤ

●井上ゴム工業(株)
〒503-2417岐阜県揖斐郡池田町本郷680番地 ☎0585-45-2809

タイヤ名	サイズ	公認年月日
TRIAL WINNER	4.00R18,TR - 7	'86.3.26
TRIAL WINNER TR - 9	4.00R18	'86.7.8
PRO - TECH NS - 50F	2.75 - 174PR,2.75 - 184PR, 80/100R16,80/90R16	
NS - 50R	2.75 - 174PR,3.00 - 174 PR,90/90R18,90/90R17	
PRO - TECH NS - 10F	90/90R18,100/80R17, 100/90R16,110/70R17, 110/80R17,110/80R18, 120/70R17,120/80R16	
NS - 10R	110/80R18,120/80R17 120/80R18,130/70R17 130/90R16,140/60R18 140/70R18,160/60R18	
SPATOLA SPO 1F RADIAL	110/70R17 54H 120/60R17 55H 150/60R17 66H 160/60R17 69H	'92.7.1
TRIAL WINNER TRO11F TUBE TYPE	2.75/21	'92.10.1
TRIAL WINNER TRO11F TUBELESS	4.00R18	'92.10.1

●日本ミシュランタイヤ(株)
〒102-8176東京都千代田区富士見1-6-1富士見ビル ☎03-5210-2731

タイヤ名	サイズ	公認年月日
MICHELIN TRIAL COMPETITIONX11TL	4.00R18 TL	'87.7.8
ラジアルA59X	130/60R16, 120/80R16, 130/60R17(59H, 59Z), 110/70R17, 120/70R17(58, 58Z)	
ラジアルM59X	160/60R16, 160/80R16, 180/55R17, 160/60R17(69H, 69Z), 160/60R18, 150/70R20	
ハイスポートラジアルTX11	120/80R16, 130/60R17, 120/70R17, 100/80R17, 110/80R17, 120/60R17(55H, 55Z), 110/70R17, 110/80R18	
ハイスポートラジアルTX23	160/80R16,180/55R17, 150/60R17, 160/60R17(69H, 69Z), 130/70R17, 150/70R17	

名称	型式	公認年月日
P2301	12/60R17	
P3104	15/61R17, 18/67R17	
P1201	12/80R17	
P3103	15/61R17,18/68R17	
MICHELIN TRIAL COMPETITION	2.75/21TT	'91.11.1
MICHELIN TRIAL COMPETITION	2.75/21TL	'91.11.1
MICHELIN TRIAL COMPETITIONX11TL	4.00R18TL	'91.11.1
A59X	120/60R17 55Z	'92.4.3
MICHELIN TRIAL COMPETITIONX11TL	4.00R18TL	'92.5.1
ハイスポートラジアルTX11B-TX23	110/70ZR17, 120/70ZR17, 120/60ZR17, 190/50ZR17, 180/55ZR18	'94.7.28
ハイスポートラジアルTX15	130/70ZR16, 110/70ZR17, 120/60ZR17	'95.5.25
ハイスポートラジアルTX25	150/60ZR17,160/60ZR17	'95.5.25
ハイスポートラジアルTX15RACE	110/70ZR17, 120/70ZR17, 120/60ZR17	'95.9.22
ハイスポートラジアルTX25RACE	150/60ZR17, 160/60ZR17, 180/55ZR17	'95.9.22
P3106使用可能リム3.00~3.50	12/60-17	'96.6.25
P3107使用可能リム3.00~3.50	12/60-17	'96.6.25
P4105使用可能リム4.50~5.50	16/62-17	'96.6.25
P4107使用可能リム4.50~5.50	16/62-17	'96.7.25
ハイスポートラジアル TX25RACE2	使用可能リム4.00~4.50 使用可能リム4.25~5.00 使用可能リム4.25~5.50 使用可能リム5.50~6.00	150/60ZR17 160/60ZR17 170/60ZR17 180/55ZR17	'97.2.28
P1107	使用可能リム2.50	9/58-17	'97.1.24
ハイスポーツラジアル TX15RACE3	使用可能リム3.00~3.50 使用可能リム3.50~3.75 使用可能リム3.50~3.75	110/70ZR17 120/60ZR17 120/70ZR17	'97.7.24
ハイスポーツラジアル TX25RACE3	使用可能リム4.00~4.50 使用可能リム4.25~5.00 使用可能リム4.25~5.00	150/60ZR17 160/60ZR17 170/60ZR17	'97.8.1
TX15RACE3 SOFT	使用可能リム3.00~3.50 使用可能リム3.50~3.75 使用可能リム3.50~3.75	110/70ZR17 120/60ZR17 120/70ZR17	'98.7.23
TX25RACE3 SOFT	使用可能リム4.00~4.50 使用可能リム4.25~5.00 使用可能リム4.25~5.50	150/60ZR17 160/60ZR17 170/60ZR17	'98.7.23
P1107	使用可能リム4.50~5.50	16/63-17	'98.11.27
PILOT	使用可能リム 3.00~3.50	110/70ZR17	'99.7.1
RACE	〃 3.50~3.75 〃 3.50~3.75 〃 4.00~4.50 〃 4.25~5.00 〃 4.25~5.00 〃 5.50~6.00	120/60ZR17 120/70ZR17 150/60ZR17 160/60ZR17 170/60ZR17 180/55ZR17	
PILOT	〃 3.00~3.50	110/70ZR17	
RACE	〃 3.50~3.75	120/60ZR17	
SOFT	〃 3.50~3.75 〃 4.00~4.50 〃 4.25~5.00 〃 4.25~5.00 〃 5.50~6.00	120/70ZR17 150/60ZR17 160/60ZR17 170/60ZR17 180/55ZR17	
P1108	使用可能リム4.50~5.50		'99.8.29

●P&A (株)
〒106-0044東京都港区東麻布1-10-11阿部ビル5F ☎03-5575-2320

タイヤ名	サイズ	公認年月日
ビレリートライアルタイヤ・MT3ガラトライアル	2.75 - 21 MT73	'90.9.7
MP7スポーツレーシング	110/70ZR17,120/60ZR17, 120/70ZR17,150/60ZR17, 160/60ZR17,180/55ZR17, 140/60ZR18,170/60ZR18	'91.7.4
MT75レーシング	100/80T16,100/80T17, 130/70T17,140/70T17, 130/70T18	'91.7.4

●(株)日本ダンロップ
〒651-0071兵庫県神戸市中央区筒井町2-1-1 ☎078-265-5622

タイヤ名	サイズ	公認年月日
K320	2.75 - 21 4PR	'86.11.23
K320	4.00R18 4PR	'86.11.23
TT500F GP	80/90R16,90/90R16, 100/90R16,90/80R17, 100/18R17 (52H,57H,54H)	

タイヤ名		サイズ	公認年月日
TT50GP		90/90R17,120/80R17, 140/80R17,130/70R17, 140/70R17,100/90R18, 130/70R18	
RIDEEN GPR - 30E		110/70R17,120/70R17, 120/60R17,100/60R17, 150/60R17,160/60R17, 170/60R17,140/60R18, 150/60R18,	
MR677		3.25/4.75R17,4.00/6.00R18, 2.50/3.00R18,2.75/3.75R18, 3.25/5.75R17,3.25/5.75R18, 2.65/3.25R17,2.85/4.00R17, 3.80/6.00R17,3.60/6.70R18	
RIDEEN GPR - 60F		110/70R1754H,120/60R1755H	'91.5.9
RIDEEN GPR - 60		150/60R1766H,160/60R1769H 140/60R1864H,150/60R1867H	'91.5.9
TT700F GP		100/80 - 1752H,110/70 - 1754H 100/90 - 1654H	'91.5.9
TT700 GP		130/70 - 1762H,140/70 - 1766H 120/80 - 1761H,130/70 - 1863H 130/90 - 1667H	'91.5.9
TT700F GP		90/90 - 18,110/80 - 17	'92.3.4
TT700 GP		110/80 - 18,110/90 - 18, 120/80 - 18,140/70 - 18, 150/70 - 17	'92.3.4
K375F		100/80 - 17	'92.2.4
K375FG		100/80 - 17	'92.2.4
K375		120/80 - 17	'92.2.4
K420GPチューブレス		4.00R18 4PR	'92.4.1
K420GPチューブレス		4.00R18 4PR	'92.4.1
TT500F GP		100/80 - 17 52S	'92.6.20
TT500GP		120/80 - 17 61S	'92.6.20
K420チューブタイプ		2.75 - 21 (45K)	'92.11.6
K420チューブレスタイプ		2.75 - 21 (45K)	'92.11.6
K420GPチューブタイプ		2.75 - 21 (45K)	'92.12.3
K420GPチューブレス		2.75 - 21 (45K)	'92.12.3
K420GPチューブタイプ		4.00R18 (64M)	'92.12.15
K420GPチューブレス		4.00R18 (64M)	'92.12.15
GPR50F		110/70R17 54H 120/60R17 54H 120/70R17 58H	'93.2.20
GPR50		140/60R17 63H 140/60R18 64H 150/60R17 66H 150/60R18 67H 160/60R17 69H	'93.2.20
MR777		150/60R17	'93.3.23
MR977		90/75R17,115/65R17, 120/70R17,160/60R17,	'94.3.22
D801Fチューブタイプ		2.75 - 21,4P.R (45M)	'94.5.1
D801Fチューブレスタイプ		2.75 - 21,4P.R (45M)	'94.5.1
D801チューブタイプ		4.00R18,4P.R (64M)	'94.5.1
D801チューブレスタイプ		4.00R18,4P.R (64M)	'94.5.1
MR977		110/70R17	'94.7.28
Rideen GPR - 50F SP		110/70R17 54H,120/60R17 55H 120/70R17 58H	'95.2.15
Rideen GPR - 50 SP		140/60R17 63H,140/60R18 64H 150/60R17 66H,150/60R18 67H 160/60R17 69H	'95.2.15
TT900F GP		80/90/16 43P,90/80/17 46S,100/80/17 52S,100/90/16 54H,100/80/17 52H,110/80/17 57H,110/70/17 54H	'95.2.15
TT900GP		90/90/17 49P,100/80/17 52S,120/80/17 61S,120/80/17 61H,120/80/18 62H,130/70/17 62H,140/70/17 66H,150/70/17 69H,150/70/18 70H	'95.2.15
KR244	使用可能リム 4.50～5.50	3.25/5.90R17	'95.11.28

タイヤ名		サイズ	公認年月日
TT100GP		110/90/17 60H 120/80/17 61H 3.00/18 47S 3.50/18 56H 4.00/13 64H 90/90/18 51H 110/90/18 61H 100/90/19 57H	'96.12.26
Rideen GPR70F	使用可能リム2.75～3.50 使用可能リム3.00～3.50 使用可能リム3.00～3.50	110/70R17 54H 120/60R17 55H 120/70R17 58H	'97.2.10
Rideen GPR70	使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.50～5.00	140/60R17 63H 140/70R17 66H 140/60R18 64H 150/60R17 66H 150/60R18 67H 160/60R17 69H	'97.2.10
SPORTMAX D207F GP	使用可能リム3.50～4.00 使用可能リム3.00～3.50	130/70ZR16 120/70ZR17	'97.8.10 '97.5.25
SPORTMAX D207 GP	使用可能リム4.50～5.50 使用可能リム5.50～6.00 使用可能リム5.50～6.00	170/60ZR17 180/55ZR17 190/50ZR17	'97.5.25
MR977	使用可能リム2.50 使用可能リム3.00～3.50 使用可能リム3.00 使用可能リム3.50～3.75	90/75R17 115/65R17 110/70R17 120/70R17	'97.7.24
KR244	使用可能リム4.50～5.50	3.25/5.90R17	'97.7.24
Rideen GPR70	使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.50～5.00	150/60R17 66H 160/60R17 69H	'97.7.24
KR122	使用可能リム2.50 使用可能リム2.75～3.50	90/65R17 120/60R17	'98.6.26 '98.6.26
KR122	使用可能リム2.50 使用可能リム2.75～3.50	90/65R17 120/60R17	'98.7.23 '98.7.23
KR244	使用可能リム4.50～5.50 使用可能リム4.50～5.50 使用可能リム4.50～5.50	165/50R17 3.25/5.90R17 165/50R17	'98.7.23 '98.9.25 '98.9.25
Rideen GPR-70FSP	使用可能リム2.75～3.50 使用可能リム3.00～3.50 使用可能リム3.00～3.50 使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.50～5.00 使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム4.00～4.50	(F) 110/70R17 54H (F) 120/60R17 55H (F) 120/70R17 58H (R) 140/60R17 63H (R) 140/70R17 66H (R) 150/60R17 66H (R) 160/60R17 69H (R) 140/60R18 64H (R) 150/60R18 67H	'00.3.22
Rideen GPR-70SP	使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.50～5.00	(R) 150/60R17 66H (R) 160/60R17 69H	'00.5.25

●(株)ブリヂストン

〒104-8340東京都中央区京橋1-10-1 ☎03-3563-6819

タイヤ名	サイズ	公認年月日
BATTLAX BT - 72FS	110/80R17,110/70R17, 120/60R17,120/70R17	
BATTLAX BT - 72RS	140/70R17,140/60R17, 150/60R17,160/60R17, 120/80R18,140/60R18, 150/60R18,170/60R17	
BATTLAX BT - 09SS	90/90 - 16,90/80 - 17	
BATTLAX BT - 70FS	110/70 - 17,120/60 - 17, 120/70 - 17,130/60 - 17, 140/60 - 17,140/60 - 18, 150/60 - 17,150/60 - 18, 160/60 - 17,170/60 - 17	
ME72	85/595R18,85/575R17, 110/590R17,95/600R18, 140/630R18,120/595R17, 150/600R17	
ME76	105/575R17,150/635R18,15 5/620R17	
BATTLAX BT - 50F	120/70ZR17,130/60ZR17	'91.6.7
BATTLAX BT - 50R	170/60ZR17,180/55ZR17, 160/60ZR18	'91.6.7
ME77	90/575R17	'91.6.1
ME78	105/585R17	'91.6.1
BATTLAX BT - 09SS SOFT	90/90 - 16,90/80 - 17,100/ 80 - 17	'92.4.20

タイヤ名	サイズ	公認年月日
BATTLAX BT - 10SS SOFT	120/80 - 17,100/90 - 18	'92.4.20
BATTLAX BT - 80S F RADIAL	110/70R17,120/70R17,120/60R17	'92.3.20
BATTLAX BT - 80S R RADIAL	150/60R17,160/60R17,150/60R18	'92.3.20
BATTLAX BT - 50	120/70ZR17	'92.4.20
ME77	90/570R17	'92.6.10
ME77	105/585R17	'92.6.10
ME77	160/625R17	'92.6.20
ME77	150/635R18	'92.6.20
ME77	155/620R17	'93.7.1
BATTLAX BT - 39F SS	90/80 - 17,100/80 - 17,80/90 - 16	
BATTLAX BT - 39R SS	100/90 - 18,120/80 - 17,100/80 - 17	
BATTLAX BT - 80S F RADIAL	110/70R17,120/60R17,120/70R17	
BATTLAX BT - 80S R RADIAL	150/60R17,160/60R17,150/60R18	
ME01Z	120/600R17	'94.2.10
BATTLAX BT - 80F - RADIAL	110/70R17 54H,120/60R17 55H,120/70R17 58H	'94.7.20
BATTLAX BT - 80R - RADIAL	150/60R17 66H,160/60R17 69H	'94.5.20
BATTLAX BT - 90F - RADIAL	110/70 R17 54H 120/60 R17 55H 120/70 R17 58H	'95.1.20
BATTLAX BT - 90R - RADIAL	150/60 R17 66H 160/60 R17 69H 140/60 R18 64H 150/60 R18 67H	'95.1.20
BATTLAX BT - 90F RADIAL	110/70R17 54H,120/60R17 55H 120/70R17 58H	'95.1.20
BATTLAX BT - 90R RADIAL	150/60R17 66H,160/60R17 69H 140/60R18 64H,150/60R18 67H	'95.1.20
ME01F	90/580R17	'95.3.15
RACING BATTLAX RADIAL WET ME01Z	110/590R17	'95.5.1
BATTLAX BT - 90F RADIAL	110/70R17 54H,120/70R17 58H	'95.7.19
ME77Z 使用可能リム2.75～3.50	110/585R17	'95.11.28
ME76 使用可能リム3.00～3.75	120/595R17	'95.11.28
ME04Z 使用可能リム4.50～5.50	160/620R17	'95.11.28
RACING BATTLAX WET E04Z使用可能リム2.75～3.50	115/590R17	'96.4.20
RACING BATTLAX WET E01使用可能リム2.15～2.50 E04Z使用可能リム2.75～3.50 ME01Z使用可能リム3.50～3.75 ME04Z使用可能リム4.50～5.50	90/560R17 115/590R17 120/600R17 160/620R17	'97.4.25
BATTLAX BT-96F RADIAL 使用可能リム2.75～3.50 使用可能リム3.00～3.50	110/70R17 54H 120/60R17 55H, 120/70R17 58H	'98.4.1
BATTLAX BT-96R RADIAL 使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.50～5.00 使用可能リム3.50～4.50	140/70R17 66H 150/60R17 66H, 150/60R18 67H 160/60R17 69H 140/60R18 64H	'98.7.1 '98.4.1 '98.4.1 '98.4.1
BATTLAX BT-96 RADIAL HARD 使用可能リム2.75～3.50 使用可能リム3.00～3.50 使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.50～5.00	110/70R17 54H 120/70R17 58H 150/60R17 66H 160/60R17 69H	'98.6.26
RACING BATTLAX WET E02 使用可能リム4.50～5.50	165/620 R17	'99.5.1
BATTLAX BT-090 RADIAL F 使用可能リム2.75～3.50 使用可能リム3.00～3.50 使用可能リム3.00～3.50	110/70R17 54H 120/60R17 55H 120/70R17 58H	'01.6.1 '01.7.10 '01.7.25
BATTLAX BT-090 RADIAL R 使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム4.00～5.00 使用可能リム3.50～4.50	140/70R17 66H 150/60R17 66H 160/60R17 69H 150/60R18 67H	'01.8.1 '01.6.1 '01.7.10 '01.7.15

●横浜ゴム(株)

タイヤ名	サイズ	公認年月日
F - 003A2	80/90R16,90/90R16, 90/80R17,90/90R17, 100/90R18,	
F - 610	80/595R18,85/570R17, 90/600R18,100/580R17, 110/600R17,120/605R17, 135/640R18,150/600R17, 150/630R18,180/630R17, 180/655R18	
F - 003	110/70R17,120/60R17, 140/60R17,150/60R17, 160/60R17,140/60R18, 150/60R18,120/70R17, 170/60R17,170/60R18	
F - 006	110/70R17,120/60R17, 140/60R17,150/60R17, 160/60R17,140/60R18, 150/60R18,120/70R17, 170/60R17,170/60R18	
GETTAR F007RR	110/70F1754H,120/60F1755H,	'91.6.10
GETTAR F007RR	140/60R1763H,150/60R1867H,	'91.7.1
GETTAR F007RR	150/60F1766H,160/60F1769H,	'91.6.10
GETTAR F007RR	110/70R17 54H	'92.4.3
GETTAR F007RR	120/60R17 55H	'92.4.3
GETTAR F007RR	140/60R17 63H 150/60R17 66H 150/60R18 67H 160/60R17 69H	'92.4.3
GETTAR F007RR	110/70R17 54H 120/60R17 55H	'92.7.15
GETTAR F007RR	140/60R17 63H 150/60R17 66H 150/60R18 67H 160/60R17 69H	'92.7.15
GETTAR F610 GETTAR R610	110/600R17,120/605R17, 150/600R17,105/580R17,	'93.6.15
GETTAR F007RR GETTAR R007RR	100/80 - 17 52S 120/80 - 17 61S	'93.6.10
GETTAR R610	150/600R17,150/630R18,	'94.2.25
GETTAR R007A SPRINT	110/70R17 54H,120/60R17 55H 150/60R17 66H,160/60R17 69H 140/60R17 63H,150/60R18 67H	'94.7.20

全日本選手権歴代チャンピオンリスト

タイトルホルダーの証 MFJチャンピオンカード

（財）日本モーターサイクルスポーツ協会（MFJ）では、全日本選手権での最上級クラスでチャンピオンを獲得したライダーの功績で称え、チャンピオンを獲得したライダーに対し、MFJチャンピオンカードを発給しています。

過去に功績があるライダーが気軽にサーキットに来ていただけるよう、チャンピオンカードを提示すると、全日本選手権等のイベント（特別イベント等除く）の入場がフリーパスとなります。そこで建設的な意見を具申するなど、モーターサイクルスポーツ界に寄与して欲しいと考えています。

ROAD RACE

●ロードレース部門（'67〜'01年）

年	部門	クラス	氏名
'67	ジュニア	50cc 90cc 125cc 250cc 251cc以上	柴　正之 田中　隆通 大沢　安男 太田　耕治 宮沢　善次
	セニア	50cc 90cc 125cc 250cc 251cc以上	伊藤　光夫 滋野　靖穂 増田　恒弘 矢野　啓司 松永　喬
'68	アマチュア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	角谷　新二 鈴木　智弘 大脇　俊夫 中山　仁
	ジュニア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	酒井　重吾 森井　一夫 谷口　茂夫 菱木　哲哉
	セニア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	神谷　良明 馬場　忠雄 和田　正宏 松永　喬
'69	アマチュア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	野田　正彦 斉藤　茂憲 中尾　康夫 数井　隆
	ジュニア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	角谷　新二 高井幾次郎 尾崎　俊彦 里村　祥二
	セニア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	小田　豊 隅谷　守男 金谷　秀夫 隅谷　守
'70	ノービス	90cc 125cc 250cc 251cc以上	岩道　博 柴谷　正昭 小塚　法枝 鍋田　正明
	ジュニア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	江崎　正 青山　英二 糟野　雅治 只野　光男
	セニア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	近藤　英二 小田　豊 大脇　俊夫 河崎　裕之

●ROAD RACE

年	部門	クラス	氏名
'71	ノービス	90cc 125cc 250cc 251cc以上	平井　裕 上田　公次 大橋　富夫 松谷　光明
	ジュニア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	渡辺富士夫 青木　辰己 内田　隆 加藤　昇平
	エキスパート ジュニア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	江崎　正 遠藤　恒雄 中尾　康夫 浅見　貞男
	セニア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	金谷　秀夫 杉本　泉 大脇　俊夫 金谷　秀夫
'72	ノービス	90cc 125cc 250cc 251cc以上	菅原　伸夫 坂　公平 上野　真一 富江　昭孝
	ジュニア	90cc 125cc 250cc 251cc以上	毛利　良一 大本　十生 大本　十生 片山　敬済
	エキスパート ジュニア	125cc 250cc 251cc以上	渡辺富士夫 阿部　孝夫 内田　隆
	セニア	125cc 251cc以上	小田　豊 小田　豊
'73	ノービス	90cc 125cc 250cc	杉野　順三 松山　守啓 橋本久仁啓
	ジュニア	90cc 125cc 250cc 350cc	新田　茂 坂　公平衛 山崎　達 佐藤　順造
	エキスパート ジュニア	125cc 750cc	毛利　良一 片山　敬済
	セニア	125cc 750cc	角谷　新二 根本　健
'74	ノービス	90cc 125cc 250cc	岡崎　隆史 佐藤　健正 酒井　克
	ジュニア	90cc 125cc 250cc 350cc	合津　悟志 石井　康夫 橋本久仁啓 鈴木　修
	エキスパート ジュニア	125cc 750cc	岩道　博 阪本　裕介
	セニア	125cc 750cc	青木　辰己 高井幾次郎

●ROAD RACE

年	部門	クラス	氏名
'75	アマチュア	90cc 125cc 250cc	片桐　英治 東金　育男 桶谷　俊彦
	ジュニア	125cc 750cc	山梨　保 酒井　克 大島　孝治
	エキスパート ジュニア	125cc 750cc	相沢　清 石井　康男
	セニア	125cc 750cc	江崎　正 浅見　貞男
'76	ノービス	90cc 125cc 250cc	牧野　栄 川上　浩 木下　恵司
	ジュニア	125cc 250cc 350cc	東金　育男 水谷　勝 太田　一博
	エキスパート・ジュニア	125cc	飯田　浩之
	エキスパート	250cc 350cc 750cc	毛利　良一 佐藤　順造 高井幾次郎
'77	ノービス	90cc 125cc 250cc	鈴木　利彦 伊藤　裕之 藤本　泰東
	ジュニア	125cc 250cc 350cc	川上　浩 山名　久 徳舛　仁久
	エキスパート	125cc 350cc 750cc	飯田　裕之 鈴木　修 毛利　良一
'78	ノービス	90cc 125cc 250cc	平野　芳男 上田　幸也 長谷川嘉久
	ジュニア	125cc 250cc 350cc	伊藤　裕之 伊藤　巧 藤本　泰東
	エキスパート	125cc 250cc 350cc 750cc	上田　公次 上田　公次 石川　岩夫 上野　真一
'79	ノービス	125cc 250cc	富田　英志 斉藤　光雄
	ジュニア	125cc 250cc 350cc	吉村　俊宏 阿部　三吉彦 平　忠彦
	国際A級	125cc 350cc 750cc	斉藤　三夫 木下　恵司 水谷　勝

●ROAD RACE

年	部門	クラス	氏名
'80	ノービス	125cc	五百部徳雄
		250cc	窪田 正二
	ジュニア	125cc	山本 陽一
		250cc	垣内 清孝
		350cc	田中 光男
	国際A級	125cc	一ノ瀬憲明
		350cc	平 忠彦
		750cc	鈴木 修
'81	ノービス	125cc	荒木 利春
		250cc	中山 博文
	国際B級	125cc	竹村 浩生
		250cc	七尾 道夫
		350cc	新井 亮一
	国際A級	125cc	一ノ瀬憲明
		350cc	藤本 泰東司
		500cc	木下 恵
'82	ノービス	125cc	篠田 雅樹
		250cc	三浦 昇
	国際B級	125cc	荒木 利春
		250cc	小林 大
	国際A級	125cc	一ノ瀬憲明
		250cc	福田 照男
		500cc	水谷 勝
'83	ノービス	フォーミュラ3	宮城 光
		125cc	吉田 健一
		250cc	宮城 光
	国際B級	125cc	篠田 雅樹
		250cc	坂口 彰
	国際A級	125cc	栗谷 二郎
		250cc	斉藤 光雄
		500cc	平 忠彦
'84	ノービス	フォーミュラ3	斉藤 兼一
		125cc	山田 浩史
		250cc	塩森 俊修
	国際B級	フォーミュラ1	宮城 光
		フォーミュラ3	宮城 光
		125cc	清水 雅広
		250cc	田村 圭二
	国際A級	フォーミュラ1	八代 俊二
		フォーミュラ3	江崎 正郎
		125cc	栗谷 二郎
		250cc	小林 大
		500cc	平 忠彦
'85	国際B級	フォーミュラ1	持田 利明
		フォーミュラ3	太田 浩一
		125cc	井上 博貴
		250cc	塩森 俊修
	国際A級	フォーミュラ1	辻本 聡一
		フォーミュラ3	山本 陽一
		125cc	鮫本 久
		250cc	小林 大
		500cc	平 忠彦
'86	ジュニア	フォーミュラ3	町井 邦生
		125cc	藤沢 哲也
		250cc	町井 邦生
	国際A級	フォーミュラ1	山本 陽一
		フォーミュラ3	辻本 聡一
		125cc	吉田 健二
		250cc	片山 信司
		500cc	木下 恵
'87	ジュニア	フォーミュラ3	新垣 敏之
		125cc	佐藤聡一郎
		250cc	鴨村 健太
	国際A級	フォーミュラ3	田口 充
		フォーミュラ1	大島 益弥
		125cc	鮫本 行久
		250cc	清水 雅広
		500cc	藤原 儀彦
'88	ジュニア	フォーミュラ3	白井 直樹
		125cc	原田 哲也
		250cc	永井 康友
	国際A級	フォーミュラ3	塩森 俊修
		フォーミュラ1	宮崎 祥司
		125cc	廣瀬 政幸
		250cc	本間 利彦
		500cc	藤原 儀彦

●ROAD RACE

年	部門	クラス	氏名
'89	ジュニア	フォーミュラ3	福島 聡
		125cc	坂田 和人
		250cc	新井 秀也
	国際A級	フォーミュラ3	ダグ・ポーレン
		フォーミュラ1	ダグ・ポーレン
		125cc	山崎 冬樹
		250cc	岡田 忠之
		500cc	藤原 儀彦
'90	国内A級	SP750	吉川和多留
		フォーミュラ3	高橋 学人
		6フォーミュラ3(2サイクル)	渡辺 正人
		6フォーミュラ3(2サイクル)	仲内 明男
		125cc	森兼 正
		250cc	茨木 繁
	国際A級	フォーミュラ3(4サイクル)	鶴田 竜二
		6フォーミュラ3(2サイクル)	森北 貴行
		6フォーミュラ3(2サイクル)	小林 敏也
		フォーミュラ1	岩橋健一郎
		125cc	坂田 和人
		250cc	岡田 忠之
		500cc	伊藤 真一
'91	国内A級	フォーミュラ3	松戸 直樹
		SP750	阿部 徹則
		125cc	稲垣 幸
		250cc	宇川 徹
	スーパーカップ	フォーミュラ3(2サイクル)	椎名 明
	国際A級	フォーミュラ3	高橋 勝義
		フォーミュラ1	宮崎 祥司
		125cc	小野 真央
		250cc	岡田 忠之
		500cc	ピーター・ゴダート
'92	国際A級	125cc	斉藤 明也
		250cc	原田 哲也
		500cc	ダリル・ビーティー
		フォーミュラ1	塚本 昭一
'93	国際A級	125cc	加藤 義昌
		250cc	宇川 徹
		500cc	阿部 典史
		フォーミュラ1	北川 圭一
'94	国際A級	125cc	宮坂 賢
		250cc	宇川 徹
		スーパーバイク	吉川和多留
'95	国際	125cc	宇井 陽一
		250cc	沼田 憲保
		スーパーバイク	青木 拓磨
'96	国際	125cc	東 雅雄
		250cc	沼田 憲保
		スーパーバイク	青木 拓磨
'97	国際	125cc	秋田 貴志
		250cc	加藤大治郎
		スーパーバイク	芳賀 紀行
'98	国際	125cc	仲城 英幸
		250cc	中野 真矢
		スーパーバイク	伊藤 真一
'99	国際	125cc	仲城 英幸
		250cc	松戸 直樹
		スーパーバイク	吉川和多留
		SNK(X-フォーミュラ)	鎌田 学
'00	国際	125cc	小山 知良
		250cc	中冨 伸一
		スーパーバイク	井筒 仁康
		SNK(X-フォーミュラ)	鶴田 竜二
'01	国際	125cc	仲城 英幸
		250cc	関口 太郎
		スーパーバイク	梁 明
		SNK(X-フォーミュラ)	北川 圭一
		ST600	武田 雄一

MOTOCROSS

●モトクロス部門（'67～'01年）

年	部門	クラス	氏名
'67	アマチュア	50cc	黒川 隆
		90cc	河野 和憲
		125cc	高橋 道雄
		250cc	高橋 道雄
		251cc以上	森下 博
	ジュニア	90cc	山本 隆
		125cc	吉村 太一
		250cc	山本 隆
'68	アマチュア	50cc	堀 勇
		90cc	堀 勇勇
		125cc	堀 勇男
		250cc	山下 和男
		251cc以上	山下 和男
	ジュニア	50cc	蜷名 博昭
		90cc	蜷名 博昭
		125cc	西 信之
		250cc	西 信之
		251cc以上	ロバート・モーエー
	セニア	90cc	星野 一義
		125cc	星野 一義
		250cc	山本 隆
'69	アマチュア	50cc	田中 敏男
		90cc	多田 茂次
		125cc	中里 道夫
		250cc	岩尾 一敏
	ジュニア	50cc	堀 勇
		90cc	従野 孝司
		125cc	鈴木 秀明
		250cc	鈴木 秀明
	セニア	90cc	山本 隆
		125cc	矢島金次郎
		250cc	鈴木 忠男
'70	ノービス	50cc	一色 薫
		90cc	小田切信雄
		125cc	平野 芳男
		250cc	青木 雅和
	ジュニア	90cc	鈴木都良夫
		125cc	岩尾 一敏
		250cc	岩尾 一敏
	セニア	125cc	吉村 太一
		250cc	吉村 太一
'71	ノービス	90cc	栗原 和年
		125cc	栗原 和年
		250cc	斉藤 英夫
	ジュニア	90cc	中村 忠
		125cc	杉浦 種保
		250cc	竹沢 正治
	エキスパートジュニア	125cc	瀬尾 勝彦
		250cc	瀬尾 勝彦
	セニア	125cc	矢島金次郎
		250cc	上野 広一
'72	ノービス	90cc	藤 秀信
		125cc	藤 秀信
		250cc	藤 秀信
	エキスパートジュニア	125cc	小田切信雄
		250cc	池田 勝
	ジュニア	90cc	唐沢栄三郎
		125cc	唐沢栄三郎
		250cc	唐沢栄三郎
	セニア	125cc	鈴木 秀明
		250cc	鈴木都良夫
'73	ノービス	90cc	菅家 恵
		125cc	村上 光則
		250cc	菅家・ 恵
	ジュニア	90cc	古田 哲郎
		125cc	古田 哲郎
		250cc	古田 哲郎
	エキスパートジュニア	125cc	岸川 清秀
		250cc	藤 秀信
	セニア	125cc	鈴木都良夫
		250cc	鈴木 秀明

●MOTOCROSS

年	部門	クラス	氏名
'74	ジュニア	90cc	谷川 徹二
		125cc	光安 鉄美
		250cc	大賀 広美
	エキスパート ジュニア	125cc	渡辺 明
		250cc	渡辺 明
	セニア	125cc	鈴木 秀明
		250cc	鈴木 秀明
'75	ジュニア	90cc	北村 隆資
		125cc	青山 金助
		250cc	青山 金助
	エキスパート ジュニア	125cc	東福寺保雄
		250cc	東福寺保雄
	セニア	125cc	杉尾 良文
		250cc	増田 耕二
'76	ジュニア	90cc	月岡 尚人
		125cc	月岡 尚人
		250cc	横山 隆夫
	エキスパート ジュニア	125cc	光安 鉄美
		250cc	青山 金助
	セニア	125cc	鈴木都良夫
		250cc	竹沢 正治
'77	ジュニア	90cc	渡辺 義己
		125cc	小沢 孝
		250cc	福田 正敏
	エキスパート ジュニア	125cc	佐藤 健二
		250cc	大泉 浩一
	セニア	125cc	瀬尾 勝彦
		250cc	瀬尾 勝彦
'78	ジュニア	90cc	原本 松市
		125cc	庄司 覚
		250cc	ジェイソン・ドレイコット
	エキスパート ジュニア	125cc	佐々木 隆
		250cc	佐々木 隆
	セニア	125cc	瀬尾 勝彦
		250cc	光安 鉄美
'79	ジュニア	90cc	斉藤 武男
		125cc	大久保和親
		250cc	堀口 雅史
	エキスパート ジュニア	125cc	秋元 春夫
		250cc	原口 衛
	セニア	125cc	光安 鉄美
		250cc	光安 鉄美
'80	ジュニア	125cc	小野沢良一
		250cc	小野沢良一
	国際B級	125cc	谷川龍太郎
		250cc	庄司 覚
	国際A級	125cc	東福寺保雄
		250cc	杉尾 良文
'81	ジュニア	125cc	平山 勝一
		250cc	茶谷 学
	国際B級	125cc	岡部 篤史
		250cc	岡部 篤史
	国際A級	125cc	東福寺保雄
		250cc	福本 敏夫
'82	ジュニア	125cc	ロン・キンダー
		250cc	馬場 善人
	国際B級	125cc	小機 勝年
		250cc	小機 勝年
	国際A級	125cc	大関 昌典
		250cc	東福寺保雄
'83	ジュニア	125cc	天田 淳
		250cc	天田 淳
	国際B級	125cc	茶谷 学
		250cc	茶谷 学
	国際A級	125cc	庄司 覚
		250cc	杉尾 良文
'84	ジュニア	125cc	調所 伸一
		250cc	小栗 伸幸
	国際B級	125cc	菅原 義広
		250cc	鶴田 忍
	国際A級	125cc	東福寺保雄
		250cc	スティーブ・マーチン

●MOTOCROSS

年	部門	クラス	氏名
'85	ジュニア	125cc	長沼 朝之
		250cc	花田 茂樹
	国際B級	125cc	田淵 武
		250cc	川崎 智之
	国際A級	125cc	岡部 篤史
		250cc	スティーブ・マーチン
'86	ジュニア	125cc	藤本 正勝
		250cc	吉田 和泉
	国際B級	125cc	花田 茂樹
		250cc	花田 茂樹
	国際A級	125cc	伊田井佐夫
		250cc	東福寺保雄
'87	ジュニア	125cc	岸田 隆夫
		250cc	橋本 慎二
	国際B級	125cc	吉田 和泉
		250cc	石橋 博也
	国際A級	125cc	岡部 篤史
		250cc	東福寺保雄
'88	ジュニア	125cc	大塚 元和
		250cc	大塚 元和
	国際B級	125cc	大塚 忠和
		250cc	大塚 忠和
	国際A級	125cc	岡部 篤史
		250cc	東福寺保雄
'89	ジュニア	125cc	黒古 尚利
		250cc	黒古 尚利
	国際B級	125cc	芹沢太麻樹
		250cc	榎本 正則
	国際A級	125cc	光安 鉄美
		250cc	岡部 篤史
'90	国内A級	125cc	荻島 忠雄
		250cc	荻島 忠雄
	国際B級	125cc	元木 龍幸
		250cc	村橋健太郎
	国際A級	125cc	東福寺保雄
		250cc	東福寺保雄
'91	国際B級	125cc	半場 謙吾
		250cc	城田 賢一
	国際A級	125cc	荻島 忠雄
		250cc	宮内 隆行
'92	国際B級	125cc	佐々木裕介
		250cc	田沢 豊晃
	国際A級	125cc	請川 意次
		250cc	エディ・ウォーレン
'93	国際B級	125cc	益留信太郎
		250cc	益留信太郎
	国際A級	125cc	佐々木裕介
		250cc	ロン・ティチナー
'94	国際B級	125cc	倉林啓一郎
		250cc	成田 亮
	国際A級	125cc	小田切一剛
		250cc	ロン・ティチナー
'95	国際B級	125cc	矢島 健一
		250cc	溝口 哲也
	国際A級	125cc	川島雄一郎
		250cc	ジェフ・マタセビッチ
'96	国際B級	125cc	井上 眞一
		250cc	井上 眞一
	国際A級	125cc	川島雄一郎
		250cc	ジェフ・マタセビッチ
'97	国際B級	125cc	増田 一将
		250cc	増田 一将
	国際A級	125cc	高見 俊次
		250cc	ジェフ・マタセビッチ
'98	国際B級	125cc	平塚 雅樹
		250cc	平塚 雅樹
	国際A級	125cc	増田 一将
		250cc	カイル・ルイス
'99	国際B級	125cc	鈴木 健介
		250cc	戸倉 徹哉
	国際A級	125cc	勝谷 武史
		250cc	カイル・ルイス
'00	国際B級	125cc	藤田 卓
		250cc	小泉 貴文
	国際A級	125cc	佐合 潔
		250cc	高濱龍一郎
'01	国際B級	125cc	釘村 忠
		250cc	折原 徹
	国際A級	125cc	田島 久詩
		250cc	鮫田 孝高

TRIAL

●トライアル部門（'73~'01年）

年	部門	クラス
'73	選抜	木村 治男
'74	ノービス ジュニア	伊吹 健次 近藤 博志
'75	ジュニア エキスパート	蜂巣 秀男 加藤 文博
'76	ジュニア エキスパート	町田 晴男 黒山 一郎
'77	ジュニア エキスパート	山本 昌也 近藤 博志
'78	ジュニア エキスパート	山田 民雄 近藤 博志
'79	ジュニア 国際A級	佐藤 雄一 近藤 博志
'80	ジュニア 国際A級	広木 一美 丸山 胤保
'81	ジュニア 国際A級	石原 正美 黒山 一郎
'82	国際B級 国際A級	高田 雅孝 山本 昌也
'83	国際B級 国際A級	和田 弘行 山本 昌也
'84	国際B級 国際A級	米沢 満夫 山本 昌也
'85	国際B級 国際A級	泉 裕朗 山本 昌也
'86	国際B級 国際A級	小林 直樹 山本 昌也
'87	国際B級 国際A級	小谷 徹 伊藤 敦志
'88	国際B級 国際A級	成田 匠 伊藤 敦志
'89	国際B級 国際A級	宮道 昌浩 成田 匠
'90	国際B級 国際A級	前野 繁 伊藤 敦志
'91	国際B級 国際A級	本多 元治 中川 義博
'92	国際B級 国際A級	小川 友幸 バスカル・クトゥリエ
'93	国際B級 国際A級	田中 善弘 バスカル・クトゥリエ
'94	国際B級 国際A級	寺澤 慎也 成田 匠
'95	国際B級 国際A級	成田 亮 藤波 貴久
'96	国際B級 国際A級	田中 太一 黒山 健一
'97	国際B級 国際A級 国際A級スーパークラス	渋谷 勲 東谷 洋 黒山 健一
'98	国際B級 国際A級 国際A級スーパークラス	北山 将司 野崎 史高 藤波 貴久
'99	国際B級 国際A級 国際A級スーパークラス	小森 文彦 白神 孝之 藤波 貴久
'00	国際B級 国際A級 国際A級スーパークラス	尾西 和博 田中 裕人 藤波 貴久
'01	国際B級 国際A級 国際A級スーパークラス	安藤 剛史 本多 元治 藤波 貴久

SNOW MOBILE

●スノーモビル部門（'71~'01年）

年	部門	クラス	
'71	モディファイ300cc	大月	信和
	モディファイ400cc	青木	雅和
	モディファイ401cc	大月	信和
'72	モディファイ300cc	丹治	章
	モディファイ400cc	丹治	章
	モディファイ401cc	丹治	章
'73	モディファイ340cc	伊藤	盛男
	モディファイ440cc	小田切	信雄
'74	モディファイ340cc	伊藤	盛男
	モディファイ440cc	伊藤	盛男
'75	モディファイ340cc	伊藤	盛男
	モディファイ440cc	伊藤	盛男
'76	モディファイ340cc	春名	薫
	モディファイ440cc	春名	薫
'77	モディファイ340cc	藤本	整司
	モディファイ440cc	高橋	和雄
'78	モディファイ340cc	丹治	章
	モディファイ440cc	丹治	章
'79	モディファイ340cc	高橋	和雄
	モディファイ440cc	吉川	四郎
'80	モディファイ340cc	高橋	和雄
	モディファイ440cc	高橋	和雄
'81	モディファイオープン	領毛	信治
	モディファイ540cc	本田	勝義
	モディファイ340cc	佐々木	善之
	モディファイ300cc	南雲	静夫
'82	モディファイオープン	高橋	和雄
	モディファイ540cc	高橋	和雄
	モディファイ340cc	佐野	博
	モディファイ300cc	古川	啓八
'83	モディファイオープン	藤本	正勝
	モディファイ540cc	中山	忠
	モディファイ340cc	中山	忠
	モディファイ300cc	佐野	博
'84	モディファイオープン	高橋	和雄
	モディファイ540cc	藤本	正勝
	モディファイ340cc	今野	孝
	モディファイ300cc	佐野	博
'85	モディファイオープン	高橋	和雄
	モディファイ540cc	江口	亨二
	モディファイ340cc	今野	孝
'86	モディファイオープン	熊谷	留夫
	モディファイ540cc	熊谷	留夫
	モディファイ340cc	江口	亨一
'87	モディファイオープン	松田勇五郎	
	モディファイ540cc	米田	幸一
	モディファイ340cc	松田勇五郎	
'88	モディファイオープン	遠藤	和也
	モディファイ540cc	江口	亨一
	モディファイ340cc	遠藤	和也
'89	モディファイオープン	熊谷	留夫
	モディファイ540cc	江口	亨二
	モディファイ340cc	遠藤	和也
'90	モディファイA級S1	江口	亨二
	モディファイA級S3	熊谷	留夫
	モディファイA級S4	江口	亨一
	モディファイB級S1	沼倉	照義
	モディファイB級S3	羽田野	達也
	モディファイB級S4	梅沢	文雄
'91	モディファイA級S1	成田	正弘
	モディファイA級S3	江口	亨一
	モディファイA級S4	大野	勇
	モディファイB級S1	内野	令一
	モディファイB級S3	梅沢	康二
	モディファイB級S4	木村	明則
'92	モディファイA級S1	成田	正弘
	モディファイA級S3	上葛	泰隆
	モディファイA級S4	高橋	晴彦
	モディファイB級S1	山内	康裕
	モディファイB級S3	又村	哲哉
	モディファイB級S4	八木橋	光治

●SNOW MOBILE

'93	モディファイA級S1	上葛	泰隆
	モディファイA級S3	三好	一浩
	モディファイA級S4	高橋	晴彦
	モディファイB級S1	千葉	賢一
	モディファイB級S3	千葉	賢一
	モディファイB級S4	泉沢	克美
'94	モディファイA級S1	上葛	泰隆
	モディファイA級S2	上葛	泰隆
	モディファイA級S3	中村	光貴
	モディファイA級S4	高橋	晴彦
	モディファイB級S1	関井	誠
	モディファイB級S2	大和	長武
	モディファイB級S3	郷	和幸
	モディファイB級S4	戸田	幸廣
'95	モディファイA級S1	戸沢	真司
	モディファイA級S2	上葛	泰隆
	モディファイA級S3	三好	一浩
	モディファイA級S4	上野	忠夫
	モディファイB級S1	松田	智典
	モディファイB級S2	柏倉	秀伸
	モディファイB級S3	熊谷	聡寛
	モディファイB級S4	松田	智典
'96	モディファイA級S1	上葛	泰隆
	モディファイA級S2	戸沢	真司
	モディファイA級S3	山下	力
	モディファイA級S4	上野	忠夫
	モディファイB級S1	黒沢	直也
	モディファイB級S2	日野	義克
	モディファイB級S3	長内	義基
	モディファイB級S4	日野	義克
'97	モディファイA級S1	郷	敦司
	モディファイA級S2	戸沢	真司
	モディファイA級S3	山下	力
	モディファイA級S4	日野	義克
	モディファイB級S1	渋谷	博樹
	モディファイB級S2	渋谷	博樹
	モディファイB級S3	村角	修司
	モディファイB級S4	渋谷	博樹
'98	モディファイA級S1	戸沢	真司
	モディファイA級S2	中澤	裕伺
	モディファイA級S3	日野	義克
	モディファイA級S4	松田	智典
	モディファイB級S1	坂上	善彦
	モディファイB級S2	戸沢	貴典
	モディファイB級S3	佐藤	哲也
	モディファイB級S4	桜庭	直義
'99	スーパークラス	山下	力
	モディファイA級S1	川越	清貴
	モディファイA級S2	佐藤	学
	モディファイA級S3	米沢	俊一
	モディファイA級S4	米沢	俊一
	モディファイB級S1	柴田	敏也
	モディファイB級S2	米内	敏也
	モディファイB級S3	村岡	雅人
	モディファイB級S4	加藤	憲一
'00	スーパークラス	中澤	裕伺
	モディファイA級S1	日野	義克
	モディファイA級S2	伊藤	栄治
	モディファイA級S3	寺崎	雅史
	モディファイA級S4	泉沢	克美
	モディファイB級S1	福田	純一
	モディファイB級S2	福田	純一
	モディファイB級S3	伊賀	和弘
	モディファイB級S4	畠山	芳廣
'01	スーパークラス	戸沢	真司
	モディファイA級S1	成田	大晶
	モディファイA級S2	江刺	晃人
	モディファイA級S3	村岡	雅人
	モディファイB級S1	永倉	信明
	モディファイB級S2	古坂	丈二
	モディファイB級S3	齊藤	将

DRAG RACE

●ドラッグレース部門（'93~'01年）

年	クラス	氏名
'93	プロストックバイク	田中 文樹
'94	プロストックバイク	田中 文樹
'95	プロストックバイク	上中 靖司
'96	プロストックバイク	生田目俊之
'97	プロストックバイク	川上 英二
'98	プロストックバイク	中村 圭志
'99	プロストックバイク	中村 圭志
'00	プロストックバイク	赤池 真一
'01	プロストックバイク	中村 圭志

DIRT TRACK

●ダートトラック部門（'01年）

年	クラス	氏名
'01	オープン	衛藤 金治
	250cc	衛藤 金治

SUPERCROSS

●スーパークロス部門（'94~'97年）

年	クラス	氏名
'94	125cc	高見 俊次
	250cc	榎本 正則
'95	125cc	辻本 幸二
	250cc	小機 雅也
'96	125cc	溝口 哲也
	250cc	熱田 高輝
'97	125cc	加賀 真一
	250cc	熱田 孝高

STADIUM TRIAL

●スタジアムトライアル部門（'91~'93年）

年	部門	氏名
'91	国際A級	中川 義博
'92	国際A級	パスカル・クトゥリエ
'93	国際A級	パスカル・クトゥリエ

MFJ全日本レディス モトクロス選手権（'00~'01年）

年	氏名
'00	鈴木 沙耶（MFJ選手権）
'01	鈴木 沙耶

≪サーキットコース≫
1周約3㎞。本格ロードレースコース。サウスエリア選手権、九州選手権等開催

≪ドリームコース≫
1周約600m。ショートサーキット。ミニバイク、カート、各種イベント開催。

≪バリアブルコース≫
約6,000㎡。多目的コース。ジムカーナ、ライディングスクール等開催。

ON ROAD

九州オープン耐久レース
●7/7(日)

ライディングスポーツドリームフェスタ
●春大会 3/3(日) ●夏大会 6/2(日)
●秋大会 9/1(日) ●冬大会 12/1(日)

ライディングスポーツカップ2002耐久フェスタ
●2/3(日)

HSR
Honda Safety & Riding PLAZA Kyushu

http://www.hsr-k.com

OFF ROAD

全日本モトクロス選手権シリーズ
●第4戦九州大会5/25(土)～26(日)

九州モトクロス選手権シリーズ
●第4戦 4/28(日) ●第6戦 9/8(日)

≪エンデューロコース≫
入門者も安心。レンタル車両もあり。キッズ、入門者向けレース等開催。

≪トライアルコース≫
専用コースで、初心者も安心。レンタル車両あり。スクールも開催。

≪モトクロスコース≫
1周約1.5のテクニカルコース。全日本選手権、九州選手権等開催。

※イベントスケジュールは暫定のため、変更することがございます。

HSR九州（ホンダ セーフティ&ライディング・プラザ九州）
交通教育センターレインボー＜熊本＞
〒869-1231 熊本県菊池郡大津町平川1500 TEL：096-293-1370

新鮮な楽しさを、早く詳しくお届けします。
モーターマガジン社の2輪誌ラインナップ

オートバイ

初心者からベテランまで、
バイク情報は、これ一冊でOK!

●オートバイ
毎月1日発売　定価570円

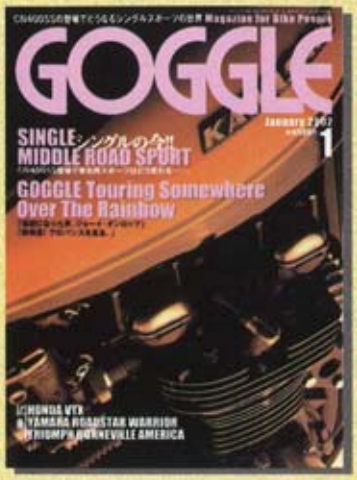
ミスターバイク

1976年創刊、メインテーマは
人とバイク。

●ミスターバイク
毎月6日発売　定価300円

GOGGLE

上質でグラフィカルな誌面が
評判です。



●ゴーグル
毎月24日発売　定価500円

Mr.Bike BG

絶版バイク
をメインに、
中古情報を
満載。

●ミスターバイクBG
毎月14日発売　定価330円

パーツBG

カスタムから中古パーツまで
網羅した、2輪パーツ専門誌。

●パーツBG
毎月30日発売　定価450円

BORN BIKERS

感性で勝負するストリートカス
タム・ファッション誌。

●ボーンバイカーズ
毎月22日発売　定価480円

モーターマガジン社
〒105-8611　東京都港区新橋5-33-10
TEL.03-3434-3153　FAX.03-3434-3162（販売部直通）
eメール hanbai@motormagazine.co.jp
ホームページ http://www.motormagazine.co.jp

Machine Sports Auto Race

是非一度オートレースを見て、おもいっきり楽しんでください!!

オートレースは一周500mの楕円コースで
スピードを競う豪快なレースです。
スピードを競うだけにマシンは独自のスタイルで
軽量化されており、ブレーキも無く余計なものは一切ない
エキサイティングな走りを演出させる磨かれたマシンです。
一周500mという短いコースにも関わらず、
最高速は約150Km/hを超え
平均速度でも約105Km/hといわれています。
その迫力は観るものを常に熱くさせ
選手に熱い声援が飛び交います。
あなたも是非一度
お近くのオートレース場に足を運んでお楽しみください。

【全国のオートレース場(6場)】

船橋オートレース場	(千葉県船橋市浜町2-4-1)	TEL：0180-994-033
川口オートレース場	(埼玉県川口市青木5-21-1)	TEL：048-256-1111
伊勢崎オートレース場	(群馬県伊勢崎市宮子町3074)	TEL：0270-23-3333
浜松オートレース場	(静岡県浜松市和合町936-19)	TEL：053-472-2121
山陽オートレース場	(山口県厚狭郡山陽町埴生赤松700)	TEL：0836-35-0000
飯塚オートレース場	(福岡県飯塚市大字枝町147)	TEL：0948-23-3301

【場外車券売り場】

アレック越後	(新潟県北魚沼郡堀之内竜光字村前2108-2)	TEL：02579-4-5747

オートレースの売上の一部は、
機械工業振興や公益事業振興など
さまざまなカタチで
社会に役立てられています。

機械工業振興の例

●中小企業の経営革新を促進

財日本ロボット工業会
～ロボットを使用しての自動車の組立てライン試験～

●事業環境の整備

財自動車走行電子技術協会
～電気自動車の共同利用実験～

●国際交流の推進

財日・タイ経済協力協会
～ロボットコンテスト～

公益事業振興の例

●体育の振興

財世界少年野球推進財団
～世界少年野球大会～

財日本航空協会
～パラシューティング世界大会～

●社会福祉の増進

㈱長岡福祉協会
～高原への一泊旅行～

～運動会～

●医療及び公衆衛生の向上

財骨髄移植推進財団
～骨髄バンクの普及～
骨髄バンクへのドナー登録の
呼びかけのポスター

●非常災害の復旧及び援護等

日本赤十字社
～非常災害の復旧及び援護等～

●文教、環境その他の公益の増進

財国際青少年研修協会
～国際交流キャンプ～

財すぎのこ文化振興財団
～すぎのこ環境教育劇～
『とべ！ドードー』

日本小型自動車振興会では2年に一度オートレース新人選手を養成しております。是非チャレンジしてみてください。（なお、次回の募集は平成15年の予定です。）
お問い合わせ：日本小型自動車振興会　TEL 03-3570-5511（代表）

Straight On ストレート・オン 「TJ」から「SO」へ！

Magazine for Wonderful TRIAL Life

1997年、トライアルジャーナルはストレート・オンに生まれ変わりました！

最先端！月刊トライアル総合情報マガジン

「ストレート・オン」

これでトライアルのすべてがわかる！

全国のイベント情報満載！トライアルテクニック解説、トライアルマシンの歴史など、読みごたえたっぷり！

毎号、郵便で直接お手元にお届けします！

購読申込受付中

年間定期購読で販売中！一年間12冊で9,800円送料&税込

☆半年間購読（6冊で5,400円送料、税込）もあります。

☆一冊だけのご注文もOK！（一冊900円税込、送料100円）

購読申し込みは下の用紙に記入して送るだけ！ 注、書店では買えません！

お申し込み後、原則として最新号よりお送りします。購読料のお支払いは、こちらからお送りする郵便振替用紙で最寄りの郵便局からご送金下さい。

ストレート・オントライアルテクニックビデオシリーズ

小谷 徹の、あなたもこれでマジシャンに！

ツボ、コツを満載。あなたにも世界最先端のトライアルテクニックがマスターできる！ イチオシの必見ビデオ！

Vol.1 <ワープ、ニュー二度ブカシの基本、他> …4,500円（税込、送料別）収録45分

Vol.2 <ニュー真直角、ニュー二度ブカシ、他> …4,500円（税込、送料別）収録46分

※パッケージには収録時間は60分となっていますが、正しくは46分です。

Vol.3 <マジシャン実践編、ニューダム型、振り、他> …4,500円（税込、送料別）収録55分

ご購入は超カンタン！

下の申込用紙に記入してFAX、郵便で送るだけ！お支払いは商品到着後！

※ご希望の商品に代金支払い用の郵便振替用紙を同封してお送りします。

発売元／有限会社 悠々社 〒605-0846 京都市東山区五条橋東4-441 TEL075-532-2375 FAX075-532-2376

E-mailの注文もOKです！ mmiyata@mbox.kyoto-inet.or.jpまたはm-doro@mbox.kyoto-inet.or.jpまで。

コピーしてお使い下さい

ストレート・オン&ビデオ、グッズ購入申込書 FAX No.075-532-2376

2002年MFJ競技規則書

ご住所（不着トラブル防止のため、楷書で正確に。番地、アパートorマンション名、部屋番号まですべてご記入下さい）

〒□□□-□□□□

都道府県

フリガナ 名前		生年月日 明治 大正 昭和 平成 年 月 日
電話番号 ( ) -	FAX ( ) -	
ご職業	購読開始は 年 月号より	どちらかに○をつけて下さい 一年間 ・ 半年間 / どちらかに○をつけて下さい 以前購読していた ・ 初めての申し込み

通信欄

該当するものを○で囲んで下さい。グッズにはご希望品の数量をご記入下さい。

◆購読申込

◆小谷マジシャンビデオ Vol.1 ＿＿本、Vol.2 ＿＿本、Vol.3 ＿＿本

◆爽やかヘルメット ＿＿本

ベストライダーの皆さまへ

ベストライダーに欠かせない

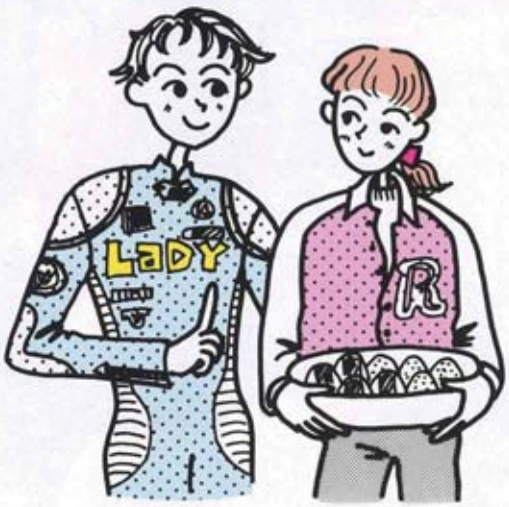
バイクの《**自賠責保険**》

★法律によって加入が義務づけられている保険です。

大きな安心、おとどけします

自賠責保険をつけずにバイクを運転すると

- ◎6ヶ月以下の懲役または5万円以下の罰金
- ◎6点の減点
- ◎30日の免許停止処分



バイクの自賠責保険料

（平成９年５月１日改正）

	原付自転車（125cc以下の2輪）	軽二輪自動車（125cc超　250cc以下）
3年	11,250円	27,000円
2年	9,500円	20,300円
1年	7,700円	13,250円

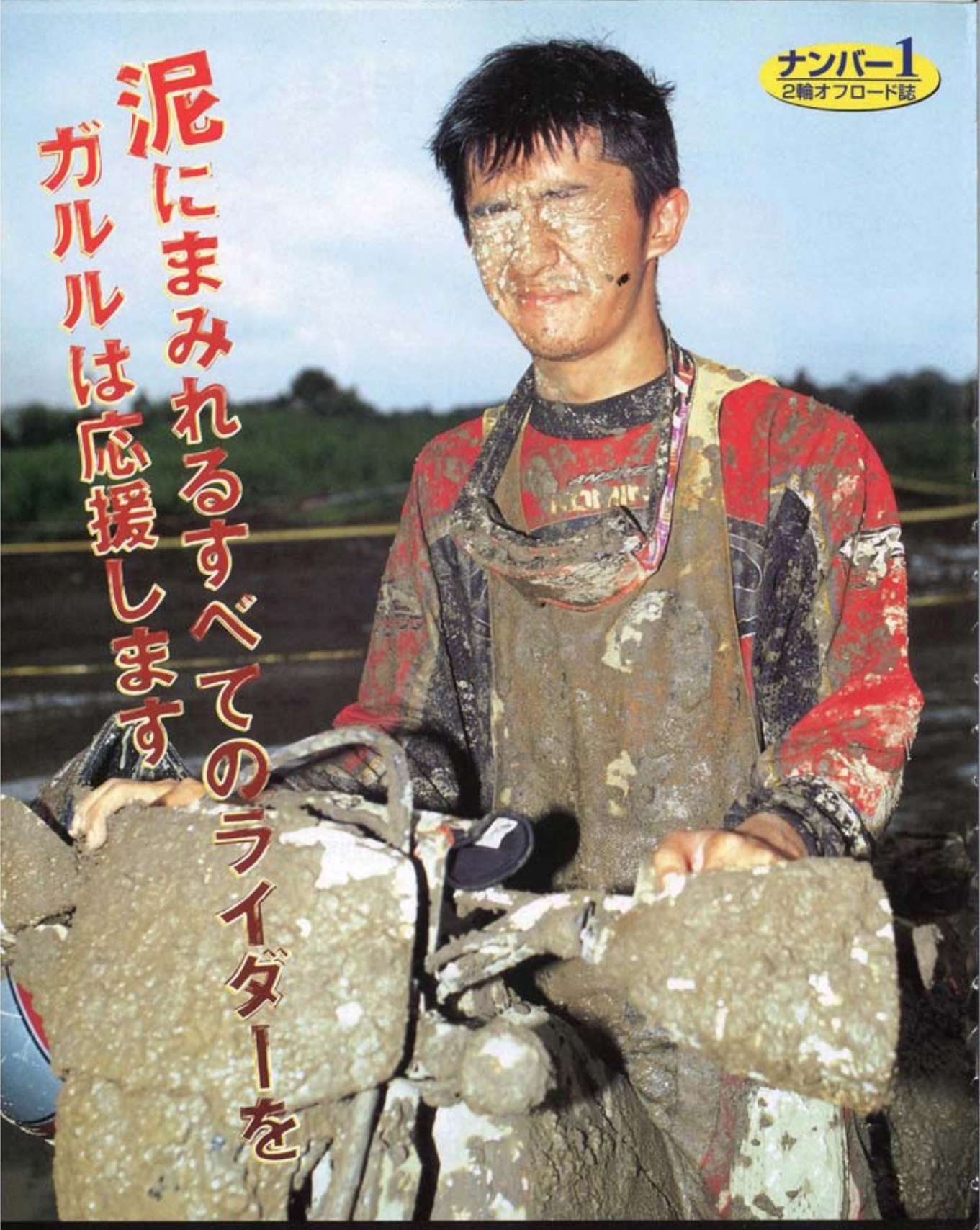
損害保険代理店

ホンダ開発株式会社

本　社　〒107-8556　東京都港区南青山2丁目1番1号（ホンダ青山ビル）☎03-3423-2312

事業部

和光事業部	〒351-0114	埼玉県和光市本町9番1号	☎048-461-0843
狭山事業部	〒350-1331	埼玉県狭山市新狭山3丁目9番2号	☎0429-53-7351
浜松事業部	〒433-8114	静岡県浜松市葵東1丁目13番2号	☎053-436-2241
鈴鹿事業部	〒513-0827	三重県鈴鹿市大池3丁目13番20号	☎0593-79-5407
熊本事業部	〒869-1231	熊本県菊池郡大津町大字平川1500番地	☎096-293-6222
栃木事業部	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台56番地2	☎028-677-3108



月刊ガルルは GARRR 毎月6日発売です

http://www.j-n.co.jp/ 〒104-8233東京都中央区銀座1-3-9 実業之日本社 Tel.03-3535-4441(販売本部)

VTR-SP1
カウル ¥55,000
シート ¥34,000
スクリーン ¥9,300

KDC FRPパーツ

'02モデル好評販売中！

YZF-R1 フルセット¥89,000
カウル…¥49,000 スクリーン…¥9,300
シート…¥34,000

ZX9R フルセット¥89,000
カウル…¥49,000 スクリーン…¥9,300
シート…¥34,000

'00-'98CBR900 フルセット¥89,000
カウル…¥49,000 スクリーン…¥9,300
シート…¥34,000 Fフェンダー…¥12,000

VTR-SP-1 フルセット¥95,000
カウル…¥55,000 スクリーン…¥9,300
シート…¥34,000 Fフェンダー…¥12,000

CBR400RR フルセット¥69,000
カウル…¥38,000 Fフェンダー…¥5,500
シート…¥25,000 スクリーン…¥9,300

ZXR400 フルセット¥69,000
カウル…¥38,000 Fフェンダー…¥6,500
シート…¥25,000 スクリーン…¥9,300

DUCATI 916・996
アッパー…¥22,000 シート…¥35,000
アンダー…¥44,000 アンダーカバー…¥18,000

RVF 400 フルセット¥69,000
Fフェンダー…¥7,000 カウル…¥38,000
シート…¥25,000 スクリーン…¥9,300

'02 RS250 フルセット¥72,000
カウル…¥44,000 スクリーン…¥9,300
シート…¥22,000

'02 RS125 フルセット¥52,000
カウル…¥28,000 スクリーン…¥8,500
シート…¥18,000

'02 TZ250 フルセット¥72,000
カウル…¥44,000 スクリーン…¥9,300
シート…¥22,000

'02 TZ125 フルセット¥54,000
カウル…¥30,000 スクリーン…¥8,500
シート…¥18,000

"万全のアフターケア" KDCリペアーサービス

●割れたカウル、無くなった部品のあるカウルなど修理します。●レース前や予選日に割れた場合でも、即日修理します。●自分で修理される方には、材料のバラ売りもご用意してあります。●その他カウルのことなら何でもご相談ください。●修理代：1点¥3,000～¥5,000　樹脂¥1,000／リットル　ガラスマット¥500／㎡　クロス¥500／㎡

ZX6R Fフェンダー ¥8,000
カウル…¥49,000 スクリーン…¥9,300
シート…¥30,000 フルセット…¥85,000

YZF-R6 フルセット¥85,000
カウル…¥49,000 スクリーン…¥9,300
シート…¥30,000 シートインナー…¥3,000

2001年 CBR600
カウル…¥49,000 スクリーン…¥9,300
シート…¥30,000 フルセット…¥85,000

GSX-R600/1000
カウル…¥49,000 スクリーン…¥9,300
シート…¥30,000 フルセット…¥85,000

NSR250 '90・'94
カウル…¥38,000 スクリーン…¥9,300
シート…¥22,000 フルセット…¥66,000

NSR250
カウル…¥22,000 シート…¥12,000

NKアンダー
¥18,000（他車、流用可能）

ニンジャカウル
レースカウル…¥22,000
ストリートカウル…¥22,000

KDC SERVICE

黒ゲルできます。

〒513-0825　三重県鈴鹿市住吉町6726-80
電話　0593-70-0282
FAX　0593-79-4452

業販OK

全国通販OK！電話にて在庫をご確認の上、商品名・氏名・住所・電話番号を明記し、現金書留で代金+消費税+送料（¥1,000）を添えてお申込下さい。※3万円以上は送料サービス致します。

フロントフェンダー　リヤフェンダー

TZR250	¥6,000	RS125	¥6,000
ZXR400	¥6,500	TZ125	¥6,000
RGV250Γ	¥6,000	TZ250	¥7,000

RS250 ¥9,000／NSR250 ¥5,000／RS125 ¥8,000／CBR400 ¥2,000／ZX9R ¥12,000／TZ250 ¥8,000／TZ125 8,000／NSR50 ¥2,500／TZM50 ¥2,500／DUCATI ¥12,000

mandom
今どきヒゲは
ギャツビーで剃る。
SHAVING GEL
GATSBY
爽快！ひきしめ
シェービングジェル
165g 450円
ジェルが肌に密着し、肌を傷めず、なめらか深剃り。
ヒゲそりギャツビー
GATSBY
アフターシェーブジェル
〈ひげそり後に〉
125ml 500円
シェービングフォーム
〈泡タイプ〉
175g 500円
プレシェーブローション
〈電気カミソリ用〉
110ml 550円
マンダム
フリーダイヤル 0120-373337
この商品は、お近くの化粧品取扱店でお買い求めいただけます。表示価格は消費税抜きの希望小売価格です。●ギャツビー情報満載!マンダムワールドにアクセスしよう! http://www.mandom.co.jp/

NGK RACING SPARK PLUGS
VICTORY!
2000 ALL JAPAN SERIES CHAMPION
JAPANESE CHAMPIONSHIP FORMURA NIPPON
ALL JAPAN GT CHAMPIONSHIP GT500
ALL JAPAN GYMKHANA CHAMPIONSHIP A1
ALL JAPAN GYMKHANA CHAMPIONSHIP A2
ALL JAPAN DIRT TRIAL CHAMPIONSHIP C1
ALL JAPAN KART CHAMPIONSHIP FSA
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP SB
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP GP250
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP GP125
ALL JAPAN MOTOCROSS CHAMPIONSHIP IA250
ALL JAPAN SNOWMOBILE CHAMPIONSHIP SUPER
NGK SPARK PLUGS
NGK SPARK PLUGS
NGK SPARK PLUGS
NGK SPARK PLUGS
その性能はマシンが一番知っている。
日本特殊陶業
http://www.ngkntk.co.jp

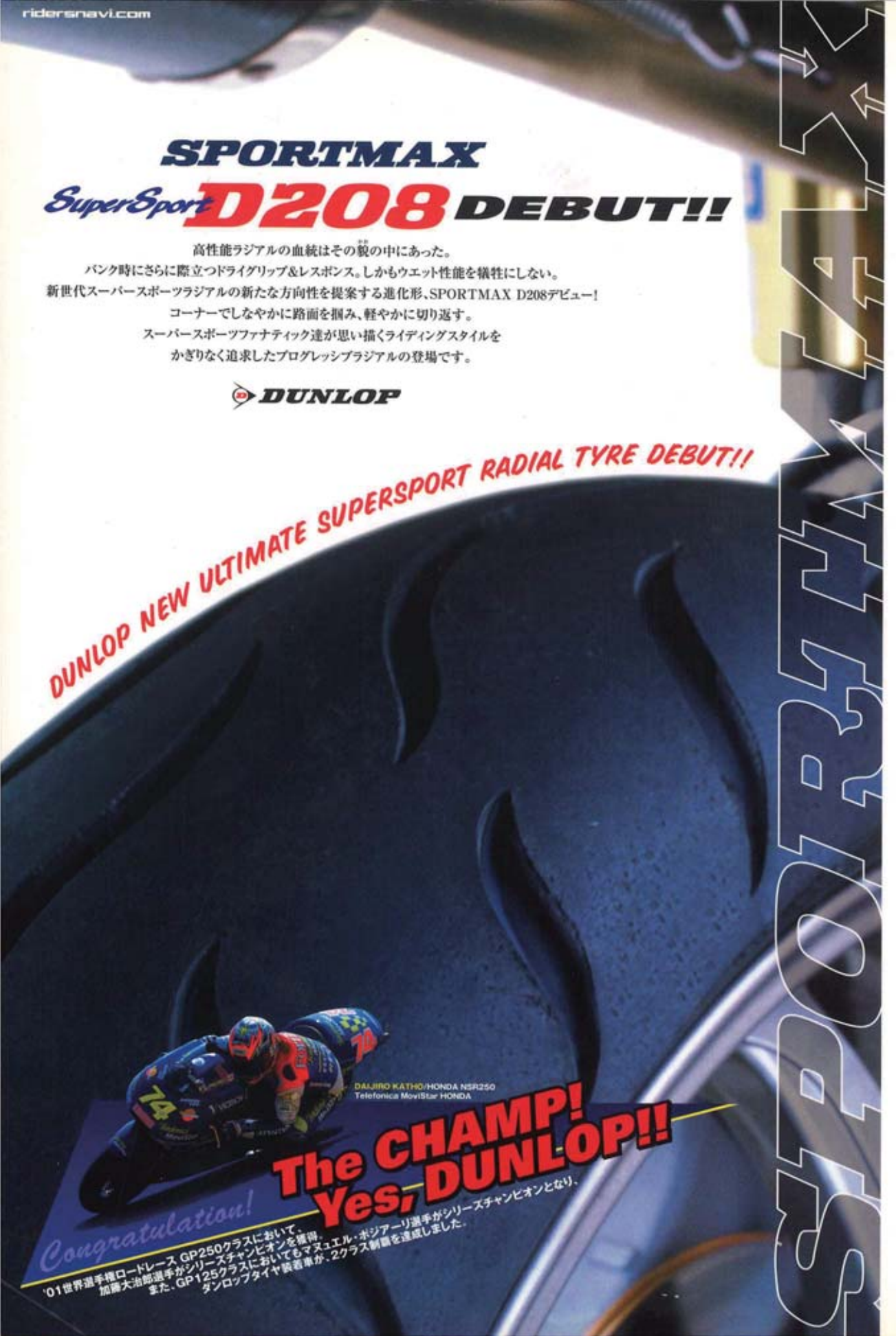
ridersnavi.com

SPORTMAX
SuperSport D208 DEBUT!!

高性能ラジアルの血統はその貌の中にあった。
バンク時にさらに際立つドライグリップ&レスポンス。しかもウエット性能を犠牲にしない。
新世代スーパースポーツラジアルの新たな方向性を提案する進化形、SPORTMAX D208デビュー!
コーナーでしなやかに路面を掴み、軽やかに切り返す。
スーパースポーツファナティック達が思い描くライディングスタイルを
かぎりなく追求したプログレッシブラジアルの登場です。

DUNLOP

DUNLOP NEW ULTIMATE SUPERSPORT RADIAL TYRE DEBUT!!



DAIJIRO KATHO/HONDA NSR250
Telefonica MoviStar HONDA

Congratulation!

The CHAMP! Yes, DUNLOP!!

'01世界選手権ロードレース GP250クラスにおいて、
加藤大治郎選手がシリーズチャンピオンを獲得。
また、GP125クラスにおいてもマヌエル・ポジアーリ選手がシリーズチャンピオンとなり、
ダンロップタイヤ装着車が、2クラス制覇を達成しました。

SPORTMAX

ライディング 臨時増刊 通巻三八六号 二〇〇二年一月一日(毎月一回一日発行) 昭和五十四年三月二十日 第三種郵便物認可 発行所 (社)日本モーターサイクルスポーツ協会 〒一〇四-〇〇四五 東京都中央区築地一-十一-二十四 第二十九興和ビル別館七階 ☎〇三(五五六五)〇九〇〇 定価一〇〇〇円